

ナンバリングコード			
科目名			
行政企業体験実習			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I（選択）	講義	1単位	2～4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
就職委員長			
共同担当教員	前後期		
前期			
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習（予習・復習）			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
人文社会総合論			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文スタンダード科目（必修）	講義	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
櫻井芳生・馬場武	099-285-7582	baba@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>人文社会科学系総合学部としての特性を踏まえ、法文学部の全ての学生が共通して身につけてほしい人文科学や社会科学の基礎的な問題や多様な問題について考えるための視点を学びます。</p> <p>授業では、人文科学や社会科学を専門分野とする担当者が、オムニバス形式で導入的講義を行います。また、マナバの利用による双方向の授業が展開され、授業内容について振り返る小レポートを毎回作成してもらいます。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人文社会科学系総合学部に学ぶ学生として、人文科学及び社会科学の多様な学問分野の導入的知見や視点を身につける。</li> <li>・人文科学と社会科学における幅広い視野を身につけ、現代社会に諸問題について考える視座を獲得する。</li> </ul>			
授業計画			
<p>授業の内容や回数は変更となる可能性があります。</p> <p>第1回 馬場武 ガイダンス  第2回 萩野誠（経済） 経営情報論  第3回 北崎浩嗣（経済） 食料自給率と食料自給力について  第4回 西村知（経済） 東南アジア経済と日本  第5回 城戸秀之（地域） つながりの変化からみる現代社会  第6回 伊藤周平（法） 社会保障行政訴訟の現実と課題 - 生活保護裁判と年金裁判を題材に  第7回 植本幸子（法） 民事法の理念と限界  第8回 中島宏（法） 刑事訴訟の理論と現実  第9回 櫻井芳生（多元） ハーバードで語った就活の社会学  第10回 櫻井芳生（多元） 遺伝子社会学事始め：ツイッター遺伝子の発見？  第11回 竹岡健一（多元） 書籍研究へのまなざし（1）  第12回 竹岡健一（多元） 書籍研究へのまなざし（2）  第13回 中島祥子（多元） 在留外国人と日本語教育  第14回 中島祥子（多元） 異文化理解とコミュニケーション  第15回 横山春彦（心理） 大学での学び～何をどうすべきかを考える</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>復習：参考文献などを読み、当該分野についての知見を深めること。</p>			
教科書			
指定しない			
参考書			
授業中に適宜指示する			
成績の評価基準			
毎回の授業の際に提出する小レポートに基づき評価する。			

オフィスアワ -

随時（メールにてアポを取る）

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

2017年度以降の入学生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
アジアの法と社会			
英語名			
Law and Society in Asia			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
張 秀娟		099-285-7085	k7017538@kadai.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
日本を含むアジア、とくに中国における法に関わる諸問題を多面的に検討する。その社会的・文化的背景にも言及するほか、具体的な問題点および問題解決に必要な視点を探っていきたい。			
学修目標			
(1) 中国法を中心としたアジアの法制度を知るとともに、日本とは異なる外国の社会や生活についての理解を深める。			
(2) 他国の法と社会に触れることによって、法制度の側面から自国が抱える社会的問題を捉え直し、課題発見力・解決力を高める。			
授業計画			
遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回	ガイダンス	【オンデマンド配信型またはリアルタイム型】	
第2回	法と国家	【オンデマンド配信型またはリアルタイム型】	
第3回	中国憲法	【オンデマンド配信型またはリアルタイム型】	
第4回	土地管理制度	【オンデマンド配信型またはリアルタイム型】	
第5回	戸籍制度	【オンデマンド配信型またはリアルタイム型】	
第6回	家族と法(1)	【オンデマンド配信型またはリアルタイム型】	
第7回	家族と法(2)	【オンデマンド配信型またはリアルタイム型】	
第8回	労働と法(1)	【オンデマンド配信型またはリアルタイム型】	
第9回	労働と法(2)	【オンデマンド配信型またはリアルタイム型】	
第10回	社会保障のしくみと法(1)	【オンデマンド配信型またはリアルタイム型】	
第11回	社会保障のしくみと法(2)	【オンデマンド配信型またはリアルタイム型】	
第12回	紛争解決 裁判制度(1)	【オンデマンド配信型またはリアルタイム型】	
第13回	紛争解決 裁判制度(2)	【オンデマンド配信型またはリアルタイム型】	
第14回	紛争解決 裁判外紛争処理システム	【オンデマンド配信型またはリアルタイム型】	
第15回	犯罪と法	【オンデマンド配信型またはリアルタイム型】	
授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。			
授業外学習(予習・復習)			
授業の際に指示する。			
教科書			
なし。レジュメを配布する。			
参考書			
高見澤磨 = 鈴木賢 = 宇田川幸則・現代中国法入門[第7版](有斐閣,2016)			
田中信行・入門中国法(弘文堂,2013)			
小口彦太 = 田中信行・現代中国法[第2版](成文堂,2012)			
西村幸次郎・現代中国法講義〔第3版〕(法律文化社,2008)			

成績の評価基準

出席（15%）及び複数回の小レポート（85%）の成績による。

オフィスアワ -

授業終了後1時間

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-AAJ4403			
科目名			
教育実習事前・事後指導(英語)			
英語名			
Pre-Instruction and Review of Practice Teaching			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	演習	1単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
桑原田茂樹			k.moju@outlook.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学習指導案の作成や模擬授業を通して、英語指導方法を研究する。特に、理論と実践の一体化を図る。また、教職員採用試験の直前指導を実施する。			
学修目標			
(1) 学習指導要領の目標を踏まえて、日々の授業の目標を設定できる。			
(2) 目標に応じた指導内容を考え、実践できる。			
(3) 教師の役割、使命感を認識する。			
(4) 英語の授業の在り方について、多角的視点から考察する。			
授業計画			
第1回	ガイダンス(本講義の概要説明, 受講生の英語教師としての目標の発表)		
第2回	英語教師を目指すに当たって(各県総合教育センター等の資料により, 英語教師としての在り方を学ぶ)		
第3回	英語指導法について(1)(主要な英語教授法および指導原理の学習)		
第4回	英語指導法について(2)(英語授業の組み立て方および指導方法の学習)		
第5回	学習指導要領(中学校)		
第6回	学習指導要領(高等学校)		
第7回	学習指導案の書き方		
第8回	学習指導案の作成		
第9回	模擬授業(1)(中学校の教科書を中心にして)		
第10回	模擬授業(2)(高等学校の教科書を中心にして)		
第11回	教室英語, 英語教育用語について		
第12回	英語授業実践例の視聴(文部科学省作成のDVDによる)		
第13回	教育実習の総括(1)(中学校での実習生の体験発表)		
第14回	教育実習の総括(2)(高等学校の実習生の体験発表)		
第15回	教員採用試験直前指導		
COVID-19の感染拡大に伴い、今後の状況次第では授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
授業外学習(予習・復習)			
予習: 模擬授業に当たっては、教案作成や事前の予習をしておく。			
復習: 授業で扱う資料、参考文献を復習して、指導案作成や教育実習に役立てる。			
教科書			
教科指導に関する資料(プリント)			
参考書			
中学校学習指導要領解説(外国語編 文部科学省 東京書籍)			
高等学校学習指導要領解説(外国語編 文部科学省 開隆堂)			
成績の評価基準			
期末テストの成績, 学習指導案及びレポート提出, 出席等, 総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
金曜日 15:30~16:05			

(ただし、遠隔授業実施期間は除く)

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中2回

備考(受講要件)

教職の必修科目(英語)

実務経験のある教員による実践的授業

該当する。

ナンバリングコード			
FHS-AAJ4404			
科目名			
教育実習(中学)			
英語名			
Field Study of Secondary Education			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	実習	4単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
教務委員長			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習(予習・復習)			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-AAJ4404			
科目名			
教育実習(高校)			
英語名			
Practice Teaching			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	実習	2単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
教務委員長			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習(予習・復習)			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

## ナンバリングコード

FHS-AAJ4403

## 科目名

教育実習事前・事後指導(社会・公民・地理歴史・商業)

## 英語名

Pre-Instruction and Review of Practice Teaching

## 開講学科

## コース

法文学部共通

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

教職科目

演習

1単位

4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

川野恭司

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

事前指導としては各科の基本的目標の確認と授業構想力、指導案の書き方、授業展開法を学び、事後指導としては、各人の実習体験に基づくレベルアップした授業展開法をより深く分析し習得する。いずれも基本的に学生の模擬授業を通して行うものとする。

## 学修目標

中学校社会科、および高等学校地歴・公民科・商業科における授業構想力と授業方法論の獲得を目指す。

## 授業計画

- 第1回：ガイダンス 教科の特質、その共通点と相違点、教育実習の意義  
 第2回：模擬授業グループ分担～テーマの確認、教材研究  
 第3回：教師による模擬的授業提起と発問～指導案について  
 第4回：実習事前 学生模擬授業(1) 中学社会  
 第5回：実習事前 学生模擬授業(2) 地歴～地理  
 第6回：実習事前 学生模擬授業(3) 地歴～世界史  
 第7回：実習事前 学生模擬授業(4) 地歴～日本史(前近代)  
 第8回：実習事前 学生模擬授業(5) 地歴～日本史(近現代)  
 第9回：実習事前 学生模擬授業(6) 公民  
 第10回：実習事後 学生模擬授業(1) 商業  
 第11回：実習事後 学生模擬授業(2) 地歴～世界史  
 第12回：実習事後 学生模擬授業(3) 地歴～日本史  
 第13回：実習事後 学生模擬授業(4) 公民  
 第14回：実習事後 学生模擬授業(5) 中学社会  
 第15回：実習全体の体験交流と総括

## 授業外学習(予習・復習)

学習指導案の事前作成・検討(指導)

## 教科書

中学校学指導要領：社会(文科省)、高等学校学習指導要領：地理歴史・公民・商業(文科省)

## 参考書

「資料で語る鹿児島県の歴史」(鹿児島県中学校社会科研究科2010年)他、適宜指示する

## 成績の評価基準

指導案と模擬授業(4割)、授業分析への参加・所感(2割)、総括レポート(4割)

## オフィスアワ -

講義終了後・非常勤講師室

## アクティブ・ラーニング

その他;

## アクティブ・ラーニング(その他の内容)

模擬授業および授業分析における対話・討論

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

教科授業においては、ほぼ毎回(14～15回)

備考(受講要件)

- (1) 演習にあたっては、問題提起(問いかけ)に対し、積極的に応答し、自ら討論に参加することを重視する(評価する)。このこと自体が、教職にあってはもちろんのこと、これからの世の中を生きる上で大切な資質となると考えるゆえ。
- (2) 数名ずつのグループ編成を行う。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-AAJ4403

## 科目名

教育実習事前・事後指導(国語)

## 英語名

Pre-Instruction and Review of Practice Teaching

## 開講学科

## コース

法文学部共通

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

教職科目

演習

1単位

4年

## 担当教員

## 連絡先(TEL)

## 連絡先(MAIL)

千々岩弘一

090-1871-6374

chijiwa@soc.iuk.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

まず、中学校・高等学校の国語科教育に関する基本的な認識を再確認する。これを踏まえて、学習者の実態把握の方法や教材分析の方法、指導計画の作成方法などの確認を通して国語科授業構想力を育成する。さらに、教育実習を経た段階で、国語科教育に関して認識した諸課題を確認させる。

## 学修目標

1. 中学校・高等学校の国語科に関する基本的認識の再確認。
2. 中学校・高等学校の国語科授業構想力の育成。
3. 中学校・高等学校の国語科教育に関する諸課題の確認。

## 授業計画

## &lt;教育実習前&gt;

- 第1回 オリエンテーション(本科目の目標・内容・方法・評価などについての説明)
- 第2回 現行「学習指導要領」に基づく中学校国語科の性格
- 第3回 現行「学習指導要領」に基づく高等学校国語科の性格
- 第4回 国語科授業構想の方法1(国語科授業構想の手順の説明、学習者の実態把握の意義と方法)
- 第5回 国語科授業構想の方法2(学習指導目標・内容の意義と仮設の方法)
- 第6回 国語科授業構想の方法3(教材選定の意義と方法、教材分析の意義と方法、学習指導目標・内容の措置)
- 第7回 国語科授業構想の方法4(学習指導方法の解説-「発問」・「板書」の意義と方法)
- 第8回 国語科授業構想の方法5(学習指導方法の解説-ICT機器活用の意義と方法)
- 第9回 国語科授業構想の方法6(学習計画の立案の意義と方法、学習指導案の構造の解説)
- 第10回 国語科授業構想の方法7(学習指導案作成に関する補説)
- 第11回 受講生(A君)による教育実習の総括と課題の提示。これを踏まえての討議と解説。
- 第12回 受講生(Bさん)による教育実習の総括と課題の提示。これを踏まえての討議と解説。
- 第13回 受講生(C君)による教育実習の総括と課題の提示。これを踏まえての討議と解説。
- 第14回 受講生(Dさん)による教育実習の総括と課題の提示。これを踏まえての討議と解説。
- 第15回 中学校・高等学校における国語科教育に関する総括と受講者各自の課題の確認。

## 定期試験

## 授業外学習(予習・復習)

各自の課題意識に基づいて、必要な資料や情報を収集しておくこと。

## 教科書

「中学校学習指導要領解説国語編」・「高等学校学習指導要領国語編」  
必要に応じてプリントを配布する

## 参考書

『新訂 国語科教育学の基礎』(森田信義・山元隆春・山元悦子・千々岩弘一著、溪水社、平成22年)

## 成績の評価基準

1. 受講態度(10%)
2. 体験談の報告内容(45%)

## 3. レポートの質(45%)

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-AAJ4402			
科目名			
教職実践演習			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
教務委員長、千々岩弘一、橋本文孝、川野恭司			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>(1) 学ぶ楽しさを味わわせる学習指導のありかたを考える。</p> <p>(2) 履修カルテに基づき自己診断を実施し、教員としての資質と能力を受講者自身に分析させ、個々の実践的指導力とその問題点について自覚させる。</p> <p>(3) 受講生が本学部で修得した専門知識を各教科教育にどのように生かすかを考えさせる。</p> <p>(4) (2) 及び (3) を各自でまとめ、レポートとして提出させることにより、教員としての自覚を高めることを目指す。</p>			
学修目標			
<p>将来教員となる上で必要な「教職の理解」、「連携協働力、自己改善力の育成」、「学習者理解」、「構想力、展開力、評価力等」、「教科領域等の内容理解」、「実践的なコミュニケーション能力」、「教員として求められるリーダーシップ」等に関して、自らの修得状況や課題となっている点を明らかにするとともに、不足している点を補い、自己改善力を身につける。具体的には、「履修カルテ」に強化すべき点として指摘されている事項や教育実習を通して気づいた課題を振り返りながら、教員としての資質能力を高める。また、学生の取得希望免許種に応じた実践力の向上も具体的に図る。</p>			
授業計画			
<p>本授業は、共通開設部分と個別開設部分とに分かれて授業を行う。</p> <p>共通開設部分は、法文学部、理学部、工学部、農学部、水産学部の5学部合同で行う(第1回、第12-15回:遠隔授業)。</p> <p>個別開設部分は、法文学部のみで行う(第2~11回:対面授業)。</p>			
<p>第1回 全体オリエンテーション(教職の意義及び求められる資質について、教職履修カルテを活用した自己省察を行う)</p> <p>第2回 授業に特化した自己課題について</p> <p>第3回 教科の特質や内容に応じた授業の構成や進め方:理論</p> <p>第4回 教科の特質や内容に応じた授業の構成や進め方:応用</p> <p>第5回 指導案作成1(グループワーク)</p> <p>第6回 指導案作成2(グループワーク)</p> <p>第7回 指導案作成3(グループワーク)</p> <p>第8回 模擬授業と授業研究1</p> <p>第9回 模擬授業と授業研究2</p> <p>第10回 模擬授業と授業研究3</p> <p>第11回 自己課題の振り返り</p> <p>第12回 特別支援教育の実際1(発達障害の理解と支援について)</p> <p>第13回 特別支援教育の実際2(特別支援教育コーディネーターの役割と校内委員会について)</p> <p>第14回 保健安全指導の実際</p> <p>第15回 総括講義, 授業全体の振り返り</p>			
<p>なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコース二</p>			

ユース等を通じて通知する。
<b>授業外学習（予習・復習）</b>
授業で扱う資料、参考文献の当該部分を事前に予習しておくことが望ましい。また、受講した授業内容について復習することが望ましい。模擬授業準備～指導案事前作成・検討（指導）
<b>教科書</b>
関連する学生指導要領解説（文部科学省）を参考書として使用する。 その他、必要に応じて適宜指示する。
<b>参考書</b>
関連する学生指導要領解説（文部科学省）を参考書として使用する。 その他、必要に応じて適宜指示する。
<b>成績の評価基準</b>
各講座での取り組みにおいて、自己の課題の解決の状況と身につけるべき資質能力の達成度を評価する。 共通開設部分（30%）、個別開設部分（70%）の結果を考慮して評価する。
<b>オフィスアワ -</b>
金曜 5 限
<b>アクティブ・ラーニング</b>
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）； アクティブ・ラーニング（その他の内容）
模擬授業および授業分析における対話・討論
<b>アクティブ・ラーニング（授業回数）</b>
15回中15回
<b>備考（受講要件）</b>
教育実習の単位を修得した者に限る。 なお、本科目の単位を修得するには以下（1）および（2）を満たしていなければならない。 （1）全体開設部分5分の4以上の出席 （2）学部個別開設部分の3分の2以上の出席
<b>実務経験のある教員による実践的授業</b>

ナンバリングコード			
科目名			
現代社会を探索			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	1~4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
渡邊弘・鳥飼貴司・中島宏	099-285-7633(中島)	h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp(中島)	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>私たちが生きる「現代の社会」とはどのような社会なのだろうか。この科目では、社会にある問題の中から時事的なトピックを取り上げ、社会の主体としてその問題に取り組むために必要な知識や考え方を探っていく。全体を大きく4つのテーマに分け、各テーマごとに3つのトピックを扱っていく。現代社会を自ら探るための手がかりを掴んでもらうための科目である。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが生きる社会の様々な問題を読み解くための知識と方法論を獲得する。</li> <li>・現代における社会問題を概観し、その構造と背景を理解する。</li> <li>・社会を変えていく担い手のひとりとして主体的な評価や判断ができるようになる。</li> <li>・様々な情報の価値を正しく見極め、必要な情報を獲得する能力を身につける。</li> </ul>			
授業計画			
<p>下記は予定。「現代」の様相を見つつ、随時変更する。</p>			
<p>第1回 本科目の概要・目標・学習方法/現代社会を探索するためのツール【オンライン型】</p> <p>第2回 現代社会について思考し、判断し、表現するためのティップス【オンライン型】</p> <p>第3回 犯罪と社会(1) 犯罪捜査とプライバシー 【オンライン型】</p> <p>第4回 犯罪と社会(2) 被害者と加害者 【オンライン型】</p> <p>第5回 犯罪と社会(3) 裁判はなぜ間違えるのか 【オンライン型】</p> <p>第6回 経済ニュースと税財政(1) 経済ニュースを理解する【オンライン型】</p> <p>第7回 経済ニュースと税財政(2) 国と地方の財政【オンライン型】</p> <p>第8回 掲載ニュースと税財政(3) 勤め人の税金【オンライン型】</p> <p>第9回 子どもと教育(1) 格差社会と子ども【オンライン型】</p> <p>第10回 インターロード【課題提出型】</p> <p>第11回 子どもと教育(2) 子どもの価値観形成【オンライン型】</p> <p>第12回 子どもと教育(3) 教育政策の決定方法【オンライン型】</p> <p>第13回 社会をつくる・変える(1) ゲスト講師による授業【オンライン型】</p> <p>第14回 社会をつくる・変える(2) ゲスト講師による授業【オンライン型】</p> <p>第15回 講義内容の振り返り【課題提出型】</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習...毎回事前に示される予習課題を実施し、講義当日までにmanabaで提出する(60分)</p> <p>復習...毎回の講義へのコメントをmanabaで提出する(15分)</p>			
<p>この他にレポート課題3回(講義内容の復習に加え新書3冊の熟読が必要)</p> <p>予習・復習に必要な時間の合計については、文部科学省の定める大学設置基準に準拠する。</p>			
教科書			
<p>特に定めない。ただし、レポート作成のための課題文献をmanabaで各回1冊ずつ示す。</p>			
参考書			

各回の参考文献（レポートの課題文献）は追ってmanabaで告知する。

本講義の全体を通じての参考文献として、以下のものがある。

- 1) 山本義隆 『近代日本一五〇年 - 科学技術総力戦体制の破綻』 (岩波新書) (2018年)
- 2) 井手英策・今野晴貴・藤田孝典 『未来の再建 - 暮らし・仕事・社会保障のグランドデザイン』 (ちくま新書) (2018年)
- 3) 見田宗介 『現代社会はどこに向かうか - 高原の見晴らしを切り開くこと』 (岩波新書) (2018年)
- 4) 高橋源一郎 『ぼくらの民主主義なんだぜ』 (朝日新書) (2015年)
- 5) 村上宣寛 『あざむかれる知性 - 本や論文はどこまで正しいか』 (ちくま新書) (2015年)
- 6) 本田由紀 『もじれる社会』 (ちくま新書) (2014年)

### 成績の評価基準

授業への参加状況...40%

毎回、a)事前の予習課題、b)講義後の感想・意見ト、c)その他教員が授業中に提出を求めたものをすべて提出した学生について、当該授業回に参加したものと認め、各提出物の内容を評価する。全体の3分の2以上について出席が認められない場合には失格とする。

レポート課題60点

この講義を構成する4つのテーマ（犯罪と社会、経済ニュースと税財政、子どもと教育、社会をつくる・変える）のうち3つを選び、講義で示す課題文献（新書またはこれと同じ水準のもの）を読んだ上で、講義内容に関する2000字以上のレポートをそれぞれ作成する（各20点）。なお、意欲のある学生は、4つのテーマすべてについてレポートを提出することもできる。その場合には、上記に加えてさらに20点を上限として単純加点する（4通目のレポートの点数を、100点満点を超えてそのまま加点する）。

### オフィスアワ -

追って指定する。

### アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

### アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

### 備考（受講要件）

- (1) 1年次から履修可能。ただし、「アドバンス科目」であるため、一部に高度な内容を含むことがある。
- (2) 主体的に学び問う意欲がある者のみを「学生」と認める。

### 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
海外異文化体験実習（カナダの法と社会）			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I（選択）	実習	1単位	1～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
松田忠大		099-285-7653	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>法文アドバンスト科目は、法文学部の各学科・コースで身につけた様々な知識や能力を、現代社会における複雑な諸課題の解決に応用できる能力を涵養するという目的のもとに開講されている。この実習では、履修者は、カナダのピクトリア大学から提供されるカナダの法、政治、社会、歴史、文化に関する授業をオンラインで受講する。また、履修者が、同大学の学生・教員に対して、国際社会の抱える問題を題材としたプレゼンテーションを行い、これに基づくディスカッションの機会も設ける。さらに、履修者が異文化理解を深めることができるように、同大学の学生とのオンラインでの交流の機会をも設ける。</p> <p>このような内容の実習を行うことにより、履修者の、国際社会の抱える様々な問題の解決に自らの専門分野の知見を活用することができる能力、自分の専門分野の知見を英語で活用できる能力を涵養する。</p>			
学修目標			
<p>(1) カナダの法制度。政治制度の基礎を理解する。</p> <p>(2) カナダの歴史や文化の基礎を理解する。</p> <p>(3) カナダにおける環境保護の政策や取組を理解する。</p> <p>(4) 英語による授業の受講をとおして、自己の英語の運用能力を高めることができる。</p> <p>(5) 課題レポートの執筆をとおして、現代社会の諸問題について、国際的な視点に立って、その解決に向けた自分の考えを述べることができる。</p>			
授業計画			
<p>1. 事前学習(1)：オリエンテーション（実習の進め方）</p> <p>2. 事前学習(2)：カナダの政治制度、地理、産業、国民性について</p> <p>3. オンライン研修(1)：カナダの法と社会概論</p> <p>4. オンライン研修(2)：カナダの法制度</p> <p>5. オンライン研修(3)：カナダの政治制度</p> <p>6. オンライン研修(4)：カナダの歴史</p> <p>7. オンライン研修(5)：カナダの先住民</p> <p>8. オンライン研修(6)：カナダの文化</p> <p>9. オンライン研修(7)：カナダの経済</p> <p>10. オンライン研修(8)：カナダの環境保護政策と法</p> <p>10. オンライン研修(9)：カナダの芸術</p> <p>12. オンライン研修(10)：プリティッシュコロンビア州ピクトリアの歴史遺産</p> <p>13. オンライン研修(11)：国際的課題についてのプレゼンテーションおよびディスカッション・ピクトリア大学の学生および教員との意見交換</p> <p>14. 事後学習(1)：カナダの歴史、文化、社会に関するまとめ</p> <p>15. 事後学習(2)：国際社会の課題解決に向けた取組を考える</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>各オンライン研修のテーマの基礎事項を事前に調査しておく（予習）</p> <p>各オンライン授業で学習した内容をレポートとしてまとめる（復習）</p>			
教科書			
なし。			

## 参考書

事前学習等で紹介する。

## 成績の評価基準

各回に実施するレポート（70%）および最終レポート（30%）により評価する。

## オフィスアワ -

火曜日 2 限、木曜日 2 限

## アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中12回

## 備考（受講要件）

2020年度後期集中講義として実施します。

オンライン研修の受講には費用がかかります。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
AAX2602			
科目名			
キャリア論			
英語名			
Career Planning			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	2~3年
担当教員		連絡先(TEL)	
林田吉恵			
共同担当教員		連絡先(MAIL)	
		yhayashida@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		後期	
授業概要			
様々な領域で実際に仕事をしている方々の話を聞くことによって、大学での学びと社会生活の関連を考える。			
学修目標			
社会生活と大学での学びの関係を認識し、将来的な進路を考えていくための基本的な素養を身につける。			
授業計画			
すべて遠隔形式(オンライン型またはオンデマンド型)で開講するが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaコースニュースや授業内において通知する。			
第1講 ESの書き方	リクルートキャリア(林田)【オンライン型】		
第2講 SPIの活用等	リクルートキャリア(林田)【オンライン型】		
第3講 就職活動に向けて	鹿児島大学キャリア形成支援センター(林田)【オンライン型】		
第4講 私達の労働環境	鹿児島県労働委員会(米田)【オンライン型】		
第5講 法律専門職の仕事1	弁護士(米田)【オンライン型】		
第6講 法律専門職の仕事2	税理士・社会保険労務士(米田)【オンライン型】		
第7講 法律専門職の仕事3	不動産鑑定士・土地家屋調査士(米田)【オンライン型】		
第8講 法律専門職の仕事4	行政官(米田)【オンライン型】		
第9講 記者の仕事 伝えるということ	共同通信社鹿児島支局(宮下)【オンライン型】		
第10講 児童相談所の心理職業業務	鹿児島中央児童相談所(横山)【オンデマンド型】		
第11講 キャリア理論を体験する	鹿児島大学キャリア形成支援センター(小林)【オンライン型】		
第12講 地域金融機関の役割	鹿児島銀行人事部(林田・農中)【オンライン型】		
第13講 会社概要&お金の上手な育て方	ゆうちょ銀行鹿児島店(農中)【オンライン型】		
第14講 就職とは? キャリアとは? 働くとは? 株式会社下堂園(農中)【オンライン型】			
第15講 働くということ	キャタピラー九州株式会社(農中)【オンライン型】		
授業外学習(予習・復習)			
予習: 講義テーマをもとに、自分なりの考えをまとめておくこと			
復習: 講義資料をもとに関連する事柄について調べ、講義内容について理解を深めること			
教科書			
ほぼ毎回、資料を配布			
参考書			
必要に応じて適宜指示をする			
成績の評価基準			
2/3以上の出席者を評価対象とする。 毎回提出してもらったミニレポートにより評価する。			
オフィスアワー			
設定なし。事前にアポイントメントをいただければ、その都度対応します。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

## 備考（受講要件）

- ・ 出欠や提出物は、manabaおよびresponを通じて行うことを前提としているが、使用ができない事情がある受講者には個別に対応するので、最初の講義の際に必ず申し出ること。
- ・ 各講義はコーディネート教員が担当する。

## 実務経験のある教員による実践的授業

公務員や地元企業の従業員、弁護士、税理士などを講師として招き、それぞれの仕事の内容、やりがい、魅力などを講義してもらおう。それを通じて、受講生には自身のキャリアについて、大学での学びと関連させつつ、考えを深めてもらう。

科目名

地域心理支援論（公認心理師の職責2）（旧 心理学のしごと）

英語名

開講学科

コース

法文学部共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法文学部・法文アドバンス  
ト科目I（選択）

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

富原 一哉・安部 幸志・飯田 昌  
子・平田 祐太郎・米田 孝一・山  
崎 真理子

tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

吉村 隆之・久保 陽子

後期

授業概要

心理学の専門性を生かした職業や業務を紹介することにより、心理学の知見を生かした将来のキャリアの見通しと目標設定が可能となるようにするとともに、心理学に対する学習意欲促進を図る。

学修目標

1. 心理の専門職（公認心理師，臨床心理士等）の役割について理解する。
2. 心理職の義務と倫理について理解する。
3. 心理支援を要する者への安全確保について理解する。
4. 保健医療、福祉、教育その他の分野における心理職の具体的な業務と連携について理解する。

授業計画

\* 遠隔形式（オンデマンド型およびリアルタイム型）でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。また、講義内容や順番も変更されることもあるので注意すること。

第1回 「ガイダンス」（富原）【オンデマンド型】

第2回 「地域における心理職（公認心理師）の役割」（富原）【オンデマンド型】

第3回 「心理に関する支援を要する者等の安全の確保」（飯田）【オンデマンド型】

第4回 「司法領域における心理職の役割（家庭裁判所調査官）」（ゲスト講師）（富原）【リアルタイム型】

第5回 「病院におけるチーム医療」（米田）【オンデマンド型】

第6回 「心療内科、精神科における公認心理師」（米田）【オンデマンド型】

第7回 「生涯学習への準備」（安部）【オンデマンド型】

第8回 「福祉領域における心理職の役割 - 児童福祉」（久保）【オンデマンド型】

第9回 「福祉領域における心理職の役割 - 障害者福祉」（久保）【オンデマンド型】

第10回 「産業領域における医療とのつながりーリワークプログラム」（吉村）【オンデマンド型】

第11回 「産業領域における医療とのつながりーストレスマネジメント」（吉村）【オンデマンド型】

第12回 「教育領域における心理職の役割（ネットワークを活用した心理支援の実際）」（平田）【オンデマンド型】

第13回 「公認心理師の法的義務及び倫理」（富原）【オンデマンド型】

第14回 「マーケティング、リサーチにおける消費者心理学の活用」（山崎）【リアルタイム型】

第15回 「まとめ」（富原）【オンデマンド型】

授業外学習（予習・復習）

各回の授業テーマについて講義内容を復習するとともに、自ら情報を収集するなどして社会における心理学の役割を考察すること。

教科書

なし。

授業の中で適宜プリントを配布する。

参考書

成績の評価基準

各回に出されるレポートによって評価する。未提出のレポートがあると大きく成績評価が下がるので注意のこと。

また，【リアルタイム型】の授業を止むを得ず授業を欠席する際は，その1週間後までに欠席した回の担当の先生に連絡を取り，別途課題を出してもらおうこと。それ以降の申し出は受け付けない。

オフィスアワ -

月曜2限(研究室)。ただし、できるだけメールにて事前に連絡してください。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

既にこの授業の単位を修得している者の繰り返しての単位修得は認めない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-AAA3601			
科目名			
マスコミ論(旧 マスコミ論?)			
英語名			
Mass communication theory			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
宮下正昭		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
本学教員のほか、在鹿児島マスメディアの報道責任者・現役記者など		後期	
授業概要			
本学部と在鹿マスメディア13社が協力して開講。マスメディアの仕組み、地域メディアの役割や今日的課題、地域社会・世界を見る目、情報を読み解く力を身につける。また就職して働くことの意味や心構えを学ぶ。			
学修目標			
(1) 新聞社・通信社の仕組み、記者・アナウンサー・キャスターの仕事など、報道の現場の姿を把握し、リテラシー能力を向上できる。			
(2) マスメディアの抱える課題とその解決への努力を理解することにより、就職活動に生かすことができる。			
(3) マスメディアの役割・構造を理解し、現代社会での「言論の自由」について認識を深めることができる			
授業計画			
第1回	新聞と放送局 現状とこれから	法文学部教員	
第2回	全国紙の報道1	朝日新聞鹿児島総局長	
第3回	全国紙の報道2	読売新聞鹿児島支局長	
第4回	地方紙の報道	南日本新聞元編集局長	
第5回	地域紙の役割	南海日日新聞鹿児島総局記者	
第6回	通信社の仕事1	時事通信鹿児島支局長	
第7回	通信社の仕事2	共同通信鹿児島支局長	
第8回	民放ローカル局の役割1	MBC報道局長	
第9回	民放ローカル局の役割2	KTS制作部長	
第10回	民放ローカル局の役割3	KKB報道情報センターGE	
第11回	民放ローカル局の役割4	KYT報道制作局次長	
第12回	NHKの役割	NHK鹿児島放送局放送部副部長	
第13回	アナウンサーの仕事	KYTアナウンサー	
第14回	放送局のネット展開	MBCデジタル担当局長	
第15回	20代記者4人と語る	新聞2社と放送2社から各2人	
授業外学習(予習・復習)			
できるだけ毎日、新聞を読み、テレビのニュースや報道特集番組を視聴し、ポータルサイトのニュース記事をチェックするなど、ニュース感覚を磨く努力をすること。			
教科書			
特に使用しない。適宜資料を配付する。			
参考書			
講義中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
毎回の講義に対する「感想シート」(60%)と、期末レポート(40%)を総合評価する。			
オフィスアワ -			
金曜午後 事前に連絡を			
アクティブ・ラーニング			

ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

対面授業を基本とする予定で、受講生は50程度に制限する。

受講の際はマスクを必ず着用すること。

教室は空調を入れたうえで窓を開放するなどコロナ対策を取る。

状況によっては遠隔授業を取り入れる可能性もある。

実務経験のある教員による実践的授業

鹿児島大学法文学部と在鹿マスメディア13社が協力して開講する講義である。マスメディアの仕組み、地域メディアの役割や今日的課題、地域社会・世界を見る目、情報を読み解く力を身につける。また就職して働くことの意味や心構えも学ぶことができる。

ナンバリングコード			
科目名			
自治体政策総合論			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
片野田 拓洋		099-285-8872	t-katanoda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
鹿児島県庁から各部局の幹部職員を招へいし、鹿児島県の現状、課題、対応等について講義(うち1～2回程度は県職員以外の講師による講義)を行う。			
学修目標			
実例を通じて地方自治体の政策について理解を深める。			
授業計画			
原則として全て遠隔形式(ZOOMを使用したリアルタイム配信)で実施する。			
(状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。)			
第1回 ガイダンス、県勢の概要 第2回 総務部行政の概要 第3回 文化スポーツ局行政の概要 第4回 男女共同参画局行政の概要 第5回 企画部行政の概要 第6回 PR・観光戦略部行政の概要 第7回 環境林務部行政の概要 第8回 くらし保健福祉部行政の概要 第9回 商工労働水産部行政の概要 第10回 農政部行政の概要 第11回 土木部行政の概要 第12回 危機管理防災局行政の概要 第13回 国体・全国障害者スポーツ大会局行政の概要 第14回 教育庁行政の概要 第15回 まとめ			
講師の都合により各回の内容が入れ替わる可能性あり。 期末試験は行わない(指定期日までにレポートを提出)。			
授業外学習(予習・復習)			
講師によってはmanabaに事前に読むべき資料を掲載する場合あり。 新聞・テレビのニュース等を通じ、地方自治に関する情報に日頃から関心を持っておくこと。			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
授業への取組態度60%(受講姿勢及び授業中に指定したテーマに対する400字程度のレポート)、期末レポー			

ト40%

オフィスアワ -

他の予定が入っていない時はなるべく対応するので、事前に問い合わせること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

鹿児島県庁から各部局の幹部職員を招へいし、各部局ごとに鹿児島県の現状、課題、対応等について講義を受けることにより、実例を通じて地方自治体の政策について理解する。

ナンバリングコード			
科目名			
アクティブ・ゼミ（企画・編集）			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I（選択）	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
菅野康太		099-285-7624	canno@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>&lt; 授業の目的 &gt;</p> <p>本授業では、webや紙媒体を用いた情報発信を実践する。鹿児島では、様々なグラスルーツの活動が行われているが、それをあまり知らない大学生も多い。一方で、そのような活動をしている地域の人々は、学生の参加やアイデアを求めている。地域で行われている新しい取り組みを知ることは、自身のキャリアデザインにも繋がるだろう。また「知る」ための最良の手段は自ら「つくる」ことでもある。各受講生の興味関心に合わせ、鹿児島で行われているさまざまな取り組みを取材し、それを記事にする。もしくは、各受講生の興味関心に合わせ、この地域や現代社会の課題を洗い出し、その解決策を探るために取材を行う。必要であれば、イベントを企画・開催し、その内容をレポート記事にするなどの方法も考えられる。また、このような活動を行う際には、根拠の妥当性が重要となる。その妥当性は、学術的な知見や調査によって担保されるということを他の授業などでも指導された経験があるだろう。それらを活かし、取材や執筆などを行うことも目指す。この授業を通して、大学での学びを社会で活かすための実践をしようと思っ</p> <p>どのようなテーマを選択するかは、各受講生の希望を聞いて決定するが、全てを一から作り上げることは難しいため、学外の協力者の活動や媒体に参加し、記事の執筆などを行える体制を準備している。</p> <p>&lt; 今年度の主たる活動 &gt;</p> <p>今年度の主たるテーマは、地球温暖化対策の一環として鹿児島市が取り組む「COOL CHOICE」に関する情報発信のための企画案の作成。「COOL CHOICE」とは、2030年度に温室効果ガスの排出量を2013年度比で26%削減するという国の目標達成のため、省エネ・低炭素型の製品への買換・サービスの利用・ライフスタイルの選択など、地球温暖化対策に資する「賢い選択」をしていこうという国の取組のこと。環境省が中心となり様々な自治体が行っている活動だが、鹿児島市では「COOL CHOICE」の取組の一環として、2018年度に、市民参加型のワークショップにてフリーペーパーの製作を行った。この活動には、本学学生も参加している。2019年度には、このような活動を鹿児島市とともに考え、コミュニティデザイン・科学コミュニケーションなど、授業で学んだことを活かしながらフリーペーパー製作を本授業においてを行った。</p> <p>今年度は、COOL CHOICEの趣旨に合致した活動を行う企業や団体への取材を行い、フリーペーパーの作製やイベント企画を行う予定。</p> <p>こちらも参照のこと <a href="https://can-no.com/archives/1010">https://can-no.com/archives/1010</a></p> <p>鹿児島市 COOL CHOICEのHP  <a href="https://www.city.kagoshima.lg.jp/kankyo/kankyo/kanseisaku/kagoshimacitycoolchoice.html">https://www.city.kagoshima.lg.jp/kankyo/kankyo/kanseisaku/kagoshimacitycoolchoice.html</a>                      2019年度の活動報告やフリーペーパーのダウンロードはこちらから  <a href="https://kadai-houbun.jp/seminar_info/191016-3/">https://kadai-houbun.jp/seminar_info/191016-3/</a></p> <p>* 受講生本人の興味関心に合わせ、これ以外の活動を行うことも可能</p> <p>&lt; 学外協力者 &gt;</p> <p>本年度の学外協力者を以下に示す。</p>			

鹿児島市環境政策課

H30より環境省と連携し、COOL CHOICEに取り組んでいる。

グッドネイバース・ジャンボリー実行委員会

鹿児島を代表する音楽フェス・Good Neighbors Jamboree(GNJ)では、2020年のGNJで新たな取り組みを模索している。イベント開催における環境の負荷を「見える化」し、エネルギーのつくり方や使い方を考えながらフェスを運営していくための方法論を実験的に導入することを検討。本年度の授業内で、その取り組みに関わるワークショップを開き、その後のGNJの取り組みも取材する。

<https://goodneighborsjamboree.com/2019/about>

SILASU

アートの視点で鹿児島を探索する活動を行う任意団体。菅野もメンバーの1人。KAGOSHIMA Arts and/or Scienceなど、芸術、科学、コミュニティデザインなどに関するイベント企画やwebでの発信を行なっている。この関連イベントやwebでの発信の企画・執筆に関わることが可能。広報、コミュニティデザイナー、デザイナー、アーティストで構成される。

<https://bit.ly/20PVx11>

Judd.

株式会社Judd.はフリーペーパー「Judd.」を継続発行しており、鹿児島大学も取り上げている。また、H30-R1年度には、環境省が推進する「クールチョイス」という地球温暖化対策に対する取り組みに関し、鹿児島市が市民参加型ワークショップによってフリーペーパーを制作している（本学学生も参加）。その編集をJudd.が担っていた。このようなフリーペーパー制作のノウハウを学ぶことが可能。

[https://kadai-houbun.jp/seminar\\_info/181018-2/](https://kadai-houbun.jp/seminar_info/181018-2/)

<http://www.judd.jp/2018/07/09/judd-no-13-かごしまのわたしたちの周辺/>

GMOペパボ株式会社

「もっとおもしろくできる」という企業理念を掲げ、レンタルサーバー「ロリポップ！」やハンドメイドマーケット「minne」、などの個人向けインターネットサービスを提供。2019年2月、鹿児島に新たな拠点を設立し、鹿児島ユニテッドFCのオフィシャルトップパートナーや「THE GREAT SATSUMANIAN HES」へのIT支援も行っている。

<https://pepabo.com>

学修目標

- ・企画立案の際に、その企画が重要である理由を当該コミュニティの背景から論理的に説明できるようになる。
- ・情報発信を自らできるようになる。
- ・学術的背景や方法論に基づき、情報の妥当性を精査し、文章作成ができるようになる。
- ・分かりやすさと正確さが両立した情報発信ができるようになる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション：科学コミュニケーションに見る、学術とメディア
- 第2回 コミュニティデザイン、広報、デザイン、アートの現場1（外部講師）
- 第3回 コミュニティデザイン、広報、デザイン、アートの現場2（外部講師）
- 第4回 コミュニティデザイン、広報、デザイン、アートの現場3（外部講師）
- 第5回 行政の現場から：コミュニティデザイン志向の鹿児島市の取り組み（学部講師：鹿児島市）
- 第6回 企画会議1（企画案の発表）
- 第7回 企画会議2（企画案の発表）
- 第8回 企画会議3（企画の決定）
- 第9回 進捗報告1
- 第10回 進捗報告2
- 第11回 進捗報告3
- 第12回 進捗報告4
- 第13回 進捗報告5
- 第14回 成果発表1
- 第15回 成果発表2

**【遠隔授業の対応】**

Zoomを用いたオンライン授業によるディスカッションを中心に行います。  
 slackを用いて授業時間外にも企画立案や取材に関する連絡相談を取ることを可能にしています。  
 これらシステムにより、manabaにログイン出来ない学外の協力者とも連携することができます。  
 前期中に対面型の授業が可能となった場合は、対面式への切り替え、もしくは対面とオンライン型の併用を行います。

**授業外学習（予習・復習）**

取材、執筆、イベント参加など、授業外で行う必要がある。

**教科書**

なし

**参考書**

菅野が執筆したサイエンスコミュニケーションに関する論考

<http://synodos.jp/authorcategory/synapseproject>

**成績の評価基準**

企画立案および最終成果物の記事内容をレポートとして評価する

**オフィスアワ -**

随時（要メール連絡）

**アクティブ・ラーニング**

グループワーク；フィールドワーク；プレゼンテーション；その他；

**アクティブ・ラーニング（その他の内容）**

P B L（プロジェクトベースの学習）、取材、イベント企画、記事編集・執筆

**アクティブ・ラーニング（授業回数）**

15回中15回

**備考（受講要件）**

- ・履修希望者は事前にメール連絡をください。
- ・募集人数は最大15人とします。
- ・何かを調べたい、発信したい、学外の活動に参加したいという方を歓迎します。
- ・大学での学びを社会で活かす方法を模索している方を歓迎します。
- ・授業は企画会議としてグループディスカッション中心で進行します。
- ・他学部の方も歓迎します（法文学部学生係に履修方法を問い合わせてください）。
- ・休日などのイベント参加を授業参加に振り返ることがあります。
- ・取材などは授業時間外となります。
- ・移動など費用がかかる場合、学外協力者の運営費で協力いただくこともありますが、受講生の完全自主企画などの場合、費用は捻出できない可能性が高いです。通学範囲内の取材にするなど工夫が必要になる可能性があります。
- ・外部講師担当回は、講師の都合により開催回が前後する可能性があります。

**実務経験のある教員による実践的授業**

外部講師が民間の実務経験者になる可能性が高い

ナンバリングコード			
FHS-AAA2505			
科目名			
地域科学特殊講義			
英語名			
Special Lecture of regional science			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
石塚孔信		099-285-7586(石塚)	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp(石塚)
共同担当教員			前後期
北崎浩嗣 小林善仁 吉田明弘 中島大輔 林田吉恵 岩船昌起 金子満			前期
授業概要			
・近年、「地域」は現代社会の大きな変動の中で、いろいろな観点から関心を呼び、注目されている。この「地域」のことを総合的に分析し、理解することによって、今後のあり得べき地域政策を考える力を学生諸君に身につけてもらう。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域」とは何かを理解する。</li> <li>・「地域」を総合的に分析するためのツールを身につける。</li> <li>・「地域」の問題点や課題を洗い出し、認識する。</li> <li>・今後のあり得べき地域政策を考える。</li> </ul>			
授業計画			
第1回	オリエンテーション(石塚)(課題提出型)		
第2回	「地域への関心と講義への要望について」(課題提出型)		
第3回	「地域分析の方法について」(石塚)(課題提出型)		
第4回	「地域のとらえ方」(森脇)(オンデマンド型)		
第5回	「地域とは何か?」(吉田)(オンデマンド型)		
第6回	「数字から見た地方の現状」(林田)(課題提出型)		
第7回	「条件不利地域(中山間地域)の小規模自治体に見る活性化戦略」(北崎)(課題提出型)		
第8回	「地域におけるクラブチームの役割」(徳重:鹿児島ユナイテッドFC代表)(オンデマンド型)		
第9回	「地域と子どものあそびについて」(金子)(オンデマンド型)		
第10回	「コミュニティ放送局の役割」(上梶:FMあいら社長)(未定)		
第11回	「地図にみる鹿児島の市街地」(小林)(オンデマンド型)		
第12回	「中心市街地の現状と課題について」(石塚)(オンデマンド型)		
第13回	「鹿児島市の中心市街地活性化の取組について」(岩元:鹿児島市中心市街地活性化推進室長)(オンデマンド型)		
第14回	「ドイツのまちづくり - フライブルク旧市街の保全と活性化 - 」(中島)(オンデマンド型)		
第15回	まとめ(石塚)(課題提出型)		
授業外学習(予習・復習)			
・各教員の講義や課題をまとめておくこと。			
教科書			
・鹿児島大学法文学部編『地域科学入門 - 鹿児島を変える14の視点 - 』朝日印刷2020年4月。			
参考書			
・各教員の準備する資料等。			
成績の評価基準			
・各担当教員の評価を総合して判定する。5回以上欠席した場合は単位認定をしません。			
オフィスアワ -			
木曜日の4限終了後			

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

## 備考（受講要件）

- ・地域について関心のある熱意ある学生諸君の受講を期待している。
- ・遠隔授業になるので授業計画に変更が出てくる可能性がある。

## 実務経験のある教員による実践的授業

「地域」のことを総合的に分析し、理解することによって、今後のあり得べき地域政策を考える力を学生諸君に身につけてもらう。専任教員とゲスト講師（3回）による講義で地域について学び、地域政策を考える。またフィールドワークが1回ある。

ナンバリングコード			
AAX3502			
科目名			
地域科学演習			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
石塚孔信		099-285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
小林善仁, 大芝周子		後期	
授業概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回を除き遠隔授業(リアルタイム配信(Zoom))。第5回は対面授業</li> <li>・「地域」の問題は、現代社会の大きな変動の中で、いろいろな観点から関心を呼び、注目されている。そのなかでも近年話題となることが多い「中心市街地」の衰退は、全国的に、とりわけ地方都市において深刻な問題となっている。</li> <li>・本演習では、地方中心都市であり、県庁所在地でもある県都鹿児島市における中心市街地の活性化問題に本学部と鹿児島市が協力して取り組み、学生諸君と研究調査を共同で進めていく。</li> <li>・最終的には、報告書としてまとめることによって、鹿児島市の中心市街地の問題点を指摘し、それに対する処方箋と街づくりの方向性を模索していく。</li> </ul>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿児島市の中心市街地の課題を理解する。</li> <li>・中心市街地の課題を総合的に分析するツールを身につけて、実際に分析を行う。</li> <li>・アンケート調査の方法を習得し、実際に調査を行う。</li> <li>・鹿児島市の中心市街地の現状や課題を洗い出し、まとめる。</li> <li>・最終的には、報告書を作成し、鹿児島市の中心市街地活性化の処方箋と方向性を提言する。</li> </ul>			
授業計画			
第1回 オリエンテーション(石塚・鹿児島市役所)「今回の実習の意義や過去の調査の概要説明」			
第2回 中心市街地の課題について(1)(石塚)「法律や制度(まちづくり3法の変遷等)」			
第3回 中心市街地の課題について(2)(鹿児島市役所)「本市における具体的な施策とその評価」			
第4回 アンケート調査の方法(1)(本学教員)「調査票の作成法とデータ入力」			
第5回 中心市街地の視察(エクスカーション)(本学教員・鹿児島市役所)「アンケート調査の現場を含む中心市街地の視察」			
第6回 アンケート調査表の作成(石塚・鹿児島市役所)「今回の調査における調査票の作成」			
第7回 アンケート調査の方法(2)(本学教員)「調査票の集計法(グラフの作成、相関係数、クロス集計等)」			
第8回 アンケート調査の方法(3)(本学教員)「推定と検定等」			
第9回 アンケート調査表の結果(データ)入力(石塚)「データ入力とグラフ化」			
第10回 中心市街地の課題について(3)(本学教員)「本市や他地域の事例紹介」			
第11回 アンケート調査の結果の分析(1)(本学教員・鹿児島市役所)「データと図表、グラフからの検討」			
第12回 アンケート調査の結果の分析(2)(本学教員・鹿児島市役所)「データと図表、グラフからの検討」			
第13回 報告書の作成(1)(本学教員・鹿児島市役所)「班分けと班ごとの報告書の作成」			
第14回 報告書の作成(2)(本学教員・鹿児島市役所)「全体を通しての報告書の作成」			
第15回 まとめ(本学教員・鹿児島市役所)			
第16回 期末試験は行わない(報告書の評価)			
授業外学習(予習・復習)			

予習：担当教員からの指示及び業計画等を踏まえながら予習を行い、次回の授業に主体的に参加できるよう準備をする。（2時間程度）

復習：担当教員からの指示及び授業で扱った内容等を整理しつつ復習し、その内容を確実に身につける。（2時間程度）

教科書

- ・特に指定しない。

参考書

- ・授業時間内において適宜指示する。

成績の評価基準

- ・15回の授業のうち10回以上の出席を前提として、以下のような割合で評価する。
- ・授業時間内において使用するデータの収集やアンケート調査表の作成 = 40%
- ・報告書（1編）60%

オフィスアワ -

本演習の前後の時間

アクティブ・ラーニング

グループワーク；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

- ・2年生以上。
- ・地域科学特殊講義を受講していることが望ましい。
- ・受講者数の上限は30名。
- ・希望者が上限を超えた場合は、地域科学特殊講義を受講済みの学生を優先する。
- ・鹿児島市役所と共同で報告書を作成することになるので、「地域」や「まちづくり」に強い関心を持ち、モチベーションの高い学生諸君に受講してもらいたい。

実務経験のある教員による実践的授業

鹿児島市役所職員により、鹿児島中心地市街地の現状や課題を洗い出してもらおう。それらの課題に対して学生は、アンケート調査等を行い、事前に身に着けたエクセルツール等を使用しながら、中心市街地活性化の処方箋と方向性を市役所職員と一緒に考える。専任教員が5回ツール等の解説を行い、10回、ゲスト講師が、市の課題等を紹介する。

ナンバリングコード			
科目名			
島嶼ツーリズム論			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
石田智子		099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>鹿児島県は605島(有人離島数26)を有することで、南北600kmもの広大な県域、温帯から亜熱帯にわたる多様な自然環境、個性あふれる多彩な文化や歴史をもっています。鹿児島大学のキャッチフレーズは「南北600kmこれが私たちのキャンパス」です。みなさんは鹿児島大学生として、鹿児島の恵まれた環境を存分に活用し、島々の魅力を実体験とともに語る事ができるでしょうか。</p> <p>本講義は、鹿児島県の特色である「島嶼」の地理的条件をいかしたツーリズムについて、実際の活動に携わっている方に講師としてお話をいただくことで、みなさんに刺激を与えることを目的としています。多様なアプローチ方法で島々の魅力の開拓や発信に取り組む実践活動を知ること、みなさん自身が大学での学びや各自のスキルを行動に移す手がかりをつかむことを目指します。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対応のため、授業実施方法を下記に変更します。 詳細は第1回ガイダンスで説明します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業前：講義資料の事前学習 [ manabaとLINEで資料配布 ]</li> <li>2) 授業日：質疑応答開始時の出欠 [ respon ]</li> <li>3) 授業日：質疑応答(コアタイム) [ LINEのオープンチャットグループを使用 ]</li> <li>4) 授業日：質疑応答終了後のコメント提出 [ respon ]</li> <li>5) 授業後：質問等の受付 [ manabaの個別指導 ]</li> </ol> <p>このシラバスの情報は4月26日に更新しました。 今後も予定が変更する可能性があります。ご了承ください。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿児島島の島嶼の魅力を知ること、実際に訪問したり、情報を発信したりする能動的な活動へと発展させる。</li> <li>・鹿児島島の島嶼のもつ課題発見および解決、活性化に関わるための基礎知識や方法論、実践方法を理解する。</li> <li>・鹿児島島の島嶼を中心とするこれからの観光のあり方について意見をもつ。</li> </ul>			
授業計画			
<p>第1回 オンデマンド型授業 ガイダンス(コーディネーター：石田智子)</p> <p>第2回 課題提出型授業 バーチャル観光旅行にでかけましょう！ Google Mapで島を訪問し、島の魅力を紹介してください。後日詳細。</p> <p>第3回 オンデマンド型授業 甲斐友也(長島町役場地域おこし協力隊・長島未来企画合同会社) 「(未定)」 keywords：長島、食、地域活性化</p> <p>第4回 オンデマンド型授業</p>			

高宮広土（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）

「琉球列島先史時代の特異性：奄美・沖縄諸島を中心に」

keywords：人類（Homo sapiens）と島、島嶼環境、人類の歴史や文化における島嶼の意義、世界の中の奄美・沖縄諸島先史時代

#### 第5回 オンデマンド型授業

宋多情（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）

「島嶼地域におけるエコツーリズムと世界遺産観光」

keywords：奄美群島、エコツーリズム、世界自然遺産、島嶼間比較

#### 第6回 オンデマンド型授業

本田静（株式会社宙の駅）

「島の果てから宇宙まで～シマのファンづくり～」

keywords：着地型観光、地域密着型観光、島旅プラン、宇宙、自然、史跡文化財、教育

#### 第7回 オンデマンド型授業

岡山柊菜・有村格之進（マルエーフェリー株式会社）

「島嶼における船の役割」

keywords：フェリー、船旅、生活航路

#### 第8回 オンデマンド型授業

竹添星児（イラストレーター）

「離島でのフリーランス活動と地域での広がり」

keywords：徳之島、フリーランス、ノマドワーク、離島のデザイン、観光案内マップ、サイクリングツーリズムの可能性、個人活動だからこそゆるやかなつながりの広がり

#### 第9回 オンデマンド型授業

石田智子（鹿児島大学法文学部人文学科）

「島嶼の文化遺産と観光」

keywords：文化遺産、歴史、ヘリテージツーリズム

#### 第10回 オンデマンド型授業

境田清一郎（一般社団法人あまみ大島観光物産連盟）

「奄美大島DMOの取り組みと課題について」

keywords：奄美大島、奄美大島地域連携DMO、観光戦略、世界自然遺産、国立公園指定（環境文化型）

#### 第11回 オンデマンド型授業

大岩根尚（合同会社むすひ）

「専門性を生かして島で働く」

keywords：硫黄島、三島・鬼界カルデラジオパーク、地質学

#### 第12回 オンデマンド型授業

太田純貴（鹿児島大学法文学部人文学科）

「島嶼・アート・フェスティバル 種子島宇宙芸術祭を事例に」

keywords：種子島宇宙芸術祭、アート、フェスティバル、テクノロジー、アニメ聖地巡礼、瀬戸内芸術祭

#### 第13回 オンデマンド型授業

田中完（大島支庁）

「奄美の魅力を生かした観光の方向性について」

keywords：奄美の魅力、歴史、注目のシマ、暮らすように旅をする、今後の方向性

#### 第14回 オンデマンド型授業

山下賢太（東シナ海の小さな島ブランド株式会社）

「離島の未来をデザインする」

keywords：甑島、地域を価値づける、鹿児島離島文化経済圏（リトラボ）

## 第15回 課題提出型授業

まとめ

### 授業外学習（予習・復習）

- ・各授業の前に、島嶼の基本情報を調べておくこと。
- ・授業で配布した資料やキーワードを参考に予習・復習することが望ましい。

### 教科書

なし。授業にて資料を適宜配布する。

### 参考書

特になし。授業にて適宜紹介する。

### 成績の評価基準

- ・毎回コメント（50%）と期末レポート（50%）で評価する。
- ・質疑応答時の受講態度や事前学習の有無も評価に含む。

### オフィスアワ -

manabaの「個別指導」、E-mail（ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp）、法文学部1号館4階（石田研究室）（来室される場合は事前アポイントをお願いします）で受け付けます。外部講師に関しては、適宜確認してください。

### アクティブ・ラーニング

ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

### アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

### 備考（受講要件）

- ・履修上限250名（先着順）とする。 検討中
- ・受講を希望する方は、必ず初回のガイダンスに出席すること。  
[4月26日追記]  
第1回配布資料（<https://drive.google.com/open?id=1chaTaBylvzD99pYL9PBrjIKDkbvdKcn1>）をご確認ください。
- 授業の趣旨や進めかたに賛同して下さる方であれば、第2回以降の受講を許可します。
- ・以下の条件を満たし、趣旨に賛同する方は履修可能です。
  - ・自宅で動画等の視聴が可能な者。
  - ・授業時間（金曜4限）に鹿児島大学manabaにアクセス可能な者。
  - ・LINEを利用可能な者。
- ・外部講師担当回は、講師の都合により変更が生じる可能性がある。

### 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
自然科学から見る人・文化・社会			
英語名			
The Natural Sciences and the Humanities			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目II（選択）	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
近藤和敬・吉田明弘・太田純貴・菅野康太		099-285-7624	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
吉田明弘、太田純貴、菅野康太		前期	
授業概要			
本授業では、近年ますます重要性の高まりつつある自然科学の観点から、あるいは自然科学の観点との関連のなかで、人文科学的問題関心について複数分野の専門教員によって横断的に講義を行う。			
学修目標			
本授業では、以下の要件の修得を学習目標とする。			
1. 自然科学という人間の営みがついついの特徴について、自然科学と人文科学を横断する観点から理解すること。			
2. 人・文化・社会といった人文科学的主題について、自然科学的観点から理解する方法およびいくつかの結果を理解すること。			
3. 人文科学的な関心と自然科学的な関心を受講生自身が結びつけられるようになること。			
授業計画			
1 ガイダンス、授業内容等の説明（近藤：課題提出型）			
2 なぜ科学は嫌われるのか？：社会生物学論争に見る「分断」（菅野：オンデマンド型）			
3 分断はするけど境界は曖昧：男と女、自然と人工、生命と非生命（菅野：オンデマンド型）			
4 理系と文系の現在を巡って：何を対話すべきか？（菅野：オンデマンド型）			
5 対話は可能なのか？：科学技術社会論、メディア、アートの事例（菅野：オンデマンド型）			
6 タイムマシン/タイムトラヴェルと自然科学 時間の尺度（太田：オンデマンド型）			
7 タイムマシン/タイムトラヴェルと自然科学 進化論（太田：オンデマンド型）			
8 タイムマシン/タイムトラヴェルと自然科学 進化論2（太田：オンデマンド型）			
9 年代学による楽器・美術品の真贋鑑定と交易（吉田：オンデマンド型）			
10 景観復元からみた人類・社会の変遷史（吉田：オンデマンド型）			
11 景観復元からみた人類・社会の変遷史2（吉田：オンデマンド型）			
12 人新世と哲学（近藤：オンデマンド型）			
13 近代社会と自然科学（近藤：オンデマンド型）			
14 近代・主権・暴力（近藤：オンデマンド型）			
15. まとめ（課題提出型）			
オンデマンド型講義は、リアルタイム型や教室での通常講義に変更になる可能性があります。			
授業外学習（予習・復習）			
・授業でもちいるスライドの印刷あるいは講義用資料を授業の前後に読んで予習と復習をすること。			
・授業で取り上げた書籍などを授業後などに自分で読むことを復習として行うことが望ましい。			
教科書			
授業中に適宜指示する。			
参考書			
授業中に適宜指示する。			
成績の評価基準			
授業中あるいは授業後のミニッツ・ペーパーに相当するもの、および授業中に行われる小テストなど（授業担当			

教員によって若干異なる場合がある)。主にmanabaを使った提出物を基準とします。

オフィスアワ -

授業のあとなど随時

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15

備考(受講要件)

受講要件は特にないが、250人を超えた場合、抽選により履修制限をかける(先着順)。法文アドバンスト科目IIの選択科目に該当する。なお、後期に開講される同一名称の科目とは内容は異なるのが、重複履修不可であるので、いずれかを履修することが推奨される。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
自然科学から見る人・文化・社会			
英語名			
The Natural Sciences and the Humanities			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目II（選択）	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
大園博記・片桐資津子・菅野康太・ 富原一哉・米田孝一		099-258-3578（大園研究室）	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
片桐資津子・菅野康太・富原一哉・米田孝一		後期	
授業概要			
本授業では、近年ますます重要性の高まりつつある自然科学やデータサイエンスの観点から、あるいは自然科学の観点との関連のなかで、人文科学および社会科学の問題関心について複数分野の専門教員によって横断的に講義を行う。			
学修目標			
本授業では、以下の要件の修得を学習目標とする。			
1.自然科学という人間の営みがついくつの特徴について、自然科学と人文・社会科学を横断する観点から理解すること。			
2.人・文化・社会といった人文・社会科学の主題について、自然科学やデータサイエンスの視点から理解する方法と知見を理解すること。			
3.人文・社会科学的な関心と自然科学的な関心を受講生自身が結びつけられるようになること。			
授業計画			
*遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
1.オリエンテーション（大園）【リアルタイム型、オンデマンドでも配信】			
2.マーケティングと複雑系：流行は予測できるのか？（大園）【リアルタイム型、オンデマンドでも配信】			
3.文化進化論1：遺伝子と文化の共進化（大園）【リアルタイム型、オンデマンドでも配信】			
4.文化進化論2：文化的多様性の起源（大園）【リアルタイム型、オンデマンドでも配信】			
5.エントロピー増大の法則からみる地域活性化（片桐）【リアルタイム】			
6.生物のホメオスタシスと社会システムの安定性（片桐）【リアルタイム】			
7.素粒子のふるまいと社会秩序（片桐）【リアルタイム】			
8.似非科学と超常現象（富原）【オンデマンド型】			
9.統計で嘘をつく方法（富原）【オンデマンド型】			
10.なぜ科学は嫌われるのか？：社会生物学論争に見る「分断」（菅野）【オンデマンド】			
11.分断はするけど境界は曖昧：男と女、自然と人工、生命と非生命（菅野）【オンデマンド】			
12.理系と文系の現在を巡って：何を対話すべきか？（菅野）【オンデマンド】			
13.対話は可能なのか？：科学技術社会論、メディア、アートの事例（菅野）【オンデマンド】			
14.医学でみる人・文化・社会（米田）【オンデマンド】			
15.医学の発展と命（米田）【オンデマンド】			
授業外学習（予習・復習）			
・授業でもちいる講義用資料を授業の前後に読んで予習と復習をすること。			
・授業で取り上げた書籍などを授業後などに自分で読むことを復習として行うことが望ましい。			
教科書			
授業中に適宜指示する。			
参考書			
授業中に適宜指示する。			

成績の評価基準

授業中あるいは授業後のミニッツ・ペーパーに相当するもの、および授業中・授業後に行われる小テストなど（授業担当教員によって若干異なる場合がある）。

オフィスアワー

授業のあとなど随時

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

受講要件は特にないが、250人を超えた場合、抽選により履修制限をかける。法文アドバンスト科目IIの選択科目に該当する。なお、前期に開講される同一名称の科目とは内容は異なるが、重複履修不可であるので、いずれかを履修することが推奨される。2020年度は、後期月曜1限に開講する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-AAJ2403			
科目名			
地理歴史科教育法II			
英語名			
teaching Geography and History II			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
永山修一			nagayama@lasalle.ed.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学習指導要領や教科書の役割を理解するとともに、授業の年間計画、単元計画、各時間の「学習指導案」について理解を深める。3～4名の班を作り、協同しての指導案作成、授業準備を課す模擬授業を通じて、実践的な力を身につける。模擬授業ごとに、意見交換を行い、よりよい授業づくりをめざす姿勢を身につける。ただし、受講者数・遠隔授業の状況に応じて、授業の回数や内容、授業形態は変更となる可能性がある。			
学修目標			
現在の歴史地理教育をとりまく諸問題に関心を持つとともに、養成すべき歴史的思考力・地理的思考力について考え、実際に学習指導案を作成し、それに基づいて授業が行えるようにする。			
授業計画			
授業計画			
第1回：導入（課題提出型）			
第2回：授業の実際（徳政一揆の農民は有罪か？）（課題提出型）			
第3回：地理歴史教育の歴史（戦前）（リアルタイム型）			
第4回：地理歴史教育の歴史（戦後）（リアルタイム型）			
第5回：地域教材の利用について 視聴覚教材と情報機器の活用（リアルタイム型）			
第6回：「歴史的思考力とは」（リアルタイム型）			
第7回：授業の実際と討論（模擬授業1 リアルタイム型）			
第8回：授業の実際と討論（模擬授業2 リアルタイム型）			
第9回：授業の実際と討論（模擬授業3 リアルタイム型）			
第10回：授業の実際と討論（模擬授業4 リアルタイム型）			
第11回：授業の実際と討論（模擬授業5 リアルタイム型）			
第12回：授業の実際と討論（模擬授業6 リアルタイム型）			
第13回：授業の実際と討論（模擬授業7 リアルタイム型）			
第14回：授業の実際と討論（模擬授業8 リアルタイム型）			
第15回：近年の歴史地理教育の問題に関するレポートをうけての講義。まとめ（リアルタイム型）			
授業外学習（予習・復習）			
教科書			
教育基本法・学校教育法・高等学校学習指導要領			
参考書			
『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』			
成績の評価基準			
レポート課題への取り組み（20%）、模擬授業に対する取り組み（40%）、および最終レポートとして提出する「学習指導案」の内容（40%）を評価する。			
オフィスアワー			
講義終了後・非常勤講師室			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-AAJ4401			
科目名			
教職概論			
英語名			
Study for a Teaching Training			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
川野 恭司			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
今日の学校教育の現状と実践的課題を多角的に考察する。			
学修目標			
教職の意義、教員の役割・職務内容等を学ぶことを通して教職の基本的なありようと自己の教員としての資質についての洞察を得る。			
授業計画			
講義は教師の問題提起にもとづき対話を中心に展開する			
1. 今日の子どもの実態 (知・徳・体)			
2. 学校の再生と文化活動			
3. 人権と教育			
・「いじめ」			
・ハンセン病問題			
4. 進路・進学と教育			
5. 教職員の職場・教師の生きがい			
6. その他			
授業外学習 (予習・復習)			
マスコミ等で報道される教育関係の情報は、その都度チェックしておくこと。(最近では「いじめ」「体罰」など)			
教科書			
使用しない。			
参考書			
適宜指示する。			
成績の評価基準			
平常点 (出席と授業参加) を最も重視する。学期末提出のレポートも評価に加える。			
オフィスアワ -			
講義前後。非常勤控室にて			
アクティブ・ラーニング			
その他;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
群説の構成と実演。ディベート・討論による深化			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
ほぼ毎回 ( )			
備考 (受講要件)			
講義にあたっては、問題提起 (問いかけ) に対し、積極的に応答し、自ら討論に参加することを重視する (評価する)。このこと自体が、教職にあってはもちろんのことこれからの世の中を生きる上で大切な資質になると考えるゆえ。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-AAJ2401			
科目名			
社会科教育法I			
英語名			
Education Methods of Social Sciences 1			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
川野 恭司			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>中学校社会科教師に求められる基礎的な素質を養う。中学校社会科の現状と課題について、学習指導要領をふまえ、学校・生徒の実態とかかわらせながら、自分なりの社会科観・授業力形成の糸口をつかむことを目標とする。</p> <p>講義は全体として、学生自身の模擬授業を中心に展開する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会科授業における教材研究のあり方を修得する。</li> <li>2. 生徒の「認識」とかかわる学習指導案の作成と授業展開法を身につける。</li> <li>3. 授業および授業分析に自ら参加し、授業する力を身につける。</li> </ol>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中学校社会科授業実践の紹介と分析</li> <li>2. 中学校社会科授業づくりの視点と方法（模擬授業を中心にすすめる）</li> <li>3. 中学校社会科の課題</li> </ol>			
授業外学習（予習・復習）			
学習指導案の事前作成・検討（指導）			
教科書			
適宜資料を配付する。			
参考書			
講義中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
模擬授業、授業分析へのとりくみ、毎時の小レポートと期末レポート			
オフィスアワ -			
講義前後。非常勤控室にて。			
アクティブ・ラーニング			
その他；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
模擬授業および授業分析における対話・討論。			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
ほぼ毎回（14～15回）。			
備考（受講要件）			
<p>講義にあたっては、問題提起（問いかけ）に対し、積極的に応答し、自ら討論に参加することを重視する（評価する）。このこと自体が、教職にあってはもちろんのことこれからの世の中を生きる上で大切な資質になると考えるゆえ。</p>			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
商業科教育法II			
英語名			
Educational Methods of Commerce Science II			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
岡元直樹	090-2852-9671		naaki09gofw@yahoo.co.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
高等学校商業科を担当する教師として必要な基礎的知識と実践力を育成する。			
学修目標			
1. 学習指導の基本的な考え方が理解できる。 2. 高等学校商業科の目標と内容が理解できる。 3. 教材研究の進め方が理解できる。 4. 学習指導計画の立て方ができる。 5. 授業の進め方が理解できる。 6. 指導計画に生かす評価法が理解できる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 学習指導の基本的な考え方 第3回 高等学校商業科の目標と内容(1) : 教科の目標 第4回 高等学校商業科の目標と内容(2) : 教科の内容 第5回 教材研究の進め方 第6回 学習指導案の工夫・改善(1) : 学習指導案の形式 第7回 学習指導案の工夫・改善(2) : 学習指導案作成の上の留意点 第8回 模擬授業および研究討議(1) : 模擬授業 第9回 模擬授業および研究討議(2) : 授業研究 第10回 模擬授業および研究討議(3) : 研究討議 第11回 教科指導と評価(1) : 教科指導に生かす評価 第12回 教科指導と評価(2) : 評価問題の作成 第13回 教科指導と評価(3) : 評価問題の工夫 第14回 商業科教師への道 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
簿記に関する基本的・基礎的知識を有していることが望ましい。			
教科書			
使用しない。適宜資料を配付する。			
参考書			
文部科学省「高等学校学習指導要領」(2009年, 文部科学省) 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 商業編」(2010年, 文部科学省) 日本商業教育学会編『教職必修 最新商業科教育法 新訂版』(2011年, 実教出版)			
成績の評価基準			
レポート(1回: 50%) 小テスト(3回: 30%) 授業への取り組み態度(20%)			
オフィスアワ -			
講義終了後・非常勤講師控え室			

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中4回

## 備考(受講要件)

夏季休業中に開講予定(集中講義)

高等学校教諭免許「商業」の取得には、「商業科教育法?(隔年開講)」および「商業科教育法?(隔年開講)」の4単位を修得しなければならない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
観光学			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
石塚孔信		099-285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
大芝周子		後期	
授業概要			
全ての回(15回)を遠隔授業で行う。(リアルタイム配信 Zoom)			
<p>観光は観光者、そのニーズに応える観光産業、そして地域特有の観光資源の3つの関わりによって成り立つものである。本講義では、近年の観光者のニーズに応えるための観光関連産業の取り組みと課題について解説し、鹿児島のような観光資源を紹介した上で、これからの鹿児島の観光に求められるものについて講義を行う。毎回、観光に携わる実務家の方を講師に招いて、実務の観点から観光について詳しく説明がなされる。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観光産業の取り組みと課題を説明することができる。</li> <li>2. 鹿児島の観光資源を知り、観光地域づくりの実践方法を理解することができる。</li> <li>3. 鹿児島のこれからの観光のあり方について意見を述べるすることができる。</li> </ol>			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	何故、今観光か - 観光振興と地域経済 -		
第3回	観光関連産業の現状と課題 - 交通・運輸、宿泊、テーマパーク、観光施設 -		
第4回	旅行市場の動向と新しいビジネスへの挑戦		
第5回	観光と世界文化遺産		
第6回	観光と歴史世界自然遺産		
第7回	観光と世界自然遺産		
第8回	観光と宿泊		
第9回	観光と食		
第10回	観光と言語対応		
第11回	国際観光とインバウンド		
第12回	観光行政		
第13回	DMOについて		
第14回	DMOの事例：大隅の観光地域づくり		
第15回	これからの鹿児島の観光に求められるもの		
授業外学習(予習・復習)			
授業終了後、配布資料やレジュメを見て授業の復習を行うこと。			
教科書			
特になし。			
参考書			
各教員の準備する資料等。			
成績の評価基準			
各担当教員の評価を総合して判定する。			
オフィスアワ -			
火曜日の4限			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
ミニッツ・ペーパーの実施。
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中15回。
備考（受講要件）
なし。
実務経験のある教員による実践的授業
近年の観光者のニーズに応えるための観光関連産業の取り組みと課題について解説し、鹿児島県のような観光資源を紹介した上で、これからの鹿児島県の観光に求められるものについて講義を行う。毎回、観光に携わる実務家の方を講師に招いて（14回）、実務の観点から観光について詳しく説明がなされる。

ナンバリングコード			
科目名			
社会教育演習?			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	演習	1単位	2～3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
農中 至		0992857603	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>本年度はマナバとZOOMを利用し演習を進める予定です。また内容を一部変更する場合があります。マナバでの課題確認を忘れずにおこなってください。なお、本演習は社会教育主事資格取得を希望する学生に向けた専門科目でもあります。提出課題に関する内容が高度であり、数十ページにおよぶ課題文献の読解が必要なほか、ほぼすべての回である程度の分量を求めるレポート提出課題（1,200字から3500字程度のものを想定）があるなど、一定の学習時間の確保が不可欠です。文献の読解、レポートの作成時間が十分に確保できるかどうかをよく検討の上、履修してください。</p> <p>社会教育学研究および社会教育実践を進めるために重要な基本的研究姿勢および研究態度を身につけることを目的とします。具体的には自己の問題関心や研究関心に気づき、自発的にさまざまな課題に挑戦していけるための条件とはなにかについて探求します。</p>			
学修目標			
鹿児島県の地域的特性踏まえ、身近で具体的かつ現実的なレベルから社会教育研究を進めていけるような研究姿勢を身につけることを学習目標とします。			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>現代社会教育の基礎理論の検討</li> <li>現代社会教育の実践論の分析と検討</li> <li>受講生による報告と討論の計画</li> <li>受講生による報告と討論 実践と活動の探究</li> <li>受講生による報告と討論 子ども期の探究</li> <li>受講生による報告と討論 青年期の探究</li> <li>受講生による報告と討論 成人期の探究</li> <li>受講生による報告と討論 高齢期期の探究</li> <li>受講生による報告と討論 性・ジェンダー・人権問題の探究</li> <li>島嶼・地方都市社会教育問題に関するグループ研究発表 社会・経済・労働の視点とのかかわりで</li> <li>島嶼・地方都市社会教育問題に関するグループ研究発表 医療・福祉の視点とのかかわりで</li> <li>島嶼・地方都市社会教育問題に関するグループ研究発表 子育て・育児・地域文化の視点とのかかわりで</li> <li>鹿児島県島嶼社会教育史の読解と探究 復帰運動と青年団の視点を中心に</li> <li>鹿児島県島嶼社会教育史の読解と探究 占領下奄美の社会教育史的特質</li> </ol>			
授業外学習 (予習・復習)			
配布資料関連文献の読解および関連語句の一覧ノートの作成			
教科書			
授業中に指示します。			
参考書			
佐藤一子『地域学習の創造』（東京大学出版会、2015）			
成績の評価基準			

各授業のレポート提出状況（30%）・事前準備状況・レポート内容の質（40%）・最終レポート（30%）

オフィスアワ -

随時受け付けます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
日本近現代文学演習 2			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
多田蔵人			ktada@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
日本近代文学について、各学生が論文の対象として選んだ作家と作品について発表しながら、論文作成の能力を鍛え、一本の研究論文を執筆する。参加者は教員のみならず学生相互の批評を受けながら、自らのテーマを絞り、調査を行い、論文の形にする。			
学修目標			
卒業論文に相当する論文を一本完成させること。			
授業計画			
1回	ガイダンス		
2回	作家・作品選択		
3回	テーマ設定		
4回	調査1 論文		
5回	調査2 用例探索		
6回	学生発表(レジュメ形式) 1		
7回	学生発表(レジュメ形式) 1		
8回	論文形式についてのガイダンス		
9回	単章執筆とチェック		
10回	調査3 典拠		
11回	調査4 影響関係		
12回	学生発表(論文形式) 1		
13回	学生発表(論文形式) 2		
14回	学生発表(論文形式) 3		
15回	まとめ		
授業外学習(予習・復習)			
自らが担当する作家の全集はもちろん、参加者が論文を執筆する対象作品は必ず読むこと。			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
毎回の議論への参加50%、提出論文50%。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
メディア史概説（旧 デジタル文化論）			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
未定			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習（予習・復習）			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
表象文化論			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
未定			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
表象文化論演習 1 (旧 表象文化論演習)			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
未定			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
メディア論演習（旧 デジタル文化論演習）			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
未定			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習（予習・復習）			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
中国文学演習A2			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習		2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
共同担当教員	前後期		後期
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
日本近現代文学研究C			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
谷川恵一			
共同担当教員	前後期		前期
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
表象文化論演習 2 (旧 表象文化論演習)			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
未定			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
表象文化論演習 2 (旧 表象文化論演習)			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
未定			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DGI4602			
科目名			
博物館実習			
英語名			
Museum Management Practicum			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
学芸員科目	実習	3単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎	099-285-7539		watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
博物館における実習とその事前事後指導を行う。			
学修目標			
博物館学芸員として必要な知識や技能などを修得する。			
授業計画			
第1・2回：事前指導 第3～14回：見学実習 第15～26回：学内実習 第27回：館園実習事前指導 第28～42回：館園実習 第43回：館園実習事後指導 第44・45回：事後指導			
授業外学習 (予習・復習)			
実習する各博物館の指示。			
教科書			
適宜指示 (実習する各博物館の指示)			
参考書			
適宜指示 (実習する各博物館の指示)			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度とレポートおよび実習館の評価に基づき総合的に評価。			
オフィスアワ -			
研究室在室中はいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; フィールドワーク;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
本授業は平成24年度以降入生のみ受講可。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
日本語学研究B (旧 日本語構造論)			
英語名			
Japanese Linguistics B			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
梅崎光			授業での配布資料参照。
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
日本語文法史の基本的なテーマについて理解することを目的として、教科書の内容に沿って授業する。遠隔授業（文字による講義資料配布、およびmanabaを介した交信、manabaによるテスト等）で実施する。			
学修目標			
過去の日本語に関する事実を認識し研究する手続きを知る。			
授業計画			
概ね以下のような順序で行う予定である。受講者の理解度等に応じて若干の伸び縮みや内容変更があると了解していただきたい。			
第1回：活用			
第2回：格			
第3回：ヴォイス			
第4回：アスペクト・テンス			
第5回：モダリティ			
第6回：感動表現・希望表現			
第7回：係り結び			
第8回：とりたて			
第9回：準体句			
第10回：条件表現			
第11回：待遇表現			
第12回：ダイクシス			
第13回：談話・テキスト			
第14回：文法史と方言			
第15回：総括			
定期試験			
授業外学習（予習・復習）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の前に教科書を熟読する。</li> <li>・ 教科書、授業で配布した資料、授業中の筆記をもとに授業内容を復習する。</li> </ul>			
教科書			
高山善行/青木博史：編『ガイドブック日本語文法史』ひつじ書房、2010年			
参考書			
授業中に適宜示す。			
成績の評価基準			
小課題（40%）と期末試験（60%）			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

日本語学概説AおよびBを受講済みであることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

アメリカ文学演習 1 (旧 アメリカ文学演習)

## 英語名

American Literature 1

## 開講学科

## コース

人文学科

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

竹内勝徳

985-8874

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

エドガー・アラン・ポーの“The Fall of the House of Usher”を精読し、資料や文献を参照して作品を解釈する。毎回の授業で発表の割り当てを行い、レジュメを準備して翻訳を発表すると共に、その箇所についての解釈を提示する。また、その発表について全体でディスカッションを行う。

## 学修目標

ポーの作品を精読することをテーマとする。到達目標は以下のとおりである。(1) ショパンとリアリズム文学の特質について理解する。(2) 作品に表れた時代背景やアメリカ社会・文化の特徴について理解を深める。(3) 精読を行うことで英語の読解力を向上させる。(4) 作品の解釈を通して批判的な思考力を高める。(5) 資料を駆使して解釈を行い、レポートを作成することで情報処理能力と分析力を向上させる。

## 授業計画

第1回 ポー文学の全体像と資料の紹介(manabaによる資料提供)  
 第2回 “The Fall of the House of Usher” 精読 資本主義との関連性 (オンデマンド)  
 第3回 “The Fall of the House of Usher” 精読 劇場文化との関連 (オンデマンド)  
 第4回 “The Fall of the House of Usher” 精読 言語的特質 (オンデマンド)  
 第5回 “The Fall of the House of Usher” 精読 法律と言語 (オンデマンド)  
 第6回 “The Fall of the House of Usher” 精読 声と身体 (オンデマンド)  
 第7回 “The Fall of the House of Usher” 精読 身体の対立性 (オンデマンド)  
 第8回 “The Fall of the House of Usher” 精読 アフェクトについて (オンデマンド)  
 第9回 “The Fall of the House of Usher” 精読 アフェクトと言語 (オンデマンド)  
 第10回 “The Fall of the House of Usher” 精読 政治性 (オンデマンド)  
 第11回 “The Fall of the House of Usher” 精読 ポーの芸術観 (オンデマンド)  
 第12回 “The Fall of the House of Usher” 精読 ポーの想像力 (オンデマンド)  
 第13回 “The Fall of the House of Usher” 精読 ホーソーンとの差異 (オンデマンド)  
 第14回 “The Fall of the House of Usher” 精読 想像力と対象物 (オンデマンド)  
 第15回 総括 (オンデマンド)  
 レポート提出

## 授業外学習 (予習・復習)

全員が確実にテキストを読んでから授業に参加し、授業中の指摘や翻訳の修正点について復習しておくことが求められる。

## 教科書

プリントを配布。

## 参考書

授業中に指示。

## 成績の評価基準

レポート50%、小レポート25%、コメント25%の割合で成績評価を行う。

## オフィスアワ -

月曜の昼休み。

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

ディスカッションでアクティブ・ラーニングを行う。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回。

備考 (受講要件)

英語力の向上に意欲を持っていること。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

日本近現代文学研究B (旧 日本近代文学)

## 英語名

Modern Japanese Literature B1

## 開講学科

## コース

人文学科

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

講義

2単位

2～4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

多田蔵人

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

テーマ：日本近代文学における引用

近代文学の歴史は、しばしば言文一致体ないし口語文の歴史として語られる。しかし近代小説は、先行する時代の文学表現や海外の文学表現、さらに小説以外の散文表現から、少なからざる影響・拘束を受けてもいた。近代小説を読むと、一見口語であるように見える表現のかけに文語といわれる表現が見え隠れしていることの原因である。近代文学の諸作品が他のテキストから影響を受け、新たな表現を創り出してゆく変換式を、理論的に把握してみたいと思う。

## 学修目標

引用の分析を通じて、近代文学における規範的文章概念を理解する。

## 授業計画

- 第1回：空想小説1 西洋案内書と小説  
 第2回：空想小説2 ジュール・ヴェルヌの翻訳  
 第3回：空想小説3 都市描写の文体形成  
 第4回：政治小説1 空想小説と政治小説の連関  
 第5回：政治小説2 「未来記」ものの政治的役割  
 第6回：政治小説3 矢野龍溪の小説と植民地問題  
 第7回：諷刺小説1 福地桜痴の諸作  
 第8回：諷刺小説2 江戸戯作との関連  
 第9回：諷刺小説3 言葉のリアリズムとしての諷刺文学  
 第10回：社会小説1 「暗黒面」の発見  
 第11回：社会小説2 ルポルタージュの文章  
 第12回：社会小説3 大逆事件と歴史叙述  
 第13回：江戸趣味1 「異国」としての江戸  
 第14回：江戸趣味2 江戸の「暗黒面」へのまなざし  
 第15回：江戸趣味3 歴史小説への転回

定期試験

## 授業外学習 (予習・復習)

予習：指定されたテキストは、必ず読んでくること。復習：授業で紹介した参考文献に目を通し、自分なりに考えをまとめること。

## 教科書

講義時に適宜配布する。

## 参考書

## 成績の評価基準

授業の提出物40%、試験60%。

## オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
地理学演習 A 1			
英語名			
Geography A1b			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小林善仁		099 285 7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>地域には、自然・人文の諸現象が存在し、地理学はそれらの分析を通じて地域の仕組みや特性を考える学問である。この授業では、人文地理学で取り扱う資料（地図・統計・名鑑）を用いて、地域の地理学的分析視角を解説すると共に、地図・統計類を用いて身近な地域を実際に分析することにより、地域の特性と地域に内在する諸問題の存在を明らかにする。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域に関する地理学的資料について理解し、取り扱うことができる。</li> <li>・ 地域に対する地理学の分析方法を理解することができる。</li> <li>・ 地域の諸問題に関する文献を収集し、整理することができる。</li> <li>・ 地域の地理的特性と地域に内在する諸問題を理解し、説明することができる。</li> </ul>			
授業計画			
<p>遠隔形式（リアルタイム型）で行う予定であるが、状況によって対面形式に変更する可能性がある。その際は、manabaのコースニュースと授業内で通知する。</p>			
第1回	ガイダンス	【リアルタイム型】	
第2回	地理学の諸分野	【リアルタイム型】	
第3回	地理学の文献収集・整理1（人口）	【リアルタイム型】	
第4回	地理学の文献収集・整理2（集落）	【リアルタイム型】	
第5回	地理学の文献収集・整理3（産業）	【リアルタイム型】	
第6回	地理学の文献収集・整理4（観光）	【リアルタイム型】	
第7回	地理学の文献講読・発表1（人口）	【リアルタイム型】	
第8回	地理学の文献講読・発表2（集落）	【リアルタイム型】	
第9回	地理学の文献講読・発表3（産業）	【リアルタイム型】	
第10回	地理学の文献講読・発表4（観光）	【リアルタイム型】	
第11回	地域の地理学的分析1（人口）	【リアルタイム型】	
第12回	地域の地理学的分析2（集落）	【リアルタイム型】	
第13回	地域の地理学的分析3（産業）	【リアルタイム型】	
第14回	地域の地理学的分析4（観光）	【リアルタイム型】	
第15回	フィールドワーク	【対面型】	
授業外学習（予習・復習）			
興味を持った事柄は図書・インターネットなどで調べてみて下さい。			
教科書			
プリントを配布。			
参考書			
講義の中で適宜紹介する。			
成績の評価基準			
複数回の発表（80%）			
各回の取り組み態度（20%）			

オフィスアワ -

講義・会議の時間以外ならいつでも可。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

ゼミ所属学生 (2・3年生対象: 仮ゼミ所属生を含む) に限る。「地理学実習」と関連しているため、受講者は「地理学実習」をあわせて履修すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DFH2532			
科目名			
報道論演習1 (旧 マスコミ論演習)			
英語名			
Journalism Studies 1			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
宮下正昭		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
マスコミ報道の大きな分野である事件事故報道について、さまざまな角度から考える。被疑者の人権、被害者の人権は？ そもそも事件事故報道は社会にとって必要なのか。あなたも裁判員に選ばれる可能性があるなか、社会人としての基本的態度を培いたい。日々のニュースも参考にしながら授業を進める。			
学修目標			
事件報道のありようから社会のありように、より関心を持ってもらう。 ネット社会の下、新聞、テレビという旧来のメディアの存在意義を考えてもらう。			
授業計画			
第1回	逮捕って何？	刑事訴訟法と報道の現状	
第2回	被害者の実名・匿名1	プライバシーと事実の報道	
第3回	被害者の実名・匿名2	メディアスクラム	
第4回	被疑者の実名・匿名1	事実の報道と社会的制裁	
第5回	被疑者の実名・匿名2	事実の報道とえん罪	
第6回	別件逮捕の危険性	警察追従の記者たち	
第7回	性犯罪とえん罪	便利な条例の落とし穴	
第8回	えん罪事件の罪深さ	「供述」情報に乗った責任	
第9回	死刑制度の重さ	世論とどう向き合う	
第10回	国策捜査と報道	国家の思惑と事実	
第11回	調査報道の意義	記者のしたかさと社の覚悟	
第12回	内部告発の重さ	告発者と取材記者の関係	
第13回	災害と報道	問われる記者の覚悟と配慮	
第14回	記者クラブのありよう	日本独自システムの功罪	
授業外学習 (予習・復習)			
事件を報じる新聞、テレビ、ネットニュースにできるだけ目を通す。報じられる中身の背景、メディアの特性にも注意をめぐらす。			
教科書			
なし			
参考書			
共同通信社発行『記者ハンドブック』、日本新聞協会発行『実名と報道』、宮下正昭著『予断』(筑摩書房)、 マーティン・ファクラー著『「放蕩のこと」を伝えない日本の新聞』(双葉新書)、高田昌幸ほか編『権力vs調査報道』(旬報社)、加藤久晴著『原発テレビの荒野』(大月書店)、清水潔著『殺人犯はそこにいる』(新潮社)			
成績の評価基準			
授業での感想レポートと期末レポートの結果から総合的に判断する			
オフィスアワー			
金曜午後 ただし事前に連絡を			
アクティブ・ラーニング			

ディベート; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

オンラインでの受講上、支障がある場合は連絡ください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DFH2532			
科目名			
報道論演習1(旧 マスコミ論演習)			
英語名			
Journalism Studies 1			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
宮下正昭		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>人々の暮らしをより豊かに幸せにする、その一翼を報道機関も担っている。しかし、対外的な問題では国籍ジャーナリズムに陥り、国民の暮らしにとっては最悪の事態、戦争へと導きかねない危険性もはらんでいる。社会を戦争へ駆り立てた戦前、戦中の報道を振り返りながら、現在の日々の出来事、ニュースからその問題点を検証、社会のありようを考える。</p> <p>随時、ドキュメンタリー番組なども活用し、議論を深めたい</p>			
学修目標			
<p>マスコミ、報道機関は社会にとって必要か。過去の歴史や他国の例も交えて考える。歴史を検証しながら、日々のニュースを検証し、報道の在り方を学ぶ。ネット世論の動向も注視し、旧来のメディアとともにリテラシーを育む。</p>			
授業計画			
第1回	戦争とメディア1	日中戦争と鼓舞する新聞	
第2回	戦争とメディア2	太平洋戦争と大本営報道	
第3回	戦争とメディア3	最初の犠牲者は真実	
第4回	領土問題報道	尖閣、竹島、北方領土問題と暮らし	
第5回	慰安婦報道	彼我の違い 複合的視野をもつには	
第6回	北朝鮮報道1	「拉致被害者を返せ」の熱風	
第7回	北朝鮮報道2	国家に囚われるメディア	
第8回	在日米軍報道	沖縄メディアと中央メディア	
第9回	在日米軍報道	沖縄とニッポン	
第10回	皇室報道1	天皇制と日本	
第11回	皇室報道2	タブーとメディア	
第12回	ネット右翼	その吸引力と既存メディア	
第13回	希望は戦争?	閉塞感とメディアの役割	
第14回	戦争を報じる1	問われるスタンス	
第15回	戦争を報じる	プロパガンダの怖さ	
授業外学習(予習・復習)			
日々のニュースをできるだけチェックを。ネットだけでなく新聞、テレビという旧来のメディアからも情報を			
教科書			
特に指定しない。興味があれば、以下の参考書を購読すること。授業に必要な資料はコピーして配布する。			
参考書			
『そして、メディアは日本を戦争に導いた』半藤一利・保阪正康著(東洋経済新報社)			
『ネットと愛国』安田浩一著(講談社) 『聖堂の日の丸』宮下正昭著(南方新社)			
『「本当のこと」を伝えない日本の新聞』マーティン・ファクラー(双葉新書)			
『報道の自己規制』上出義樹著(リベルタ出版)			
成績の評価基準			
授業での感想レポートなどと期末試験で総合的に判断する			

オフィスアワ -

金曜午後 事前に連絡を

アクティブ・ラーニング

ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

授業中にドキュメンタリー番組などを上映することから対面授業を基本とする。  
 そのため受講生は30人前後に限定する。  
 マスク着用のうえ受講すること。教室は空調のうえ、窓を開放するなどコロナ対策をとる。  
 状況によっては遠隔授業に切り替える。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学研究D (旧 比較考古学)			
英語名			
Archaeology D			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹中正巳		099-254-9191	takenaka@jkajyo.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
遺跡から出土した古人骨を丹念に調べることによって、そこから過去に暮らした人々の人物像や生業、社会、文化、習慣など生活のスタイル全般に関わる情報を解読して行く「骨考古学」的アプローチに関する基本的知識の修得を目標とする。			
学修目標			
まず、古人骨から情報を得るために必要な人骨や歯に関する解剖学的知識を講義する。そして、現在この日本列島に住む「日本人」はどのような歴史を経て形成されたのか。いわゆる「日本人の起源」について、旧石器時代人や縄文人、あるいは縄文人から弥生人への移行問題、古墳時代人、中近世人の身体特徴や生活誌など、いまでも多くの謎を秘めた日本人の形成史を考えていく。特に、骨考古学からみた南九州や琉球列島の人々の成り立ちに関する最新の研究成果についても紹介していく。			
授業計画			
遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
(1)骨考古学とはなにか、骨考古学から何がわかるか【リアルタイム型】			
(2)~(5)古人骨を読み解くために必要な人骨や歯に関する解剖学的知識【リアルタイム型】			
(6)発掘現場での古人骨の調査方法【リアルタイム型】			
(7)日本人の起源とは？日本人起源論争を振り返りながら【リアルタイム型】			
(8)日本列島の旧石器時代人骨【リアルタイム型】			
(9)日本列島の縄文時代人骨【リアルタイム型】			
(10)日本列島の弥生時代人骨と渡来人問題【リアルタイム型】			
(11)日本列島の古墳時代人骨【リアルタイム型】			
(12)日本列島の古代人骨【リアルタイム型】			
(13)日本列島の中世人骨【リアルタイム型】			
(14)日本列島の近世人骨【リアルタイム型】			
(15)南九州や琉球列島の人々の成り立ちに関する最新の調査研究の成果【リアルタイム型】			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中に適宜指示する。			
教科書			
なし			
参考書			
授業中に適宜指示する。			
成績の評価基準			
期末試験			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
日本歴史・文化研究C(旧 日本文化史)			
英語名			
Japanese History & Culture C			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
松尾千歳			
		連絡先 (MAIL)	
		chitoshi.matsu@shimadzu-ltd.jp shimadzuはdを入れ忘れないように	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>鹿児島県内外にある文化財を通じて、近世日本文化・技術の歴史・特色を論じる。 特に、薩摩の文化が異国情緒にあふれていたこと、19世紀、通商を求める西欧列強の外圧にさらされ、他地域より早く近代化に踏み切ったこと、そしてそれが世界的にみると、非常に特異な手法であったことなどを重点的に講義する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 鹿児島の歴史・文化に関する知識を身につけることによって、アイデンティティを確立させる</li> <li>2 文化財を通じて鹿児島、さらに日本文化史・技術史の特色を知ることができる</li> <li>3 文化財の活用等について考察することができる</li> </ol>			
授業計画			
第1回	ガイダンス 何のために歴史文化を学ぶのか	鹿児島の歴史・文化の特色(課題提出型)	
第2回	古地図の中の日本・鹿児島	(課題提出型)	
第3回	島津家久上京日記	(課題提出型)	
第4回	姓と名が語る薩摩の歴史	(課題提出型)	
第5回	鶴丸城 南九州型城郭	(課題提出型)	
第6回	城下町鹿児島 安政城下図	(課題提出型)	
第7回	徳川と島津	(課題提出型)	
第8回	薩摩の食文化 異国情緒あふれる食文化	(課題提出型)	
第9回	焼酎が語る薩摩の歴史	(課題提出型)	
第10回	黒船来航	(課題提出型)	
第11回	薩州見取り絵図 薩摩藩の近代化事業	(課題提出型)	
第12回	後期集成館	(課題提出型)	
第13回	順聖院様御深志 1 幕末の薩摩	(課題提出型)	
第14回	順聖院様御深志 2 薩摩にとって明治維新とは	(課題提出型)	
第15回	明治日本の産業革命遺産	(課題提出型)	
<p>状況により変更する場合もある。また通常の対面授業が可能となった場合には対面講義とする。</p>			
授業外学習(予習・復習)			
教科書			
特になし。随時プリントを配付する。			
参考書			
原口泉ほか『鹿児島県の歴史』(山川出版社 1999年) 尚古集成館編『島津斉彬の挑戦』(春苑堂文庫、2002年) 松尾千歳『西郷隆盛と薩摩』(吉川弘文館、2014年) 同 『島津斉彬』(戎光祥出版、			

2017年)

成績の評価基準

講義終了後提出の感想文および期末レポートで総合的に評価する。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
英語学演習 1 (旧 英語学演習)			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
末松信子		099-285-7572	suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>David Crystal, English as a global Language (Cambridge University Press, 1997) からの抜粋を読み、英語の読解力をつけるとともに、英語が「地球語」になるに至った経緯を考察する。</p> <p>予め担当者を割り振る。担当者は、ポイントとなる単語・熟語、文法、本文の内容、補足説明をまとめ、レジメを作成する。授業では担当者によるプレゼンテーションの後、教員による補足説明を行い、理解を深めていく。</p> <p>。毎回、授業内容に関するコメントの提出を求める。</p>			
学修目標			
<p>(1) 英文を正確に読み、その内容を理解することができる。</p> <p>(2) 英語を「地球語」にさせたものはなにか、英語が「地球語」としての最有力候補であるのはなぜか、英語は今後も「地球語」としての地位を保ち続けるか、といった問いに対して、自らの考えを述べることができる。</p>			
授業計画			
<p>第1回： オリエンテーション (課題提出型)</p> <p>第2回： Why a global language?: Why English? (課題提出型)</p> <p>第3回： Why a global language?: global status (課題提出型)</p> <p>第4回： What is a global language? (リアルタイム型)</p> <p>第5回： one chief reason to become an international language (リアルタイム型)</p> <p>第6回： Why do we need a global language? (リアルタイム型)</p> <p>第7回： What are the dangers of a global language? (リアルタイム型)</p> <p>第8回： Linguistic complacency (リアルタイム型)</p> <p>第9回： Linguistic death (リアルタイム型)</p> <p>第10回： Could anything stop a global language? (リアルタイム型)</p> <p>第11回： A critical era (リアルタイム型)</p> <p>第12回： Why English?: the cultural foundation (リアルタイム型)</p> <p>第13回： What was the worth of the English language during the 19th century? (リアルタイム型)</p> <p>第14回： Political developments (リアルタイム型)</p> <p>第15回： Access to knowledge (リアルタイム型)</p>			
* 今後の状況次第で授業回数や内容、授業方法は変更となる可能性がある。			
授業外学習 (予習・復習)			
予習： 指定された範囲をあらかじめ読んで予習しておくこと。			
復習： 配布されたプリント、辞書、参考書などを参照して復習しておくこと。			
教科書			
『地球語としての英語 - English as a Global Language』 (松柏社, 2001)			
参考書			
必要に応じて適宜指示する。			
成績の評価基準			

発表の準備・内容、プレゼンテーション (15%)

毎回のコメント・課題 (45%)

期末レポート (40%)

オフィスアワ -

水曜日 : 10:30 ~ 12:00

木曜日 : 10:30 ~ 12:00

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DEH2411

## 科目名

心理学研究法

## 英語名

Research Methods in Psychology

## 開講学科

## コース

人文学科

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・心理学コース / 必修  
科目

講義

2単位

2～4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

横山春彦

099 - 285 - 7535 (内線7535)

yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

なし

前期

## 授業概要

心理学研究の基礎に関してオンデマンド型の遠隔授業を行う。受講生はMS-Streamで動画を視聴後、manabaを用いて疑問や質問などのショートレポートを投稿。そうした形で授業は双方向的に進める。15回のうち前半7回は要因（独立変数、従属変数、剰余変数）及び統計処理（統計的仮説の検定）など、研究の基礎的事項について取り扱い、第8回以降は具体的なテーマに関する研究を1つずつ取り上げ理解を深めることが求められる。

## 学修目標

以下の3点を目標とする。

1. 特定の心理学研究に関し、従属変数、独立変数が適切に把握・説明できる。
2. 実験などデータの収集時に適切な剰余変数の統制ができる。
3. 得られたデータについて適切な統計処理ができ、その結果が説明できる。

## 授業計画

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

- 第1回 要因（従属変数、独立変数、剰余変数）、身近な動植物、のらねこ研究（オンデマンド型）  
 第2回 従属変数（比例尺度、順序尺度、名義尺度）、身近な動植物、のらねこ研究（オンデマンド型）  
 第3回 独立変数（被験者間・被験者内要因、水準）、身近な動植物、のらねこ研究（オンデマンド型）  
 第4回 1要因の影響（主効果、有意水準、帰無仮説）、身近な動植物、のらねこ研究（オンデマンド型）  
 第5回 2要因の影響（1次交互作用）、身近な動植物、のらねこ研究（オンデマンド型）  
 第6回 3要因の影響（2次の交互作用）、身近な動植物、のらねこ研究（オンデマンド型）  
 第7回 統計処理の意味の再確認（分散分析）、身近な動植物、のらねこ研究（オンデマンド型）  
 第8回 重さの弁別（重量弁別、精神物理学的測定法）、身近な動植物、のらねこ研究（オンデマンド型）  
 第9回 種々の研究法、身近な動植物、のらねこ研究（オンデマンド型）  
 第10回 学習実験（鏡映描写、学習曲線、回帰分析）、身近な動植物、のらねこ研究（オンデマンド型）  
 第11回 イメージ実験（心的回転、直線・曲線回帰）、身近な動植物、のらねこ研究（オンデマンド型）  
 第12回 記憶走査実験（記憶走査）、身近な動植物、のらねこ研究（オンデマンド型）  
 第13回 幾何学的錯視実験（観察距離、視角、輝度）、身近な動植物、のらねこ研究（オンデマンド型）  
 第14回 認知実験（ストループ効果）、身近な動植物、のらねこ研究（オンデマンド型）  
 第15回 皮膚感覚実験（2点閾）、身近な動植物、のらねこ研究（オンデマンド型）  
 第16回 期末試験

## 授業外学習（予習・復習）

毎回疑問等に思ったことは積極的にmanabaに投稿し担当教員からの教示を得るようにすること。また関連する情報など気になることは自ら積極的に探索することが課題である。

## 教科書

指定しない。

## 参考書

manabaで適宜紹介。

## 成績の評価基準

ショートレポート(20%)、課題等への取り組み状況(20%)、期末試験の成績(60%)績等により評価する。

## オフィスアワ -

manabaを用いて随時受けつける

## アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

## 備考(受講要件)

なし

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

消費者心理学（旧 産業・組織心理学）

## 英語名

Consumer Psychology

## 開講学科

## コース

人文学科

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・心理学コース / 選択  
科目

講義

2単位

2～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

山崎真理子

yamasaki@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

私たちにとって日常的な消費者行動について、（社会）心理学の観点から考える。

まずは座学を中心に、基本的な知識を身につける。

一部の回ではペア・グループ単位でのワークを通じて、体験的に理解を深めることを目指す。

## 学修目標

- ・ 学生が、購買・消費に関わる行動に関連深い、心理学の基礎知識について理解することを目指す。
- ・ 専門的な観点から消費者心理について考え、実践に活かす方法を考える姿勢を身につけることを目指す。
- ・ さらに授業中課題のなかで、受講者が学びの成果を社会に伝えられるように、表現力を高めることを目指す。

## 授業計画

遠隔形式で講義を進めます。

それに伴い、例年は教室での期末試験を実施していますが、今年度は不採用。別に課題を出します。

またマナバ等を通じて、学生間で意見交換ができる場を設けることも検討中です。

担当者と連絡が取りたい場合、メールで問い合わせして下さい。

今年度は特に、相談したいこと、確認したいこと、不安があれば遠慮せずどうぞ。

後期は、一部の学生が遠隔講義と対面講義の両方を履修する可能性あり。

様々な受講スタイルの学生を想定し、「一部の学生に不利益が生じる」ことのないよう対応します。

- 第 1 回...オリエンテーション・（社会）心理学とは
- 第 2 回...社会心理学の観点からみた消費者行動
- 第 3 回...消費者の価値志向（1）ブランド選択
- 第 4 回...消費者の価値志向（2）マーケット・セグメンテーション
- 第 5 回...消費者の個人内過程（1）購買の計画性
- 第 6 回...消費者の個人内過程（2）価格判断の過程
- 第 7 回...消費者間の個人間仮定：口コミの効果
- 第 8 回...消費者と企業のコミュニケーション（1）比較広告
- 第 9 回...消費者と企業のコミュニケーション（2）悪徳商法
- 第10回...地域性と接客サービス（グループワーク）
- 第11回...心理学研究法（1）批判的思考とは
- 第12回...心理学研究法（2）質問紙調査法を中心に（グループワーク）
- 第13回...飲料のブラインド実験
- 第14回...飲料のブランド効果
- 第15回...総括

## 授業外学習（予習・復習）

- ・ 予習：消費者心理に関わる社会の実情について適宜、情報収集。
- ・ 復習：講義内容の見直しの他、さらに参考書などを通じて理解を深める。

## 教科書

特に指定しない

## 参考書

講義中に適宜紹介

## 成績の評価基準

- ・日々の小課題... 50%
- ・学期末課題..... 50%（期末試験の代わり）

## オフィスアワ -

水曜2限

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

一部、ペア・グループ単位での活動（模擬体験、模擬実験など）を導入予定。ただし、受講者数に応じて調整。

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

全15回中3回

## 備考（受講要件）

受講要件は特に設けない。

なお、感染症の状況次第では授業計画を一部変更することがあります。  
その点、ご了承下さい。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
CHX2414			
科目名			
人体の構造と機能及び疾病			
英語名			
Human Body Structure, Function and Diseases			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
米田孝一		内線7663	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		yonedat@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
機能別の臓器解剖学、疾病を学ぶ。心理的支援が必要になる疾患を中心に理解する。			
学修目標			
1. 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害について概説できる。			
2. がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について概説できる。			
授業計画			
1. 新型コロナウイルス (授業形態: PDF資料参照と課題提出)			
2. 感染症・免疫 (授業形態: PDF資料参照と課題提出)			
3. 全身の構造 (授業形態: PDF資料参照と課題提出)			
4. 呼吸器 (授業形態: PDF資料参照と課題提出、オンデマンド併用)			
5. 循環器 (授業形態: PDF資料参照と課題提出、オンデマンド併用)			
6. 脳 (授業形態: PDF資料参照と課題提出、オンデマンド併用)			
7. 中枢神経と末梢神経 (授業形態: PDF資料参照と課題提出、オンデマンド併用)			
8. 感覚器 (授業形態: PDF資料参照と課題提出、オンデマンド併用)			
9. 運動器 (授業形態: PDF資料参照と課題提出、オンデマンド併用)			
10. 消化管 (授業形態: PDF資料参照と課題提出、オンデマンド併用)			
11. 肝・胆・膵 (授業形態: PDF資料参照と課題提出、オンデマンド併用)			
12. 内分泌・代謝 (授業形態: PDF資料参照と課題提出、オンデマンド併用)			
13. 腎臓・泌尿器・生殖器 (授業形態: PDF資料参照と課題提出、オンデマンド併用)			
14. 血液 (授業形態: PDF資料参照と課題提出、オンデマンド併用)			
15. 食中毒、熱中症 (授業形態: PDF資料参照と課題提出、オンデマンド併用)			
<p>今後の新型コロナウイルス感染状況次第で授業の回数、内容、形式は変更となる可能性があります。</p> <p>本授業は生中継ではありませんので、各自が本科目のmanabaを確認し、各自のペースで都合の良い時間帯にその内容を勉強してください。各回の資料は毎週(祝日は除く)火曜日9時に掲載します。</p> <p>WiFi/internet環境が整っていない学生が多数いることも考慮し、基本的にはPDF資料をダウンロードして、それを見れば理解出来るようにします。</p> <p>WiFi/internet環境が整った時には、オンデマンド方式(動画配信)併用も考慮します。</p>			
授業外学習(予習・復習)			
学習した単元の解剖、生理、疾患について自分なりにまとめておくと理解が深まります。ずい出来るようになることが理解の近道です。			
教科書			
特に指定しない。			
参考書			
授業内で紹介します。			
成績の評価基準			
新型コロナウイルス感染対策措置として遠隔授業とし、期末試験は行いません。毎回の出席登録、課題・レポートが評価対象となりますので、必ず出席登録と課題・レポートを提出してください。			

オフィスアワ -

今年度は新型コロナウイルス感染対策として、対面的相談は中止します。質問等はメールでお問い合わせください。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

担当教員が医師（心療内科専門医）として診療に従事している経験を活かし、臓器別に解剖、機能、疾患について学生は学ぶ。身体のみならず、心と身体の関係、ストレスによる身体疾患、闘病に伴う心理的・精神的变化などについても経験例を交えながら授業を進める。心理学を専攻する者が臨床現場に出るときに最低限必要な知識を持つこと、他専攻の学生にとっては医学一般の基礎を理解できるようになることが目標である。

ナンバリングコード			
FHS-DEH3404			
科目名			
コミュニティ援助論（福祉心理学）			
英語名			
Community Psychology			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
平田祐太郎		099-285-7540	hirata@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>現代社会の様々なコミュニティについて、援助論の観点より講義を行う。現代社会は、情報化、国際化、少子高齢化等が進展する中で、これまでのコミュニティのあり方も急速に変化を迫られている。現代社会の課題を特に児童福祉に焦点をあて、学生個々が考え、授業において明らかにすると共に、援助の視点やアプローチについて学ぶ。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉現場において生じる問題及びその背景、心理社会的課題及び必要な支援に関する知識の習得を目指す。</li> <li>・児童虐待についての基本的知識の習得を目指す。</li> <li>・コミュニティ援助の特質および考え方を修得することを目指す。</li> <li>・過去の先行研究から最新のコミュニティ援助技法、福祉心理学に関する知識・視点をもつことができる。</li> </ul>			
授業計画			
<p>遠隔形式で行う予定であるが、各回の実施方法や順序は変更される可能性もある。変更が生じる際は、あらかじめmanabaや授業内にて通知する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業概要の説明）（オンデマンド型）</p> <p>第2回：コミュニティ援助の視点と方法論（定義、歴史、特徴、意義と課題）（オンデマンド型）</p> <p>第3回：子育て支援とコミュニティ援助?（オンデマンド型）</p> <p>第4回：子育て支援とコミュニティ援助?（オンデマンド型）</p> <p>第5回：虐待の理解と対応?（オンデマンド型）</p> <p>第6回：虐待の理解と対応?（オンデマンド型）</p> <p>第7回：社会的養護の実際（オンデマンド型）</p> <p>第8回：コミュニティ援助としての危機介入の視点と技法（オンデマンド型）</p> <p>第9回：心理教育等を用いた予防的アプローチ（オンデマンド型）</p> <p>第10回：訪問援助型の支援（オンデマンド型）</p> <p>第11回：不登校児童・生徒に対する支援（オンデマンド型）</p> <p>第12回：ネットワーキングを用いた支援の展開（連携・協働を用いた援助）（オンデマンド型）</p> <p>第13回：質的研究を用いたコミュニティ援助の評価（オンデマンド型）</p> <p>第14回：コミュニティ援助の討論と総括（オンデマンド型）</p> <p>第15回：総括（課題提出型）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：必要に応じて教科書の当該部分を事前に予習しておくこと</p>			
教科書			
<p>毎回資料を配布する。</p>			
参考書			
<p>コミュニティ・アプローチ 臨床心理学を学ぶ5 高島克子 東京大学出版                  福祉心理学 人の成長を辿って 中山哲志・稲谷ふみ枝・深谷昌志 ナカニシヤ出版</p>			

コミュニティ心理学 山本和郎 東京大学出版

成績の評価基準

各レポート課題40%、最終レポートの成績60%から総合的に評価を行う。

オフィスアワ -

火曜日4限 研究室

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH3403			
科目名			
産業・組織心理学			
英語名			
Industrial & Organizational Psychology			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
榊原良太		sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		前後期	
		前期	
授業概要			
本講義では、産業・組織心理学に関する知識、知見に基づき、現在の産業・組織をめぐるさまざまな事柄・問題について考えていく。また、産業・組織に関するより良い実践を考案し、その有効性についての議論を行う。			
学修目標			
(1)産業・組織心理学に関する基礎的な知識を習得する。 (2)習得した基礎的な知識をもとに、現在の産業・組織をめぐる様々な問題を指摘できる。 (3)産業・組織心理学の知識・知見に基づいた、よりよい実践を考案できる。 (4)常に「いずれ自身が社会に出ること」を意識しながら講義に臨む。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション (オンデマンド) 第2回：ワーク・モチベーション (オンデマンド) 第3回：ストレスとメンタルヘルス(1)(ストレス理論と対処) (オンデマンド) 第4回：ストレスとメンタルヘルス(2)(精神疾患とその予防、治療) (オンデマンド) 第5回：キャリア発達とその支援 (オンデマンド) 第6回：面接と採用 (オンデマンド) 第7回：人事評価 (オンデマンド) 第8回：チームワーク (オンデマンド) 第9回：リーダーシップ (オンデマンド) 第10回：組織の中の感情とその役割 (オンデマンド) 第11回：ヒューマンエラーと安全対策 (オンデマンド) 第12回：人間工学 (オンデマンド) 第13回：お金に関する心理・行動 (オンデマンド) 第14回：広告 (オンデマンド) 第15回：まとめ (オンデマンド)			
授業外学習 (予習・復習)			
授業後に復習をし、知識を確かなものとする。			
教科書			
指定しない。			
参考書			
産業・組織心理学 (山口裕幸ほか著、有斐閣アルマ、2006年)			
成績の評価基準			
毎回の授業に対するコメント、小テスト、レポート課題の点数により評価を行う。詳細な評価方法はオリエンテーションの際に伝える。			
オフィスアワ -			
火曜2限、事前にメールにて連絡すること。			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ポピュラーカルチャー論演習2 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)  
ナンバリングコード

科目名

ポピュラーカルチャー論演習2 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)

英語名

Popular Culture 2

開講学科

コース

人文学科

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

太田純貴

099-285-7576

yota@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

【前期のポピュラーカルチャー論演習2と合わせて】

ゼミ生のみ受講可。卒論執筆を見据えた演習で、ゼミ生の発表により授業を進める。文章と視覚資料の両方を準備・配布したうえでの、口頭によるプレゼンテーションが基本となる。ゼミ生は自身の興味関心に従って資料を収集し自身の意見を体系化し、自身の主張を述べることが求められる。

学修目標

1. 卒業論文執筆に関わる、形式の重要性を理解し修得できるようにする
2. オーラルと文章両方のレベルで、自身の主張を明確にできるようにする。
3. 自らの主張を他者へと明確に伝達できるようになる。
4. 卒論に必要な資料に目配りができるようになる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス (リアルタイム型)  
 第2回 学生による発表 (1) (リアルタイム型)  
 第3回 学生による発表 (2) (リアルタイム型)  
 第4回 学生による発表 (3) (リアルタイム型)  
 第5回 学生による発表 (4) (リアルタイム型)  
 第6回 学生による発表 (5) (リアルタイム型)  
 第7回 中間総括 (リアルタイム型)  
 第8回 学生による発表 (7) (リアルタイム型)  
 第9回 学生による発表 (8) (リアルタイム型)  
 第10回 学生による発表 (9) (リアルタイム型)  
 第11回 学生による発表 (10) (リアルタイム型)  
 第12回 学生による発表 (11) (リアルタイム型)  
 第13回 学生による発表 (12) (リアルタイム型)  
 第14回 学生による発表 (13) (リアルタイム型)  
 第15回 学生による発表 (14) (リアルタイム型)

備考：進行状況次第で、リアルタイム型は課題提出型等に変更される可能性がある。

授業外学習 (予習・復習)

自身の卒業論文に必要な資料を継続的に収集し、整理しておくこと。また、自身の主張したい意見や論点について簡潔に述べるができるように、考えを巡らせておくこと。

教科書

授業中に指示する。

参考書

授業中に指示する。

成績の評価基準

ポピュラーカルチャー論演習2 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)

出席、プレゼンテーション資料の作成など、複数の観点から総合的に評価を行う。

オフィスアワ -

追って指示する (ガイダンス時に指示する予定)

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

1. 太田純ゼミに所属する学生のみ受講可。
2. 発表の順番は、受講生との協議の上で決定する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

学校心理学（教育・学校心理学）（旧 学習心理学）

英語名

School Psychology

開講学科

コース

人文学科

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択  
科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

森藤悦子

099-285-7774

morifuji@edu.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

学校現場における生徒指導，進路指導，教育相談について，基本的な内容について解説する。受講者には調べ学習と講義の振り返りを通して、教育現場において生じる問題及びその背景、対応について理解し、教育現場における支援の在り方について考察することを求める。

学修目標

授業の到達目標及びテーマ

1. 学校教育における生徒指導、進路指導、教育相談について理解する。
2. 児童・生徒の発達段階における心理的危機や行動問題及びその背景について理解を深める。
3. 教育現場における心理社会的課題と必要な支援について理解を深める。

授業計画

第1回：オリエンテーション

第2回：学校に求められる臨床的視点(1)：生徒指導と教育相談（課題提出型）

第3回：学校に求められる臨床的視点(2)：教師とスクールカウンセリング  
（課題提出型）

第4回：学校に求められる臨床的視点(3)：キャリア教育と進路相談（課題提出型）

第5回：学校に求められる臨床的視点(4)：子どもの発達1（課題提出型）

第6回：学校に求められる臨床的視点(5)：子どもの発達2（課題提出型）

第7回：教育現場において生じる問題とその背景(1)：学校臨床におけるアセスメント  
（課題提出型）

第8回：教育現場において生じる問題とその背景(2)：問題行動のとりえ方  
（課題提出型）

第9回：教育現場において生じる問題とその背景(3)：学習に関する問題（課題提出型）第10回：教育現場において生じる問題とその背景(4)：発達障害

（遠隔リアルタイム配信）

第11回：教育現場における心理社会的課題と必要な支援(1)：不登校  
（遠隔リアルタイム配信）

第12回：教育現場における心理社会的課題と必要な支援(2)：いじめ1  
（遠隔リアルタイム配信）

第13回：教育現場における心理社会的課題と必要な支援(3)：いじめ2  
（遠隔リアルタイム配信）

第14回：教育現場における心理社会的課題と必要な支援(4)：教師への支援とこれまでの学習に対する振り返りとまとめ（課題提出型）

第15回：教育現場における心理社会的課題と必要な支援(5)：学校心理学の活かし方  
（課題提出型）

授業外学習（予習・復習）

適宜，予習・復習を提示しますので，積極的に取り組んでください。

教科書

参考書

文部科学省 生徒指導提要，2010年

成績の評価基準

出席確認のため課題、振り返り、レポート50%、

課題テスト50%

出席（指定された期間内に授業レポートを提出）が10回に満たない場合，期末レポートが期限内に提出されない場合は評価の対象としない

オフィスアワ -

月曜2限（出張や会議等で不在のこともありますので，必ず事前にメール等でアポを取ってからお越しください）

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

公認心理師養成用の科目のため、心理学コースのみ。

実務経験のある教員による実践的授業

小学校、特別支援学校の勤務経験を有する教員が、生徒指導や教育相談等の教育的課題への対応等について幅広く講義を行う。

## ナンバリングコード

## 科目名

産業・組織心理学演習（旧 社会心理学演習）

## 英語名

Industrial &amp; Organizational Psychology 1

## 開講学科

## コース

人文学科

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・心理学コース / 選択  
科目

演習

2単位

3～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

榑原良太

099-285-7518

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

社会心理学の研究アプローチについて理解し、自ら研究計画を立てられるようになることを目指す。具体的には、毎週担当者が本や論文の発表をして、全体でディスカッションをする中で、「面白い研究とは何か」「どのようにしたら知りたいことがわかるのか」について理解を深める。その上で、それぞれが自らの研究アイデアを持ち寄り、議論する中でアイデアを洗練させていく。

## 学修目標

社会心理学の諸理論と研究手法について、研究論文を講読する中で理解できるようになることを目指す。そして、自ら問題を発見し、それを探求していく方法論や思考法を身につけることを目標とする。

## 授業計画

遠隔形式での実施を予定しているが、授業形式や内容は変更される可能性がある。変更が生じる場合、事前にmanabaにて通知する。

- 第1回 オリエンテーション【リアルタイム型】
- 第2回：日本語論文発表1：感情の基礎【リアルタイム型】
- 第3回：日本語論文発表2：感情と認知【リアルタイム型】
- 第4回：日本語論文発表3：感情と行動【リアルタイム型】
- 第5回：日本語論文発表4：感情と精神的健康【リアルタイム型】
- 第6回：日本語論文発表5：感情と進化【リアルタイム型】
- 第7回：日本語論文発表6：感情と文化【リアルタイム型】
- 第8回：日本語論文発表7：感情知性【リアルタイム型】
- 第9回：日本語論文発表8：感情と脳【リアルタイム型】
- 第10回：英語論文発表1【リアルタイム型】
- 第11回：英語論文発表2【リアルタイム型】
- 第12回：英語論文発表3【リアルタイム型】
- 第13回：英語論文発表4【リアルタイム型】
- 第14回：英語論文発表5【リアルタイム型】
- 第15回 まとめ【リアルタイム型】

## 授業外学習（予習・復習）

予習：発表の準備

復習：議論の中で提示された問題点について再考

## 教科書

## 参考書

## 成績の評価基準

授業への参加、発言、発表を総合的に見て評価する。

## オフィスアワ -

火曜 5 限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
コミュニティ心理支援実習（心理実習）			
英語名			
Exercises in Psychological Support in the Community			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	実習	1単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
米田 孝一・安部 幸志・飯田 昌子・平田 祐太郎・富原 一哉		099-285-7663（米田）	yonedal@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>心理職の仕事内容、および心理職が勤務する施設の概要について調べるとともに、現場での見学・体験実習を通じて、心理職の役割について理解する。具体的には心理職が働く医療現、福祉、司法、教育の領域の現場を見学して、各施設の機能や役割などについて理解を深める。これらの授業を通して、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、他職種連携および地域連携のありかたを学ぶ。</p>			
学修目標			
<p>心理職の仕事内容、および心理職が勤務する施設の概要について調べるとともに、現場での見学・体験実習を通じて、心理職の役割について理解する。具体的には心理職が働く医療、福祉、司法領域などの現場などを見学して、各施設の機能や役割などについて理解を深める。これらの授業を通して、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、他職種連携および地域連携のありかたを学ぶ。</p>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事前指導 医療、福祉、司法領域における必須知識</li> <li>2 医療領域実習 精神科について</li> <li>3 医療領域実習 心理職の業務</li> <li>4 医療領域実習 心理室見学</li> <li>5 医療領域実習 外来診療見学</li> <li>6 医療領域実習 カンファレンス・病棟回診見学</li> <li>7 医療領域実習 地域医療連携センターについて</li> <li>8 医療領域実習 高齢者医療・慢性疾患医療・難病医療について</li> <li>9 医療領域実習 リハビリテーションについて</li> <li>10 司法領域実習 司法領域施設について</li> <li>11 司法領域実習 司法領域における心理業務</li> <li>12 教育領域実習 施設見学</li> <li>13 福祉領域実習 精神保健福祉センター見学</li> <li>14 福祉領域実習 児童福祉の施設見学</li> <li>15 実習後指導 実習のまとめ</li> </ol>			
<p>新型コロナウイルス感染状況次第で回数、内容、形式は変更となる可能性があります。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
教科書			
特に指定しない			
参考書			
必要に応じて紹介			
成績の評価基準			
積極性、学習、レポート等の点数を総合的に評価する。実習の欠席、実習中の不真面目、レポート不提出などは			

単位が与えられない。

オフィスアワ -

メールでご相談ください。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

- 1) 今年度の受講は新型コロナウイルス感染対策の措置対応を要するため、「人間と文化コース」「心理学コース」所属の卒業年度生に限ります。
- 2) 実習にかかる費用は実費負担となります。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
消費者心理学演習（旧 社会心理学演習）			
英語名			
Consumer Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
山崎真理子		099-285-7631	yamasaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>&lt; 4年生 &gt; 卒業研究活動が中心。 計画の詳細を検討する際、ゼミの意見交換を通じて改善策を探る。</p> <p>&lt; 3年生 &gt; 卒業研究前の準備活動が中心。 卒業論文執筆を念頭に、心理学研究の基礎を理解する。 その際、主として消費者行動をテーマに演習を進める。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学研究を行うにあたって必要な基礎知識を身につけることを目指す。</li> <li>・関連テーマについて、国内外の専門書、あるいは調査・実験論文の読解スキル向上を目指す。</li> <li>・同時に、地域社会の現状にも目を向けて、社会のニーズ・課題を把握することを目指す。</li> </ul>			
授業計画			
注： = 科目担当者回、 受講者担当回			
<p>第 1回：自己紹介、オリエンテーション（今後の進め方について、課題説明）</p> <p>第 2回：ゼミ活動の進め方、受講者間で日程調整</p> <p>第 3回：卒論進捗報告（4年生 1 人目）</p> <p>第 4回：卒論進捗報告（4年生 2 人目）</p> <p>第 5回：卒論進捗報告（4年生 3 人目）</p> <p>第 6回：卒論進捗報告（4年生 4 人目）</p> <p>第 7回：卒論進捗報告（4年生 5 人目）</p> <p>第 8回：卒論進捗報告（4年生 6 人目）</p> <p>第 9回：心理学研究の進め方、研究倫理</p> <p>第10回：文献研究報告（3年生... 3 名）</p> <p>第11回：文献研究報告（3年生...他 3 名）</p> <p>第12回：卒論予備調査（4年生... 2 名）</p> <p>第13回：卒論予備調査（4年生...他 2 名）</p> <p>第14回：卒論予備調査（4年生...他 2 名）</p> <p>第15回：総括（必要であれば、日程調整も可）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>プレゼンやディスカッション前後では特に、各自でしっかり予習・復習を行うこと。 具体的な課題については、各授業回で適宜説明を行う。</p>			
教科書			
特に設けない			
参考書			

「心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし」 高野陽太郎・岡 隆(編) 有斐閣アルマ

成績の評価基準

授業中課題100%(期末試験0%)

講義中のプレゼン、ディスカッション、提出物などを評価対象とする。

オフィスアワ -

水曜2限

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全15回

備考(受講要件)

初回で受講者の声も聞きながら、授業計画を調整予定。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
消費者心理学演習（旧 社会心理学演習）			
英語名			
Consumer Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
山崎真理子		099-285-7631	yamasaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
卒業論文に向けて、心理学研究を実施できる能力を身につける。 その際、主として消費者行動をテーマに演習を進める。			
Cf. 他科目「心理学実験」等における学習成果をもとに、受講者自身が研究の詳細を検討する機会を設ける。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究に取り組む前に、実践的な能力を高めることを目指す。</li> <li>研究倫理の他、文献研究、計画立案、データ処理、データ解釈など一連の流れを体験的に理解することを目指す。</li> <li>次年度の卒業研究に向けて、受講者自身が研究の方向性を見出せることを目指す。</li> </ul>			
授業計画			
遠隔形式で講義を進めます。前期と同様、リアルタイム配信中心。			
注： = 科目担当者、 = 受講生			
第 1回：今後のスケジュール・研究倫理 第 2回：卒論アウトライン報告?（4年生A,B,C） 第 3回：卒論アウトライン報告?（4年生D,E,F） 第 4回：研究論文紹介?（3年生G,H） 第 5回：研究論文紹介?（3年生I,J） 第 6回：卒論データ分析報告?（4年生A,B） 第 7回：卒論データ分析報告?（4年生C,D） 第 8回：卒論データ分析報告?（4年生E,F） 第 9回：卒論読み会 第10回：卒論構想発表?（3年生G,H） 第11回：卒論構想発表?（3年生I,J） 第12回：卒論構想に対するディスカッション 第13回：卒論発表会練習?（4年生A,B,C） 第14回：卒論発表会練習?（4年生D,E,F） 第15回：研究報告			
授業外学習（予習・復習）			
翌週以降に備えて、各自でしっかり予習・復習を行うこと。 また後半回までに、各自が卒論で取り組みたいテーマの関連論文を選出し、プレゼン準備を進めておくこと。			
教科書			
特に設けない			
参考書			
講義中に紹介予定			

成績の評価基準

授業中課題100%（期末試験0%）

講義中のプレゼン、ディスカッション、提出物（特に最終レポートは重要）などを評価対象とする。

オフィスアワ -

水曜 2 限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全 15 回

備考（受講要件）

初回で受講者の声も聞きながら、授業計画を調整予定。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
臨床援助論（心理学的支援法）			
英語名			
Theories of Psychological Support			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
稲谷ふみ枝・高橋佳代・中村真樹			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本授業の目的は、心理療法の基礎を理解することである。代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を学んだ上で、訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について特に重点的に学習する。</p>			
学修目標			
<p>心理療法ならびにカウンセリングの基本的知識を身につける          心理療法の活用現場について知る          心理療法の主な技法や留意点について理解する</p>			
授業計画			
第1回	オリエンテーション（課題提出型）高橋		
第2回	心理臨床の基礎知識（課題提出型）高橋		
第3回	プライバシーへの配慮（課題提出型）稲谷		
第4回	地域支援支援と訪問支援：高齢者領域（課題提出型）稲谷		
第5回	心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援（課題提出型）稲谷		
第6回	臨床心理学のなりたちと展開/心理アセスメントの視点と方法（オンライン型）高橋		
第7回	代表的な心理療法（1）力動論に基づく理解（オンライン型）高橋		
第8回	代表的な心理療法（2）行動論・認知論に基づく理解（オンライン型）高橋		
第9回	代表的な心理療法（3）その他の心理療法の理解（オンライン型）高橋		
第10回	心理療法の諸概念（課題提出型）中村		
第11回	心理臨床の対象と領域（課題提出型）中村		
第12回	心理療法の適応と限界（課題提出型）中村		
第13回	良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法（課題提出型）中村		
第14回	心の健康教育とストレスマネジメント（課題提出型）稲谷		
第15回	まとめのレポート（課題提出型）中村		
<p>授業方法や授業内容については変更する可能性があります。受講生の皆さんにはmanaba等を通じて周知しますのでよく見ておいてください。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
心理療法に関する資料や論文を主体的に読むこと			
教科書			
使用しない			
参考書			
提案する場合には、授業内で教員から指示をする			
成績の評価基準			
提出された課題50%、各教員が指示するレポート50%で評価する。			
オフィスアワ -			

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中4回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

担当教員は3人とも、医療、福祉、教育分野等での心理臨床実務経験を持っている

障害児心理学（障害者・障害児心理学）（旧 臨床心理学）  
ナンバリングコード

科目名

障害児心理学（障害者・障害児心理学）（旧 臨床心理学）

英語名

Clinical Psychology of Handicapped Children

開講学科

コース

人文学科

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択  
科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

今村智佳子

099-285-3287

learning-support@gm.kagoshima-u.  
ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

この講義では、はじめに人があり、人を理解する上において障害特性をどう考えるかという視点で理解を深めることを目的とします。人の発達の過程において、障害特性がどのように影響するか、環境によってどのように顕在化するか等について理解を深めます。それぞれの障害の概要や特性理解に基づき心理社会的課題及び必要な支援について理解を深め、多様な社会の一員としてまた、支援者としての基礎的知識を養います。

学修目標

1. 種々の身体障害、知的障害及び精神障害の概要について理解する
2. 障害者・障害児の心理社会的課題及び支援について理解する

授業計画

- 第1回 障害の概念(課題提出型)
- 第2回 発達の視点について(課題提出型)
- 第3回 乳幼児期における障害について(課題提出型)
- 第4回 視覚障害について(課題提出型)
- 第5回 聴覚障害について(課題提出型)
- 第6回 肢体不自由について(課題提出型)
- 第7回 病弱・虚弱について(課題提出型)
- 第8回 発達障害について(課題提出型)
- 第9回 注意欠陥多動性障害について(課題提出型)
- 第10回 学習障害について(課題提出型)
- 第11回 自閉症スペクトラム障害について(課題提出型)
- 第12回 精神障害について(課題提出型)
- 第13回 障害者・障害児の支援のあり方について(課題提出型)
- 第14回 障害の受け止め及び家族支援について(課題提出型)
- 第15回 社会と障害について(課題提出型)

\* この計画は今後の状況によって授業回数や内容が変更する可能性があります。

授業外学習（予習・復習）

- 第1回 課題作成
- 第2回 課題作成
- 第3回 課題作成
- 第4回 課題作成
- 第5回 課題作成
- 第6回 課題作成
- 第7回 課題作成
- 第8回 課題作成
- 第9回 課題作成
- 第10回 課題作成

第11回	課題作成
第12回	課題作成
第13回	課題作成
第14回	課題作成
第15回	課題作成
教科書	
特に指定しない	
参考書	
授業中に適宜紹介する	
成績の評価基準	
期末試験（60％）、授業への取り組み態度（20％）、ミニッツペーパー（20％）	
オフィスアワ -	
木曜日の午後を除く、平日9時～17時。 事前にメール・電話にて連絡をいただくとスムーズです。	
アクティブ・ラーニング	
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；	
アクティブ・ラーニング（その他の内容）	
アクティブ・ラーニング（授業回数）	
備考（受講要件）	
実務経験のある教員による実践的授業	

ナンバリングコード			
FHS-DEH3407			
科目名			
認知心理学演習			
英語名			
Cognitive Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
横山春彦		099-285-7535	yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>オンラインによって開講。4年生については卒業論文の完成に必要な作業の補助を、3年生については卒業論文の計画完成を目指す。具体的には、4年生については1.実験・調査の実施、2.得られたデータの分析、3.本論及びレジュメの作成及び、4.要領を得た発表の実行の順に、各自作業を進めるよう指導。3年生についてはデザインの完成を目指す。</p>			
学修目標			
<p>授業の概要に従い、4年生については卒業論文の完成に必要な以下4点の作業、すなわち1.実験・調査の実施、2.得られたデータの分析、3.本論及びレジュメの作成、及び4.要領を得た発表の実行を計画通りに進めること、3年生についてはデザインを完成させることがそれぞれ学修目標となる。</p>			
授業計画			
<p>オンラインによって4年生3年生ともに以下のスケジュールで行う。なお、授業形態について変更する場合がありますこと、またその際の対応についてはmanaba上で随時お知らせします。</p>			
<p>第1回 卒業論文で取り扱う問題・目的・方法・結果の処理に関する再検討 (オンライン)</p> <p>第2回 実験、調査の実施に向けての具体的な検討 (オンライン)</p> <p>第3回 実験、調査の実施に向けての予備調査 (オンライン)</p> <p>第4回 第1回目の実験・調査の実施 (オンライン)</p> <p>第5回 第2回目の実験・調査の実施 (オンライン)</p> <p>第6回 実験、調査の実行に伴う問題点の整理とその改善策の検討 (オンライン)</p> <p>第7回 第3回目の実験・調査の実施 (オンライン)</p> <p>第8回 第4回目の実験・調査の実施 (オンライン)</p> <p>第9回 実験・調査で得られたデータの分析 (オンライン)</p> <p>第10回 実験・調査で得られたデータの分析上の問題点の再検討 (オンライン)</p> <p>第11回 実験・調査で得られた結果のまとめ (オンライン)</p> <p>第12回 本論・レジュメの完成に関する個別検討 (オンライン)</p> <p>第13回 発表に向けての第1回リハーサルの実施と問題点の整理 (オンライン)</p> <p>第14回 発表に向けての第2回リハーサルの実施と問題点の整理 (オンライン)</p> <p>第15回 発表に向けての第3回リハーサルの実施と問題点の整理 (オンライン)</p> <p>第16回 期末試験 (ただし試験は実施せず、15回ごとの成果に基づき個人ごと総合的に評価する。成績の評価基準を参照のこと)</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予週：受講生各自は次回の演習までに課題に関する必要な修正等を加え、適切に対処できること。</p> <p>復習：演習時の指摘に従い、必要な修正を適宜行うこと。</p>			
教科書			
特に指定しない。			
参考書			

適宜紹介する。

成績の評価基準

毎回の授業における参加態度・意欲（20%）、各回の授業内容ごと必要な作業の進捗状況（60%）、発表の出来（20%）により個人ごと総合的に評価する。

オフィスアワ -

manabaを用いて随時受けつける

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

ゼミ所属性に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
教育心理学概説（旧 心理学特講）			
英語名			
Introduction to Educational Psychology			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	
下木戸 隆司			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>教育活動を円滑に進めていくためには、児童生徒の行動と心理を理解しておくことが必要不可欠である。本講義では、教授・学習法、動機づけ、教育評価、学級集団、発達、学習等の内容を取りあげる。それらに関する基礎的知識の習得と諸理論の理解、および自分自身の教師観・教育観の確立を目的とする。</p>			
学修目標			
<p>1. 効果的な学習の仕組みを理解し、児童生徒の特性や状態を適切に評価した上で、それに応じて指導方法を選択できる。</p> <p>2. 学級内での人間関係、教師の影響、集団力学を理解することで学級運営についての自らの考えや見解を深めることができる。</p> <p>3. 人間の発達の特性を理解し、生涯発達の観点から、個々の児童・生徒に応じた関わり方や指導法について着想できる。</p> <p>4. グループワークを通じて、仲間と協力しながら課題を成し遂げていくことができる。</p> <p>5. 学校教育で問題になっている諸事項について、教師として自分がどうすべきか・どうしたいのかについて意見をまとめ、表明できる。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション1 教育心理学の意味 グループ編成</p> <p>第2回：オリエンテーション2 授業の進め方 教育心理学の必要性</p> <p>第3回：学習の原理 古典的条件づけ オペラント条件づけ 観察学習</p> <p>第4回：教授・学習法1 効果的な学習法・学習指導の形態</p> <p>第5回：教授・学習法2 様々な学習法</p> <p>第6回：動機づけ 動機づけのしくみ</p> <p>第7回：教育評価1 教育評価の目的・方法・評価に影響する要因</p> <p>第8回：教育評価2 学力・知能の測定評価</p> <p>第9回：教育評価3 性格の測定評価</p> <p>第10回：学級集団1 学級集団の特徴と機能 教師生徒関係</p> <p>第11回：学級集団2 教師の成長と影響力 友人関係</p> <p>第12回：発達1 発達の特徴 遺伝と環境</p> <p>第13回：発達2 認知発達 社会性の発達</p> <p>第14回；発達3 発達障がい（神経発達症群）</p> <p>第15回：効率のよい学習、よい授業とは何かを考える</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>グループレポート作成のために、各自が課題テーマについて考えたり、メンバー同士で議論したりして意見をまとめることが必要である。</p>			
教科書			
教科書はとくに指定しない。			
参考書			
参考書についてはオリエンテーション時に配布する。			
成績の評価基準			

全12回あるグループレポートの内容と授業への参加状況から成績を評価する。出席は成績評価には加味しないが、無断欠席が4回以上になった場合は不合格とする。授業開始から10分を超えて出席した場合には遅刻として、さらに30分を超えた場合には欠席として扱う。遅刻・早退は0.5回分の欠席と見なす。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

グループワーク;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

12回

備考(受講要件)

教育学部での講義となり、グループワークの関係上、受講者数を10名までに制限します。またこの講義を履修しても、教職課程の免許科目単位にはなりません。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
医療関連法（関係行政論）			
英語名			
Legal and Administrative Systems			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	
上原大祐・伊藤周平		099-285-7626(上原)	
		連絡先（MAIL）	
		embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp(上原)	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
公認心理士として社会で活動する上で必要となる法、制度、そしてその基盤となる考え方について学ぶ。			
学修目標			
公認心理士が活動する上で出会う法制度を把握し、社会における公認心理士の役割について認識する。			
授業計画			
第1回 法・制度の基本と公認心理士			
第2回 公認心理士の法的立場と多職種連携			
第3回 公認心理士の各分野への展開			
第4回 教育分野に関係する法律・制度			
第5回 司法・犯罪分野に関係する法律・制度（1）刑事			
第6回 司法・犯罪分野に関係する法律・制度（2）家事			
第7回 司法・犯罪分野に関係する法律・制度（3）少年非行			
第8回 保健医療分野に関係する法律・制度（1）医療全般			
第9回 保健医療分野に関係する法律・制度（2）精神科医療			
第10回 保健医療分野に関係する法律・制度（3）地域保健・医療			
第11回 福祉分野に関係する法律・制度（1）児童福祉			
第12回 福祉分野に関係する法律・制度（2）障害者・障害児福祉			
第13回 福祉分野に関係する法律・制度（3）高齢者福祉			
第14回 産業・労働分野に関する法律・制度			
第15回 まとめ			
上記授業はオンライン(zoomによるリアルタイム配信)で行う予定である。また、授業の回数等に変更となる可能性がある。			
授業外学習（予習・復習）			
積み重ね式の知識の修得となるため、特に復習が必要である。毎回の講義の後に、復習をして知識を定着させておくことが望ましい(30分程度)。			
教科書			
元永拓郎編『関係行政論 第二版』(2020・遠見書房)			
参考書			
成績の評価基準			
期末試験（期末レポートの形で行う予定）			
オフィスアワー			
在室時、適宜対応(上原)			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH3407			
科目名			
認知心理学演習			
英語名			
Comparative Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
横山春彦		099-285-7535	yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
4年生については卒業論文の作成に関し、データを得るための調査や実験などの計画を完備することが目標となるため、個人ごとに計画の策定を進める。一方、3年生については自身の興味ある研究を探索、その内容を要約し文書にまとめるなど情報収集を進めることが目標となるため、毎月自身にとって興味のあるいくつかの研究を要約し文書化するなど情報収集を行う。manabaあるいはzoomを用いて行う。			
学修目標			
授業概要でも書いたように、受講する学年により目標が異なる。4年生については卒業論文の作成に関し、データを得るための調査や実験などの計画を完備することが目標である。3年生については自身の興味ある研究を探索、その内容を要約し文書にまとめるなど情報収集を進めることが目標である。			
授業計画			
前期の演習では、以下のスケジュールに従い授業を行う。 今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
第1回 オリエンテーション (オンライン型)			
第2回	4年生 (調査目的の再検討1)、3年生 (興味ある研究内容の要約・紹介1) (オンライン型)		
第3回	4年生 (調査目的の再検討2)、3年生 (興味ある研究内容の要約・紹介2) (オンライン型)		
第4回	4年生 (調査目的の再検討3)、3年生 (興味ある研究内容の要約・紹介3) (オンライン型)		
第5回	4年生 (調査方法の再検討1)、3年生 (興味ある研究内容の要約・紹介4) (オンライン型)		
第6回	4年生 (調査方法の再検討2)、3年生 (興味ある研究内容の要約・紹介5) (オンライン型)		
第7回	4年生 (調査方法の再検討3)、3年生 (興味ある研究内容の要約・紹介6) (オンライン型)		
第8回	4年生 (統計処理の再検討1)、3年生 (興味ある研究内容の要約・紹介7) (オンライン型)		
第9回	4年生 (統計処理の再検討2)、3年生 (興味ある研究内容の要約・紹介8) (オンライン型)		
第10回	4年生 (統計処理の再検討3)、3年生 (興味ある研究内容の要約・紹介9) (オンライン型)		
第11回	4年生 (プレゼンの再検討1)、3年生 (興味ある研究内容の要約・紹介10) (オンライン型)		
第12回	4年生 (プレゼンの再検討2)、3年生 (興味ある研究内容の要約・紹介11) (オンライン型)		
第13回	4年生 (プレゼンの再検討3)、3年生 (興味ある研究内容の要約・紹介12) (オンライン型)		
第14回	4年生 (レジュメの再検討1)、3年生 (興味ある研究内容の要約・紹介13) (オンライン型)		
第15回	4年生 (レジュメの再検討2)、3年生 (興味ある研究内容の要約・紹介14) (オンライン型)		
第16回	期末試験		
授業外学習 (予習・復習)			
4年生については毎回指摘される問題点等につき、次回までに対応策を考え実行すること。3年生については常に興味ある研究を探索することが課題となる。			
教科書			
指定しない。			
参考書			
manabaで適宜紹介。			

成績の評価基準

課された課題に対する態度や意欲（60%）、またその進捗状況（40%）により個人ごと総合的に評価する。

オフィスアワ -

manabaを用い随時受けつける

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

発達臨床心理学（健康・医療心理学）（旧 発達心理学）  
ナンバリングコード

科目名

発達臨床心理学（健康・医療心理学）（旧 発達心理学）

英語名

Developmental Clinical Psychology

開講学科

コース

人文学科

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択  
科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

安部幸志

k7336046@kadai.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

本授業では、発達臨床心理学に関する諸分野のうち、「健康」に焦点を当てて講義を展開する。すなわち、健康の維持と増進、疾病の予防と治療、ヘルスシステムや健康政策の分析や改善などに行動科学の知識と技術で関与するための知識を得ることを目的とした授業である。また、本授業の目的はそれだけでなく、個人が発達過程を通じ、健康で幸福な人生を実現するために必要となる要因について学ぶことも含まれる。

具体的な授業は、高齢者の健康問題、認知症、心理的ストレス、ソーシャルサポート、パーソナリティ（行動様式）と疾患との関連性、ライフスタイル、健康教育、ヘルスケアシステム、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）、ターミナルケア、自殺予防、災害時の心理支援など多岐にわたるもので、それらに関する研究手法と、具体的にどう対処するのかについて学ぶ。

学修目標

1. 発達過程における健康とはなにか理解すること
2. 発達臨床心理学や健康心理学の知識と技法を自分の心身の健康に役立てる力を身につけること

授業計画

- 第1回 ガイダンス（オンデマンド型）
- 第2回 健康支援活動とストレスチェック（オンデマンド型）
- 第3回 保健・医療における法律・制度・倫理（オンデマンド型）
- 第4回 ストレスの心理とアセスメント（オンデマンド型）
- 第5回 心の健康とストレスマネジメント（オンデマンド型）
- 第6回 小児科・母子保健領域（オンデマンド型）
- 第7回 神経科・リハビリテーション領域（オンデマンド型）
- 第8回 さまざまな医療現場とコンサルテーション（オンデマンド型）
- 第9回 さまざまな保健活動（オンデマンド型）
- 第10回 高齢者と健康（オンデマンド型）
- 第11回 精神科（成人期（オンデマンド型））
- 第12回 精神科（高齢期）（オンデマンド型）
- 第13回 自殺予防活動（オンデマンド型）
- 第14回 災害時等に必要心理に関する支援（オンデマンド型）
- 第15回 グループワークの発表（リアルタイム型）

この授業は状況によって授業回数や内容が変更となる可能性がある。

授業外学習（予習・復習）

本授業では、授業外学習としてグループでの調べ学習が複数回含まれる。

教科書

なし  
プリントを適宜配布する。

参考書

なし

成績の評価基準

ワークシート：20%

グループワークでの発表：20%

最終レポート：60%（受講者数によって変更の可能性あり）

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

本授業は、公認心理師受験資格要件科目のうち「健康・医療心理学」に対応している。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DEH3409

## 科目名

産業・組織心理学演習（旧 社会心理学演習）

## 英語名

Industrial &amp; Organizational Psychology 1

## 開講学科

## コース

人文学科

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・心理学コース / 選択  
科目

演習

2単位

3～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

榑原良太

099-285-7518

sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

社会心理学の研究アプローチについて理解し、自ら研究計画を立てられるようになることを目指す。具体的には、毎週担当者が本や論文の発表をして、全体でディスカッションをする中で、「面白い研究とは何か」「どのようにしたら知りたいことがわかるのか」について理解を深める。その上で、それぞれが自らの研究アイデアを持ち寄り、議論する中でアイデアを洗練させていく。

## 学修目標

社会心理学の諸理論と研究手法について、研究論文を講読する中で理解できるようになることを目指す。そして、自ら問題を発見し、それを探求していく方法論や思考法を身につけることを目標とする。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション  
 第2回：日本語論文発表1：社会的認知（オンライン）  
 第3回：日本語論文発表2：潜在的過程（オンライン）  
 第4回：日本語論文発表3：帰属理論（オンライン）  
 第5回：日本語論文発表4：自己正当化（オンライン）  
 第6回：日本語論文発表5：協力関係（オンライン）  
 第7回：日本語論文発表6：集団感葛藤（オンライン）  
 第8回：日本語論文発表7：進化と適応（オンライン）  
 第9回：日本語論文発表8：文化（オンライン）  
 第10回：英語論文発表1：Social Cognition（オンライン）  
 第11回：英語論文発表2：Cooperation（オンライン）  
 第12回：英語論文発表3：Group（オンライン）  
 第13回：英語論文発表4：Evolutionary Psychology（オンライン）  
 第14回：英語論文発表5：Cultural Psychology（オンライン）  
 第15回 まとめ（オンライン）

## 授業外学習（予習・復習）

予習：発表の準備

複数：議論の中で提示された問題点について再考

## 教科書

指定しない。

## 参考書

適宜紹介する。

## 成績の評価基準

授業への参加、発言、発表を総合的に見て評価する。

## オフィスアワ -

火曜4限

## アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
説得・交渉心理学（旧 社会心理学）			
英語名			
The psychology of Negotiation and Persuasion			
開講学科		コース	
人文学科			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
山崎真理子			yamasaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
他者との関わりにおいて必要な説得・交渉について、（社会）心理学の観点から考える。			
基礎パート（前半・科目担当者による話題提供）と、応用パート（後半・受講者主体の活動）で構成。 なお、今年度は応用パートにおいて、グループワークおよびグループ単位の教室発表は採用しない方針。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が、説得・交渉の内容に関わる心理学の基礎知識を理解することを目指す。</li> <li>・専門的な観点から説得・交渉について考え、実践での活用に対する意識を高めることを目指す。</li> <li>・さらに、受講者が学びの成果を社会に伝えられるように、表現力を高めることを目指す。</li> </ul>			
授業計画			
基礎パート、 応用パート			
第1回：オリエンテーション、心理学の書籍or文献を読む 第2回：心理学における基礎研究の応用 第3回：意図的でない対人的影響（社会的手抜き、傍観者効果） 第4回：意図的でない対人的影響（漏れ聞き効果、行動感染、情動感染） 第5回：意図的な対人的影響（フットインザドア法、ドアインザフェイス法、ローボール法） 第6回：説得と態度変容 第7回：態度尺度の妥当性・信頼性 第8回：説得の規定因（スリーパー効果、初頭効果、新近性効果） 第9回：説得のモデルと理論（ヒューリスティックシステムティックモデル） 第10回：説得のモデルと理論（精緻化見込みモデル） 第11回：実践に向けて（1）プレゼンテーマの検討 第12回：実践に向けて（2）掲載情報の選定 第13回：実践に向けて（3）専門用語の確認 第14回：実践に向けて（4）発表練習と改善 第15回：実践に向けて（5）成果報告を共有			
授業外学習（予習・復習）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：説得・交渉に関わる社会の実状について情報収集。</li> <li>・復習：講義内容を見直す際、実践場面での応用を念頭に情報整理。</li> </ul>			
教科書			
特に指定しない			
参考書			
依頼と説得の心理学 人は他者にどう影響を与えるか（サイエンス社）今井芳昭			
成績の評価基準			
授業中課題（今日の課題に回答・提出）...50%、個別発表（学期末課題を作成・掲載）...50%			
科目担当者と連絡を取りたい場合、メール連絡可能。			

オフィスアワ -

水曜 2 限

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

5 回

備考（受講要件）

履修条件は特に設けない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF4201			
科目名			
卒業科目（日本とアジア）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		日本とアジアコース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
大田由紀夫	099-285-7560		ota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
卒業論文の執筆と指導			
学修目標			
ゼミ指導教員による指導助言を受け、受講生が第7期までに各自のテーマに従って進めてきた研究を増進し、より完成度の高い卒業論文を作成する。			
授業計画			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導は、ゼミ指導教員とのマンツーマン、あるいは所属ゼミ単位、あるいは各分野（合同ゼミ）において、適宜行われる。</li> <li>・指導の時間帯、期間等はゼミ指導教員との相談の上決定される。</li> <li>・指導の目的によっては、学内だけでなく学外での研修を行うこともある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*（例）東洋史・中文ゼミ：11月の霧島合同ゼミ研修合宿。</li> <li>その他、各ゼミの方針、計画を確認すること。</li> </ul> </li> <li>・指導は卒業論文提出まで行われる。</li> <li>・なお、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。</li> </ul>			
授業外学習（予習・復習）			
指導を受けて、各自の研究テーマに応じた研究材料の調査検討を行う。			
教科書			
指導教員の指示による。			
参考書			
指導教員の指示による。			
成績の評価基準			
卒業論文をゼミ指導教員を含む複数の教員で審査し、評価する。			
オフィスアワ -			
不定期			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
人文学科日本とアジアコース所属の4年生に限る			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4201			
科目名			
卒業科目（日本とアジア）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		日本とアジアコース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
大田由紀夫	285-7560		ota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
ゼミ指導教員の指導助言に従い卒業論文の作成を行う。			
学修目標			
ゼミ指導教員による指導助言を受け、受講生が第7期までに各自のテーマに従って進めてきた研究を増進し、より完成度の高い卒業論文を作成する。			
授業計画			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導は、ゼミ指導教員とのマンツーマン、あるいは所属ゼミ単位、あるいは各分野（合同ゼミ）において、適宜行われる。</li> <li>・指導の時間帯、期間等はゼミ指導教員との相談の上決定される。</li> <li>・指導の目的によっては、学内だけでなく学外での研修を行うこともある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*（例）東洋史・中文ゼミ：11月の霧島合同ゼミ研修合宿。</li> </ul> </li> <li>・その他、各ゼミの方針、計画を確認すること。</li> <li>・指導は卒業論文提出まで行われる。</li> </ul>			
授業外学習（予習・復習）			
指導を受けて、各自の研究テーマに応じた研究材料の調査検討を行う。			
教科書			
指導教員の指示による。			
参考書			
指導教員の指示による。			
成績の評価基準			
卒業論文をゼミ指導教員を含む複数の教員で審査し、評価する。			
オフィスアワ -			
不定期（各ゼミ指導教員に確認のこと）			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
人文学科日本とアジアコース所属の4年生に限る。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
日本文学史概説B(旧 日本文学史)			
英語名			
Introduction to Japanese Literary History B			
開講学科		コース	
人文学科		日本とアジアコース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
多田 蔵人			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>テーマ：日本近代文学における引用</p> <p>近代文学の歴史は、しばしば言文一致体ないし口語文の歴史として語られる。しかし近代小説は、先行する時代の文学表現や海外の文学表現、さらに小説以外の散文表現から、少なからざる影響・拘束を受けてもいた。近代小説を読むと、一見口語であるように見える表現のかけに文語といわれる表現が見え隠れしていることの原因である。近代文学の諸作品が他のテキストから影響を受け、新たな表現を創り出してゆく変換式を、理論的に把握してみたいと思う。</p>			
学修目標			
日本近代小説史についての知識を身につけ、作品の方法を理論化する術を学ぶ。			
授業計画			
<p>第1回：歴史書1(明治期政治小説など)</p> <p>第2回：歴史書2(森鷗外など)</p> <p>第3回：手紙1(夏目漱石『こころ』など)</p> <p>第4回：手紙2(田山花袋『蒲団』など)</p> <p>第5回：日記1(国木田独歩『武蔵野』など)</p> <p>第6回：日記2(永井荷風『新婦朝者の日記』など)</p> <p>第7回：演説1(明治期政治小説?など)</p> <p>第8回：演説2(社会主義文学など)</p> <p>第9回：落語・講談1(言文一致体小説など)</p> <p>第10回：落語・講談2(歴史小説など)</p> <p>第11回：演劇1(尾崎紅葉『金色夜叉』など)</p> <p>第12回：演劇2(安部公房『友達』など)</p> <p>第13回：映画1(谷崎潤一郎『人面疽』など)</p> <p>第14回：映画2(宇野浩二『悲しきチャアライ』など)</p> <p>第15回：アメリカ文学(村上春樹など)</p> <p>定期試験</p>			
授業外学習(予習・復習)			
教科書			
授業時に指示する。			
参考書			
成績の評価基準			
授業の提出物40%、試験60%。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

日本歴史・文化演習 A 1 (旧 日本史演習 III)

## 英語名

Japanese History &amp; Culture A1

## 開講学科

人文学科

## コース

日本とアジアコース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

2~4年

## 担当教員

厩尾達哉

## 連絡先 (TEL)

099-285-7552

## 連絡先 (MAIL)

tro@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

日本後紀を読む。

## 学修目標

日本史を通時的に理解する上で必須の古代律令制の形成・展開過程について、適格な知識と判断力を習得し、日本史を史料に基づいて再構成し、日本史上の様々な問題を史料を深く読み込むことによって批判・考察する力を身につけることを授業の到達目標とする。

## 授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：弘仁元年
- 第3回：弘仁2年
- 第4回：弘仁3年
- 第5回：弘仁4年
- 第6回：弘仁5年
- 第7回：弘仁6年
- 第8回：弘仁7年
- 第9回：弘仁8年
- 第10回：弘仁10年
- 第11回：弘仁11年
- 第12回：弘仁12年
- 第13回：弘仁13年
- 第14回：弘仁14年前半
- 第15回：弘仁14年後半

## 授業外学習 (予習・復習)

テキストについて、予め精読し、内容理解に努める。

## 教科書

プリントを配布する。

## 参考書

## 成績の評価基準

学生が積極的に授業に参加し、読み解き、歴史記述の妥当性を自ら批判的に検証しようとする積極的な姿勢の有無を毎時の授業で細かく評価し、さらに定期試験で評価する。配点割合は担当時の発表内容3割、毎時の意見・質問内容2割、定期試験5割とする。

## オフィスアワ -

火曜13:30~14:30 あらかじめメール・電話でアポイントメントをとることがのぞましい。

## アクティブ・ラーニング

## アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DHH2230

## 科目名

日本歴史・文化演習 A 1 (旧 日本史演習 III)

## 英語名

Japanese History &amp; Culture A1

## 開講学科

人文学科

## コース

日本とアジアコース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

2~4年

## 担当教員

厩尾達哉

## 連絡先 (TEL)

099-285-7552

## 連絡先 (MAIL)

tro@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

日本後紀を読む。

## 学修目標

日本史を通時的に理解する上で必須の古代律令制の形成・展開過程について、適格な知識と判断力を習得し、日本史を史料に基づいて再構成し、日本史上の様々な問題を史料を深く読み込むことによって批判・考察する力を身につけることを授業の到達目標とする。

## 授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：弘仁元年
- 第3回：弘仁2年
- 第4回：弘仁3年
- 第5回：弘仁4年
- 第6回：弘仁5年
- 第7回：弘仁6年
- 第8回：弘仁7年
- 第9回：弘仁8年
- 第10回：弘仁10年
- 第11回：弘仁11年
- 第12回：弘仁12年
- 第13回：弘仁13年
- 第14回：弘仁14年前半
- 第15回：弘仁14年後半

## 授業外学習 (予習・復習)

テキストについて、予め精読し、内容理解に努める。

関西方面において実地研修旅行 (自由参加) を行う予定。

## 教科書

プリントを配布する。

## 参考書

## 成績の評価基準

学生が積極的に授業に参加し、読み解き、歴史記述の妥当性を自ら批判的に検証しようとする積極的な姿勢の有無を毎時の授業で細かく評価し、さらに定期試験で評価する。配点割合は担当時の発表内容 3 割、毎時の意見・質問内容 2 割、定期試験 5 割とする。

## オフィスアワ -

火曜13:30~14:30 あらかじめメール・電話でアポイントメントをとることがのぞましい。

## アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2211			
科目名			
日本歴史・文化研究A(旧 日本国制史)			
英語名			
Japanese History & Culture A			
開講学科		コース	
人文学科		日本とアジアコース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
厩尾達哉		099-285-7552	tro@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
律令国家の官人・官司統制を検討して、古代専制君主国家の実相をい明らかにする。			
学修目標			
日本史を通時的に理解する上で必須の古代律令制の形成・展開過程について、適格な知識と判断力を習得し、日本史について一貫した視点で見通す力を身につけることを授業の到達目標とする。			
授業計画			
第1回：律令官人とは何か？			
第2回：律令官人とは何か？			
第3回：律令官人とは何か？			
第4回：律令官人の闕怠事例？			
第5回：律令官人の闕怠事例？			
第6回：律令官人の闕怠事例？			
第7回：律令官人の闕怠事例？			
第8回：律令国家の官人統制？			
第9回：律令国家の官人統制？			
第10回：律令国家の官人統制？			
第11回：律令国家の官人統制？			
第12回：律令国家の官司統制？			
第13回：律令国家の官司統制？			
第14回：律令国家の官司統制？			
第15回：古代専制君主国家の実相			
授業外学習(予習・復習)			
授業前に配布のテキストを事前に熟読し、授業後はテキストと配布の史料および板書の史料を熟読する。			
教科書			
特になし。			
参考書			
なし。			
成績の評価基準			
学生が積極的に授業に参加し、歴史学の基本である史料を自分の力で読み解き、歴史上の問題を自分で考えていこうとする姿勢を随時実施する小テスト、ミニッツペーパーできめ細かく評価する。			
オフィスアワ -			
火曜13:30~14:00 あらかじめメール・電話でアポイントメントをとることがのぞましい。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中14回			

備考(受講要件)

漢文史料を正しく読もうという意欲があること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
日本歴史・文化演習 2 (旧 日本史演習 I)			
英語名			
Japanese History & Culture 2			
開講学科		コース	
人文学科		日本とアジアコース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
厩尾達哉	099-285-7552	tro@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
古代史の基本文献である類聚三代格を輪読する。			
学修目標			
厩尾ゼミ所属生および卒論を古代史で執筆予定の4年生が日本古代史の史料読解法と基礎的知識とを集中的に修得し、卒業論文執筆が可能となる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 類聚三代格の輪読			
第3回 類聚三代格の輪読			
第4回 類聚三代格の輪読			
第5回 類聚三代格の輪読			
第6回 類聚三代格の輪読			
第7回 類聚三代格の輪読			
第7回 類聚三代格の輪読			
第9回 類聚三代格の輪読			
第10回 類聚三代格の輪読			
第11回 類聚三代格の輪読			
第12回 類聚三代格の輪読			
第13回 類聚三代格の輪読			
第14回 類聚三代格の輪読			
第15回 類聚三代格の輪読			
授業外学習 (予習・復習)			
予め類聚三代格所収の官符類を精読する。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
成績の評価基準			
授業への取り組み。			
オフィスアワ -			
火曜13:30~14:30 あらかじめメール・電話でアポイントメントをとることがのぞましい。			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中14回			
備考 (受講要件)			

漢文や文語文、古文についての基礎的な読解・運用能力を要する。

梶尾ゼミまたは金井ゼミ所属生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2230			
科目名			
日本歴史・文化演習 2 (旧 日本史演習 I)			
英語名			
Japanese History & Culture 2			
開講学科		コース	
人文学科		日本とアジアコース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
厩尾達哉		099-285-7552	tro@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
古代史の基本文献である類聚三代格を輪読する。			
学修目標			
厩尾ゼミ所属生および卒論を古代史で執筆予定の4年生が日本古代史の史料読解法と基礎的知識とを集中的に修得し、卒業論文執筆が可能となる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 類聚三代格の輪読			
第3回 類聚三代格の輪読			
第4回 類聚三代格の輪読			
第5回 類聚三代格の輪読			
第6回 類聚三代格の輪読			
第7回 類聚三代格の輪読			
第7回 類聚三代格の輪読			
第9回 類聚三代格の輪読			
第10回 類聚三代格の輪読			
第11回 類聚三代格の輪読			
第12回 類聚三代格の輪読			
第13回 類聚三代格の輪読			
第14回 類聚三代格の輪読			
第15回 類聚三代格の輪読			
授業外学習 (予習・復習)			
予め類聚三代格所収の官符類を精読する。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
成績の評価基準			
授業への取り組み。			
オフィスアワー			
火曜14:30~16:00 あらかじめメール・電話でアポイントメントをとることがのぞましい。			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中14回			
備考 (受講要件)			

漢文や文語文、古文についての基礎的な読解・運用能力を要する。

梶尾ゼミまたは金井ゼミ所属生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

英語ライティング a (旧 英語コミュニケーション2A)  
ナンバリングコード

FHS-DIH2142

科目名

英語ライティング a (旧 英語コミュニケーション2A)

英語名

Academic Writing in English a

開講学科		コース	
人文学科		ヨーロッパ・アメリカ文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
スティーブ コーダ		285-7573	coke@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	

授業概要

You will learn essay structure and how to analyse paragraphs and essays. You will also learn how to use discourse markers and conjunctives effectively. You will be expected to communicate actively with other students about your writing in and outside of the classroom

Unless there is a change in the current situation, this class will be online.

学修目標

This class is an introduction to academic writing in English concentrating on essay structure for explaining graphs, tables and charts. Classwork will be divided between discussion and writing. This class will be helpful if you are going to take the 教員採用試験 or IELTS or TOEFL.

The class will be held realtime on Zoom.

授業計画

授業計画

- Week 1 Introduction
- Week 2 Writing overviews
- Week 3 Writing about graphs
- Week 4 Writing about tables and bar graphs
- Week 5 Making comparisons 1 : Vocabulary
- Week 6 Making comparisons 2 : Data comparison
- Week 7 Essay feedback
- Week 8 Ranking information
- Week 9 Writing about processes 1 : Vocabulary
- Week 10 Writing about processes 2 : Explaining processes
- Week 11 Writing about charts
- Week 12 Writing about maps
- Week 13 Grammar practice
- Week 14 Vocabulary practice
- Week 15 Essay feedback and final essay preparation
- Week 16 Final essay

授業外学習 (予習・復習)

You will be expected to gather information for your essays.  
You will be given regular homework.

教科書

Handouts will be provided

参考書

You will need access to a good dictionary and grammar book - using your smartphone is ok.

成績の評価基準

Classwork 50%

Final essay 50%

オフィスアワ -

Anytime is ok

アクティブ・ラーニング

グループワーク;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

None

実務経験のある教員による実践的授業

英語ライティングb (旧 英語コミュニケーション2B・C)  
ナンバリングコード

FHS-DIH2142

科目名

英語ライティングb (旧 英語コミュニケーション2B・C)

英語名

Academic Writing in English b

開講学科

人文学科

コース

ヨーロッパ・アメリカ文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3年

担当教員

スティーブ コダ

連絡先 (TEL)

285-7573

連絡先 (MAIL)

coke@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

This class is an introduction to academic writing in English concentrating on essay structure for talking about graphs, tables, charts processes and maps.

Classwork will be divided between discussion and writing.

This class will be helpful if you are going to take the 教員採用試験 or IELTS or TOEFL.

Unless there is a change in the current situation, this class will be online.

学修目標

You will learn how to plan your structure and analyse paragraphs and essays. You will also learn how to use discourse markers and conjunctives effectively. You will be expected to communicate actively with other students about your writing in and outside of the classroom.

The class will be held realtime on Zoom.

授業計画

Week 1 Introduction  
Week 2 Writing overviews  
Week 3 Writing about graphs  
Week 4 Writing about tables and bar graphs  
Week 5 Making comparisons 1 : Vocabulary  
Week 6 Making comparisons 2 : Data comparison  
Week 7 Essay feedback  
Week 8 Ranking information  
Week 9 Writing about processes 1 : Vocabulary  
Week 10 Writing about processes 2 : Explaining processes  
Week 11 Writing about charts  
Week 12 Writing about maps  
Week 13 Grammar practice  
Week 14 Vocabulary practice  
Week 15 Essay feedback and final essay preparation  
Week 16 Final essay

授業外学習 (予習・復習)

You will be given homework most weeks.

You will also be required to read up on topics.

教科書

Handouts will be given

参考書

A good dictionary - using your smartphone is ok

## 成績の評価基準

Classwork 50%  
Final essay 50%

## オフィスアワ -

Anytime is ok, but please mail me before to arrange a time.

## アクティブ・ラーニング

グループワーク;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

None

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

哲学演習 B 1 (旧 西洋の人間と思想 B 演習)

## 英語名

Western Philosophy B1

## 開講学科

人文学科

## コース

ヨーロッパ・アメリカ文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

2~4年

## 担当教員

近藤和敬

## 連絡先 (TEL)

099-285-8910

## 連絡先 (MAIL)

kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

なし

## 前後期

後期

## 授業概要

近代哲学、とくに政治哲学の諸概念について批判的に検討する

## 学修目標

- ・近代哲学、近代社会についての概念について理解する。
- ・自分で問題について考えるだけの素材となる知識を身に着ける。

## 授業計画

1. ガイダンス、イントロダクション
2. 問題設定のための講義【オンデマンド：以下OD】
3. 『自然権と歴史』の部分読解 1 (OD)
4. 『自然権と歴史』の部分読解 2 (OD)
5. 『自然権と歴史』 解題 1 (OD)
6. 『自然権と歴史』の部分読解 3 (OD)
7. 『自然権と歴史』の部分読解 4 (OD)
8. 『自然権と歴史』 解題 2 (OD)
9. 参加者による発表 (OD)
10. 『自然権と歴史』の部分読解 5 (OD)
11. 『自然権と歴史』の部分読解 6 (OD)
12. 『自然権と歴史』 解題 3 (OD)
13. 社会思想史関連の論文読解 4 (OD)
14. 参加者による発表
15. 参加者による発表

## 授業外学習 (予習・復習)

発表の準備が必要です。

また授業外の時間に用意されている資料 (論文) を読んだうえで、manabaの掲示板上に、そのまとめを授業開始までに記入する必要があります。

## 教科書

レオ・シュトラウス『自然権と歴史』

授業中に資料を配布します。

## 参考書

上野修「残りのもの」『デカルト・スピノザ・ホッブズ』

上野修「教えの平凡さをめぐって 共有信念論」『スピノザ『神学政治論』を読む』

挾本佳代「スペンサーにおける社会有機体説の社会学的重要性」

挾本佳代『社会システム論と自然 スペンサー社会学の現代性』

平石隆敏「近代自然法思想における「社会」と「自由」：Th.ホッブズの場合」

高山義影「基本的人権の基礎づけとしての自然法論」

レオ・シュトラウス『自然権と歴史』

ジャック・デリダ『獣と主権者』

タルド『模倣の法則』

山田秀「メスナーの伝統的自然法論」

成績の評価基準

発表の内容と最終レポートによって評価します。

オフィスアワ -

随時

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

哲学概論あるいは倫理学概説を受講した (あるいは受講中) であることが望ましいです。

実務経験のある教員による実践的授業

科目名

現代ヨーロッパ・アメリカ文化研究(旧 現代ヨーロッパ・アメリカ文化論)

英語名

Modern Cultural History of Europe & America

開講学科

コース

人文学科

ヨーロッパ・アメリカ文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

梁川英俊

8891

yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

本講義では、ラフカディオ・ハーン(日本名:小泉八雲)を取り上げます。「耳無し芳一」や「雪女」などの怪談の著者として知られるラフカディオ・ハーンは、19世紀末の日本に特異な足跡を残した作家として知られています。しかし、彼が日本に来たのは40歳のときで、日本で過ごした年月はその54年の生涯の晩年のうち十数年にすぎませんでした。ギリシャのレフカダ島に生まれ、その故郷にちなんでラフカディオと名付けられたハーンは、少年時代にヨーロッパに渡り、アイルランド、イギリス、フランス、アメリカ合衆国で過ごしました。この経歴からも分かるように、彼は数言語を操るコスモポリタンでもありました。つまり、ハーンを学ぶことは世界を学ぶこと ヨーロッパを、アメリカを、そして日本を学ぶことなのです。日本では「ヘルンさん」と呼ばれて親しまれたこの明治の異人が、どのように生き、どのような著作を残したのか。一緒に学んでいきましょう。

学修目標

- (1) 世界に関する理解を深める
- (2) 自分の住んでいる地域を再考する
- (3) 歴史の面白さを実感する
- (4) 文化の力と可能性を知る
- (5) ことばに関する理解を深める
- (6) 批判的思考力を養う

授業計画

- |      |                               |
|------|-------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション(課題提出型授業)            |
| 第2回  | 日本におけるハーン(怪談の作者)(課題提出型授業)     |
| 第3回  | 日本におけるハーン(紀行記、民俗学など)(課題提出型授業) |
| 第4回  | シンシナティ時代(新聞記者として)(課題提出型授業)    |
| 第5回  | シンシナティ時代(黒人文化の発見)(課題提出型授業)    |
| 第6回  | ニューオリンズ時代(クレオール発見)(課題提出型授業)   |
| 第7回  | ニューオリンズ時代(小説の試み)(課題提出型授業)     |
| 第8回  | ハーンのアイデンティティ(課題提出型授業)         |
| 第9回  | ハーンとケルト(課題提出型授業)              |
| 第10回 | ハーンと人種論(課題提出型授業)              |
| 第11回 | ハーンと言語(課題提出型授業)               |
| 第12回 | ハーンと民俗学(課題提出型授業)              |
| 第13回 | ハーンとキリスト教(課題提出型授業)            |
| 第14回 | ハーンの可能性(課題提出型授業)              |
| 第15回 | まとめ(課題提出型授業)                  |

なお、今後の状況次第では、授業内容や授業回数の見直しもあり得ます。

授業外学習(予習・復習)

授業で取り上げるトピックに関しては、事前に連絡するので、各自で関連文献を読むなどして準備してください(予習1時間)。また授業で調べるように言われた事柄については、積極的に調べて理解を深めるようにしてく

ださい（復習1時間）。

教科書

特に指定しません。

参考書

授業中に適宜紹介します。

成績の評価基準

課題提出（100%）

オフィスアワ -

随時。メールであらかじめアポイントを取ることが望ましい。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

英語翻訳論演習

## 英語名

English Translation 1

## 開講学科

## コース

人文学科

ヨーロッパ・アメリカ文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2～4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

ホルヘ・ガルシア・アロヨ

8874

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

none

後期

## 授業概要

This class will focus on the improvement of writing production and reading comprehension skills through text translation practice and the comparison between the original text and the translated one to prepare you for writing your thesis.

## 学修目標

In this class you will improve your writing and reading comprehension skills. At the end of this course you will acquire an advanced level of these skills (CEFR level C1) so that you can write successfully your thesis. To achieve this goal, the activities of this course will include learning reading and writing strategies through text translation practice and the analysis of the differences between the original text and the translated one.

## 授業計画

Week 1 Presentation of the course. Introduction activities.(online)  
 Week 2 Reading and writing and translation activities (text 1)(online)  
 Week 3 Analysis between the original texts and the translated ones.(online)  
 Week 4 Reading and writing and translation activities (text 2)(online)  
 Week 5 Analysis between the original texts and the translated ones.(online)  
 Week 6 Reading and writing and translation activities (text 3)(online)  
 Week 7 Preparation for the final project week.(manaba)(online)  
 Week 8 Reading and writing and translation activities (text 4, audiovisual experience)(online)  
 Week 9 Analysis between the original texts and the translated ones.(online)  
 Week 10 Reading and writing and translation activities (text 5)(online)  
 Week 11 Analysis between the original texts and the translated ones.(online)  
 Week 12 Preparation for the final project week.(online)  
 Week 13 Reading and writing and translation activities (text 6, video game experience).(online)  
 Week 14 Reading and writing and translation activities (text 7, movie experience)(online)  
 Week 15 Analysis between the original text and the translated ones. (Submission of the final project)(online)

The final project will consist in a translation of a long text. The text to be translated can be chosen by the students (but it must be a text of the same nature as those we will see in class).In the “preparation for the final project week” you will have time to show how your course final project is progressing and to ask all the doubts you have concerning it.

## 授業外学習 (予習・復習)

As support for preparation of your final project you will be given some homework activities through the course.

## 教科書

Handouts will be given (texts related to literature and pop culture: manga, anime, comics, movies etc.).

Audiovisual material will be brought to class (anime, movies and videogames).

参考書

Please bring your dictionaries.

成績の評価基準

Final project: 40%, class performance: 30%, homework: 30%

オフィスアワ -

12:10-12:40 on every Monday

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

Translation project.

アクティブ・ラーニング(授業回数)

5 classes

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
英語学演習 2 (旧 英語構造論演習)			
英語名			
English Linguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科		ヨーロッパ・アメリカ文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
末松信子		099-285-7572	suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
本演習では、英語学関連の論文を読み、英語および英語学に関する知識を深めるとともに、卒業論文執筆に向けた指導を行う。			
学修目標			
(1) 英語の構造についての理解を深める。 (2) 英語を研究する方法を修得する。 (3) 関心のあるテーマをについて、論理的かつ説得力のあるレポートを作成する。			
授業計画			
* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 ガイダンス (リアルタイム型) 第2回~第15回 発表と議論 (リアルタイム型) 第15回 総括 (課題提出型)			
発表担当者の準備した資料と発表に基づき授業を進める。			
授業外学習 (予習・復習)			
予習: 指示された参考書、論文などに予め目を通し、課題をして予習しておくこと。 復習: 授業内容を基に各自参考文献を調べるなど復習しておくこと。			
教科書			
必要に応じて適宜指示する。			
参考書			
必要に応じて適宜指示する。			
成績の評価基準			
発表の準備・内容、プレゼンテーション、ディスカッションへの積極的な参加、期末レポートにより総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
授業、会議以外の時間 (あらかじめ連絡のこと)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
ゼミ生に限る。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
英語コミュニケーション演習			
英語名			
English Communication			
開講学科		コース	
人文学科		ヨーロッパ・アメリカ文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
スティーブ コーダ			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
This seminar will focus on working towards your dissertation			
Unless there is a change in the current situation, this class will be online.			
学修目標			
You will work towards your dissertation receiving supervision from me, as well as help from other members of the class.			
You will also take part in library guidance and careers advice activities.			
The class will be held realtime on Zoom.			
授業計画			
Week 1 Summer progress report			
Week 2 Library guidance			
Week 3 卒論中間発表会			
Week 4 卒論中間発表会			
Week 5 Careers advice			
Week 6 Careers advice			
Week 7 3rd years' progress report and feedback			
Week 8 3rd years' progress report and feedback			
Week 9 3rd years help 4th years with their dissertations			
Week 10 卒論構想発表会			
Week 11 卒論構想発表会			
Week 12 Dissertation final week			
Week 13 3rd year progress report and feedback			
Week 14 Introduction of new 2nd years			
Week 15 卒論発表会 (This class will take place after exam week)			
授業外学習 (予習・復習)			
You will be expected to continue with working towards your dissertation outside of class throughout the semester.			
教科書			
None			
参考書			
None			
成績の評価基準			
3rd years: Progress reports (20%), 構想発表会(30%) and a final 9000字 report (50%)			
4th years: 発表会s (100%)			
オフィスアワ -			
Anytime is ok, but to mail me to make sure I'm in!			

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中7回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH2125			
科目名			
英語学演習 2 (旧 英語構造論演習)			
英語名			
English Linguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科		ヨーロッパ・アメリカ文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
末松信子		099-285-7572	suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
本演習では、英語学関連の論文を読み、英語および英語学に関する知識を深めるとともに、研究テーマの設定の仕方や論文の作成方法等、卒業論文執筆に向けた指導を行う。			
学修目標			
(1) 英語の構造についての理解を深める。 (2) 英語を研究する方法を修得する。 (3) 関心のあるテーマを見つけ、論理的かつ説得力のあるレポートを作成する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション (課題提出型) 第2, 3回 卒論のテーマについて、論文要約 (課題提出型) 第4回 研究テーマの発表 (リアルタイム型) 第5, 6回 先行文献調査 (課題提出型) 第7回 卒業論文の書き方 (リアルタイム型) 第8回 先行文献調査 (課題提出型) 第9~15回 発表と議論 (リアルタイム型)			
* 今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
授業外学習 (予習・復習)			
予習: 指示された参考書、論文などに予め目を通し、課題をして予習しておくこと。 復習: 授業内容を基に各自参考文献を調べるなど復習しておくこと。			
教科書			
必要に応じて適宜指示する。			
参考書			
必要に応じて適宜指示する。			
成績の評価基準			
発表の準備・内容、プレゼンテーション、ディスカッションへの積極的な参加、期末レポートにより総合的に評価する。			
オフィスアワー			
授業、会議以外の時間 (あらかじめ連絡のこと)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション; アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

備考 (受講要件)

ゼミ生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2215			
科目名			
考古学研究C (旧 考古学地域論)			
英語名			
Archaeology C			
開講学科		コース	
人文学科		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
中村直子		099-285-7270	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		k8315479@kada.i.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
南九州の先史時代・古代の様相について、鹿児島大学に所在する「鹿児島大学構内遺跡」をモデルとして、発掘調査等の成果をもとに当時の社会状況について復元し、解説する。			
学修目標			
(1) 鹿児島大学構内遺跡の地理的環境を理解する。 (2) 南九州先史時代の生業活動とその変遷について理解する。 (3) 南九州先史時代の物質文化について理解する。 (4) 南九州先史時代から古代への社会変化について理解する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション 第2回：先史時代の時期区分と地域区分 第3回：鹿児島大学構内遺跡の立地と地形的特徴 第4回：旧石器時代の鹿児島大学構内遺跡 第5回：縄文時代草創期～早期の鹿児島大学構内遺跡 第6回：縄文時代中期～晩期の鹿児島大学構内遺跡 第7回：弥生時代の鹿児島大学構内遺跡(1) 水田稲作の開始 第8回：弥生時代の鹿児島大学構内遺跡(2) 集落構造 第9回：古墳時代の鹿児島大学構内遺跡(1) 生業 第10回：古墳時代の鹿児島大学構内遺跡(2) 居住 第11回：古墳時代の鹿児島大学構内遺跡(3) 成川式土器 第12回：古墳時代の鹿児島大学構内遺跡(4) 交易活動 第13回：古代の鹿児島大学構内遺跡(1) 古墳時代から古代の変化 第14回：古代の鹿児島大学構内遺跡(2) 鹿児島市の古代遺跡 第15回：鹿児島大学構内遺跡の変遷と特徴			
授業外学習(予習・復習)			
講義資料による予習・復習が望ましい。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
適宜、講義の中で紹介する。			
成績の評価基準			
期末試験(ノート持込可)(70%)、授業への取り組み態度(30%)			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF1502			
科目名			
人文科学基礎I			
英語名			
Humanities I			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
梁川英俊 (共同: 宮下正昭・太田純貴・富原一哉)		099-285-8891	yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
宮下正昭・太田純貴・富原一哉		前期	
授業概要			
大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修学や学生生活についての必要な手続きについて学び実行する</li> <li>・ 自身の興味関心を明確化し、学びのための土台を構築する</li> <li>・ 人文学科の教員についての基礎的な知識を得る</li> </ul>			
授業計画			
第1回	オリエンテーション(1)(基本作業の実施)(課題提出型)		
第2回	オリエンテーション(2)(質問とその回答)(課題提出型)		
第3回	人文/キャリアレクチャー(課題提出型)		
第4回	二年次以降の学びについて(1)(課題提出型)		
第5回	二年次以降の学びについて(2)(課題提出型)		
第6回	二年次以降の学びについて(3)(課題提出型)		
第7回	二年次以降の学びについて(4)(課題提出型)		
第8回	二年次以降の学びについて(5)(課題提出型)		
第9回	二年次以降の学びについて(6)(課題提出型)		
第10回	二年次以降の学びについて(7)(課題提出型)		
第11回	教員紹介のまとめと作成と自身の興味関心の明確化(1)(課題提出型)		
第12回	教員紹介のまとめと作成と自身の興味関心の明確化(2)(課題提出型)		
第13回	履修モデル(課題提出型) 第14回・15回 資格関係ガイダンス・夏休みの課題等について(課題提出型)		
課題提出型の授業はオンデマンド型、リアルタイム型に変更される可能性がある。 今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある			
授業外学習(予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修学の手続きなどについて各自で確認が必要です。また、諸手続きについては締め切りに従って各自での対応が求められる可能性があります。</li> <li>・ 随時課題を課しますので、課題についても授業外学習が必要となります。</li> </ul>			
教科書			
必要に応じてプリント等をアップロードします。			
参考書			
授業中に適宜紹介します。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4~12回についての課題提出とその内容(100%)</li> <li>・ 成績に関わる提出物が別途課される場合もある。その場合は事前に連絡する</li> </ul>			
オフィスアワ -			

原則としてメールで事前にアポイントメントを取ること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

- ・ manabaをこまめに確認してください
- ・ 前もって指定されたクラスの授業を受講してください。 実務経験のある教員による  
実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF1502			
科目名			
人文科学基礎I			
英語名			
Humanities I			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
宮下正昭 (共同: 梁川英俊・太田純貴・富原一哉)		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
修学や学生生活について必要な手続きを学び、実行する 自身の興味・関心を明確にし、学びの土台を構築する 人文学科の教員について基礎的な知識を得る			
授業計画			
第1回 オリエンテーション(1) 基本作業の実施			
第2回 オリエンテーション(2) 質問と回答			
第3回 オリエンテーション(3) 最終確認			
第4回 人文/キャリアレクチャー			
第5回 二年次以降の学びについて(1)			
第6回 二年次以降の学びについて(2)			
第7回 二年次以降の学びについて(3)			
第8回 二年次以降の学びについて(4)			
第9回 二年次以降の学びについて(5)			
第10回 二年次以降の学びについて(6)			
第11回 二年次以降の学びについて(7)			
第12回 教員紹介のまとめ作成と自身の興味・関心の明確化(1)			
第13回 教員紹介のまとめ作成と自身の興味・関心の明確化(2)			
第14回 履修モデル			
第15回 資格関係ガイダンス・夏休みの課題等について			
授業外学習(予習・復習)			
修学の手続きなどについて各自、確認が必要。 随時、課題を課す可能性もある。			
教科書			
必要に応じてプリント等をアップロードする			
参考書			
授業中に適宜紹介します。			
成績の評価基準			
毎回の感想レポートなどを総合的に判断			
オフィスアワ -			
原則としてメールで事前にアポイントメントを取ること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14 回中 14 回

備考（受講要件）

manabaをこまめに確認を。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF1503			
科目名			
人文科学基礎II			
英語名			
Humanities II			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
宮下正昭 (共同: 梁川英俊・太田純貴・富原一哉)		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
学年全体の合同授業とグループワークを組み合わせで行います。合同授業は大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション(1) (夏休みの課題確認) (対面型)			
第2回 オリエンテーション(2) (質問とその回答) (対面型)			
第3回 教員インタビュー (遠隔・リアルタイム型)			
第4回 教員インタビューの情報交換とまとめ (対面型)			
第5回 グループワーク(1) (遠隔・リアルタイム型)			
第6回 グループワーク(2) (遠隔・リアルタイム型)			
第7回 グループワーク(3) (遠隔・リアルタイム型)			
第8回 グループワーク(4) (遠隔・リアルタイム型)			
第9回 グループワーク(5) (対面型)			
第10回 グループワーク(6) (対面型)			
第11回 留学ガイダンス (遠隔・オンデマンド型)			
第12回 発表会(1) (遠隔・リアルタイム型)			
第13回 発表会(2) (遠隔・リアルタイム型)			
第14回 発表会(3) (遠隔・リアルタイム型)			
第15回 まとめと意見交換 (対面型)			
授業外学習 (予習・復習)			
成果発表にむけた準備のため、予習・復習が必要です。 また、随時課題を課しますので、課題についても授業外学習が必要となります。			
教科書			
適宜授業中にプリント等を配布します。			
参考書			
適宜授業中に紹介します。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業への取り組み (30%)</li> <li>・発表会 (30%)</li> <li>・授業で指示された課題提出物 (40%)</li> </ul>			
オフィスアワ -			
原則としてメールで事前にアポイントメントを取ること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション;			

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

## 備考（受講要件）

この授業は対面形式と遠隔形式を併用して行う。ただし、状況によっては授業形式や内容が変更となる可能性がある。授業形態等を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF1503			
科目名			
人文科学基礎II			
英語名			
Humanities II			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
梁川英俊 (共同: 宮下正昭・太田純貴・富原一哉)			yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
宮下正昭・太田純貴・富原一哉		後期	
授業概要			
<p>学年全体の合同授業とグループワークを組み合わせで行います。合同授業は大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。</p> <p>この授業は対面形式と遠隔形式を併用して行います。ただし、状況によっては授業形式や内容が変更となる可能性があります。授業形態等を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知します。</p>			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能の必須アイテムを習得する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション(1) (夏休みの課題確認) (対面型) 第2回 オリエンテーション(2) (質問とその回答) (対面型) 第3回 教員インタビュー (遠隔・リアルタイム型) 第4回 グループワーク(1) (遠隔・リアルタイム型)教員 第5回 インタビューの情報交換とまとめ (対面型) 第6回 グループワーク(2) (遠隔・リアルタイム型) 第7回 グループワーク(3) (遠隔・リアルタイム型) 第8回 グループワーク(4) (遠隔・リアルタイム型) 第9回 グループワーク(5) (対面型) 第10回 グループワーク(6) (対面型) 第11回 留学ガイダンス (遠隔・オンデマンド型) 第12回 発表会(1) (遠隔・リアルタイム型) 第13回 発表会(2) (遠隔・リアルタイム型) 第14回 発表会(3) (遠隔・リアルタイム型) 第15回 まとめと意見交換 (対面型)			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>グループワークに関しては毎回1-2時間程度の復習が必要となります。</p> <p>また成果発表に関しては3-4時間程度の予習が必要となります。</p> <p>また別途、随時課題を課しますので、課題についても各1-2時間程度の授業外学習が必要となります。</p>			
教科書			
適宜授業中にプリント等を配布します			
参考書			
適宜授業中に紹介します。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業への取り組み (30%)</li> <li>・発表会 (30%)</li> <li>・授業で指示された課題提出物 (40%)</li> </ul>			
オフィスアワ -			

原則として事前にメールで教員と連絡をとること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

前もって指定されたクラスの授業を受講して下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF1502			
科目名			
人文科学基礎I			
英語名			
Humanities I			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田純貴 (共同: 宮下正昭・梁川英俊・富原一哉)		099-285-7576	yota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
宮下正昭・梁川英俊・富原一哉		前期	
授業概要			
大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修学や学生生活についての必要な手続きについて学び実行する</li> <li>・ 自身の興味関心を明確化し、学びのための土台を構築する</li> <li>・ 人文学科の教員についての基礎的な知識を得る</li> </ul>			
授業計画			
第1回	オリエンテーション(1)(基本作業の実施)(課題提出型)		
第2回	オリエンテーション(2)(質問とその回答)(課題提出型)		
第3回	人文/キャリアレクチャー(課題提出型)		
第4回	二年次以降の学びについて(1)(課題提出型)		
第5回	二年次以降の学びについて(2)(課題提出型)		
第6回	二年次以降の学びについて(3)(課題提出型)		
第7回	二年次以降の学びについて(4)(課題提出型)		
第8回	二年次以降の学びについて(5)(課題提出型)		
第9回	二年次以降の学びについて(6)(課題提出型)		
第10回	二年次以降の学びについて(7)(課題提出型)		
第11回	教員紹介のまとめと作成と自身の興味関心の明確化(1)(課題提出型)		
第12回	教員紹介のまとめと作成と自身の興味関心の明確化(2)(課題提出型)		
第13回	履修モデル(課題提出型)		
第14回	資格関係ガイダンス・夏休みの課題等について(1)(課題提出型)		
第15回	資格関係ガイダンス・夏休みの課題等について(2)(課題提出型)		
<p>課題提出型の授業はオンデマンド型、リアルタイム型に変更される可能性がある。 今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修学の手続きなどについて各自で確認が必要です。また、諸手続きについては締め切りに従って各自での対応が求められる可能性があります。</li> <li>・ 随時課題を課しますので、課題についても授業外学習が必要となります。</li> </ul>			
教科書			
必要に応じてプリント等をアップロードします。			
参考書			
授業中に適宜紹介します。			
成績の評価基準			
・ 第4~12回についての課題提出とその内容(100%)			

・成績に関わる提出物が別途課される場合もある。その場合は事前に連絡する

オフィスアワ -

原則としてメールで事前にアポイントメントを取ることを。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

・manabaをこまめに確認してください

・前もって指定されたクラスの授業を受講してください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF1503			
科目名			
人文科学基礎II			
英語名			
Humanities II			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田純貴 (共同: 宮下正昭・梁川英俊・富原一哉)			yota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
宮下正昭・梁川英俊・富原一哉		後期	
授業概要			
<p>学年全体の合同授業とグループワークを組み合わせで行います。合同授業は大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。</p> <p>この授業は対面形式と遠隔形式を併用して行います。ただし、状況によっては授業形式や内容が変更となる可能性があります。授業形態等を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知します。</p>			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション(1) (夏休みの課題確認) (対面型) 第2回 オリエンテーション(2) (質問とその回答) (対面型) 第3回 教員インタビュー (遠隔・リアルタイム型) 第4回 グループワーク(1) (遠隔・リアルタイム型) 第5回 グループワーク(2) (遠隔・リアルタイム型) 第6回 インタビューの情報交換とまとめ (対面型) 第7回 グループワーク(3) (遠隔・リアルタイム型) 第8回 グループワーク(4) (遠隔・リアルタイム型) 第9回 グループワーク(5) (対面型) 第10回 グループワーク(6) (対面型) 第11回 留学ガイダンス (遠隔・オンデマンド型) 第12回 発表会(1) (遠隔・リアルタイム型) 第13回 発表会(2) (遠隔・リアルタイム型) 第14回 発表会(3) (遠隔・リアルタイム型) 第15回 まとめと意見交換 (対面型)			
授業外学習 (予習・復習)			
グループワークの準備などで、授業外学習が必要になる場合があります。			
教科書			
適宜授業中にプリント等を配布します。			
参考書			
適宜授業中に紹介します。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業への取り組み (30%)</li> <li>・発表会 (30%)</li> <li>・授業で指示された課題提出物 (40%)</li> </ul>			
オフィスアワ -			
原則として事前にメールでアポイントメントを取ることを。			
アクティブ・ラーニング			

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

前もって指定されたクラスの授業を受講して下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

多元地域文化コース基礎I (旧 コース基礎演習1)

## 英語名

Course Basics 1

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 必修科目

演習

2単位

2年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

石田智子 (共同: 金井静香・多田蔵人)

ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

金井静香・多田蔵人

前期

## 授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行います。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学びます。

新型コロナウイルス感染症対応のため、当初の予定を変更しています。  
今後もスケジュールに変更が生じる可能性があります。  
大学ホームページやmanabaをチェックして、最新情報を確認するようにしてください。

このシラバスの情報は4月19日に更新しました。

## 学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

## 授業計画

基本的にすべて課題提出型で実施します。  
授業の詳細は、第1回ガイダンスで説明します。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「ゼミ所属に関する調書」作成
- 第3回 「ゼミ所属に関する調書」等の確認・修正
- 第4回 研究実践レクチャー1-1: フィールド分野
- 第5回 研究実践レクチャー1-2: フィールド分野
- 第6回 研究実践レクチャー2-1: 言語・文学分野
- 第7回 研究実践レクチャー2-2: 言語・文学分野
- 第8回 研究実践レクチャー3-1: 歴史・社会分野
- 第9回 研究実践レクチャー3-2: 歴史・社会分野
- 第10回 グループワーク・レクチャーの実践1
- 第11回 グループワーク・レクチャーの実践2
- 第12回 グループワーク・レクチャーの実践3
- 第13回 成果発表1
- 第14回 成果発表2
- 第15回 成果発表3

## 授業外学習 (予習・復習)

成果発表に向けた準備のため、予習・復習が必要です。  
また、随時課題を課しますので、課題についても授業外学習が必要となります。

## 教科書

特になし

## 参考書

特になし

成績の評価基準

グループワークの成果：60%、諸課題：40%

オフィスアワ -

質問や相談等がある場合は、manabaの個別指導、E-mail (ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp) で随時受け付けます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

平成21年度以前の入学生は「フィールド学」に読み替え。また「コース基礎演習1」にも読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

多元地域文化コース基礎I (旧 コース基礎演習1)

## 英語名

Course Basics 1

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 必修科目

演習

2単位

2年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

金井静香 (共同: 石田智子・多田蔵人)

099-285-7553

kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

石田智子・多田蔵人

前期

## 授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行う。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学ぶ。

新型コロナウイルス感染症対応のため、当初の予定を変更しています。

今後もスケジュールに変更が生じる可能性があります。

大学ホームページやmanabaをチェックして、最新情報を確認するようにしてください。

## 学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

## 授業計画

基本的にすべて課題提出型で実施します。

授業の詳細は、第1回ガイダンスで説明します。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「ゼミ所属に関する調書」作成
- 第3回 「ゼミ所属に関する調書」等の確認・修正
- 第4回 研究実践レクチャー1-1: フィールド分野
- 第5回 研究実践レクチャー1-2: フィールド分野
- 第6回 研究実践レクチャー2-1: 言語・文学分野
- 第7回 研究実践レクチャー2-2: 言語・文学分野
- 第8回 研究実践レクチャー3-1: 歴史・社会分野
- 第9回 研究実践レクチャー3-2: 歴史・社会分野
- 第10回 グループワーク・レクチャーの実践1
- 第11回 グループワーク・レクチャーの実践2
- 第12回 グループワーク・レクチャーの実践3
- 第13回 成果発表1
- 第14回 成果発表2
- 第15回 成果発表3

## 授業外学習 (予習・復習)

成果発表に向けた準備のため、予習・復習が必要。

また、随時課題を課すので、課題についても授業外学習が必要となる。

## 教科書

特になし

## 参考書

特になし

## 成績の評価基準

グループワークの成果: 60%、諸課題: 40%

オフィスアワ -

質問や相談等がある場合は、manabaの個別指導、E-mailで受け付けます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

平成28年度以前入生は「コース基礎演習1」に読み替え。

前もって指定されたクラスの授業を受講すること。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

多元地域文化コース基礎I (旧 コース基礎演習1)

## 英語名

Course Basics 1

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 必修科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

2年

## 担当教員

多田蔵人 (共同: 金井静香・石田智子)

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

兼城系絵、内山弘

## 前後期

前期

## 授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行います。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学びます。

## 学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

## 授業計画

1. オリエンテーション・グループ分け
2. 「ゼミ所属にかんする調書」および「これからの勉強にかんする興味関心のアンケート調査」の書き方
3. 「ゼミ所属にかんする調書」および「これからの勉強にかんする興味関心のアンケート調査」の作成に向けた準備
4. 論文やレポートをかくための準備1: 文章の種類 (著作・論文・書評など) と扱い方の基本
5. 論文やレポートをかくための準備2: 文献の調査のやり方
6. 論文やレポートをかくための準備3: 引用の基本
7. 「ゼミ所属にかんする調書」および「これからの勉強にかんする興味関心のアンケート調査」の確認、修正および提出
8. 研究実践レクチャー1-1
9. 研究実践レクチャー1-2
10. 研究実践レクチャー1-3
11. グループワーク、レクチャーの実践1
12. グループワーク、レクチャーの実践2
13. 成果発表1
14. ゼミ所属発表、成果発表2
15. 夏休みの課題等について

## 授業外学習 (予習・復習)

成果発表に向けた準備のため、予習・復習が必要です。また、随時課題を課しますので、課題についても授業外学習が必要となります。

## 教科書

特になし

## 参考書

特になし

## 成績の評価基準

グループワークの成果: 60%、諸課題: 40%

## オフィスアワー

随時

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15/15

備考 (受講要件)

多元地域文化コースの2年次以降の学生であること (ただし、旧カリキュラムの学生は、コース基礎演習に読み替え)

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DDF2208

## 科目名

多元地域文化コース基礎II (旧 コース基礎演習2)

## 英語名

Course Basics 2

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	2年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金井静香 (共同: 石田智子・多田蔵人)		099-285-7553	kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
石田智子・多田蔵人		後期	

## 授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行います。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学びます。

## 学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

## 授業計画

遠隔形式でおこなう予定ですが、状況によっては対面形式に変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

第1回ガイダンスで全体のスケジュールについて説明します。

- 第1回 ガイダンス・論文やレポートをかくための準備1 文章の種類(著作・論文・書評など)と扱い方の基本
- 第2回 論文やレポートをかくための準備2 文献の調査方法
- 第3回 論文やレポートをかくための準備3 引用の基本
- 第4回 グループワーク・レクチャーの実践1
- 第5回 グループワーク・レクチャーの実践2
- 第6回 グループワーク・レクチャーの実践3
- 第7回 成果発表1
- 第8回 成果発表2
- 第9回 成果発表3
- 第10回 グループワーク・レクチャーの実践1
- 第11回 グループワーク・レクチャーの実践2
- 第12回 グループワーク・レクチャーの実践3
- 第13回 成果発表1
- 第14回 成果発表2
- 第15回 成果発表3

## 授業外学習(予習・復習)

成果発表に向けた準備のため、予習・復習が必要です。  
また、随時課題を課しますので、課題についても授業外学習が必要となります。

## 教科書

特になし

## 参考書

特になし

## 成績の評価基準

グループワークの成果: 70%、諸課題: 30%

オフィスアワ -

あらかじめアポイントをとること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中12回

備考(受講要件)

平成28年度以前入生は「コース基礎演習2」に読み替え。

前もって指定されたクラスの授業を受講すること。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

多元地域文化コース基礎II (旧 コース基礎演習2)

## 英語名

Course Basics 2

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 必修科目

演習

2単位

2年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

石田智子 (共同: 金井静香・多田蔵人)

099-285-8906

ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

金井静香・多田蔵人

後期

## 授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行う。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学ぶ。

## 学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

## 授業計画

遠隔形式でおこなう予定ですが、状況によっては対面形式に変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

第1回ガイダンスで全体のスケジュールについて説明します。

- 第1回 ガイダンス・論文やレポートをかくための準備1 文章の種類(著作・論文・書評など)と扱い方の基本
- 第2回 論文やレポートをかくための準備2 文献の調査方法
- 第3回 論文やレポートをかくための準備3 引用の基本
- 第4回 グループワーク・レクチャーの実践1
- 第5回 グループワーク・レクチャーの実践2
- 第6回 グループワーク・レクチャーの実践3
- 第7回 成果発表1
- 第8回 成果発表2
- 第9回 成果発表3
- 第10回 グループワーク・レクチャーの実践1
- 第11回 グループワーク・レクチャーの実践2
- 第12回 グループワーク・レクチャーの実践3
- 第13回 成果発表1
- 第14回 成果発表2
- 第15回 成果発表3

## 授業外学習(予習・復習)

成果発表に向けた準備のため、予習・復習が必要。  
また、随時課題を課するので、課題についても授業外学習が必要となる。

## 教科書

必要に応じてプリント等を配布する。

## 参考書

授業中に適宜紹介する。

## 成績の評価基準

グループワークの成果: 70%、諸課題: 30%

## オフィスアワ -

原則としてメールで事前にアポイントメントを取ること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中12回

備考(受講要件)

平成28年度以前入生は「コース基礎演習2」に読み替え。

前もって指定されたクラスの授業を受講すること。

実務経験のある教員による実践的授業

科目名

多元地域文化コース基礎II (旧 コース基礎演習2)

英語名

Course Basics 2

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 必修科目

演習

2単位

2年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

多田蔵人 (共同: 金井静香・石田智子)

itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

金井静香・石田智子

後期

授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行う。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学ぶ。

学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

授業計画

遠隔形式でおこなう予定ですが、状況によっては対面形式に変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

第1回ガイダンスで全体のスケジュールについて説明します。

- 第1回 ガイダンス・論文やレポートをかくための準備1 文章の種類(著作・論文・書評など)と扱い方の基本
- 第2回 論文やレポートをかくための準備2 文献の調査方法
- 第3回 論文やレポートをかくための準備3 引用の基本
- 第4回 グループワーク・レクチャーの実践1
- 第5回 グループワーク・レクチャーの実践2
- 第6回 グループワーク・レクチャーの実践3
- 第7回 成果発表1
- 第8回 成果発表2
- 第9回 成果発表3
- 第10回 グループワーク・レクチャーの実践1
- 第11回 グループワーク・レクチャーの実践2
- 第12回 グループワーク・レクチャーの実践3
- 第13回 成果発表1
- 第14回 成果発表2
- 第15回 成果発表3

授業外学習(予習・復習)

成果発表に向けた準備のため、予習・復習が必要。  
また、随時課題を課するので、課題についても授業外学習が必要となる。

教科書

必要に応じてプリント等を配布する。

参考書

適宜紹介する

成績の評価基準

グループワークの成果: 70%、諸課題: 30%

オフィスアワ -

随時

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中12回

備考 (受講要件)

前もって指定されたクラスの授業を受講すること。

実務経験のある教員による実践的授業

英語オーラルa (旧 英語コミュニケーション1 )  
ナンバリングコード

科目名

英語オーラルa (旧 英語コミュニケーション1 )

英語名

Oral English a

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

スティーブ・コダ

coke@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

This is an upper-intermediate course that will teach you how to give presentations in English. The course will follow a pattern of lecture/activities one week, followed by presentations the next week. You will be expected to make about 6 presentations throughout the course. For the test, the class will be split into two halves, the 1st group will present the first week. The 2nd group will present the second week.

学修目標

This course aims to build your confidence in using real English. You will be able to learn how to give an effective presentation. The skills that you learn you will be able to use when you give presentations in Japanese too.

授業計画

Week 1 Introduction  
Week 2 Physical aspects of presentations 1 : Posture and eye contact  
Week 3 Presentation practice and peer evaluation  
Week 4 Physical aspects of presentations 2 : Gestures  
Week 5 Presentation practice and peer evaluation  
Week 6 Oral aspects of presentations 1 : Voice inflection  
Week 7 Presentation practice and peer evaluation  
Week 8 Oral aspects of presentations 2 : Pronunciation  
Week 9 Presentation practice and peer evaluation  
Week 10 Presentation structure 1 : Structure  
Week 11 Presentation practice and peer evaluation  
Week 12 Presentation structure 2 : Powerpoint  
Week 13 Presentation practice and peer evaluation  
Week 14 Individual research for final presentation  
Week 15 Final presentation and peer evaluation (1st group)  
Week 16 Final presentation and peer evaluation (2nd group)

授業外学習 (予習・復習)

You will be expected to prepare the contents of your presentations. You will also be required to watch presentations on YouTube

教科書

You will be given handouts

参考書

None

成績の評価基準

Presentations in class 50%  
Final Presentation 50%

オフィスアワ -

Anytime ok, but mail me to make sure I will be available

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

Every week

備考 (受講要件)

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

この授業は5月6日以降Zoomでリアルタイムで行う予定です。

実務経験のある教員による実践的授業

文化人類学実習 2 (旧 フィールド学実習 (文化人類学))  
ナンバリングコード

科目名

文化人類学実習 2 (旧 フィールド学実習 (文化人類学))

英語名

Cultural Anthropology Fieldwork 2

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

実験

1単位

2年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

尾崎孝宏・兼城系絵

099-285-8902 (兼城)

itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp (兼城)

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

前期の海外実習にて収集したデータをもとに、

- 1) 調査実習報告会のためのパワーポイントの作成。調査資料の整理、分析、報告書の作成、パワーポイントの作成などを、グループ単位で行う。
- 2) 実習報告会で、作成したパワーポイントを用いて報告を行う。
- 3) 国際交流モデルに関するテキストを作成する

学修目標

調査資料の整理やまとめ方、発表方法に関する一連のスキルを体得する。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 実習調査資料の整理1
- 第3回 実習調査資料の整理2
- 第4回 報告書へ向けたプロット整理1
- 第5回 報告書へ向けたプロット整理2
- 第6回 追加調査の検討
- 第7回 追加調査の実施
- 第8回 報告書の中間報告会
- 第9回 プレゼンテーションのプロット整理
- 第10回 プレゼンテーションの作成
- 第11回 プレゼンテーションの確認
- 第12回 プレゼンテーションの実施
- 第13回 報告書第1稿の検討会
- 第14回 報告書のブラッシュアップ
- 第15回 報告書の推敲および完成版作成

授業外学習 (予習・復習)

それぞれの関心にもとづいた文献の収集・講読も合わせて行うこと。

教科書

指定しない。

参考書

授業時に適宜紹介する。

成績の評価基準

発表内容やレポート、テキスト作成への貢献度により総合的に評価する。

オフィスアワー

各教員に確認すること

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

後期開講の「文化人類学実習1」および冬季集中講義「文化人類学1」も併せて受講すること。  
また、授業時間外でのプレゼンテーション等もあるため、スケジュールには注意すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

文化人類学実習1 (旧 フィールド学実習 (文化人類学))  
ナンバリングコード

FHS-DGH2242

科目名

文化人類学実習1 (旧 フィールド学実習 (文化人類学))

英語名

Cultural Anthropology Fieldwork 1

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

実習

2単位

2年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

尾崎孝宏・兼城系絵

099-285-8902

itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

韓国において実施するフィールドワークの準備作業および実習を行う。

本授業は前期授業期間に毎週行う準備作業と、12月下旬に行う実習の2部より構成される。

準備作業には、およそ以下のような項目が含まれる

- ・韓国に関する一般的な情報及び歴史に関する情報収集
- ・渡航に関する準備 (旅券、チケットの確保)
- ・現地での最低限のコミュニケーション手段の獲得
- ・具体的な調査地の選定
- ・現地での調査手段および項目に関する検討
- ・共同調査者 (全北大学校人文学部の学生) との事前連絡
- ・調査用具等の準備

実習では、全北大学校人文学部の学生と共同で全州市内で社会調査を行い、最終日に全北大学校で調査報告会を行う。

コロナウイルスの状況次第で、テレビ会議システム等を利用したりリモートでの調査および発表に切り替える可能性がある

学修目標

韓国での現地調査に必要な渡航準備ができる。

現地調査を実施する地域の各種状況が把握できる。

現地調査の実施計画が立てられる。

社会調査に必要な一連のスキルを体得する。

異文化における社会調査を実施する。

異文化について包括的に理解する。

授業計画

冬季休暇期間中に、韓国全羅北全州市で4日間程度の現地調査を行なう。

調査時期および現地滞在日程の詳細については第1回目のガイダンスで説明する。

なお、本授業で行うのは第15回までの事前準備であり、第16回以降は夏季集中講義として別途開講するので注意すること。

第1回 ガイダンス

第2回 調査グループ作成

第3回 渡航に関する準備作業

第4回 調査地域の一般情報の把握

第5回 調査地域の歴史に関して

第6回 現地調査に関する意義の確認

第7回 コミュニケーション手段について

第8回 共同調査者との事前連絡

第9回 実施計画案Aの発表

第10回 調査計画に関する実施可能性の検討

第11回 調査計画の修正作業 (1)

第12回 調査計画案Bの発表  
 第13回 調査計画の修正作業 (2)  
 第14回 最終計画案の確定と実施日時の調整  
 第15回 調査用具等の最終チェック  
 第16回～第19回：調査第1日目  
 第20回～第23回：調査第2日目  
 第24回～第27回：調査第3日目  
 第28回～第30回：調査第4日目 (調査報告会)

#### 授業外学習 (予習・復習)

事前調査期間中の予習として、以下に挙げた教科書・参考書に目を通し、理解しておく必要がある。  
 事前調査期間中の復習として、各界の授業で示された課題を实践してみる必要がある。  
 調査中は、調査テーマや調査地について必要に応じ、予習・復習をすること。

#### 教科書

佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法』新曜社。

#### 参考書

石坂 浩一ほか 2014 『現代韓国を知るための60章』明石書店  
 など、適宜授業中に紹介する。

#### 成績の評価基準

授業への取り組み態度 (40%)、調査の質 (40%)、グループ作業への貢献 (20%) による。

#### オフィスアワ -

各教員に確認すること

#### アクティブ・ラーニング

グループワーク；フィールドワーク；プレゼンテーション；

#### アクティブ・ラーニング (その他の内容)

#### アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中12回

#### 備考 (受講要件)

後期に開講する「文化人類学実習2」および冬季集中講義「文化人類学実習」も受講可能であることを受講要件とする。

実習に要する費用は自己負担とする。

希望者多数の場合、引率等の関係から履修制限を行なう (上限20名)。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

英語オーラルb (旧 英語コミュニケーション1B・C)  
ナンバリングコード

FHS-DIH2141

科目名

英語オーラルb (旧 英語コミュニケーション1B・C)

英語名

Oral English b

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

3年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

スティーブ コダ

099-285-7573

coke@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

This class will focus on discussion and debate. Each week we will do different tasks in class to build your discussion skills on social issues as well as learning how to organise and participate in a formal debate. You will also be expected to continue your discussion practice outside of the classroom.

This class will be useful if you are taking the 教員採用試験

学修目標

The primary goal of this class is to learn how to structure your ideas for discussions as well as learning how to hold a formal debate

授業計画

Week 1 Introduction  
Week 2 Social issue 1: Smartphones  
Week 3 Discussion/Debate Practice  
Week 4 Social issue 2: University education  
Week 5 Discussion/Debate Practice  
Week 6 Social issue 3: Population growth  
Week 7 Discussion/Debate Practice  
Week 8 Social issue 4: Work-Life balance  
Week 9 Discussion/Debate Practice  
Week 10 Social issue 5: Internet  
Week 11 Discussion/Debate Practice  
Week 12 Social issue 6: Equality in the workplace  
Week 13 Discussion/Debate Practice  
Week 14 Social issue 7: Robots  
Week 15 Discussion/Debate Practice

授業外学習 (予習・復習)

You will be expected to gather information to use in your discussions/debates.

You will also be expected to watch speeches and debates on Youtube - more information will be given about this in class

教科書

None - handouts will be given in class

参考書

You will need access to an English dictionary - using your smartphone is ok.

成績の評価基準

100% Homework: Vocabulary tests, Written work

オフィスアワ -

Anytime is ok, but to be sure please mail me

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

Every week

備考 (受講要件)

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

この授業は5月6日以降Zoomでリアルタイムで行う予定です。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF4101			
科目名			
卒業科目（ヨーロッパ・アメリカ文化）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
柴田健志	285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
卒業論文作成の指導			
学修目標			
卒業論文の作成			
授業計画			
卒業論文作成にあたって随時			
授業外学習（予習・復習）			
自分の研究テーマに関する文献調査および論文の執筆			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
1) テーマが明確に設定されていること			
2) 論旨が明確であること			
3) 文献が的確に参照されていること			
オフィスアワ -			
随時			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
卒業予定の学生			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4101			
科目名			
卒業科目（ヨーロッパ・アメリカ文化）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
柴田健志	285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
卒業論文作成の指導			
学修目標			
卒業論文の作成			
授業計画			
卒業論文作成にあたって随時			
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある			
授業外学習（予習・復習）			
自分の研究テーマに関する文献調査および論文の執筆			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
1) テーマが明確に設定されていること			
2) 論旨が明確であること			
3) 文献が的確に参照されていること			
オフィスアワ -			
随時			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
卒業予定の学生			
実務経験のある教員による実践的授業			

## ナンバリングコード

FHS-DIH2141

## 科目名

英語オーラルc (旧 英語コミュニケーション1D)

## 英語名

Oral English c

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

スティーブ コダ

285-7573

coke@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

Each week we will do discussions in English about a different social taboo topic. The course will contain authentic material and realistic tasks that will help prepare you for effective communication in everyday life. The topics will be chosen by the class at the beginning of semester

## 学修目標

This course will be focus on improving all of your English skills - listening, reading, writing and speaking. Although the course is not specifically designed as practice for English exams, it will include activities that will be helpful.

## 授業計画

Week 1 Introduction

Week 2 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 3 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 4 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 5 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 6 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 7 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 8 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 9 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 10 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 11 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 13 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 14 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 15 Unit from the course chosen by the class in Week 1

## 授業外学習 (予習・復習)

You will be given homework most weeks - this will include grammar practice and vocabulary building

## 教科書

Handouts will be given

## 参考書

Bring your dictionaries!

## 成績の評価基準

Homework 100%

## オフィスアワ -

Anytime is ok, but to be sure mail me

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

## アクティブ・ラーニング (その他の内容)

## アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中 15回

備考(受講要件)

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

この授業は5月6日以降Zoomでリアルタイムで行う予定です。

実務経験のある教員による実践的授業

英語ライティングc (旧 英語コミュニケーション2D)  
ナンバリングコード

FHS-DIH2142

科目名

英語ライティングc (旧 英語コミュニケーション2D)

英語名

Academic Writing in English c

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

スティーブ コダ

285-7573

coke@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

You will learn essay structure and how to analyse paragraphs and essays. You will also learn how to use discourse markers and conjunctives effectively. You will be expected to communicate actively with other students about your writing in and outside of the classroom

Unless there is a change in the current situation, this class will be online.

学修目標

This class is an introduction to academic writing in English concentrating on essay structure for explaining graphs, tables and charts. Classwork will be divided between discussion and writing. This class will be helpful if you are going to take the 教員採用試験 or IELTS or TOEFL.

The class will be held realtime on Zoom.

授業計画

Week 1 Introduction  
Week 2 Writing overviews  
Week 3 Writing about graphs  
Week 4 Writing about tables and bar graphs  
Week 5 Making comparisons 1 : Vocabulary  
Week 6 Making comparisons 2 : Data comparison  
Week 7 Essay feedback  
Week 8 Ranking information  
Week 9 Writing about processes 1 : Vocabulary  
Week 10 Writing about processes 2 : Explaining processes  
Week 11 Writing about charts  
Week 12 Writing about maps  
Week 13 Grammar practice  
Week 14 Vocabulary practice  
Week 15 Essay feedback and final essay preparation  
Week 16 Final essay

授業外学習 (予習・復習)

You will be given homework most weeks

教科書

Handouts will be given

参考書

Bring your dictionaries!

成績の評価基準

Classwork 50%

Final essay 50%

オフィスアワ -

Anytime is ok, but mail me to be on the safe side.

アクティブ・ラーニング

グループワーク;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
日本語学概説B(旧 国語学概論)			
英語名			
Introduction to Japanese Linguistics B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
内山弘		099-285-8906	pon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>日本語を古代語と近代語に区分する場合、近代語はさらに中世語、近世語、近現代語に区分される。高等学校の教科で言えば、中世語と近世語は古文、近現代語は現代文に相当するが、前者は中古語から近現代語へと移行する過渡期の言語であり、中世語～近現代語を近代語として連続的に見ていくことで古文と現代文を有機的に捉えることが可能になる。</p> <p>本講義では、近代語を「中世語」「近世語」「近現代語」の三つに分け、それぞれ部門ごとに概説していく。</p>			
学修目標			
・近代語を通時的に見ていくことで、国語の授業のために必要な近代語についての総合的・体系的な知識を得ることができる。			
授業計画			
*遠隔形式(リアルタイム配信授業)でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。			
<p>第1回：はじめに 古代語から近代語へ</p> <p>第2回：前期中世語(1) 院政・鎌倉期の資料その1</p> <p>第3回：前期中世語(2) 院政・鎌倉期の資料その2</p> <p>第4回：前期中世語(3) 院政・鎌倉期の音韻・表記</p> <p>第5回：前期中世語(4) 院政・鎌倉期の文法と語彙</p> <p>第6回：後期中世語(1) 南北朝・室町期の資料その1</p> <p>第7回：後期中世語(2) 南北朝・室町期の資料その2</p> <p>第8回：後期中世語(3) 南北朝・室町期の音韻・表記</p> <p>第9回：後期中世語(4) 南北朝・室町期の文法</p> <p>第10回：後期中世語(5) 南北朝・室町期の語彙</p> <p>第11回：近世語(1) 近世語の資料</p> <p>第12回：近世語(2) 近世語の音韻・表記</p> <p>第13回：近世語(3) 近世語の文法・語彙</p> <p>第14回：近現代語(1) 共通語と現代仮名遣の成立</p> <p>第15回：近現代語(2) その他</p> <p>レポート</p>			
授業外学習(予習・復習)			
予習：配布された講義資料に一通り目を通しておくこと。			
復習：配布された講義資料と講義ノートを見返して講義内容を自分なりに整理すること。			
教科書			
適宜資料を manaba を通して配布する。			
参考書			
特に定めない。			
成績の評価基準			
レポート(100%)			

\* 状況によって対面形式に変更になった場合は定期試験(100%)に変更となる可能性がある。その場合は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

オフィスアワ -

火曜5限(内山研究室)。電子メールでの相談は常時受け付ける。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中0回

備考(受講要件)

免許教科の必修授業科目: 国語

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2210			
科目名			
日本史概説			
英語名			
Introduction to Japanese history			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
金井 静香・厩尾 達哉・佐藤宏之		099-285-7553	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
テキストに指定した書籍の内容を、下記の「授業計画」のように分割して講義する予定である。			
学修目標			
(1) 日本史の用語に関する知識を習得する。			
(2) 日本史を通史的に説明できる。			
(3) 日本史に関する研究動向を理解する。			
授業計画			
第1回 古代国家の成立			
第2回 律令国家の形成と展開			
第3回 摂関政治の成立と地方社会			
第4回 中世社会の成立と展開			
第5回 内乱と一揆の時代			
第6回 中世文化の展開			
第7回 幕藩体制の確立			
第8回 幕藩体制の動揺と解体			
第9回 都市と民衆の文化			
第10回 近代国家の成立			
第11回 政党政治の発展と社会運動			
第12回 アジア太平洋戦争			
第13回 戦後改革			
第14回 復興と高度経済成長			
第15回 現代の世界と日本			
定期試験			
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺?喜編『概論日本歴史』(吉川弘文館)			
参考書			
授業中に適宜紹介または配布する。			
成績の評価基準			
期末試験の配点を、授業の担当回数に応じて古代20点、中世20点、近世・近現代60点とする。			
オフィスアワー			
あらかじめアポイントをとること。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DIH2124

## 科目名

アメリカ文学概説B(旧 アメリカ小説論)

## 英語名

Introduction to American Literature B

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

講義

## 単位数

2単位

## 開講期

1~4年

## 担当教員

竹内勝徳

## 連絡先(TEL)

285-8874

## 連絡先(MAIL)

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

なし

## 前後期

後期

## 授業概要

20世紀と21世紀におけるアメリカ文学の成長を、自然主義文学や前衛芸術からの発展、並びに度重なる戦争や社会の腐敗に対する反動、そして、資本主義社会やインターネットの普及に支えられたグローバルな次元での価値観の交錯の結果として捉え、主としてモダニズムとポストモダニズムの文学について論じる。主な作家としてドライサー、フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、フォークナー、スタインベック、ケルアック、モリソン、デリーロ、オースターを取り上げる。彼らの経歴や文学の特質を時代背景に照らして詳しく紹介し、その作品の抜粋を英語で読む。また、2度の世界大戦と核兵器の開発によってもたらされた価値観の変容、機械産業の発展とインターネットやグローバリゼーションに同期して生じたポストモダンな世界観についても文学作品と関連させて述べる。授業内ではディスカッションの時間を設け、英語によるディスカッションの後、ミニレポートを提出してもらう。

## 学修目標

20世紀以降のアメリカ文学をテーマとして講義を行う。到達目標は以下のとおりである。(1) 20世紀以降のアメリカ文学の特質について理解する共に、各作家や作品の特徴を具体的に学ぶ。(2) 20世紀以降のアメリカ文学の時代背景、並びに、グローバル社会の中心的担い手としてのアメリカの文化的特質と社会のあり方について理解を深める。(3) 代表的な作品の抜粋を読むことで英語の読解力を向上させる。(4) 英語でのディスカッションを通して英語の表現力を高める。(5) 作家たちの経歴を知ること、海外における社会や職業のあり方について理解を深める。

## 授業計画

- 第1回 アメリカ帝国主義の発展と経済大国への道 (online)
  - 第2回 モダニズム文学と自然主義文学の特質 (online)
  - 第3回 セオドア・ドライサー『シスター・キャリー』とダーウィニズム (online)
  - 第4回 スコット・フィッツジェラルド『夜はやさし』と消費社会 (online)
  - 第5回 アーネスト・ヘミングウェイ『誰がために鐘は鳴る』と前衛芸術 (online)
  - 第6回 ウィリアム・フォークナー『八月の光』の小説構造 (online)
  - 第7回 ジョン・スタインベックと労働運動 (online)
  - 第8回 第2次大戦後の文化状況 (online)
  - 第9回 ビート・ジェネレーションと戦後のアメリカ (online)
  - 第10回 サリンジャー『ライ麦畑で捕まえて』 (online)
  - 第11回 ポストモダニズムの特質 (online)
  - 第12回 トニ・モリソン『ピラブド』と人種 (online)
  - 第13回 ドン・デリーロ『ホワイト・ノイズ』と1980年代のアメリカ (online)
  - 第14回 ポール・オースター『ガラスの街』と価値観の交錯 (online)
  - 第15回 20、21世紀アメリカ文学の特質 (online)
- 定期試験 (online)

## 授業外学習(予習・復習)

予習：授業中に配ったプリントを読み、英文を訳しておく。  
復習：ノートに書いたことを整理し、授業中になされた指示に従って調査等を行う。

## 教科書

早瀬博範『21世紀からみるアメリカ文学史』(英宝社)

参考書

授業中に配布する文学作品からの抜粋のプリント

成績の評価基準

期末試験50%、中間レポート25%、ミニレポート25%の割合で成績評価を行う。

オフィスアワ -

月曜昼休み

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中5回

備考(受講要件)

英語力の向上に意欲をもっていること。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DGH2210

## 科目名

人文地理学概説

## 英語名

Introduction to Human Geography

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

講義

## 単位数

2単位

## 開講期

1～4年

## 担当教員

小林善仁

## 連絡先 (TEL)

099-285-7557

## 連絡先 (MAIL)

zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

人文地理学は、地域の人文的諸事象に注目して、地域の仕組みとその特性を明らかにするものである。人文地理学の問題・関心や研究手法などを解説し、身近な地域の話題を取り上げて概説する。

## 学修目標

地域を研究する際の地理学的方法を理解する。  
日本の地理的諸問題を列挙できる。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス (課題提出型)
- 第2回 地理学の見方・考え方 (課題提出型)
- 第3回 地理学の諸資料 (地図) (課題提出型)
- 第4回 地形図の読図 (課題提出型)
- 第5回 新旧地形図の比較 (課題提出型)
- 第6回 人口地理学1 日本の人口 (課題提出型)
- 第7回 人口地理学2 九州の人口 (課題提出型)
- 第8回 都市地理学1 日本の都市 (課題提出型)
- 第9回 都市地理学2 九州の都市 (課題提出型)
- 第10回 都市地理学3 都市の内部構造 (課題提出型)
- 第11回 農業地理学1 日本の農業 (課題提出型)
- 第12回 農業地理学2 九州の農業 (課題提出型)
- 第13回 交通地理学1 日本の交通 (課題提出型)
- 第14回 交通地理学2 九州の交通 (課題提出型)
- 第15回 総括 (課題提出型)
- 第16回 期末試験

今後の状況次第で、授業回数や内容は変更となる可能性がある。なお、課題提出型講義は教室での通常講義に変更する可能性がある。

## 授業外学習 (予習・復習)

配布する資料の内容・図表を熟読し、興味を持った事柄は図書・インターネットなどで調べてみて下さい。

## 教科書

特になし。

## 参考書

講義の中で適宜紹介する。

## 成績の評価基準

- ・各回の課題 (60%)
- ・期末試験 (40%)

## オフィスアワ -

講義・会議の時間以外ならいつでも可。

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

地図帳を持っているものは、講義に持参すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2219			
科目名			
比較民俗学概説			
英語名			
Introduction to Comparative Folklore			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
町 泰樹		099-285-8902 (兼城研究室)	machi@kagoshima-ct.ac.jp (町のアドレス)
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>私たちがふだん何気なく行っている年中行事や人生儀礼、お祭りには、どのような意味があるのだろうか？民俗学は、それらの文化や慣習について、各地の事例を比較しながら考えていく学問である。本授業では、身近な民俗事象に目を向けながら、民俗学で展開されてきた理論や概念を紹介していく。そして、変化の激しい現代において、これまで培われてきた民俗文化がどのような役割を果たしているのかについて考えていこう。</p>			
学修目標			
<p>?民俗学の学問的流れやその中で生まれた諸理論について理解する。          ?民俗学の方法論について理解する。          ?身近な生活世界にある諸事象に対し興味を持ち、民俗学の知見を用いて考察することができる。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション&amp;民俗学とはどのような学問なのか？          第2回：俗信の由来について 経験的民俗学の視点          第3回：若者と通過儀礼 「子ども」はどのように「大人」になっていくのか          第4回：生と死の民俗学 出産と葬儀について          第5回：民俗学を切り開いた先人 南方熊楠と柳田國男          第6回：旅する民俗学者：宮本常一について          第7回：境界の民俗学 あの世・妖怪・来訪神          第8回：行事と祭りの民俗学？ 年中行事の意味          第9回：行事と祭りの民俗学？ 観光と民俗          第10回：家族について考える          第11回：奄美の民俗 祖先祭祀とシャーマニズム          第12回：奄美の民俗 近代における変容          第13回：自然環境と民俗          第14回：災害と民俗          第15回：総括：現代社会における民俗学の意味</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
特に予習の必要は無いが、講義の中で取り上げた人物や重要語句については、授業後に各自で調べ、知識を深めること。			
教科書			
授業時に、適宜資料を配布する。			
参考書			
<p>佐野賢治等編1996『現代民俗学入門』吉川弘文館          小野重朗1990『南九州の民俗文化』法政大学出版局          宮本常一1984『忘れられた日本人』岩波書店          八木透・政岡伸洋編2004『こんなに面白い民俗学』ナツメ社</p>			
成績の評価基準			
ミニッツ・ペーパー (30%) とレポート課題 (70%) で評価する。			

授業を進めるなかで、学生の理解度を勘案して評価基準を変更する際には、必ず説明を行う。

オフィスアワ -

授業終了後もしくは非常勤講師控室  
質問等があれば、メールをください。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全15回中10回の授業でミニッツペーパーを課す。

備考（受講要件）

特になし。民俗の世界を一緒に楽しみましょう！

本講義は、リアルタイム遠隔授業とオンデマンド授業を組み合わせで実施します。

詳細については、初回のオリエンテーション時に説明します。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DHH2222

## 科目名

東洋史概説A (旧 東洋史概説)

## 英語名

Introduction to East Asian History A

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

講義

2単位

1～4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

福永善隆

099(285)7561

fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

テーマ：中国古代史

私たちは一口に中国というが、その領域には様々な文化・地域を含んでいる。それは中国語といっても、北京を中心とする北京方言にすぎず、例えば広東語などそれ以外の地域には方言としては片づけられないほどの様々なバリエーションがあることに示されている。この多様な地域を含む中国が現在まで分裂を繰り返しながら再び統合され、まがりなりにも統一を保ってこられたのは1人の皇帝が天下を治める皇帝支配体制が維持されてきたことが大きな要因の一つである。本講義は皇帝支配体制の確立・変遷を中心として、中国文明の誕生から唐までの歴史展開を論じる。

## 学修目標

- 1) 中国古代の歴史展開を把握する。
- 2) 各王朝の時代の特徴を理解する。
- 3) 1・2 中国における歴史展開の原理を把握する。

## 授業計画

- 第1回：イントロダクション(オンデマンド型)
- 第2回：中国文明の誕生(オンデマンド型)
- 第3回：中華王朝の原形：殷・周(オンデマンド型)
- 第4回：統一への胎動：春秋戦国時代(オンデマンド型)
- 第5回：始皇帝の大帝国：秦(オンデマンド型)
- 第6回：皇帝支配体制の確立：前漢(オンデマンド型)
- 第7回：皇帝支配体制と儒学：新(オンデマンド型)
- 第8回：皇帝支配体制の変容：後漢(オンデマンド型)
- 第9回：分裂時代の始まり：三国(オンデマンド型)
- 第10回：貴族制の時代：晋・南朝(オンデマンド型)
- 第11回：異民族の王朝：北朝(オンデマンド型)
- 第12回：中国の再統一：隋(オンデマンド型)
- 第13回：国際色豊かな王朝：唐(オンデマンド型)
- 第14回：唐の衰亡(オンデマンド型)
- 第15回：総括(課題提示型)

授業回数・各回の内容は今後の状況次第で変更する可能性がある。

## 授業外学習(予習・復習)

(予習) 愛宕元・富谷至編『中国の歴史上【古代 中世】』(昭和堂、2009年)の該当箇所を前もって読んでくることを推奨する。

(復習) 理解を深めるために関係文献を読むことを推奨する。

## 教科書

使用しない。適宜プリントを配布。

## 参考書

堀敏一『中国通史』(講談社学術文庫、2000年)  
 梅原郁『皇帝政治と中国』(白帝社、2003年)  
 愛宕元・富谷至編『中国の歴史上【古代 中世】』(昭和堂、2009年)  
 川勝義雄『魏晋南北朝』(講談社学術文庫)  
 川本芳昭『中国の歴史5 中華の崩壊と拡大』(講談社)  
 氣賀沢保規『中国の歴史5 絢爛たる世界帝国』(講談社) など

## 成績の評価基準

期末試験・レポートは実施しない。  
 各回の授業時間中にresponにて回答する小設問・コメント及び学期中に提出する小レポート(2~3回、800字程度の予定)を総合して評価する。

## オフィスアワ -

授業・会議以外であればいつでも可。

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

## 備考(受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH2114			
科目名			
倫理学概説			
英語名			
Introduction to Ethics			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
柴田健志		285-7533	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		siba@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		後期	
授業概要			
倫理学の基本的な考え方を講義します。			
学修目標			
倫理学の基本的な考え方を理解すること。			
授業計画			
*遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において 通知する。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス【リアルタイム型】</li> <li>2 倫理学とは(問い)【リアルタイム型】</li> <li>3 幸福【リアルタイム型】</li> <li>4 義務【リアルタイム型】</li> <li>5 徳【リアルタイム型】</li> <li>6 道徳判断【リアルタイム型】</li> <li>7 道徳【リアルタイム型】</li> <li>8 自己と他者【リアルタイム型】</li> <li>9 個人と社会【リアルタイム型】</li> <li>10 正義、自由、平等【リアルタイム型】</li> <li>11 医療【リアルタイム型】</li> <li>12 環境【リアルタイム型】</li> <li>13 ビジネス【リアルタイム型】</li> <li>14 倫理学とは(答え)【リアルタイム型】</li> <li>15 全体のまとめ【リアルタイム型】</li> </ol>			
授業外学習(予習・復習)			
予習 テキストの読解			
復習 テキストの問題点の検討			
教科書			
柘植尚則『プレップ倫理学』弘文堂			
参考書			
特にありません。授業の際に適宜紹介します。			
成績の評価基準			
レポートによっておこないます(100%)。評価基準は(1)問題提起の的確さ(2)結論の妥当性(3)論理の整合性、以上3点です。			
オフィスアワー			
授業終了後			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中 3 回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DFH2518

科目名

芸術文化史概説（旧 ポピュラーカルチャー論）

英語名

Introduction to History of Art & Culture

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

講義

2単位

1～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

太田純貴

099-285-7576

yota@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

芸術文化は、哲学・ポピュラーカルチャー・宗教などの様々な領域に影響を与えると同時に、そうした領域から影響を受けてきた。本講義では、現在の私たちの生活にも密接に関与し、哲学の動向にもした20世紀の西洋の芸術文化を取り上げ、基礎的な事項や鍵となる流れについて解説を行なう。

学修目標

1. 芸術文化に関する基礎的な知識を修得する。
2. 芸術文化の大きな動向について理解する。
3. 芸術文化と他領域の相互の影響関係を把握する。

授業計画

- 第1回： ガイダンス（オンデマンド型）
- 第2回： 芸術についての小レポート（課題提出型）
- 第3回： 19-20世紀の芸術・文化概略（オンデマンド型）
- 第4回： 未来派（オンデマンド型）
- 第5回： ダダ（オンデマンド型）
- 第6回： シュルレアリスム：作品・アーティスト（オンデマンド型）
- 第7回： シュルレアリスム：技法（オンデマンド型）
- 第8回： 中間総括（オンデマンド型）
- 第9回： マルセル・デュシャン（オンデマンド型）
- 第10回： 芸術の中心地の移動（オンデマンド型）
- 第11回： ポップアート（オンデマンド型）
- 第12回： 抽象表現主義（オンデマンド型）
- 第13回： ミニマルアート（オンデマンド型）
- 第14回： ランドアート（オンデマンド型）
- 第15回： 総括

オンデマンド型の授業は、課題提出型・リアルタイム型に変更される可能性がある。

授業外学習（予習・復習）

授業中に指示する作品や文献について目を通しておくこと。最悪、人名とどんなことが書かれているかだけでも整理して覚えておくこと。

教科書

特になし。適宜、授業スライドやプリントを配布する。

参考書

末永昭和『20世紀の美術』美術出版社など。授業中にも適宜指示する。

成績の評価基準

1. 各回のミニレポート（50%）
2. 期末レポート（50%）

\* レポートについてはさまざまな視点より、総合的に評価する。

オフィスアワ -

追って指示する（ガイダンス時に指示する予定）

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

1. H29年度以前にポピュラーカルチャー論を受講した学生も、受講していない学生も、H29年度以降の新科目名・芸術文化史概説を一度だけ受講できる（新科目名になってから重複することはできない）
2. 授業予定・内容は、必要に応じて変更することがある。
3. 私語やスマートフォン・携帯の使用などは授業妨害と見なし、そうした学生の受講は認めない。該当する学生には退席を命じることがある。その場合、以後の受講は認めない。
4. レポートの剽窃・盗作に関しては、言うまでもなく認めない。剽窃・盗作行為が確認された場合は、何らかの処分がくだされる可能性がある。
5. 成績評価がレポートの場合、授業中に指示した形式や参考資料（文献、ウェブ、映像含む）の提示の仕方を守っていないレポートに関しては、採点の対象外とする。
6. 受講制限（上限100名）あり

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH2113			
科目名			
哲学概説（旧 哲学概論）			
英語名			
Introduction to Western Philosophy			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
近藤和敬		099-285-8910	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
近代とはなにか。このことを理解するうえでは、西洋哲学についての理解を欠くことができない。本授業では、「西洋＝近代」とは何であり、それにたいして自分たちがどのように位置づけられうるのかということを理解するために、古代から現代にいたる哲学史の概要を学びながら、考えていく。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西洋近代についての理解を深める。</li> <li>2. 哲学史と近現代社会の関係について理解する。</li> <li>3. 現代哲学を理解するうえで必要な基本的知識を獲得する。</li> </ol>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 現代社会と哲学（課題提出型）</li> <li>2. プラトンの哲学1：プラトン以前の哲学（オンデマンド型）</li> <li>3. プラトンの哲学2：ソクラテスとプラトン（オンデマンド型）</li> <li>4. プラトンの哲学3：イデア論（オンデマンド型）</li> <li>5. アリストテレスの哲学1：プラトンとアリストテレス（オンデマンド型）</li> <li>6. アリストテレスの哲学2：アリストテレスの著作と哲学（オンデマンド型）</li> <li>7. アリストテレスの哲学3：論理学と形而上学</li> <li>8. まとめ（課題提出型）</li> <li>9. デカルトの哲学1：アリストテレスとデカルト（オンデマンド型）</li> <li>10. デカルトの哲学2：ルネッサンス、自然科学、宗教改革（オンデマンド型）</li> <li>11. デカルトの哲学3：『省察』（オンデマンド型）</li> <li>12. カントの哲学1：啓蒙思想とドイツ哲学（オンデマンド型）</li> <li>13. カントの哲学2：理性と形而上学という問題（オンデマンド型）</li> <li>14. カントの哲学3：『純粹理性批判』（オンデマンド型）</li> <li>15. まとめ（課題提出型）</li> <li>16. 期末テストは行わない</li> </ol>			
授業外学習（予習・復習）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業でもちいるスライドのPDFを授業の前後に読んで予習と復習をすること。</li> <li>・授業で取り上げた書籍などを授業後などに自分で読むことを復習として行うことが望ましい。</li> <li>・授業期間中に読書レポートを課す（課題図書の場合は授業中に提示する）。</li> </ul>			
教科書			
とくにありません。授業中に資料を配布する。			
参考書			
貫成人『哲学マップ』筑摩書房、2004年。 伊藤邦武『物語 哲学の歴史』中公新書、2012年。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・途中の小テスト（40％）とまとめの小テスト（60％）で評価する。</li> <li>・授業期間中に課される読書レポートを提出していることが、評価を受けることとなる（レポートそれ自体は評価の対象とはならない）。</li> </ul>			

オフィスアワ -

授業のあとなど随時

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

昨年度の哲学概論と重複履修をしないようにしてください。

本授業のための受講要件は特にありませんが、本授業を受けていることが、哲学研究(講義)の受講のために推奨されます。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2222			
科目名			
東洋史概説B (旧 東洋史概説)			
英語名			
Introduction to East Asian History B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
大田由紀夫		099-285-7560	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		ota@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>テーマ：中国近世史</p> <p>北宋～清代（10世紀～20世紀初頭）の時期は、我々に馴染みの深い「伝統中国」社会が形成され、現代中国の基盤が出来上がる時期である。本講義は、幾多の内外の動乱・変動を経てその社会を成熟させていった近世中国史を、東北アジアにおける歴史動向と関連させながら講義する予定である。</p>			
学修目標			
1．近世中国社会の特質について理解し、2．近世中国史に関する基礎的歴史知識を獲得する。			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：時代区分論と「唐宋変革」</p> <p>第3回：10世紀以降の東アジアの歴史動向</p> <p>第4回：分裂の時代 唐末五代</p> <p>第5回：北宋期の国家・社会・経済</p> <p>第6回：王安石の新政と宋の南遷</p> <p>第7回：東アジア史の「南北朝」時代 金と南宋</p> <p>第8回：モンゴル帝国の形成とその時代</p> <p>第9回：モンゴルの「平和」 ユーラシアの「大交流」期</p> <p>第10回：明の成立と洪武体制の形成</p> <p>第11回：「南倭北虜」の時代</p> <p>第12回：清朝の登場と東アジア世界</p> <p>第13回：清朝支配の確立</p> <p>第14回：清の「盛世」</p> <p>第15回：「伝統」中国社会の変容</p>			
<p>各回はすべてオンデマンド型遠隔授業。なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知する。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>（予習）10世紀宋代以降の中国史概説書に目を通しておくことが望ましい。（復習）講義資料・ノートをもとに前回の講義内容について復習して理解を深めておくことが望ましい。</p>			
教科書			
特になし。			
参考書			
宮崎市定『中国史 下巻』（岩波書店）			
成績の評価基準			
受講態度（30%）、提出課題および期末レポート（70%）などから総合評価する。			
オフィスアワー			
授業・会議等以外であればいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

講義内容に関する学生の疑問・質問ならびにその応答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中1回ないし2回

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DIH2123

## 科目名

アメリカ文学概説A (旧 アメリカ文学)

## 英語名

Introduction to American Literature A

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

講義

## 単位数

2単位

## 開講期

1~4年

## 担当教員

竹内勝徳

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

アメリカ文学の成立を、植民地時代のピューリタン文学、ならびに、ヨーロッパから持ち込まれた小説の形式の融合として捉え、18世紀の文学勃興期を概観したうえで、19世紀前半に起ったアメリカ最初の文学運動であるアメリカン・ルネサンス、並びに、南北戦争以降に台頭したリアリズム文学について論じる。主な作家としてエマソン、ホーソーン、ポー、メルヴィル、ソロー、トウェイン、ジェイムズ、ショパンを取り上げる。彼らの経歴や文学の特質を時代背景に照らして詳しく紹介し、その作品の抜粋を英語で読む。また、資本主義の進展から生じた産業構造の変化や交通の発達、さらには、それらに付随して起った社会変容や文化の発展についても、文学作品と関連させて述べる。授業内ではディスカッションの時間を設け、英語によるディスカッションの後、ミニレポートを提出してもらう。

## 学修目標

19世紀のアメリカ文学をテーマとして講義を行う。到達目標は以下のとおりである。(1) 19世紀アメリカ文学の特質について理解する共に、各作家や作品の特徴を具体的に学ぶ。(2) 19世紀アメリカ文学の時代背景や現代のグローバル社会に通じるアメリカ社会・文化の源流について理解を深める。(3) 代表的な作品の抜粋を読むことで英語の読解力を向上させる。(4) 英語でのディスカッションを通して英語の表現力を高める。(5) 作家たちの経歴を知ること、海外における社会や職業のあり方について理解を深める。

## 授業計画

- 第1回 植民地時代からアメリカの独立 ケーパーとブラウン (オンデマンド)
  - 第2回 資本主義の進展とロマンティシズムの広がり (オンデマンド)
  - 第3回 アメリカン・ルネサンスの全体像 (オンデマンド)
  - 第4回 エッセイと詩 (エマソン「アメリカの学者」、ポー「大烏」、ロングフェロー) (オンデマンド)
  - 第5回 小説 (メルヴィル『タイピー』『ピリー・パッド』、ポー「黒猫」) (オンデマンド)
  - 第6回 小説 (ストウ夫人『アンクル・トムの小屋』、マライア・カミングズ『点灯夫』、スーザン・ウォーナー『広い、広い世界』) (オンデマンド)
  - 第7回 小説 (ホーソーン『七破風の家』) (オンデマンド)
  - 第8回 社会運動 (ソロー『ウォールデン』、エマソン『英国の特質』、ジョン・ブラウン) (オンデマンド)
  - 第9回 大衆文化 (オンデマンド)
  - 第10回 黒人奴隷制度と南北戦争 (オンデマンド)
  - 第11回 戦後復興とリアリズム文学の関係 (オンデマンド)
  - 第12回 小説 (マーク・トウェイン『イノセント・アブロード』) (オンデマンド)
  - 第13回 小説 (ヘンリー・ジェイムズ『ねじの回転』) (オンデマンド)
  - 第14回 小説 (ケイト・ショパン『目覚め』) (オンデマンド)
  - 第15回 19世紀アメリカ文学の特質 (オンデマンド)
- レポート

## 授業外学習 (予習・復習)

予習：授業中に配ったプリントを読み、英文を訳しておく。

復習：ノートに書いたことを整理し、授業中になされた指示に従って調査等を行う。

## 教科書

早瀬博範『21世紀からみるアメリカ文学史』(英宝社)

参考書

授業中に配布する文学作品からの抜粋のプリント

成績の評価基準

最終レポート50%、中間レポート25%、ミニレポート25%の割合で成績評価を行う。

オフィスアワ -

月曜昼休み

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中5回

備考 (受講要件)

英語力の向上に意欲を持っていること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH2220			
科目名			
西洋史概説			
英語名			
Introduction to Western History			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
藤内哲也		099-285-8863	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>現代世界の諸問題を理解するうえで、西洋世界の歴史を学ぶことはきわめて重要です。本授業ではヨーロッパ文明の源泉としての古代世界から、ヨーロッパの政治的・社会的な枠組みが形成された中世世界、さらには現代の国際関係や経済構造に直結する近世・近代世界におけるおもなトピックについて概観し、その歴史的な経緯や背景を理解します。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋史に関する概説的な知見を習得します</li> <li>・現代世界を理解するための知識や視座を獲得します</li> </ul>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション 西洋史へのまなざし  第2回：古代ギリシア・ローマ  第3回：キリスト教の成立と発展  第4回：中世国家の形成  第5回：都市と農村  第6回：ローマ・カトリック教会の発展  第7回：災厄の世紀：中世後期の世界  第8回：ルネサンスと宗教改革  第9回：社団国家と絶対王政  第10回：ヨーロッパ諸国の世界進出  第11回：啓蒙の時代  第12回：市民革命の時代  第13回：国民国家の形成と発展  第14回：帝国主義の時代  第15回：現代世界への展望</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>【予習】参考文献を読み、西洋史に関する基本的な知見を得ておきます。  【復習】授業内容についてまとめたうえで、分からない点や関心のある点については、参考文献や読書案内で紹介した文献などを読み、さらに理解を深めます</p>			
教科書			
とくに指定しません			
参考書			
<p>1 服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』ミネルヴァ書房、2006年  2 小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』ミネルヴァ書房、2011年  3 南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵責任編集『新しく学ぶ西洋の歴史 アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年</p>			
成績の評価基準			

以下のレポートにより、評価します

(1) 毎回の小レポート(60%) : 課題への取り組みを重視します

(2) 期末レポート(40%) : 授業内容の理解を重視します

オフィスアワ -

随時(メールにてアポをとること)

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回

備考(受講要件)

遠隔授業にともない、成績評価の方法を変更しました

授業内容には変更はありません

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2212			
科目名			
地誌学概説（旧 地誌学講義）			
英語名			
Introduction to Regional Geography			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先（TEL）	
小林善仁		099-285-7557	
共同担当教員		連絡先（MAIL）	
		zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		後期	
授業概要			
地誌学は、自然と人文の両面から地域を記述し、その特徴（地域性）を明らかにする学問である。本講義では、居住や生産活動（農業）などを素材として、日本の文化と世界の文化を比較し、その共通点と違いについて解説する。			
学修目標			
1. 世界各地の文化の違いを理解できる。 2. 世界の文化との比較を通じて、日本の文化の特徴を理解することができる。 3. 地域の違いを作り出す要因について、自然と人文の両面から理解することができる。			
授業計画			
基本的に遠隔形式（オンデマンド型）で行う予定であるが、状況によって対面形式に変更する可能性がある。その際は、manabaのコースニュースと授業内で通知する。			
第1回 ガイダンス 【課題提出型】			
第2回 地理学のなかの地誌学 【オンデマンド型】			
第3回 世界と日本の地域区分1 - 世界の地域区分 【オンデマンド型】			
第4回 世界と日本の地域区分2 - 日本の地域区分 【オンデマンド型】			
第5回 自然環境と人々の暮らし1 - 環境決定論・環境可能論 【オンデマンド型】			
第6回 自然環境と人々の暮らし2 - 環境論の展開 【オンデマンド型】			
第7回 自然環境と人々の暮らし3 - 環境と産業 【オンデマンド型】			
第8回 日本の地誌1 - 日本の自然環境 【オンデマンド型】			
第9回 日本の地誌2 - 日本の集落・農業 【オンデマンド型】			
第10回 日本の地誌3 - 九州地方の地誌（自然環境） 【オンデマンド型】			
第11回 日本の地誌4 - 九州地方の地誌（集落・農業）【オンデマンド型】			
第12回 東アジアの地誌1 - 自然環境 【オンデマンド型】			
第13回 東アジアの地誌2 - 集落・農業 【オンデマンド型】			
第14回 ヨーロッパの地誌1 - 自然環境 【オンデマンド型】			
第15回 ヨーロッパの地誌2 - 集落・農業 【オンデマンド型】			
授業外学習（予習・復習）			
配布する資料の内容・図表を熟読し、興味を持った事柄は図書・インターネットなどで調べてみて下さい。			
教科書			
特になし。			
参考書			
講義の中で適宜紹介する。			
成績の評価基準			
期末レポート（80%）、複数回の小レポート（20%）。			
オフィスアワー			
講義・会議の時間以外ならいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

地図帳を持っているものは、講義に持参すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学概説B (旧 考古学概説)			
英語名			
Introduction to Archaeology B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石田智子		099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>考古学の基礎的な方法論や思考方法を習得することを目的として、考古学という学問を概観する。考古資料から情報を読み取る基礎的方法を理解した上で、過去の人間活動や社会、歴史を復元する方法や、関連諸科学の活用方法を身につける。さらに、現代社会における考古学の役割について認識を深める。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対応のため、予定を変更しています。 今後もスケジュールが変更する可能性があります。ご了承ください。</p> <p>このシラバスの情報は4月19日に更新しました。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・考古学の基礎的方法論や思考方法を身につける。</li> <li>・発掘調査で出土した遺構や遺物の分析・解釈の方法を習得する。</li> <li>・考古学と関連諸科学の関係を理解する。</li> <li>・現代社会において考古学を学ぶ意義を認識する。</li> </ul>			
授業計画			
すべてオンデマンド型授業で実施します。			
第1回 考古学とはなにか 第2回 考古学の資料 第3回 考古学の調査方法 第4回 考古学の歴史1：ヨーロッパ・アメリカ 第5回 考古学の歴史2：日本 第6回 考古学の基礎的方法1：層位論 第7回 考古学の基礎的方法2：分類 第8回 考古学の基礎的方法3：時間論 第9回 考古学の基礎的方法4：空間論 第10回 考古学の基礎的方法5：機能論 第11回 考古学の基礎的方法6：社会復元 第12回 考古学と関連諸科学1：年代測定 第13回 考古学と関連諸科学2：環境復元 第14回 考古学と関連諸科学3：産地推定 第15回 現代社会と考古学			
授業外学習 (予習・復習)			
授業で配布した資料を参考に予習・復習することが望ましい。			
教科書			
なし。授業中に資料を適宜配布。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			

成績の評価基準

毎回コメント [ 20% ] + 小レポート ( 3 ~ 4 回 ) [ 50% ] + 受講態度 ( 事前・事後学習の有無、質問内容など ) [ 30% ] で評価する。

オフィスアワ -

manabaの個別指導、E-mail ( ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp ) または法文学部 1 号館 4 階 ( 石田研究室 ) ( 来室の場合は事前にアポイントを取ることが望ましい ) で受け付けます。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り ( ミニッツ・ペーパー等 ) ;

アクティブ・ラーニング ( その他の内容 )

アクティブ・ラーニング ( 授業回数 )

15 回中 15 回

備考 ( 受講要件 )

最新の研究成果や発掘調査情報を随時取り入れるため、当初の講義内容を変更する場合がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
イギリス文学概説B (旧 イギリス文学)			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大和高行			yamato@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
イギリス文学を研究するに際し必要とされる英文学史・研究方法についての知識ならびに論理的な文章を書く能力の涵養を図ります。			
学修目標			
1、イギリス英文学史・研究方法の特徴を述べることができる 2、論理的な文章により、イギリス文学作品を批評することができる			
授業計画			
第1回 ガイダンス (授業の目的、授業の進め方、評価基準等についての説明) (課題提出型)			
第2回 スティーヴンソン (課題提出型)			
第3回 コナン・ドイル (オンデマンド型)			
第4回 ハーディ (オンデマンド型)			
第5回 オスカー・ワイルド (オンデマンド型)			
第6回 キップリング (オンデマンド型)			
第7回 ブラム・ストーカー (オンデマンド型)			
第8回 ジョセフ・コンラッド (オンデマンド型)			
第9回 バリ (オンデマンド型)			
第10回 ロレンス (オンデマンド型)			
第11回 バーナード・ショー (オンデマンド型)			
第12回 モーム (オンデマンド型)			
第13回 T. S. エリオット (オンデマンド型)			
第14回 ジェイムズ・ジョイス (オンデマンド型)			
第15回 まとめと総合的評価。レポートを課し、最後にまとめの授業を行う。(オンデマンド型)			
授業中に小テストを課す場合がある。			
* オンデマンド型講義は、リアルタイム型や教室での通常講義に変更になる可能性がある。			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書に予め目を通し、予習しておくこと。また、毎回の講義を受けた後に、復習しておくこと。(学習に係る標準時間は約1時間)			
教科書			
中村邦生・大神田 丈二・木下 卓(編著)『たのしく読めるイギリス文学 - 作品ガイド150 (シリーズ・文学ガイド)』ミネルヴァ書房、1994年。			
参考書			
今井宏(編)『世界歴史大系 イギリス史2 近世』、山川出版社、1990年。			
鹿児島近代初期英国演劇研究会(訳)『王政復古期シェイクスピア改作戯曲選集』九州大学出版会、2018年。			
トマス・ハーディ / 井上宗次・石田英二訳『テス 上 (岩波文庫 赤 240-1)』岩波書店、1960年。			
トマス・ハーディ / 井上宗次・石田英二訳『テス 下 (岩波文庫 赤 240-2)』岩波書店、			

1960年。

トマス・ハーディ / 川本静子訳 『日陰者ジュード 上 』(中公文庫 八 10-1)、中央公論新社、2007年。

トマス・ハーディ / 川本静子訳 『日陰者ジュード 下 』(中公文庫 八 10-2)、中央公論新社、2007年。

那須省一 『イギリス文学紀行 - - ディケンズ、オーウェルからブロンテ姉妹まで - - 名作ゆかりの地をさるく2』、書肆侃侃房、2013年。

那須省一 『アメリカ文学紀行 - - マーク・トウェイン、ヘミングウェイからサリンジャーまで - - 名作ゆかりの地をさるく』、書肆侃侃房、2012年。

福士航ほか 『フィクションのポリティックス』英宝社ブックレット、2015年。

その他、必要に応じて適宜、指定する。

#### 成績の評価基準

授業の感想レポート(30%)、期中・期末レポート(30%)、授業内での小テスト(40%)とし総合的に評価します。

#### オフィスアワ -

曜日・時間：毎週水曜日9:15～10:15、場所：大和研究室

#### アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；

#### アクティブ・ラーニング(その他の内容)

#### アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

#### 備考(受講要件)

教職(英語)の必修授業科目。私語厳禁。質問大歓迎。課題は提出期限を厳守すること。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

該当せず。

ナンバリングコード			
科目名			
英語学概説B(旧 英語学)			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
末松信子		099-285-7572	suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
本講義では、英語の歴史、地域・社会階層・ジェンダーと英語との関係、語用論的視点からの英語コミュニケーションの事例研究、語彙・文法・音韻からみる英語らしさについて学び、国際共通語としての英語の現状、構造面・運用面の特徴について考察する。			
学修目標			
「英語とは何か」を考え、その機能や構造について学び、英語によるコミュニケーションの諸相について英語学の視点から考察することができる			
授業計画			
第1回： オリエンテーション(課題提出型)			
第2回： 英語学の「新しい」概論(課題提出型)			
第3回： さまざまな英語(課題提出型)			
第4回： 課題の解説、英語学概論(オンデマンド型)			
第5回： 母語英語の特徴(イギリス英語、オーストラリア英語)(オンデマンド型)			
第6回： 母語英語の特徴(アメリカ英語、カナダ英語)(オンデマンド型)			
第7回： 英語と社会的属性(オンデマンド型)			
第8回： 英語の発話行為(オンデマンド型)			
第9回： 英語のポライトネスと談話分析(オンデマンド型)			
第10回： 英語文化とコミュニケーション・スタイル(オンデマンド型)			
第11回： 英語の非言語コミュニケーション(オンデマンド型)			
第12回： 語彙からみる英語らしさ(オンデマンド型)			
第13回： 文法からみる英語らしさ(オンデマンド型)			
第14回： 音韻からみる英語らしさ(オンデマンド型)			
第15回： 総括(オンデマンド型)			
* 今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
* オンデマンド型講義は、リアルタイム型や教室での通常講義等に変更になる可能性がある。			
授業外学習(予習・復習)			
予習： 指定された箇所をあらかじめ読んで予習しておくこと。			
復習： 授業内容を基に各自参考書を調べるなどして復習しておくこと。			
教科書			
平賀正子『ベーシック 新しい英語学概論』ひつじ書房、2016年			
参考書			
必要に応じて適宜、指示する。			
成績の評価基準			
英語の機能や構造について理解しているか、英語コミュニケーションの諸相を英語学の視点から考察できるかについて、毎回の意見・質問の提出(35%)、複数回の小レポート(25%)、期末レポート(40%)で評価する。			
オフィスアワ -			
水曜日 10:30~12:00			

木曜日 10:30~12:00

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2221			
科目名			
文化人類学概説（旧 文化人類学）			
英語名			
Introduction to Cultural Anthropology			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
尾崎孝宏		099-285-8878	ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>文化人類学とは主に、自文化以外の文化、つまり「異文化」を理解するための学問である。この授業では、文化人類学という学問の誕生と現在までに展開されてきた議論を解説する。文化人類学が歩んできた「他者」・「異文化」を「発見」し、理解を試み、また失敗してきた歴史から、文化人類学と異文化についての理解を深めてもらう。</p> <p>授業は全て遠隔（オンデマンド型）で実施する</p>			
学修目標			
1、文化人類学の主要なトピックを理解する 2、人間文化の多様性を理解する			
授業計画			
第1回 文化人類学とは何か（課題提出型） 第2回 文化人類学の誕生（オンデマンド型） 第3回 フィールドワークの誕生（オンデマンド型） 第4回 ヒトについて（オンデマンド型） 第5回 生業1（採集狩猟）（オンデマンド型） 第6回 生業2（農耕、牧畜）（オンデマンド型） 第7回 民族という概念（オンデマンド型） 第8回 家族と親族（オンデマンド型） 第9回 セクシュアリティとジェンダー（オンデマンド型） 第10回 儀礼と分類（オンデマンド型） 第11回 宗教と呪術（オンデマンド型） 第12回 交換1（クラ交換）（オンデマンド型） 第13回 交換2（交換がもたらす社会的効果）（オンデマンド型） 第14回 グローバル化と異文化（オンデマンド型） 第15回 文化人類学的発想の役立ち方（オンデマンド型）			
授業外学習（予習・復習）			
授業に関係する人名、地名、民族名、用語等について、前もって調べるように心掛ける。 授業内容の復習をその都度するように心掛ける。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
授業時に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
毎回の小レポート（50%）、期末レポート（50%）			
オフィスアワ -			
金曜日昼休み、研究室 それ以外の時間は事前予約のこと			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

2回目以降は、音声や動画の配信を予定しています。動画は長いもので30分以上ありますので、接続環境に留意してください。

実務経験のある教員による実践的授業

該当せず

ナンバリングコード			
科目名			
中国文学概説B (旧 中国文学概説)			
英語名			
Introduction to Chinese Literature B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
高津孝		099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
この講義においては、学生が中国文学をよりよく理解し、中国文学についての個別的知識を体系化できるよう、中国文学史の全体像とその枠組みについて講義をし、世界文学の中におけるその特殊性と普遍性についての認識を深めることを目標とする。この講義においては、宋代から清代の文学について述べる。			
学修目標			
授業の到達目標及びテーマ			
(1) 中国文学についての基礎知識を習得する。			
(2) 中国の詩歌についての深い理解に達する。			
(3) 中国における社会と文学の関係を理解する。			
授業計画			
第1回	オリエンテーション	(課題提出型)	
第2回	清代の文学：聊斎志異	(課題提出型)	
第3回	北宋の文学：欧陽脩と古文	(オンデマンド型)	
第4回	北宋の文学：蘇軾	(オンデマンド型)	
第5回	南宋の文学：陸游	(オンデマンド型)	
第6回	文学否定論と朱子学	(オンデマンド型)	
第7回	宋词	(オンデマンド型)	
第8回	金元の文学：元好問	(オンデマンド型)	
第9回	金元の文学：元曲	(オンデマンド型)	
第10回	明代の文学：前後七子	(オンデマンド型)	
第11回	明代の文学：陽明学と白話小説	(オンデマンド型)	
第12回	明代の文学：三国演義、西遊記	(オンデマンド型)	
第13回	明代の文学：水滸伝。金瓶梅	(オンデマンド型)	
第14回	呉偉業	(オンデマンド型)	
第15回	明清の三詩説	(オンデマンド型)	
第16回	期末レポート		
*オンデマンド型講義は、リアルタイム型や教室での通常講義に変更になる可能性がある。			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：次の授業で扱う分野について、インターネット、図書館等を利用し、予習しておくこと。約1時間。			
復習：授業中に学んだ内容について復習し、扱われた作品の意味、内容を十分に理解できるようにしておくこと。約30分			
教科書			
松原朗等著『教養のための中国古典文学史』(研文出版、2009年)			
参考書			
周勳初著『中国古典文学批評史』(高津孝訳、勉誠出版、2007年)			
川合康三編訳『中国名詩選』(上・中・下)(岩波文庫、2015年)			
成績の評価基準			

期末レポート。レポートの題目については、授業の最終回に通知する。

オフィスアワ -

金曜日・2限・高津研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

2回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DHH2233

## 科目名

アジア歴史・文化演習C1(旧 アジア史演習2)

## 英語名

Asian History &amp; Culture C1

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

2~3年

## 担当教員

大田由紀夫、福永善隆

## 連絡先(TEL)

大田(099-285-7560)、福永(  
099-285-7561)

## 連絡先(MAIL)

大田(ota@leh.kagoshima-u.ac.jp  
)、福永(  
fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp)

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

テーマ: アジア史研究入門(課題提出型+オンデマンド配信遠隔授業)

本授業では、アジア史研究とはいかなる分野であり、現在そこでどんな研究が行われているのかを、初歩的な研究文献の読解・映像資料の鑑賞などを通して学ぶ。

## 学修目標

アジア史研究という分野に対する理解を深めていくと共に、とくに日本・中国を含めた東アジアの歴史に関する基礎的知識を獲得する。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス(福永・大田)  
 第2回 近世編(1) ビデオ鑑賞(大田)  
 第3回 近世編(2) 歴史研究とは何か?(大田)  
 第4回 近世編(3) 『中国化する日本』はじめに・第1章(大田)  
 第5回 近世編(4) 『中国化する日本』第2章(大田)  
 第6回 近世編(5) 『中国化する日本』第3章(大田)  
 第7回 近世編(6) 『中国化する日本』第4章(大田)  
 第8回 近世編(7) 『中国化する日本』第10章・おわりに(大田)  
 第9回: 古代中世編? 古代中世編ガイダンス(福永)  
 第10回: 古代中世編? 『史記』と司馬遷(福永)  
 第11回: 古代中世編? 『春秋』の虚実(福永)  
 第12回: 古代中世編? 『史記』の成立(福永)  
 第13回: 古代中世編? 「正史」の形成と展開(福永)  
 第14回: 古代中世編? 「正史」の論理(福永)  
 第15回: 古代中世編? 歴史書と中国社会(福永)

なお、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知する。

## 授業外学習(予習・復習)

演習で学習する文献について事前に予習しておくことが望ましい。また、配布資料をもとに学習した部分について復習することが望ましい。

## 教科書

與那覇潤『中国化する日本』(文藝春秋、2011)、竹内康浩『「正史」はいかに書かれてきたか』(大修館書店、2002年)。

## 参考書

授業において適宜指示する。

## 成績の評価基準

演習における受講態度(30%)、レポート(70%)などから総合評価する。

オフィスアワ -

授業・会議等以外であればいつでも可。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中13回

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
アジア言語研究B(旧 中国語学)			
英語名			
Asian Linguistics B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	
三木夏華			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
日本を専門テーマとした月刊誌『知日』と、その姉妹版『知中』を講読することにより、言語、歴史、文化、宗教など分野における多分野における両国の類似性や相違点に着目し、理解を深める。 出席者はテキスト講読の際、オンデマンド授業により十分な予習を行っていることが前提となる。			
学修目標			
(1) 中国語長文の読解力を高める。 (2) 言語、歴史、宗教など多方面の学問分野から異文化研究へのアプローチの手法を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス(講義・オンデマンド)			
第2回 『山海経』について(講義・オンデマンド)			
第3回 『山海経』について: 『知日』『知中』の講読1(オンライン・課題提出型)			
第4回 『山海経』について: 『知日』『知中』の講読2(オンライン・課題提出型)			
第5回 『山海経』について: 『知日』『知中』の講読3(オンライン・課題提出型)			
第6回 『山海経』と『怪奇鳥獣図巻』について(講義・オンデマンド)			
第7回 『怪奇鳥獣図巻』について: 『知中』前半講読(オンライン・課題提出型)			
第8回 『怪奇鳥獣図巻』について: 『知中』後半講読(オンライン・課題提出型)			
第9回 中国を起源とする妖怪について(九尾狐): (講義・オンデマンド)			
第10回 中国を起源とする妖怪について(天狗): (講義・オンデマンド)			
第11回 中国を起源とする妖怪について: 『知日』『知中』の講読(オンライン・課題提出型)			
第12回 和製漢語について(講義・オンデマンド)			
第13回 和製漢語について(概論)テキストの講読: (オンライン・課題提出型)			
第14回 和製漢語: 『知日』前半講読(オンライン・課題提出型)			
第15回 和製漢語: 『知日』後半講読(オンライン・課題提出型)			
第16回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】テキスト本文を日本語に訳し、十分予習をして授業に臨むこと。 課題テーマについて十分に調査し、発表すること。(学習に係る標準時間は1時間)			
教科書			
随時紹介する。			
参考書			
随時紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度20%、manabaのレポートによる評価80%			
オフィスアワ -			
木曜日 2限			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中2回

備考(受講要件)

1年以上の中国語の学習経験を必要とする。

平成28年度以前入学生は「中国語学」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

西洋歴史・文化演習 B 1 (旧 西洋の歴史と社会演習B1)  
ナンバリングコード

科目名

西洋歴史・文化演習 B 1 (旧 西洋の歴史と社会演習B1)

英語名

Western History & Culture B1

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

藤内哲也

099-285-8863

ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

本演習では、中世から近世にかけてのヨーロッパ史に関する史料や文献を読んで、歴史研究における問題の立て方や論の進め方などを理解するとともに、西洋史研究の面白さと難しさを味わうことを主眼とし、おもに英語の論文をテキストとして、その読解を進めていきます。

学修目標

1. ヨーロッパの歴史研究の視点や問題意識を身につけることができる
2. ヨーロッパの歴史研究に必要な英語 (外国語) 文献の読解力を向上させることができる
3. レジユメの作成や、報告、討論などのスキルを向上させることができる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション・テキスト決定【オンデマンドmanaba】  
 第2回 テキスト配布・英語論文の読み方・文献検索の方法【オンデマンドmanaba】  
 第3回 英語論文を読む(1): 1 2頁【オンデマンドmanaba】  
 第4回 英語論文を読む(2): 3 4頁【オンデマンドmanaba】  
 第5回 英語論文を読む(3): 5 6頁【オンデマンドmanaba】  
 第6回 英語論文を読む(4): 7 8頁【オンデマンドmanaba】  
 第7回 英語論文を読む(5): 9 10頁【オンデマンドmanaba】  
 第8回 英語論文を読む(6): 11 12頁【オンデマンドmanaba】  
 第9回 英語論文を読む(7): 13 14頁【オンデマンドmanaba】  
 第10回 英語論文を読む(8): 15 16頁【オンデマンドmanaba】  
 第11回 英語論文を読む(9): 17 18頁【オンデマンドmanaba】  
 第12回 英語論文を読む(10): 19 20頁【オンデマンドmanaba】  
 第13回 英語論文を読む(11): 21 22頁【オンデマンドmanaba】  
 第14回 英語論文を読む(12): まとめ【オンデマンドmanaba】  
 第15回 英文読解の課題と展望【オンデマンドmanaba】

授業外学習 (予習・復習)

【予習】テキストを読み、疑問点などをまとめます。英語史料の場合には、テキストを読み、分からない単語や文法、用語などについて調べ、日本語訳を考えます。

【復習】テキストや討論の内容についてまとめます。また、参考文献を読んで、さらに理解を深めます。

教科書

指定しません (プリントを配布します)

参考書

服部良久・南川高志・小山哲・金沢周作編『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会、2010年  
 井上浩一『私もできる西洋史研究』和泉書院、2012年  
 このほかの文献については、授業中に適宜紹介します

成績の評価基準

・授業への取り組み (100%) : テキストの予習・発表、討論への積極的な参加に基づき総合的に評価します

オフィスアワ -

随時 (事前にメールでアポを取る)

アクティブ・ラーニング

ディベート; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

英文解釈の発表

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中13回

備考 (受講要件)

現在のところ、manabaを通じたオンデマンド型授業の予定です。

場合によっては、一部zoomによるオンライン授業を導入することがあります。

また、新型コロナウイルス感染症の影響等により、授業形態を変更する場合があります。

実務経験のある教員による実践的授業

ドイツ言語・文化演習 1 a (旧 ヨーロッパ言語コミュニケーション)  
ナンバリングコード

科目名

ドイツ言語・文化演習 1 a (旧 ヨーロッパ言語コミュニケーション)

英語名

German Language & Culture 1a

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

與倉アンドレーア

099-285-7578

yokura@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

1. テーマ：演習中心のドイツ語中級会話
2. 簡単なドイツ語を聞くと同時に話す能力を修得することを、第一の目標とする。そのために、ドイツ語の発音と文法の基本的知識を教授する。
3. これと平行して、受講者にはドイツ語圏における国々の現在の生活に関する展望を紹介する。

学修目標

1. ドイツ語を聞く中級程度の能力を修得できる。
2. ドイツ語でコミュニケーションする能力を修得できる。
3. ドイツ語による原典からの教材を読む能力を修得できる。
4. ドイツ語圏における国々の現在の生活を展望し、ドイツ文化に関する情報を入手できる。

授業計画

- 1回：オリエンテーション
- 2回：「贈り物と招待」いつ誰に何を贈るかを話す、など
- 3回：「贈り物と招待」ドイツ語圏のお誕生日、など
- 4回：「贈り物と招待」人称代名詞3・4格、不定冠詞4格、など
- 5回：「履歴と学校制度」教育制度について話す、など
- 6回：「履歴と学校制度」中学・高校時代のことを話す、など
- 7回：「履歴と学校制度」話法の助動詞、完了形、副文、など
- 8回：「ゴミと環境」ゴミ処理の仕方を尋ねる・教える、など
- 9回：「ゴミと環境」ドイツ語圏の学校の環境プロジェクト、など
- 10回：「ゴミと環境」話法の助動詞sollen、命令形、など
- 11回：「祝祭と祝日」イースター、クリスマスについて話す、など
- 12回：「祝祭と祝日」年末、カーニバルについて話す、など
- 13回：「祝祭と祝日」再帰動詞、副文、など
- 14回：クリスマスクッキー、zu不定詞、など
- 15回：新年の幸福とシンボル、及び期末試験のための復習など、
- 16回：期末試験

授業外学習 (予習・復習)

予習・復習については第一回の授業で指示する。また、適宜指示する。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

成績の評価基準

中間試験 (聴力テスト)、小テスト、5~10分程度の発表 (1回)、定期的な日記、および期末試験に基づき、総合的に評価する。

オフィスアワ -

月曜日3限目 (12:50~14:20)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

?通教育科目「第2外国語コア」としてドイツ語の単位を取得していること。

?ドイツ語圏の諸国またはドイツ語に大きな関心を持っていることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

イギリス文学演習 1 (旧 イギリス文学演習)

## 英語名

English Literature 1

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

大和高行

099-285-7570

yamato@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

ロアルド・ダールの真骨頂は、なんといってもストーリーの奇抜さにあり、それは終盤に用意された意外な結末に向けて精巧に組み立てられており、まさに、'Unexpected Stories' と呼ぶのにふさわしい。本授業では、そのようなダールの文学世界を味読する。

## 学修目標

- 1 ロアルド・ダールのストーリーの奇抜さを味わうことができる。
- 2 'Unexpected Stories' の小気味よさを味読することができる。

## 授業計画

\* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

第1回 オリエンテーション (授業の目的、授業の進め方、評価基準等についての説明) 【リアルタイム型】

第2回 'Lamb to the Slaughter' の精読 1 (pp. 1-5) 【リアルタイム型】

第3回 'Lamb to the Slaughter' の精読 2 (pp. 6-10) 【リアルタイム型】

第4回 'Lamb to the Slaughter' の精読 3 (pp. 11-16) 【リアルタイム型】

第5回 'Lamb to the Slaughter' の小テスト 【リアルタイム型】

第6回 'Lamb to the Slaughter' のディスカッション 【リアルタイム型】

第7回 'Dip in the Pool' のプレゼン 【リアルタイム型】

第8回 'Dip in the Pool' の精読 1 (pp. 17-21) 【リアルタイム型】

第9回 'Dip in the Pool' の精読 2 (pp. 22-26) 【リアルタイム型】

第10回 'Dip in the Pool' の精読 3 (pp. 27-31) 【リアルタイム型】

第11回 'Dip in the Pool' の精読 4 (pp. 32-34) 【リアルタイム型】

第12回 'Dip in the Pool' の小テスト 【リアルタイム型】

第13回 'Dip in the Pool' のディスカッション 1 (pp. 39-42) 【リアルタイム型】

第14回 'Dip in the Pool' のディスカッション 2 【リアルタイム型】

第15回 'Dip in the Pool' のプレゼン 【リアルタイム型】

## 授業外学習 (予習・復習)

教科書、参考文献などに予め目を通し、予習しておくこと。また、毎回の講義を受けた後に、復習しておくこと。(学習に係る標準時間は約1時間)

## 教科書

田島松二(編注)『ダール珠玉短編集 改訂増補版』南雲堂、2012年

## 参考書

適宜紹介する。

## 成績の評価基準

訳読の出来ばえ(30%)、プレゼンの出来ばえ(30%)、小テスト(40%)とし、総合的に評価します。

## オフィスアワ -

曜日・時間：毎週水曜日9:15~10:15、場所：大和研究室

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

課題は提出期限を厳守すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当せず。

西洋歴史・文化演習 A 1 (旧 西洋の歴史と社会演習A1)  
ナンバリングコード

科目名

西洋歴史・文化演習 A 1 (旧 西洋の歴史と社会演習A1)

英語名

Western History & Culture A1

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

細川道久

hos leh.kagoshima-u.ac.jp は  
アットマーク

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

貴堂嘉之著『移民国家アメリカの歴史』(岩波新書、2018年)を読んでいきます。

1) 与えられたテーマ(本書だけではなく、発展した内容も含みます。テーマはあらかじめ与える場合と、その場で与える場合があります)について、各自が意見を出しあい、全員でディスカッションをします。

2) 各自が、数章(1回につき、1~2章分)について、レポート(要約と学び得たこと)(1回につき、1000字以上)を提出します。ただし、最終回のみ授業時のオンラインレポート。

3) 1) 2) と平行して、数回、教員が本書に関連した説明(カナダ史との比較や、移民史・グローバルヒストリー全般についても)を行ないます。

授業開始までにテキストを入手しておいてください。

学修目標

1. 北アメリカの移民の歴史に関する理解を深めると同時に、歴史研究や地域研究全般に対する関心を深める。
2. 文献読解、レポート作成、報告、討論の能力を養う。
3. 西洋史研究で卒業論文を書くために必要な素養を磨く。

授業計画

遠隔形式で行なう予定であるが、状況によっては対面形式に変更する可能性がある。授業形態を変更する場合は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業時に連絡する。

第1回 授業全般についてのガイダンス(リアルタイム型)

第2回 移民史などについてのガイダンス・ディスカッション(リアルタイム型)

第3回 与えられたテーマに関するディスカッション(リアルタイム型)

第4回 与えられたテーマに関するディスカッション(リアルタイム型)

第5回 文献講読(1)(課題提出型)

第6回 文献講読(2)(課題提出型)

第7回 文献講読(3)(課題提出型)

第8回 補足説明、与えられたテーマに関するディスカッション(リアルタイム型)

第9回 文献講読(4)(課題提出型)

第10回 文献講読(5)(課題提出型)

第11回 補足説明、与えられたテーマに関するディスカッション(リアルタイム型)

第12回 文献講読(6)(課題提出型)

第13回 文献講読(7)(課題提出型)

第14回 文献講読(8)(課題提出型)

第15回 補足説明・総括(リアルタイム型)

授業外学習(予習・復習)

レポート課題について、教科書の要約だけでなく、それに関連する調査を十分に行なうこと。また、授業内容について、教科書以外の文献などで復習しておくことが望ましい

教科書

貴堂嘉之著『移民国家アメリカの歴史』岩波新書、2018年。各自購入して、最初の授業に臨んでください。

参考書

授業時に適宜紹介します。

成績の評価基準

5回(変更の可能性あり)のレポート課題(1回につき、1000字以上。課題提出はmanabaを用いる。ただし、最終回のみ授業時のオンラインレポートの予定)(60%)

ディスカッションへの積極的な参加度・出席状況(40%)

オフィスアワ -

金曜10時~11時

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

平成28年度以前の入学生については「西洋の歴史と社会演習A1」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学演習 1 b (旧 考古学演習)			
英語名			
Archaeology 1b			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石田智子		099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>考古学研究にかかわる基礎作業を実践することで、考古資料の取り扱い方や分析方法、表現方法を身につけることを目的とする。発表担当者はレジュメや図面・映像資料を作成して発表する。発表内容や発表方法に対して全員で議論し、理解を深める。2020年度は、鹿児島県の島嶼部に所在する遺跡や文化遺産について調べる予定である。</p>			
学修目標			
<p>1) 考古学の基礎知識・方法論の使い方を実践的に学ぶことで、卒業論文に取り組む準備をすすめる。  2) 文章表現だけでなく、図面資料(地図、実測図、グラフなど)や映像資料(パワーポイントなど)を活用して成果をまとめることで、情報やデータを可視化するスキルを学び、自分の考えを効果的に表現する技能を修得する。  3) 自分の身近な歴史を説明できるようになる。</p>			
授業計画			
<p>対面形式でおこなう予定であるが、教室確保の難しさや状況の悪化により、遠隔形式に変更となる可能性がある。遠隔形式の場合は、すべてリアルタイム型での実施とする、授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p>			
<p>第1回 ガイダンス【対面型】  第2回 調査内容の説明、発表の分担【対面型】  第3回 調査計画の作成(1)【対面型】  第4回 調査計画の作成(2)【対面型】  第5回 調査の実践(1)【対面型】  第6回 調査の実践(2)【対面型】  第7回 調査の実践(3)【対面型】  第8回 中間発表(1)【対面型】  第9回 中間発表(2)【対面型】  第10回 調査の実践(4)【対面型】  第11回 調査の実践(5)【対面型】  第12回 調査の実践(6)【対面型】  第13回 成果報告(1)【対面型】  第14回 成果報告(2)【対面型】  第15回 まとめ【対面型】</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>受講にあたっての事前学習や発表準備が必要。授業の議論を踏まえた復習が望ましい。</p>			
教科書			
<p>特になし。</p>			
参考書			
<p>授業中に適宜紹介する。</p>			

成績の評価基準

- ・発表内容と授業にのぞむ姿勢（事前学習、授業中の発言など）を評価の基準とする。
- ・授業形態を変更して遠隔形式で実施する場合は、発表資料の提出をもって評価する。変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

オフィスアワ -

manaba の「個別指導」、E-mail (ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp)、法文学部 1 号館 4 階 (石田研究室 来室 される場合は事前アポイントをお願いします) で受け付けます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15 回中 15 回

備考（受講要件）

- ・これまでに考古学演習や考古学実習を受講したことがなく、本演習の履修を希望する者は、事前に担当教員に相談すること。
- ・授業形態（対面・遠隔）については、新型コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合があります。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

アジア歴史・文化演習 A 1 (旧 アジア史演習3)

## 英語名

Asian History &amp; Culture A1

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

2~4年

## 担当教員

福永善隆

## 連絡先 (TEL)

099 (285) 7561

## 連絡先 (MAIL)

fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

テーマ: 『史記』講読

『史記』は中国歴代王朝で編纂された正史のうち、最初のものである。その形式は以降の歴代正史に継承されている。本演習ではその漢代に関する部分の講読を通じ、司馬遷の歴史観などについて分析を行う予定である。なお、講読箇所については変更する場合もありうる。

## 学修目標

- 1) 基礎的な漢文読解能力を身につける
- 2) 中国古代に関する基礎知識を身につける
- 3) 史料講読を通して、中国史の基礎的な分析視角を身につける

## 授業計画

第1回: イントロダクション

第2回: 『史記』講読及び史料分析(1) テキスト553頁

第3回: 『史記』講読及び史料分析(2) テキスト554-555頁

第4回: 『史記』講読及び史料分析(3) テキスト556頁

第5回: 『史記』講読及び史料分析(4) テキスト557頁

第6回: 『史記』講読及び史料分析(5) テキスト558頁

第7回: 『史記』講読及び史料分析(6) テキスト559頁

第8回: 『史記』講読及び史料分析(7) テキスト560頁

第9回: 『史記』講読及び史料分析(8) テキスト561頁

第10回: 『史記』講読及び史料分析(9) テキスト562-563頁

第11回: 『史記』講読及び史料分析(10) テキスト565頁

第12回: 『史記』講読及び史料分析(11)-テキスト567頁

第13回: 『史記』講読及び史料分析(12) テキスト568頁

第14回: 『史記』講読及び史料分析(13) テキスト569頁

第15回: 総括

## 授業外学習 (予習・復習)

(予習) 授業中に指示する該当箇所を訓読及び現代日本語訳してこること。

(復習) 授業中に挙げる参考文献を読むことを推奨する。

## 教科書

『史記会註考証』(上海古籍出版社、2015年)

## 参考書

## 成績の評価基準

授業における質疑応答(70%)、レポート(30%)

## オフィスアワー

会議・講義の時間を除く。

## アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

15回中15回

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

必ず辞書を持参のこと。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されます。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

考古学研究C (旧 考古学地域論)

## 英語名

Archaeology C

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

講義

2単位

2～4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

中村直子

099-285-7270

k8315479@kadai.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

発掘調査で遺跡から最も多く出土する遺物は土器である。先史時代研究においては、土器編年を時間軸とする事が多く、考古学の基礎的研究のひとつであるといつてよい。また、土器の形や器種構成は、それを使用する社会の生活様式が反映され、土器作りの技術の継承や伝達は、当時の婚姻関係や交易など、集団間関係が反映されていると考えられている。本講義では、南九州古墳時代の在土器様式である「成川式土器」について解説し、当時の生活様式やその変遷について解説する。

## 学修目標

- (1) 成川式土器の分布について理解する。
- (2) 成川式土器の編年について理解する。
- (3) 成川式土器からみる古墳時代の生活様式やその特徴について理解する。
- (4) 成川式土器からみる南九州における古墳時代から古代の社会変化について理解する。

## 授業計画

\* 遠隔授業で行う予定であるが、状況によっては対面式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回：オリエンテーション 【講義資料・課題提示型】
- 第2回：先史時代の時期区分と地域区分 【講義資料・課題提示型】
- 第3回：土器様式と型式・形式 【講義資料・課題提示型】
- 第4回：成川式土器の研究史と定義 【講義資料・課題提示型】
- 第5回：成川式土器の分類 【講義資料・課題提示型】
- 第6回：成川式土器編年(1) 弥生時代～古墳時代中期 【講義資料・課題提示型】
- 第7回：成川式土器編年(2) 古墳時代後期～古代 【講義資料・課題提示型】
- 第8回：成川式土器からみる生活様式(1) 甕 【講義資料・課題提示型】
- 第9回：成川式土器からみる生活様式(2) 壺 【講義資料・課題提示型】
- 第10回：成川式土器からみる生活様式(3) 食器 【講義資料・課題提示型】
- 第11回：成川式土器からみる生活様式(4) 祭祀具 【講義資料・課題提示型】
- 第12回：成川式土器からみる生活様式(5) 埋葬 【講義資料・課題提示型】
- 第13回：成川式土器終焉の様相 【講義資料・課題提示型】
- 第14回：成川式土器と隼人 【講義資料・課題提示型】
- 第15回：成川式土器を通してみた南九州古墳時代社会 【講義資料・課題提示型】

講義資料は、授業内容のPDFと音声解説。

## 授業外学習(予習・復習)

講義資料による予習・復習が望ましい。

## 教科書

講義資料を配布する。

## 参考書

適宜、講義の中で紹介する。

成績の評価基準

毎回の意見・質問の提出 (45%) 複数回の小テスト (30%) 期末レポート (25%) の成績による。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学研究A (旧 物質文化研究)			
英語名			
Archaeology A			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎		099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
豊臣秀吉の朝鮮出兵 (1592-98年) の際に連れてこられた朝鮮陶工たちによって、江戸時代の九州各地で各種の陶磁器が焼かれた。本講義では、近年の考古学的調査研究により大きく進展しているそれらの成果について概説する。			
学修目標			
(1)九州近世陶磁器について理解する。 (2)近世陶磁器の考古学的研究について理解する。			
授業計画			
1 焼物とは何か (課題提供型) 2 日本陶磁通史 (課題提供型) 3 焼き物の製作技術 (課題提供型) 4 肥前地方の陶器と磁器 (課題提供型) 5 肥前磁器の海外輸出 (課題提供型) 6 鍋島藩窯 (課題提供型) 7 福岡の陶磁器 (課題提供型) 8 山口の陶磁器 (課題提供型) 9 熊本の陶磁器 (課題提供型) 10 鹿児島島の陶磁器 (1) (課題提供型) 11 鹿児島島の陶磁器 (2) (課題提供型) 12 近世後期の磁器生産 (課題提供型) 13 沖縄の陶磁器 (課題提供型) 14 近世から近代へ (課題提供型) 15 まとめ (課題提供型)			
コロナ感染拡大防止のため変更される場合もある。			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中に配布したプリントによる復習がのぞましい。			
教科書			
授業において適宜紹介する			
参考書			
授業において適宜紹介する			
成績の評価基準			
平常点 (30%)・期末試験 (70%)			
オフィスアワー			
授業・会議のない日時であればいつでも可 (土日・祝日は除く)			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

平成23年度以前入生は「物質文化研究」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学研究B(旧 考古学講義)			
英語名			
Archaeology B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
石田智子		099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>日本列島では多種多様な災害が高頻度で発生する/してきた。現代の人びとの体験・記憶にない過去の災害に対して、長期的・通時的視点から災害履歴を把握できる点で考古学は有効である。本講義では、自然災害(火山噴火・地震・水害)と人為災害(感染症・戦争)の両方に焦点をあてる。過去の人類はどのように災害を乗り越えてきたのか。人類の過去の経験を、現代社会で活用する方法と今後の課題を考える。特に、過去の災害痕跡の認識方法や被災状況、復興過程を把握する考古学的手法や隣接学問分野との連携状況を理解することを目的とする。</p>			
学修目標			
<p>1) データや情報を基に主体的に考え、状況に応じて適切な行動ができるようになる。  2) 考古資料から地域の歴史を復元する方法を理解する。自分の身の回りの歴史に関心をもつ。  3) 考古学と現代社会の関係を理解する。考古学の調査成果を今後の防災・減災対策に活用する方法を考える。</p>			
授業計画			
<p>遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p>			
<p>第1回 イントロダクション：災害と考古学【オンデマンド型】  第2回 災害考古学の基礎的研究方法【オンデマンド型】  第3回 火山灰考古学1：火山噴火と考古学【オンデマンド型】  第4回 火山灰考古学2：破局噴火と南九州の縄文文化【オンデマンド型】  第5回 火山灰考古学3：埋没した古墳時代のムラ【オンデマンド型】  第6回 火山灰考古学4：古代の開聞岳の噴火【オンデマンド型】  第7回 地震考古学1：地震と考古学【オンデマンド型】  第8回 地震考古学2：東日本大震災と文化財レスキュー【オンデマンド型】  第9回 地震考古学3：熊本地震・南海トラフ地震【オンデマンド型】  第10回 水害：洪水・高潮・大津波【オンデマンド型】  第11回 感染症と人類【オンデマンド型】  第12回 戦跡考古学1：暴力の考古学【オンデマンド型】  第13回 戦跡考古学2：鹿児島戦争関連遺跡【オンデマンド型】  第14回 戦跡考古学3：奄美群島の戦争関連遺跡【オンデマンド型】  第15回 過去の災害と現代社会【オンデマンド型】</p>			
授業外学習(予習・復習)			
授業中に配布した資料を参考に予習・復習することが望ましい。			
教科書			
なし。授業中に資料を適宜配布する。			
参考書			
特になし。授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
毎回コメント(responで提出：50%)と小テスト(manabaで実施(3回)：50%)で評価する。			

## オフィスアワ -

manabaの「個別指導」、E-mail (ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp)、法文学部1号館4階(石田研究室 来室される場合は事前アポイントをお願いします)で受け付けます。

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

## アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

## 備考(受講要件)

- ・最新の研究成果や発掘調査情報を随時取り入れるため、当初の講義内容を変更する場合がある。
- ・授業形態(対面・遠隔)については、新型コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合がある。
- ・オンデマンド型で使用する講義資料(動画)は動画サイトvimeoで配信する。その他の資料はmanabaで配布する。ただし、資料の配布方法については、今後変更する可能性もある。
- ・講義内容に関する質問はresponでのコメント提出時に受け付け、後日回答する。ただし、今後変更する可能性もある。

## 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

英語学演習 1 (旧 英語学演習)

## 英語名

English Linguistics 1

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

末松信子

099-285-7572

suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

David Crystal, English as a global Language (Cambridge University Press, 1997) からの抜粋を読み、英語の読解力をつけるとともに英語が「地球語」になるに至った経緯を考察する。予め担当者を割り振る。担当者は、ポイントとなる単語・熟語、文法、本文の内容、補足説明をまとめ、レジュメを作成する。授業では担当者によるプレゼンテーションの後、教員による補足説明を行い、理解を深めていく。

。毎回、授業内容に関するコメントの提出を求める。

## 学修目標

- (1) 英文を正確に読み、その内容を理解することができる。
- (2) 英語を「地球語」にさせたものはなにか、英語が「地球語」としての最有力候補であるのはなぜか、英語は今後も「地球語」としての地位を保ち続けるか、といった問いに対して、自らの考えを述べることができる。

## 授業計画

\* 遠隔形式 (Zoomによるリアルタイム型) でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回: ガイダンス Why a global language? (リアルタイム型)
- 第2回: Why English?: the cultural legacy (リアルタイム型)
- 第3回: International relations (リアルタイム型)
- 第4回: The media (リアルタイム型)
- 第5回: Advertising (リアルタイム型)
- 第6回: Motion pictures (リアルタイム型)
- 第7回: Popular music (リアルタイム型)
- 第8回: International travel (リアルタイム型)
- 第9回: International safety (リアルタイム型)
- 第10回: Education (リアルタイム型)
- 第11回: Communications (リアルタイム型)
- 第12回: the Internet (リアルタイム型)
- 第13回: The right place at the right time (リアルタイム型)
- 第14回: New Englishes (リアルタイム型)
- 第15回: 総括 (リアルタイム型)

## 授業外学習 (予習・復習)

- 予習: 教科書にあらかじめ目を通し予習しておくこと。
- 復習: 配布されたプリント、辞書や参考書を利用して復習しておくこと。

## 教科書

『地球語としての英語 - English as a Global Language』(松柏社, 2001)

## 参考書

必要に応じて適宜、指示する。

成績の評価基準

発表の準備・内容、プレゼンテーション (20%)  
 毎回のコメント・質問の提出 (35%)  
 期末レポート (45%)

オフィスアワ -

水曜日 10:30 ~ 12:00  
 木曜日 10:30 ~ 12:00

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);  
 アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
書籍文化演習 1			
英語名			
Book Culture 1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹岡健一		099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、書籍文化に関するテーマの設定や発表資料の作成方法などを学んだ上で、学習者自らが書籍文化に関する調査・発表を行い、それについて受講者全員が討論を行う。</p>			
学修目標			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>この授業は、書籍文化をテーマとして、学習者が次の能力を身につけることを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 書籍文化に対する視点や問題意識を身につける。</li> <li>2. 先行文献の批判的な読解力を身につける。</li> <li>3. 発表資料の作成や報告、および討論のスキルを身につける。</li> </ol>			
授業計画			
<p>* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更になる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：発表資料の作成方法(1) テーマの設定 【講義資料・課題提示による授業】</p> <p>第3回：発表資料の作成方法(2) 文献調査 【講義資料・課題提示による授業】</p> <p>第4回：発表資料の作成方法(3) 全体の構成 【講義資料・課題提示による授業】</p> <p>第5回：発表資料の作成方法(4) 引用と注 【講義資料・課題提示による授業】</p> <p>第6回：発表資料の作成方法(5) レイアウト 【講義資料・課題提示による授業】</p> <p>第7回：書籍文化に関する発表と討論(1) 【講義資料・課題提示による授業】</p> <p>第8回：書籍文化に関する発表と討論(2) 【講義資料・課題提示による授業】</p> <p>第9回：書籍文化に関する発表と討論(3) 【講義資料・課題提示による授業】</p> <p>第10回：書籍文化に関する発表と討論(4) 【講義資料・課題提示による授業】</p> <p>第11回：書籍文化に関する発表と討論(5) 【講義資料・課題提示による授業】</p> <p>第12回：書籍文化に関する発表と討論(6) 【講義資料・課題提示による授業】</p> <p>第13回：書籍文化に関する発表と討論(7) 【講義資料・課題提示による授業】</p> <p>第14回：書籍文化に関する発表と討論(8) 【講義資料・課題提示による授業】</p> <p>第15回：授業のまとめとふりかえり 【講義資料・課題提示による授業】</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習： 予め配信された発表資料を熟読し、質問等を考える。1時間程度。</p> <p>復習： 授業の内容を再確認し、興味を持った点や理解が不十分な点について自分なりの調査を行う。30分程度。</p>			
教科書			
<p>なし。</p> <p>授業中に資料を配布する。</p>			

## 参考書

## 参考書・参考資料等

樺山紘一『図説 本の歴史』（河出書房新社）2011年。

## 成績の評価基準

## 学生に対する評価

成績評価は、授業での発表（25%）と討論（50%）への取り組み態度、および発表がない回のレポート（25%）に基づいておこなう。

## オフィスアワ -

特に時間は設けない。質問等があれば随時申し出ること。

## アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

## 備考（受講要件）

授業形態（対面・遠隔）については、コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合がある。  
実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
哲学研究C			
英語名			
Western Philosophy C			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
森元斎		095-819-2951	motonaomori@nagasaki-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
近代以降の九州、とりわけ現在の国道3号線沿い周辺域で生じた出来事を、民衆の視線で取り上げ、近代化の流れへの抵抗や、近代的なものからの暴力がどのようになされてきたのかを論じ、民衆がどのようにして生きてきたのかを明らかにします。これに加えて、九州に住む現在の私たちの思想史を学ぶことも目的とします。			
学修目標			
近代以降の九州の民衆が、どのように近代化の時流に対応したのかを理解できるようになる。そして現代に生きる私たちのあり方へと通じる流れが理解できるようになる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス：九州の近代化と国道3号線 九州と世界			
第2回 九州の近代化 アジアとのつながり			
第3回 西南戦争と近代化			
第4回 水俣病 医学者としての原田正純			
第5回 水俣病 世界文学としての石牟礼道子			
第6回 宮崎滔天のアジア			
第7回 山鹿コミュニケーション ルソーの思想とコミュニケーション			
第8回 戦争と詩 丸山豊			
第9回 福岡とアジア ドキュメンタリスト木村栄文			
第10回 サークル村の磁場 上野英信(1)			
第11回 サークル村の磁場 上野英信(2)			
第12回 サークル村の磁場 上野英信(3)			
第13回 門司港の米騒動 第一次世界大戦			
第14回 炭鉱の米騒動 軍部と民衆			
第15回 鹿児島市内の3号線見分【屋外活動】			
授業外学習(予習・復習)			
森元斎『国道3号線抵抗の民衆史』共和国、近刊			
教科書			
とくになし			
参考書			
成績の評価基準			
授業各回終了時にコメントペーパーを配布し、そこに書かれた授業内容に関するコメントをもとに評価する。評価基準は(1)授業内容を的確に理解できているか、(2)授業内容を受けて自らにとって身近な現象を捉え直すことができているか(3)授業内容を批判的に把握し自らの考察を付け加えることができているか、の三つを設定する。			
オフィスアワー			
授業の前後			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

とくになし。対面授業になります。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
多文化交流論演習1			
英語名			
Multicultural Relations 1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島 祥子		099-285-7664	sachikon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
この授業では、主に録音された会話の文字化と分析を通して、コミュニケーションの多様性や社会言語学的な特徴を導き出すことを目的とする。会話としては、テレビドラマの会話の他に、日本人同士あるいは日本人と外国人の会話などを用いて、文字化や資料の扱い方などの基本事項から、分析方法などについて学ぶ。また、基礎的文献や先行文献を探し、報告を行ってもらう。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>異なる文化背景を持った人々が接触する場合、コミュニケーションにどのような問題が生じるのかについて理解する。</li> <li>異文化接触の具体的な問題の把握・記述方法、考察、解決方法などについて学ぶ。</li> <li>目的に沿った資料収集の仕方と資料の精査、「問い」の作り方を学ぶ</li> </ul>			
授業計画			
全15回の授業を遠隔形式で実施する（Zoomリアルタイム配信）が、状況により変更する可能性もある			
第1回：オリエンテーション（授業概要とスケジュール：受講生の人数により変更の可能性あり）			
第2回：今後のスケジュール グループ分け、文献収集など			
第3回：資料収集の方法、事前準備			
第4回：文字化の方法（1）			
第5回：文字化の方法（2）			
第6回：具体例の検討、担当部分決定			
第7回：先行文献の報告（1）			
第8回：先行文献の報告（2）			
第9回：先行文献の報告（3）			
第10回：先行文献の報告（4）			
第11回：分析結果発表（1）			
第12回：分析結果発表（2）			
第13回：分析結果発表（3）			
第14回：分析結果発表（4）			
第15回：まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
先行文献の収集や資料分析については授業外に取り組むこと。			
教科書			
特になし。			
参考書			
参考書：授業中に紹介する。			
成績の評価基準			
（1）毎回の授業で提出する振り返り・宿題など（30%）、（2）先行文献発表・報告（15%）、（3）分析結果報告（15%）、（4）最終レポート（40%）で総合評価する。			

## オフィスアワ -

基本的にメールで事前に日時を相談し、Zoomによる個別相談として対応する。

## アクティブ・ラーニング

グループワーク；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；  
アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中12回

## 備考（受講要件）

平成29年度入学生のみ履修可。課題が多いので積極的に取り組むこと。  
なお、平成31年度後期のシラバスとは異なる内容である。

## 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

多文化交流論

## 英語名

Multicultural Relations

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

講義

2単位

2～4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

中島 祥子

099-285-7664

sachikon@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

グローバル化が進み、日本においても在日外国人や訪日外国人が増加している。日本語を母語としない人々への日本語教育の実態と課題はどのようなものだろうか。本授業では、日本に在住する外国人の多様性を理解するとともに、日本語を母語としない人々に対する日本語教育の基礎知識を身に付けるとともに、現状を把握し、コミュニケーション上の問題点や課題を把握することを目的とする。さらに、具体的な異文化接触例について学ぶ。

## 学修目標

1. 日本に滞在する外国人の多様性を理解する。
2. 日本語を母語としない人々に対する日本語教育の基礎知識を得る。
3. 様々な環境における日本語教育の実態と課題について理解する。
4. 具体的な異文化接触例について学び、問題点や課題を把握する。

## 授業計画

今年度は遠隔授業のため、予定通りにいかないことがあります。

また、第1回、第2回はZoomによりリアルタイム型（オンライン型）でオリエンテーションや説明を行い、第3回以降も受講生の環境が整えば、Zoom利用によるリアルタイム型で行います。状況により変更する可能性があります。

第1回：オリエンテーション（本授業の目的と概要）

第2回：日本に滞在する外国人と日本語教育（1）

第3回：日本に滞在する外国人と日本語教育（2）

第4回：外国語教授法と日本語教育（1）

第5回：外国語教授法と日本語教育（2）

第6回：日本語音声と音声教育（1）

第7回：日本語音声と音声教育（2）

第8回：日本語文法と日本語教育（1）

第9回：日本語文法と日本語教育（2）

第10回：対照研究と日本語教育（1）

第11回：対照研究と日本語教育（2）

第12回：異文化理解と日本語教育（1）

第13回：異文化理解と日本語教育（2）

第14回：異文化理解と日本語教育（3）

第15回：まとめ

## 授業外学習（予習・復習）

毎回課題を出します。次回の授業のための宿題（予習内容）も指示しますので、かならず宿題を行ってから授業に参加してください。なお、今学期は遠隔授業のため、すべての課題をmanabaに掲示します。必ずmanabaを確認してください。

## 教科書

以下の教科書をもとに進めますが、購入は必須ではありません。

購入希望の学生は各自で購入をお願いします（現在、新型コロナウイルスの影響で、在庫が少ないようです）。

鮎澤孝子編『日本語教育実践』（凡人社）

#### 参考書

授業中に紹介する。

特に、上記にあげた教科書以外に、いわゆる『日本語教授法概論』を扱った図書は何種類もあるので、参考にしてください。

#### 成績の評価基準

(1) 毎回の授業で提出する振り返り(30%)、(2)宿題などの提出状況(20%)、(4)中間レポート(20%)、(5)期末レポート(30%)で総合評価する。

#### オフィスアワ -

木曜日5限(研究室)。他の時間帯でも都合があれば適宜応じます。メールなどで連絡をとってください。

#### アクティブ・ラーニング

グループワーク; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

#### アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中10回

#### 備考(受講要件)

平成29年度以降の入学生のみ履修可。

この授業は、2019年度の授業とはやや重なる部分もありますが、同様ではないので再履修は可能です。

今年度は遠隔授業で行いますが、方法や注意点は初回の授業で説明します。また、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、授業運営も流動的です。必ずmanabaを確認するようにしてください。

この授業では、manabaのプロジェクト等(他のシステムを使う可能性もある)を利用したグループワークも予定しています。積極的に参加してください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
現代文化論演習 1 (旧 現代文化論演習)			
英語名			
Culture In Modern Society 1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
櫻井芳生		0992857544	yoshiosakuraig@gmail.com
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
メディア・風評・美辞麗句にだまされない「批判的知性」を身につける。 授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある			
学修目標			
メディア・風評・美辞麗句にだまされない「批判的知性」を身につける。性淘汰の理論を（感情的でなく）論理的に検討できるようなる。			
授業計画			
*遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。			
第1回	ガイダンス		
第2回	文献の探し方		
第3回	文献の批判		
第4回	下級生による発表		
第5回	履修生によるコメント		
第6回	コメントへのリプライ		
第7回	上級生による発表		
第8回	履修生によるコメントその2		
第9回	コメントへのリプライその2		
第10回	下級生による発表 その2		
第11回	履修生によるコメントその3		
第12回	コメントへのリプライその3		
第13回	全体討議その1		
第14回	全体討議その2		
第15回	総評		
授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある			
授業外学習 (予習・復習)			
期末に対応提出文 (メール) を提出してもらうので、毎回の議論をよく復習しておくこと			
教科書			
とくになり			
参考書			
駿台文庫『論文ってどんなもんだい』。拙著『就活ぶっちゃけ成功ゼミ』(光文社)。桜井のHPの各文章			
成績の評価基準			
期末提出物(30%)、平常点(発表40%、発言30%)。黙って休む人には単位を認定しない。			
オフィスアワ -			
予約による			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15 回中 15 回

備考 (受講要件)

黙って休む人には単位を認定しない。

実務経験のある教員による実践的授業

芸術文化論演習（旧 ポピュラーカルチャー論演習）  
ナンバリングコード

科目名

芸術文化論演習（旧 ポピュラーカルチャー論演習）

英語名

Art & Culture

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

太田純貴

連絡先（TEL）

099-285-7576

連絡先（MAIL）

yota@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

後期

授業概要

感性論としての美学において重要な位置を占める「身体」について、基礎的な知識を日英の両方の言語を通して、習得する。使用する資料はスクリプナー思想大事典の「身体」および、Very Short IntroductionシリーズのChris Shilling, The Body (Oxford University Press, 2016)を使用する。授業中、グループでの作業が求められる場合がある。

学修目標

1. 芸術や文化を論じるためのいくつかの議論を理解する
2. 学術書・論文の骨組みを把握できるようになる。
3. 学術書・論文を読む自分なりの視点を獲得できるようになる。
4. 独力で必要な資料にアクセスできる力を身につける
5. 学術的な文章を書くのに必要な日本語の使い方を習得する

授業計画

- 第1回：ガイダンス（リアルタイム型）  
 第2回：自分にとっての芸術もしくは芸術経験（課題提出型）  
 第3回：感性論としての美学と身体に関わり（リアルタイム型）  
 第4回：文献講読・発表・議論（3）スクリプナー思想大事典 1757-1759頁を読む（リアルタイム型）  
 第5回：文献講読・発表・議論（4）スクリプナー思想大事典 1750-1762頁を読む（リアルタイム型）（リアルタイム型）  
 第6回：文献講読・発表・議論（5）スクリプナー思想大事典 1763-1767頁を読む（リアルタイム型）  
 第7回：中間総括（リアルタイム型）  
 第8回：文献講読・発表・議論（6）Chris Shilling, The Body, pp1-3を読む（リアルタイム型）  
 第9回：文献講読・発表・議論（7）Chris Shilling, The Body, pp4-6を読む（リアルタイム型）  
 第10回：文献講読・発表・議論（8）Chris Shilling, The Body, pp7-9を読む（リアルタイム型）  
 第11回：文献講読・発表・議論（9）Chris Shilling, The Body, pp10-12を読む（リアルタイム型）  
 第12回：文献講読・発表・議論（10）Chris Shilling, The Body, pp13-17を読む（リアルタイム型）  
 第13回：文献講読・発表・議論（11）Chris Shilling, The Body, pp18-20を読む（リアルタイム型）  
 第14回：文献講読・発表・議論（12）Chris Shilling, The Body, pp19-21を読む（リアルタイム型）  
 第15回：総括（課題提出型）

リアルタイム型の授業は課題提出型・リアルタイム型に変更される可能性がある。  
 今後の状況次第で授業回数や内容・進度は変更となる可能性がある

授業外学習（予習・復習）

- ・毎週課題の提出が求められる（英文翻訳など）。提出がない場合は、欠席扱い。締め切りには一定の時間的猶予を設ける。
- ・演習中に言及された哲学者やアーティスト、専門用語については可能な限り検索して知識として習得すること

教科書

- ・スクリプナー思想大事典「身体」（Susan Bordo+Monica Udvardy著、太田純貴訳、丸善出版、2016年）
- ・Chris Shilling, The Body (Oxford University Press, 2016)

参考書

授業中に随時指示・紹介する。

成績の評価基準

- ・課題の提出（30%）
- ・課題の精度（60%）
- ・毎回のコメント（10%）

オフィスアワー

追って指示する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

授業計画や進行の度合いは、受講者の人数や理解度、議論の習熟度などによって適宜変更する可能性がある。また、コロナウイルスをめぐる状況、授業の進度や人数等により、鹿児島市内の美術館やイベント、ワークショップ等の見学・参加といった学外実習に授業を振り替える可能性もある。なお、毎週課題を課す。課題の提出と授業の出席は連動しているため、未提出は欠席扱い。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

考古学実習 2 (旧 フィールド学実験(考古学))

## 英語名

Practical Archaeology 2

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

実験

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

渡辺芳郎、石田智子

099-285-7539

watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

考古学的調査に必要な技術を習得する。

## 学修目標

考古学調査に必要な技術を習得する。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 遺物整理の基礎
- 第3回 遺物整理の実践1 (拓本)
- 第4回 遺物整理の実践2 (実測1)
- 第5回 遺物整理の実践3 (実測2)
- 第6回 遺物整理の実践4 (実測3)
- 第7回 遺物整理の実践5 (実測4)
- 第8回 遺物整理の実践6 (実測5)
- 第9回 遺物整理の実践7 (実測6)
- 第10回 遺物整理の実践8 (トレース1)
- 第11回 遺物整理の実践9 (トレース2)
- 第12回 遺物整理の実践10 (トレース3)
- 第13回 遺物整理の実践11 (トレース4)
- 第14回 遺物整理の実践12 (トレース5)
- 第15回 遺物整理の実践13 (トレース6)

コロナ感染拡大防止のため変更される場合もあります。

## 授業外学習 (予習・復習)

習得技能の予習・復習が必須である。

## 教科書

授業中適宜紹介する

## 参考書

授業中適宜紹介する

## 成績の評価基準

平常点

## オフィスアワ -

研究室在室時はいつでも可。

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク;

## アクティブ・ラーニング (その他の内容)

考古学調査に必要なさまざまな技術を共同で学ぶ

## アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

## 備考 (受講要件)

野外での実習になるので、動きやすい服装で参加すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ドイツ言語・文化演習 1 b (旧 ドイツ語テキスト演習)  
ナンバリングコード

科目名

ドイツ言語・文化演習 1 b (旧 ドイツ語テキスト演習)

英語名

German Language & Culture 1b

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

竹岡健一

099-285-7577

takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

- (1) 比較的やさしいドイツ語の文章を読みながら、ドイツ語の読解力を高めていきます。
- (2) また、ドイツ語圏の文化についても学びます。
- (3) 専門分野にかかわらず、ドイツ語の能力を伸ばしたいと思う人は、ぜひ履修して下さい。

学修目標

- (1) 比較的平易なドイツ語の長文を、辞書や文法書を使いながら訳読することができる。
- (2) ドイツ語文法の理解を確かなものにする。

授業計画

\* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更になる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回 オリエンテーション 【講義資料・課題提示による授業】

第2回~第14回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化 【講義資料・課題提示による授業】

第15回 授業のまとめとふりかえり 【講義資料・課題提示による授業】

授業外学習 (予習・復習)

予習: 予め配信されるテキストを十分に読み込む。1時間程度。

復習: 授業後に配布される資料に基づいて、再確認を行う。30分程度。

教科書

使用しない。授業中にプリントを配布する。

参考書

授業中に紹介する。

成績の評価基準

成績評価は、毎回の授業のレポート(100%)への取り組み態度に基づいて行う。

オフィスアワー

特に時間は設けない。質問などがあれば、随時申し出ること。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

- (1) 基礎的なドイツ語文法の学習を終え、一定の読解力があること。
- (2) 平成28年度以前入学生は、「ドイツ語テキスト演習」に読み替え。
- (3) 授業形態(対面・遠隔)については、コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する可能性がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
哲学演習 A 1 (旧 西洋の人間と思想A演習1)			
英語名			
Western Philosophy A1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
柴田健志		7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
(1) 哲学的テキストの読解 (2) レポートの作成			
学修目標			
古典的テキストを正確に読解し、レポートを作成する方法の習得を目標にします。			
授業計画			
*遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において 通知する。			
第1回 テキスト読解ガイダンス			
第2回 テキスト読解：デカルト『第1省察』懐疑【リアルタイム型】			
第3回 テキスト読解：デカルト『第1省察』感覚【リアルタイム型】			
第4回 テキスト読解：デカルト『第1省察』身体【リアルタイム型】			
第5回 テキスト読解：デカルト『第1省察』数学【リアルタイム型】			
第6回 テキスト読解：デカルト『第2省察』自由意志【リアルタイム型】			
第7回 テキスト読解：デカルト『第2省察』知性【リアルタイム型】			
第8回 テキスト読解：デカルト『第2省察』心身の分離【リアルタイム型】			
第9回 テキスト読解：デカルト『第2省察』思考作用【リアルタイム型】			
第10回 テキスト読解：デカルト『第2省察』思考と身体【リアルタイム型】			
第11回 テキスト読解：デカルト『第2省察』心身の合一【リアルタイム型】			
第12回 レポート作成法ガイダンス【リアルタイム型】			
第13回 レポート作成法：テーマ【リアルタイム型】			
第14回 レポート作成法：校正【リアルタイム型】			
第15回 レポート作成法：引用【リアルタイム型】			
授業外学習 (予習・復習)			
予習 テキストの指定された範囲を精読。			
復習 問題点の確認および検討。			
教科書			
デカルト『省察 情念論』中央公論 野田又夫『デカルト』岩波新書			
参考書			
成績の評価基準			
レポートによって行う。?読解の妥当性40% ?理解の発展性30% ?論理の整合性30%			
オフィスアワー			
授業終了後			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

10回中 3 回

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
英語圏比較文化論（旧 異文化理解）			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
竹内勝徳		8874	takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>様々な意味で日本の長年のパートナー国と言えるアメリカの文化について、日本文化との比較において論じる。トランスナショナリズムとマルチカルチュラリズムの基礎を踏まえたうえで、アメリカ文化の起源から資本主義の進展によるその急速な発展、軍事増強と連動した文化の生成、グローバル経済と国際金融の動きに同期したアメリカ文化の国際展開、国力の一部に含まれるソフトパワーとしての文化の価値、さらには、アメリカ文化を構成する多国籍な要素とその越境性などについて講義を行う。また、アメリカ文化の理解を通じて日本文化の特色に目を開くと共に、両国の文化を相対的に捉えることを学ぶ。具体例としてはアメリカの映画作品や文学作品、音楽を取り上げ、それらを鑑賞する中でアメリカ文化の多様性や流動性を学ぶ。また、そうした文化を交換するための異文化コミュニケーションの現状と課題についてトランスナショナリズムとマルチカルチュラリズムの知見を生かして講義を行う。なお、授業内では異文化交流ワークショップの時間を設け、英語によるディスカッションの後、プレゼンテーションを行ってもらう。</p>			
学修目標			
<p>トランスナショナリズムとマルチカルチュラリズムに立脚した比較文化的観点からみたアメリカ文化の多様性・流動性をテーマとして講義を行う。到達目標は以下のとおりである。（１）日本文化との比較においてアメリカ文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。（２）日米の文化交流をよりグローバルな視野から俯瞰し、二国間の関係に収れんされないよりダイナミックな異文化交流について理解を深める。（３）アメリカや日本で制作された映画作品や文学作品、音楽をそれぞれの国の歴史、社会、文化に照らして解釈すると共にその文脈を構成する諸要素について考える。（４）英語によるディスカッションを通して異文化交流のあり方を体験的に理解する力を高める。</p>			
授業計画			
<p>第1回 トランスナショナリズム、マルチカルチュラリズムとは何か。(online)  第2回 日系アメリカ人小説家の作品紹介(online)  第3回 日系アメリカ人小説家の作品講読(online)  第4回 日系アメリカ人小説家の作品分析(online)  第5回 ディスカッション(online)  第6回 サンノゼ州立大学との動画による交流(online)  第7回 ラインによるディスカッション(online)  第8回 日系アメリカ人の労働環境(online)  第9回 鹿児島出身の移民の歴史(online)  第10回 小説に表れた労働(online)  第11回 グローバリゼーションと異文化コミュニケーション(online)  第12回 異文化交流ワークショップ：アメリカ人留学生とのグループ・ディスカッション（現代の日米文化について）(online)  第13回 異文化交流ワークショップ：アメリカ人留学生とのグループ・ディスカッション（映画と文学について）(online)  第14回 異文化交流ワークショップ：アメリカ人留学生とのグループ・ディスカッション（大衆音楽について）(online)  第15回 異文化交流ワークショップ：プレゼンテーション（グローバリゼーションの中の日米文化）</p>			

定期試験(online)
授業外学習（予習・復習）
配布プリントの読解。
教科書
古矢旬『アメリカニズム 「普遍国家」のナショナリズム』（東京大学出版会）
参考書
亀井俊介『サーカスが来た アメリカ大衆文化覚書』（岩波書店）、竹内勝徳・高橋勤『環大西洋の想像力』（彩流社）、授業中に配布する文学作品からの抜粋のプリント
成績の評価基準
期末試験50%、中間レポート25%、ミニレポート25%の割合で成績評価を行う。
オフィスアワー
月曜昼休み
アクティブ・ラーニング
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
ディスカッションとプレゼンテーション
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中4回
備考（受講要件）
実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
現代文化論			
英語名			
Culture In Modern Society			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
櫻井芳生		0992857544	yoshiosakuraig@gmail.com
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>テーマ「現代文化についてのリサーチ（調査）リテラシーの涵養」。まるまる一期（半年）かけて、現代文化に関する調査をおこないます。「手をつかう」課題がおおくなるので、【覚悟！】して履修してください。「どんなヒトが恋愛に成功したか」「最近のスマホの使い方」も調査するかもしれません。</p> <p>授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある</p>			
学修目標			
現代文化に関して、自分で、仮説を構築し、調査を設計し、その検証ができるようになる。性淘汰の理論を批判的に（感情的でなく）検討できるようになる			
授業計画			
*遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。			
<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 先輩学生のプレゼンテーション</p> <p>第3回 先行研究の検討</p> <p>第4回 先行研究への代案作成</p> <p>第5回 チームにわかれての、仮説構築・設問構築。文化チーム</p> <p>第6回 チームにわかれての、仮説構築・設問構築。流行チーム</p> <p>第7回 チームにわかれての、仮説構築・設問構築。メディアチーム</p> <p>第8回 チームにわかれての、仮説構築・設問構築。スマホチーム</p> <p>第9回 アンケートの作成</p> <p>第10回 アンケートの配布</p> <p>第11回 アンケートの回収</p> <p>第12回 回収アンケートからのデータ入力</p> <p>第13回 データクリーニング</p> <p>第14回 データの分析</p> <p>第15回 各チームによる分析結果発表と相互評価</p> <p>授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある</p>			
授業外学習（予習・復習）			
アンケート案の作成 分析			
教科書			
とくになし			
参考書			
拙著『就活ぶっちゃけ成功ゼミ』（光文社）。超初心者向けSPSS統計解析マニュアル 米川 和雄（著）、山崎 貞政（著） 北大路書房			
成績の評価基準			

平常点50%、レポート50%。

履修者全員による共同プロジェクトですので、遅刻する人・黙って休む人には単位を認定しない。毎回の参加度・提出物による評価。

#### オフィスアワ -

予約にて

#### アクティブ・ラーニング

グループワーク；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

#### 備考（受講要件）

遅刻する人・黙って休む人には単位を認定しない。体調不調などの場合は事後でもいいので、必ずメール連絡すること。桜井に論文指導を受けたいひとは、每期とってください（同じコマに他の必修や教職関連がある場合をのぞく）。むずかしくはないですが、かなり課題はおおくなるとおもいます。ラクしたいヒトはとらないように。ITについての予備知識は不要です。繰り返しの履修も可。統計についてはこのコマで十分ご教示できません。ので、統計関係の他の科目の履修を強くおすすめします。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

日本歴史・文化演習 B 1 (旧 日本史演習V)

## 英語名

Japanese History &amp; Culture B1

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

金井静香

099-285-7553

kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

中世古記録の読解を行う。受講者は、テキストのなかから各自の担当箇所を割り当てられ、その箇所に見える語句や登場する人物などについて事前に調べる。授業においては、出席している受講者全員が数行ずつ読み下しと現代語訳を行い、授業担当教員がそれを点検する。また、各受講者は自分に割り当てられた部分のなかから興味深いテーマを見だし、それについて調べ考察したことを発表する。

下記の「授業計画」では、『看聞日記』応永26年5月25日条～同年8月17日条を読む開講期の授業計画を記す。

## 学修目標

- (1) 中世古記録の読解力を向上させる。
- (2) 史料を用いた研究の方法に習熟する。
- (3) 自ら課題を設定し、それについて考察することができる。

## 授業計画

遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

第1回：ガイダンス

第2回：応永26年5月25日～6月15日条の読み下し及び現代語訳

第3回：応永26年5月25日～6月15日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第4回：応永26年6月16日～同月24日条の読み下し及び現代語訳

第5回：応永26年6月16日～同月24日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第6回：応永26年6月25日～7月6日条の読み下し及び現代語訳

第7回：応永26年6月25日～7月6日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第8回：応永26年7月7日～同月14日条の担当箇所の読み下し及び現代語訳

第9回：応永26年7月7日～同月14日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第10回：応永26年7月15日～同月28日条の読み下し及び現代語訳

第11回：応永26年7月15日～同月28日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第12回：応永26年7月29日～8月12日条の読み下し及び現代語訳

第13回：応永26年7月29日～8月12日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第14回：応永26年8月13日～同月17日条の読み下し及び現代語訳

第15回：応永26年8月13日～同月17日条の現代語訳及びテーマ考察発表

## 授業外学習 (予習・復習)

受講者は各自、予習としてテキストの読み下しと現代語訳を行う。発表を担当する受講者は、レジュメの作成も行う。

## 教科書

『玉葉』『看聞日記』などの中世古記録を予定している。

## 参考書

授業中に適宜紹介または配布する。

成績の評価基準

読み下し及び現代語訳 (35%)、テーマ考察の発表もしくはレポート (35%)、授業への取り組み態度 (30%)  
。

オフィスアワ -

あらかじめアポイントをとること。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

アジア歴史・文化演習 B 1 (旧 アジア史演習4)

## 英語名

Asian History &amp; Culture B1

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

2~4年

## 担当教員

大田由紀夫

## 連絡先 (TEL)

099-285-7560

## 連絡先 (MAIL)

ota@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

テーマ：『明史紀事本末』（課題提出型 + オンデマンド配信遠隔授業）

明朝一代の歴史を簡潔にまとめた『明史紀事本末』の明朝成立史に関する部分を講読していく予定である。

## 学修目標

基礎的な漢文読解能力を養うことをめざす。

## 授業計画

第1回 ガイダンス（課題提出型遠隔授業）

第2回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-1、テキスト216頁4行目（課題提出型遠隔授業）

第3回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-2、テキスト216頁9行目（オンデマンド配信遠隔授業）

第4回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-3、テキスト216頁後1行目（オンデマンド配信遠隔授業）

第5回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-4、テキスト217頁4行目（オンデマンド配信遠隔授業）

第6回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-5、テキスト217頁9行目（オンデマンド配信遠隔授業）

第7回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-6、テキスト217頁後1行目（オンデマンド配信遠隔授業）

第8回 まとめ（1）第2～7回の読解部分の復習・確認など（オンデマンド配信遠隔授業）

第9回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-7、テキスト218頁4行目（オンデマンド配信遠隔授業）

第10回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-8、テキスト218頁7行目（オンデマンド配信遠隔授業）

第11回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-9、テキスト218頁後5行目（オンデマンド配信遠隔授業）

第12回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-10、テキスト219頁2行目（オンデマンド配信遠隔授業）

第13回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-11、テキスト219頁5行目（オンデマンド配信遠隔授業）

第14回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-12、テキスト219頁9行目（オンデマンド配信遠隔授業）

第15回 まとめ（2）第9～14回の読解部分の復習・確認など（オンデマンド配信遠隔授業）

なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知する。

## 授業外学習（予習・復習）

演習で講読する史料の当該部分を事前に予習しておくことが望ましい。また、配布資料をもとに講読した部分について復習することが望ましい。

## 教科書

『明史紀事本末』（中華書局、1977年）。史料プリントを配布。

## 参考書

参考文献リストを配布。

## 成績の評価基準

演習における受講態度（30%）、レポート（70%）などから総合評価する。

## オフィスアワー

授業・会議等以外であればいつでも可。

## アクティブ・ラーニング

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング (授業回数)

## 備考 (受講要件)

必ず辞書持参のこと。

平成18年度以降の入学生は2単位、平成17年度以前の入学生は1単位となります。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されています。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ポピュラーカルチャー論演習 1 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)  
ナンバリングコード

FHS-DFH2530

科目名

ポピュラーカルチャー論演習 1 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)

英語名

Popular Culture 1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田純貴		099-285-7576	yota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

ポピュラーカルチャーにおいて、視覚イメージは重要な位置付けを占める。写真について記述されたJoel Meyerowitz, Seeing Thingsを読解することにより、視覚イメージを言語へと変換するのに有効な知見や視座を獲得する。

学修目標

1. 視覚イメージを分析する語彙や知見を獲得する
2. 英語での文章の読解に慣れる

授業計画

- 第1回：写真の特質について（課題提出型）
- 第2回：写真の印象についての記述（課題提出型）
- 第3回：写真家／フォトグラファーについて（課題提出型）
- 第4回：質疑応答（リアルタイム型）
- 第5回：Seeing Thingsの読解・解説（1）p. 7の1-2段落（オンデマンド型）
- 第6回：Seeing Thingsの読解・解説（2）p. 7の3-5段落（オンデマンド型）
- 第7回：Seeing Thingsの読解・解説（3）p. 7の6-7段落（オンデマンド型）
- 第8回：中間まとめ（リアルタイム型）
- 第9回：Seeing Thingsの読解・解説（4）p. 8の1-3段落（オンデマンド型）
- 第10回：Seeing Thingsの読解・解説（5）p. 8の4-6段落（オンデマンド型）
- 第11回：Seeing Thingsの読解・解説（6）p. 8の7-9段落（オンデマンド型）
- 第12回：Seeing Thingsの読解・解説（7）p. 10の前半部（オンデマンド型）
- 第13回：Seeing Thingsの読解・解説（8）p. 10の後半部（オンデマンド型）
- 第14回：写真についての日本語の論文読解（課題提出型）
- 第15回：総括（課題提出型）

リアルタイム型の授業は課題提出型・オンデマンド型に変更される可能性がある。  
今後の状況次第で授業回数や内容・進度は変更となる可能性がある

授業外学習（予習・復習）

- ・毎週課題の提出が求められる（英文翻訳など）。提出がない場合は、欠席扱い。締め切りには一定の時間的猶予を設ける。
- ・演習中に言及された哲学者やアーティストなど、専門用語については可能な限り検索して知識として習得すること
- ・初回のガイダンスで全体方針を説明するので、受講希望者は必ず参加すること

教科書

Joel Meyerowitz, Seeing Things, aperture, 2016.

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

- ・課題の提出 (出席確認を兼ねる) (30%)
- ・課題の精度 (60%)
- ・毎回のコメント (10%)

オフィスアワ -

火曜日4限 (事前にアポを取る)

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

- ・Zoom、manabaとresponを使用する
- ・他にもオンラインで質疑応答をするためのコミュニケーションツールを使用する

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DFH2518

## 科目名

ポピュラーカルチャー論

## 英語名

Popular Culture

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田純貴		099-285-7576	yota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

## 授業概要

ポピュラーカルチャーは様々な領域に渡り、その種類も多彩であるため、一言で括ることは極めて難しい。だが、映画やマンガ、アニメなど、ポピュラーカルチャーを構成する様々な領域においてはメディアテクノロジーの歴史についての知識は不可欠である。本講義では代表的なメディアテクノロジーの歴史と関連する文化的事象や知見を取り上げる。

## 学修目標

1. ポピュラーカルチャーを論じるため、メディアテクノロジーの歴史と関連する文化的事象、知見について、基礎知識を修得する。
2. メディア文化を自らの問題意識に沿って分析・考察するための視点を確保する。
3. 私たちを取り巻くポピュラーカルチャーや関連事象を批判的に検証できる視点を得る。

## 授業計画

- 第1回：自分にとってのポピュラーカルチャー（課題提出型）  
 第2回：ポピュラーカルチャーとの接点（課題提出型）  
 第3回：メディアということばについてのサーベイ（課題提出型）  
 第4回：メディアと文化（1）第1～3回のフィードバック（オンデマンド型）  
 第5回：メディアと文化（2）mediumと媒介（オンデマンド型）  
 第6回：メディアと文化（3）mediumと環境・場（オンデマンド型）  
 第7回：メディアと文化（4）mediumとヴィークル（オンデマンド型）  
 第8回：メディアと文化（5）mediumと身体（オンデマンド型）  
 第9回：メディアと文化（6）インジェクション・セオリーからの理論的進展（オンデマンド型）  
 第10回：メディアと文化（7）カーツワイルと技術決定論（オンデマンド型）  
 第11回：メディアと文化（8）ホイッグ史観、目的論的思考（オンデマンド型）  
 第12回：メディアと文化（9）電信、インターネット、メディア考古学（オンデマンド型）  
 第13回：メディアと文化（10）系譜学的思考（オンデマンド型）  
 第14回：メディアと文化（11）メディア考古学についての論文読解（課題提出型）  
 第15回：総括（課題提出型）

オンデマンド型は、リアルタイム型・課題提出型に変更される可能性がある。

オンデマンド型は動画 / 音声 + 文字 / 文字の三つのパターンのどれかで配信予定。

授業の進行やコロナウイルスをめぐる状況の変化に応じて、各回の内容が変更になる可能性がある。

## 授業外学習（予習・復習）

授業中に言及された文献や発想について検索すること。また、授業外学習については適宜指示する。

## 教科書

主にスライドを使用するため、特に購入は求めない。参考書として上がっている文献に留意すること。

## 参考書

- ・伊藤守編著『第二版 よくわかるメディア・スタディーズ』、ミネルヴァ書房、2015年
- ・井上俊編『全訂新版 現代文化を学ぶ人のために』、世界思想社、2014年
- ・エルキ・フータモ『メディア考古学』太田純貴編訳、NTT出版、2015年

- ・ドミニク・ストリナチ『ポプラー文化論を学ぶ人のために』渡辺潤 / 伊藤明己訳、世界思想社、2003年
- ・ブルム・ストーカー『ドラキュラ』（複数の訳あり）
- ・吉見俊哉『改訂版 メディア文化論』、有斐閣、2012（2004）年

## 成績の評価基準

- 1.出席（30%）
- 2.第一回と第二回の課題（20%）
- 3.毎回の授業で課されるミニレポート（50%）

## オフィスアワー

追って指示する（ガイダンス時に指示する予定）

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

## 備考（受講要件）

1. 授業予定・内容は、必要に応じて変更する可能性がある。
2. レポートの剽窃・盗作に関しては、厳しく対処する。
3. 成績評価がレポートの場合、授業中に指示した形式や参考資料（文献、ウェブ、映像含む）の提示の仕方を守っていないレポートに関しては、採点の対象外とする。
4. 受講制限あり（上限70名）
5. 第12回、第13回は構想中の研究内容のため、断片的な語りになる可能性がある。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2115			
科目名			
日本古典文学研究A (旧 日本古典文学)			
英語名			
Classical Japanese Literature A			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
富原カンナ		2 8 5 - 8 9 0 4 (丹羽)	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
まず上代の文字表記の特質、万葉集の構成、語法について講義する。続いて万葉集の主要歌人の作品を取り上げ、諸本の本文、訓みを確認し、問題点を明らかにした上で、あるべき訓みを検討し、作品の解釈、文学史的意義について考察する。その方法を踏まえて、学生による発表を行う。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・上代の表記、語法についての知識、理解を深める。</li> <li>・万葉集の作品への理解を深める。</li> <li>・上代文学に影響を与えた中国文学についての関心を高める。</li> </ul>			
授業計画			
第1回：万葉集の概要 第2回：雄略天皇の巻頭歌 第3回：天武天皇夫妻の相聞歌 第4回：但馬皇女の作品 第5回：額田王の作品(1) 第6回：額田王の作品(2) 第7回：有間皇子挽歌 第8回：天智天皇挽歌群 第9回：大伴旅人の「報凶問歌」 第10回：上代の表記について 第11回：山上憶良「思子等歌」 第12回：「言霊」について 第13回：山上憶良の作品 第14回：大伴家持の作品 第15回：レポート指導・質問回答			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：講義で扱う作品に目を通しておく。 復習：参考としてあげた作品・文献を読むことで知識を広げ、考えを深める。			
教科書			
『万葉集 本文篇』(塙書房)			
参考書			
『万葉事始』(和泉書院)			
成績の評価基準			
毎回の課題(70%) 期末試験(30%)			
オフィスアワー			
授業終了後、非常勤講師室			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

免許教科の必修授業科目：国語。

実務経験のある教員による実践的授業

ドイツ言語・文化演習 1 a (旧 ヨーロッパ言語コミュニケーション1)  
ナンバリングコード

FHS-DIH2144

科目名

ドイツ言語・文化演習 1 a (旧 ヨーロッパ言語コミュニケーション1)

英語名

German Language & Culture 1a

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年

担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
與倉アンドレーア	099-285-7578	yokura@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員	前後期
	前期

授業概要

1. 演習中心のドイツ語初級作文の授業である。
2. 簡単なドイツ語文を書く能力を修得することを、第一の目標とする。そのために、ドイツ語による手紙や履歴書、日記等の書式に関する基本的技術を教授しながら、受講者にも実際に書く訓練を行なう。
3. その他に、ドイツ語の発音と文法の基本的知識を教授する。

学修目標

基本的な用語等を使って自己表現する能力および相手の話の概略をつかみ取る聞き取り能力など、基本的なコミュニケーション能力を身につけること。

授業計画

- 1回：オリエンテーション
  - 2回：「レストランで」食事を注文する
  - 3回：「レストランで」支払う
  - 4回：「レストランで」話法の助動詞moechten, koennenなど
  - 5回：「ホテルで」探す・予約する
  - 6回：「ホテルで」直前予約のパック旅行
  - 7回：「ホテルで」話法の助動詞moechten, koennen、及び指示代名詞
  - 8回：ヨーロッパでの休暇
  - 9回：「街で」道を尋ねる、両替する、
  - 10回：「街で」切手を買う、タクシーに乗る
  - 11回：「街で」定冠詞1・4格、不定冠詞4格、
  - 12回：「旅行と交通」発車・到着時刻を訪ねる、
  - 13回：「旅行と交通」駅で切符を買う、
  - 14回：「旅行と交通」観光場所について話す、
  - 15回：「旅行と交通」過去形 war, hatte、及び期末試験のための復習など、
  - 16回：期末試験
- \*新型コロナ感染拡大の影響で、授業日程の変更や遠隔授業の導入がなされました。今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

授業外学習 (予習・復習)

予習・復習については第一回の授業で指示する。また、適宜指示する。

教科書

適宜プリントの配布

参考書

必要に応じて適宜紹介する

成績の評価基準

中間試験、小テスト、5~10分程度の発表(1回)、定期的な日記、および期末試験に基づき、総合的に評価する。

オフィスアワ -

月曜日3限目 (12:50 14:20)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

?共通教育科目「第2外国語コア」としてドイツ語の単位を取得していること。

?ドイツ語圏の諸国またはドイツ語に大きな関心を持っていることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
英語学研究(旧 英語構造論)			
英語名			
English Linguistics			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
末松信子		099-285-7572	suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
本講義では、18世紀末から19世紀初頭にかけて執筆活動を行ったジェイン・オースティンの英語について、動詞の統語法を中心に、歴史的視点から、また社会言語学的視点からの観察を行う。その中で、動詞統語法がどのような歴史的変遷をたどったのか、また現代英語の用法はどうなっているのかについて考察していく。			
学修目標			
(1) ジェイン・オースティンの英語の特徴について述べるができる。 (2) 英語の動詞統語法の歴史的変遷について述べるができる。 (3) 英語の構造に関する調査・分析を行う。			
授業計画			
* 遠隔形式(Zoomによるリアルタイム型)でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回：ガイダンス(リアルタイム型) 第2回：ジェイン・オースティンおよび時代背景について概説(リアルタイム型) 第3回：完了形(リアルタイム型) 第4回：進行形(リアルタイム型) 第5回：受動態(リアルタイム型) 第6回：仮定法(リアルタイム型) 第7回：否定(リアルタイム型) 第8回：不定詞(リアルタイム型) 第9回：分詞(リアルタイム型) 第10回：動名詞(リアルタイム型) 第11回：周助的助動詞(リアルタイム型) 第12回：数の一致(リアルタイム型) 第13回：動詞の変化形(リアルタイム型) 第14回：英語の構造に関する調査(リアルタイム型) 第15回：英語の構造に関する分析(リアルタイム型)			
授業外学習(予習・復習)			
予習： 指定された箇所を予め読んで予習しておくこと。 復習： 授業内容を基に各自参考書を調べるなどして復習しておくこと。			
教科書			
『ジェイン・オースティンの英語 - その歴史・社会言語学的研究』(開文社出版, 2004)			
参考書			
必要に応じて適宜指示する。			
成績の評価基準			
毎回の意見・質問の提出(35%)、期末レポート(65%)で評価する。			

オフィスアワ -

水曜日 10:30~12:00

木曜日 10:30~12:00

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DIH2217

## 科目名

西洋歴史・文化研究A(旧 西洋の歴史と社会A)

## 英語名

Western History &amp; Culture A

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先(TEL)

## 連絡先(MAIL)

細川道久

hos leh.kagoshima-u.ac.jp は  
アットマーク

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

イギリス帝国に関する歴史研究がどのように移り変わってきたのか、さらに、そのなかでカナダはイギリス帝国とどのような歴史的関係を築いてきたのかについて考察します。授業を通して、イギリス帝国や「アングロ世界」の歴史の一端を学ぶとともに、トランスナショナル・ヒストリーやグローバル・ヒストリーなど、いわゆる一國史的な枠組みをこえた関係史や包括的な分析視角の意義について考えます。前半は、理論的な話ですので、やや骨っぽい(?)解説になることを断っておきます。とはいっても、研究史をたどることは、人間の叡智の変遷をたどることになるはずです。

## 学修目標

イギリス帝国や「アングロ世界」の歴史(特にカナダの歴史)を学ぶことで、トランスナショナル・ヒストリーやグローバル・ヒストリーなどへの関心を深める。

## 授業計画

- 第1回: イントロダクション: 関係史・トランスナショナル・ヒストリー・グローバル・ヒストリー・ビッグ・ヒストリーとは?(課題提出型)
- 第2回: イギリス帝国史研究: 帝国主義史から帝国の社会史へ(1) 帝国史概観(課題提出型)
- 第3回: イギリス帝国史研究: 帝国主義史から帝国の社会史へ(2) 古典的帝国主義論(オンデマンド型)
- 第4回: イギリス帝国史研究: 帝国主義史から帝国の社会史へ(3) 自由貿易帝国主義論など(オンデマンド型)
- 第5回: イギリス帝国史研究: 帝国主義史から帝国の社会史へ(4) ジェントルマン資本主義論など(オンデマンド型)
- 第6回: イギリス帝国史研究: 帝国主義史から帝国の社会史へ(5) 帝国意識など(オンデマンド型)
- 第7回: イギリス帝国史研究: 帝国主義史から帝国の社会史へ(6) 帝国文化など(オンデマンド型)
- 第8回: イギリス帝国史研究: 帝国主義史から帝国の社会史へ(7) オリエンタリズム/ポストコロニアル論など(オンデマンド型)
- 第9回: カナダの歴史展開: イギリス帝国との関係(1) 帝国・コモンウェルス史概観(オンデマンド型)
- 第10回: カナダの歴史展開: イギリス帝国との関係(2) 18世紀~19世紀半ば(オンデマンド型)
- 第11回: カナダの歴史展開: イギリス帝国との関係(3) 19世紀半ば~19世紀末(オンデマンド型)
- 第12回: カナダの歴史展開: イギリス帝国との関係(4) 20世紀初頭~20世紀半ば(オンデマンド型)
- 第13回: カナダの歴史展開: イギリス帝国との関係(5) 20世紀半ば以降(オンデマンド型)
- 第14回: カナダの歴史展開: イギリス帝国との関係(6) ブリティッシュ・ワールド、移民史・社会史の視点(オンデマンド型)
- 第15回: まとめと補足: 大西洋関係史から太平洋関係史へ、そしてグローバル・ヒストリーへ(オンデマンド型)

今後の状況次第で授業回数や内容を変更する可能性がある。また、オンデマンド型講義は、リアルタイム型あるいは課題提出型に変更になる可能性がある。通常の授業に戻る可能性もある。

## 授業外学習(予習・復習)

講義で扱う内容について、参考文献で事前に予習しておくことが望ましい。また、講義資料や参考文献をもとに

講義内容について復習しておくことが望ましい。

#### 教科書

特に指定しない。

#### 参考書

以下のうち、最低1冊は読んでおくこと。川北稔・木畑洋一編『イギリスの歴史 帝国=コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000年、秋田茂『イギリス帝国の歴史』中公新書、2012年、細川道久『カナダの自立と北大西洋世界』刀水書房、2014年、細川道久『カナダ・ナショナリズムとイギリス帝国』刀水書房、2012年、細川道久編著『カナダの歴史を知るための50章』明石書店、2017年、細川道久『カナダの歴史がわかる25話』刀水書房、2007年、木村和男編『新版世界各国史23 カナダ史』山川出版社、1999年、日本カナダ学会編『新版 史料が語るカナダ』有斐閣、2008年、日本カナダ学会編『はじめて出会うカナダ』有斐閣、2009年、など。

#### 成績の評価基準

前半はレポート、後半は毎回のミニレポート、で評価する(いずれもmanabaを用いる)。イギリス帝国史に関する研究はどのような変遷をたどってきたのか。イギリス帝国やアメリカ合衆国、あるいは世界全体の動きとカナダの歩みを関連づけて理解することは、「一国史」的理解とくらべて、どのような意義(面白さ)と問題点があるのか。単にカナダ史の事件に関する理解度を試すのではなく、関係史的視点と「一国史」的視点の双方に対する自分なりの批判的見解が持てるようになったかどうかを問い、評価する。

#### オフィスアワー

金曜10時~11時

#### アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

#### アクティブ・ラーニング(その他の内容)

前半はレポート、後半は、毎回のミニレポート (いずれもmanabaを用いる)

#### アクティブ・ラーニング(授業回数)

#### 備考(受講要件)

平成28年度以前の入学生については「西洋の歴史と社会A」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHI2140			
科目名			
書道実習（旧 書道）			
英語名			
Japanese Calligraphy			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	実習	1単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
松元徳雄		099 - 285-8904（丹羽）	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>中学校における書写教育の現況を概観し、その指導法を学習する。また、中学校書写教材と同じ課題を練習し、その執筆法を習得することに努める。さらに、楷書・行書を中心とした書の古典を学ぶことにより、書道全般の様式の技法の特徴を把握してもらうが、あくまでも中学校書写教育との関連性を重視する。</p>			
学修目標			
<p>(1) 書写教育の内容と特徴を把握する。  (2) 書写教育の的確な指導法を見につける。  (3) 楷書の特徴と基本的な技法を習得する。  (4) 行書の特徴と基本的な技法を習得する。  (5) 仮名の特徴と基本的な技法を習得する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：書について（書体の特徴とその変遷）  第2回：中学校における書写教育について  第3回：楷書の特徴とその技法（基本点画の書き方）  第4回：楷書の特徴とその技法（細字の書き方）  第5回：楷書の古典とその技法  第6回：中学校で学ぶ楷書の基本とその応用  第7回：行書の特徴とその技法（基本点画の書き方）  第8回：行書の特徴とその技法（細字の書き方）  第9回：行書の古典とその技法  第10回：中学校で学ぶ行書の基本とその応用  第11回：仮名の特徴とその技法（いろは单体）  第12回：仮名の特徴とその技法（連綿）  第13回：仮名の古典とその技法  第14回：漢字仮名交じり書（1）  第15回：漢字仮名交じり書（2）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>事前に中学校書写の教科書を通覧しておくこと。授業後は、実習した課題を確認しながら、繰り返し練習をすること。</p>			
教科書			
書写教育に関するプリントと実物大の手本を配布する。			
参考書			
中学校書写教科書・書道の古典・書林			
成績の評価基準			
課題作品の提出（70%）、書写の態度（30%）を総合して評価する。			
オフィスアワ -			

集中講義期間中の月曜日～金曜日 1限～5限 当該教室

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

教員免許（中学国語）の必修科目。

実務経験のある教員による実践的授業

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 1 (旧 フランス語圏言語文化演習3)  
ナンバリングコード

FHS-DIH3104

科目名

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 1 (旧 フランス語圏言語文化演習3)

英語名

Modern Cultural History of Europe & America 1

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

梁川英俊

099-285-8891

yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

全15回の授業を遠隔形式で実施する。

フランス語のテキストを読む。

学修目標

- (1) フランス語の文法的な知識を深める。
- (2) フランス語の聴き取り能力を向上させる。
- (3) フランス語による日常生活に必要な語彙を修得する。
- (4) フランス語圏の文化について知識を深める。

授業計画

第1回 ガイダンス  
第2回~第14回 テキスト購読および指導助言  
第15回 まとめ

授業外学習 (予習・復習)

予習は必ず行ってください (1時間)。授業後は復習として、単語・構文等の見直しを必ず行ってください (1時間)。

教科書

指定しません。

参考書

必要に応じて、適宜紹介します。

成績の評価基準

授業への取り組み態度 (50%) + 期末試験 (50%)

オフィスアワー

特に設けません。事情に応じて対応します。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

毎回

備考 (受講要件)

授業形態は新型コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更することがあります。

実務経験のある教員による実践的授業

ドイツ言語・文化演習 1 b (旧 ドイツ語テキスト演習)  
ナンバリングコード

FHS-DIH2143

科目名

ドイツ言語・文化演習 1 b (旧 ドイツ語テキスト演習)

英語名

German Language & Culture 1b

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

竹岡健一

takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

比較的やさしいドイツ語の文章を読みながら、読解力を中心に、ドイツ語を読み・書き・聞く力を高めて行きます。また、ドイツ語圏の文化についても学びます。

専門分野(コース等)にかかわらず、ドイツ語の能力を伸ばしたいと思う人はぜひ履修して下さい。

学修目標

(1)比較的平易なドイツ語の長文を、辞書や文法書を使いながら訳読することができる。

(2)ドイツ語文法の理解を確かなものにする。

授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回~第15回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化

・授業は主に「課題提出型」で行うが、「オンデマンド型」、「リアルタイム型」、および「教室での通常授業」に変更になる可能性がある。

・また、今後の状況次第で、授業回数や内容が変更になる可能性もある。

授業外学習(予習・復習)

予習: 毎回の授業で扱うテキストを訳す。1時間程度。

復習: 予習で理解が不十分だった箇所について、確認を行う。また、基礎的な単語や慣用句を確認し、覚える。30分程度。

教科書

使用しない。授業中にプリントを配布する

参考書

授業中に紹介する。

成績の評価基準

「授業への取り組み態度」

オフィスアワー

特に時間は設けない。質問などがあれば、随時申し出ること。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

共通教育における「初級独語?・?」と同じレベルのドイツ語文法の学習を終えていること。

平成28年度以前入学生は「ドイツ語テキスト演習」に読み替え。

プロジェクター、DVD使用

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2128			
科目名			
アジア言語研究A(旧 中国語学)			
英語名			
Asian Linguistics A			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
三木夏華		sanmu@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		前後期 前期	
授業概要			
中国語の言葉の面白さをテーマにしたテキストを講読しつつ、日本語や英語などの言語間の異同を考察することにより、中国語の全体像を明らかにする。また異文化コミュニケーションに関わる文化などの非言語的要素についても考察を行う。			
学修目標			
(1) 中国語長文の読解力を高める。 (2) 中国語の語彙、文法について理解を深める。 (3) 中国語と日本語、英語などの対照研究方法の基礎を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス(課題提出型)			
第2回 テキスト第1課(前半)の講読(課題提出型)			
第3回 テキスト第1課(後半)の講読(課題提出型)			
第4回 テキスト第1課の内容に基づく中国語と英語・日本語の対照比較研究(課題提出型)			
第5回 第1課の解説講義(manabaにて提示)			
第6回 テキスト第2課(前半)の講読(課題提出型)			
第8回 テキスト第2課(後半)の講読(課題提出型)			
第9回 テキスト第2課の内容に基づく中国語と日本語の対照比較研究(課題提出型)			
第10回 テキスト第2課の内容に基づく中国語と英語の対照比較研究(受講生による発表と講義)			
第11回 第2課の解説講義(manabaにて提示)			
第12回 テキスト第3課(前半)の講読(課題提出型)			
第12回 テキスト第3課(後半)の講読(課題提出型)			
第13回 テキスト第3課・練習問題(課題提出型)			
第14回 テキスト第3課の内容に基づく中国語と日本語の対照比較研究(課題提出型)			
第15回 第3課の解説講義(manabaにて提示)			
第16回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
予習: 課題のテキスト本文を日本語に訳し、中国語と日本語の対照比較に関する課題テーマについて十分に調査し、発表すること。(学習に係る標準時間は1時間)			
教科書			
manabaにて提示する。			
参考書			
manabaに随時紹介する。			
成績の評価基準			
平常点(講義中の発表と質疑応答) 100%			
オフィスアワ -			
木曜 2 限目			

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

16回中9回

備考(受講要件)

受講においては1年以上の中国語の学習経験を必要とする。

平成28年度以前入学生は「中国語学」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DFH2525			
科目名			
現代文化論演習 1 (旧 現代文化論演習)			
英語名			
Culture In Modern Society 1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
櫻井芳生		099-285-7544	sakurai.yoshio@nifty.com
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>授業自体を一つのコミュニケーション・メディアと見なす。いろいろな問題意識をもった学生さんの相互啓発・批判の場を構築する。各自の自由研究発表を中心とする。どんなテーマを選んででもけっこうです。やり方は各人の境遇におうじて、くわしく説明します。就職や進学に関心の強い人も歓迎します。</p> <p>授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある</p>			
学修目標			
メディア・風評・美辞麗句にだまされない「批判的知性」を身につける。性淘汰の理論を(感情でなく)批判的に検討できるようになる			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	文献の探し方		
第3回	文献の批判		
第4回	下級生による発表 現代文化的視点		
第5回	履修生によるコメント 現代文化的視点		
第6回	コメントへのリプライ 現代文化的視点		
第7回	上級生による発表 流行論的視点		
第8回	履修生によるコメント 流行論的視点		
第9回	コメントへのリプライ 流行論的視点		
第10回	下級生による発表 メディア論的視点		
第11回	履修生によるコメント メディア論的視点		
第12回	コメントへのリプライ メディア論的視点		
第13回	全体討議		
第14回	フューチャーワークへの示唆		
第15回	総評		
授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある			
授業外学習 (予習・復習)			
期末に対応提出文を提出してもらうので、毎回の議論をよく復習しておくこと			
教科書			
なし			
参考書			
駿台文庫『論文ってどんなもんかい』。拙著『就活ぶっちゃけ成功ゼミ』(光文社)。桜井のHPの各文章			
成績の評価基準			
期末提出物(30%)、平常点(発表40%、発言30%)。黙って休む人には単位を認定しない。			
オフィスアワ -			
木曜 5 限			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

## アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中 15回

## 備考 (受講要件)

桜井に論文指導を受けたいひとは、毎年度必ずとってください(同じコマに他の必修や教職関連がある場合をのぞく)。むずかしくはないですが、かなり課題はおおくなるとおもいます。ラクしたいヒトはとらないように。  
では、たのしみましょー！

## 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DIH2218

## 科目名

西洋歴史・文化研究B(旧 西洋の歴史と社会B)

## 英語名

Western History &amp; Culture B

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

講義

## 単位数

2単位

## 開講期

2~4年

## 担当教員

藤内哲也

## 連絡先(TEL)

099-285-8863

## 連絡先(MAIL)

ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

テーマ：ヨーロッパ史のなかの病気と社会

今年は新型コロナウイルスが世界的に流行し、日本をはじめとした各国の経済や社会にも、またわたしたちの日常生活にも甚大な影響をもたらしています。現代社会を襲ったこの災厄について、わたしたちはどのように理解すればいいのでしょうか。

そのヒントを探るために、この講義では、ペスト(黒死病)をはじめとしたヨーロッパの歴史世界、とりわけ中世や近世における感染症や病気について取り上げ、流行の様子や当時の人々の対応、文化や社会への影響など、多様な側面から考えてみたいと思います。

## 学修目標

- ・中近世ヨーロッパにおける病気の諸相と文化や社会への影響に関する知識を得ます
- ・身近な視点から歴史世界について考える視座を獲得します
- ・現代世界の諸問題を考える視座を得ます

## 授業計画

- 第1回：感染症と社会：本講義の視角【オンデマンドmanaba/OneDrive】
- 第2回：ヨーロッパの気候と風土【オンデマンドmanaba/OneDrive】
- 第3回：飢餓と疫病【オンデマンドmanaba/OneDrive】
- 第4回：ペストの流行(1) 起源・ネズミ・貿易【オンデマンドmanaba/OneDrive】
- 第5回：ペストの流行(2) ペストの実態【オンデマンドmanaba/OneDrive】
- 第6回：ペストの流行(3) ペストとの戦い【オンデマンドmanaba/OneDrive】
- 第7回：ペストの流行(4) ペスト的心性【オンデマンドmanaba/OneDrive】
- 第8回：ペストの流行(5) ユダヤ人の迫害【オンデマンドmanaba/OneDrive】
- 第9回：ペストの流行(6) 死の文化【オンデマンドmanaba/OneDrive】
- 第10回：医学教育と医療行為【オンデマンドmanaba/OneDrive】
- 第11回：『健康全書』の世界【オンデマンドmanaba/OneDrive】
- 第12回：「コロンブスの交換」(1) 天然痘と奴隷【オンデマンドmanaba/OneDrive】
- 第13回：「コロンブスの交換」(2) 梅毒【オンデマンドmanaba/OneDrive】
- 第14回：近代世界と感染症【オンデマンドmanaba/OneDrive】
- 第15回：まとめと展望【オンデマンドmanaba/OneDrive】

## 授業外学習(予習・復習)

【予習】西洋史に関する知識が不足している場合には、参考書や初回授業時に紹介される概説書などを読んで基本的な事項について理解しておきます。

【復習】授業内容についてまとめ、授業時に紹介される参考文献などを読むことで、さらに理解を深めます。

## 教科書

指定しません

## 参考書

・服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』ミネルヴァ書房、2006年  
 ・小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』ミネルヴァ書房、2011年  
 その他の文献は、授業中に紹介します

## 成績の評価基準

小レポート(60%) + 期末レポート(40%)

(1) 小レポート: 授業内容に関する課題に取り組みます。

(2) 期末レポート: 参考文献等を読み、レポートを作成します。

## オフィスアワー

随時(メールにてアポをとること)

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

## アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

## 備考(受講要件)

授業内容に関する資料をmanabaで配布し、動画(または音声)をOneDrive上で公開するオンデマンド型の授業です。

新型コロナウイルス感染症の影響等により、授業形態を変更する場合があります。

## 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DHH2233

## 科目名

アジア歴史・文化演習 A 1 (旧 アジア史演習3)

## 英語名

Asian History &amp; Culture A1

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

2~4年

## 担当教員

福永善隆

## 連絡先 (TEL)

099(285)7561

## 連絡先 (MAIL)

fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

テーマ：『史記』講読

『史記』は中国歴代王朝で編纂された正史のうち、最初のものである。その形式は以降の歴代正史に継承されている。本演習ではその秦代に関する部分の講読を通じ、司馬遷の歴史観などについて分析を行う予定である。

## 学修目標

- (1) 基礎的な漢文読解能力を身につける
- (2) 中国古代に関する基礎知識を身につける
- (3) 史料講読を通して、中国史の基礎的な分析視角を身につける

## 授業計画

第1回：イントロダクション(オンデマンド型)

- |                       |              |                   |
|-----------------------|--------------|-------------------|
| 第2回：『史記』講読及び史料分析(1)   | テキスト312-313頁 | (課題提出型)           |
| 第3回：『史記』講読及び史料分析(2)   | テキスト314頁     | (課題提出型 + オンデマンド型) |
| 第4回：『史記』講読及び史料分析(3)   | テキスト317-318頁 | (課題提出型 + オンデマンド型) |
| 第5回：『史記』講読及び史料分析(4)   | テキスト321頁     | (課題提出型 + オンデマンド型) |
| 第6回：『史記』講読及び史料分析(5)   | テキスト322頁     | (課題提出型 + オンデマンド型) |
| 第7回：『史記』講読及び史料分析(6)   | テキスト324頁     | (課題提出型 + オンデマンド型) |
| 第8回：『史記』講読及び史料分析(7)   | テキスト325頁     | (課題提出型 + オンデマンド型) |
| 第9回：『史記』講読及び史料分析(8)   | テキスト326頁     | (課題提出型 + オンデマンド型) |
| 第10回：『史記』講読及び史料分析(9)  | テキスト327頁     | (課題提出型 + オンデマンド型) |
| 第11回：『史記』講読及び史料分析(10) | テキスト328頁     | (課題提出型 + オンデマンド型) |
| 第12回：『史記』講読及び史料分析(11) | テキスト328-329頁 | (課題提出型 + オンデマンド型) |
| 第13回：『史記』講読及び史料分析(12) | テキスト331頁     | (課題提出型 + オンデマンド型) |
| 第14回：『史記』講読及び史料分析(13) | テキスト333頁     | (課題提出型 + オンデマンド型) |
| 第15回：総括               |              | (課題提出型 + オンデマンド型) |

授業回数・内容は今後の状況により変更の可能性がある

## 授業外学習(予習・復習)

- (予習) 毎回、テキストの指定箇所を前もって講読したうえで、出席することを求める。
- (復習) 授業時に紹介した参考文献を読むことを推奨する

## 教科書

『史記会註考証』(上海古籍出版社、2015年)〔授業中に配布〕

## 参考書

適宜、参考論文を紹介する

## 成績の評価基準

期末レポートは課さない。各回の提出課題により総合的に評価する。

## オフィスアワ -

授業・会議等以外であればいつでも可。

## アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

必ず辞書を持参のこと。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されます。

実務経験のある教員による実践的授業

<b>ナンバリングコード</b>			
FHS-DIH2111			
<b>科目名</b>			
哲学研究A (旧 西洋の人間と思想A)			
<b>英語名</b>			
Western Philosophy A			
<b>開講学科</b>		<b>コース</b>	
人文学科		多元地域文化コース	
<b>授業科目区分</b>	<b>授業形態</b>	<b>単位数</b>	<b>開講期</b>
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
<b>担当教員</b>		<b>連絡先 (TEL)</b>	<b>連絡先 (MAIL)</b>
柴田健志		285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp
<b>共同担当教員</b>		<b>前後期</b>	
		前期	
<b>授業概要</b>			
哲学史上の重要問題を検討します。			
<b>学修目標</b>			
哲学史上の重要問題を理解し、それを明快な言語で叙述する方法を習得ことを到達目標とする。			
<b>授業計画</b>			
<b>授業計画</b> 第1回 ガイダンス 第2回 哲学史のストーリー 第3回 「魂」という原理 第4回 アテナイの哲学 第5回 地中海の哲学 第6回 科学革命の時代 第7回 デカルトの哲学 第8回 心身問題 第9回 経験論 第10回 超越論的観念論 第11回 生の哲学 第12回 ジェイムズ 第13回 ベルクソン 第14回 心の哲学 第15回 まとめ  今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある			
<b>授業外学習 (予習・復習)</b>			
予習 テキストの問題点を各自まとめる。 復習 問題点の掘り下げと検討。			
<b>教科書</b>			
伊藤邦武 『物語 哲学の歴史』			
<b>参考書</b>			
授業の際に適宜紹介。			
<b>成績の評価基準</b>			
以下の3点からおこなう。?読解の妥当性40% ?理解の発展性30% ?論理の整合性30%			
<b>オフィスアワ -</b>			
授業終了後			
<b>アクティブ・ラーニング</b>			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中3回

備考 (受講要件)

受講要件: 「哲学概論」および「倫理学概説」の単位を取得していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DIH2122

## 科目名

イギリス演劇研究(旧 イギリス演劇論)

## 英語名

British Drama

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

講義

## 単位数

2単位

## 開講期

2~4年

## 担当教員

大和高行

## 連絡先(TEL)

099-285-7570

## 連絡先(MAIL)

yamato@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

イギリスの歴史を描いた映画について学んでゆきます。講義ではイギリスの歴史を描いた映画とその演出法の関係に焦点を当ながら、歴史がどのように表象されているか確認します。

## 学修目標

- 1、イギリスに歴史について述べることができる。
- 2、イギリスの歴史を描いた映画とその演出法の関係について述べるができる。

## 授業計画

\* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回 ガイダンス(授業の目的、授業の進め方、評価基準等についての説明)【リアルタイム型】  
 第2回 18世紀「イギリス海軍」『戦艦パウンティ号の叛乱』【リアルタイム型】  
 第3回 18世紀「中・上流階級」『プライドと偏見』【リアルタイム型】  
 第4回 ヴィクトリア朝「ヴィクトリア朝の教育と子ども」『オリバー・ツイスト』【リアルタイム型】  
 第5回 ヴィクトリア朝「ヴィクトリア女王」『Queen Victoria 至上の恋』【リアルタイム型】  
 第6回 ヴィクトリア朝「階級と世紀末」『理想の結婚』(『理想の夫』)【リアルタイム型】  
 第7回 ヴィクトリア朝「観光旅行」『80日間世界一周』【リアルタイム型】  
 第8回 20世紀「第一次世界大戦」『西部戦線異状なし』【リアルタイム型】  
 第9回 20世紀「第二次世界大戦」『史上最大の作戦』【リアルタイム型】  
 第10回 20世紀「炭鉱不況と音楽」『プラス!』【リアルタイム型】  
 第11回 その他「移民問題」『ベッカムに恋して』【リアルタイム型】  
 第12回 その他「作家の伝記(同性愛)」『オスカー・ワイルド』【リアルタイム型】  
 第13回 その他「作家の伝記(ナショナル・トラスト)」『ミス・ポター』【リアルタイム型】  
 第14回 その他「作家の伝記(児童文学)」『ネバーランド』【リアルタイム型】  
 第15回 まとめと総合的評価。レポートを課し、最後にまとめの授業を行う。【リアルタイム型】  
 授業中に小テストを課す場合がある。

## 授業外学習(予習・復習)

教科書に予め目を通し、予習しておくこと。また、毎回の講義を受けた後に、復習しておくこと。(学習に係る標準時間は約1時間)

## 教科書

吉田徹夫ほか編『映画で楽しむイギリスの歴史』金星堂、2010年

## 参考書

村岡健次・木畑洋一(編)『世界歴史大系 イギリス史1 近現代』、山川出版社、1991年。  
 中村邦生・大神田 丈二・木下 卓(編著)『たのしく読めるイギリス文学 - 作品ガイド150 (シリーズ・文学ガイド)』ミネルヴァ書房、1994年。  
 その他、必要に応じて適宜、指定する。

## 成績の評価基準

授業の感想レポート(30%)、期末レポート(30%)、授業内での小テスト(40%)とし、総合的に評価します。

オフィスアワ -

曜日・時間：毎週水曜日9:15～10:15、場所：大和研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

該当せず。

## ナンバリングコード

FHS-DHH2136

## 科目名

中国言語文化演習B1 (旧 中国言語文化論演習)

## 英語名

Chinese Language &amp; Culture B1

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

中筋健吉

099-285-8893

gunshi@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

本授業では前期のA1につづき、杜甫の「朝享太廟賦」を講読する。

杜甫は同時代の李白とともに「李絶杜律」と併称され、中国古典詩史を代表する詩人として名高いが、生涯において7篇の賦作品を残している。

賦は中国古典文学の文体の一つであり、有韻無韻の文をとりまぜた長文の文芸である。漢代に盛行し、以後時代により様々に形を変化させて存続した。

本篇は杜甫の長安宮廷出仕の契機となつたいわゆる獵官運動的の性質をもつ作品の一つであるが、本作の鑑賞を通じて、当時が杜甫おかれていた状況やその心情の理解につとめたい。

## 学修目標

本作品および関連する作品の講読、またそれを通じて中国古典文学作品や注釈の読解方法、および関連する各種文献の取り扱い方を学ぶ。

## 授業計画

各受講生が事前に指定された部分の本文および注について、読解発表を行う。発表にあたっては、本文原文、注を訓読し、現代日本語に訳したものを発表する。受講生は余力があれば、他の作品を読む。

- 第1回： オリエンテーション：  
 第2回： 杜甫の経歴：『旧唐書』『新唐書』杜甫本傳  
 第3回： 「朝享太廟賦」講読：発表と討論（1）  
 第4回： 「朝享太廟賦」講読：発表と討論（2）  
 第5回： 「朝享太廟賦」講読：発表と討論（3）  
 第6回： 「朝享太廟賦」講読：発表と討論（4）  
 第7回： 「朝享太廟賦」講読：発表と討論（5）  
 第8回： 「朝享太廟賦」講読：発表と討論（6）  
 第9回： 「朝享太廟賦」講読：発表と討論（7）  
 第10回： 「朝享太廟賦」講読：発表と討論（8）  
 第11回： 「朝享太廟賦」講読：発表と討論（9）  
 第12回： 「朝享太廟賦」講読：発表と討論（10）  
 第13回： 「朝享太廟賦」講読：発表と討論（11）  
 第14回： 「朝享太廟賦」講読：発表と討論（12）  
 第15回： まとめ

## 授業外学習（予習・復習）

予習：毎回の授業で講読する作品について、事前に辞書等を検索し、自らも読解して出席すること。

復習：授業にもとづいて、自分の読解を再検討すること。

## 教科書

事前にテキストプリントを配布する。

## 参考書

黒川洋一『杜甫詩選』（岩波文庫）

川合康三『杜甫』(明治書院)

## 成績の評価基準

授業中の発表報告とレジュメ(50%)および期末レポート(50%)の結果を考慮して総合的に評価する。

## オフィスアワ -

不在時以外随時。但し、事前にメールにてご連絡下さい。

## アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中12回(予定)

## 備考(受講要件)

平成28年度以前の入学生については「中国言語文化論演習」に読み替える

本シラバスはあくまで計画であるので、受講者数その他の状況によって、適宜変更の可能性もある。変更の際は通知する。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2233			
科目名			
考古学演習 1 a (旧 物質文化論演習)			
英語名			
Archaeology 1a			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎		099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>学術論文はどのような構成になっているか、を理解するために、考古学関係の論文を用いながら、受講生がその論文に関するレジюмеを作成し、発表する。また4年生は卒業論文の進捗状況について発表する。</p>			
学修目標			
<p>学術論文の構成を理解するとともに、自らが卒業論文を書くための基礎的知識と技能を修得する。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス            第2回 学生による発表とディスカッション1 (課題提供型)            第3回 学生による発表とディスカッション2 (課題提供型)            第4回 学生による発表とディスカッション3 (課題提供型)            第5回 学生による発表とディスカッション4 (課題提供型)            第6回 学生による発表とディスカッション5 (課題提供型)            第7回 学生による発表とディスカッション6 (課題提供型)            第8回 学生による発表とディスカッション7 (課題提供型)            第9回 学生による発表とディスカッション8 (課題提供型)            第10回 学生による発表とディスカッション9 (課題提供型)            第11回 学生による発表とディスカッション10 (課題提供型)            第12回 学生による発表とディスカッション11 (課題提供型)            第13回 学生による発表とディスカッション12 (課題提供型)            第14回 学生による発表とディスカッション13 (課題提供型)            第15回 学生による発表とディスカッション14 (課題提供型)            今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>各学生による発表を主体とするので、そのための予習は必須。また授業での議論・指摘等をもとに復習が望ましい。</p>			
教科書			
参考書			
<p>授業中、適宜紹介する。</p>			
成績の評価基準			
<p>平常点・期末レポート</p>			
オフィスアワ -			
<p>授業・会議のない時間ならばいつでも可。</p>			
アクティブ・ラーニング			
<p>ディベート; プレゼンテーション;</p>			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
<p>学生が選択した論文をレジюмеにまとめ発表し、その内容について議論する。</p>			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

15回中14回

備考(受講要件)

平成23年度以前の入学生は「物質文化論演習」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH3103			
科目名			
英語コミュニケーションA			
英語名			
English Communication A			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
スティーブ・コダ		285-7573	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		coke@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
The primary goal of this class is discussion about sensitive social topics. You will improve your speaking skills.			
学修目標			
You will be given vocabulary and reading exercises about the topic overseas as homework to prepare you for the following week's discussion. Each class, you will discuss in small groups as well as work on different activities connected to the theme. Each week will look at a different topic. You will also be expected to continue your discussion practice outside of the classroom as well as look for data from Japan connected with the next topic.			
授業計画			
Week 1 Introduction			
Week 2 Cosmetic surgery			
Week 3 Cheating on your partner			
Week 4 Prostitution			
Week 5 Sexual harrassment			
Week 6 Animal rights			
Week 7 Get married or stay single			
Week 8 Immigration and racism			
Week 9 Abortion			
Week 10 Changing sex			
Week 11 Gays and jobs			
Week 12 Vanity			
Week 13 Euthansia			
Week 14 Drugs			
Week 15 Death penalty			
Week 16 Test			
授業外学習 (予習・復習)			
You will be expected to gather information to use in your discussions			
教科書			
Handouts will be given			
参考書			
Bring your dictionaries.			
成績の評価基準			
Classwork/Homework 50% ( 授業中の活動・課題 50%)			
Final test 50% ( 期末試験50%)			
オフィスアワ -			
Anytime is ok, but mail me to make sure I'm in!			

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

この授業は5月6日以降Zoomでリアルタイムで行う予定です。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DFH4102			
科目名			
言語と文化演習			
英語名			
Language & Culture 1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
太田一郎			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>最近の言語と社会や文化の関係についての研究から、言語現象の分析のための視点を養うことを目指す。今学期は、ことばのバリエーションの捉え方を、「新敬語 マジヤバイっす」(中村桃子著、白澤社)の購読を通して、ことばとアイデンティティおよびメディアとことば関連の問題を考える。授業は文献の講読、受講生の報告などをもとに進める。</p> <p>全15回の授業を遠隔方式(zoomによるリアルタイム配信)で実施する</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語学の専門知識を習得する</li> <li>2. 自ら言語学の問題を発見・分析する力を身につける</li> <li>3. 言語、社会、文化の様々な現象を捉える視点を養う</li> </ol>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス(授業概要,成績評価,レポート提出方法の説明など)</p> <p>第2回 「ス体」ということば使い1:その形成過程</p> <p>第3回 「ス体」ということば使い2:ス体の社会的意味とイデオロギー</p> <p>第4回 男子大学生の「ス」の使い方1:量的分析結果</p> <p>第5回 男子大学生の「ス」の使い方2:質的分析結果</p> <p>第6回 メディアのことば1:ことばの越境(language crossing)</p> <p>第7回 メディアのことば2:ことばの本物性(authenticity)</p> <p>第8回 メディアのことば3:mediation と mediatization</p> <p>第9回 ウェブサイトにおける「ス」1:「ス」の評価</p> <p>第10回 ウェブサイトにおける「ス」2:レスに見る「ス」の違い</p> <p>第11回 テレビCMの男性の「ス」体1:「軽さ」と男性性</p> <p>第12回 テレビCMの男性の「ス」体2:「ス」の勢い</p> <p>第13回 テレビCMの女性の「ス」体1:実際の女性の「ス」体</p> <p>第14回 テレビCMの女性の「ス」体2:新しい女性性の表出</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>(内容や順序は変更することもある)</p> <p>全15回の授業を遠隔方式(zoomによるリアルタイム配信)で実施する</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習:授業前に必ず教科書,文献等に目を通しておくこと。関係図書が指定された場合は必ず目を通して授業に望むこと。(30-60分)</p> <p>復習:各回の内容を教科書等を読み確認すること(30分)</p>			
教科書			
中村桃子 著 『新敬語「マジヤバイっす」』(白澤社)			
参考書			
中村桃子著『翻訳がつくる日本語:ヒロインは「女ことば」を話し続ける』白澤社			

クレア・マリィ著『発話者の言語ストラテジーとしてのネゴシエーション』ひつじ書房  
 クレア・マリィ著『おネエことば論』青土社  
 その他適宜指示する

成績の評価基準

授業中に指示する課題（50%）、期末レポート（50%）

オフィスアワー

月曜 5 限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；  
 アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

太田一郎ゼミの2，3年生は必ず受講すること。

授業形態はコロナウイルス感染症の影響，その他の理由により変更することがある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DFH2114			
科目名			
言語と文化			
英語名			
Language & Culture			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
太田一郎			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>テーマ：ことばの記号論</p> <p>ことばは人間にとってあたりまえの存在なので、ふだんことばそのものについて深く考えることはあまりないかもしれない。しかし、ことばの成り立ちやそのはたらきを詳細に分析すると、人間がことばを持ち、使用することの意味、社会や文化とことばの関連など興味深い問題が見えてくる。この講義では、ソシユールとパースによることばの記号作用について学び、ことばを通してわれわれの周囲で起きる社会現象、文化現象を理解することを考える。</p> <p>* 当初は遠隔授業（課題提出型）で始める。その後は状況次第でオンライン等に移行する可能性がある。</p>			
学修目標			
<p>(1) 人間のことばの一般的な性質について述べることができる</p> <p>(2) ことばにかんする問題の本質をとらえて考えることができる</p> <p>(3) ことばの問題をとおして、社会を偏りなくとらえる視点を学ぶ</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス（遠隔授業）</p> <p>第2回 人間のことばとコミュニケーション（遠隔授業）</p> <p>第3回 言語分析の基礎知識：音韻論，形態論，統語論</p> <p>第4回 人間のことばの特徴(1) 線状性と分節性</p> <p>第5回 人間のことばの特徴(2) 連辞関係と範列関係</p> <p>第6回 言語のとらえ方(1) ラング，ランガージュ，パロール</p> <p>第7回 言語のとらえ方(2) 通時言語学と共時言語学</p> <p>第8回 ことばという記号：シーニュ，シニフィアンとシニフィエ</p> <p>第9回 体系と構造：言語学とその周辺</p> <p>第10回 パースの記号論(1) 意味を生み出す過程：パースの記号論</p> <p>第11回 パースの記号論(2) 類像記号，指標記号，象徴記号</p> <p>第12回 ことばの指標性：言語資源，言語意識，言語イデオロギー</p> <p>第13回 指標性と象徴記号</p> <p>第14回 メディアによる意味の生成：CMの分析を例に</p> <p>第15回 まとめ（課題提示による授業）</p>			
【重要な注意】			
<p>(1) 今後の状況次第で授業回数や内容は変更になることもある。</p> <p>(2) 第3回以降はオンラインまたはオンデマンドによる遠隔授業。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：指定された資料等に目を通して授業に参加すること（60分）</p> <p>復習：毎回講義内容をまとめ、論点を整理し、疑問点等を確認すること（60分）</p>			
教科書			
指定しない			

## 参考書

「ソシユール入門」(町田健 2003 光文社新書)  
 「知の教科書 ソシユール」(加賀野井秀一 2003 講談社選書メチエ)  
 「言語が生まれるとき死ぬとき」(町田健 2001 大修館書店)  
 「メディアの知/記号の知」(石田英敬 2003 東大出版会)  
 「記号論への招待」(池上嘉彦 1984 岩波新書)

## 成績の評価基準

毎授業後のレポート80%(出席していない者のレポートは提出しても採点対象外)  
 学期末のレポート20%  
 \*状況に応じて変更することもある。

## オフィスアワ -

月曜5限 研究室

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

## アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

## 備考(受講要件)

(1)ことばの問題に関心のある人。(2)授業予定,内容は必要に応じて変更することもあります。(3)この授業が選択科目である人文学科 旧「メディアと現代文化コース」と旧「日本とアジアコース」人たちは「無条件で」履修を認めます。(4)毎週レポートを読んで採点するためあまり多数の受講者をかかえることはできません。受講希望者が多い場合は,初回にレポートを書かせて全体で100名程度に絞ります。そのため「初回の授業は必ず出席すること」。出席していない場合はそれ以後の受講資格を失います。選考に漏れた場合も,個別に申し出れば受講を許可することがありますので,そのときは申し出てください。(5)レポートの提出は授業の翌日の夜20時。毎回のレポートはかなり負担になります。そのつもりで受講してください。(6)レポート提出はパソコン・メールによる(ケータイメールは不可)(7)出席,遅刻等のチェックは厳しく行いません。(8)私語厳禁。(9)受講態度不良の者は減点します。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH2110			
科目名			
哲学研究B (旧 西洋の人間と思想B)			
英語名			
Western Philosophy B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
近藤和敬		099-285-8910	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
哲学と近代社会について考える			
学修目標			
1. 現代哲学における近代社会について考える。 2. 現代哲学を近代批判という視点から理解する。			
授業計画			
第1回：近代批判の歴史と前提1 (オンデマンド：以下OD) 第2回：近代批判の歴史と前提2 (OD) 第3回：ドゥルーズ『哲学とは何か』を呼ぶ (OD) 第4回：「結論 カオスから脳へ」について1 (OD) 第5回：「結論 カオスから脳へ」について2 (OD) 第6回：「地理哲学」について1 (OD) 第7回：「地理哲学」について2 (OD) 第8回：「内在平面」について1 (OD) 第9回：「内在平面」について2 (OD) 第10回：「概念について」1 (OD) 第11回：「概念について」2 (OD) 第12回：哲学と科学と芸術について1 (OD) 第13回：哲学と科学と芸術について2 (OD) 第14回：哲学とは何か (OD) 第15回：総括 (OD)			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中にレジュメを配りますので、授業前にレジュメと自分で作成したノートで復習しておくことが望ましいです。毎回授業後にmanaba上で授業の振り返りと感想を掲示板に書いてもらいます。			
教科書			
近藤和敬『ドゥルーズとガタリの『哲学とは何か』を精読する - 内在の哲学試論』(講談社)、2020年。必ずしも購入する必要はありませんが、授業の内容は理解しやすくなると思います。			
参考書			
授業中に文献表を提示します。			
成績の評価基準			
・授業中に、掲示板で振り返りメモを提出してもらいます。 評価基準：1)まとめとしての適切さ、2)論理的整合性、3)追加資料などの自主的な学習の有無			
オフィスアワー			
授業のあとなど随時			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ; アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

哲学概論および倫理学概説をすでに受講済みであることが望ましいです (ここで話された内容は知っているものとして講義します)。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DHH2233

## 科目名

アジア歴史・文化演習 B 1 (旧 アジア史演習4)

## 英語名

Asian History &amp; Culture B1

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

2~4年

## 担当教員

大田由紀夫

## 連絡先 (TEL)

099-285-7560

## 連絡先 (MAIL)

ota@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

テーマ：『明史紀事本末』（課題提出型 + オンデマンド配信遠隔授業）

明朝一代の歴史を簡潔にまとめた『明史紀事本末』の明朝成立史に関する部分を講読していく予定である。

## 学修目標

基礎的な漢文読解能力を養うことをめざす。

## 授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-1、テキスト212頁後1行目

第3回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-2、テキスト213頁3行目

第4回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-3、テキスト213頁7行目

第5回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-4、テキスト213頁後5行目

第6回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-5、テキスト213頁後1行目

第7回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-6、テキスト214頁3行目

第8回 まとめ(1) 第2~7回の読解部分の復習・確認など

第9回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-7、テキスト214頁8行目

第10回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-8、テキスト214頁後4行目

第11回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-9、テキスト215頁1行目

第12回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-10、テキスト215頁7行目

第13回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-11、テキスト215頁10行目

第14回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-12、テキスト215頁後2行目

第15回 まとめ(2) 第9~14回の読解部分の復習・確認など

なお、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知する。

## 授業外学習 (予習・復習)

演習で講読する史料の当該部分を事前に予習しておくことが望ましい。また、配布資料をもとに講読した部分について復習することが望ましい。

## 教科書

『明史紀事本末』（中華書局、1977年）。史料プリントを配布。

## 参考書

参考文献リストを配布。

## 成績の評価基準

演習における受講態度(30%)、レポート(70%)などから総合評価する。

## オフィスアワー

授業・会議等以外であればいつでも可。

## アクティブ・ラーニング

## アクティブ・ラーニング (その他の内容)

## アクティブ・ラーニング (授業回数)

## 備考 (受講要件)

必ず辞書持参のこと。

平成18年度以降の入学生は2単位、平成17年度以前の入学生は1単位となります。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されています。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2131			
科目名			
日本近現代文学演習A1 (旧 日本文学演習)			
英語名			
Modern Japanese Literature A1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
多田蔵人			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>テーマ： 幻想小説を読む</p> <p>日本の近代文学のなかには、いわゆる幽霊や妖怪、超常現象、神、魔術といった領域を描いた作品が、少なからざる割合で存在する。これらの作品は、書かれることによって何を夢想し、何を呼び寄せようとし、結果としてどのような事態を引き起こしていたのか。優れた作品を読み、調べてゆく過程で、そのことのヒントを見つけたいと思っている。毎回一篇の短篇を読みあわせ、発表者は調べた上で自分の解釈を発表し、討論を行う。比較的著名な作家とともに、今日あまり顧みられることのないマイナー作家の作品も取り扱う。</p>			
学修目標			
・日本近代文学の基礎知識を習得し、文学的想像力の問題に関する知見を深める。			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：泉鏡花『蠅を憎む記』</p> <p>第3回：三島由紀夫『志賀寺上人の恋』</p> <p>第4回：夢野久作『人の顔』</p> <p>第5回：澁澤龍彦『護法』</p> <p>第6回：谷崎潤一郎『天鷲絨の夢』</p> <p>第7回：石川淳『瓜喰ひの僧正』</p> <p>第8回：宮澤賢治『双子の星』</p> <p>第9回：幸田露伴『望樹記』</p> <p>第10回：佐藤春夫『指紋』</p> <p>第11回：江戸川乱歩『目羅博士の不思議な犯罪』</p> <p>第12回：岡本かの子『過去世』</p> <p>第13回：円地文子『かの子変相』</p> <p>第14回：久生十蘭『新残酷物語』</p> <p>第15回：牧野信一『繰舟で往く家』</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
指定したテキストを必ず読んでくること。			
教科書			
授業時に適宜配布する。			
参考書			
成績の評価基準			
毎回の提出物 (20%)、発表 (40%)、期末レポート (40%) を総合して評価する。			
オフィスアワー			
月曜3限			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DIH2133

科目名

哲学演習 A 1 (旧 西洋の人間と思想A演習1)

英語名

Western Philosophy A1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

柴田健志

連絡先 (TEL)

285-7533

連絡先 (MAIL)

siba@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

- (1) 哲学的テキストの読解
- (2) レポートの作成

学修目標

古典的テキストを正確に読解し、レポートを作成する方法の習得を目標にします。

授業計画

授業計画

- 第1回 テキスト読解ガイダンス
- 第2回 テキスト読解：デカルト『第1省察』の概要
- 第3回 テキスト読解：デカルト『第2省察』の概要
- 第4回 テキスト読解：デカルト『第3省察』の概要
- 第5回 テキスト読解：デカルト『第4省察』神の誠実性
- 第6回 テキスト読解：デカルト『第4省察』判断の問題
- 第7回 テキスト読解：デカルト『第4省察』誤謬論
- 第8回 テキスト読解：デカルト『第4省察』自由意志
- 第9回 テキスト読解：デカルト『第4省察』決定論
- 第10回 テキスト読解：デカルト『第4省察』誤謬とは何か
- 第11回 テキスト読解：デカルト『第4省察』誤謬を防ぐ方法
- 第12回 レポート作成法ガイダンス
- 第13回 レポート作成法：テーマ
- 第14回 レポート作成法：校正
- 第15回 レポート作成法：引用

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

授業外学習 (予習・復習)

予習 テキストの指定された範囲を精読。

復習 問題点の確認および検討。

教科書

デカルト『省察 情念論』中央公論

参考書

野田又夫『デカルト』岩波新書

成績の評価基準

以下の3点からおこなう。?読解の妥当性40% ?理解の発展性30% ?論理の整合性30%

オフィスアワ -

授業終了後

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回のうち3回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DHH2134

## 科目名

中国文学演習A1 (旧 中国文学演習)

## 英語名

Chinese Literature A1

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

高津孝

099-285-7562

gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

中国文学(詩)の入門編。中国文学を学習するうえでの基礎的知識の習得を目的とする。中国文学において特に重要なジャンルである詩を取り上げて、その詩形、平仄、韻律、押韻等の基本的な知識や文法的特徴を講義し、また、辞書の種類、その使い方、各種参考図書についての基本的知識についても、あわせて説明を行う。

## 学修目標

漢和辞典の歴史、基本的事項についての理解を深める。中国古典詩についての規則を理解した上で、近体詩(五言絶句)の作成を実際に行う。また、テキストに基づいて、中国古典詩の読解を行う。以上を通じて、漢文読解の基本的事項についての理解を深めることを目標とする。

## 授業計画

第1回	オリエンテーション (課題提出型)		
第2回	柳宗元・江雪 (課題提出型)		
第3回	近体詩の規則 (オンデマンド型)		
第4回	杜審言 (オンデマンド型)		
第5回	賀知章 (オンデマンド型)		
第6回	陳子昂 (オンデマンド型)		
第7回	張九齡 (オンデマンド型)		
第8回	王翰 (オンデマンド型)		
第9回	王之涣 (オンデマンド型)		
第10回	孟浩然 (オンデマンド型)		
第11回	王昌齡 (オンデマンド型)		
第12回	王維 (オンデマンド型)		
第13回	崔? (オンデマンド型)	第14回	李白 (オンデマンド型)
第15回	杜甫 (オンデマンド型)		

\*オンデマンド型講義は、リアルタイム型や教室での通常講義に変更になる可能性がある。

## 授業外学習 (予習・復習)

予習：次の授業で扱う詩について、テキストの注釈を参考に意味を理解し、訓読できるようにしておくこと。約1時間。

復習：授業中に学んだ内容について復習し、原文から訓読できるようにしておくこと。約30分

その他：時間内で学習する中国古典詩は極めて限られています。小川環樹『唐詩概説』(岩波文庫)を始め、中国古典詩の解説書は文庫本で簡単に手に入ります。出来るだけ多くの作品に触れるようにしてください。

## 教科書

深澤一幸『唐詩選 ビギナーズ・クラシックス 中国の古典』(角川ソフィア文庫、2010年)

## 参考書

小川環樹『唐詩概説』(岩波文庫、2005年)

周勳初『中国古典文学批評史』(高津孝訳、勉誠出版、2007年)

川合康三『新編中国名詩選』上中下(岩波文庫、2015年)

## 成績の評価基準

課題提出(40%)とミニッツ・ペーパーなど(60%)で評価を行う。なお、授業形態に変更があった場合、プレゼンテーション、授業への意欲を評価に加える可能性がある。

オフィスアワ -

金曜日・2限・高津研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中10回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

西洋歴史・文化演習 B 1 (旧 西洋の歴史と社会演習B1)  
ナンバリングコード

FHS-DIH2236

科目名

西洋歴史・文化演習 B 1 (旧 西洋の歴史と社会演習B1)

英語名

Western History & Culture B1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
藤内哲也		099-285-8863	ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	

授業概要

中近世イタリア史に関する5つのテーマを取り上げ、日本語論文と英語訳史料を合わせて読むことで、当該テーマに関する知見を深めるとともに、歴史研究における問題の立て方や史料の分析方法、論の進め方について理解します。

学修目標

- ・ヨーロッパの歴史研究に必要な資料や論文の読解力を習得します
- ・ヨーロッパの歴史研究の視点や問題意識を習得します

授業計画

- 第1回：オリエンテーション  
 第2回：地中海のなかのイタリア(1)：日本語テキスト  
 第3回：地中海のなかのイタリア(2)：英語訳史料  
 第4回：イタリアの都市と環境(1)：日本語テキスト  
 第5回：イタリアの都市と環境(2)：英語訳史料 1-2頁  
 第6回：イタリアの都市と環境(3)：英語訳史料 3-4頁  
 第7回：中世・ルネサンスの食文化(1)：日本語テキスト  
 第8回：中世・ルネサンスの食文化(2)：英語訳史料 1-2頁  
 第9回：中世・ルネサンスの食文化(3)：英語訳史料 3-4頁  
 第10回：書物と図書館(1)：日本語テキスト  
 第11回：書物と図書館(2)：英語訳史料 1-2頁  
 第12回：書物と図書館(3)：英語訳史料 3-4頁  
 第13回：ユダヤ人とゲッター(1)：日本語テキスト  
 第14回：ユダヤ人とゲッター(2)：英語訳史料  
 第15回：まとめと展望

授業外学習(予習・復習)

【予習】テキストを読み、疑問点などをまとめます。英語訳史料の場合には、テキストを読み、分からない単語や文法、用語などについて調べ、日本語訳を考えます。

【復習】テキストや討論の内容についてまとめます。また、参考文献などを読んで、さらに理解を深めます

教科書

指定しません(プリントを配布します)

参考書

服部良久・南川高志・小山哲・金沢周作編『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会、2010年  
 井上浩一『私もできる西洋史研究』和泉書院、2012年  
 このほかの文献については授業中に適宜紹介します

成績の評価基準

- ・日本語テキストの読解と課題(50%)
- ・英語テキストの読解と課題(50%)

オフィスアワー

随時(メールにてアポをとること)

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

日本語・英語テキストの読解

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中13回

備考 (受講要件)

遠隔授業化にともない、授業内容 (テーマ) と成績評価の方法を変更しました

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DGH2244

## 科目名

考古学実習1 (旧 フィールド学実習(考古学))

## 英語名

Practical Archaeology 1

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

実習

## 単位数

1単位

## 開講期

2~4年

## 担当教員

渡辺芳郎、石田智子

## 連絡先 (TEL)

099-285-7539

## 連絡先 (MAIL)

watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

未定

## 前後期

前期

## 授業概要

分布調査、発掘調査等をおこなう過程の中で、踏査および資料の記録化の方法、遺跡調査の基本技術としての測量の仕方、機器の扱い方等を実践的に学習する。遺構・遺物に対する正確な認識と実測技術を養成する。

## 学修目標

考古学研究の前提となる諸技術の習得を目標とする。

## 授業計画

土・日、祝日、長期休暇中等に学外において実施する。

## 授業外学習 (予習・復習)

授業で実施する技法修得のための予習・復習が望ましい。

## 教科書

なし

## 参考書

なし

## 成績の評価基準

平常点・レポートなど

## オフィスアワ -

授業・会議のないときはいつでも可

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク;

## アクティブ・ラーニング (その他の内容)

考古学調査に必要なさまざまな技術を共同で学ぶ

## アクティブ・ラーニング (授業回数)

## 備考 (受講要件)

「考古学実習2」もあわせて必ず受講すること。  
必要経費は自己負担。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2212			
科目名			
日本歴史・文化研究B(旧 日本文化史)			
英語名			
Japanese History & Culture B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
金井静香		099-285-7553	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>文化史は近年多様化しており、日本史においても様々な物事に関して文化史が叙述されている。また、文化史は政治史や社会史、経済史といった中世史の他の分野とも関わっている。こうした状況をふまえ、本授業では、幅広い日本文化のなかから具体的な事物・現象をテーマとして選び、主に中世を中心とするその変遷をたどるとともに、そこから見えてくる中世の政治・社会・経済の実態について考察する。</p> <p>下記の「授業計画」では、「日記」をテーマとする開講期の授業計画を記す。</p>			
学修目標			
<p>(1) 日本の歴史および日本文化についての知識を習得する。</p> <p>(2) 日本史の史料を読み、その内容を理解できる。</p> <p>(3) 日本中世史の研究動向について理解し、自分で説明できる。</p>			
授業計画			
<p>遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する場合は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回：ガイダンス  第2回：鎌倉後期の日記(1) 鎌倉後期の朝幕関係  第3回：鎌倉後期の日記(2) 関東申次の日記  第4回：鎌倉後期の日記(3) 旅の日記  第5回：鎌倉後期の日記(4) 女性の日記  第6回：鎌倉後期の日記(5) 両統迭立と日記  第7回：建武期の日記(1) 建武新政  第8回：建武期の日記(2) 建武期を記録した日記  第9回：南北朝・室町期の日記(1) 南北朝期の朝廷と幕府  第10回：南北朝・室町期の日記(2) 南北朝合一後の朝廷と幕府  第11回：南北朝・室町期の日記(3) 公家の日記  第12回：南北朝・室町期の日記(4) 僧侶の日記  第13回：南北朝・室町期の日記(5) 幕府奉行人の日記  第14回：南北朝・室町期の日記(6) 女性の日記  第15回：総括</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>配布されたレジユメと受講者が取ったノートを基に、講義内容を復習すること。また、本講義に関連する書籍や論文を探して読んでみることも、授業内容を理解するために役立つ。</p>			
教科書			
特になし。			
参考書			
授業中に適宜紹介または配布する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(30%)、小レポート(30%)、期末レポート(40%)			

オフィスアワ -

あらかじめアポイントをとること。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

学芸員資格取得のための単位となる。漢文読解能力を有することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

考古学実習1 (旧 フィールド学実習(考古学))

英語名

Practical Archaeology 1

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

授業形態

実習

単位数

1単位

開講期

2~4年

担当教員

渡辺芳郎、石田智子

連絡先 (TEL)

099-285-7549

連絡先 (MAIL)

ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

分布調査、発掘調査等をおこなう過程の中で、踏査および資料の記録化の方法、遺跡調査の基本技術としての測量の仕方、機器の扱い方等を実践的に学習する。遺構・遺物に対する正確な認識と実測技術を養成する。

学修目標

考古学研究の前提となる諸技術の習得を目標とする。

授業計画

土・日、祝日、長期休暇中等に学外において実施する。  
コロナ感染拡大防止のため変更される場合もあります。

授業外学習 (予習・復習)

授業で実施する技法修得のための予習・復習が望ましい。

教科書

なし

参考書

なし

成績の評価基準

平常点・レポートなど

オフィスアワ -

授業・会議のないときはいつでも可

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

考古学調査に必要なさまざまな技術を共同で学ぶ

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

「考古学実習2」もあわせて履修すること。必要経費は自己負担。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH3103			
科目名			
英語コミュニケーションB			
英語名			
English Communication B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
スティーブ・コーダ		285-7573	coke@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>The primary goal of this class is to learn how to structure your ideas for discussions as well as learning how to hold a formal debate.</p> <p>Unless there is a change in the current situation, this class will be online.</p>			
学修目標			
<p>This class will focus on discussion and debate. Each week we will do different tasks in class to build your discussion skills as well as learning how to organise and participate in a formal debate. You will also be expected to continue your discussion practice outside of the classroom. This class will be useful if you are taking the 教員採用試験</p> <p>The class will be held realtime on Zoom.</p>			
授業計画			
<p>Week 1 Introduction</p> <p>Week 2 Learning how to explain your ideas</p> <p>Week 3 Practice</p> <p>Week 4 Learning how to organise your ideas</p> <p>Week 5 Practice</p> <p>Week 6 Learning how to support your ideas</p> <p>Week 7 Practice</p> <p>Week 8 Learning how to challenge others' ideas</p> <p>Week 9 Practice</p> <p>Week 10 Learning how to defend your ideas</p> <p>Week 11 Practice</p> <p>Week 12 Feedback</p> <p>Week 13 Group research for final debate</p> <p>Week 14 Group preparation for final debate</p> <p>Week 15 Final debate and peer evaluation (1st group)</p> <p>Week 16 Final debate and peer evaluation (2nd group)</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>You will be expected to gather information to use in your discussions/debates. You will also be expected to watch debates on Youtube - more information will be given about this in class. You will need access to an English dictionary - using your smartphone is ok.</p>			
教科書			
None			
参考書			
None			

## 成績の評価基準

Classwork 50%  
Final debate 50%

## オフィスアワ -

Anytime is ok, but to mail me to make sure I'm in!

## アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

You can only register for this class if you are doing 教職 (英語)

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DHH2139

## 科目名

日本古典文学リテラシー実習（旧 書誌学実習）

## 英語名

Literacy of Classical Japanese Literature

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

実習

## 単位数

2単位

## 開講期

2～4年

## 担当教員

丹羽謙治

## 連絡先（TEL）

099-285-8904

## 連絡先（MAIL）

niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

和漢の古典文学を研究する場合、くずし字を読むことができ、古典籍全般に対する知識があることは重要なことである。本実習では、書籍の部位の名称などの基礎知識を持ち書籍の調査法について習熟した後、実際に書籍の調査を行う。また、毎時間さまざまなタイプのくずし字を読む訓練を行う。

## 学修目標

1. 日本・アジアの古典籍およびその歴史についての基礎知識を持つ。
2. 書誌調査の基本的作業に熟達する。
3. 文学諸ジャンルの形態についての知識を持つ。
4. 基本的なくずし字が解読できる。

## 授業計画

- 第1回：導入（manabaを通した課題提出型の授業を予定）  
 第2回：書籍の構造と名称（manabaを通した課題提出型の授業を予定）  
 第3回：日本の書物の歴史 / くずし字の読解練習（以後、オンライン授業を予定）  
 第4回：日本の印刷の歴史 / くずし字の読解練習  
 第5回：近世以前の書物 / くずし字の読解練習  
 第6回：近世の文学ジャンルと書物の形態（1） 仮名草子と浮世草子 / グループによる書誌調査 / くずし字の読解練習  
 第7回：近世の文学ジャンルと書物の形態（2） 読本 / 書誌調査の実践 / くずし字の読解練習  
 第8回：近世の文学ジャンルと書物の形態（3） 滑稽本 / 書誌調査の実践 / くずし字の読解練習  
 第9回：近世の文学ジャンルと書物の形態（4） 中本 / 書誌調査の実践 / くずし字の試験（1）  
 第10回：近世の文学ジャンルと書物の形態（5） 草双紙 / 書誌調査の実践 / くずし字の読解練習  
 第11回：近世の文学ジャンルと書物の形態（6） 和歌・俳諧・漢詩文 / 書誌調査の実践 / くずし字の読解練習  
 第12回：書誌調査の実践 往来物 / くずし字の読解練習  
 第13回：書誌調査の実践 一枚物 / くずし字の読解練習  
 第14回：書誌調査の実践 唐本 / くずし字の読解練習  
 第15回：まとめとくずし字の試験（2）

## 授業外学習（予習・復習）

教科書を繰り返し読み、専門用語の習得を行う（予習）、読めなかったくずし字の確認を行う（復習）。

## 教科書

堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、2010年）

## 参考書

- 廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』（世界思想社）  
 橋口侯之介『和本入門』（平凡社）  
 藤井隆『日本書誌学総説』（和泉書院）  
 中野三敏『江戸の板本』（岩波書店）  
 児玉幸多編『くずし字解読辞典』（東京堂出版）

## 成績の評価基準

授業および課外で調査した調査カードをレポートとして提出、これを評価する（70%）。また、くずしの読解能力の試験を第9回と第15回に行う（30%）。

## オフィスアワー

月曜3限

## アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

## 備考（受講要件）

教員免許（国語）の選択科目。平成28年以前入学生は「書誌学実習」（2単位）に読み替え。  
manabaを使用して連絡や指示を行うので随時アクセスして確認を怠らないようにすること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
現代文化論			
英語名			
Culture In Modern Society			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
櫻井芳生		0992857544	
		連絡先 (MAIL)	
		yoshiosakuraig@gmail.com	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>テーマ「現代文化についてのリサーチ（調査）リテラシーの涵養」。まるまる一期（半年）かけて、現代文化に関する調査をおこないます。「手をつかう」課題がおおくなるので、【覚悟！】して履修してください。「どんなヒトが恋愛に成功したか」「最近のスマホの使われ方」も調査するかもしれません。</p> <p>授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある</p>			
学修目標			
現代文化に関して、自分で、仮説を構築し、調査を設計し、その検証ができるようになる。性淘汰の理論を批判的に（感情でなく）検討できるようになる			
授業計画			
<p>第1回ガイダンス  第2回先輩学生のプレゼンテーション  第3回先行研究の検討  第4回先行研究への代案作成  第5回チームにわかれての、仮説構築・設問構築。文化チーム  第6回チームにわかれての、仮説構築・設問構築。流行チーム  第7回チームにわかれての、仮説構築・設問構築。メディアチーム  第8回チームにわかれての、仮説構築・設問構築。スマホチーム  第9回アンケートの作成  第10回アンケートの配布  第11回アンケートの回収  第12回収アンケートからのデータ入力  第13回データクリーニング  第14回データの分析  第15回各チームによる分析結果発表と相互評価</p> <p>授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある</p>			
授業外学習（予習・復習）			
アンケート案の作成 分析			
教科書			
とくになし			
参考書			
拙著『就活ぶっちゃけ成功ゼミ』（光文社）。『文系のためのSPSS超入門』（プレアデス出版）。			
成績の評価基準			
<p>平常点50%、レポート50%。  履修者全員による共同プロジェクトですので、遅刻する人・黙って休む人には単位を認定しない。毎回の参加度・提出物による評価。</p>			
オフィスアワ -			
予約にて			
アクティブ・ラーニング			

グループワーク; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中13回

備考 (受講要件)

遅刻する人・黙って休む人には単位を認定しない。体調不調などの場合は事後でもいいので、必ずメール連絡すること。桜井に論文指導を受けたいひとは、每期とってください (同じコマに他の必修や教職関連がある場合をのぞく)。むずかしくはないですが、かなり課題はおおくなるとおもいます。ラクしたいヒトはとらないように。ITについての予備知識は不要です。繰り返しの履修も可。統計についてはこのコマで十分ご教示できません。ので、統計関係の他の科目の履修を強くおすすめします。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2132			
科目名			
日本語学演習A1 (旧 日本語構造論演習)			
英語名			
Japanese Linguistics A1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
内山弘		pon@leh.kagoshima-u.ac.jp	099-285-8906
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
『天正狂言本』は天正六年(1578)七月の奥書を持つ、現存最古の狂言本である。収録曲は重複曲を除けばわずかに103曲、しかも粗筋や歌謡部分を記した梗概本に過ぎないが、室町期に成立した唯一の狂言本であり、日本語学的にも文学的にも極めて重要な資料を提供してくれる文献として知られている。			
本演習では、まず『天正狂言本』所収の「恋のおふぢ」を対象として江戸期の改作版である「枕物狂」と比較して中世的狂言がどのように改作されていったのか、その実態を論文を通して見ていく。その後は『天正狂言本』を中心資料として、詞章の比較や語句の解釈等の具体的な作業を通して、室町時代の日本語に関する知識を深めるとともに、文献日本語史研究の方法について実地に習熟を図っていく。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 翻字や語釈の作成、台本の比較等の具体的な作業を通して日本語資料の基礎的な研究方法を具体的に学ぶことができる。</li> <li>・ 狂言台本という親しみやすい文献を通して古典の世界に親しむ下地を養成できる。</li> </ul>			
授業計画			
第1回: ガイダンス			
第2回: 「恋のおふぢ」の論文を読む(1) 「恋のおふぢ」と「枕物狂」の相違点			
第3回: 「恋のおふぢ」の論文を読む(2) 改作過程の推定			
第4回: 「恋のおふぢ」の論文を読む(3) 改作理由の推定			
第5回: 受講生による演習の実施(1) 「くりやき」その1			
第6回: 受講生による演習の実施(2) 「くりやき」その2			
第7回: 受講生による演習の実施(3) 「くりやき」その3			
第8回: 受講生による演習の実施(4) 「地ざう坊」その1			
第9回: 受講生による演習の実施(5) 「地ざう坊」その2			
第10回: 受講生による演習の実施(6) 「かうやくねり」その1			
第11回: 受講生による演習の実施(7) 「かうやくねり」その2			
第12回: 受講生による演習の実施(8) 「かうやくねり」その3			
第13回: 受講生による演習の実施(9) 「かうやくねり」その4			
第14回: 受講生による演習の実施(10) 「かうやくねり」その5			
第15回: 受講生による演習の実施(11) 「かうやくねり」その6			
授業外学習(予習・復習)			
予習: 演習担当者は事前に教員に連絡を取り、演習内容についてメールで相談すること(必須)。			
復習: 演習時に指摘された内容を整理し、問題点について再調査して解決を図ること。			
教科書			
『天正狂言本』法政大学能楽研究所所蔵原本の複写			
参考書			
特に定めない。			
成績の評価基準			
授業に対する取り組み方(20%) + 演習内容またはレポート(80%)			

オフィスアワ -

原則としてメールで対応する。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中11回

備考 (受講要件)

本授業に続けて日本語学演習B1も受講することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DHH2230

## 科目名

日本歴史・文化演習 B 1 (旧 日本史演習V)

## 英語名

Japanese History &amp; Culture B1

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

2~4年

## 担当教員

金井静香

## 連絡先 (TEL)

099-285-7553

## 連絡先 (MAIL)

kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

中世古記録の読解を行う。受講者は、テキストのなかから各自の担当箇所を割り当てられ、その箇所に見える語句や登場する人物などについて事前に調べる。授業においては、出席している受講者全員が数行ずつ読み下しと現代語訳を行い、授業担当教員がそれを点検する。また、各受講者は自分に割り当てられた部分のなかから興味深いテーマを見だし、それについて調べ考察したことを発表する。

下記の「授業計画」では、『玉葉』寿永2年11月28日条～同3年正月7日条を読む開講期の授業計画を記す。

## 学修目標

- (1) 中世古記録の読解力を向上させる。
- (2) 史料を用いた研究の方法に習熟する。
- (3) 自ら課題を設定し、それについて考察することができる。

## 授業計画

第1回：ガイダンス

第2回：寿永2年11月28日～12月2日条の読み下し及び現代語訳

第3回：寿永2年11月28日～12月2日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第4回：寿永2年12月3日～同月8日条前半の読み下し及び現代語訳

第5回：寿永2年12月3日～同月8日条前半の現代語訳及びテーマ考察発表

第6回：寿永2年12月8日条後半～同月10日条の読み下し及び現代語訳

第7回：寿永2年12月8日条後半～同月10日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第8回：寿永2年12月11日～同月21日条の担当箇所の読み下し及び現代語訳

第9回：寿永2年12月11日～同月21日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第10回：寿永2年12月22日～同月30日条の読み下し及び現代語訳

第11回：寿永2年12月22日～同月30日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第12回：寿永3年正月1日～同月5日条前半の読み下し及び現代語訳

第13回：寿永3年正月1日～同月5日条前半の現代語訳及びテーマ考察発表

第14回：寿永3年正月5日条後半～同月13日条の読み下し及び現代語訳

第15回：寿永3年正月5日条後半～同月13日条の現代語訳及びテーマ考察発表

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

## 授業外学習 (予習・復習)

受講者は各自、予習としてテキストの読み下しと現代語訳を行う。発表を担当する受講者は、レジユメの作成も行う。

## 教科書

『玉葉』『看聞日記』などの中世古記録を予定している。

## 参考書

授業中に適宜紹介または配布する。

## 成績の評価基準

読み下し及び現代語訳 (35%)、テーマ考察の発表もしくはレポート (35%)、授業への取り組み態度 (30%)

。

オフィスアワ -

あらかじめアポイントをとること。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

フランス言語・文化演習a (旧 フランス言語文化論演習1)  
ナンバリングコード

FHS-DIH2145

科目名

フランス言語・文化演習a (旧 フランス言語文化論演習1)

英語名

French Language & Culture a

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

梁川英俊

連絡先 (TEL)

099-285-8891

連絡先 (MAIL)

yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

初級仏語で学んだフランス語の基本的な文法事項を確認しながら、フランスのニュースに出て来る生きたフランス語を学びます。

学修目標

- (1) フランス語の文法的な知識を深める。
- (2) フランス語の聴き取り能力を向上させる。
- (3) フランス語による日常生活に必要な語彙を修得する。
- (4) フランス語圏の文化について知識を深める。

授業計画

- 第1回 ガイダンス (課題提出型授業)  
第2回~第14回 テキスト購読および指導助言 (課題提出型授業)  
第15回 まとめ (課題提出型授業)

なお、今後の状況次第では授業回数や内容が変更となる可能性があります。

授業外学習 (予習・復習)

予習は必ず行ってください (1時間)。授業後は復習として、単語・構文等の見直しを必ず行ってください (1時間)。

教科書

未定

参考書

必要に応じて適宜、指定します。

成績の評価基準

毎回の課題提出 (100%)

オフィスアワ -

特に指定しません。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

毎回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2231			
科目名			
地理学演習 A 1 (旧 人文地域論演習)			
英語名			
Geography A1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小林善仁		099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>地域には、自然・人文の諸現象が存在し、地理学はそれらの分析を通じて地域の仕組みや特性を考える学問である。この授業では、人文地理学で取り扱う資料（地図・統計・名鑑）を用いて、地域の地理学的分析視角を解説すると共に、地図・統計類を用いて身近な地域を実際に分析することにより、地域の特性と地域に内在する諸問題の存在を明らかにする。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域に関する地理学的資料について理解し、取り扱うことができる。</li> <li>・ 地域に対する地理学の分析方法を理解することができる。</li> <li>・ 地域の地理的特性と地域に内在する諸問題を理解し、説明することができる。</li> </ul>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス（課題提出型）                      第2回 地理学の諸分野（課題提出型）                      第3回 地理学の資料1（人口統計）（課題提出型）                      第4回 地理学の資料2（農業統計）（課題提出型）                      第5回 地理学の資料3（地形図）（課題提出型）                      第6回 地理学の資料4（名鑑）（課題提出型）                      第7回 地理学の文献講読・発表1（人口）（オンライン型）                      第8回 地理学の文献講読・発表2（集落）（オンライン型）                      第9回 地理学の文献講読・発表3（農業）（オンライン型）                      第10回 地理学の文献講読・発表4（工業）（オンライン型）                      第11回 地域の地理学的分析1（人口）（オンライン型）                      第12回 地域の地理学的分析2（集落）（オンライン型）                      第13回 地域の地理学的分析3（農業）（オンライン型）                      第14回 地域の地理学的分析4（工業）（オンライン型）                      第15回 総括（課題提出型）                      第16回 期末レポート</p> <p>今後の状況次第で、授業回数や内容は変更となる可能性がある。なお、課題提出型講義は教室での通常講義に変更する可能性がある。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
興味を持った事柄は図書・インターネットなどで調べてみて下さい。			
教科書			
プリントを配布。			
参考書			
講義の中で適宜紹介する。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各回の課題提出（50%）</li> <li>・ 期末レポート（50%）</li> </ul>			

オフィスアワ -

講義・会議の時間以外ならいつでも可。

アクティブ・ラーニング

ディベート; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DHH2223

## 科目名

アジア歴史・文化研究B (旧 アジア文化史)

## 英語名

Asian History &amp; Culture B

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

講義

## 単位数

2単位

## 開講期

2~4年

## 担当教員

大田由紀夫

## 連絡先 (TEL)

099-285-7560

## 連絡先 (MAIL)

ota@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

テーマ：近世中国の法・裁判・国家（オンデマンド型遠隔授業）

中国は二千年以上にもわたって、日本やヨーロッパとは異なる独自の支配体制を発展させてきた。後者は、私人によって公権力が分有された領主制を、前者は一人の皇帝が万民を統治する専制国家を。こうした外観の相違から窺えるように、近代以前の中国は、ヨーロッパ的な合理主義とは別種の合理性をもって社会が統治・管理されていた。そして中国の支配体制は近世期（10世紀以降の宋代から清代まで）に入って一つの完成を迎える。しかし、中国近世社会についての我々の認識はあまり豊かとはいえない。そこで講義では、その支配体制の骨格をなす法秩序や国家機構のあり方をみていくことによって、近世中国の特質を浮き彫りにしていきたいと考えている。

## 学修目標

1. 法のあり方から中国近世社会の特質について理解し、2. 東アジア諸社会のそれぞれの異同に関する体系的な歴史知識の獲得を目標とする。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法文化の違いについて
- 第3回 旧中国社会の特質
- 第4回 清代中国の司法（1） 裁判機構
- 第5回 清代中国の司法（2） 刑罰と裁判
- 第6回 「州県自理の案」（1） 裁判の手順
- 第7回 「州県自理の案」（2） 裁きの判断基準
- 第8回 「州県自理の案」（3） 「州県自理の案」の性格
- 第9回 「命盗重案」（1） 必要的覆審制度
- 第10回 「命盗重案」（2） 翻意と上訴
- 第11回 「命盗重案」（3） 「命盗重案」の特徴
- 第12回 旧中国における司法の性質（1） 命盗重案は「法による裁判」か？
- 第13回 旧中国における司法の性質（2） 行政の一環としての司法
- 第14回 清代中国の司法と国家秩序
- 第15回 まとめ

なお、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知する。

## 授業外学習（予習・復習）

（予習）10世紀宋代以降の中国史概説書に目を通しておくことが望ましい。（復習）講義資料・ノートをもとに前回の講義内容について復習して理解を深めておくことが望ましい。

## 教科書

特になし。

## 参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

受講態度(30%)、提出課題および期末レポート(70%)などから総合評価する。

オフィスアワ -

授業・会議等以外であればいつでも可。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

講義内容に関する学生の疑問・質問ならびにその応答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中1回ないし2回。

備考(受講要件)

アジア文化史に読み替え可。学芸員資格取得のための選択科目「文化史」の単位となる。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2232			
科目名			
考古学演習 1 b (旧 考古学演習)			
英語名			
Archaeology 1b			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石田智子		099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>考古学に関する基礎文献を読む。担当者は文献に関するレジュメを作成して発表する。文献内容や発表方法に対して、全員で議論し、理解を深める。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対応のため、予定を変更しています。 今後も予定が変更する可能性があります。ご了承ください。</p> <p>このシラバスの情報は4月19日に更新しました。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・考古学の基礎知識や方法論を理解する。</li> <li>・情報を収集・整理し、論理的に説明し、議論する一連の過程を通じて、自分の考えを口頭表現・文章表現で他者に的確に伝える技能を修得する。</li> <li>・卒業論文作成の基礎をつくる。</li> </ul>			
授業計画			
<p>基本的にすべて課題提出型授業で実施します。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 課題文献の選定、役割分担 第3回 学生の発表と議論(1) 第4回 学生の発表と議論(2) 第5回 学生の発表と議論(3) 第6回 学生の発表と議論(4) 第7回 学生の発表と議論(5) 第8回 学生の発表と議論(6) 第9回 学生の発表と議論(7) 第10回 学生の発表と議論(8) 第11回 学生の発表と議論(9) 第12回 学生の発表と議論(10) 第13回 学生の発表と議論(11) 第14回 学生の発表と議論(12) 第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講にあたっての事前学習や発表準備が必要。</li> <li>・配布資料や授業の議論を踏まえた予習・復習が望ましい。</li> </ul>			
教科書			
課題文献は授業内で指示し、PDFで配布する。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			

成績の評価基準

- ・発表内容（課題文献のまとめかた、発表方法など）と授業にのぞむ姿勢（事前学習、質疑応答、授業中の発言など）を評価の基準とする。
- ・なお、5分の1以上欠席した者は成績評価はしない。出欠はresponで確認する。

オフィスアワ -

質問や相談等があれば、manabaの個別指導、E-mail (ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp)、法文学部1号館4階石田研究室（来室時は事前にアポイントを取ることが望ましい）で随時受け付けます。

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DFH2115			
科目名			
社会言語学演習 1 (旧 社会言語学演習)			
英語名			
Sociolinguistics 1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
太田一郎			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>テキストの講読を通して、英語には音声や文法などに地域的・社会的に多様なバリエーションがあること、そしてその変異は人と社会の様々な側面の反映であることを学ぶことで、ことばから見た英語圏の社会のあり方についての知識を深め、英語圏の文化を理解する幅広い視野を涵養する。今学期はイギリスにおける英語と方言の諸問題（言語変化、言語変異、言語意識等）について学ぶ。</p>			
学修目標			
<p>(1) 人間のことばの一般的な性質について述べるができる  (2) ことばにかんする問題の本質をとらえて考えることができる  (3) ことばの問題をとおして、社会を偏りなくとらえる視点を学ぶ</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス (遠隔授業)  第2回 Varieties of English (オンライン授業)  第3回 History of language (オンデマンド授業)  第4回 Prescriptivism (オンライン授業)  第5回 Language change1: th-fronting (オンライン授業)  第6回 Language change2: going with flow (オンライン授業)  第7回 Words: Weakening and bleaching (オンデマンド授業)  第8回 Dialect contact and conflict (オンライン授業)  第9回 Correctness of grammar (オンライン授業)  第10回 Legitimacy and value of vernacular (オンライン授業)  第11回 Pronunciation: glotal stops (オンデマンド授業)  第12回 Local speech (オンライン授業)  第13回 Attitude towards local accents (オンライン授業)  第14回 Local accent employed in the media (オンライン授業)  第15回 まとめ (課題提示による授業)</p> <p>(回数と内容は変更することもある)</p> <p>(1) 初回はmanabの資料配付とオンライン授業の併用ですが、配布資料だけでも課題に取り組むことはできます。  (2) 第2回以降はオンライン授業またはオンデマンド授業。受信環境をできるだけ整えておいてください。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習：指定された資料等に目を通して授業に参加すること (60分)  復習：毎回講義内容をまとめ、論点を整理し、疑問点等を確認すること (60分)</p>			
教科書			
指定しない (資料を配布)			
参考書			
<p>日比谷潤子 (編著) 『はじめて学ぶ社会言語学 - ことばのバリエーション研究』 ミネルヴァ書房  トラッドギル, P (1975=1974) 『言語と社会』 (土田滋訳) 岩波新書</p>			

Trudgill, Peter. (1999) The Dialects of England, Blackwell.
Trudgill, Peter. (2016) Dialect Matters, Cambridge University Press.
成績の評価基準
授業中に指示する課題 (80%) , 期末レポート (20%)
オフィスアワ -
月曜 5 限 研究室
アクティブ・ラーニング
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中15回
備考 (受講要件)
情報教育教室利用のため上限30名。受講生多数の場合, 抽選等により調整することがある。
実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2131			
科目名			
日本古典文学演習A1 (旧 日本文学演習)			
英語名			
Japanese Linguistics A1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
丹羽謙治		099 (285) 8904	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
伊勢国松坂の商人、小津久足（桂窓）の紀行文を、注を付けながら読み進め、当時の知識人のものの見方や価値観について議論を行う。			
学修目標			
近世後期の伊勢の富裕な町人、小津久足の紀行文 - 「秋錦日記」 (弘化3年・1846年) を、注をつけながら読解する。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典読解の基本である注釈の方法を身につける。</li> <li>・和歌を正しく理解し解釈する力を身につける。</li> </ul>			
授業計画			
第1回：導入（課題提出型授業を予定）			
第2回：小津久足について（課題提出型授業を予定）			
第3回：近世紀行文の特徴について（以後オンライン授業を予定）			
第4回：学生による発表と議論（テキストP131～132）			
第5回：学生による発表と議論（テキストP133～134）			
第6回：学生による発表と議論（テキストP135～136）			
第7回：学生による発表と議論（テキストP137～138）			
第8回：学生による発表と議論（テキストP139～140）			
第9回：学生による発表と議論（テキストP141～142）			
第10回：学生による発表と議論（テキストP143～144）			
第11回：学生による発表と議論（テキストP145～146）			
第12回：学生による発表と議論（テキストP147～148）			
第13回：学生による発表と議論（テキストP149～150）			
第14回：学生による発表と議論（テキストP151～152）			
第15回：学生による発表と議論（テキストP153～154）			
授業外学習（予習・復習）			
発表者のレジメに目を通し、疑問点を整理しておく。			
事後には発表に基づき、それぞれが発展的な調査を行う。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
『小津久足紀行集（三）』（皇學館大學研究開発推進センター神道研究所）			
成績の評価基準			
発表態度（30%）および期末レポート（70%）を合せて評価する。			
オフィスアワー			
月曜日13時30分～14時20分			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中12回

備考 (受講要件)

教職 (国語) の選択科目。平成28年度以前入生は「日本文学演習」に読み替え。  
学生の担当範囲などについては、変更する場合がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2214			
科目名			
地誌学講義（旧 テーマ地誌学I）			
英語名			
Regional Geography			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
吉田明弘		099-285-7543	aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
この講義では日本・世界の地域を取り上げ、各地の自然環境と人々の暮らしを理解し、それらに関連させながら考える能力を身に着ける。さらに、これら各地の地誌を通して、地域における共通性や相違性、多様性を理解し、その背景となる人文・自然的要因について説明できる力を養う。			
学修目標			
本講義では日本・世界の様々な地域を取り上げ、各地の気候・地形・植生などの自然環境の特徴を捉えると共に、これらを背景にした人々の生活・文化との関連性を様々な視点から紹介する。この講義を通して、世界・日本の各地域における特徴を捉えることで、共通性や相違性、多様性を生み出す要因について理解する。			
授業計画			
第1回：授業ガイダンス - 地誌学の位置づけ（課題提出型 + オンデマンド型）			
第2回：東北地方の地誌（1） - 杜の都・仙台（オンデマンド型）			
第3回：東北地方の地誌（2） - やませ（オンデマンド型）			
第4回：東北地方の地誌（3） - リアス海岸と地震・津波（オンデマンド型）			
第5回：関東地方の地誌（1） - 下町と山の手（オンデマンド型）			
第6回：関東地方の地誌（2） - 治水と利水（オンデマンド型）			
第7回：東南アジア海岸部の地誌（1） - 自然環境とマングローブ林の成り立ち（オンデマンド型）			
第8回：東南アジア海岸部の地誌（2） - マングローブ破壊とえび養殖（オンデマンド型）			
第9回：東南アジア海岸部の地誌（3） - 多島海と人々の暮らし（オンデマンド型）			
第10回：東南アジア内陸部の地誌（1） - プランテーション農業（オンデマンド型）			
第11回：東南アジア内陸部の地誌（2） - モンスーン気候と天水田（オンデマンド型）			
第12回：東南アジア内陸部の地誌（3） - 伝統的な灌漑システム（オンデマンド型）			
第13回：東南アジア内陸部の地誌（4） - 土壌（オンデマンド型）			
第14回：東南アジア内陸部の地誌（5） - 遺跡と石材（オンデマンド型）			
第15回：授業の総括（オンデマンド型）			
オンデマンド型講義はリアルタイム型や教室での通常講義に変更になる可能性がある。また、授業の回数や内容は変更となる可能性がある。			
授業外学習（予習・復習）			
予習：配布された資料を事前に目を通し、専門用語などは辞典やインターネットで調べておくこと。			
復習：配布資料やノートを見返すと共に、授業でわからない点などは文献・インターネットで調べておくこと。なお、質問は随時受付ける。			
教科書			
毎回manabaに資料をアップするので各自でダウンロード・印刷すること。配布資料はA4版のファイルやバインダーなどを用意して各自で整理しておくこと。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
毎回の授業における小テストの実施状況（30%）や結果（70%）を総合的に評価する。			

オフィスアワ -

質問等は、メールで随時受付ける。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

この授業と合わせて、自然地理学概説を履修することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

考古学実習2 (旧 フィールド学実験 (考古学))

## 英語名

Practical Archaeology 2

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

実験

## 単位数

1単位

## 開講期

2~4年

## 担当教員

渡辺芳郎、石田智子

## 連絡先 (TEL)

099-285-7549

## 連絡先 (MAIL)

ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

考古遺物の整理・観察・記録に対する正確な認識と表現力を養成するため、遺物(土器・石器・陶磁器など)の洗浄、注記、接合、実測、トレース、拓本等一連の作業をおこなう。

## 学修目標

考古学研究に必要な諸技術の習得を目標とする。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 遺物整理の基礎
- 第3回 遺物整理の実践1(拓本)
- 第4回 遺物整理の実践2(実測1)
- 第5回 遺物整理の実践3(実測2)
- 第6回 遺物整理の実践4(実測3)
- 第7回 遺物整理の実践5(実測4)
- 第8回 遺物整理の実践6(実測5)
- 第9回 遺物整理の実践7(実測6)
- 第10回 遺物整理の実践8(トレース1)
- 第11回 遺物整理の実践9(トレース2)
- 第12回 遺物整理の実践10(トレース3)
- 第13回 遺物整理の実践11(トレース4)
- 第14回 遺物整理の実践12(トレース5)
- 第15回 遺物整理の実践13(トレース6)

コロナ感染拡大防止のため変更される場合もあります。

## 授業外学習(予習・復習)

- 初めて受講する学生は作業内容についてしっかり復習すること。
- 2回目以上受講の学生は、予習、復習を通じて習熟度を高めること。

## 教科書

プリントを適宜配布。

## 参考書

適宜紹介。

## 成績の評価基準

授業への取り組み態度で評価。5分の1以上欠席した者は成績評価はしない。

## オフィスアワ -

研究室在室中はいつでも可。

## アクティブ・ラーニング

フィールドワーク;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全15回中15回

## 備考（受講要件）

2コマ連続登録とのこと。必要な道具類を事前に準備すること。準備できない者は不許可。  
なお、これまでに考古学実習1および考古学実習2を受講したことがなく、本授業の履修を希望する者は、事前に担当教員に相談に来ること。

実務経験のある教員による実践的授業

西洋歴史・文化演習 A 1 (旧 西洋の歴史と社会演習A1)  
ナンバリングコード

FHS-DIH2235

科目名

西洋歴史・文化演習 A 1 (旧 西洋の歴史と社会演習A1)

英語名

Western History & Culture A1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
細川道久			hos leh.kagoshima-u.ac.jp は アットマーク
共同担当教員		前後期	
		前期	

授業概要

『カナダの歴史を知るための50章』を読んで、各自が、数章(1回につき、2~4章分)について、レポート(要約と学び得たこと)(1回につき、1200字程度)を提出します。また、その間、数回、教員が本書に関する説明を行ないます。

第3回の授業開始までにテキストを入手しておいてください。

学修目標

1. カナダの歴史に関する理解を深めると同時に、歴史研究や地域研究への関心を深める。
2. 文献読解、レジュメ作成、報告、討論の能力を養う。
3. 西洋史研究で卒業論文を書くために必要な素養を磨く。

授業計画

- 第1回 授業全般についてのガイダンス(課題提出型)  
 第2回 西洋史研究資料検索などについてのガイダンス(課題提出型・リアルタイム型(試行))  
 第3回 文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(1)(課題提出型・リアルタイム型(試行))  
 第4回 文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(2)(課題提出型)  
 第5回 文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(3)(課題提出型)  
 第6回 文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(4)(課題提出型・リアルタイム型)  
 第7回 文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(5)(課題提出型)  
 第8回 文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(6)(課題提出型)  
 第9回 文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(7)(課題提出型・リアルタイム型)  
 第10回 文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(8)(課題提出型)  
 第11回 文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(9)(課題提出型)  
 第12回 文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(10)(課題提出型)  
 第13回 文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(11)(課題提出型)  
 第14回 文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(12)(課題提出型・リアルタイム型)  
 第15回 総括(課題提出型・リアルタイム型)

今後の状況次第で授業回数や内容を変更する可能性がある。また、同様に、リアルタイム型は、オンデマンド型に変更する可能性がある。通常の授業に戻る可能性もある。

授業外学習(予習・復習)

与えられた課題について、教科書の要約だけでなく、それに関連する調査を十分に行なうこと。また、授業内容について、配布資料や参考文献などで復習しておくことが望ましい。

教科書

細川道久編著『カナダの歴史を知るための50章』明石書店、2017年。各自購入して、最初の授業に臨んでください。

参考書

細川道久『ニューファンドランド いちばん古くていちばん新しいカナダ』彩流社、2017年、細川道久『カナ

西洋歴史・文化演習 A 1 (旧 西洋の歴史と社会演習A1)

『ダの歴史がわかる25話』明石書店、2007年、ヴァレリー・ノールズ(細川道久訳)『カナダ移民史 多民族社会の形成』明石書店、2014年、ドミニク・クレマン『カナダ人権史 多文化共生社会はこうして築かれた』明石書店、2018年、日本カナダ学会編『はじめて出会うカナダ』有斐閣、2009年。その他は、適宜紹介します。

成績の評価基準

数回(3回の予定:変更の可能性あり)提出のレポート課題(1回につき、1200字程度。課題提出はmanabaを用いる)、授業への参加状況

オフィスアワー

金曜10時~11時

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

平成28年度以前の入学生については「西洋の歴史と社会演習A1」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DHH2136

## 科目名

中国言語文化演習A1 (旧 中国言語文化論演習)

## 英語名

Chinese Language &amp; Culture A1

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

中筋健吉

099(285)8893

k9553471@kada i . jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

本授業では杜甫の「朝献太清宮賦」を講読する。

杜甫は同時代の李白とともに「李絶杜律」と併称され、中国古典詩史を代表する詩人として名高いが、生涯において7篇の賦作品を残している。

賦は中国古典文学の文体の一つであり、有韻無韻の文をとりまぜた長文の文芸である。漢代に盛行し、以後時代により様々に形を変化させて存続した。

本篇は杜甫の長安宮廷出仕の契機となつたいわゆる獵官運動的の性質をもつ作品の一つであるが、本作の鑑賞を通じて、当時が杜甫おかれていた状況やその心情の理解につとめたい。

## 学修目標

作品の講読およびそれを通じて中国古典文学作品や注釈の読解方法、および関連する各種文献の取り扱い方を学ぶ

## 授業計画

各受講生が事前に指定された部分の本文および注について、読解発表を行う。発表にあたっては、本文原文、注を訓読し、現代日本語に訳したものを発表する。受講生は余力があれば、他の作品を読む。

- 第1回： オリエンテーション：  
 第2回： 杜甫の経歴：『旧唐書』『新唐書』杜甫本傳  
 第3回： 「朝献太清宮賦」講読：発表と討論（1）  
 第4回： 「朝献太清宮賦」講読：発表と討論（2）  
 第5回： 「朝献太清宮賦」講読：発表と討論（3）  
 第6回： 「朝献太清宮賦」講読：発表と討論（4）  
 第7回： 「朝献太清宮賦」講読：発表と討論（5）  
 第8回： 「朝献太清宮賦」講読：発表と討論（6）  
 第9回： 「朝献太清宮賦」講読：発表と討論（7）  
 第10回： 「朝献太清宮賦」講読：発表と討論（8）  
 第11回： 「朝献太清宮賦」講読：発表と討論（9）  
 第12回： 「朝献太清宮賦」講読：発表と討論（10）  
 第13回： 「朝献太清宮賦」講読：発表と討論（11）  
 第14回： 「朝献太清宮賦」講読：発表と討論（12）  
 第15回： まとめ

## 授業外学習（予習・復習）

予習：毎回の授業で講読する作品について、事前に辞書等を検索し、自らも読解して出席すること。

復習：授業にもとづいて、自分の読解を再検討すること。

## 教科書

授業に先立ってプリントを配布する。

## 参考書

黒川洋一『杜甫詩選』（岩波文庫）

川合康三『杜甫』(明治書院)

## 成績の評価基準

授業中の発表報告とその際のレジюме(50%)および最終レポート(50%)の結果を考慮して総合的に評価する。

## オフィスアワ -

授業以外の在室時(随時)。事前に連絡をください。

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

## アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中12回(予定)

## 備考(受講要件)

本シラバスはあくまで計画であるので、受講者数その他の状況によって、適宜変更の可能性もある。変更の際は通知する。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会言語学			
英語名			
Sociolinguistics			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
太田一郎			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
授業は全15回すべて遠隔授業 (zoomによるリアルタイム配信)で行う。			
英語に見られる「ことばの多様性」について、英語圏各地の社会言語学の研究成果から主なものを取り上げて論じる。この講義では、これまで英語圏の社会言語学があきらかにしてきた地理的・社会的集団間の言語的異なり、社会構造の変化と英語の変容の関連など、英語の多様性の諸相について学び、英語の現状と英語圏の社会の関係を深く理解するための幅広い視野を涵養することをめざす。			
学修目標			
(1) 人間のことばの一般的な性質について述べることができる			
(2) ことばにかんする問題の本質をとらえて考えることができる			
(3) ことばの問題をとおして、社会を偏りなくとらえる視点を学ぶ			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 社会言語学が示すもの：英語の多様性を見つめる視点			
第3回 地域による多様性：イギリス1（イングランド南部と北部）			
第4回 地域による多様性：イギリス2（ウェールズとスコットランド）			
第5回 地域による多様性：アメリカ，カナダ，オセアニア			
第6回 社会による多様性：社会階層1：ニューヨーク（米）			
第7回 社会による多様性：社会階層2：ノリッチ（英）			
第8回 社会による多様性：民族とジェンダー：シドニー（豪），エディンバラ（英）など			
第9回 社会構造の変化と言語変異：アイデンティティの変化：マーサズヴィンヤード島（米）			
第10回 社会構造の変化と言語変異：人びとのつながりの変化：ベルファスト（英）			
第11回 社会構造の変化と言語変異：人びとの移動と方言の平準化：イングランド南部			
第12回 社会構造の変化と言語変異：多民族化による新たな英語の出現：ロンドン（英）			
第13回 メディアと言語変異：グラスゴー（英）			
第14回 ことばへの態度：言語イデオロギーと言語意識：ウェールズ（英）			
第15回 ことばの多様性から見る英語圏の社会と文化			
第16回（期末試験は行わない）			
授業は全15回すべて遠隔授業 (zoomによるリアルタイム配信)で行う。			
授業外学習（予習・復習）			
予習：指定された資料等に目を通して授業に参加すること（60分）			
復習：毎回講義内容をまとめ、論点を整理し、疑問点等を確認すること（60分）			
教科書			
使用しない（スライドによる講義）			
参考書			
佐野直子『社会言語学のまなざし』（三元社）			

日比谷潤子（編著）『はじめて学ぶ社会言語学』（ミネルヴァ書房）  
 岩田祐子ほか『概説 社会言語学』ひつじ書房  
 中尾俊夫ほか『社会言語学概論』くろしお出版  
 レズリー・ミルロイ『生きたことばをつかまえる』（太田一郎ほか訳）松柏社  
 ピーター・トラッドギル『言語と社会』岩波書店

1/2

社会言語学

Meyerhoff, Miriam. (2011) *Introducing Sociolinguistics*, Routledge.  
 Labov, William (1972) *Sociolinguistic Patterns*, PUP.  
 Tagliamonte, Sali. (2006) *Analysing Sociolinguistic Variation*, CUP.  
 Tagliamonte, Sali. (2011) *Variationist Sociolinguistics*, Wiley-Blackwell.

## 成績の評価基準

毎授業後のレポート100%（電子メールで提出すること）

## オフィスアワ -

月曜 5 限

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

## 備考（受講要件）

（ 1 ）ことばの問題に関心のある人。（ 2 ）授業予定，内容は必要に応じて変更することもあります。（ 3 ）H28年度以前の入学生で，この授業が選択科目である人文学科「メディアと現代文化コース」と「人間と文化コース」人たちは「無条件で」履修を認めます。（ 4 ）毎週レポートを読んで採点するためあまり多数の受講者をかかえることはできません。受講希望者が多い場合は，初回にレポートを書かせて全体で100名程度に絞ります。そのため「初回の授業は必ず出席すること」。出席していない場合はそれ以後の受講資格を失います。選考に漏れた場合も，個別に申し出れば受講を許可することがありますので，そのときは申し出てください。（ 5 ）レポートの提出は授業の翌日の夜 20 時。毎回のレポートはかなり負担になります。そのつもりで受講してください。（ 6 ）レポート提出はパソコン・メールによる（ケータイメールは不可）（ 7 ）出席，遅刻等のチェックは厳しく行います。（ 8 ）私語厳禁。（ 9 ）受講態度不良の者は減点します。

授業形態については，コロナウイルス感染症の影響，その他の理由で変更する場合がある。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
日本語学研究A (旧 日本語構造論)			
英語名			
Japanese Linguistics A			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
内山弘		099-285-8906	pon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>方言の研究=フィールドワークと認識されがちであるが、そのみが唯一無二の研究方法かという、必ずしもそうではない。豊富に残されている文献資料の中から方言を再構することもまた方言研究の方法として有効なのである。とりわけ、方言の歴史を絶対年代を用いて記述しようとする場合、事実上文献資料が唯一の拠り所となる。</p> <p>本講義では、上代~近世の文献資料に現われた方言を、時間軸に沿って具体的に紹介しつつ、文献方言史研究の実際について解説していく。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・方言史の資料となる代表的な文献についての基礎的な知識が得られる。</li> <li>・文献を使用した方言史研究の方法について学べる。</li> </ul>			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに 方言とは何か</p> <p>第2回：方言の研究方法</p> <p>第3回：文献方言史研究</p> <p>第4回：上代方言資料としての東歌・防人歌</p> <p>第5回：上代東国方言の語法</p> <p>第6回：平安期の方言資料</p> <p>第7回：院政・鎌倉・南北朝期の方言資料</p> <p>第8回：室町時代の中央文献の方言資料</p> <p>第9回：方言資料としてのキリシタン資料</p> <p>第10回：『日葡辞書』と『ロドリゲス日本大文典』</p> <p>第11回：室町時代の地方文献と方言（東日本）</p> <p>第12回：室町時代の地方文献と方言（西日本）</p> <p>第13回：江戸時代の方言資料（東日本）</p> <p>第14回：江戸時代の方言資料（西日本）</p> <p>第15回：総括</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：配布された講義資料に一通り目を通しておくこと。</li> <li>・復習：配布された講義資料と講義ノートを見返して講義内容を自分なりに整理すること。</li> </ul>			
教科書			
授業中に適宜プリントを配布する。			
参考書			
特に定めない。			
成績の評価基準			
授業後に与えた課題及び授業に対する取り組み方（30%）とレポート（70%）によって成績評価する。			
オフィスアワ -			
火曜4限（内山研究室）。電子メールでの相談は常時受け付ける。			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中0回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2222			
科目名			
文化人類学研究（旧 宗教文化論）			
英語名			
Cultural Anthropology			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
兼城系絵		099-285-8902	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
文化人類学とは、主に異文化を理解するための学問である。本講義では、中国社会を中心とした東アジア社会の事例を題材にしながら、文化人類学の基礎概念について理解を深める。それと同時に、自文化・異文化理解の方法についても考えを深めてもらう。			
学修目標			
日本を含む東アジアの身近な事例を通じて、文化人類学の基本的な考え方を学ぶと同時に、東アジア社会に対する理解を深める。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 第2回：フィールドワークとエスノグラフィ 第3回：家族と親族（1）家族とは？ 第4回：家族と親族（2）親族論を中心に 第5回：宗教（1）東アジアの宗教的多様性 第6回：宗教（2）儀礼からみる世界観 第7回：宗教（3）日本社会と宗教 第8回：植民地主義と東アジア 第9回：人種・民族・エスニシティ 第10回：人類の移動と共生 第11回：観光と文化 第12回：医療と文化 第13回：老いと文化 第14回：災害と文化 第15回：現代社会と人類学			
講義内容は変わることもあります。 すべて遠隔授業（オンデマンド型）で行います。備考欄もよく読んでおいてください。			
授業外学習（予習・復習）			
予習：参考書を読むこと			
復習：振り返りのミニレポートの作成および講義中に提示された文献を読むこと			
教科書			
特になし。教員の配布するレジユメを用いて授業を行う。			
参考書			
講義中に提示する。			
成績の評価基準			
毎回のミニレポート（50%）と期末レポート（50%）に基づき評価する。			
オフィスアワ -			

随時（まずはメールで連絡下さい）

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

- ・レポートはすべてmanabaで提出する。
- ・本講義ではMicrosoft Teamsを利用して授業を行う予定であるため、使用できるようにしておくこと。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード			
FHS-DHH2135			
科目名			
アジア言語演習A1 (旧 中国語学演習)			
英語名			
Asian Linguistics A1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
三木夏華			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
中国語を一年以上履習した学生を対象とし、中国語検定試験の3級~2級レベルに相当する教材を用いて、現代中国語の文法知識、読解力、聴力などをより一層向上させることを目的とする。出席者は十分な予習を行っていることが前提となる。			
学修目標			
(1)初修外国語での中国語の基礎力を前提とした上で、更なる実践力を養う。 (2)中国語検定試験の3級~2級レベルに相当する学修を目指す。			
授業計画			
第1回ガイダンス (manabaにて提示) 第2回テキスト第一課 (文法予習) (課題提示型) 第3回テキスト第一課 (本文講読) (リアルタイム型) 第4回テキスト第一課 (練習問題) (リアルタイム型) 第5回テキスト第二課 (文法説明) (リアルタイム型) 第6回テキスト第二課 (本文講読) (リアルタイム型) 第7回テキスト第二課 (練習問題) (リアルタイム型) 第8回テキスト第三課 (文法説明) (リアルタイム型) 第9回テキスト第三課 (本文講読) (リアルタイム型) 第10回テキスト第三課 (練習問題) (リアルタイム型) 第11回テキスト第四課 (文法説明) (リアルタイム型) 第12回テキスト第四課 (本文講読) (リアルタイム型) 第13回テキスト第四課 (練習問題) (リアルタイム型) 第14回テキスト第五課 (文法説明) (リアルタイム型) 第15回テキスト第五課 (本文講読) (リアルタイム型) 第16回まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】テキスト、及び配付された教材プリントを必ず十分予習した上で授業に臨むこと。 【復習】毎回授業で習った内容を復習すること。(学習に係る標準時間は1時間)			
教科書			
『アクション! 開始! 2 - コミュニケーション中国語』朝日出版社			
参考書			
manabaに提示する。			
成績の評価基準			
平常点 (講義中の発表など) : 70%、期末レポート30%。			
オフィスアワ -			
木曜日 2 限目			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション; その他;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

課題についてのスピーキングトレーニング

アクティブ・ラーニング (授業回数)

16回中14回

備考 (受講要件)

1年以上の中国語の学習経験が必要となる。ただし、中国語を母国語とする学生の受講は認めない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2134			
科目名			
中国文学演習B1 (旧 中国文学演習)			
英語名			
Chinese Literature B1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
高津孝		099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
漢文の基本的事項についての理解を深める。漢文訓読についての規則を理解した上で、和刻本を利用して、中国古典文の読解を行う。以上を通じて、漢文読解の基本的事項についての理解を深めることを目標とする。			
学修目標			
中国文学（散文）の入門編。中国文学を学習するうえでの基礎的知識の習得を目的とする。中国文学において特に重要なジャンルである散文を取り上げて、その基本的な知識や文法的特徴を講義し、また、各種参考図書についても、あわせて説明を行う。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	漢文訓読の基礎		
第3回	虚字の概説		
第4回	『十八史略』三皇		
第5回	『十八史略』五帝		
第6回	『十八史略』夏		
第7回	『十八史略』殷		
第8回	『十八史略』周		
第9回	『十八史略』春秋1		
第10回	『十八史略』春秋2		
第11回	『十八史略』春秋3		
第12回	『十八史略』戦国1		
第13回	『十八史略』戦国2		
第14回	『十八史略』戦国3		
第15回	『十八史略』秦始皇帝		
授業外学習 (予習・復習)			
予習：次の授業で扱う詩について、テキストの注釈を参考に意味を理解し、訓読できるようにしておくこと。約1時間。			
復習：授業中に学んだ内容について復習し、原文から訓読できるようにしておくこと。約30分			
その他：授業では中国古典文のほんの一部しか紹介できません。授業で触れた文章、文学者についてより深い理解に達するために、文庫本で入手できる中国古典文を読んでください。背景知識を得ることで、詩の読み方は変化します。			
教科書			
竹内弘行『十八史略 ビギナーズ・クラシックス 中国の古典』角川学芸出版 (2012/1/25)			
参考書			
吉川幸次郎『漢文の話』ちくま学芸文庫			
成績の評価基準			
毎回提出のレポートを評価の対象とする。			
オフィスアワ -			
金曜日・2限・高津研究室			

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

漢和辞典を使用する。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DHH2132

## 科目名

日本語学演習B1 (旧 日本語構造論演習)

## 英語名

Japanese Linguistics B1

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

内山弘

099-285-8906

pon@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

狂言台本は室町期の話し言葉の実態を知る上で極めて重要な資料として位置付けられているにも関わらず、現在残っている台本形式の狂言資料はすべて江戸期の成立になるものである。その意味では、狂言台本は中世語の資料としてはいろいろ問題が多いと言わざるを得ない。その中において「祝本」と呼ばれる狂言台本は、成立年代も筆者も不明ながら、内容的に見て虎明本（1642年成立）や天理本（1645年頃成立）等、江戸初期の他の狂言台本よりも古態を有しており、中世語の資料としてより貴重な資料であると認められる。

本演習では、この祝本狂言集を中心資料として取り上げ、詞章の比較や語句の解釈等の具体的な作業を通して、室町時代の日本語に関する知識を深めるとともに、文献日本語史研究の方法について実地に習熟を図っていく。

## 学修目標

- ・ 翻字や語釈の作成、台本の比較等の具体的な作業を通して日本語資料の基礎的な研究方法を具体的に学ぶことができる。
- ・ 狂言台本という親しみやすい文献を通して古典の世界に親しむ下地を養成できる。

## 授業計画

\* 遠隔形式（リアルタイム配信授業）でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

第1回：ガイダンス

第2回：受講生による演習の実施（1）「かんつぶて」その1

\* 受講生の人数によって以降の割り当てを変更する場合がある

第3回：受講生による演習の実施（2）「かんつぶて」その2

第4回：受講生による演習の実施（3）「かんつぶて」その3

第5回：受講生による演習の実施（4）「かんつぶて」その4

第6回：受講生による演習の実施（5）「ぶす」その1

第7回：受講生による演習の実施（6）「ぶす」その2

第8回：受講生による演習の実施（7）「ぶす」その3

第9回：受講生による演習の実施（8）「ぶす」その4

第10回：受講生による演習の実施（9）「ぶす」その5

第11回：受講生による演習の実施（10）「ぶす」その6

第12回：受講生による演習の実施（11）「ぶす」その7

第13回：受講生による演習の実施（12）「ぶす」その8

第14回：受講生による演習の実施（13）「ぶす」その9

第15回：受講生による演習の実施（14）「ぶす」その10

## 授業外学習（予習・復習）

予習：演習担当者は事前に教員に連絡を取り、演習内容について相談すること（必須）。

復習：演習時に指摘された内容を整理し、問題点について再調査して解決を図ること。

## 教科書

適宜資料を manaba を通して配布する。

\* 状況によって対面形式に変更となった場合は直接配布する。

## 参考書

特になし。

## 成績の評価基準

レポート (50%)、授業への取り組み態度 (演習内容、50%)

## オフィスアワ -

原則として事前にメールでアポイントメントを取ること。

## アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

## 備考 (受講要件)

日本語学演習A1を受講していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2131			
科目名			
日本古典文学演習B1 (旧 日本文学演習1)			
英語名			
Japanese Linguistics B1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
丹羽謙治		099 (285) 8904	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
西鶴の雑話ものに分類される浮世草子『西鶴諸国はなし』(貞享2年・1685年刊)と『懷硯』(貞享4年・1687年刊)を対象とする。学生は1話ずつ担当し、その話の研究史、解釈の問題点などを整理して発表を行い、西鶴の語りの特徴や素材、後世への影響について議論を行う。			
学修目標			
井原西鶴『西鶴諸国ばなし』『懷硯』読解 ・『西鶴諸国ばなし』を初めとする西鶴作品の研究史をたどる。 ・浮世草子についての知識を得る。			
授業計画			
第1回：導入 第2回：発表の方法について 第3回：西鶴とその時代について 第4回：学生による発表と議論 - 巻5の3 - 第5回：学生による発表と議論 - 巻5の4 - 第6回：学生による発表と議論 - 巻5の5 - 第7回：学生による発表と議論 - 巻5の6 - 第8回：学生による発表と議論 - 巻5の7 - 第9回：懷硯概説 第10回：学生による発表と議論 - 巻1の1 - 第11回：学生による発表と議論 - 巻1の2 - 第12回：学生による発表と議論 - 巻1の3 - 第13回：学生による発表と議論 - 巻1の4 - 第14回：学生による発表と議論 - 巻1の5 - 第15回：学生による発表と議論 - 巻1の6 -			
授業外学習 (予習・復習)			
事前に作品を通読する。発表者のレジメに目を通し、疑問点を整理しておく。 事後には発表に基づき、それぞれが発展的な調査を行う。			
教科書			
プリントを配布			
参考書			
『新編西鶴全集 巻二』(勉誠出版)。『新日本古典文学大系 好色二代男 西鶴諸国はなし 本朝二十不孝』(岩波書店)その他は授業の中で紹介する。			
成績の評価基準			
発表態度(30%)および期末レポート(70%)を合せて評価する。			
オフィスアワー			
月曜日13時30分~14時20分			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中11回

備考 (受講要件)

教職 (国語) の選択科目。平成28年度以前入生は「日本文学演習」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2131			
科目名			
日本近現代文学演習B1 (旧 日本文学演習)			
英語名			
Modern Japanese Literature B1			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
多田蔵人		ktada@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>テーマ：怪奇文学の諸問題</p> <p>日本近代文学における、「異界」の表現を読み解いてゆく。近代文学はリアリズムの時代として整理されることが多いけれども、当時の出版物を実際に眺めてみると、いわゆるファンタジーに類する作品が数多く存在していること、また、後代の作品に影響を与えたのはこれらの非リアリスティックな作品であった可能性があることが見えてくるはずである。毎回一篇の短篇を読みあわせ、発表者は調べた上で自分の解釈を発表し、討論を行う。比較的著名な作家とともに、今日あまり顧みられないことのないマイナー作家の作品も取り扱う。</p>			
学修目標			
日本近代文学研究の基礎的技術を習得し、異界表象についての知見を深める。			
授業計画			
第1回：宇野浩二『屋根裏の法学士』 第2回：花田清輝『歌』 第3回：坂口安吾『風と光と二十の私と』 第4回：内田百？『盡頭子』 第5回：小栗虫太郎『完全犯罪』 第6回：豊島与志雄『白蛾』 第7回：川端康成『篝火』 第8回：森鷗外『流行』 第9回：神西清『夜の鳥』 第10回：岡本綺堂『影を踏まれた女』 第11回：稲垣足穂『リビアの月夜』 第12回：夏目漱石『幻影の盾』 第13回：島尾敏雄『孤島夢』 第14回：中島敦『狐憑』 第15回：芥川龍之介『きりしとほろ上人伝』			
授業外学習 (予習・復習)			
指定したテキストは必ず読んでくること。			
教科書			
プリントを配布			
参考書			
特になし。			
成績の評価基準			
毎回の提出物 (20%)、発表 (40%)、期末レポート (40%) を総合して評価する。			
オフィスアワー			
月曜3限			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DHH2224

## 科目名

アジア歴史・文化研究A (旧 アジア社会史)

## 英語名

Asian History &amp; Culture A

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

講義

## 単位数

2単位

## 開講期

2～4年

## 担当教員

福永善隆

## 連絡先 (TEL)

099(285)7561

## 連絡先 (MAIL)

fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

テーマ：中国史における都城

中国における都城は政治・経済の中心のみならず、皇帝の正統性を示すための装置としても機能し、都城の変遷を通して中国における歴史展開を把握することもできる。本講義では都城の様々な機能を通して、中国における皇帝制度の側面を浮き彫りにし、その東アジアへの影響も明らかにする。

## 学修目標

- 1) 中国史の展開を都城を通して理解する。
- 2) 中国史において都城が有した機能を理解する。
- 3) 東アジアの各地域に中国の都城プランが伝播した背景・意義を理解する。

## 授業計画

第1回：イントロダクション【オンデマンド型】

第2回：中国史と都城(1)：中国の都城の特徴【オンデマンド型】

第3回：中国史と都城(2)：邑からの発展【オンデマンド型】

第4回：中国史と都城(3)：都城の変遷からみた中国史【オンデマンド型】

第5回：中国史と都城(4)：宮中構造と官僚制【オンデマンド型】

第6回：都城プランの形成(1)：儒教と都城【オンデマンド型】

第7回：都城プランの形成(2)：隋唐・長安城建設の背景【オンデマンド型】

第8回：都城プランの形成(3)：計画都市長安【オンデマンド型】

第9回：都城と儀礼(1)：儀礼の機能【オンデマンド型】

第10回：都城と儀礼(2)：儀礼と正統性【オンデマンド型】

第11回：都城と儀礼(3)：即位儀礼と都城【オンデマンド型】

第12回：都城と儀礼(4)：都城における朝貢儀礼【オンデマンド型】

第13回：東アジア諸国への都城プランの伝播(1)：朝鮮半島の都城【オンデマンド型】

第14回：東アジア諸国への都城プランの伝播(2)：日本の都城【オンデマンド型】

第15回：総括【オンデマンド型】

## 授業外学習(予習・復習)

(予習)理解を深めるために授業時に紹介する関係文献を読むことを推奨する。

(復習)理解を深めるために授業時に紹介する関係文献を読むことを推奨する。

## 教科書

特になし

## 参考書

妹尾 達彦『長安の都市計画』(講談社、2001年)など

その他参考文献は適宜紹介する。

成績の評価基準

授業時間中のコメントカード、小レポート

オフィスアワー

授業・会議以外であればいつでも可。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DDG2506

## 科目名

英語圏比較文化論（旧 異文化理解）（海外研修）

## 英語名

English-Speaking Cultures

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

講義

## 単位数

2単位

## 開講期

2～4年

## 担当教員

竹内勝徳、中谷純江

## 連絡先（TEL）

099-285-8874

## 連絡先（MAIL）

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

A program including one-week fieldworks and a two-week internship in a company in the Silicon Valley area of California, as well as study trips to places of professional interest in the Bay Area hosted by Kagoshima University North American Centre. The internship will enable you to see an American company from the inside. As an intern you will be placed in businesses with Japanese-speaking staff or in educational institutions that offer Japanese as first or second language. On the the seminar:

you will conduct cross cultural fieldworks around San Francisco  
 you will visit IT companies in Silicon Valley  
 you will meet Japanese expatriates who work in Silicon Valley  
 you will visit places of interest in the Bay Area  
 you will take part in the Japan-US Mirai Forum

## 学修目標

The programme has three main objectives:

1. You will be able to improve both your Japanese and English communication skills.
2. It will give you an introduction to the global society.
3. You will be able to improve your critical thinking and information processing skills. Finally you will gain valuable work experience that you will be able to use in the future.

## 授業計画

All dates subject to change

July 6th: Orientation 1

July 20th: Orientation 2

August 24th: Orientation 2

September 1st: Japan - San Francisco

2nd: Orientation

3rd: Fieldwork

4th: Workshop

5th: Volunteer orientation

6th: Visits to Hospital

7th-8th: Home stay program

9th-13th: Internship

14th-15th: Home stay program

16th-20th: Internship

21nd-22nd: San Francisco-Japan

October-November: Debriefing sessions, report-writing and presentation (five meetings)

Session 1: General feedback

Session 2: Report/presentation preparation

Session 3: Report/presentation preparation

Session 4: Presentation Session

5: Report submission

During these sessions you will give feedback on the programme, prepare your report, present your feedback and finally submit your report.

授業外学習（予習・復習）

The students need to study practical English every day.

教科書

None

参考書

None

成績の評価基準

You will be graded on:  
participation on the programme (30%)  
report/presentation (70%)

オフィスアワ -

月曜の昼休み。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

ディスカッションにおいてアクティブ・ラーニングを行う。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中5回。

備考（受講要件）

Only 5 people may participate. If there are more than 5 applicants there will be a selection process. This will include a written statement from you stating your motivation for participating and also a brief interview.

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DIH2133

科目名

哲学演習 B 1 (旧 西洋の人間と思想B演習1)

英語名

Western Philosophy B1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
近藤和敬		099-285-8910	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

近代政治哲学にかんする基本文献を読む。

学修目標

哲学の議論を自分で読んで、理解できるようになる。  
 哲学の議論をまとめなおして、ほかの人に説明できるようになる。

授業計画

最初に教員が資料の背景説明などをおこなったあと、担当者によってまとめの提示、後に参加者によるディスカッションを行います。

1. ガイダンス (課題提出型)
1. ホッブズ『リヴァイアサン』からの抜粋1 (オンデマンド型)
2. ホッブズ『リヴァイアサン』からの抜粋2 (オンデマンド型)
3. スピノザ『神学・政治論』からの抜粋1 (オンデマンド型)
4. スピノザ『神学・政治論』からの抜粋2 (オンデマンド型)
5. スピノザ『国家論』からの抜粋1 (オンデマンド型)
6. スピノザ『国家論』からの抜粋2 (オンデマンド型)
7. ロック『市民政府二論』からの抜粋1 (オンデマンド型)
9. ロック『市民政府二論』からの抜粋2 (オンデマンド型)
10. これまでのまとめ (課題提出型)
11. ディネシュ『現代思想からの動物論』からの抜粋1 (オンデマンド型)
12. ディネシュ『現代思想からの動物論』からの抜粋2 (オンデマンド型)
13. デリダ『獣と主権』からの抜粋1 (オンデマンド型)
14. デリダ『獣と主権』からの抜粋2 (オンデマンド型)
15. 全体のまとめ (課題提出型)

オンデマンド型の演習は、リアルタイム型や教室での通常授業に変更になる可能性があります。

授業外学習 (予習・復習)

毎回事前に資料を読んでくること。  
 また読んだ資料のまとめをmanabaの掲示板 (場合によってはレポート形式) で毎週記載すること。

教科書

授業中に抜粋資料を配布する

参考書

なし

成績の評価基準

・授業への出席と取組 (70パーセント)  
 毎回事前に資料を読んでくるのが前提で、毎回、読んだ箇所をmanabaの掲示板に授業開始時刻までに記載することが出席の要件となります。

・期末のレポート(30パーセント)

評価基準：1) 主題設定の適切さ、2) 文章の説得力、3) 日本語の正しさ、4) 追加資料の有無

オフィスアワ -

授業のあとなど随時

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中11回

備考(受講要件)

平成21年度以前の入学生については「比較思想論演習」に読み替える。

これまでに哲学概論と倫理学概説を受講していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DGH2213

## 科目名

地理学講義B (旧 テーマ地理学I)

## 英語名

Physical Geography

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

吉田明弘

099-285-7543

aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

地域における風景は自然・人文的な現象によって長い時間をかけて形成されてきた。とくに、地域の景観を特徴づける地形や植生は、第四紀の気候変動による産物である。この講義では地域の風景を自然地理学的な観点から読み解くための素養を身に着けるとともに、風景を生み出した第四紀の気候変動の原因や仕組みを理解する能力を養う。さらに、グローバルの視点から地域の風景を位置づけ、それらを自ら関連付けられる力を獲得することを目標とする。

## 学修目標

普段から我々が目にする身近な風景は、地域によって多種多様であり、長い時間をかけて形成されてきた。とくに、第四紀の気候変動は、地域の風景を代表する地形や植生などの形成に大きく関わってきた。この講義では「風景」をテーマとして取り上げ、1) 地域の風景を読み解くためのポイント、2) 風景を生み出した第四紀における環境変動の原因や仕組み、3) それらを調べる方法などについて解説する。

## 授業計画

- 第1回：授業ガイダンス - 授業のテーマと進め方 (オンデマンド型)
- 第2回：地図の味方・考え方 (オンデマンド型)
- 第3回：風景を読み解く(1) - 気候と植生(垂直・水平分布) (オンデマンド型)
- 第4回：風景を読み解く(2) - 組織地形(花崗岩) (オンデマンド型)
- 第5回：風景を読み解く(3) - 環境破壊(はげ山) (オンデマンド型)
- 第6回：第四紀の気候変化(1) - 氷期の発見 (オンデマンド型)
- 第7回：第四紀の気候変化(2) - 酸素同位体比変動と周期性 (オンデマンド型)
- 第8回：第四紀の気候変化(3) - 熱塩循環と急激な気候変動 (オンデマンド型)
- 第9回：第四紀の環境変動(1) (オンデマンド型)
- 第10回：第四紀の人類(2) (オンデマンド型)
- 第11回：地層の編年方法(1) - テフラとテフロクロロジー (オンデマンド型)
- 第12回：地層の編年方法(2) - 放射性同位体の半減期と年代測定法 (オンデマンド型)
- 第13回：日本における地表環境の変遷(1) - 地形形成と気候変動 (オンデマンド型)
- 第14回：日本における地表環境の変遷(2) - 植生変化 (オンデマンド型)
- 第15回：授業の総括 (オンライン型)

オンデマンド型講義はリアルタイム型や教室での通常講義に変更になる可能性がある。また、授業の回数や内容は変更となる可能性がある。

## 授業外学習(予習・復習)

予習：配布された資料を事前に目を通し、専門用語などは辞典やインターネットで調べておくこと。  
復習：配布資料やノートを見返すと共に、授業でわからない点などは文献・インターネットで調べておくこと。  
なお、質問はメール等で随時受付ける。

## 教科書

毎回manabaに資料をアップするので各自でダウンロード・印刷すること。配布資料はA4版のファイルやバインダーなどを用意して各自で整理しておくこと。

## 参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

毎回の授業における小テストの実施状況 (30%) や結果 (70%) を総合的に評価する。

オフィスアワ -

質問等は、メールで随時受付ける。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

この講義は自然地理学における専門的な内容について講義する。そのため、すでに自然地理学の基礎となる自然地理学概説を履修していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

<b>ナンバリングコード</b>			
FHS-DGH2230			
<b>科目名</b>			
地理学演習 B 1 (旧 地理学演習 I)			
<b>英語名</b>			
Geography B			
<b>開講学科</b>		<b>コース</b>	
人文学科		多元地域文化コース	
<b>授業科目区分</b>	<b>授業形態</b>	<b>単位数</b>	<b>開講期</b>
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
<b>担当教員</b>		<b>連絡先 (TEL)</b>	<b>連絡先 (MAIL)</b>
吉田明弘		099-285-7543	aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp
<b>共同担当教員</b>		<b>前後期</b>	
		後期	
<b>授業概要</b>			
<p>自然・人文地理学では地域における様々なデータを収集し、それを地図化することで空間的・時間的な地域分析を行う。この演習では、これら地理学の基礎となる地図学や測量学の基礎知識を習得すると共に、地理情報システム (GIS) を用いて、地域における様々な主題図を作成し、空間分析の能力を養う。</p>			
<b>学修目標</b>			
<p>自然・人文地理学の両分野に共通事項であるが、様々な地域のデータを収集し、それを地図化することは地域分析における基礎となる。本演習では、地図学・測量学の基礎的な知識を習得するも共に、地理情報システム (GIS) を用いて、地域における様々な地理的データから主題図を作成することで、地理学の視点からの地域分析をする能力を養う。本演習における一連の作業を通じて、地域分析と言う応用力を身に付けると共に、学位論文の執筆に必要な研究能力を養うことを到達目標とする。</p>			
<b>授業計画</b>			
<p>第1回：授業ガイダンス - 履修条件の確認と授業の進め方 (遠隔オンデマンド型授業)                  第2回：GIS関連ソフトのインストールとプラグインソフトの導入 (遠隔オンデマンド型授業)                  第3回：GISによる地図表示と属性データ (ベクタ地図) (遠隔オンデマンド型授業)                  第4回：GISによる地図表示と属性データ (ラスタ地図) (遠隔オンデマンド型授業)                  第5回：GPSの原理とハンディGPSによる位置測定 (遠隔オンデマンド型授業)                  第6回：ファイル変換とGoogle Earthによる位置情報データの展開 (遠隔オンデマンド型授業)                  第7回：空間座標システム (測地系・投影法) とファイル形式 (遠隔オンデマンド型授業)                  第8回：GISにおけるポイント・ライン・ポリゴンの作成と属性データ統合 (遠隔オンデマンド型授業)                  第9回：アナログ地図のデジタル化 (遠隔オンデマンド型授業)                  第10回：DEMの地形表現による等高線と日射量の算出法 (遠隔オンデマンド型授業)                  第11回：農業地図の作成植生データによる耕作放棄地の抽出と面積計算 (遠隔オンデマンド型授業)                  第12回：防災地図の作成：土石流危険流域の抽出 (遠隔オンデマンド型授業)                  第13回：学生のグループ分けと調査目的・計画の立案 (遠隔オンデマンド型授業)                  第14回：野外・室内調査による一次データの取得とGIS解析 (遠隔オンデマンド型授業)                  第15回：学生による調査・解析結果の発表 (遠隔オンデマンド型授業)</p>			
<b>授業外学習 (予習・復習)</b>			
授業中に適宜指示する。			
<b>教科書</b>			
毎回資料を配布するので各自で印刷し。A4版のファイルやバインダーなどで整理しておいてください。			
<b>参考書</b>			
授業中に適宜紹介する。			
<b>成績の評価基準</b>			
毎週の課題における提出物 (80%) , 授業への取り組む態度 (20%) を総合的に評価する。			
<b>オフィスアワー</b>			
質問等は、manaba (個人指導) やメールにて随時受付けます。また、必要に応じては、Zoomを使った遠隔操作による指導を行いますので、不明な点や理解できない点はそのままにしないようにお願いします。			
<b>アクティブ・ラーニング</b>			

その他;

**アクティブ・ラーニング (その他の内容)**

GIS及びその関連ソフトを使用したパソコン実習の形式で行う。また、必要に応じて野外にて測量や調査を実施する。

**アクティブ・ラーニング (授業回数)**

15回中15回

**備考 (受講要件)**

すでに自然地理学概説を必ず履修していること。なお、この演習ではパソコンを用いて行います。とくに、今年度は遠隔オンデマンド型授業を行うので、各自のPCにて操作をしてもらいます。そのため、各自でPCを用意し、PCやOSの基本的な操作についてはWebなどで各自で調べるようにください。

**実務経験のある教員による実践的授業**

## ナンバリングコード

## 科目名

多言語文化論演習1b (フランス言語文化論演習2)

## 英語名

Multilingual Cultures 1b

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

未定

099-285-8883

udo@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

中谷純江, 兼城系絵

後期

## 授業概要

本授業は、COIL(Collaborative Onlune International Learning)とよばれるオンラインを利用した新しい国際協働学習の方法を取り入れておこなう。米国の連携大学 (University of Wisconsin, La Crosse) の学生と共に、日本とアメリカの教育課題について比較検討する。授業は日本語で行うが、連携大学に配信する講義やプレゼンテーションは英語で行う。近年、特に重要な課題となっている「日本語を母語としない子どもの教育問題」、「バイリンガル子どもの教育やアイデンティティの問題」、「文化的均質性や同化圧力の強い社会における少数派が抱える問題」などをテーマに議論や発表をおこなう。

## 学修目標

1. To identify the influence of Globalization in education (教育分野におけるグローバル化の影響を特定する)
2. To explain the Japanese educationl issues from global perspective (日本の教育課題についてグローバルな視点から説明する)
3. To compare education issues between US and Japan (米国と日本の教育課題を比較する)
4. To analyse roles of education in building a multicultural society. (多文化社会を築くために教育が果たす役割を考える)
5. To demonstrate greater openness and willingness to interact with those from different background. (異なる背景を持つ人々と接する際に心を開いて積極的な態度をしめす)

## 授業計画

1. Orientation: What is COIL? Topics to be learned. Class outcome, Requirement, Evaluation, How to edite video and where upload.
2. COIL Ice Breaking: Watching UWL introduction video flips and make comments. Think about what is relevant to introduce yourself to your US partners. Prepare video-flips for self-introduction of family and educational background.
3. Watching Introcuction videos by US students and make discussions in Japanese about the difference of educational background. Then, lecture by KU professor about Increasing numbers of non-native Japanese children and educational Issues among the minorities in Japan
4. Educational Issues in Japan: Japanese Students Group Presentation (English and Contents Check)
5. Educational Issues in US: Havig comments from UWL students of Japanese educational issues. Viewing US presentations.
6. Comparison between US and Japan: Group discussion and alalysis to compare educational issues in US and Japan. Based on the analysis, decide a topic for online group discussion with US students.
7. Onlline Group Discussion in English about their finding based on comparison between US and Japan
8. Lecture: Japanese Brazilians (in Japanese)
9. Lecture: Ethnic/ Regional Culture and Identity in France (in Japanese)
10. Drafting of the students project on Education, Culture and Identity, and presenting in Japanese, having comments,

11. Finalizing of the students project on Education, Culture and Identity and presenting in English.
12. Global teaching Plan Presentation Video by US team
13. Collaborative Workshop with US students
14. Collaborative Workshop with US students
15. Summary

## 授業外学習 ( 予習・復習 )

1. Recording and uploading vidos for introducing our campus /city by 10/6 Sunday
2. Each student record and upload a video flip within 2 minnutes to introduce oneself by 10/13 Sunday.
3. KU students make questions and comments to US students's self-introduction videos by 10/20
4. Prepare for the Grpup presentations by 22. and presentation practice by 28
5. Makes questions and comments on US group presentation
6. Submit Discussion Summary in Japanese
7. Submit Comments in Japanese
8. Submit Comments in Japanese
9. Submit Comments in Japanese
10. Prepare for the project in winter holidays.
11. Drafting of the students project on Education, Culture and Identity
12. Student Project Activity
13. Collaborative Workshop
14. Collaborative Workshop
15. Preparre for Presentation

## 教科書

無し

## 参考書

- 田中宏 (2013) 『在日外国人 (第三版) : 法の壁、心の溝』岩波新書  
 望月優大 (2019) 『ふたつの日本「移民国家」の建前と現実』講談社現代新書  
 宮島喬 (2014) 「 6章 マイグレーションと子ども」 『多文化であることとは：新しい市民の条件』岩波現代全書  
 宮島喬 (2014) 『外国人の子どもの教育』東京大学出版会  
 宮島喬他 (2019) 『開かれた移民社会へ 別冊 環』24  
 小島祥美 (2016) 『外国人の就学と不就学：社会で「見えない」子どもたち』大阪大学出版会  
 下地ローレンス吉孝 (2019) 「日本人と外国人の二分法を問い直す」 『現代思想 特集：新移民時代』2019年4月号  
 ナディ (2019) 『ふるさとって呼んでもいいですか：6歳で移民になった私の物語』大月書店  
 佐久間孝正 (2015) 『多国籍化する日本の学校：教育グローバル化の衝撃』勁草書房  
 徳田剛他 (2019) 『地方発 外国人住民との地域づくり：多文化共生の現場から』晃洋書房

## 成績の評価基準

プレゼンテーション、プロジェクトの成果、ディスカッション・サマリー

## オフィスアワ -

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

## アクティブ・ラーニング (その他の内容)

Collaborative Online International Learning

## アクティブ・ラーニング (授業回数)

10

## 備考 (受講要件)

米国との学生との交流で英語を使用する。

受講者数を最大18名に制限するため、希望者が多い場合はセレクションを行う可能性がある。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2214			
科目名			
日本古典文学研究B (旧 日本近世文学)			
英語名			
Classical Japanese Literature B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
丹羽謙治		099 - 285-8904	niwa@leh/kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>テーマ：実録体小説の世界</p> <p>本講義では江戸時代を通じて写本として流布した実録体小説（単に実録ともいう）を取り上げる。実録体小説は反乱や敵討などさまざまな事件を素材として、実名を用いて作られえる虚構（フィクション）である。写本ならではのテキストの問題や典拠、作者の問題などを、具体的な作品に即して考察する。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近世小説の歴史についての理解を深める。</li> <li>・実録体小説の構成法の特徴についての理解を深める。</li> <li>・実録体小説が歌舞伎などに与えた影響について正しく理解する。</li> </ul>			
授業計画			
<p>第一回 イン트로ダクション（課題提出型授業）</p> <p>第二回 近世小説の歴史（課題提出型授業）</p> <p>第三回 記録と実録（以後、オンライン授業を予定）</p> <p>第四回 石川五右衛門の実録『賊禁秘誠談』を読む（1）巻上</p> <p>第五回 石川五右衛門の実録『賊禁秘誠談』を読む（2）巻中</p> <p>第六回 石川五右衛門の実録『賊禁秘誠談』を読む（3）巻下</p> <p>第七回 赤穂事件の実録の流れ</p> <p>第八回 『武家不断枕』を読む（1）</p> <p>第九回 『武家不断枕』を読む（2）</p> <p>第十回 『武家不断枕』を読む（3）</p> <p>第十一回 『内侍所』の世界</p> <p>第十二回 薩摩藩に関わる実録を読む（1）</p> <p>第十三回 薩摩藩に関わる実録を読む（2）</p> <p>第十四回 回国型の実録を読む</p> <p>第十五回 まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）			
授業で扱うテキストは事前に予習しておくことが望ましい。また、授業資料をもとに、授業内容について毎時復習することが望ましい。			
教科書			
プリントを配布。			
参考書			
菊池庸介『近世実録の世界』（汲古書院）、他は授業の中で紹介する。			
成績の評価基準			
レポートの成績によって評価する。			
オフィスアワ -			
月曜日3限 共通教育棟2号館3階 日本近世文学研究室			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

教職免許(国語)の必修授業科目。

28年度以前入学生は、「日本近世文学」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DIH2139

## 科目名

アメリカ文学演習1(旧 アメリカ文学演習)

## 英語名

American Literature 1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹内勝徳		285-8874	takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	

## 授業概要

前半は米国サンノゼ州立大学日本学科の学生と、スカイプ等のテレコミュニケーション・ソフトを使って、遠隔合同授業を行う。具体的には、日本人学生とアメリカ人学生が合同チームを編成し、それぞれのテーマについてディスカッションを行う。調査結果はグループ・プレゼンテーションにより発表する。それを踏まえて後半の授業では、アメリカ作家の短編小説を精読し、テーマに応じたディスカッションやさらなる調査を行う。

## 学修目標

- (1) アメリカ文学と文化の特徴を掴む。
- (2) アメリカ文化を理解した上で、日本の社会や歴史についてより深く考える力を身に付ける。
- (3) 資料読解やディスカッションを英語でこなすことで、英語力を向上させる。
- (4) 就職活動や教員試験、海外留学などグローバルな視野からキャリア・ビジョンを描く。

## 授業計画

第1回	サンノゼ州立大学との合同授業ーグループ紹介(online)
第2回	サンノゼ州立大学との合同授業ーアイスブレイキング(online)
第3回	サンノゼ州立大学との合同授業ーことわざについて(online)
第4回	サンノゼ州立大学との合同授業ーサンノゼ側のリサーチ・クエスチョン(online)
第5回	サンノゼ州立大学との合同授業ー鹿大側のリサーチ・クエスチョン(online)
第6回	プレゼンテーション準備(online)
第7回	プレゼンテーション(online)
第8回	ヘンリー・ミラーの短編を読むーカリフォルニアの環境(online)
第9回	ヘンリー・ミラーの短編を読むーカリフォルニアとジェンダー(online)
第10回	ヘンリー・ミラーの短編を読むーカリフォルニアとヒッピー文化(online)
第11回	ヘンリー・ミラーの短編を読むー先端都市としてのシリコンバレー(online)
第12回	ヘンリー・ミラーの短編を読むー夢の国としてのカリフォルニア(online)
第13回	ヘンリー・ミラーの短編を読むーセクシュアリティについて(online)
第14回	ヘンリー・ミラーの短編を読むー先進性と対抗文化(online)
第15回	ディスカッション(online)
第16回	試験(online)

## 授業外学習(予習・復習)

- ・予習：授業中に配ったプリントを読み、英文を訳しておく。
- ・復習：ノートに書いたことを整理し、授業中になされた指示に従って調査等を行う。
- ・英語教材を各自で決定して、毎日決まったペースで学習すること(予習・復習とも)。

## 教科書

授業中に指示する。

## 参考書

授業中に指示する。

## 成績の評価基準

プレゼンテーション30%、授業中の発表30%、試験40%。

## オフィスアワ -

月曜昼休み

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回。

備考 (受講要件)

英語力の向上に意欲をもっていること。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DIH2137

## 科目名

イギリス文学演習 1 (旧 イギリス文学演習1)

## 英語名

English Literature 1

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

大和高行

099-285-7570

yamato@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

本授業では、イギリスのロマン派の詩人たちの代表作を精読し、それぞれの英詩のテーマや技法や個性を確認しながら鑑賞します。一口に「ロマン派の詩人」と言っても、詩作のテーマは様々で、異なる詩形や韻律で対象を描いています。授業では教員が個々の詩について、(1)試訳、(2)英語のワンポイント、(3)詩的技法、(4)その詩の素晴らしいところ、を記したレジュメを配って全体的な説明を行います。その後、受講者全員による議論を通じ、理解を深めます。

## 学修目標

- 1、イギリスのロマン派の詩人たちの代表作を正確に読解することができる。
- 2、イギリスのロマン派の詩人たちの代表作を鑑賞・批評することができる。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション (授業の目的、授業の進め方、評価基準等についての説明) (課題提出型)
- 第2回 William Blake: 'Infant Joy', 'Night', 'Infant Sorrow' (課題提出型)
- 第3回 William Blake: 'Garden of Love', 'London', 'The Tyger' (オンデマンド型)
- 第4回 William Blake: 'The Sick Rose', 'Love's Secret', 'Ah! Sun-Flower' (オンデマンド型)
- 第5回 William Wordsworth: 'The Table Turned', 'To the Cuckoo', 'There was a Boy' (オンデマンド型)
- 第6回 William Wordsworth: 'Lucy': "Strange Fits of Passion have I Known", 'Lucy': "She dwelt among the Untrodden Ways", 'Lucy': "A slumber did my spirit seal" (オンデマンド型)
- 第7回 William Wordsworth: 'The Daffodils', 'Resolution and Independence', 'Stepping Westward' (オンデマンド型)
- 第8回 William Wordsworth: 'Composed upon Westminster Bridge Sept 3, 1802', 'The Reaper', 'The Rainbow' (オンデマンド型)
- 第9回 Samuel Taylor Coleridge: 'To the River Otter', 'Kubla Khan', 'Love' (オンデマンド型)
- 第10回 George Gordon Byron: 'I would I were a careless child', 'The Ocean', 'Prometheus' (オンデマンド型)
- 第11回 George Gordon Byron: 'She walks in Beauty', 'When We Two Parted', 'So, We'll go No More a Roving', 'On this Day I complete My Thirty-Sixth Year' (オンデマンド型)
- 第12回 Percy Bysshe Shelley: 'Hymn to Intellectual Beauty', 'To a Skylark' (オンデマンド型)
- 第13回 Percy Bysshe Shelley: 'Ode to the West Wind', 'To Night'
- 第14回 John Keats: 'To Autumn', 'Ode to A Nightingale', 'Ode to the West Wind' (オンデマンド型)
- 第15回 John Keats: 'Ode on Melancholy', 'La belle dame sans merci', 'Ode on a Grecian Urn' など (オンデマンド型)

\* オンデマンド型講義は、リアルタイム型や教室での通常講義に変更になる可能性がある。

## 授業外学習 (予習・復習)

教科書、授業中に配布されるプリント、参考文献などに予め目を通し、予習しておくこと。また、毎回の講義を受けた後に、復習しておくこと。(学習に係る標準時間は約1時間)

## 教科書

上島健吉 (編注) 『ロマン派詩選』 (研究社小英文叢書, 189)、研究社、2006年、1,680円(税込)

## 参考書

磯田光一 『イギリス・ロマン派詩人』 河出書房新社 1979年

イギリス・ロマン派学会(編) 『イギリス・ロマン派研究: 思想・人・作品』 桐原書店 1985年

片岡甚太郎・佐竹龍照(編注) English Poetry (2) 『英詩 (2)』 三修社 1991年

平井正穂 (編) 『イギリス名詩選』 (岩波文庫)、岩波書店、1990年

その他、適宜紹介します。

## 成績の評価基準

授業中の発言および態度(30%)、授業の感想レポート(30%)、期末レポート(40%)

## オフィスアワー

曜日・時間: 毎週水曜日9:15~10:15、場所: 大和研究室

## アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

## 備考(受講要件)

## 実務経験のある教員による実践的授業

該当せず。

ナンバリングコード			
科目名			
日本古典文学研究B (旧 日本近世文学)			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
丹羽謙治		099 (285) 8904	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
中本 (ちゅうほん) の世界			
江戸時代後期、読本とは異なり、市井の男女の色模様を描いた戯作が多く作られた。それは、遊里に取材した洒落本から変貌を遂げ、会話体と地の文で語られていく物語で、人情本と呼ばれている。女性をターゲットに作られたとされる人情本であるが、改めてその成立の背景、芝居との関係、読者の問題、文章の問題など多角的に、本文に即して考察をしていく。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戯作の知識を深める。</li> <li>・ 江戸の庶民の生活環境や言語環境について知識を持つ。</li> <li>・ 近代文学へのかかわりについて正しい知識を得る。</li> </ul>			
授業計画			
第1回 近世文学の中の戯作			
第2回 洒落本から人情本へ			
第3回 洒落本『傾城買二筋道』の世界			
第4回 洒落本『傾城買二筋道』の世界			
第5回 洒落本の変質			
第6回 為永春水の登場と中本			
第7回 為永春水『春色梅児誉美』の女性たち お長と米八			
第8回 為永春水『春色梅児誉美』の女性たち 此糸と仇吉			
第9回 為永春水『春色梅児誉美』の男性 丹次郎			
第10回 鼻山人の人情本			
第11回 鼻山人の人情本と芝居			
第12回 人情本の会話			
第13回 近代文学と人情本			
第14回 人情本の読者			
第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
配布されたテキストを事前・事後に読む。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
武藤元昭『人情本の世界』(笠間書院)			
成績の評価基準			
期末試験による。			
オフィスアワ -			
月曜日 3限			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

中国言語文化研究B(旧 中国言語文化論)

## 英語名

Chinese Language &amp; Culture B

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先(TEL)

## 連絡先(MAIL)

中筋健吉

099-285-8893

k9553471@kadai.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

## テーマ

「中国詩人論」(李白の巻 Season5)

盛唐の李白は詩仙と称され、杜甫とともに中国を代表する詩人として名高い。唐は帝室李氏が道教を信奉したこともあり、我々が考える以上に道教の色濃い王朝であった。李白も若年より道教に親しみ、籠山修行を積んだこともあり、後、道士の資格である道ロク(竹/録)を授与されている。今季の授業では彼の作品の中から、道教的色彩を帯びた幾つかをピックアップして鑑賞し、彼の文学における意義とその本質の一端を追究していく。

## 学修目標

1. 本授業は中国古典文学史上の著名な作家、作品をとりあげ、作家の人生との関わりを中心にその文学の特色および思想を理解することを目的とする。
2. 今季は李白を取り上げ、彼の人生と文学の本質を考えていく。

## 授業計画

第1回: ガイダンス/授業計画

第2回: 李白の伝記

第3回: 初盛唐期の文学状況

第4回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(1)

第5回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(2)

第6回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(3)

第7回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(4)

第8回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(5)

第9回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(6)

第10回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(7)

第11回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(8)

第12回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(9)

第13回: 李白の文学: 作品鑑賞 詩(10)

第14回: 李白の擬古文学まとめ

第15回: 授業総括 授業の過程で、本計画は変更することもある。

## 授業外学習(予習・復習)

予習: 講義で配布した資料、紹介された参考文献等を事前に確認し出席することが望ましい。

復習: 講義資料にもとづいて授業の復習をすることが望ましい。

## 教科書

授業中に適宜資料を配布する。

## 参考書

武部利男『中国詩人選集 李白』(上、下)。

松浦友久『李白詩選』(岩波文庫)

和田信一『李白』(明治書院 新釈漢文大系)

他は授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

「学期末レポート」(70%)「ミニッツ・ペーパー」(30%)による。

ただし、授業状況によって変更の可能性あり。その際には通知する。

オフィスアワ -

不在時以外随時。但し事前にメールにてご連絡下さい。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中10回(予定)

備考(受講要件)

授業計画は状況に応じて変更することもある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
書籍文化研究			
英語名			
Book Culture			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹岡健一		099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、聖職者や王侯貴族の特権であった本の所有と読書が市民や労働者といった一般の人々の間にも普及して行く「読書の民主化」がどのように生じたのかについて理解を深める。そのため、前半では西洋における中世以降の「読書の民主化」を主要4段階に分けて論じ、後半では、主に20世紀のドイツにおいて「読書の民主化」の大きな推進力となった廉価図書販売組織「ブッククラブ」について詳しく考察する。</p>			
学修目標			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>この授業は、書籍文化をテーマとして、学習者が次の能力を身につけることを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「読書の民主化」とはどのようなものかを説明できる。</li> <li>2. 「読書の民主化」の発展過程について説明できる。</li> <li>3. 「読書の民主化」における「ブッククラブ」の役割を説明できる。</li> </ol>			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：「読書の民主化」の概念規定</p> <p>第3回：「読書の民主化」の発展過程（1）宗教改革期</p> <p>第4回：「読書の民主化」の発展過程（2）第一次読書革命期</p> <p>第5回：「読書の民主化」の発展過程（3）第二次読書革命期</p> <p>第6回：「読書の民主化」の発展過程（4）第三の飛躍期</p> <p>第7回：「ブッククラブ」の概念規定</p> <p>第8回：書籍販売における「ブッククラブ」の特異性</p> <p>第9回：ワイマール共和国時代のドイツにおける「ブッククラブ」の隆昌</p> <p>第10回：伝統的な書籍販売と「ブッククラブ」（1）対立</p> <p>第11回：伝統的な書籍販売と「ブッククラブ」（2）対立から共存へ</p> <p>第12回：1945年以前のドイツにおける「ブッククラブ」（1）市民的ブッククラブ</p> <p>第13回：1945年以前のドイツにおける「ブッククラブ」（2）保守的ブッククラブ</p> <p>第14回：1945年以前のドイツにおける「ブッククラブ」（3）左翼的ブッククラブ</p> <p>第15回：授業のまとめとふりかえり</p> <p>定期試験（レポート提出）</p> <p>・授業は主に「課題提出型」で行うが、「オンデマンド型」、「リアルタイム型」、および「教室での通常授業」に変更になる可能性がある。</p> <p>・また、今後の状況次第で、授業回数や内容が変更になる可能性もある。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：授業内容に関連する事柄について、読書や情報収集を行う。1時間程度。</p> <p>復習：授業内容を振り返り、理解を深め、さらに読書や情報収集を行う。30分程度。</p>			
教科書			

テキスト	授業中に資料を配布する。
<b>参考書</b>	
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸叶勝也『ドイツ出版の社会史　グーテンベルクから現代まで』（三修社）1992年。</li> <li>・ロジェ・シャルティエ/グリエルモ・カヴァッロ編『読むことの歴史　ヨーロッパ読書史』田村毅他共訳（大修館書店）2000年。</li> <li>・マーティン・ライアンズ『本の歴史文化図鑑』蔵持不三也/三芳康義訳（柊風舎）2012年。</li> </ul>
<b>成績の評価基準</b>	
学生に対する評価	授業中に課すミニレポート（50％）と期末試験（50％）に基づいて、総合的に評価する。
<b>オフィスアワ -</b>	
特に時間は設けない。質問等があれば、随時申し出ること。	
<b>アクティブ・ラーニング</b>	
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；	
<b>アクティブ・ラーニング（その他の内容）</b>	
<b>アクティブ・ラーニング（授業回数）</b>	
15回中10回	
<b>備考（受講要件）</b>	
プロジェクター	
<b>実務経験のある教員による実践的授業</b>	

## ナンバリングコード

## 科目名

書籍文化演習 1

## 英語名

Book Culture 1

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹岡健一		099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	

## 授業概要

## 授業の概要

この授業では、書籍の歴史に関する文献の講読と討論を行い、書籍研究における問題の立て方や論の進め方などを理解する。また、そこで得られた問題意識に基づいて、学習者自らが書籍文化に関するテーマを設定してレポートの作成と報告を行う。

## 学修目標

## 授業の到達目標及びテーマ

- この授業は、書籍文化をテーマとして、学習者が次の能力を身につけることを到達目標とする。
1. 書籍文化に対する視点や問題意識を身につける。
  2. 先行文献の批判的な読解力を身につける。
  3. レポートの作成や報告、および討論のスキルを身につける。

## 授業計画

## 授業計画

## 第1回：オリエンテーション

第2回：書籍文化に関する文献講読(1)	ブリュノ・ブラセル『本の歴史』	第1章
第3回：書籍文化に関する文献講読(2)	ブリュノ・ブラセル『本の歴史』	第2章
第4回：書籍文化に関する文献講読(3)	ブリュノ・ブラセル『本の歴史』	第3章
第5回：書籍文化に関する文献講読(4)	ブリュノ・ブラセル『本の歴史』	第4章
第6回：書籍文化に関する文献講読(5)	ブリュノ・ブラセル『本の歴史』	第5章
第7回：書籍文化に関する文献講読(6)	ブリュノ・ブラセル『本の歴史』	資料編1～2
第8回：書籍文化に関する文献講読(7)	ブリュノ・ブラセル『本の歴史』	資料編3～4
第9回：書籍文化に関する文献講読(8)	ブリュノ・ブラセル『本の歴史』	資料編5～7
第10回：レポートの作成方法(1)	テーマの設定	
第11回：レポートの作成方法(2)	文献調査	
第12回：レポートの作成方法(3)	全体の構成	
第13回：レポートの作成方法(4)	引用と注	
第14回：レポートの作成方法(5)	レイアウト	
第15回：授業のまとめとふりかえり		
定期試験(レポート提出)		

- ・授業は主に「課題提出型」で行うが、「オンデマンド型」、「リアルタイム型」、および「教室での通常授業」に変更になる可能性がある。
- ・また、今後の状況次第で、授業回数や内容が変更になる可能性もある。

## 授業外学習(予習・復習)

予習： テキストの次の授業で扱われる範囲を講読し、質問等を考える。1時間程度。

復習： 授業の内容を再確認し、興味を持った点や理解が不十分な点について自分なりの調査を行う。30分程度。

## 教科書

テキスト
ブリュノ・ブラセル（荒俣宏監修・木村恵一訳）『本の歴史』（創元社）1998年。
参考書
参考書・参考資料等
樺山紘一『図説 本の歴史』（河出書房新社）2011年。
成績の評価基準
学生に対する評価
テキストの予習、討論への参加、レポートの作成と報告などにより総合的に評価する。
オフィスアワー
特に時間は設けない。質問等があれば随時申し出ること。
アクティブ・ラーニング
ディベート;
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中10回
備考（受講要件）
実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学演習 1 a (旧 物質文化論演習)			
英語名			
Archaeology 1a			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎		099-285-7549	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>学術論文はどのような構成になっているか、を理解するために、考古学関係の論文を用いながら、受講生がその論文に関するレジюмеを作成し、発表する。また4年生は卒業論文の進捗状況について発表する。</p>			
学修目標			
<p>学術論文の構成を理解するとともに、自らが卒業論文を書くための基礎的知識と技能を修得する。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス  第2回 学生による発表とディスカッション1  第3回 学生による発表とディスカッション2  第4回 学生による発表とディスカッション3  第5回 学生による発表とディスカッション4  第6回 学生による発表とディスカッション5  第7回 学生による発表とディスカッション6  第8回 学生による発表とディスカッション7  第9回 学生による発表とディスカッション8  第10回 学生による発表とディスカッション9  第11回 学生による発表とディスカッション10  第12回 学生による発表とディスカッション11  第13回 学生による発表とディスカッション12  第14回 学生による発表とディスカッション13  第15回 学生による発表とディスカッション14</p> <p>コロナ感染拡大防止のため変更される場合もあります。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>各学生による発表を主体とするので、そのための予習は必須。また授業での議論・指摘等をもとに復習が望ましい。</p>			
教科書			
参考書			
<p>授業中、適宜紹介する。</p>			
成績の評価基準			
<p>平常点・期末レポート</p>			
オフィスアワー			
<p>授業・会議のない日時であればいつでも可(土日・祝日は除く)</p>			
アクティブ・ラーニング			
<p>ディベート; プレゼンテーション;</p>			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
<p>学生が選択した論文をレジюмеにまとめ発表し、その内容について議論する。</p>			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

14回

備考(受講要件)

平成23年度以前の入学生は「物質文化論演習」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

古文書実習B (旧 古文書実習)

## 英語名

Practical Palaeography B

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

実習

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

金井静香

099-285-7553

kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

本授業では、中世・近世の古文書を写真やマイクロフィルムから紙にコピーして、受講者に配布する。受講者は、その文書のくずし字を判読するとともに、担当を割り当てられた文書について調査しその成果を発表する。

また授業担当教員は、古文書学の基礎的事項について解説する。

下記の「授業計画」では、主に島津家文書のなかから古文書を選ぶ開講期の授業計画を記す。

## 学修目標

- (1) 中世・近世古文書の読解力を向上させる。
- (2) 古文書に関する基礎的知識を習得する。
- (3) 古文書が日本史分野において果たしている役割を理解する。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 古文書の判読(1) 「詔勅」、「判物」
- 第3回 古文書の判読(2) 「符、移、牒、解」「朱印状」、前回の古文書についての発表
- 第4回 古文書の判読(3) 「綸旨、院宣」「御内書」、前回の古文書についての発表
- 第5回 古文書の判読(4) 「下文」「老中奉書」、前回の古文書についての発表
- 第6回 古文書の判読(5) 「下知状」「御書付」、前回の古文書についての発表
- 第7回 古文書の判読(6) 「御教書」「達書」、前回の古文書についての発表
- 第8回 古文書見学
- 第9回 古文書の判読(7) 「御判御教書、御内書」「禁制」、前々回の古文書についての発表
- 第10回 古文書の判読(8) 「奉書」「願書」、前回の古文書についての発表
- 第11回 古文書の判読(9) 「書下」「御沙汰書」、前回の古文書についての発表
- 第12回 古文書の判読(10) 「女房奉書」「副状」、前回の古文書についての発表
- 第13回 古文書の判読(11) 「申状」「覚書」、前回の古文書についての発表
- 第14回 古文書の判読(12) 「着到状、軍忠状」「起請文」、前回の古文書についての発表
- 第15回 古文書の判読(13) 「讓状、置文」「書状」、前回の古文書についての発表

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

## 授業外学習(予習・復習)

## 教科書

本授業で判読する古文書は、プリントにて配布する。

## 参考書

『くずし字用例辞典』(東京堂出版)

## 成績の評価基準

古文書の判読(35%)、発表もしくはレポート(35%)、授業への取り組み態度(30%)。

## オフィスアワ -

あらかじめアポイントをとること。

## アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
アジア言語演習B1 (旧 中国語学演習)			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
三木夏華			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>アジア言語演習A1に引き続き、中国語を一年以上履習した学生を対象とし、中国語検定試験の3級～2級レベルに相当する教材を用いて、現代中国語の文法知識、読解力、聴力などをより一層向上させることを目的とする。テキストはアジア言語演習A1と同じものを使用する。出席者は十分な予習を行っていることが前提となる。授業はzoomによりリアルタイムで行う。</p>			
学修目標			
<p>(1)初修外国語での中国語の基礎力を前提とした上で、更なる実践力を養う。  (2)中国語検定試験の3級～2級レベルに相当する学修を目指す。</p>			
授業計画			
<p>第1回ガイダンス (オンライン授業・リアルタイム)  第2回テキスト第6課 (文法説明) (オンライン授業・リアルタイム)  第3回テキスト第6課 (本文講読) (オンライン授業・リアルタイム)  第4回テキスト第6課 (練習問題) (オンライン授業・リアルタイム)  第5回テキスト第7課 (文法説明) (オンライン授業・リアルタイム)  第6回テキスト第7課 (本文講読) (オンライン授業・リアルタイム)  第7回テキスト第7課 (練習問題) (オンライン授業・リアルタイム)  第8回テキスト第8課 (文法説明) (オンライン授業・リアルタイム)  第9回テキスト第8回 (本文講読) (オンライン授業・リアルタイム)  第10回テキスト第8課 (練習問題) (オンライン授業・リアルタイム)  第11回テキスト第9課 (文法説明) (オンライン授業・リアルタイム)  第12回テキスト第9課 (本文講読) (オンライン授業・リアルタイム)  第13回テキスト第9課 (練習問題) (オンライン授業・リアルタイム)  第14回テキスト第10課 (文法説明) (オンライン授業・リアルタイム)  第15回テキスト第10課 (本文講読) (オンライン授業・リアルタイム)  第16回まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>【予習】テキスト、及び配付された教材プリントを必ず十分予習した上で授業に臨むこと。  【復習】毎回授業で習った内容を復習すること。(学習に係る標準時間は1時間)</p>			
教科書			
『アクション! 開始! 2 - コミュニケーション中国語』朝日出版社			
参考書			
講義中に紹介する。			
成績の評価基準			
平常点 (講義中の発表・レポートなど) : 100%。			
オフィスアワー			
木曜2限			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション;			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

課題についてのスピーキングトレーニング。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

1年以上の中国語の学習経験が必要となる。中国語を母国語とする学生の受講は認めない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学研究A (旧 物質文化研究)			
英語名			
Archaeology A			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
渡辺芳郎	099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
物質文化から見た異文化交流の歴史的様相を、主として東アジアにおける陶磁器を資料として用いながら講義する。			
学修目標			
(1)物質文化と異文化交流について理解する。 (2)陶磁器における異文化交流の歴史的様相を理解する。			
授業計画			
(1)物質文化から見た異文化交流 (課題提供型) (2)物質文化とは何か (課題提供型) (3)物質文化を構成する要素とそのアプローチ・研究方法 (課題提供型) (4)物質文化研究の可能性と限界 (課題提供型) (5)日本陶磁通史 (課題提供型) (6)唐三彩と奈良三彩 (課題提供型) (7)茶の湯と陶磁器 (課題提供型) (8)模倣と技術交流(1) - 日本における磁器の始まり - (課題提供型) (9)模倣と技術交流(2) - 肥前磁器のヨーロッパへの影響 - (課題提供型) (10)模倣と技術交流(3) - 薩摩焼における朝鮮系技術の変容と在地化? - (課題提供型) (11)模倣と技術交流(4) - 薩摩焼における朝鮮系技術の変容と在地化? - (課題提供型) (12)集成館事業と薩摩焼 (課題提供型) (13)ジャポニスムと日本陶磁 (課題提供型) (14)近代化と日本窯業 (課題提供型) (15)陶磁器から見た異文化交流 (課題提供型) 今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある (課題提供型)			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中に配布したプリントによる復習がのぞましい。			
教科書			
授業において適宜紹介する			
参考書			
授業において適宜紹介する			
成績の評価基準			
平常点 (50%)・期末レポート (50%)			
オフィスアワ -			
授業・会議のない日時であればいつでも可 (土日・祝日は除く)			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

備考（受講要件）

平成21年度以前入生は「異文化交流論」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
中国文学研究(旧 中国文学)			
英語名			
Chinese Literature			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
高津孝		099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
この講義においては、学生が中国文学をよりよく理解し、中国文学についての個別的知識を体系化できるよう、中国文学史の全体像とその枠組みについて講義をし、世界文学の中におけるその特殊性と普遍性についての認識を深めることを目標とする。今学期は中国文学と科挙制度の関係について詳述する。			
学修目標			
(1)中国文学史についての基礎知識を習得する。 (2)中国文学と科挙制度の関係についての深い理解に達する。 (3)中国文学と中国社会との関係を理解する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 科挙以前 第3回 隋唐の科挙 第4回 行巻と文学 第5回 北宋の科挙 第6回 欧陽脩と科挙 第7回 王安石と科挙 第8回 南宋の科挙と文学 第9回 元朝における科挙廃止と文学 第10回 明代の科挙 第11回 八股文の成立 第12回 試帖詩 第13回 科挙と文字の獄 第14回 『儒林外史』 第15回 科挙廃止と文学			
授業外学習(予習・復習)			
予習:次の授業で扱う分野について、テキスト、インターネット、図書館等を利用し、予習しておくこと。約1時間。 復習:授業中に学んだ内容について復習し、扱われた作品の意味、内容を十分に理解できるようにしておくこと。約30分			
教科書			
適宜プリント配布。			
参考書			
周勳初著『中国古典文学批評史』(高津孝訳、勉誠出版、2007年)			
成績の評価基準			
毎回提出のレポートを評価の対象とする。			
オフィスアワ -			
金曜日・2限目・中国文学研究室			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
英語オーラルd			
英語名			
Oral English d			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
スティーブ コーダ			
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		coke@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>This is an upper-intermediate course that will teach you how to give presentations in English. The course will follow a pattern of lecture/activities one week, followed by presentations the next week. You will be expected to make about 6 presentations throughout the course. For the test, the class will be split into two halves, the 1st group will present the first week. The 2nd group will present the second week.</p>			
学修目標			
<p>This course aims to build your confidence in using real English. You will be able to learn how to give an effective presentation. The skills that you learn you will be able to use when you give presentations in Japanese too.</p>			
授業計画			
<p>Week 1 Introduction  Week 2 Physical aspects of presentations 1 : Posture and eye contact  Week 3 Presentation practice and peer evaluation  Week 4 Physical aspects of presentations 2 : Gestures  Week 5 Presentation practice and peer evaluation  Week 6 Oral aspects of presentations 1 : Voice inflection  Week 7 Presentation practice and peer evaluation  Week 8 Oral aspects of presentations 2 : Pronunciation  Week 9 Presentation practice and peer evaluation  Week 10 Presentation structure 1 : Structure  Week 11 Presentation practice and peer evaluation  Week 12 Presentation structure 2 : Powerpoint  Week 13 Presentation practice and peer evaluation  Week 14 Individual research for final presentation  Week 15 Final presentation and peer evaluation (1st group)  Week 16 Final presentation and peer evaluation (2nd group)</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>You will be expected to prepare the contents of your presentations. You will also be required to watch presentations on YouTube</p>			
教科書			
You will be given handouts			
参考書			
None			
成績の評価基準			
Presentations in class 50%			
Final Presentation 50%			
オフィスアワ -			

Anytime ok, but mail me to make sure I will be available

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

Every week

備考(受講要件)

This class is for students who have spent 6 months or more overseas.

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

この授業は5月6日以降Zoomでリアルタイムで行う予定です。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
英語ライティングd			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
スティーブ コーク		285-7573	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		coke@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>You will learn essay structure and how to analyse paragraphs and essays. You will also learn how to use discourse markers and conjunctives effectively. You will be expected to communicate actively with other students about your writing in and outside of the classroom</p> <p>Unless there is a change in the current situation, this class will be online.</p>			
学修目標			
<p>This class is an introduction to academic writing in English concentrating on essay structure for explaining graphs, tables and charts. Classwork will be divided between discussion and writing. This class will be helpful if you are going to take the 教員採用試験 or IELTS or TOEFL.</p> <p>The class will be held realtime on Zoom.</p>			
授業計画			
<p>Week 1 Introduction</p> <p>Week 2 Writing overviews</p> <p>Week 3 Writing about graphs</p> <p>Week 4 Writing about tables and bar graphs</p> <p>Week 5 Making comparisons 1 : Vocabulary</p> <p>Week 6 Making comparisons 2 : Data comparison</p> <p>Week 7 Essay feedback</p> <p>Week 8 Ranking information</p> <p>Week 9 Writing about processes 1 : Vocabulary</p> <p>Week 10 Writing about processes 2 : Explaining processes</p> <p>Week 11 Writing about charts</p> <p>Week 12 Writing about maps</p> <p>Week 13 Grammar practice</p> <p>Week 14 Vocabulary practice</p> <p>Week 15 Essay feedback and final essay preparation</p> <p>Week 16 Final essay</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
You will be given homework most weeks			
教科書			
Handouts will be given			
参考書			
Bring your dictionaries!			
成績の評価基準			
Classwork 50%			
Final essay 50%			

オフィスアワ -

Anytime is ok, but mail me to be on the safe side.

アクティブ・ラーニング

グループワーク;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15中15回

備考(受講要件)

This class is for students who have spent at least 6 months in an English-speaking environment.

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
多言語文化論演習1			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
兼城系絵		099-285-8902	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
中谷純江, Rafael Marmolejo, 森田豊子		後期	
授業概要			
<p>本授業は、COIL(Collaborative Online International Learning)とよばれるオンラインを利用した国際協働学習の手法を取り入れておこなう。米国の連携大学 (University of Wisconsin, La Crosse) の学生と共に、日本とアメリカの「移民と教育」の課題について比較検討する。授業は日本語で行うが、連携大学に配信する講義やプレゼンテーションは英語で行う。近年、グローバル化がすすむ中で、特に重要な課題となっている外国人労働者の受け入れと地域社会、特に教育が果たす役割について議論をおこなう。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. To identify the influence of Globalization in education (教育分野におけるグローバル化の影響を特定する)</li> <li>2. To explain the Japanese educational issues from global perspective (日本の教育課題についてグローバルな視点から説明する)</li> <li>3. To compare education issues between US and Japan (米国と日本の教育課題を比較する)</li> <li>4. To analyse roles of education in building a multicultural society. (多文化社会を築くために教育が果たす役割を考える)</li> <li>5. To demonstrate greater openness and willingness to interact with those from different background. (異なる背景を持つ人々と接する際に心を開いて積極的な態度をしめす)</li> </ol>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation (COIL連携について説明, Ice-breaking, プレゼン課題説明) &lt;zoom&gt;</li> <li>2. コロナ禍と社会の弱点(米)人種問題、貧困と健康、保険制度改革 &lt;video and discussion&gt;</li> <li>3. コロナ禍と社会の弱点(東アジア)コロナと人の移動 &lt;zoom&gt;</li> <li>4. 難民、移民、外国人労働者(移民の受容、各国の政策) &lt;zoom&gt;</li> <li>5. 多文化主義から異文化間交流へ(教育の権利、教育の役割) &lt;video and discussion&gt;</li> <li>6. 日本の外国人受け入れ状況(制度的壁、文化的壁、アイデンティティ壁) &lt;zoom&gt;</li> <li>7. 学生プレゼン発表(15分X3) &lt;video and discussion&gt;</li> <li>8. 学生プレゼン(15分X2) UWLとの交流ふりかえりと全体共有 &lt;video and discussion&gt;</li> <li>9. SDGsとは、</li> <li>10. SDGsカードゲーム</li> <li>11. 多文化共生に向けての課題発見、可児市の取り組み例</li> <li>12. プラン、パートナー作り</li> <li>13. 中間発表</li> <li>14. プラン再考</li> <li>15. 成果発表</li> </ol> <p>第9回～第15回は集中講義形式(12/26～12/28)で行う予定。 基本的にオンライン形式かオンデマンド形式となる。詳細は初回のオリエンテーションで説明する。</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Recording and uploading videos for introducing our campus /city</li> <li>2. Each student record and upload a video flip within 2 minutes to introduce oneself</li> </ol>			

3. KU students make questions and comments to US students's self-introduction videos
4. Prepare for the Group presentations
5. Makes questions and comments on US group presentation
6. Submit Discussion Summary in Japanese
7. Submit Comments in Japanese
8. Submit Comments in Japanese
9. Submit Comments in Japanese
10. Prepare for the project in winter holidays.
11. Drafting of the students project on Education and Migration
12. Student Project Activity
13. Collaborative Workshop
14. Collaborative Workshop
15. Prepare for Presentation

## 教科書

## 参考書

- 田中宏 (2013) 『在日外国人 (第三版): 法の壁、心の溝』岩波新書
- 望月優大 (2019) 『ふたつの日本「移民国家」の建前と現実』講談社現代新書
- 宮島喬 (2014) 「6章 マイグレーションと子ども」『多文化であることとは: 新しい市民の条件』岩波現代全書
- 宮島喬 (2014) 『外国人の子どもの教育』東京大学出版会
- 宮島喬他 (2019) 『開かれた移民社会へ 別冊 環』24
- 小島祥美 (2016) 『外国人の就学と不就学: 社会で「見えない」子どもたち』大阪大学出版会
- 下地ローレンス吉孝 (2019) 「日本人と外国人の二分法を問い直す」『現代思想 特集: 新移民時代』2019年4月号
- ナディ (2019) 『ふるさとして呼んでもいいですか: 6歳で移民になった私の物語』大月書店
- 佐久間孝正 (2015) 『多国籍化する日本の学校: 教育グローバル化の衝撃』勁草書房
- 徳田剛他 (2019) 『地方発 外国人住民との地域づくり: 多文化共生の現場から』晃洋書房

## 成績の評価基準

プレゼンテーション、プロジェクトの成果、ディスカッション・サマリー

## オフィスアワ -

随時 (事前にアポをとること)

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

## アクティブ・ラーニング (その他の内容)

Collaborative Online International Learning

## アクティブ・ラーニング (授業回数)

10

## 備考 (受講要件)

遠隔形式で行う。詳細は初回オリエンテーションで説明する。

## 実務経験のある教員による実践的授業

西洋歴史・文化演習 2 B (旧 西洋の歴史と社会演習B2)  
ナンバリングコード

科目名

西洋歴史・文化演習 2 B (旧 西洋の歴史と社会演習B2)

英語名

Western History & Culture 2B

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

藤内哲也

099-285-8863

ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

本演習では、卒業論文の作成に向けて、各自で研究テーマを設定し、レジュメやパワーポイントを使って発表します。

それぞれの発表後には、全体でディスカッションを行います。

学修目標

1. ヨーロッパの歴史世界に関する知見や研究の視座を獲得します
2. 「人文学基礎 1、2」や「コース基礎演習 1、2」で培った技能をもとに、ヨーロッパの歴史世界を研究するうえで必要な情報分析力、批判的思考力、自己表現力などを身につけます
3. 卒業論文の作成に向けて、各自のテーマについての知見や理解を深めます

授業計画

- 第1回 オリエンテーション【オンラインzoom】
- 第2回 卒論研究の進め方(1)【オンラインzoom】
- 第3回 卒論研究の進め方(2)【オンラインzoom】
- 第4回 個人発表(1)【オンラインzoom】
- 第5回 個人発表(2)【オンラインzoom】
- 第6回 卒論中間発表会(1)【オンラインzoom】
- 第7回 卒論中間発表会(2)【オンラインzoom】
- 第8回 卒論中間発表会(3)【オンラインzoom】
- 第9回 個人発表(3)【オンラインzoom】
- 第10回 個人発表(4)【オンラインzoom】
- 第11回 個人発表(5)【オンラインzoom】
- 第12回 個人発表(6)【オンラインzoom】
- 第13回 個人発表(7)【オンラインzoom】
- 第14回 個人発表(8)【オンラインzoom】
- 第15回 まとめと課題【オンラインzoom】

授業外学習(予習・復習)

【予習】個人発表に向けて、資料を広く読み、レジュメを作成します。

【復習】個人発表において受けた質問やコメントをまとめ、今後の研究の展開過程について考えます。

教科書

指定しません

参考書

服部良久・南川高志・小山哲・金沢周作編『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会、2010年  
井上浩一『私もできる西洋史研究』和泉書院、2012年  
このほかの文献については、授業中に適宜紹介します

成績の評価基準

発表の準備・内容、プレゼンテーション、ディスカッションへの積極的な参加、レポートなどにより総合的に判断します

オフィスアワ -

随時 (メールにてアポを取る)

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中11回

備考 (受講要件)

ゼミ所属生に限ります。

zoomによるオンライン授業です。新型コロナウイルス感染症の影響等により、授業形態を変更する場合があります。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

イギリス文学演習2 (旧 イギリス演劇論演習)

## 英語名

English Literature 2

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

3~4年

## 担当教員

大和高行

## 連絡先 (TEL)

0 9 9 - 2 8 5 - 7570

## 連絡先 (MAIL)

yamato@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

本授業では卒業論文執筆に向けた指導を行う。各人のテーマに沿った参考文献を収集したり、ゼミでの中間発表、最終発表に向けた論文の執筆を行う。

## 学修目標

- 1 卒業論文のテーマにかかわる先行研究論文を集め、自分の言葉でまとめなおすことができる。
- 2 卒業論文にふさわしいロジックを持った説得的な論文を書くことができる。

## 授業計画

\* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

第1回 ガイダンス (授業の目的、授業の進め方、評価基準等についての説明) 【リアルタイム型】

第2回 良い論文についての説明【リアルタイム型】

第3回 参考文献の渉猟、卒業論文の執筆1【リアルタイム型】

第4回 参考文献の渉猟、卒業論文の執筆2【リアルタイム型】

第5回 卒論中間発表 アクティブラーニング1 (プレゼンテーションとディベート) 【リアルタイム型】

第6回 卒論中間発表 アクティブラーニング2 (プレゼンテーションとディベート) 【リアルタイム型】

第8回 卒論中間発表 アクティブラーニング3 (プレゼンテーションとディベート) 【リアルタイム型】

第9回 ディベートでの指摘を受けての卒業論文の執筆1【リアルタイム型】

第10回 ディベートでの指摘を受けての卒業論文の執筆2【リアルタイム型】

第11回 ディベートでの指摘を受けての卒業論文の執筆3【リアルタイム型】

第12回 卒論中間発表 アクティブラーニング4 (プレゼンテーションとディベート) 【リアルタイム型】

第13回 卒論中間発表 アクティブラーニング5 (プレゼンテーションとディベート) 【リアルタイム型】

第14回 卒論中間発表 アクティブラーニング6 (プレゼンテーションとディベート) 【リアルタイム型】

第15回 まとめと総合的評価。レポートを課し、最後にまとめの授業を行う。【リアルタイム型】

## 授業外学習 (予習・復習)

各自で用意した教科書や指導教員から指示された参考書などに予め目を通し、予習しておくこと。また、毎回の授業を受けた後や添削済みの卒論草稿レポートが返却された時など、指導教員から指摘された点を中心に、復習しておくこと。(学習に係る標準時間は約1時間)

## 教科書

各人で用意する。

## 参考書

各人ごとに必要なものを図書館やインターネット等で集める。

## 成績の評価基準

ディベート(50%)とプレゼンテーション(50%)の出来具合で評価する。

## オフィスアワ -

曜日・時間：毎週水曜日9:15~10:15、場所：大和研究室

## アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

ゼミ生に限る

実務経験のある教員による実践的授業

該当せず。

ナンバリングコード			
科目名			
哲学演習 2 B (旧 西洋の人間と思想A演習2)			
英語名			
Western Philosophy 2B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
近藤和敬			kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
参加者の研究発表内容について議論する。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の関心にそった文献を選べるようになる。</li> <li>・読んだものを適切にまとめられるようになる。</li> <li>・ほかの人の発表にたいして適切にコメントが言えるようになる。</li> <li>・引用の仕方などを理解する。</li> <li>・参考文献表の作り方を覚える。</li> <li>・卒論の準備を進める。</li> </ul>			
授業計画			
ゼミ生の研究発表のための授業です。			
1回目：ガイダンス			
2回目～15回目：ゼミ生の発表			
授業外学習 (予習・復習)			
発表者は、授業外時間に本を読み、まとめてくる必要があります。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
発表の内容に応じて評価します。			
オフィスアワー			
随時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク； ディベート； プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
ゼミ生に限ります。			
実務経験のある教員による実践的授業			

西洋歴史・文化演習 2 A (旧 西洋の歴史と社会演習A2)  
ナンバリングコード

科目名

西洋歴史・文化演習 2 A (旧 西洋の歴史と社会演習A2)

英語名

Western History & Culture 2A

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

細川道久

hos leh.kagoshima-u.ac.jp は  
アットマーク

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

卒業論文を作成するための実践的な授業です。テーマ設定、文献検索、レジюме作成、報告、討論、レポート作成を進めながら、実際の卒業論文執筆に必要な能力を養います。

学修目標

1. 卒業論文作成に必要な研究能力を養う。
2. 卒業論文作成を通して、歴史学研究への理解を深める。

授業計画

遠隔形式で行なう予定であるが、状況によっては対面形式に変更する可能性がある。授業形態を変更する場合は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業時に連絡する。

- 第1回 ガイダンス(リアルタイム型)
- 第2回 卒論とは何か(リアルタイム型)
- 第3回 卒論テーマの選び方(リアルタイム型)
- 第4回 参考文献の探し方(リアルタイム型)
- 第5回 文献の読み方(リアルタイム型)
- 第6回 報告の仕方(リアルタイム型)
- 第7回 個々のテーマに応じた助言指導(1)(リアルタイム型)
- 第8回 個々のテーマに応じた助言指導(2)(リアルタイム型)
- 第9回 個々のテーマに応じた助言指導(3)(リアルタイム型)
- 第10回 ディスカッションの仕方(リアルタイム型)
- 第11回 報告とディスカッション(1)(リアルタイム型)
- 第12回 報告とディスカッション(2)(リアルタイム型)
- 第13回 報告とディスカッション(3)(リアルタイム型)
- 第14回 論文執筆の作法(リアルタイム型)
- 第15回 総括(リアルタイム型)

授業外学習(予習・復習)

卒論作成に向けて、予習、復習は必須です。

教科書

なし。

参考書

特になし。

成績の評価基準

授業への取り組み態度(課題の準備、討論への参加度)。

オフィスアワ -

金曜10時~11時

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

受講はゼミ所属生に限ります(ゼミ生は必ず受講してください)。平成28年度以前の入学生については、「西洋の歴史と社会演習A2」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A3)  
ナンバリングコード

科目名

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A3)

英語名

Modern Cultural History of Europe & America 2

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

梁川英俊

099-285-8891

yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

全15回の授業を遠隔形式で実施する。

この授業では、基本文献の講読と受講生が自らの関心に基づいて選んだテーマによる報告や討論を通じて、ヨーロッパ・アメリカ文化を研究する上での基本的な姿勢や方法について学び、併せてより良い卒業論文の作成に向けた準備をします。

学修目標

1. ヨーロッパ・アメリカ文化に関する基本的な知識を習得する。
2. 自らの関心に合わせたテーマ設定と文献等の調査ができる。
3. 自分の知識や思考を適切な言葉で伝えることができる。

授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回～第11回 基本文献の講読および助言指導

第12回～第14回 報告および討論

第15回 まとめ

授業外学習 (予習・復習)

報告に際しては、必ず事前の予習をし (1時間)、また報告後はプレゼンの手直しを行ってください (1時間)。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

成績の評価基準

授業に取り組む姿勢という観点から総合的に判断します。

オフィスアワ -

特に設けません。事情に応じて対応します。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

毎回

備考 (受講要件)

受講生はゼミ所属生に限ります。

授業形式はコロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更することがあります。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

書籍文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A2)

## 英語名

Book Culture 2

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

竹岡健一

099-285-7577

takeoka@leh.kagosisima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

## 授業の概要

この授業では、書籍文化に関するより専門的な調査・発表と討論を行い、書籍研究における問題の立て方や論の進め方などを理解する。また、発表内容に基づいて、レポートの作成を行う。これらを通じて、「書籍文化演習1」で修得した知見や能力をさらにレベルアップする。

## 学修目標

## 授業の到達目標およびテーマ

この授業は、書籍文化をテーマとして、学習者が次の3つの能力を身につけることを到達目標とする。また、いずれの点でも、「書籍文化演習1」におけるよりもより専門的かつ高度なレベルに達することを旨とする。

1. 書籍文化に対する視点や問題意識を身につける。
2. 先行文献の批判的な読解力を身につける。
3. レポートの作成や報告、および討論のスキルを身につける。

## 授業計画

\* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更になる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

## 授業計画

第1回：オリエンテーション 【講義資料・課題提示による授業】

第2回：書籍文化に関する発表と討論(1) 【講義資料・課題提示による授業】

第3回：書籍文化に関する発表と討論(2) 【講義資料・課題提示による授業】

第4回：書籍文化に関する発表と討論(3) 【講義資料・課題提示による授業】

第5回：書籍文化に関する発表と討論(4) 【講義資料・課題提示による授業】

第6回：書籍文化に関する発表と討論(5) 【講義資料・課題提示による授業】

第7回：書籍文化に関する発表と討論(6) 【講義資料・課題提示による授業】

第8回：書籍文化に関する発表と討論(7) 【講義資料・課題提示による授業】

第9回：書籍文化に関する発表と討論(8) 【講義資料・課題提示による授業】

第10回：レポートの作成方法(1) テーマの設定 【講義資料・課題提示による授業】

第11回：レポートの作成方法(2) 文献調査 【講義資料・課題提示による授業】

第12回：レポートの作成方法(3) 全体の構成 【講義資料・課題提示による授業】

第13回：レポートの作成方法(4) 引用と注 【講義資料・課題提示による授業】

第14回：レポートの作成方法(5) レイアウト 【講義資料・課題提示による授業】

第15回：授業のまとめとふりかえり 【講義資料・課題提示による授業】

## 授業外学習(予習・復習)

予習： 事前に配信された発表資料を熟読し、質問等を考える。1時間程度。

復習： 授業の内容を再確認し、興味を持った点や理解が不十分な点について自分なりの調査を行う。30分程度。

## 教科書

教科書は使用せず、授業中にプリントを配布する。

#### 参考書

村上一郎『岩波茂雄と出版文化：近代日本の教養主義』（講談社学術文庫）2013年。  
その他、授業中に適宜紹介する。

#### 成績の評価基準

学生に対する評価

成績評価は、授業での発表（25%）と討論（50%）への取り組み態度、および発表がない回のレポート（25%）に基づいておこなう。

#### オフィスアワー

特に時間は設けない。質問などがあれば、随時申し出ること。

#### アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

#### 備考（受講要件）

- (1) ゼミ所属生に限る。
- (2) 平成28年度以前入学生は「ヨーロッパ言語文化演習A2」に読み替え。
- (3) 授業形態（対面・遠隔）については、コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合があります。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

アメリカ文学演習2 (旧 アメリカ文学演習)

## 英語名

American Literature 2

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

3~4年

## 担当教員

竹内勝徳

## 連絡先 (TEL)

285-8874

## 連絡先 (MAIL)

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

卒論に向けての個別研究をゼミ生全員で共有・議論することで授業を進めていく。4年性は12月10日までに卒論を一旦提出してもらおう。12月5日からの発表では、卒論の概要を提示するとともに、卒論で用いた参考文献のうち、自分の研究方法を学ぶうえで最適と思えるものを選んで、その理論の骨子まとめる。レジメの様式としては、A4で4ページをB4で2枚に縮小コピーして受講生全員に配布。3年生は、前期と同じ作家について研究するか、新たに作家を選定し、教員と相談しながら自分の研究テーマを決定する。その後、参考文献のリストを作成し、自分の発表の日までに文献を読みこなし、テーマに応じた発表を行う。文献は教員から推奨する場合もある。文献リストの提出は10月31日まで。11月中に文献を読みこなし、発表に備える。レジメの様式としては、A4で4ページをB4で2枚に縮小コピーして受講生全員に配布。また、パワーポイントで議論の要点や資料、参考となる写真等を提示する。

## 学修目標

- (1) グローバルな想像力とコミュニケーション能力を養う。
- (2) 実戦的な英語力を向上させる。
- (3) 批判的思考力とディスカッション能力を向上させる。
- (4) 構造化された文章表現力を養う。
- (5) キャリア・ビジョンを高める。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション(online)
- 第2回 テーマ決定(online)
- 第3回 調査法(online)
- 第4回 調査法(online)
- 第5回 テキスト輪読(online)
- 第6回 テキスト輪読(online)
- 第7回 テキスト輪読(online)
- 第8回 テキスト輪読(online)
- 第9回 テキスト輪読(online)
- 第10回 3年生発表(online)
- 第11回 3年生発表(online)
- 第12回 3年生発表(online)
- 第13回 4年生発表(online)
- 第14回 4年生発表(online)
- 第15回 4年生発表(online)
- レポート提出(online)

## 授業外学習 (予習・復習)

課題となった図書を精読し、分析してくる。研究課題について継続的に取り組む。

## 教科書

授業中に指示する。

## 参考書

授業中に指示する。

成績の評価基準

授業中の発表25%、小テスト25%、レポート50%。

オフィスアワ -

月曜の昼休み

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

ディスカッションにおいてアクティブ・ラーニングを行う。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回。

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
哲学演習 2 A (旧 西洋の人間と思想A演習2)			
英語名			
Western Philosophy 2A			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
柴田健志		7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
ゼミ生各人の研究を共同で検討し、討議する。			
学修目標			
自分の研究テーマにかんする文献の検討およびまとめが的確におこなえること。			
授業計画			
*遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において 通知する。			
第1回 ガイダンス 【リアルタイム型】			
第2回 発表および討論：4年生(1) 【リアルタイム型】			
第3回 発表および討論：4年生(2) 【リアルタイム型】			
第4回 発表および討論：4年生(3) 【リアルタイム型】			
第5回 発表および討論：4年生(4) 【リアルタイム型】			
第6回 発表および討論：4年生(5) 【リアルタイム型】			
第7回 反省会(1) 【リアルタイム型】			
第8回 発表および討論：3年生(1) 【リアルタイム型】			
第9回 発表および討論：3年生(2) 【リアルタイム型】			
第10回 発表および討論：3年生(3) 【リアルタイム型】			
第11回 発表および討論：3年生(4) 【リアルタイム型】			
第12回 発表および討論：3年生(5) 【リアルタイム型】			
第13回 反省会(2) 【リアルタイム型】			
第14回 まとめ(1) 【リアルタイム型】			
第15回 まとめ(2) 【リアルタイム型】			
授業外学習(予習・復習)			
予習：発表者はレジメを準備すること。			
復習：問題点の確認と再検討。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
発表レジメ(100%)。評価基準は(1)問題点が明確であること。(2)言語パフォーマンスが的確であること。			
オフィスアワー			
随時			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回のうち15回

備考 (受講要件)

ゼミの授業です。ゼミ生は必ず受講して下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

アジア歴史・文化演習 2 (旧 アジア史演習2)

## 英語名

Asian History &amp; Culture 2

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

3~4年

## 担当教員

大田由紀夫、福永善隆

## 連絡先 (TEL)

大田 (099-285-7560)、福永 (099-285-7561)

## 連絡先 (MAIL)

大田 (ota@leh.kagoshima-u.ac.jp)  
)、福永 (fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp)

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

テーマ：研究発表 2

この授業は、卒業論文作成の準備を目的とした演習であり、前期の「研究発表 1」の継続授業である。参加者は、前期の発表を踏まえて自分の研究テーマを掘り下げた上で研究発表をし、参加者全員による討論を行う。

## 学修目標

卒業論文作成のための準備を目的とする。

## 授業計画

- 第 1 回 ガイダンス (オンライン遠隔授業)
- 第 2 回 予備 (事前) 報告 (オンライン遠隔授業)
- 第 3 回 4 年生の卒論構想発表 (1) (オンライン遠隔授業)
- 第 4 回 4 年生の卒論構想発表 (2) (オンライン遠隔授業)
- 第 5 回 4 年生の卒論構想発表 (3) (オンライン遠隔授業)
- 第 6 回 4 年生の卒論構想発表 (4) (オンライン遠隔授業)
- 第 7 回 4 年生の卒論構想発表 (5) (オンライン遠隔授業)
- 第 8 回 4 年生の卒論構想発表 (6) (オンライン遠隔授業)
- 第 9 回 3 年生の研究発表 (1) (オンライン遠隔授業)
- 第 10 回 3 年生の研究発表 (2) (オンライン遠隔授業)
- 第 11 回 3 年生の研究発表 (3) (オンライン遠隔授業)
- 第 12 回 3 年生の研究発表 (4) (オンライン遠隔授業)
- 第 13 回 3 年生の研究発表 (5) (オンライン遠隔授業)
- 第 14 回 3 年生の研究発表 (6) (オンライン遠隔授業)
- 第 15 回 3 年生の研究発表 (7) (オンライン遠隔授業)

なお、今後の状況次第で授業回数や内容・形態は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知する。

## 授業外学習 (予習・復習)

演習での発表のため、自分の発表テーマに関する事前の文献調査・発表内容の検討などの十分な準備をしておくことが望ましい。

## 教科書

特になし。

## 参考書

特になし。

## 成績の評価基準

演習における発表内容、受講態度、質疑応答およびレポートから総合評価する。

## オフィスアワー

授業・会議以外であればいつでも可。

## アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

## 備考 (受講要件)

福永・大田 (由) ゼミの所属学生に限る。福永・大田 (由) ゼミに所属して卒業論文を書こうとする3、4年生は必ず受講すること。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されます。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会言語学演習 2 (旧 社会言語学演習)			
英語名			
Sociolinguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田一郎			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>学生個人の研究指導および研究成果（進捗状況を含む）の発表を行い，卒業論文作成の指導をおこなう。授業は学生の研究発表と討論を中心に進める。</p> <p>全15回の授業をすべて遠隔（zoomによるリアルタイム配信）で行う。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマを自分で発見，設定できるようになる</li> <li>2. 研究のための調査・分析の手法を身につける</li> <li>3. 先行研究を批判的にとらえ，多角的に問題を考察する力を養う</li> <li>4. 研究成果を論文にまとめ，成果を発表するための方法を身につける</li> </ol>			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 研究発表と討論 第3回 研究発表と討論 第4回 研究発表と討論 第5回 研究発表と討論 第6回 研究発表と討論 第7回 研究発表と討論 第8回 中間での講評 第9回 研究発表と討論 第10回 研究発表と討論 第11回 研究発表と討論 第12回 研究発表と討論 第13回 研究発表と討論 第14回 研究発表と討論 第15回 授業のまとめと講評			
授業外学習（予習・復習）			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 面談により研究テーマ，問題点の絞り込みをおこなうため，下調べを十分におこなうこと</li> <li>2. 発表後は質疑等への回答を付してレポートを提出すること</li> </ol>			
教科書			
指定しない			
参考書			
適宜指示する			
成績の評価基準			
研究発表（70%）+ 発表後のレポート（30%）			
オフィスアワ -			
月曜 5 限			
アクティブ・ラーニング			

ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

個人の研究テーマによる研究活動

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中13回

備考 (受講要件)

太田一郎ゼミ生のみ

授業形態についてはコロナウイルス感染症の影響, その他の理由により変更することがある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
現代文化論演習 2 (旧 現代文化論演習)			
英語名			
Culture In Modern Society 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
櫻井芳生		0992857544	yoshiosakuraig@gmail.com
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
メディア・風評・美辞麗句にだまされない「批判的知性」を身につける。 授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある			
学修目標			
メディア・風評・美辞麗句にだまされない「批判的知性」を身につける。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	文献の探し方		
第3回	文献の批判		
第4回	下級生による発表		
第5回	履修生によるコメント		
第6回	コメントへのリプライ		
第7回	上級生による発表		
第8回	履修生によるコメントその2		
第9回	コメントへのリプライその2		
第10回	下級生による発表 その2		
第11回	履修生によるコメントその3		
第12回	コメントへのリプライその3		
第13回	全体討議その1		
第14回	全体討議その2		
第15回	総評		
授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある			
授業外学習 (予習・復習)			
期末に対応提出文を提出してもらうので、毎回の議論をよく復習しておくこと			
教科書			
とくになし			
参考書			
駿台文庫『論文ってどんなもんだい』。拙著『就活ぶっちゃけ成功ゼミ』(光文社)。桜井のHPの各文章			
成績の評価基準			
期末提出物(30%)、平常点(発表40%、発言30%)。黙って休む人には単位を認定しない。			
オフィスアワ -			
予約による			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			

備考 (受講要件)

黙って休む人には単位を認定しない。

実務経験のある教員による実践的授業

ドイツ言語・文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A4)  
ナンバリングコード

科目名

ドイツ言語・文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A4)

英語名

German Language & Culture 2

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3~4年

担当教員

與倉アンドレーア

連絡先 (TEL)

099-285-7578

連絡先 (MAIL)

yokura@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

ヨーロッパ言語文化演習A4(前期)の続きとして開講する。学生の興味に応じてテーマを定め、それに基づき文献検索をする。外国語の文献の場合は、文献の読み方などを学習する。4年次の卒業論文に向けて、論文の書き方なども学習し、適宜レポート作成を行う。

学修目標

文献検索の仕方、文献、特に外国語の文献の読み方、論文の書き方等を習得すること。

授業計画

第1回 ゼミの進め方など概要の説明  
第2回 第14回 発表および討論  
第15回 まとめ

授業外学習 (予習・復習)

予習・復習については第一回の授業で指示する。また、適宜指示する。

教科書

適宜参考文献やプリントの配布。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

成績の評価基準

発表とレポートに基づき総合的に評価する。

オフィスアワー

月曜日 2限(10:30 - 12:00)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

西洋歴史・文化演習 2 A (旧 西洋の歴史と社会演習A2)  
ナンバリングコード

FHS-DIH2235

科目名

西洋歴史・文化演習 2 A (旧 西洋の歴史と社会演習A2)

英語名

Western History & Culture 2A

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

細川道久

hos leh.kagoshima-u.ac.jp は  
アットマーク

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

卒業論文を作成するための実践的な授業です。テーマ設定、文献検索、レジюме作成、報告、討論、レポート作成を進めながら、実際の卒業論文執筆に必要な能力を養います。

学修目標

1. 卒業論文作成に必要な研究能力を養う。
2. 卒業論文作成を通して、歴史学研究への理解を深める。

授業計画

- 第1回 ガイダンス (課題提出型)  
 第2回 卒論とは何か (課題提出型・リアルタイム型 (試行))  
 第3回 卒論テーマの選び方 (課題提出型・リアルタイム型)  
 第4回 参考文献の探し方 (課題提出型・リアルタイム型)  
 第5回 文献の読み方 (課題提出型・リアルタイム型)  
 第6回 報告の仕方 (課題提出型・リアルタイム型)  
 第7回 個々のテーマに応じた助言指導 (1) (課題提出型・リアルタイム型)  
 第8回 個々のテーマに応じた助言指導 (2) (課題提出型・リアルタイム型)  
 第9回 個々のテーマに応じた助言指導 (3) (課題提出型・リアルタイム型)  
 第10回 ディスカッションの仕方 (課題提出型・リアルタイム型)  
 第11回 報告とディスカッション (1) (課題提出型・リアルタイム型)  
 第12回 報告とディスカッション (2) (課題提出型・リアルタイム型)  
 第13回 報告とディスカッション (3) (課題提出型・リアルタイム型)  
 第14回 論文執筆の作法 (課題提出型・リアルタイム型)  
 第15回 総括 (課題提出型・リアルタイム型)

今後の状況次第で授業回数や内容を変更する可能性がある。また、同様に、リアルタイム型は中止する可能性がある。教室での通常授業に戻る可能性もある。

授業外学習 (予習・復習)

卒論作成に向けて、予習、復習は必須です。

教科書

なし。

参考書

特になし。

成績の評価基準

授業への取り組み態度 (課題の準備、討論への参加度)。

オフィスアワ -

金曜10時~11時

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

受講はゼミ所属生に限ります(ゼミ生は必ず受講してください)。平成28年度以前の入学生については、「西洋の歴史と社会演習A2」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

ドイツ言語・文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A4)  
ナンバリングコード

FHS-DIH3104

科目名

ドイツ言語・文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A4)

英語名

German Language & Culture 2

開講学科

人文学科

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3~4年

担当教員

與倉アンドレーア

連絡先 (TEL)

099-285-7578

連絡先 (MAIL)

yokura@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

学生の興味に応じてテーマを定め、それに基づき文献検索をする。外国語の文献の場合は、文献の読み方などを学習する。4年次の卒業論文に向けて、論文の書き方なども学習し、適宜レポート作成を行う。

学修目標

文献検索の仕方、文献、特に外国語の文献の読み方、論文の書き方等を習得すること。

授業計画

第1回 ゼミの進め方など概要の説明  
第2回 第14回 発表および討論  
第15回 まとめ

\*新型コロナウイルス感染拡大の影響で、授業日程の変更や遠隔授業の導入がなされました。今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

授業外学習 (予習・復習)

予習・復習については第一回の授業で指示する。また、適宜指示する。

教科書

適宜参考文献やプリントの配布。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

成績の評価基準

発表とレポートに基づき総合的に評価する。

オフィスアワー

月曜日 3限(12:50 - 14:20)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回中15回

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH2133			
科目名			
哲学演習 2 B (旧 西洋の人間と思想A演習2)			
英語名			
Western Philosophy 2B			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
近藤和敬		099-285-8910	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
参加者の研究発表内容について議論する。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の関心にそった文献を選べるようになる。</li> <li>・読んだものを適切にまとめられるようになる。</li> <li>・ほかの人の発表にたいして適切にコメントが言えるようになる。</li> <li>・引用の仕方などを理解する。</li> <li>・参考文献表の作り方を覚える。</li> </ul>			
授業計画			
ゼミ生の研究発表のための授業です。			
1回目：ガイダンス			
2回目～15回目：ゼミ生の発表			
授業は主にZOOMを使ったりリアルタイム型の授業を予定しています。			
また、状況によっては授業形態を変更する可能性があります。			
授業外学習 (予習・復習)			
発表者は、授業外時間に本を読み、まとめてくる必要があります。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
発表の内容に応じて評価します。			
オフィスアワ -			
授業のあとなど随時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
ゼミ生に限ります。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DFH2127			
科目名			
社会言語学演習 2 (旧 社会言語学演習)			
英語名			
Sociolinguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
太田一郎			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学生個人の研究指導および研究成果（進捗状況を含む）の発表を行い，卒業論文作成の指導をおこなう。授業は学生の研究発表と討論を中心に進める。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマを自分で発見，設定できるようになる</li> <li>2. 研究のための調査・分析の手法を身につける</li> <li>3. 先行研究を批判的にとらえ，多角的に問題を考察する力を養う</li> <li>4. 研究成果を論文にまとめ，成果を発表するための方法を身につける</li> </ol>			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 研究発表と討論 第3回 研究発表と討論 第4回 研究発表と討論 第5回 研究発表と討論 第6回 研究発表と討論 第7回 研究発表と討論 第8回 中間での講評 第9回 研究発表と討論 第10回 研究発表と討論 第11回 研究発表と討論 第12回 研究発表と討論 第13回 研究発表と討論 第14回 研究発表と討論 第15回 授業のまとめと講評			
すべてオンライン授業で行う			
授業外学習（予習・復習）			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 面談により研究テーマ，問題点の絞り込みをおこなうため，下調べを十分におこなうこと</li> <li>2. 発表後は質疑等への回答を付してレポートを提出すること</li> </ol>			
教科書			
指定しない			
参考書			
適宜指示する			
成績の評価基準			
研究発表（70%）+ 発表後のレポート（30%）			
オフィスアワ -			
月曜 5 限			

アクティブ・ラーニング

ディベート; フィールドワーク; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

個人の研究テーマによる研究活動

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中13回

備考 (受講要件)

太田一郎ゼミ生のみ

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DIH2138

## 科目名

イギリス文学演習 2 (旧 イギリス演劇論演習)

## 英語名

English Literature 2

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大和高行		099-285-7570	yamato@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	

## 授業概要

本授業では卒業論文執筆に向けた指導を行う。各人のテーマに沿った参考文献を収集したり、ゼミでの中間発表、最終発表に向けた論文の執筆を行う。

## 学修目標

- 1 卒業論文のテーマにかかわる専攻研究論文を集め、自分の言葉でまとめなおすことができる。
- 2 卒業論文にふさわしいロジックを持った説得的な論文を書くことができる。

## 授業計画

第1回	ガイダンス (授業の目的、授業の進め方、評価基準等についての説明) (課題提出型)
第2回	良い論文についての説明 (課題提出型)
第3回	参考文献の渉猟、卒業論文の執筆 1 (オンデマンド型)
第4回	参考文献の渉猟、卒業論文の執筆 2 (オンデマンド型)
第5回	卒論中間発表 アクティブラーニング 1 (プレゼンテーションとディベート) (オンデマンド型)
第6回	卒論中間発表 アクティブラーニング 2 (プレゼンテーションとディベート) (オンデマンド型)
第8回	卒論中間発表 アクティブラーニング 3 (プレゼンテーションとディベート) (オンデマンド型)
第9回	ディベートでの指摘を受けての卒業論文の執筆 1 (オンデマンド型)
第10回	ディベートでの指摘を受けての卒業論文の執筆 2 (オンデマンド型)
第11回	ディベートでの指摘を受けての卒業論文の執筆 3 (オンデマンド型)
第12回	卒論中間発表 アクティブラーニング 4 (プレゼンテーションとディベート) (オンデマンド型)
第13回	卒論中間発表 アクティブラーニング 5 (プレゼンテーションとディベート) (オンデマンド型)
第14回	卒論中間発表 アクティブラーニング 6 (プレゼンテーションとディベート) (オンデマンド型)
第15回	まとめと総合的評価。レポートを課し、最後にまとめの授業を行う。(オンデマンド型)

\* オンデマンド型講義は、リアルタイム型や教室での通常講義に変更になる可能性がある。

## 授業外学習 (予習・復習)

各自で用意した教科書や指導教員から指示された参考書などに予め目を通し、予習しておくこと。また、毎回の授業を受けた後や添削済みの卒論草稿レポートが返却された時など、指導教員から指摘された点を中心に、復習しておくこと。

## 教科書

各自で用意する。

## 参考書

各人ごとに必要なものを図書館やインターネット等で集める。

## 成績の評価基準

ディベート(50%)とプレゼンテーション(50%)の出来具合で評価する。

## オフィスアワー

曜日・時間：毎週水曜日9:15~10:15、場所：大和研究室

## アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中 15回

備考 (受講要件)

ゼミ生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当せず。

ナンバリングコード			
FHS-DFH3501			
科目名			
現代文化論演習 2 (現代文化論演習)			
英語名			
Culture In Modern Society 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
櫻井芳生		099-285-7544	yoshiosakuraig@gmail.com
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
各自の自由研究発表を中心とする。どんなテーマを選んでもけっこうです。やり方は各人の境遇におうじて、くわしく説明します。就職や進学に関心の強い人も歓迎します。 授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある			
学修目標			
メディア・風評・美辞麗句にだまされない「批判的知性」を身につける。			
授業計画			
*遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。			
授業計画：			
第1回	ガイダンス		
第2回	文献の探し方		
第3回	文献の批判		
第4回	下級生による発表		
第5回	履修生によるコメント		
第6回	コメントへのリプライ		
第7回	上級生による発表		
第8回	履修生によるコメントその2		
第9回	コメントへのリプライその2		
第10回	下級生による発表 その2		
第11回	履修生によるコメントその3		
第12回	コメントへのリプライその3		
第13回	全体討議その1		
第14回	全体討議その2		
第15回	総評		
授業の回数・内容・形態などは変更となる可能性がある			
授業外学習 (予習・復習)			
期末に対応提出文を提出してもらうので、毎回の議論をよく復習しておくこと			
教科書			
参考書			
駿台文庫『論文ってどんなもんだい』。拙著『就活ぶっちゃけ成功ゼミ』(光文社)。桜井のHPの各文章。 <a href="http://homepage3.nifty.com/sakuraiyoshio/">http://homepage3.nifty.com/sakuraiyoshio/</a>			
成績の評価基準			
期末提出物(30%)、平常点(発表40%、発言30%)。黙って休む人には単位を認定しない。			
オフィスアワ -			
木曜午後5時40分より、桜井研究室もしくは本授業の教室。メールで予約ください。			
アクティブ・ラーニング			

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

関心をひく教員の授業に参加して、ガシガシ「個人指導」を受けましょう。そうしないと「間にあいません!!」。本授業はやる気のある人なら、誰でも参加できます。他学部生、理系学生も歓迎。非履修者の「飛び入り・野次馬」も歓迎する。桜井に論文指導うけるつもりの方は【每期必ず】出席してください。就活・進学・メイトサーチング・留学・トピックなどについてもふれるかも。繰り返しの履修も可。同時開講の社会調査もいっしょに受講できると好都合です(むりはしなくてOK)。

履修人数が多く、コマ内で、全員が発表出来ない場合には、期末の週末などに、補講時間をとり発表をする場合があるのであらかじめ覚悟しておいてください。理由なく欠席遅刻するひとは単位認定できません。

別に、『就活ゼミ』メーリングリストもしていますので、こちらもぜひどうぞ!!(無料。所属学年など不問)

。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DIH3104

## 科目名

書籍文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A2)

## 英語名

Book Culture 2

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

3~4年

## 担当教員

竹岡健一

## 連絡先 (TEL)

099-285-7577

## 連絡先 (MAIL)

takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

## 授業の概要

この授業では、書籍の歴史に関する文献の講読と討論を行い、書籍研究における問題の立て方や論の進め方などを理解する。また、そこで得られた問題意識に基づいて、学習者自らが書籍文化に関するテーマを設定してレポートの作成と報告を行う。これらを通じて、「書籍文化演習1」で学習する知見や能力をさらにレベルアップする。

## 学修目標

## 授業の到達目標及びテーマ

この授業は、書籍文化をテーマとして、学習者が次の3つの能力を身につけることを到達目標とする。また、いずれの点でも、「書籍文化演習1」におけるよりもより専門的かつ高度なレベルに達することを旨とする。

1. 書籍文化に対する視点や問題意識を身につける。
2. 先行文献の批判的な読解力を身につける。
3. レポートの作成や報告、および討論のスキルを身につける。

## 授業計画

## 授業計画

- 第1回：オリエンテーション  
 第2回：書籍文化に関する文献講読(1)  
 第3回：書籍文化に関する文献講読(2)  
 第4回：書籍文化に関する文献講読(3)  
 第5回：書籍文化に関する文献講読(4)  
 第6回：書籍文化に関する文献講読(5)  
 第7回：書籍文化に関する文献講読(6)  
 第8回：書籍文化に関する文献講読(7)  
 第9回：書籍文化に関する文献講読(8)  
 第10回：レポートの作成方法(1) テーマの設定  
 第11回：レポートの作成方法(2) 文献調査  
 第12回：レポートの作成方法(3) 全体の構成  
 第13回：レポートの作成方法(4) 引用と注  
 第14回：レポートの作成方法(5) レイアウト  
 第15回：授業のまとめとふりかえり  
 定期試験(レポート提出)

- ・授業は主に「課題提出型」で行うが、「オンデマンド型」、「リアルタイム型」、および「教室での通常授業」に変更になる可能性がある。
- ・また、今後の状況次第で、授業回数や内容が変更になる可能性もある。

## 授業外学習(予習・復習)

予習： テキストの次の授業で扱われる範囲を講読し、質問等を考える。1時間程度。

復習： 授業の内容を再確認し、興味を持った点や理解が不十分な点について自分なりの調査を行う。30分程度

。
教科書
教科書は使用せず、授業中にプリントを配布する。
参考書
授業中に適宜紹介する。
成績の評価基準
学生に対する評価 テキストの予習、討論への参加、レポートの作成と報告などにより総合的に評価する。
オフィスアワー
特に時間は設けない。質問等があれば、随時申し出ること。
アクティブ・ラーニング
ディベート;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
アクティブ・ラーニング (授業回数)
備考 (受講要件)
ゼミ所属生に限る。 平成28年度以前入学生は「ヨーロッパ言語文化演習A2」に読み替え。
実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2230			
科目名			
地理学演習 2 b (旧 地理学演習III)			
英語名			
Geography 2b			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
吉田明弘		099-285-7543	aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
受講者が地理学に関する内外の研究論文を収集・整理し、主要論文を読んで発表し、その内容について討議する。これによって、受講者は自分に興味のあるテーマに関する研究の傾向を把握することができる。自分がどのようなテーマで卒業論文をまとめるかを判断する上で、重要な作業である。			
学修目標			
1) 研究とはいかなるものなのかを理解できる。			
授業計画			
第1回	オリエンテーション (遠隔オンライン授業)		
第2回	事前講習 地理学の研究論文 (遠隔オンライン授業)		
第3回	講読論文の選定 (遠隔オンライン授業)		
第4回	地形に関する地理学の文献講読・発表と討論 (遠隔オンライン授業)		
第5回	気候に関する地理学の文献講読・発表と討論 (遠隔オンライン授業)		
第6回	植生に関する地理学の文献講読・発表と討論 (遠隔オンライン授業)		
第7回	災害に関する地理学の文献講読・発表と討論 (遠隔オンライン授業)		
第8回	人口に関する地理学の文献講読・発表と討論 (遠隔オンライン授業)		
第9回	都市に関する地理学の文献講読・発表と討論 (遠隔オンライン授業)		
第10回	村落に関する地理学の文献講読・発表と討論 (遠隔オンライン授業)		
第11回	農業に関する地理学の文献講読・発表と討論 (遠隔オンライン授業)		
第12回	漁業に関する地理学の文献講読・発表と討論 (遠隔オンライン授業)		
第13回	交通に関する地理学の文献講読・発表と討論 (遠隔オンライン授業)		
第14回	観光に関する地理学の文献講読・発表と討論 (遠隔オンライン授業)		
第15回	まとめ (遠隔オンライン授業)		
授業外学習 (予習・復習)			
予習：発表者は事前に発表論文を探し、発表内容をまとめること。他の受講生は発表者より事前に渡された論文コピーを読み、討論内容をまとめておくこと。復習：発表・討論内容にかかわる問題を他の文献やインターネットで調べること。			
教科書			
なし			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度			
オフィスアワー			
演習終了後、フィールド学実験室にて対応。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2230			
科目名			
地理学演習 2 a (旧 地理学演習II)			
英語名			
Geography 2a			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
小林善仁		099-285-7557	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		後期	
授業概要			
受講者が地理学に関する内外の研究論文を収集・整理し、主要論文を読んで発表し、その内容について討議する。これによって、受講者は自分に興味のあるテーマに関する研究の傾向を把握することができる。自分がどのようなテーマで卒業論文をまとめるかを判断する上で、重要な作業である。			
学修目標			
地理学の研究対象・資料と分析視角・方法を理解できる。			
授業計画			
遠隔形式(リアルタイム型)で行う予定であるが、状況によって対面形式に変更する可能性がある。その際は、manabaのコースニュースと授業内で通知する。			
第1回	オリエンテーション (リアルタイム(オンライン)型)		
第2回	事前講習 地理学の研究論文(リアルタイム(オンライン)型)		
第3回	講読論文の選定(課題提出型)		
第4回	地形に関する地理学の文献講読・発表と討論(リアルタイム(オンライン)型)		
第5回	気候に関する地理学の文献講読・発表と討論(リアルタイム(オンライン)型)		
第6回	植生に関する地理学の文献講読・発表と討論(リアルタイム(オンライン)型)		
第7回	災害に関する地理学の文献講読・発表と討論(リアルタイム(オンライン)型)		
第8回	人口に関する地理学の文献講読・発表と討論(リアルタイム(オンライン)型)		
第9回	都市に関する地理学の文献講読・発表と討論(リアルタイム(オンライン)型)		
第10回	村落に関する地理学の文献講読・発表と討論(リアルタイム(オンライン)型)		
第11回	農業に関する地理学の文献講読・発表と討論(リアルタイム(オンライン)型)		
第12回	漁業に関する地理学の文献講読・発表と討論(リアルタイム(オンライン)型)		
第13回	交通に関する地理学の文献講読・発表と討論(リアルタイム(オンライン)型)		
第14回	観光に関する地理学の文献講読・発表と討論(リアルタイム(オンライン)型)		
第15回	まとめ(課題提出型)		
今後の状況次第で、授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
授業外学習(予習・復習)			
予習：発表者は事前に発表論文を探し、発表内容をまとめること。他の受講生は発表者より事前に渡された論文コピーを読み、討論内容をまとめておくこと。復習：発表・討論内容にかかわる問題を他の文献やインターネットで調べること。			
教科書			
なし			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
各回の発表・意見など授業への取り組み態度(100%)			
オフィスアワ -			

演習終了後、フィールド学実験室にて対応。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

「地理学実習」と深く関連している。受講者は必ず「地理学実習」を受講すること。

実務経験のある教員による実践的授業

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A3)  
ナンバリングコード

FHS-DIH3104

科目名

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A3)

英語名

Modern Cultural History of Europe & America 2

開講学科

コース

人文学科

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

梁川英俊

099-285-8891

yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

この授業では、基本文献の講読と受講生が自らの関心に基づいて選んだテーマによる報告や討論を通じて、ヨーロッパ・アメリカ文化を研究する上での基本的な姿勢や方法について学び、併せてより良い卒業論文の作成に向けた準備をします。

学修目標

1. ヨーロッパ・アメリカ文化に関する基本的な知識を習得する。
2. 自らの関心に合わせたテーマ設定と文献等の調査ができる。
3. 自分の知識や思考を適切な言葉で伝えることができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション (課題提出型授業)  
 第2回~第11回 基本文献の講読および助言指導 (課題提出型授業)  
 第12回~第14回 報告および討論 (課題提出型授業)  
 第15回 まとめ (課題提出型授業)

なお、今後の状況によっては、授業回数や授業内容の見直しもあり得ます。

授業外学習 (予習・復習)

報告に際しては、必ず事前の予習をし (1時間)、また報告後はプレゼンの手直しを行ってください (1時間)。

教科書

指定しません。

参考書

必要に応じて、適宜紹介します。

成績の評価基準

課題提出 (100%)

オフィスアワ -

特に設けません。事情に応じて対応します。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

毎回

備考 (受講要件)

受講生はゼミ所属生に限ります。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
報道論演習 2 (旧 マスコミ論演習)			
英語名			
Journalism Studies 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
宮下正昭	090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
4年生が取り組む卒論の中身を3年生を交えて協議する。 3年生それぞれの卒論テーマについても協議しながら詰める。			
学修目標			
社会の動きを日々、追いながら、社会に対する自らの関心を探り、研究課題を見つける。			
授業計画			
第1 - 5回	4年生の卒論内容について全員で協議する (対面授業を目指す)		
第6 - 14回	3年生の卒論テーマを絞り込む (遠隔授業主体だが、状況次第で個別面談も)		
第15回	4年生の卒論発表会		
授業外学習 (予習・復習)			
日々のニュースを常にチェック。新聞各紙、テレビ各局の論調の違いを確認する			
教科書			
特に指定しない。興味があれば以下の参考書を読むこと。			
参考書			
『ドキュメント新聞記者』読売新聞大阪社会部著 (角川文庫) 『隠された風景』福岡賢正著 (南方新社)			
『河北新報のいちばん長い日』河北新報社著 (文芸春秋) 『ホットスポット』NHK ETV特集取材班 (講談社)			
『事実が私を鍛える』斎藤茂男著 (太郎次郎社) 『夢追い人よ』斎藤茂男著 (築地書館)			
『間に消えた怪人』一橋文哉著 (新潮社) 『不当逮捕』本田靖春著 (講談社)			
成績の評価基準			
毎回の授業態様などを総合評価			
オフィスアワー			
金曜午後			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
1回から5回目、さらに最終講義は状況次第だが、対面授業とする。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ポピュラーカルチャー論演習2 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)  
ナンバリングコード

FHS-DFH2530

科目名

ポピュラーカルチャー論演習2 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)

英語名

Popular Culture 2

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田純貴		099-285-7576	yota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

【後期のポピュラーカルチャー論演習2と合わせて】  
ゼミ生のみ受講可。卒論執筆を見据えた演習で、ゼミ生の発表により授業を進める。文章と視覚資料の両方を準備・配布したうえでの、口頭によるプレゼンテーションが基本となる。ゼミ生は自身の興味関心に従って資料を収集し自身の意見を体系化し、自身の主張を述べる事が求められる。

学修目標

1. 卒業論文執筆に関わる、形式の重要性を理解し修得できるようにする
2. オーラルと文章両方のレベルで、自身の主張を明確にできるようにする。
3. 自らの主張を他者へと明確に伝達できるようになる。
4. 卒論に必要な資料に目配りができるようになる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス (リアルタイム型)
- 第2回 発表のための諸導入 (リアルタイム型)
- 第3回 学生による発表 (1) (リアルタイム型)
- 第4回 学生による発表 (2) (リアルタイム型)
- 第5回 中間総括 (リアルタイム型)
- 第6回 学生による発表 (3) (リアルタイム型)
- 第7回 学生による発表 (4) (リアルタイム型)
- 第8回 学生による発表 (5) (リアルタイム型)
- 第9回 学生による発表 (6) (リアルタイム型)
- 第10回 学生による発表 (7) (リアルタイム型)
- 第11回 学生による発表 (8) (リアルタイム型)
- 第12回 学生による発表 (9) (リアルタイム型)
- 第13回 学生による発表 (10) (リアルタイム型)
- 第14回 学生による発表・卒論計画立案 (課題提出型)
- 第15回 総括 (リアルタイム型)

リアルタイム型の授業は、課題提出型・オンデマンド型に変更される可能性がある。  
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

授業外学習 (予習・復習)

自身の卒業論文に必要な資料を継続的に収集し、整理しておくこと。また、自身の主張したい意見や論点について簡潔に述べる事ができるように、考えを巡らせておくこと。

教科書

授業中に指示する。

参考書

授業中に指示する。

成績の評価基準

ポピュラーカルチャー論演習2 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)

出席、プレゼンテーション資料の作成など、複数の観点から総合的に評価を行う。

オフィスアワ -

追って指示する (ガイダンス時に指示する予定)

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

1. ゼミ生のみ受講可。
2. 発表の順番は、受講生との協議の上で決定する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
中国言語文化演習 2			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中筋健吉		099-285-8893	k9553471@kada i . jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>後漢・張衡「歸田賦」を読んでみる。</p> <p>張衡(78-139)は後漢の政治家であり、天文学者、また文人としても有名で、長安・洛陽を描いた「二京賦」は前後漢を通じても代表的な作品である。</p> <p>本授業では梁・昭明太子撰『文選』巻十五に収録されている「歸田賦」を唐・李善の注釈に基づいて講読していく。当該作品は新元号「令和」の出典とされる、大伴旅人「梅花歌三十二首序」(『万葉集』巻五)に基づいたであろう作品であり、後漢期の宦官勢力が政治を専横する状況の中で、官を辞して帰郷せんとする思いを述べたものである。</p>			
学修目標			
作品および関連する文章の講読、またそれらを通じて中国古典文学や注釈の読解方法、および各種文献の取り扱い方を学ぶ。			
授業計画			
各担当者は割り振られた部分について読解発表を行なう。事前に配布するテキストプリントにもとづいて、原文、書き下し、出典、語釈等をレジュメにまとめ、担当当日に受講者全員に配布すること。 受講者数またその他の事情により、授業計画を変更する場合がある。			
第1回 ガイダンス 第2回 張衡伝記講読(『後漢書』巻59張衡傳) 第3回 張衡伝記講読(『後漢書』巻59張衡傳) 第4回 『文選』について 第5回 発表と討論(1) 第6回 発表と討論(2) 第7回 発表と討論(3) 第8回 発表と討論(4) 第9回 発表と討論(5) 第10回 発表と討論(6) 第11回 発表と討論(7) 第12回 発表と討論(8) 第13回 発表と討論(9) 第14回 発表と討論(10) 第15回 まとめと討論			
授業外学習(予習・復習)			
予習: 毎回の授業で講読する部分を、事前に辞書等を検索し、自らも読解して出席すること。 復習: 授業にもとづいて、自分の読解を再検討すること。			
教科書			
事前にテキストプリントを配布する。manabaにもUP予定。			

## 参考書

梁・昭明太子撰『文選』の日本語訳注本(集英社版、明治書院版あり)を参照のこと。

## 成績の評価基準

発表および成果物(担当部分のレジュメ)、ミニッツ・ペーパー等により総合的に評価する。

## オフィスアワ -

特に設けていませんが、事前に連絡をいただければ対応します。アポ無しの来室には対応できない場合があります。

## アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中10回(予定)

## 備考(受講要件)

平成28年度以前の入学生については「中国言語文化論演習」に読み替える 本シラバスはあくまで計画であるので、受講者数その他の状況によって、適宜変更の可能性もある。変更の際は 通知する。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DHH2233

## 科目名

アジア歴史・文化演習2 (旧 アジア史演習2)

## 英語名

Asian History &amp; Culture 2

## 開講学科

人文学科

## コース

多元地域文化コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

3~4年

## 担当教員

大田由紀夫、福永善隆

## 連絡先 (TEL)

大田 (099-285-7560)、福永 (099-285-7561)

## 連絡先 (MAIL)

大田 (ota@leh.kagoshima-u.ac.jp)  
)、福永 (fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp)

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

テーマ：研究発表1 (オンライン遠隔授業)

この授業は、卒業論文作成を目的とした演習である。演習参加者は、自分の研究テーマを決めて研究発表し、その報告をめぐり参加者全員による討論を行う。

## 学修目標

卒業論文作成のための準備を目的とする。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 予備(事前)報告
- 第3回 卒論作成レクチャー(1)
- 第4回 卒論作成レクチャー(2)
- 第5回 4年生の卒論構想発表(1)
- 第6回 4年生の卒論構想発表(2)
- 第7回 4年生の卒論構想発表(3)
- 第8回 4年生の卒論構想発表(4)
- 第9回 4年生の卒論構想発表(5)
- 第10回 3年生の研究発表(1)
- 第11回 3年生の研究発表(2)
- 第12回 3年生の研究発表(3)
- 第13回 3年生の研究発表(4)
- 第14回 3年生の研究発表(5)
- 第15回 まとめ

なお、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。その場合は、manaba上のコースニュース等を通じて通知する。

## 授業外学習(予習・復習)

演習での発表のため、自分の発表テーマに関する事前の文献調査・発表内容の検討などの十分な準備をしておくことが望ましい。

## 教科書

特になし。

## 参考書

特になし。

## 成績の評価基準

演習における発表内容、受講態度、質疑応答およびレポートなどから総合評価する。

## オフィスアワー

授業・会議以外であればいつでも可。

## アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

## 備考 (受講要件)

福永・大田 (由) ゼミ所属学生に限る。福永・大田 (由) ゼミに所属して卒業論文を書こうとする3、4年生は必ず受講すること。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されます。

実務経験のある教員による実践的授業

西洋歴史・文化演習 2 B (旧 西洋の歴史と社会演習B2)  
ナンバリングコード

FHS-DIH2236

科目名

西洋歴史・文化演習 2 B (旧 西洋の歴史と社会演習B2)

英語名

Western History & Culture 2B

開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
藤内哲也			ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	

授業概要

本演習では、ヨーロッパの歴史世界に関するテキストを講読し、研究の視点や手法についての理解を深めます。また、卒業論文の作成に向けて、各自で研究テーマを設定し、レジュメやパワーポイントを使って発表します。それぞれの発表後には、全体でディスカッションを行います。

学修目標

1. ヨーロッパの歴史世界に関する知見や研究の視座を獲得します
2. 「人文学基礎 1、2」や「コース基礎演習 1、2」で培った技能をもとに、ヨーロッパの歴史世界を研究するうえで必要な情報分析力、批判的思考力、自己表現力などを身につけます
3. 卒業論文の作成に向けて、各自のテーマについての知見や理解を深めます

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定・テキストの決定
- 第3回 テキスト講読(1)
- 第4回 テキスト講読(2)
- 第5回 テキスト講読(3)
- 第6回 テキスト講読(4)
- 第7回 テキスト講読(5)
- 第8回 テキスト講読(6)
- 第9回 テキスト講読(7)
- 第10回 個人発表(1)
- 第11回 個人発表(2)
- 第12回 個人発表(3)
- 第13回 個人発表(4)
- 第14回 個人発表(5)
- 第15回 まとめと課題

授業外学習 (予習・復習)

- 【予習】テキストをあらかじめ講読し、疑問点などをまとめます。個人発表に際しては、資料を広く読み、レジュメを作成します。
- 【復習】個人発表において受けた質問やコメントをまとめ、今後の研究の展開過程について考えます。

教科書

指定しません

参考書

服部良久・南川高志・小山哲・金沢周作編『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会、2010年  
井上浩一『私もできる西洋史研究』和泉書院、2012年  
このほかの文献については、授業中に適宜紹介します

成績の評価基準

発表の準備・内容、プレゼンテーション、ディスカッションへの積極的な参加、レポートなどにより総合的に判断します

随時 (メールにてアポをとること)

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中12回

備考 (受講要件)

ゼミ所属生に限ります

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DIH2139

## 科目名

アメリカ文学演習2 (旧 アメリカ文学演習)

## 英語名

American Literature 2

## 開講学科

## コース

人文学科

多元地域文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

竹内勝徳

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

この演習では、19世紀アメリカの小説家ハーマン・メルヴィルの短編の中から代表的なものを選んで一緒に精読する。併せてそれについての批評にも目を通す。担当あり。

## 学修目標

- 1) 文学的な英語を読み解く力をつける。
- 2) 創作の経緯、ソース、主題、他の作品との関連などを明らかにする。
- 3) メルヴィル文学の特質を理解する。

## 授業計画

第1回 ガイダンス (授業の進め方、ハーマン・メルヴィルと彼の文学についての説明) (オンデマンド)  
 第2回 "Bartleby" 精読 ニューヨークという場所 (オンデマンド)  
 第3回 "Bartleby" 精読 空関係性 (オンデマンド)  
 第4回 "Bartleby" 精読 キャラクター (オンデマンド)  
 第5回 "Bartleby" 精読 言語的特徴 (オンデマンド)  
 第6回 "Bartleby" 精読 政治的背景 (オンデマンド)  
 第7回 "Bartleby" 精読 批評的傾向 (オンデマンド)  
 第8回 "Bartleby" 精読 階級と労働 (オンデマンド)  
 第9回 "Bartleby" 精読 情動と良心 (オンデマンド)  
 第10回 "Bartleby" 精読 法言語と芸術 (オンデマンド)  
 第11回 "Bartleby" 精読 情動の感染 (オンデマンド)  
 第12回 "Bartleby" 精読 犯罪との関連性 (オンデマンド)  
 第13回 "Bartleby" 精読 メルヴィルの真意 (1) (オンデマンド)  
 第14回 "Bartleby" 精読 メルヴィルの真意 (2) (オンデマンド)  
 第15回 "Bartleby" 精読 メルヴィルの真意 (3) (オンデマンド)  
 最終レポート

## 授業外学習 (予習・復習)

授業時に報告をしてもらいますので、丹念に予習をしておくこと。また復習をしっかりしてもらうために小レポートを課すことがあります。

## 教科書

プリントを使用

## 参考書

授業時に紹介する

## 成績の評価基準

最終レポート (70%)、授業時の小レポート (30%)

## オフィスアワー

授業終了後

## アクティブ・ラーニング

## アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2235			
科目名			
文化人類学演習2			
英語名			
Cultural Anthropology 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
尾崎孝宏、兼城系絵		099-285-8878 (尾崎)	ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp (尾崎)
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
文化人類学の卒業論文ライティング=アップセミナー。各自のテーマに即し、資料収集・方法論・具体的な論述方法について指導を行う。 授業は全てテレビ会議システムを通じて実施する可能性があるので注意すること			
学修目標			
卒業論文論文作成に必要なスキルを体得する。			
授業計画			
第1回 授業ガイダンス			
第2回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第1クルーその1)			
第3回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第1クルーその2)			
第4回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第1クルーその3)			
第5回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第2クルーその1)			
第6回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第2クルーその2)			
第7回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第2クルーその3)			
第8回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第3クルーその1)			
第9回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第3クルーその2)			
第10回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第3クルーその3)			
第11回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第4クルーその1)			
第12回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第4クルーその2)			
第13回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第4クルーその3)			
第14回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (来年度へ向けた準備作業)			
第15回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (含: 春休みの課題)			
授業外学習 (予習・復習)			
卒論に関わる現地調査、文献整理、文献リストの作成などが要求される。			
教科書			
指定しない。			
参考書			
各自の研究テーマに応じて紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (60%)、研究成果の質 (40%)			
オフィスアワー			
金曜日昼休み、研究室 (尾崎)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

15回中14回

備考（受講要件）

尾崎ゼミ・兼城ゼミ所属の学生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード			
FHS-DGH2235			
科目名			
文化人類学演習2			
英語名			
Cultural Anthropology 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
尾崎孝宏、兼城系絵		099-285-8878 (尾崎)	ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp (尾崎)
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
文化人類学の卒業論文ライティング=アップセミナー。各自のテーマに即し、資料収集・方法論・具体的な論述方法について指導を行う。 授業は全てテレビ会議システムを通じて実施する			
学修目標			
卒業論文論文作成に必要なスキルを体得する。			
授業計画			
第1回 授業ガイダンス (オンライン型)			
第2回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第1クルーその1) (オンライン型)			
第3回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第1クルーその2) (オンライン型)			
第4回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第1クルーその3) (オンライン型)			
第5回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第2クルーその1) (オンライン型)			
第6回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第2クルーその2) (オンライン型)			
第7回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第2クルーその3) (オンライン型)			
第8回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第3クルーその1) (オンライン型)			
第9回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第3クルーその2) (オンライン型)			
第10回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第3クルーその3) (オンライン型)			
第11回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第4クルーその1) (オンライン型)			
第12回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第4クルーその2) (オンライン型)			
第13回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (第4クルーその3) (オンライン型)			
第14回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (後期へ向けた準備作業) (オンライン型)			
第15回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答 (含: 夏休みの課題) (オンライン型)			
授業外学習 (予習・復習)			
卒論に関わる現地調査、文献整理、文献リストの作成などが要求される。			
教科書			
指定しない。			
参考書			
各自の研究テーマに応じて紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (60%)、研究成果の質 (40%)			
オフィスアワ -			
金曜日昼休み、研究室 (尾崎)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

15回中14回

備考（受講要件）

尾崎ゼミ・兼城ゼミ所属の学生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード			
FHS-DIH2133			
科目名			
哲学演習 2 A (旧 西洋の人間と思想A演習2)			
英語名			
Western Philosophy 2A			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
柴田健志		285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
ゼミ生各人の研究を共同で検討し、討議する。			
学修目標			
自分の研究テーマにかんする文献の検討およびまとめが的確におこなえること。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 発表および討論：4年生(1)			
第3回 発表および討論：4年生(2)			
第4回 発表および討論：4年生(3)			
第5回 発表および討論：4年生(4)			
第6回 発表および討論：4年生(5)			
第7回 反省会(1)			
第8回 発表および討論：3年生(1)			
第9回 発表および討論：3年生(2)			
第10回 発表および討論：3年生(3)			
第11回 発表および討論：3年生(4)			
第12回 発表および討論：3年生(5)			
第13回 反省会(2)			
第14回 まとめ(1)			
第15回 まとめ(2)			
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある			
授業外学習(予習・復習)			
予習：発表者はレジメを準備すること。			
復習：問題点の確認と再検討。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
発表レジメ(100%)。評価基準は(1)問題点が明確であること。(2)言語パフォーマンスが的確であること。			
オフィスアワ -			
随時			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回のうち15回

備考 (受講要件)

ゼミの授業です。ゼミ生は必ず受講して下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
英語コミュニケーション演習			
英語名			
English Communication			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
スティーブ・コダ			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
This class will focus on essay writing, research and translations skills in preparation for your dissertation			
学修目標			
In this class you will learn how to essay writing and research skills leading towards your dissertation. These activities will include learning reading strategies, how to summarise, how to quote and reference, how to plan and structure your essays, and learning about plagiarism. You will also learn the translation skills needed for an annotated translation.			
授業計画			
<p>Week 1 Ice-breaking activities</p> <p>Weeks 2 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Weeks 3 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Week 4 Research progress week</p> <p>Weeks 5 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Weeks 6 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Week 7 Research progress week</p> <p>Weeks 8 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Weeks 9 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Week 10 Research progress week</p> <p>Weeks 11 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Weeks 12 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Week 13 Research progress week</p> <p>Weeks 14 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Weeks 15 Essay writing, research and translation activities.</p>			
<p>In research progress week, you will be given time to present how your individual research is progressing.</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
You will be given homework activities throughout the course as well as continuing with your individual research for your final dissertation.			
教科書			
Handouts will be given			
参考書			
Bring your dictionaries.			

## 成績の評価基準

60% Research progress reports (3 times)

40% Final report

## オフィスアワ -

Anytime is ok, but mail me to make sure I'm in!

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

## アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中 15回

## 備考 (受講要件)

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

この授業は5月6日以降Zoomでリアルタイムで行う予定です。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学演習 2			
英語名			
Archaeology 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎・石田智子		099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
考古学における卒業論文を書くために必要な資料の収集と整理の方法、分析の方法、記述の方法などのスキルを修得するためのトレーニングを行う。前期と後期とで通年でい、前期では主として資料の収集・整理の方法について学ぶ。			
学修目標			
卒業論文を書くための基礎的知識と技能を修得する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 考古学における資料とその収集方法1 (課題提供型)			
第3回 考古学における資料とその収集方法2 (課題提供型)			
第4回 考古学における資料とその収集方法3 (課題提供型)			
第5回 学生による資料収集の実践1 (課題提供型)			
第6回 学生による資料収集の実践2 (課題提供型)			
第7回 学生による資料収集の実践3 (課題提供型)			
第8回 考古学における資料の整理方法1 (課題提供型)			
第9回 考古学における資料の整理方法2 (課題提供型)			
第10回 考古学における資料の整理方法3 (課題提供型)			
第11回 学生による資料整理の実践1 (課題提供型)			
第12回 学生による資料整理の実践2 (課題提供型)			
第13回 学生による資料整理の実践3 (課題提供型)			
第14回 学生による資料の収集・整理についてのディスカッション1 (課題提供型)			
第15回 学生による資料の収集・整理についてのディスカッション2 (課題提供型)			
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある			
授業外学習 (予習・復習)			
本授業は方法のレクチャーとその実践よりなるので、実践のための予習・復習は必要不可欠である			
教科書			
参考書			
授業中、適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (50%)、期末レポート (50%)			
オフィスアワ -			
授業・会議のないときはいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
学生がみずから調べた内容について報告し、議論する。			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

15回中8回

備考（受講要件）

考古学で卒業論文を書きたい学生のみ。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学演習 2			
英語名			
Archaeology 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎・石田智子		099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
考古学における卒業論文を書くために必要な資料の収集と整理の方法、分析の方法、記述の方法などのスキルを修得するためのトレーニングを行う。前期と後期とで通年でいき、後期では主として資料の分析、記述の方法について学ぶ。			
学修目標			
卒業論文を書くための基礎的知識と技能を修得する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 考古学における分析方法1			
第3回 考古学における分析方法2			
第4回 考古学における分析方法3			
第5回 学生による分析の実践1			
第6回 学生による分析の実践2			
第7回 学生による分析の実践3			
第8回 考古学における記述の方法1			
第9回 考古学における記述の方法2			
第10回 考古学における記述の方法3			
第11回 学生による記述の実践1			
第12回 学生による記述の実践2			
第13回 学生による記述の実践3			
第14回 学生による分析・記述についてのディスカッション1			
第15回 学生による分析・記述についてのディスカッション2			
コロナ感染拡大防止のため変更される場合もあります。			
授業外学習 (予習・復習)			
本授業は方法のレクチャーとその実践よりなるので、実践のための予習・復習は必要不可欠である			
教科書			
参考書			
授業中、適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (50%)、期末レポート (50%)			
オフィスアワ -			
授業・会議のないときはいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
学生がみずから調べた内容について報告し、議論する。			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

15回中8回

備考（受講要件）

考古学で卒業論文を書きたい学生のみ。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
日本語学演習 2 (旧 日本語構造論演習)			
英語名			
Japanese Linguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
内山弘		099-285-8906	pon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
本演習は、内山ゼミの三・四年生を対象とした卒業論文作成指導を目的とした授業である。四年生は自身の卒業論文のテーマに基づき調査研究した内容を逐次報告することで、卒論執筆のためのステップアップを図る。三年生は将来の卒論執筆に向けて現在最も興味関心をもっているテーマについて自分なりに調べてきたことを発表することで、将来の卒業論文のテーマ設定のための下準備を行う。			
学修目標			
・卒業論文の執筆に向けて着実に前進することができる。			
授業計画			
* 遠隔形式 (リアルタイム配信授業) でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。			
第 1 回 : ガイダンス			
第 2 回 : 受講生による演習の実施 ( 1 ) 四年生 A 1 ・ A 2 ・ A 3 による中間発表			
第 3 回 : 受講生による演習の実施 ( 2 ) 四年生 A 4 ・ A 5 による中間発表			
第 4 回 : 受講生による演習の実施 ( 3 ) 四年生 A 1 ・ A 2 による中間発表			
第 5 回 : 受講生による演習の実施 ( 4 ) 四年生 A 3 ・ A 4 による中間発表			
第 6 回 : 受講生による演習の実施 ( 5 ) 四年生 A 5 ・ 三年生 B 1 による発表			
第 7 回 : 受講生による演習の実施 ( 6 ) 三年生 B 2 ・ B 3 ・ B 4 による発表			
第 8 回 : 受講生による演習の実施 ( 7 ) 三年生 B 5 ・ B 1 による発表			
第 9 回 : 受講生による演習の実施 ( 8 ) 三年生 B 2 ・ B 3 による発表			
第 1 0 回 : 受講生による演習の実施 ( 9 ) 三年生 B 4 ・ B 5 による発表			
第 1 1 回 : 受講生による演習の実施 ( 1 0 ) 三年生 B 1 ・ B 2 による発表			
第 1 2 回 : 受講生による演習の実施 ( 1 1 ) 三年生 B 3 ・ B 4 による発表			
第 1 3 回 : 受講生による演習の実施 ( 1 2 ) 三年生 B 5 による発表			
第 1 4 回 : 受講生による演習の実施 ( 1 3 ) 四年生 A 1 ・ A 2 ・ A 3 による卒論報告			
第 1 5 回 : 受講生による演習の実施 ( 1 4 ) 四年生 A 4 ・ A 5 による卒論報告			
授業外学習 ( 予習 ・ 復習 )			
予習 : 演習担当者は事前に教員に連絡を取り、演習内容について相談すること ( 必須 ) 。			
復習 : 演習時に指摘された内容を整理し、問題点について再調査して解決を図ること。			
教科書			
適宜資料を manaba を通して配布する。			
* 状況によって対面形式に変更となった場合は直接配布する。			
参考書			
特になし。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 ( 演習内容、 1 0 0 % )			
オフィスアワ -			
原則として事前にメールでアポイントメントを取ることを。			

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

内山ゼミのゼミ生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
多文化交流論演習 2			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島 祥子		099-285-7664	sachikon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
今学期は、言語行動を観察し、分析することを学ぶ。特に語用論的視点における基礎知識や、言語行動の調査方法、分析方法などについて学ぶ。語用論の基本図書や論文を読み、要点を理解し、内容を批判的に読み、文献の要点をまとめ、他者に説明することを目的とする。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 語用論の基本図書を読み、内容を理解し、説明することができる。</li> <li>2. 具体的なテーマに沿った文献を批判的に読み、問題点を指摘することができる。</li> <li>3. さまざまな調査方法を学び、具体的なテーマに沿ったデータ収集を選ぶことができる。</li> <li>4. 文献の要点を適切な表現で文章としてまとめ、さらに口頭で説明することができる。</li> </ol>			
授業計画			
今学期は基本的にZoomを利用した遠隔授業（オンライン型）で授業を行います。ただし、今後の状況により、変更する可能性もありますので、変更の場合には事前にmanabaを通じて連絡します。			
<p>第1回：オリエンテーション（授業概要とスケジュールについて。受講生の人数により変更の可能性あり）</p> <p>第2回：学生による発表（1）</p> <p>第3回：学生による発表（2）</p> <p>第4回：学生による発表（3）</p> <p>第5回：学生による発表（4）</p> <p>第6回：学生による発表（5）</p> <p>第7回：中間総括</p> <p>第8回：学生による発表（5）</p> <p>第9回：学生による発表（6）</p> <p>第10回：学生による発表（7）</p> <p>第11回：学生による発表（8）</p> <p>第12回：論文講読（1）</p> <p>第13回：論文講読（2）</p> <p>第14回：論文講読（3）</p> <p>第15回：まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）			
予習：文献の読解、疑問点の抽出、レジюме作成など。			
復習：振り返り提出など			
教科書			
第1回の授業で指定する。			
参考書			
第1回の授業で指定する。			
成績の評価基準			
(1) 授業への取り組み方（受講中の発言、振り返り、宿題などを含む）30%、(2) 発表30%、(3) 期末レポート			

ト40%で総合評価する。

オフィスアワ -

木曜日5限（研究室）。他の時間帯でも都合があれば適宜応じます。メールなどで連絡をとってください。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15中115回

備考（受講要件）

ゼミ生に限る。課題が多いので、積極的に参加すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
日本古典文学演習 2 (旧 日本文学演習)			
英語名			
Japanese Linguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
丹羽謙治		099 (285) 8904	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
日本古典文学および日本近世文学・近世文化を専攻する学生に対して、基本図書から学問の方法ジャンルに即した研究方法などについて教授する。また、学生は数あるジャンルから自分の興味のある作品ないしは事象をとりあげ、調査したことを発表する。			
学修目標			
日本古典文学および日本近世文学・近世文化に関する広汎かつ正確な知識を有する。 日本古典文学、日本近世文学・近世文化の特色を理解し、問題点を発見する能力を身につける。 各ジャンルに即した調査・研究方法を身につける。			
授業計画			
第1回：導入 第2回：日本古典文学・近世文学のジャンルとその特質 第3回：日本古典文学史の概略 第4回：基本文献の講読 『近世初期文藝の研究』前半 第5回：基本文献の講読 『近世初期文藝の研究』後半 第6回：基本文献の講読 『浮世草子の研究』前半 第7回：基本文献の講読 『浮世草子の研究』後半 第8回：基本文献の講読 『戯作論』前半 第9回：基本文献の講読 『戯作論』後半 第10回：学生による発表(1) 第11回：学生による発表(2) 第12回：学生による発表(3) 第13回：学生による発表(4) 第14回：学生による発表(5) 第15回：卒論作成の方法			
授業外学習(予習・復習)			
与えられたプリントを熟読する。			
教科書			
プリントを配布する			
参考書			
授業計画で挙げたものの他は、授業中に紹介する。			
成績の評価基準			
発表態度(50%)とレポート(50%)			
オフィスアワー			
月曜日 13:00~14:20			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中5回

備考 (受講要件)

人文学科の丹羽ゼミ所属の学生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
多文化交流論演習 2			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島 祥子		099-285-7664	sachikon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本授業では、多文化社会の実態を紹介した文献について、内容を批判的に読み、他者に説明することを目的とする。また、各自が卒業論文等の研究題目に向けて、具体的なテーマを探索し、課題を発見することを目的とする。そのために、各自のテーマに沿った文献調査あるいは、全体で共通したテーマによる調査などを行う。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多文化社会の実態を紹介した文献を読み、内容を理解し、説明することができる。</li> <li>2. 具体的なテーマに沿った文献を批判的に読み、問題点を指摘することができる。</li> <li>3. 文献の要点を適切な表現で文章としてまとめ、さらに口頭で説明することができる。</li> <li>4. 調査から得られたデータをまとめることができる</li> </ol>			
授業計画			
* 全15回の授業を遠隔形式で実施する (Zoomリアルタイム配信) が、状況により変更する可能性もある。			
<p>第1回：オリエンテーション (授業概要とスケジュールについて。受講生の人数と調査の日程により変更の可能性あり)</p> <p>第2回：基本図書の紹介と分担について</p> <p>第3回：多文化社会とコミュニケーション</p> <p>第4回：学生による発表 (1)</p> <p>第5回：学生による発表 (2)</p> <p>第6回：学生による発表 (3)</p> <p>第7回：学生による発表 (4)</p> <p>第8回：調査計画・準備 (予定)</p> <p>第9回：調査 (予定)</p> <p>第10回：調査総括 (予定)</p> <p>第11回：学生による発表 (5)</p> <p>第12回：学生による発表 (6)</p> <p>第13回：学生による発表 (7)</p> <p>第14回：学生による発表 (8)</p> <p>第15回：まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習：文献についての読解、疑問点の抽出</p> <p>復習：毎回の授業の振り返り (紙媒体もしくはmanabaで提出)</p> <p>その他の宿題</p>			
教科書			
授業中に適宜紹介する。			
参考書			
第2回の授業で紹介する。			

## 成績の評価基準

(1) 学習への取り組み(宿題、毎回の授業で提出する振り返りなど)(20%)、(2)発表(20%)、(3)中間レポート(20%)、(4)最終レポート(40%)で総合評価する。

## オフィスアワ -

基本的にメールで事前に日時を相談し、Zoomによる個別相談として対応する。

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

## 備考(受講要件)

ゼミ生に限る。繰り返し受講可能。

課題が多いので積極的に参加すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
地理学演習 2 b (旧 地理学演習III)			
英語名			
Geography 2b			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
吉田明弘		099-285-7543	aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
受講者が地理学に関する内外の研究論文を収集・整理し、主要論文を読んで発表し、その内容について討議する。これによって、受講者は自分に興味のあるテーマに関する研究の傾向を把握することができる。自分がどのようなテーマで卒業論文をまとめるかを判断する上で、重要な作業である。			
学修目標			
1) 研究とはいかなるものなのかを理解できる。			
授業計画			
第1回	オリエンテーション (リアルタイム型)		
第2回	事前講習 地理学の研究論文 (リアルタイム型)		
第3回	講読論文の選定 (リアルタイム型)		
第4回	地形に関する地理学の文献講読・発表と討論 (リアルタイム型)		
第5回	気候に関する地理学の文献講読・発表と討論 (リアルタイム型)		
第6回	植生に関する地理学の文献講読・発表と討論 (リアルタイム型)		
第7回	災害に関する地理学の文献講読・発表と討論 (リアルタイム型)		
第8回	人口に関する地理学の文献講読・発表と討論 (リアルタイム型)		
第9回	都市に関する地理学の文献講読・発表と討論 (リアルタイム型)		
第10回	村落に関する地理学の文献講読・発表と討論 (リアルタイム型)		
第11回	農業に関する地理学の文献講読・発表と討論 (リアルタイム型)		
第12回	漁業に関する地理学の文献講読・発表と討論 (リアルタイム型)		
第13回	まとめ (リアルタイム型)		
授業外学習 (予習・復習)			
予習：発表者は事前に発表論文を探し、発表内容をまとめること。他の受講生は発表者より事前に渡された論文コピーを読み、討論内容をまとめておくこと。復習：発表・討論内容にかかわる問題を他の文献やインターネットで調べること。			
教科書			
なし			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度			
オフィスアワ -			
随時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			

備考 (受講要件)

ゼミ生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
中国文学演習 2 (旧 中国文学演習)			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
高津孝		099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
中国古典詩についての基本的知識を身につけるために、できるだけ多くの詩を読む。			
学修目標			
1. 中国古典文学についての基礎的知識の習得			
2. 卒業論文を作成するために必要な文献読解能力、批判的検討能力の養成			
授業計画			
第1回 オリエンテーション (課題提出型)			
第2回 『新編 中国名詩選 下』の読解 (課題提出型)			
第3回 『新編 中国名詩選 下』の読解 (オンデマンド型)			
第4回 『新編 中国名詩選 下』の読解 (オンデマンド型)			
第5回 『新編 中国名詩選 下』の読解 (オンデマンド型)			
第6回 『新編 中国名詩選 下』の読解 (オンデマンド型)			
第7回 『新編 中国名詩選 下』の読解 (オンデマンド型)			
第8回 『新編 中国名詩選 下』の読解 (オンデマンド型)			
第9回 『新編 中国名詩選 下』の読解 (オンデマンド型)			
第10回 『新編 中国名詩選 下』の読解 (オンデマンド型)			
第11回 『新編 中国名詩選 下』の読解 (オンデマンド型)			
第12回 『新編 中国名詩選 下』の読解 (オンデマンド型)			
第13回 『新編 中国名詩選 下』の読解 (オンデマンド型)			
第14回 『新編 中国名詩選 下』の読解 (オンデマンド型)			
第15回 『新編 中国名詩選 下』の読解 (オンデマンド型)			
*オンデマンド型講義は、リアルタイム型や教室での通常授業に変更になる可能性がある。			
授業外学習 (予習・復習)			
授業で扱う詩はわずかである。できるだけ多くの詩人の作品を読むこと。			
教科書			
『新編 中国名詩選 下』岩波文庫、2015年			
参考書			
成績の評価基準			
授業への取り組み			
オフィスアワー			
金曜日・2限・高津研究室			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
発表と討論			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

14回

備考 (受講要件)

高津ゼミ、三木ゼミの受講生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
中国文学演習 2 (旧 中国文学演習)			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
高津孝	099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
中国古典詩についての基本的知識を身につけるために、できるだけ多くの詩を読む。			
学修目標			
1. 中国古典文学についての基礎的知識の習得			
2. 卒業論文を作成するために必要な文献読解能力、批判的検討能力の養成			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 『新編 中国名詩選 下』の読解			
第3回 『新編 中国名詩選 下』の読解			
第4回 『新編 中国名詩選 下』の読解			
第5回 『新編 中国名詩選 下』の読解			
第6回 『新編 中国名詩選 下』の読解			
第7回 『新編 中国名詩選 下』の読解			
第8回 『新編 中国名詩選 下』の読解			
第9回 『新編 中国名詩選 下』の読解			
第10回 『新編 中国名詩選 下』の読解			
第11回 『新編 中国名詩選 下』の読解			
第12回 『新編 中国名詩選 下』の読解			
第13回 『新編 中国名詩選 下』の読解			
第14回 『新編 中国名詩選 下』の読解			
第15回 『新編 中国名詩選 下』の読解			
授業外学習 (予習・復習)			
授業で扱う詩はわずかである。できるだけ多くの詩人の作品を読むこと。			
教科書			
『新編 中国名詩選 下』岩波文庫、2015年			
参考書			
成績の評価基準			
毎回提出のレポートを評価の対象とする。			
オフィスアワ -			
金曜日・2限・高津研究室			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
発表と討論			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回			
備考 (受講要件)			

高津ゼミ、三木ゼミの受講生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF1502			
科目名			
人文科学基礎I			
英語名			
Humanities I			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
富原一哉 (共同: 宮下正昭・梁川英俊・太田純貴)		099-285-7536	tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修学や学生生活についての必要な手続きについて学び実行する</li> <li>・ 自身の興味関心を明確化し、学びのための土台を構築する</li> <li>・ 人文学科の教員についての基礎的な知識を得る</li> </ul>			
授業計画			
第1回 オリエンテーション(1) (基本作業の実施) (課題提出型) 第2回 オリエンテーション(2) (質問とその回答) (課題提出型) 第3回 人文/キャリアレクチャー(課題提出型) 第4回 二年次以降の学びについて(1) (課題提出型) 第5回 二年次以降の学びについて(2) (課題提出型) 第6回 二年次以降の学びについて(3) (課題提出型) 第7回 二年次以降の学びについて(4) (課題提出型) 第8回 二年次以降の学びについて(5) (課題提出型) 第9回 二年次以降の学びについて(6) (課題提出型) 第10回 二年次以降の学びについて(7) (課題提出型) 第11回 教員紹介のまとめと作成と自身の興味関心の明確化(1) (課題提出型) 第12回 教員紹介のまとめと作成と自身の興味関心の明確化(2) (課題提出型) 第13回 履修モデル (課題提出型) 第14回・15回 資格関係ガイダンス・夏休みの課題等について (課題提出型)			
課題提出型の授業はオンデマンド型、リアルタイム型に変更される可能性がある。 今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修学の手続きなどについて各自で確認が必要です。また、諸手続きについては締め切りに従って各自での対応が求められる可能性があります。</li> <li>・ 随時課題を課しますので、課題についても授業外学習が必要となります。</li> </ul>			
教科書			
必要に応じてプリント等をアップロードします。			
参考書			
授業中に適宜紹介します。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4～12回についての課題提出とその内容 (100%)</li> <li>・ 成績に関わる提出物が別途課される場合もある。その場合は事前に連絡する。</li> </ul>			
オフィスアワ -			

授業後。随時。事前にメールで教員と連絡をとること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回中14回

備考（受講要件）

- ・ manabaをこまめに確認してください。
- ・ 前もって指定されたクラスの授業を受講してください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF1503			
科目名			
人文科学基礎II			
英語名			
Humanities II			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
富原一哉 (共同: 宮下正昭・梁川英俊・太田純貴)		099-285-7518	tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
学年全体の合同授業とグループワークを組み合わせで行います。合同授業は大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得する。			
授業計画			
* この授業は対面形式と遠隔形式を併用して行う。ただし、状況によっては授業形式や内容が変更となる可能性がある。授業形態等を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。			
第1回	オリエンテーション(1) (夏休みの課題確認) (対面型)		
第2回	オリエンテーション(2) (質問とその回答) (対面型)		
第3回	教員インタビュー (遠隔・リアルタイム型)		
第4回	グループワーク(1) (遠隔・リアルタイム型)		
第5回	グループワーク(2) (遠隔・リアルタイム型)		
第6回	グループワーク(3) (遠隔・リアルタイム型)		
第7回	教員インタビューの情報交換とまとめ (対面型)		
第8回	グループワーク(4) (遠隔・リアルタイム型)		
第9回	グループワーク(5) (対面型)		
第10回	グループワーク(6) (対面型)		
第11回	留学ガイダンス (遠隔・オンデマンド型)		
第12回	発表会(1) (遠隔・リアルタイム型)		
第13回	発表会(2) (遠隔・リアルタイム型)		
第14回	発表会(3) (遠隔・リアルタイム型)		
第15回	まとめと意見交換 (対面型)		
授業外学習 (予習・復習)			
取材の下準備、取材の実施、集めた資料のまとめなど、綿密な計画を立てて行ってもらいます。調査やグループワークなどで、授業外学習が必要になる場合があります。			
教科書			
適宜授業中にプリント等を配布します。			
参考書			
適宜授業中に紹介します。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業への取り組み (30%)</li> <li>・発表会 (30%)</li> <li>・授業で指示された課題提出物 (40%)</li> </ul>			
オフィスアワ -			

授業後。随時。事前にメールで教員と連絡をとること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

前もって指定されたクラスの授業を受講して下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

心理学コース基礎I (旧 コース基礎演習1 (人間と文化))  
ナンバリングコード

FHS-DDF2408

科目名

心理学コース基礎I (旧 コース基礎演習1 (人間と文化))

英語名

Course Basics 1

開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 必修科目	演習	2単位	2年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
菅野康太、大園博記			canno@leh.kagoshima-u.ac.jp ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	

授業概要

心理学においては、研究内容の公表に際して収集したデータの適切な統計処理が必須とされる。本基礎演習では「心理学実験」や「卒業研究」の実施の際に必須とされるデータの集約法と統計処理法について、SPSSやAmos、HADなどの統計処理ソフトを実際に用いながら演習を行うことで、その意味と利用法についての確な理解と修得を目指す。

学修目標

- (1) 心理学における一般的な統計手法に関する知識と技能を修得する。
- (2) 心理学の分析手続きに則ってデータを分析し、その結果を適切な形で表現できる。
- (3) 現象を統計データに基づき科学的・客観的に理解し、論理的に批評できる能力を養う。

授業計画

- 第1回 統計分析のためのデータ入力の注意点およびExcelの基本機能 (菅野)
- 第2回 統計ソフトの基本操作とt検定 (菅野)
- 第3回 ノンパラメトリック分析 (菅野)
- 第4回 1要因の分散分析 (菅野)
- 第5回 2要因の分散分析1 (菅野)
- 第6回 2要因の分散分析2 (菅野)
- 第7回 因子分析1 (大園)
- 第8回 因子分析2 (大園)
- 第9回 因子分析3 (大園)
- 第10回 重回帰分析1 (大園)
- 第11回 重回帰分析2 (大園)
- 第12回 重回帰分析3 (大園)
- 第13回 統計的有意性と効果量 (大園)
- 第14回 発展的分析 (大園)
- 第15回 データ分析の実習 (大園)

【遠隔授業への対応】

上記内容をすべて、オンデマンド型講義で配信する。学生はその講義を一定期間の間の任意の時間に視聴し、統計ソフトによる解析を実践する。Zoomとslack、manabaを通じて質問の受付を行う。通常の対面型の講義が前期中に可能となった場合も、対面型とオンデマンド型を併用することで、鹿児島以外の地域から受講することを可能とする。

授業外学習 (予習・復習)

毎回データ分析の課題が授業中に課される。授業内での小テストやレポートも出題されるので、授業内容についての復習をしっかり行うこと。

教科書

小宮あすか / 布井 雅人・著『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』(講談社サイエンティフィク)

参考書

小塩真司 著 『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 因子分析・共分散構造分析まで 第2版』 2011年 東京図書

成績の評価基準

各回のレポート(50%)、および最終レポート(50%)による。

オフィスアワー

事前にメールにて確認すること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回

備考(受講要件)

教科書のサイトです。こちらから講義で使うデータもダウンロードできます。

<https://www.kspub.co.jp/book/detail/1548121.html>

実務経験のある教員による実践的授業

心理学コース基礎II (旧 コース基礎演習2 (人間と文化)) (公認心理師の職責1)  
ナンバリングコード

FHS-DDF2409

科目名

心理学コース基礎II (旧 コース基礎演習2 (人間と文化)) (公認心理師の職責1)

英語名

Course Basics 2

開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 必修科目	演習	2単位	2年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
飯田昌子・平田祐太郎		099-285-8884 (飯田研究室)	m_iida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	

授業概要

講義とグループワークを組み合わせで行います。講義では主に、心理学分野における情報の取り扱いについて学び、実際に研究計画を作成しながら、心理学における研究手法を学びます。そして、公認心理師の職責に関して、情報の適切な取り扱いと自己課題発見、解決能力の手段などについてグループワークを通して公認心理師の実践やその職責に関する理解を深めることを目指します。

学修目標

- (1) 心理学の諸分野における研究手法を習得する
- (2) 情報の適切な取り扱いについて習得する
- (3) 自己課題発見・解決能力の手段についての知識を習得する

授業計画

\* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanaba のコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回：オリエンテーション (課題提出型)
- 第2回：研究計画の概説 (オンデマンド型)
- 第3回：様々な発表方法について (オンデマンド型)
- 第4回：研究計画の作成 (オンデマンド型)
- 第5回：研究計画の発表1 (オンライン型)
- 第6回：研究計画の発表2 (オンライン型)
- 第7回：研究計画の発表3 (オンライン型)
- 第8回：研究計画の発表4 (オンライン型)
- 第9回：研究計画の発表5 (オンライン型)
- 第10回：研究計画の発表6 (オンライン型)
- 第11回：情報の適切な取り扱いについて；概説 (オンデマンド型)
- 第12回：情報の適切な取り扱いについて；発表 (課題提出型)
- 第13回：自己理解体験 (オンデマンド型)
- 第14回：支援者としての自己課題発見 (オンデマンド型)
- 第15回：支援者としての解決能力 (オンデマンド型)

授業外学習 (予習・復習)

予習：授業で扱う内容について、事前に予習しておくことが望ましい (標準時間60分)。  
復習：体験学習した内容について復習することが望ましい。(標準時間60分)

教科書

特になし

参考書

- 「公認心理師入門 知識と技術」 ころの科学編 野島一彦編 2017
- 「公認心理師の基礎と実践 - ?公認心理師の職責」 野島一彦編 2018

成績の評価基準

複数回のミニレポート40%、研究計画発表資料60%から総合的に評価を行う。

オフィスアワ -

事前にメールにて確認のこと。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回

備考 (受講要件)

心理学コースの学生に限る。

平成22年度以降入生はコース必修。平成21年度以前入生は「心理学基礎演習2」に読み替え。

\* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanaba のコースニュースや授業内において通知する。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

心理学実験実習（旧 心理学実験1）（心理学実験）

## 英語名

Psychological Experiment

## 開講学科

人文学科

## コース

心理学コース

## 授業科目区分

人文・心理学コース / 必修  
科目

## 授業形態

実習

## 単位数

2単位

## 開講期

2年

## 担当教員

大園博記・山崎真理子・横山春彦・  
菅野康太・富原一哉

## 連絡先（TEL）

099-285-7538(大園)

## 連絡先（MAIL）

ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

心理学諸分野における実験手法の中で基礎的かつ習得することが望ましいテーマについて実験（動画視聴による間接的な体験を含む）を行い、その結果についてレポートを作成することにより、心理学の実証的な研究方法について学ぶ。

## 学修目標

1. 心理学における実験の基本的知識を習得する。
2. 実験の適切な運用方法を修得し、自律的にそれらを実施することができる。
3. 実験によって得られたデータについて、様々な統計的手法を用いて適切に処理できる。
4. 心理学の研究論文の構成を理解し、書式に従った研究レポートを作成できる。

## 授業計画

各回のテーマや実施順序は変更される場合もあるので、各担当教員の指示に従うこと。

- 第1回：論文精読（課題提出型）
- 第2回：論文精読（課題提出型）
- 第3回：ガイダンス（レポートの作成方法）（オンデマンド型）
- 第4回：社会的ジレンマ（担当：大園）（オンデマンド型）
- 第5回：鏡映描写（担当：横山）（オンデマンド型）
- 第6回：パーソナルスペース（担当：山崎）（オンデマンド型）
- 第7回：触2点域の測定（担当：横山）（オンデマンド型）
- 第8回：これまでのレポート課題へのフィードバック1（オンデマンド型）
- 第9回：行動神経科学講義（担当：菅野）（オンデマンド型）
- 第10回：行動薬理（担当：菅野）（オンデマンド型）
- 第11回：神経組織（担当：菅野）（オンデマンド型）
- 第12回：学習1（担当：富原）（オンデマンド型）
- 第13回：学習2（担当：富原）（オンデマンド型）
- 第14回：これまでのレポート課題へのフィードバック2（オンデマンド型）
- 第15回：ポスターによる発表（課題提出型）

\*それぞれの実習は、リアルタイム型や教室で行う形式に変更になる可能性がある。

## 授業外学習（予習・復習）

実験で扱う資料、参考文献の当該部分を事前に予習しておくことが望ましい。また、配布資料等について復習することが望ましい。

## 教科書

## 参考書

成績の評価基準

レポート（80%）と最終ポスター提出（20%）による。また、各担当教員から課されるレポートのうち1つでも未提出のものがあつた場合、単位は認めない。

オフィスアワ -

火曜3限（大園）。ただし事前に研究室に連絡すること。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

「心理学コース」所属生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

心理統計法（心理学統計法）

## 英語名

Statistical Methods in Psychology

## 開講学科

## コース

人文学科

心理学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・心理学コース / 必修  
科目

講義

2単位

1～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

富原 一哉

099-285-7536

tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

現代心理学では、データの分析においても、論文の講読においても、統計法の知識を欠かすことはできない。本講義では、心理学研究に多く用いられる統計技法の基礎的な解説を行い、さらにデータ分析の演習を実施することでその理解と修得を目指す。

## 学修目標

- ・収集したデータに対して、簡単な統計処理を行える。
- ・心理学の研究論文を講読するに際して、その統計処理について正確に理解できる。
- ・各種統計データに対する客観的な評価が可能となる。

## 授業計画

\*遠隔形式（「リアルタイム型」と「オンデマンド型」の併用）でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

- 第1回：測定と4つの尺度
- 第2回：データの集計法 -代表値と散布度-
- 第3回：標準化と正規分布
- 第4回：相関と回帰
- 第5回：推測統計の基礎知識 -母集団の推定と仮説検定-
- 第6回：1つの平均値の検定 -効果量と検定力-
- 第7回：2つの平均値の差の検定 -対応のあるt検定-
- 第8回：2つの平均値の差の検定 -対応のないt検定-
- 第9回：3つ以上の平均値の差の検定 -級間1要因分散分析-
- 第10回：3つ以上の平均値の差の検定 -級内1要因分散分析-
- 第11回：2要因の分散分析 -級間2要因分散分析-
- 第12回：2要因の分散分析 -級間1級内1の2要因分散分析-
- 第13回：2要因の分散分析 -級内2要因分散分析-
- 第14回：ノン・パラメトリック検定（1） -2条件の比較-
- 第15回：ノン・パラメトリック検定（2） -3条件以上の比較-
- 第16回：定期試験

\* 授業は逆転学習形式で、先に「オンデマンド型」資料配信による事前学習を行い、実際の授業時間には「リアルタイム型」で演習課題やその解説を実施する。

## 授業外学習（予習・復習）

オンデマンド型の事前学習課題にて予習するとともに、授業後の宿題（小テスト）を実施して復習をしっかりと行うこと。

## 教科書

川端・荘島著『心理学のための統計学入門 -ココロのデータ分析-』 2014年 誠信書房  
橋本・荘島著『実験心理学のための統計学 -t検定と分散分析-』 2016年 誠信書房

## 参考書

森・吉田編著 『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』 1990年 北大路書房  
 佐藤著 『推計学のすすめ』 1968年 講談社ブルーバックス  
 小塩著 『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 第3版』 2018年 東京図書  
 小宮・布井著 『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』 2018年 講談社

## 成績の評価基準

毎回の宿題（小テスト）70%，期末試験30%

## オフィスアワ -

月曜2限・研究室（できるだけメールにて事前に連絡ください）

## アクティブ・ラーニング

その他；

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

毎回データ分析の演習を行う

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

## 備考（受講要件）

平成28年度以前入生は「心理学統計演習」に読み替え。  
 この授業の単位を既に修得している者の繰り返しの単位修得は認めない。  
 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH2410			
科目名			
心理学概論			
英語名			
Introduction to Psychology			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 必修科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大園博記		099-258-3578 (大園研究室)	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本講義では、心理学の基礎的な内容について理解するために、知覚、認知、学習、感情、脳、社会関係、発達、臨床、人格などについて、様々なトピックを取り上げて講義を行う。また、心に関する多様な視点を提供するために、他動物の心やロボットの心についても取り上げる。さらにまとめとして、心理学の成り立ち(心理学史)についても学ぶ。授業後には毎回、短い意見・感想を書いてもらい、manaba上でフィードバックするなど、双方向的な講義を目指す。また、実感の伴った理解を促すために、実験デモや動画視聴を適宜取り入れながら講義を行う。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.心理学の成り立ちについて理解し、人の心の基本的な仕組み及び働きを理解する。</li> <li>2.心理学の多様な各領域について理解を深め、今後の心理学関係の授業の基礎を養う。</li> <li>3.自らの体験や現代社会の問題と関連づけて、心や社会について多様な側面から考察できる能力を培う。</li> </ol>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション（課題提出型）  第2回：認知心理学1：知覚と潜在的過程（課題提出型）  第3回：認知心理学2：認知バイアスとヒューリスティック（オンデマンド型）  第4回：学習心理学：記憶の仕組み（オンデマンド型）  第5回：感情心理学：感情のメカニズムと機能（オンデマンド型）  第6回：神経科学：脳と心の関係（オンデマンド型）  第7回：認知哲学：ロボットに「心」はあるか？（オンデマンド型）  第8回：社会心理学：いじめを抑制するには？（オンデマンド型）  第9回：発達心理学：赤ちゃんの持つ力（オンデマンド型）  第10回：青年心理学：アイデンティティとモラトリアム（オンデマンド型）  第11回：比較心理学：他動物の心を探る（オンデマンド型）  第12回：超心理学：「超能力研究」は科学なのか？（オンデマンド型）  第13回：人格心理学：性格と性格検査法（オンデマンド型）  第14回：臨床心理学：カウンセリングと心理療法（オンデマンド型）  第15回：心理学史と講義のまとめ（オンデマンド型）  第16回：期末レポート</p>			
* オンデマンド型講義は、リアルタイム型や教室での通常講義に変更になる可能性がある。			
授業外学習（予習・復習）			
授業で配布した資料を基に復習をし、知識を確かなものとする。また、予習、復習のための小レポートを複数回課す。			
教科書			
指定しない。			
参考書			
内容に合わせて、毎回の講義で提示する。			

## 成績の評価基準

毎回の意見・質問の提出（45%）、複数回の小レポート(30%)及び期末レポート（25%）の成績による。

## オフィスアワ -

火曜3限。ただし、なるべく事前にメールにて連絡すること。

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

## 備考（受講要件）

すでに心理学概論の単位を取得している学生は再履修ができない。

初回の講義で、本講義における進め方やルールについて説明するので、受講希望者は特別な理由がない限り必ず受講すること。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
心理アセスメント実習（旧 心理学実験2）			
英語名			
Exercises in Psychological Assessment			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 必修科目	実習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
榑原良太、安部幸志、飯田昌子、平田祐太郎、米田孝一		099-285-7815	sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
心理アセスメントに関する基礎的な知識や技能を習得すること、またアセスメントに基づいて適切なレポートを作成する能力を身に付けることを目的とする。			
学修目標			
1. 心理アセスメントの基本的知識を習得する。 2. 心理アセスメントの適切な運用方法を修得し、自律的にそれらを実施することができる。 3. 心理アセスメントによって得られたデータについて、適切に解釈することができる。			
授業計画			
遠隔形式で行う予定であるが、各回の実施方法や順序は変更される可能性もある。変更が生じる際は、あらかじめmanabaや授業内に通知する。			
第1回：オリエンテーション・アセスメントにおける倫理【オンデマンド型】 第2回：知能検査1：WISCの概説【オンデマンド型】 第3回：知能検査2：WISCの体験学習【オンデマンド型】 第4回：知能検査3：WISCの体験学習の振り返り【オンデマンド型】 第5回：知能検査4：田中ビネー?の概説【オンデマンド型】 第6回：知能検査5：田中ビネー?の体験学習【オンデマンド型】 第7回：知能検査6：田中ビネー?の体験学習の振り返り【オンデマンド型】 第8回：認知症のスクリーニング：HDS-R【オンデマンド型】 第9回：認知症に関する画像検査：CT、MRI、SPECT【オンデマンド型】 第10回：調査票を用いた測定の基礎【オンデマンド型】 第11回：YG性格検査【オンデマンド型】 第12回：内田クレペリン検査【オンデマンド型】 第13回：心の健康の検査【オンデマンド型】 第14回：アセスメント実践【オンデマンド型】 第15回：まとめ【オンデマンド型】			
授業外学習（予習・復習）			
予習：授業で扱う検査法について、事前に予習しておくことが望ましい（標準時間60分）。 復習：配布資料等について復習することが望ましい。（標準時間60分）			
教科書			
特に指定なし。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
レポートと授業への取り組み態度による。また、各担当教員から課されるレポートのうち1つでも未提出のものがあつた場合、単位は認めない。			

オフィスアワ -

月曜の昼休み。ただし事前に連絡すること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

「心理学コース」の所属学生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会心理学（社会・集団・家族心理学）			
英語名			
Social Psychology			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
大園 博記		099-285-7538	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>この授業では社会心理学の代表的な研究を、インターネットや友人関係、幸福感といった身近な問題や、格差や差別、環境破壊といった社会問題と結びつけながら、紹介する。授業後には毎回、短い意見・感想を書いてもらい、その次の授業でフィードバックするなど、双方向的な講義を目指す。さらに、講義の中で実際に社会心理学の実験を体験してもらうことによって、直感的理解と理論的理解の結合を図る。</p>			
学修目標			
<p>1. 対人関係並びに集団における人の意識、態度及び行動についての心の過程に関する、社会心理学の基礎的な知識と研究法を習得する。</p> <p>2. 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について、理解する。</p> <p>3. 社会での人間関係などの個人の問題から、環境破壊や文化摩擦などの社会問題までを、多面的な視点から考察できるようになる。</p>			
授業計画			
<p>* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。なお、リアルタイム授業を録画したものをオンデマンドでも配信する。</p>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション【リアルタイム型】</li> <li>2. 原因帰属とステレオタイプ：差別を生み出す心理【リアルタイム型】</li> <li>3. 自己と態度：自己欺瞞の心理【リアルタイム型】</li> <li>4. 格差と公正：平等な社会を阻む心理【リアルタイム型】</li> <li>5. 潜在的過程の影響：意識できない自分の心【リアルタイム型】</li> <li>6. メディアの影響：社会のフィルターを知る【リアルタイム型】</li> <li>7. 進化してきた心：ヒトの社会性の起源【リアルタイム型】</li> <li>8. 身近な人間関係：恋愛と家族【リアルタイム型】</li> <li>9. 友人関係とネットワーク：絆としがらみが作る社会【リアルタイム型】</li> <li>10. 社会的ジレンマ：集団での協力と裏切り【リアルタイム型】</li> <li>11. 集団間葛藤：ウチとソトの対立【リアルタイム型】</li> <li>12. 西洋と東洋の心の違い：文化的自己観と認知スタイル【リアルタイム型】</li> <li>13. 文化と適応：文化差の起源を求めて【リアルタイム型】</li> <li>14. 幸福感と社会：幸せとは何か？【リアルタイム型】</li> <li>15. まとめ：変遷する人間観【リアルタイム型】</li> </ol>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>授業前には、次の授業のキーワードを調べてくること。授業後は、授業中に配布した資料や提示した参考文献を基に復習をし、知識を確かなものとする。</p>			
教科書			
指定しない。			
参考書			
社会心理学（池田謙一ほか 有斐閣）			

複雑さに挑む社会心理学（亀田達也・村田光二著 有斐閣）

社会心理学キーワード（山岸俊男編 有斐閣）

その他、適宜授業中に提示する。

成績の評価基準

各授業への感想・質問の提出（45%）と複数回の小レポート（30%）、および期末レポート（25%）の成績による。

オフィスアワー

月曜1限

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

実験デモンストレーション

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

心理査定学（心理的アセスメント）（旧 臨床援助論）  
ナンバリングコード

CHX2404

科目名

心理査定学（心理的アセスメント）（旧 臨床援助論）

英語名

Psychological Assessment

開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
米田孝一		内線7663	yoneda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	

授業概要

心理状態、精神状態、認知機能とそれらを把握するための診断基準や検査について概説する。そして、明らかにしたいことに応じて、どのようにアプローチすればよいかを考えられるようにするのが本授業の目的である。更に一歩進めて、どのようにして治療するのかという臨床的な入り口を学んでいただきたい。臨床場面においては、患者・クライアントと話す一瞬一瞬が検査なき査定でもある。公認心理師や臨床心理士を目指す学生にとっては国家試験や認定試験のみならず、将来の業務の骨格をなすものとなる。

学修目標

1. 心理的アセスメントの目的及び倫理を理解する。
2. 心理的アセスメントの観点及び展開を理解する。
3. 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を理解する。
4. 心理アセスメントの結果についての適切な記録及び報告の意義を理解する。

授業計画

遠隔形式での授業の予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況が好転した場合には対面授業に変更する可能性があります。授業形式を変更する場合はmanabaコースニュースでお知らせをします。

- 1回 心理査定とは【授業形態：録画動画視聴（オンデマンド）】
- 2回 認知症【授業形態：録画動画視聴（オンデマンド）】
- 3回 知能【授業形態：録画動画視聴（オンデマンド）】
- 4回 記憶【授業形態：録画動画視聴（オンデマンド）】
- 5回 気分(1)：うつ【授業形態：録画動画視聴（オンデマンド）】
- 6回 気分(2)：躁、怒り、不安【授業形態：録画動画視聴（オンデマンド）】
- 7回 ストレス【授業形態：録画動画視聴（オンデマンド）】
- 8回 トラウマ、PTSD【授業形態：録画動画視聴（オンデマンド）】
- 9回 虐待、いじめ、解離【授業形態：録画動画視聴（オンデマンド）】
- 10回 パーソナリティ(1)【授業形態：録画動画視聴（オンデマンド）】
- 11回 パーソナリティ(2)【授業形態：録画動画視聴（オンデマンド）】
- 12回 睡眠【授業形態：録画動画視聴（オンデマンド）】
- 13回 摂食【授業形態：録画動画視聴（オンデマンド）】
- 14回 発達障害【授業形態：録画動画視聴（オンデマンド）】
- 15回 高次脳機能障害【授業形態：録画動画視聴（オンデマンド）】

授業外学習（予習・復習）

予習は必要としない。復習としては授業で理解した心理、精神の捉え方について自分なりに深く調べてみる。

教科書

特に指定しない

参考書

授業中に紹介する

成績の評価基準

新型コロナウイルス感染対策のため、筆記試験は行わない予定である。各回で提出されたレポートで評価する。提出率が2/3に満たない者には単位が与えられない。

オフィスアワ -

今年度は新型コロナウイルス感染対策として対面では行わず、質問・相談等は上記メールにお寄せください。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

平成28年度以前入生は「臨床援助論」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

担当教員が医師（心療内科専門医）として診療に従事している経験を活かし、心、精神について、その働き、健康な状態、歪み、疾病を学生は学ぶ。代表的な心療内科、精神科領域の疾患とともに、心理状態、精神状態、認知機能を把握するために行われる検査、その治療に用いられる心理療法にも言及する。担当教員が日頃臨床現場で行なっていることを「生の教科書」として伝える。

ナンバリングコード			
科目名			
発達心理学			
英語名			
Developmental Psychology			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
島 義弘		099-285-7788	shima@edu.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
本講義では生涯にわたる人の発達を心理学の観点から概説する。全体は3部構成となっており、第I部は生涯発達心理学の概論、第II部、第III部は主として幼児期、児童期の発達の各論を解説する。受講者には事前の調べ学習と講義の振り返りを通して一般的な発達の特徴を理解し、発達支援の在り方について考察することを求める。			
学修目標			
1. 発達研究の基本的な方法論を理解することができる 2. 発達を支える社会的・文化的環境について理解することができる 3. 認知の発達について理解することができる 4. 社会性の発達について理解することができる 5. 発達と教育の関係について理解することができる			
授業計画			
1. オリエンテーション 第I部：発達心理学概論 2. 身体と運動の発達（課題提出型） 3. 乳児期から青年期の発達（課題提出型） 4. 成人期・老年期の発達（課題提出型） 5. 発達の遅れと障害（課題提出型） 第II部：認知の発達 6. 認知（課題提出型） 7. 言葉（課題提出型） 8. 記憶（課題提出型） 9. 知能（課題提出型） 第III部：社会性の発達 10. 動機づけ（課題提出型） 11. 感情・情動（課題提出型） 12. パーソナリティ（課題提出型） 13. 対人関係（課題提出型）			
一部、リアルタイム型の講義を導入する可能性がある。 不足の2回分は別途課題等により補う。			
授業外学習（予習・復習）			
【予習】毎時出される課題について書籍等を調べてレポートとして提出する（学修に係る標準時間は約1時間）			
【復習】講義資料や心理学関連の書籍等を読み、講義内容の理解を深める（学修に係る標準時間は約30分）			
教科書			
使用しない			
参考書			
『シードブック発達心理学 保育・教育に活かす子どもの理解』 本郷一夫（編著） 建帛社			
『よくわかる発達心理学』 無藤隆 他（編著） ミネルヴァ書房			

『発達科学入門』（全3巻） 高橋恵子 他（編） 東京大学出版会

## 成績の評価基準

授業レポート：50%

期末レポート：50%

出席（指定された期間内に授業レポートを提出）が10回に満たない場合，期末レポートが期限内に提出されない場合は評価の対象としない

## オフィスアワ -

火曜日の午前中

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

## 備考（受講要件）

教育学部の「児童心理学」と共同開設

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

認知心理学（知覚・認知心理学）

## 英語名

Cognitive Psychology

## 開講学科

## コース

人文学科

心理学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・心理学コース / 選択  
科目

講義

2単位

2～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

横山春彦

099-285-7535

yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

オンデマンド型の講義。授業の概要は以下の通りである。ヒト・動物にとって感覚は行動の手掛かりであり、唯一の情報の入り口であり、また自身を実体のあるものとして感知させる重要な働きである。一方、そうした感覚の活動を生み出すのは神経系の作用であるが、インパルスの伝導・伝達を基本とするニューロンがどのようにそれを可能とするのか、そこには依然として大きな謎がある。本講義ではこうした感覚に関するトピックを毎回いくつか取り上げ解説する。それにより受講生自身、人の認知機能の機序及びその障害に関して理解を深め、基本的な説明ができることが目標となる。なお、私たちを取り巻く身近な環境に生息する動植物等についても具体的な観察記録をまじえつつ話題を提供する。

## 学修目標

学修目標は以下の通りである。

1. 人の感覚・知覚・認知の働きとそのしくみについて理解を深める。
2. 人の感覚・知覚・認知に関する障害等について理解を深める。
3. 身近な事象を例に感覚・知覚・認知の働きやそのしくみについて説明できる。

## 授業計画

オンデマンド型の講義。なお、授業形態について変更する場合があること、またその際の対応についてはmanaba上で随時お知らせします。

- 第1回 感覚・知覚・認知の概念、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第2回 聴覚のしくみ、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第3回 味覚・嗅覚のしくみ、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第4回 皮膚感覚のしくみ、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第5回 視覚の成立条件、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第6回 色覚研究の歴史、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第7回 眼球運動、静止網膜像、恒常身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第8回 色覚（ベツルト・ブリュッ現象、進出色後退色）、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第9回 形の知覚（ゲシュタルト要因）身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第10回 幾何学的錯視身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第11回 動きの知覚、身近な動植物、のらねこ研究、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第12回 視覚障害（視覚性定位障害、半測空間無視）、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第13回 視覚障害（視覚失認、立体視障害）、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第14回 視覚障害（反復視、相貌失認）、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第15回 クオリア問題、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第16回 期末試験（manaba n によるレポート提出）

## 授業外学習（予習・復習）

予習：次回のテーマに関して疑問・質問等を整理しておくこと。

復習：授業で扱ったテーマに関する疑問・質問等をまとめてmanabaで毎回送信。

## 教科書

特に指定しない。適宜紹介する。

参考書

特に指定しない。適宜紹介する。

成績の評価基準

予習・復習の状況（40%）、期末レポートの成績（60%）によって総合的に評価。

オフィスアワ -

毎週月曜日 5 限の時間帯（16:10～17:40）。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH3402			
科目名			
比較心理学(旧 比較行動心理学)			
英語名			
Comparative Psychology			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	
富原一哉		285-7536	
共同担当教員		連絡先(MAIL)	
		tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
比較心理学は、ヒトを含めた様々な動物種の行動を比較することで、ヒトのヒトとしての特性(生物としての一般性と種としての特異性)を明らかとすることを目指している。本講義では、比較心理学における主な知見を紹介するなかで、生物学的・科学的な人間観の形成を目指す。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較心理学についての基礎知識を習得する。</li> <li>・人間を1つの動物種として客観的・科学的に理解する視点を養う。</li> <li>・心と行動の進化についての正確な理解と適切な考察が行える。</li> </ul>			
授業計画			
第1回: 比較心理学とは何か(オンデマンド型) 第2回: 比較心理学の方法論(オンデマンド型) 第3回: 進化論の誤解と遺伝学の基礎知識(オンデマンド型) 第4回: 学習1(定義と分類)(オンデマンド型) 第5回: 学習2(基礎理論)(オンデマンド型) 第6回: 学習3(遺伝と生理的機構)(オンデマンド型) 第7回: 学習4(系統発生と生態学的機能)(オンデマンド型) 第8回: 繁殖行動1(分類と調節機構)(オンデマンド型) 第9回: 繁殖行動2(雌雄の繁殖戦略)(オンデマンド型) 第10回: 繁殖行動3(性淘汰と行動進化)(オンデマンド型) 第11回: 繁殖行動4(親的投資と母性発現)(オンデマンド型) 第12回: 認知・思考1(認知地図と概念学習)(オンデマンド型) 第13回: 認知・思考2(言語と心の理論)(オンデマンド型) 第14回: 系統発生と個体発生(オンデマンド型) 第15回: まとめ(オンデマンド型)			
* 授業の回数や内容, 方式は変更となる可能性がある。			
授業外学習(予習・復習)			
毎回の講義内容を復習し、manabaに示した課題を実施すること。			
教科書			
適宜資料をmanabaにアップする。			
参考書			
M. R. パピーニ著 比較心理学研究会訳 2005 『パピーニの比較心理学』 北大路書房 長谷川真理子 2005 クジャクの雄はなぜ美しい? <増補改訂版> 紀伊國屋書店 近藤他編 2010 『脳とホルモンの行動学 ?行動神経内分泌学への招待?』 西村書店 藤田和生 1998 『比較認知科学への招待 「こころ」の進化学』 ナカニシヤ出版 藤田統 編著 1991 『動物の行動と心理学』 教育出版			
成績の評価基準			
毎回の課題(70%)と最終レポート(30%)にて評価する。			

オフィスアワ -

月曜2限（研究室）。ただし、できるだけ事前にメールで連絡のこと。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

平成28年度以前入生は「比較行動心理学」に読み替え。

すでにこの単位を修得している者および平成28年度に「比較行動心理学」の単位を修得している者の、重ねての単位修得は認めない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH2416			
科目名			
臨床心理学（臨床心理学概論）			
英語名			
Clinical Psychology			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
飯田昌子		099-285-8884	m_iida@leh.kagoshima-u.a.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
臨床心理学は、人々が抱える困難を心理学的な観点から理解し、援助するための理論と方法を追求する学問である。本授業では、臨床心理学の成り立ちと、日本における臨床心理学の発展及び独自性について概説する。また、支援を必要とする人々に実際に関わる際に必要な専門的援助実践を学ぶための導入として、臨床心理学の主要な理論について概説する。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理学の成り立ちを説明できる。</li> <li>臨床心理学の代表的な理論を説明できる。</li> </ul>			
授業計画			
第1回：ガイダンス及び臨床心理学の全体構造について（課題提出型） 第2回：臨床心理学の成り立ち（課題提出型） 第3回：臨床心理学の発展（課題提出型） 第4回：日本における臨床心理学の発展と独自性（課題提出型） 第5回：臨床心理学の代表的な理論（1）：力動論（課題提出型） 第6回：臨床心理学の代表的な理論（2）：精神分析の技法（課題提出型） 第7回：臨床心理学の代表的な理論（3）：行動論・認知論（課題提出型） 第8回：臨床心理学の代表的な理論（4）：行動療法と認知行動療法（課題提出型） 第9回：臨床心理学の代表的な理論（5）：人間性心理学（課題提出型） 第10回：臨床心理学の代表的な理論（6）：クライアント中心療法の歴史的発展（課題提出型） 第11回：臨床心理学の代表的な理論（7）：自己理論（課題提出型） 第12回：臨床心理学の代表的な理論（8）：システム論（課題提出型） 第13回：親子のカウンセリング（課題提出型） 第14回：親と子の心理（課題提出型） 第15回：まとめ：臨床心理学のこれからの方向性（課題提出型） 定期試験（期末レポート）			
授業外学習（予習・復習）			
予習：講義内容について自ら文献学習する。 復習：講義内容について自ら文献学習する。			
教科書			
指定しない			
参考書			
よくわかる臨床心理学 下山晴彦編 ミネルヴァ書房 2003年			
成績の評価基準			
臨床心理学を学ぶ上での必要な知識や概念を習得したか等の観点から小レポート数回（60%）と期末レポート（40%）を課す			
オフィスアワ -			
月曜4限。ただし事前に研究室に連絡すること。連絡方法については授業中に指示する。授業直後であれば質問			

に応じます。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DED2432

科目名

神経科学（神経・生理心理学）

英語名

Neuroscience

開講学科

コース

人文学科

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

菅野康太

099-285-7624

canno@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

本講義は、行動を制御する脳の機能に的を絞り解説を行う。脳はあまりに広大で、私の知識もまだまだ及ばないし、神経科学のすべての分野を網羅的に解説することは時間的にも不可能である。一方、神経科学は、心理学、生物学、医学、工学、情報科学、認知科学など、多岐にわたる学問分野の融合領域であるため、教えるべきスタンダードというものが設定しづらい。通常は、脳の構造や細胞の構造などをはじめに教え、その後、様々な分野のトピックを少しずつ取り上げる。しかし本講義では、序盤に偏りがあることを承知の上で、初学者が知識の大海で溺れてしまわないための一つの道標・ストーリーとして、人間を含む様々な動物の行動、とくに後半では他個体との間で起こる行動に的を絞り、脳を理解するための一つのストーリーを提示したい。各章のトピックごとに話を進めながら、その都度、基本知識を補足するスタイルをとり、第10回を過ぎたあたりで基本事項が一通り解説されているように設計をしている。分子・細胞生物学的な基本知識や脳の構造と機能については主に第13回で復習もかねてまとめ、実験技術、歴史的背景などについても最後の2回でまとめる。

さらに、本講義では、近年の神経科学や生物学の発展とともに生じると考えられる社会問題なども取り上げ、課題図書（小説など）を通じて未来の社会を考えるレポートなども実施する。

学修目標

- (1) 脳や生物学の面白さに触れ、以後、自学できるようになる。
- (2) 私たちを客観的に「見る」ということを考察し、体現する姿勢を持つ。
- (3) 自分と他人、ヒトと動物を比較し、異質な他者と「自分」の間に存在する、共通性と差異に対する感性を意識的に維持できるようになる。
- (4) 学問と私たちの生活、そして社会との繋がりについて考えられるようになる。

授業計画

- 第1回 ガイダンスおよび、1章 我々は世界をどのように感じているか（視覚）
- 第2回 1章 我々は世界をどのように感じているか（視覚の多様性）
- 第3回 1章 我々は世界をどのように感じているか（嗅覚および外部刺激の受容機構の基本）
- 第4回 2章 本能的な対他者行動（母子関係、養育行動、触覚）
- 第5回 2章 本能的な対他者行動（性分化、攻撃、雌雄間コミュニケーション）
- 第6回 3章 そして生まれた私たち（遺伝的個性）
- 第7回 3章 そして生まれた私たち（遺伝子・神経の疾患1：神経発生と脳の成り立ち、基本事項）
- 第8回 3章 そして生まれた私たち（遺伝子・神経の疾患2：精神疾患、発達障害、精神薬理）
- 第9回 4章 形成されるコミュニティ（社会性とは？）
- 第10回 4章 形成されるコミュニティ（親和性、家畜化、共感、モラル）
- 第11回 4章 形成されるコミュニティ（言語と音）
- 第12回 5章 神経科学の基本事項まとめ（脳の構造と機能：復習と補足）
- 第13回 6章 社会的な課題（神経倫理、先端技術、人工知能など） \*レポート提出の週
- 第14回 6章 社会的な課題（先端医療、脳機能の可視化）
- 第15回 6章 社会的な課題（全体のまとめと授業を通して伝えたかったこと）

\*2020年度はZoomを用いたリアルタイムのオンライン講義として行い、その録画もオンデマンド配信する予定。

授業形態は、コロナウィルス感染症の流行状況により変更となる可能性がある。

#### 授業外学習（予習・復習）

レポートのための引用文献を探して読む。興味を持ったことがあれば随時調べて、質問としてぶつけて欲しい。

#### 教科書

なし。

資料をmanabaを通じて配布する。

レポート用の課題図書3つは、生協書籍部に入荷してもらっているが、初回授業までに用意する必要はない。ガイダンスを聞いた後に購入することをお勧めする（大抵3つのうち1つを購入する人が多い）。

#### 参考書

1. 脳神経科学イラストレイテッド（羊土社）
2. 脳-分子・遺伝子・生理-（裳華房）
3. カールソン神経科学テキスト（丸善）
4. 分子脳科学（化学同人）
5. 脳とホルモンの行動学（西村書店）
6. その他、配布資料に記載する（含む原著論文）。

また、以下は学内ネットワークからは電子版の閲覧が可能

・脳神経科学イラストレイテッド

<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000014673?0>

・はじめて学ぶ、情報伝達の制御と脳の機能システム  
（みる見るわかる脳・神経科学入門講座 後編）

<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000014672?3>

・脳 分子・遺伝子・生理 （新・生命科学シリーズ）

<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000023932/wicket:pageMapName/wicket-2?3>

・脳科学エッセンシャル 精神疾患の生物学的理解のために  
（専門医のための精神科臨床リュミエール 16）

<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000017512/wicket:pageMapName/wicket-2?5>

#### 成績の評価基準

レポート（50%）、期末テスト（50%）

#### オフィスアワ -

授業が火曜3限なので、そのあとの4限（研究室）でどうでしょうか。

出来れば事前のメールか、授業後に話しかけて確認して下さい。

#### アクティブ・ラーニング

ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

#### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

1

#### 備考（受講要件）

高校生物や共通教育の生物学関連科目など、前提知識は必要としない。

\*履修上の注意

旧科目名「神経科学」です。心理学コース（人間と文化）の学生にとっては「選択科目」、その他のコース・学科の学生にとっては「自由科目」です。

重複履修は不可です。

\*公認心理師対応

公認心理師試験受験資格に必要な「神経・生理心理学」に対応します。



ナンバリングコード			
科目名			
生涯発達心理学（旧 発達心理学）			
英語名			
Life Span Developmental Psychology			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	
安部幸志			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>人間は誕生から死に至るまで常に発達を続け、変化していく生物である。本授業では、人間の生涯のうち、老年期における課題と特性に着目し、具体的なエピソードを交えて概説する。また、それぞれの発達段階における課題について、よりよく理解するためにグループワークにおけるディスカッションを積極的に実施する。</p>			
学修目標			
<p>1．老年期の心理的発達課題について理解し、説明できる。 2．老年期の心理的諸問題と地域における解決方法について関心を持ち、対処方法を考えることができる。</p>			
授業計画			
<p>第1回 本授業のねらいと進め方（課題提出型） 第2回 超高齢社会の現状と課題（課題提出型） 第3回 身体機能の老化（課題提出型） 第4回 認知機能の老化（課題提出型） 第5回 高齢者と交通事故（課題提出型） 第6回 老年期を対象とした研究アプローチ（課題提出型） 第7回 認知機能のリハビリテーション（課題提出型） 第8回 認知機能のリハビリ体験と報告（課題提出型） 第9回 老年期の心理的問題（課題提出型） 第10回 認知症とは何か（課題提出型） 第11回 介護ストレス（課題提出型） 第12回 介護スタッフのストレス（課題提出型） 第13回 終末期の心理（課題提出型） 第14回 高齢者を支えるためのグループワーク（課題提出型） 第15回 まとめ（課題提出型）</p>			
<p>この計画は今後の状況によって授業回数や内容が変更する可能性がある。なお、学生の接続環境が整えばリアルタイム型のグループワークを行う可能性があるため、各自で準備を進めておくこと。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>第1回 課題作成（60分） 第2回 課題作成（60分） 第3回 課題作成（60分） 第4回 課題作成（60分） 第5回 課題作成（60分） 第6回 課題作成（60分） 第7回 課題作成（60分） 第8回 課題作成（60分） 第9回 課題作成（60分） 第10回 課題作成（60分） 第11回 課題作成（60分）</p>			

第12回 課題作成（60分）

第13回 課題作成（60分）

第14回 課題作成（60分）

## 教科書

特に指定しない

## 参考書

授業中に適宜紹介する

## 成績の評価基準

提出された課題 60%

期末レポート 40%

## オフィスアワ -

## アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

## 備考（受講要件）

状況が整えば、リアルタイム型グループワークを行う可能性がある。その際は、積極的にコミュニケーションすることが必要である。ただし、接続に不安がある学生がいた場合は、実施しない可能性もある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会心理学演習			
英語名			
Social Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大園博記		099-255-7438	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
社会心理学の研究アプローチについて理解し、自ら研究計画を立てられるようになることを目指す。具体的には、毎週担当者が本や論文の発表をして、全体でディスカッションをする中で、「面白い研究とは何か」「どのようにしたら知りたいことがわかるのか」について理解を深める。その上で、それぞれが自らの研究アイデアを持ち寄り、議論する中でアイデアを洗練させていく。			
学修目標			
社会心理学の諸理論と研究手法について、研究論文を講読する中で理解できるようになることを目指す。そして、自ら問題を発見し、それを探求していく方法論や思考法を身につけることを目標とする。			
授業計画			
* 対面形式でおこなう予定であるが、教室確保の難しさや状況の悪化により、遠隔形式に変更となる可能性がある。遠隔形式の場合は、全て【リアルタイム型】での実施とする。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 オリエンテーション【対面型】			
第2回：英語論文発表：inter-group competition【対面型】			
第3回：グループでの実験研究?計画立案【対面型】			
第4回：英語論文発表：social dilemma【対面型】			
第5回：英語論文発表：fairness【対面型】			
第6回：グループでの実験研究?マテリアル作成【対面型】			
第7回：英語論文発表：sexual differences【対面型】			
第8回：英語論文発表：mating behavior【対面型】			
第9回：グループでの実験研究?マテリアル完成【対面型】			
第10回：英語論文発表：parental behavior【対面型】			
第11回：英語論文発表：happiness【対面型】			
第12回：グループでの実験研究?データ分析【対面型】			
第13回：英語論文発表：reputation【対面型】			
第14回：英語論文発表：punishment and reward【対面型】			
第15回：グループでの実験研究?発表【対面型】			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：発表の準備			
復数：議論の中で提示された問題点について再考			

## 教科書

指定しない。

## 参考書

適宜紹介する。

## 成績の評価基準

発表と討論への取り組み態度（40％）とグループ研究への取り組み態度（40％）と期末試験（20％：持ち込み可）による。なお、期末試験が実施できない状況となった場合、期末レポート（20％）に変更する可能性がある。変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

## オフィスアワ -

木曜5限

## アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

## 備考（受講要件）

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
臨床心理学演習			
英語名			
Clinical Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
飯田昌子		099-285-8884	m_iida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
臨床心理学に関する国内外の論文の講読を行い、研究計画に基づいたデータ収集及び解析、論文作成を行う。			
学修目標			
1. 研究テーマに沿った研究方法、データ収集及び解析方法を理解する 2. 研究論文としてのまとめ方を学ぶ			
授業計画			
* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanaba のコースニュースや授業内において通知する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（課題提出型）</p> <p>第2回：調査デザイン（1）：調査テーマ，目的，タイトルの決定（オンライン型）</p> <p>第3回：調査デザイン（2）：仮説，スケジュール，予算の決定（オンライン型）</p> <p>第4回：調査デザイン（3）：調査対象者，データ収集法（オンライン型）</p> <p>第5回：調査デザイン（4）：データの編集・集計・分析デザインの検討（オンライン型）</p> <p>第6回：研究レポートの構想発表会（1）：テーマ，仮説，デザインについて（オンライン型）</p> <p>第7回：質問紙の構成と体裁（オンライン型）</p> <p>第8回：質問紙の書式やレイアウト（オンライン型）</p> <p>第9回：研究レポートの構想発表会（2）：自作質問紙の体裁について（オンライン型）</p> <p>第10回：データ解析（1）：データの形式，入力と代表値（オンライン型）</p> <p>第11回：データ解析（2）：データの関連をみる（オンライン型）</p> <p>第12回：データ解析（3）：2変数以上の相違をみる（オンライン型）</p> <p>第13回：研究レポートの構想発表（1）：総合ディスカッション（オンライン型）</p> <p>第14回：研究レポートの構想発表（2）：研究倫理について（オンライン型）</p> <p>第15回：総括（課題提出型）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
予習：研究テーマに沿った先行研究を講読しておくこと			
復習：授業で指摘された事項をもとに，再度先行研究を検索し，研究テーマを構築すること			
教科書			
特に指定しない			
参考書			
特に指定しない			
成績の評価基準			
臨床心理学に基づいて説明できる技術を習得したか等の観点から，平常の学習状況（10%），発表資料（20%），プレゼンテーション力（30%）。レポート（40%）により，総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
月曜4限。ただし事前に連絡すること。			
アクティブ・ラーニング			

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中13回

備考(受講要件)

心理学コースの学生に限る

\*遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanaba のコースニュースや授業内において通知する。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

比較心理学演習（旧 比較行動心理学演習）

## 英語名

Comparative Psychology 1

## 開講学科

## コース

人文学科

心理学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・心理学コース / 選択  
科目

演習

2単位

3～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

富原一哉

099-285-7536

tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

比較行動心理学に関する最近の内外の論文や概説書を講読することを通して、心理学研究に必要な知識と技能の修得を目指す。授業においては、毎週授業で取り扱う論文等（英文）を指定し、自習すべき課題を設定する。授業では、英文和訳、内容の概説、課題内容の発表、討論等を行ってもらうため、事前の十分な予習を必要とする。

## 学修目標

- ・比較心理学と行動神経科学に関する基礎知識を修得する。
- ・心理学における実験的研究技法についての最新の知識を得る。
- ・心理学の原著論文を講読する力を付ける。
- ・自ら問題設定を行い、それを心理学的に研究するための方法を身につける。

## 授業計画

- 第1回：ガイダンス  
 第2回：行動研究の基礎（観察法）  
 第3回：行動研究の基礎（実験法）  
 第4回：行動研究の基礎（生理的研究法）  
 第5回：個体行動の基盤（反射と走性）  
 第6回：個体行動の基盤（学習と記憶）  
 第7回：個体行動の基盤（不安と恐怖）  
 第8回：社会行動の基盤（攻撃行動）  
 第9回：社会行動の基盤（性行動）  
 第10回：社会行動の基盤（養育行動）  
 第11回：行動の適応と進化  
 第12回：遺伝子と淘汰  
 第13回：協力と競争  
 第14回：性差と発達  
 第15回：まとめ

\* 授業は全て「リアルタイム型(オンライン型)」で実施する。なお、授業の回数や内容は変更となる可能性がある。

## 授業外学習（予習・復習）

毎回の論文訳と課題発表準備のための予習を必要とする。

## 教科書

適宜指定する。

## 参考書

授業中に紹介する。

## 成績の評価基準

毎回の授業における課題の達成度（70%）と討論への参加（30%）により評価する。

オフィスアワ -

月曜2限・研究室（できるだけ事前にメールで連絡をください）

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

平成28年度以前入生は「比較行動心理学演習」に読み替え。

心理学コース生（平成28年度以前入生は「人間と文化コース」生）に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
神経科学演習（旧 比較行動心理学演習）			
英語名			
Neuroscience 1			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
菅野康太		099-285-7624	canno@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
行動神経科学研究の過去から近年の動向をゼミナール形式で概説し、ディスカッションする。主たるテーマは、マウスの音声コミュニケーション、雌雄間コミュニケーション、情動行動、社会行動。読む文献はだいたい英語。前期の内容を引き継ぎ、より実践的な内容を議論する。			
学修目標			
(1) 生物学的神経科学研究の文献の探し方と読み方を理解する。 (2) 生物学的神経科学研究の実験技術を理解し、実施するための知識を準備をする。 (3) 自ら問題設定を行い、良い研究とは何かを考える。 (4) 卒業論文の構想を具現化する。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2～4回	マウスの社会行動研究の動向		
第5～7回	ヒトの疾患モデルとしての動物研究の動向		
第8～10回	実践的プレゼン		
第11～14回	自分独自の研究計画の立案と実行		
第15回	まとめ		
*2020年度はZoomを用いたリアルタイムのオンライン演習として行う。その他、卒業研究に関する実験指導などは適宜授業時間内外で対面でも行う。授業形態は、コロナウィルス感染症の流行状況により変更となる可能性がある。			
授業外学習（予習・復習）			
課題となる文献の読み込み、その内容説明のためのプレゼン資料作成			
教科書			
適宜指定する。			
参考書			
授業中に紹介する。また、講義科目「神経科学」の資料を活用。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度（発表内容とそのレジュメの評価点70%、授業での発言の評価点30%）による。			
オフィスアワ -			
木曜2限（研究室）など。ただし、前もってメール等で連絡することが望ましい。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
「人間と文化コース」もしくは「心理学コース」所属のゼミ生に限る。			

全ての回をZoomを用いたオンラインで行う。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

コミュニティ援助論演習（旧 臨床援助論演習）

## 英語名

Community Psychology 1

## 開講学科

人文学科

## コース

心理学コース

## 授業科目区分

人文・心理学コース / 選択  
科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

3～4年

## 担当教員

平田祐太郎

## 連絡先（TEL）

099-285-7540

## 連絡先（MAIL）

hirata@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

心理学・臨床心理学をはじめとした心理学に関する研究について、各自リサーチ・クエスチョンを設定し、そのテーマに基づき研究計画を立案する。研究計画や実際の調査やデータの整理・分析、考察を行い研究としてまとめる。なお、状況に応じてオンライン型、オンデマンド型を実施する。また今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

## 学修目標

- ・研究計画に基づき、適切に調査の実施が出来る
- ・収集したデータについて、心理学的手法を用いて分析・考察 できる
- ・論文・報告書としてまとめ、適切な方法で周囲に伝えることができる

## 授業計画

- 第1回：オリエンテーション（オンライン型）
- 第2回：調査実施計画の立案について（オンライン型）
- 第3回：文献購読（オンライン型）
- 第4回：調査実施上の方法・ならびに留意点について（オンライン型）
- 第5回：グループワーク（1）：リサーチクエスチョンの設定（オンライン型）
- 第6回：グループワーク（2）：データ収集（オンライン型）
- 第7回：グループワーク（3）：データ分析（オンライン型）
- 第8回：グループワーク（4）：結果のまとめと考察（オンライン型）
- 第9回：論文の構成作成（オンライン型）
- 第10回：結果と先行研究との対比による検討（オンライン型）
- 第11回：論文作成とプレゼンテーションの準備（オンライン型）
- 第12回：研究結果/研究計画に関するプレゼンテーション（オンライン型）
- 第13回：研究結果/研究計画に関するディスカッション（オンライン型）
- 第14回：研究結果のフィードバックの方法（オンライン型）
- 第15回：総括（オンライン型）

## 授業外学習（予習・復習）

- 予習：発表者が事前に適宜参考文献を熟読し、レジュメを作成すること（標準時間60分）
- 復習：ディスカッションを受け、各自で研究計画や調査、考察の修正を行うこと（標準時間60分）

## 教科書

特に指定しない

## 参考書

授業中に適宜紹介する

## 成績の評価基準

レポート及び授業への取り組む態度

## オフィスアワ -

月曜4限。ただし事前に連絡すること、連絡方法については授業中に指示する。授業直後であれば適宜質問に応じる。

## アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
司法・犯罪心理学			
英語名			
Forensic and Criminal Psychology			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
田口 真二			
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>1. 目的：犯罪や非行、犯罪被害、家事事件についての基本的知識を学び、犯罪・非行の原因や対策、再犯防止に関する心理的支援、さらに犯罪被害者に対する心理的支援等について考える機会を与えることを目指す。</p> <p>2. 内容：犯罪・非行や犯罪者、犯罪被害、家事事件に関する「実証的な研究」について概観する。再犯防止に関する心理的支援や犯罪被害者に対する心理的支援について考える。また、プロファイリングについても触れる。</p> <p>3. 方法：司法精神鑑定事例や文献上の事例、判例を中心に紹介、説明する。</p>			
学修目標			
<p>1. 犯罪・非行の原因や対策、犯罪被害、家事事件についての基本的知識が得られる。</p> <p>2. 再犯防止に関する心理的支援、犯罪被害者に対する心理的支援に関する知識が得られる。</p>			
授業計画			
授業のスケジュールは概ね次のとおりであるが、都合により入れかえ等を行う場合がある。			
<p>第1回 わが国における犯罪・非行の動向について</p> <p>第2回 少年鑑別所について</p> <p>第3回 精神鑑定について</p> <p>第4回 犯罪者の典型例 - 危険な常習的犯罪者</p> <p>第5回 殺人累犯者について</p> <p>第6回 間接自殺について</p> <p>第7回 知的障害者の犯罪</p> <p>第8回 窃盗癖について</p> <p>第9回 殺人加害者に転じたDV被害者の事例</p> <p>第10回 詐病の事例</p> <p>第11回 プロファイリングについて</p> <p>第12回 再犯防止に関する心理的支援について</p> <p>第13回 犯罪被害者に対する支援、とくに心理的支援について</p> <p>第14回 家事事件について</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習：次回の授業に関する資料を収集し、知識を得ておく。</p> <p>復習：配付した資料をもとに他の論文や著書等を参考にして知識を深める。</p>			
教科書			
必要に応じてレジメを配布する。			
参考書			
講義中に適宜指示する。			
成績の評価基準			
期末レポート(70%)、授業への参加態度(30%)とし、評価する。犯罪・非行の原因や対策、犯罪被害、家事事件に関する基本的知識、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について理解したものを合			

格とする。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

受講制限：心理学コース（平成30年度は人間と文化コース）に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

心理査定学演習（旧 心理療法演習）

## 英語名

Psychological Assessment 1

## 開講学科

## コース

人文学科

心理学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・心理学コース / 選択  
科目

演習

2単位

3～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

米田孝一

研究室099 - 285-7663

yoneda@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

前期の同演習授業を基に各自の卒業研究を進めていく。また、同時に心理検査、心理療法、実験手技についての修練を行う。

## 学修目標

1. 心身医学、認知神経科学の領域の英語論文が読める。
2. 研究テーマに必要な心理検査・心理療法が実施できる。
3. 自分が取得したデータを分析するための統計解析ができる。
4. 統計結果を解釈できる。

## 授業計画

遠隔形式での授業の予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況が好転した場合には対面授業に変更する可能性があります。授業形式を変更する場合はmanabaコースニュースでお知らせをします。

- 第1回 論文報告 / データミーティング1（オンライン）
- 第2回 論文報告 / データミーティング2（オンライン）
- 第3回 論文報告 / データミーティング3（オンライン）
- 第4回 論文報告 / データミーティング4（オンライン）
- 第5回 論文報告 / データミーティング5（オンライン）
- 第6回 論文報告 / データミーティング6（オンライン）
- 第7回 論文報告 / データミーティング7（オンライン）
- 第8回 論文報告 / データミーティング8（オンライン）
- 第9回 論文報告 / データミーティング9（オンライン）
- 第10回 論文報告 / データミーティング10（オンライン）
- 第11回 論文報告 / データミーティング11（オンライン）
- 第12回 論文報告 / データミーティング12（オンライン）
- 第13回 論文報告 / データミーティング13（オンライン）
- 第14回 論文報告 / データミーティング14（オンライン）
- 第15回 研究報告プレゼンテーション（オンライン）

## 授業外学習（予習・復習）

各自の研究テーマに即して論文検索を行う。

## 教科書

特になし

## 参考書

特になし

## 成績の評価基準

## オフィスアワー

今年度は新型コロナウイルス感染対策として、対面的相談は中止します。メールでお問い合わせください。

## アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

精神医学（精神疾患とその治療）

## 英語名

Psychiatry

## 開講学科

## コース

人文学科

心理学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・心理学コース / 選択  
科目

講義

2単位

3～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

中村雅之・佐々木なつき 他

## 共同担当教員

## 前後期

鹿児島大学医歯学総合研究科精神機能学分野教員及び  
鹿児島大学病院メンタルケアセンター教員

前期

## 授業概要

本講では精神医学において、代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法を学ぶとともに、本人や家族への支援を含む精神障害への対応を論考する。治療法においては、向精神薬をはじめとする薬剤による症状や心身の変化についても学ぶ。また、医療機関としての役割や連携についても理解を深める。

## 学修目標

代表的な精神疾患について成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援の観点から説明できる。向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について概説できる。どのような場合に医療機関への紹介が必要か説明できる。

## 授業計画

- 第1回 精神医学総論・症候学(課題提出型)
- 第2回 統合失調症(課題提出型)
- 第3回 気分障害(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第4回 神経症性障害・ストレス関連障害および身体表現性障害(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第5回 症状性および器質性精神障害(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第6回 認知症(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第7回 精神作用物質使用による精神および行動障害とてんかん(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第8回 パーソナリティ障害および行動の障害(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第9回 心身症および摂食障害(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第10回 知的障害および心理発達の障害(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第11回 睡眠医学(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第12回 コンサルテーション・リエゾン精神医学、緩和ケアおよび多職種連携(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第13回 精神保健福祉法(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第14回 精神薬理(課題提出型もしくはオンデマンド型)
- 第15回 期末試験(課題提出型の予定)

## 授業外学習（予習・復習）

教科書・参考図書のみならず、適宜文献を検索し、知識を深めていく。

## 教科書

現代臨床精神医学 改訂第12版（大熊輝雄著、金原出版）

## 参考書

## 成績の評価基準

期末試験、ただし3分の2以上の出席がないと受験資格がない。  
manaba上の課題の提出をもって出席確認とする。

## オフィスアワー

非常勤講師による授業であるので、授業時間外の対応はしない

## アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

人間と文化コース及び心理学コースの学生に限る

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
心理査定学演習（旧 心理療法演習）			
英語名			
Psychological Assessment 1			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
米田孝一		099-285-7663	yoneda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
心身医学、認知神経科学の領域における知見、検査・心理療法・研究手技を習得しながら、各自の卒業研究の土台を築く。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心身医学の基礎知識の習得</li> <li>2. 医学一般の基礎知識の習得</li> <li>3. 論文読解力の養成</li> <li>4. 研究手法（臨床研究・実験研究）の習得</li> <li>5. 臨床技法（心理検査・心理療法）の習得</li> <li>6. 論文作成力の養成</li> </ol>			
授業計画			
第1回	オリエンテーション / ゼミ員の関心領域発表（web）		
第2回	テキスト輪読 / 研究論文の探し方（web）		
第3回	テキスト輪読 / 研究テーマ探索 1（web）		
第4回	テキスト輪読 / 研究テーマ探索 2（web）		
第5回	テキスト輪読 / 研究テーマ発表（web）		
第6回	テキスト輪読 / 論文報告 / 研究計画 1（web）		
第7回	テキスト輪読 / 論文報告 / 研究計画 2（web）		
第8回	テキスト輪読 / 論文報告 / 研究計画 3（web）		
第9回	テキスト輪読 / 論文報告 / 研究計画 4（web）		
第10回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 1（web）		
第11回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 2（web）		
第12回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 3（web）		
第13回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 4（web）		
第14回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 5（web）		
第15回	研究報告（中間発表）		
今後の新型コロナウイルス感染状況次第で授業の回数、内容、形式は変更となる可能性があります。			
授業外学習（予習・復習）			
教科書			
特に無し			
参考書			
その都度紹介する			
成績の評価基準			
演習への積極性（50%）、レポート（50%）			
オフィスアワー			
メールでご連絡ください。			

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

パーソナリティ論（感情・人格心理学）

## 英語名

Theories of Personality

## 開講学科

## コース

人文学科

心理学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・心理学コース / 選択  
科目

講義

2単位

3～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

大石英史

大石：099-285-7052

大石：  
eoishi@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

なし

前期

## 授業概要

パーソナリティに関する講義を行います。パーソナリティについて、臨床心理学や発達心理学の観点から理解を深めていきます。また、現代社会における心の問題をめぐる諸課題を取り上げ、人間をより深く理解するための知識と態度について学びます。授業は資料を用いながらレポート課題の提出を中心に進めていきます。

## 学修目標

パーソナリティに関わる心理学の諸理論、評価方法、現代社会における心の諸問題について解説します。授業全体を通して、パーソナリティについての基本的な理解を深めるとともに、人間の多様性、多面性、そして個別性、独自性を尊重する態度を習得することを目指します。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション（課題提出型）  
 第2回 パーソナリティとは何か？（1）：定義をめぐって（課題提出型）  
 第3回 パーソナリティとは何か？（2）：類型論と特性論（課題提出型）  
 第4回 ライフサイクルとパーソナリティの発達（1）：乳幼児期から青年期まで（課題提出型）  
 第5回 ライフサイクルとパーソナリティの発達（2）：青年期から老年期まで（課題提出型）  
 第6回 パーソナリティとストレス：ストレスタイプとの関連（課題提出型）  
 第7回 パーソナリティと精神病理（課題提出型）  
 第8回 前半のまとめと中間試験（課題提出型）  
 第9回 愛着とパーソナリティ形成（1）：パーソナリティ形成と家族の役割（オンディマンド型）  
 第10回 愛着とパーソナリティ形成（2）：親子関係と愛着形成（オンディマンド型）  
 第11回 発達特性からみたパーソナリティ理解：発達障害の理解と援助（オンディマンド型）  
 第12回 人間理解の方法としてのパーソナリティ論：人間性心理学（オンディマンド型）  
 第13回 学校領域での心の問題への援助（1）：スクールカウンセラーの役割（オンディマンド型）  
 第14回 学校領域での心の問題への援助（2）：思春期特性と現代型不登校（オンディマンド型）  
 第15回 授業全体の振り返り（オンディマンド型）  
 第16回 期末レポート

オンディマンド型講義は、リアルタイム型や教室での通常講義に変更になる可能性があります。

## 授業外学習（予習・復習）

授業前後に下記参考書のいずれかを一読されることを推奨します。また、授業後は配布資料を丁寧に読み返すとともに、わかりづらい点については質問してください。

## 教科書

なし

## 参考書

- ・小塩真司著『パーソナリティ心理学』（サイエンス社 2014年）
- ・松井豊・櫻井茂男編『スタンダード自己心理学・パーソナリティ心理学』ライブラリスタンダード心理学9（サイエンス社 2015年）
- ・金坂弥起著『あなたはこども？ それともおとな？ 思春期心性の理解に向けて』（学芸みらい社 2016年）

- ・P.J.シルビア他著（金坂弥起訳）『大学で学ぶ心理学』（誠信書房 2019年）
- ・村山正治・滝口俊子編『事例に学ぶスクールカウンセリング』（創元社 2007年）
- ・大石由起子編著『青年期の危機とケア』（ふくろう出版 2009年）
- ・福田廣・名島潤慈監修『心理学へのいざない 研究テーマから語るその魅力』（北大路書房 2012年）
- ・大塚類・遠藤野ゆり編著、大石英史・川崎徳子・磯崎祐介著『エピソード 教育臨床』（創元社 2014年）

成績の評価基準

毎回出される課題レポート（50%）と期末試験（50%）を総合して評価します。

オフィスアワ -

大石：毎週月曜日15時から17時（法文棟1号館3階）

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

パーソナリティの測定に関する体験学習

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

講義の進捗状況によって各回の内容や順番を変更する場合があります。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH3409			
科目名			
社会心理学演習			
英語名			
Social Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大園博記		099-285-7538	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
社会心理学の研究アプローチについて理解し、自ら研究計画を立てられるようになることを目指す。具体的には、毎週担当者が本や論文の発表をして、全体でディスカッションをする中で、「面白い研究とは何か」「どのようにしたら知りたいことがわかるのか」について理解を深める。その上で、それぞれが自らの研究アイデアを持ち寄り、議論する中でアイデアを洗練させていく。			
学修目標			
社会心理学の諸理論と研究手法について、研究論文を講読する中で理解できるようになることを目指す。そして、自ら問題を発見し、それを探求していく方法論や思考法を身につけることを目標とする。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
第2回：日本語論文発表1：社会的認知			
第3回：日本語論文発表2：潜在的過程			
第4回：日本語論文発表3：帰属理論			
第5回：日本語論文発表4：自己正当化			
第6回：日本語論文発表5：協力関係			
第7回：日本語論文発表6：集団感葛藤			
第8回：日本語論文発表7：進化と適応			
第9回：日本語論文発表8：文化			
第10回：英語論文発表1：Social Cognition			
第11回：英語論文発表2：Cooperation			
第12回：英語論文発表3：Group			
第13回：英語論文発表4：Evolutionary Psychology			
第14回：英語論文発表5：Cultural Psychology			
第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：発表の準備			
複数：議論の中で提示された問題点について再考			
教科書			
指定しない。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
発表と討論への取り組み態度 (発表内容への評価点70% , 討論における発言の評価点30%) による。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH3411			
科目名			
臨床心理学演習			
英語名			
Clinical Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース/選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
飯田昌子		099-285-8884	m_iida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
臨床心理学に関する国内外の論文の講読を通して、臨床心理学領域で扱うデータの収集と解析方法を学び、それに基づいた研究レポートの作成方法を学ぶ。			
学修目標			
1. 臨床心理学における論理の構築及び研究法を理解する 2. 研究テーマに沿った研究方法、データ収集及び解析方法を理解する			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（課題提出型）</p> <p>第2回：調査デザイン（1）：調査テーマ，目的，タイトルの決定（オンライン型）</p> <p>第3回：調査デザイン（2）：仮説，スケジュール，予算の決定（オンライン型）</p> <p>第4回：調査デザイン（3）：調査対象者，データ収集法（オンライン型）</p> <p>第5回：調査デザイン（4）：データの編集・集計・分析デザインの検討（オンライン型）</p> <p>第6回：研究レポートの構想発表会（1）：テーマ，仮説，デザインについて（オンライン型）</p> <p>第7回：質問紙の構成と体裁（オンライン型）</p> <p>第8回：質問紙の書式やレイアウト（オンライン型）</p> <p>第9回：研究レポートの構想発表会（2）：自作質問紙の体裁について（オンライン型）</p> <p>第10回：回答法について（オンライン型）</p> <p>第11回：質問作成について（1）：ワーディング（オンライン型）</p> <p>第12回：質問作成について（2）：回答バイアスについて（オンライン型）</p> <p>第13回：研究レポートの構想発表（3）：質問項目について（オンライン型）</p> <p>第14回：研究レポートの構想発表（4）：倫理的ガイドラインについて（オンライン型）</p> <p>第15回：総括（オンライン型）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：研究テーマに沿った先行研究を講読しておくこと</p> <p>復習：授業で指摘された事項をもとに，再度先行研究を検索し，研究テーマを構築すること</p>			
教科書			
特になし			
参考書			
特になし			
成績の評価基準			
臨床心理学に基づいて説明できる技術を習得したか等の観点から，平常の学習状況（10%），発表資料（20%），プレゼンテーション力（30%）。レポート（40%）により，総合的に評価する。			
オフィスアワー			
月曜4限。ただし事前に連絡すること。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

13回

## 備考（受講要件）

人間と文化コースの学生に限る

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

学習心理学（学習・言語心理学）

## 英語名

Psychology of Learning

## 開講学科

## コース

人文学科

心理学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・心理学コース / 選択  
科目

講義

2単位

3～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

横山春彦

099-285-7535

yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

オンデマンド型の講義。授業の概要は以下の通りである。心理学の研究対象である人・動物（生活体）の本質である行動のメカニズムに関して、基本的かつ普遍的な事項を中心に授業を進める。それにより受講生自身、学習のしくみやその障害等に関して理解を深めることが目標となる。なお、人や動物を取り囲む身近な環境に生息する動植物等についても具体的な観察記録をまじえつつ話題を提供する。

## 学修目標

学習目標は以下の通りとする。

1. ヒト・動物の行動変化に関する現象やそのしくみ、あるいはそれらの障害等について理解を深める。
2. ヒトの場合、特に言語習得等のトピックについても理解を深める。
3. ヒトや動物の行動及び学習について身近な事象を例にそのトピックやしくみが説明できる。

## 授業計画

オンデマンド型の授業。授業内容は以下の通り。

- 第1回 行動の分類（レスポナント、オペラント）、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第2回 古典的条件づけ、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第3回 オペラント条件づけ、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第4回 アイメイト協会の例に、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第5回 生き物の性質1（目標購買など）、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第6回 生き物の性質2（学習セットなど）、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第7回 生き物の性質3（学習性無力など）、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第8回 学習要因1（フィードバックなど）、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第9回 学習要因2（ガイダンスなど）、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第10回 学習要因3（モデリングなど）、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第11回 記憶の構造（系列位置効果ほか）、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第12回 記憶の構造（短期記憶と感覚記憶ほか）、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第13回 記憶の構造（長期記憶ほか）、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第14回 記憶の構造（ニューロンの機能ほか）、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第15回 記憶障害ほか、身近な動植物、のらねこ研究、他（オンデマンド）
- 第16回 期末試験（manabaを用いレポート提出とする）

## 授業外学習（予習・復習）

予習：次回の講義で扱うテーマに関して興味・関心のある出来事や現象をまとめておくこと。

復習：授業で扱ったテーマに関して、理解が深まった点、さらに疑問が生じた点などについてmanabaでコメントを送信する。

## 教科書

指定しない。

## 参考書

適宜紹介する。

## 成績の評価基準

予習・復習の程度（40%）、期末試験の成績（60%）により総合的に評価する。

オフィスアワ -

毎週月曜日16:00~17:00

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
産業心理支援実習			
英語名			
Exercises in Psychological Support in Industry			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	実習	1単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大園 博記・山崎 真理子・榊原 良太		099-258-3578 (大園研究室)	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
この実習では、心理学の知識や方法論を、産業分野に応用させるための実践的な知識、技能を修得する。具体的には、地域の企業と連携し、その企業の実態や抱える課題を把握した上で、その解決方法を心理学の知識や方法を元にして提言し、企業からのフィードバックを得て、実践性を養う。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業が抱える課題に対して、心理学の知識や方法をどのように活用できるかを実践的に考えることができるようになる。</li> <li>2. 課題に対する解決策を模索し、説得的・客観的な提言ができるようになる。</li> <li>3. 地域の企業との関わりを通して、地域や企業の現状に触れ、進路に対するイメージを具体的に抱けるようになる。</li> </ol>			
授業計画			
* 対面形式と遠隔形式を隔週でおこなう予定であるが、状況によっては全て遠隔方式となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回: オリエンテーション 第2回: 連携先を知る 第3回: 提案に向けて1: 討論 第4回: 提案に向けて2: 資料作成 第5回: 提案に向けて3: 発表練習 第6回: 企業への発表1: 企画提案 第7回: 企画1: 調査準備 第8回: 企画2: 調査 第9回: 企画3: 調査結果分析 第10回: 企画4: 企画開催準備 第11回: 企画5: 企画開催 第12回: 成果報告準備1: 資料作成 第13回: 成果報告準備2: 発表練習 第14回: 企業への発表2: 成果報告会 第15回: 成果報告後の振り返り、まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
企業研究、調査の分析、プレゼンの作成など、各授業の前後に予習・復習が必要となる			
教科書			
特になし。			
参考書			
適宜授業中に提示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (100%) による			

## オフィスアワ -

火曜3限（大園）。ただし事前に研究室に連絡すること。

## アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

## 備考（受講要件）

心理学コースの学生のみ、履修可能。

なお、書籍購入費などがかかる可能性がある。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH2428			
科目名			
心理療法演習（心理演習）			
英語名			
Psychotherapy 1			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
飯田昌子・平田祐太郎・安部幸志		099 285 8884	m_iida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>心理などの対人援助職においては、心理に関する支援を要する者等へのコミュニケーションのもちかたや、多職種及び地域連携のとりかたが重要になる。本授業では心理支援を行う際に必要な知識及び技能の基本的な水準の修得を目指す。また、心理に関する支援を要する者等へのチームアプローチや連携のありかた等について学ぶ。</p>			
学修目標			
<p>1. 心理に関する支援を要する者等に関する以下の基本的な知識および技能を修得する。（1）心理に関する支援を必要とする者ならびに多職種連携に必要なコミュニケーション力、（2）代表的な心理検査の技能、（3）様々な分野における心理面接の技能、（4）多様な地域支援の実際について説明する技能。</p> <p>2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握し、彼らの現実生活を視野に入れた支援計画の作成ができる。</p> <p>3. 多職種の業務及び地域における様々な職種と業種について理解し、効果的なチームアプローチや連携のありかた及び心理師の果たすべき役割について説明できる。</p> <p>4. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務を説明できる。</p>			
授業計画			
<p>第1回演習に要する受講環境のガイダンス（課題提出型）</p> <p>第2回本授業におけるオリエンテーション（課題提出型）</p> <p>第3回傾聴に関する概要（オンデマンド型）</p> <p>第4回傾聴訓練ロールプレイ（オンライン型）</p> <p>第5回インテークロールプレイ（オンライン型）</p> <p>第6回心理検査の概説および体験学習（オンライン型）</p> <p>第7回公認心理師としての職業倫理（オンデマンド型）</p> <p>第8回児童期及び青年期の心理的問題に関する心理面接のロールプレイ（オンデマンド型）</p> <p>第9回児童期及び青年期の支援計画作成（オンデマンド型）</p> <p>第10回成人期及び老年期の支援計画の作成（オンデマンド型）</p> <p>第11回成人期及び老年期の心理的問題に関する心理面接のロールプレイ（オンデマンド型）</p> <p>第12回チームアプローチと多職種連携の概説とロールプレイ（オンデマンド型）</p> <p>第13回地域支援に必要な心理教育的手法の概説およびロールプレイ（オンデマンド型）</p> <p>第14回公認心理師の法的義務（オンデマンド型）</p> <p>第15回まとめと総括（オンデマンド型）</p>			
今後の状況によって授業内容や授業形態を変更することがある			
授業外学習（予習・復習）			
予習：個人ワーク等のための論文講読			
復習：体験学習等の振り返りや論文購読			
教科書			
適宜授業内で紹介をする			
参考書			

適宜授業内で紹介をする
成績の評価基準
各回に課された課題で総合的に評価する
オフィスアワー -
授業後、随時。事前に教員へメールで連絡をとること
アクティブ・ラーニング
グループワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回
備考（受講要件）
人間と文化コース（心理学コース）の学生に限る
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある
実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-DEH3408

## 科目名

比較心理学演習（旧 比較行動心理学演習）

## 英語名

Comparative Psychology 1

## 開講学科

人文学科

## コース

心理学コース

## 授業科目区分

人文・心理学コース / 選択  
科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

3～4年

## 担当教員

富原一哉

## 連絡先（TEL）

099-285-7536

## 連絡先（MAIL）

tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

比較行動心理学に関する最近の内外の論文や概説書を講読することを通して、心理学研究に必要な知識と技能の修得を目指す。授業においては、毎週授業で取り扱う論文等（英文）を指定し、自習すべき課題を設定する。授業では、英文和訳、内容の概説、課題内容の発表、討論等を行ってもらうため、事前の十分な予習を必要とする。

## 学修目標

- (1) 比較心理学と行動神経科学に関する基礎知識を修得する。
- (2) 心理学における実験的研究技法についての最新の知識を得る。
- (3) 心理学の原著論文を講読する力を付ける。
- (4) 自ら問題設定を行い、それを心理学的に研究するための方法を身につける。

## 授業計画

## 授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：行動の生理学的基礎（脳と神経系）
- 第3回：行動の生理学的基礎（シナプスと神経伝達物質）
- 第4回：行動の生理学的基礎（ホルモンと神経調節因子）
- 第5回：個体行動の神経内分泌的基盤（学習と記憶）
- 第6回：個体行動の神経内分泌的基盤（不安と恐怖）
- 第7回：個体行動の神経内分泌的基盤（睡眠と覚醒）
- 第8回：社会行動の神経内分泌的基盤（攻撃行動）
- 第9回：社会行動の神経内分泌的基盤（性行動）
- 第10回：社会行動の神経内分泌的基盤（養育行動）
- 第11回：適応と進化のメカニズム（社会生物学と進化心理学）
- 第12回：適応と進化のメカニズム（自然淘汰と性淘汰）
- 第13回：適応と進化のメカニズム（親的投資と繁殖戦略）
- 第14回：適応と進化のメカニズム（遺伝子と行動）
- 第15回：まとめ

\* 授業は全て「リアルタイム型(オンライン型)」で実施する。なお、授業の回数や内容は変更となる可能性がある。

## 授業外学習（予習・復習）

毎回の論文訳と課題発表のための予習を必要とする。

## 教科書

適宜指定する。

## 参考書

授業中に紹介する。

## 成績の評価基準

毎回の授業における課題の達成度（70%）と討論への参加（30%）により評価する。

オフィスアワ -

月曜2限(研究室)。ただし、できるだけ事前にメールで連絡のこと。

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

平成28年度以前入生は「比較行動心理学演習」に読み替え。

心理学コース生(平成28年度以前入生は「人間と文化コース生」)に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH3408			
科目名			
神経科学演習（旧 比較行動心理学演習）			
英語名			
Neuroscience 1			
開講学科		コース	
人文学科		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
菅野康太		099-285-7624	canno@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
行動神経科学研究の過去から近年の動向をゼミナール形式で概説し、ディスカッションする。主たるテーマは、マウスの音声コミュニケーション、雌雄間コミュニケーション、情動行動、社会行動。読む文献はだいたい英語。ただし、基礎知識を日本語ベースで与えるところから始める。			
学修目標			
(1) 生物学的神経科学研究の文献の探し方と読み方を理解する。 (2) 生物学的神経科学研究の実験技術を理解し、実施するための知識を準備をする。 (3) 自ら問題設定を行い、良い研究とは何かを考える。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2～4回	研究とはどのようなものか？（論文の書き方、読み方、実験の基礎知識）		
第5～7回	マウスの社会行動		
第8～10回	ヒトの疾患モデルとしての動物研究		
第11～14回	自分独自の研究をするための実験計画の進め方		
第15回	まとめ		
【遠隔授業対応】			
全て、Zoomを用いたオンライン授業とする。前期中に対面型授業が可能となれば、切り替える。			
授業外学習（予習・復習）			
課題となる文献の読み込み、その内容説明のためのプレゼン資料作成			
教科書			
適宜指定する。			
参考書			
授業中に紹介する。また、講義科目「神経科学」の資料を活用。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度（発表内容とそのレジュメの評価点70%、授業での発言の評価点30%）による。			
オフィスアワ -			
木曜2限（研究室）など。ただし、前もってメール等で連絡することが望ましい。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
「人間と文化コース」もしくは「心理学コース」所属のゼミ学生に限る。 全ての回をZoomを用いたオンラインで行う。			
実務経験のある教員による実践的授業			



ナンバリングコード

FHS-DEH3410

科目名

コミュニティ援助論演習（旧 臨床援助論演習）

英語名

Community Psychology 1

開講学科

コース

人文学科

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択科目

演習

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

平田祐太郎

099-285-7540

hirata@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

心理学・臨床心理学をはじめとした心理学の国内外の論文を講読することを通して、研究動向と手法の理解を目指す。受講生が各自の関心に基づき、テーマを設定し、先行研究について調べ、グループでディスカッションを行う。ディスカッションを通して、批判的に理解・検討を行う中で、研究計画作成を目指す。なお、状況に応じてオンライン型、オンデマンド型を実施する。また今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

学修目標

- ・心理学論文等を適切に参照できる。
- ・先行研究を批判的に理解・検討できる。
- ・心理学的研究計画を作成できる。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：心理学研究法について
- 第3回：文献検索方法について
- 第4回：研究計画書の書き方について
- 第5回：文献講読（1）：テーマ設定について
- 第6回：文献講読（2）：データ収集の技法（集合調査法）
- 第7回：文献講読（3）：データ収集の技法（インターネット調査法）
- 第8回：文献講読（4）：データ収集の技法（構造化面接法）
- 第9回：質問紙等の調査プロセスについて
- 第10回：研究倫理ガイドラインの概説：倫理的配慮の必要性
- 第11回：インフォームド・コンセントの取り方
- 第12回：匿名性の保障と回答者の権利
- 第13回：倫理ガイドラインに関するまとめ
- 第14回：研究発表の方法
- 第15回：総括

\* なお、全ての授業をオンライン型にて実施を行う

授業外学習（予習・復習）

予習：発表者が事前に適宜参考文献を熟読し、レジュメを作成すること（標準時間60分）

復習：発表レジュメに沿って各自で参考文献等を精読すること（標準時間60分）

教科書

特に指定しない

参考書

授業中に適宜紹介する

成績の評価基準

レポート及び授業への取り組み態度

オフィスアワ -

月曜4限。ただし事前に連絡すること。連絡方法については授業中に指示する。授業直後であれば適宜質問に応じる。

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

心理学コース所属生のみ

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

多変量データ解析演習(旧 心理学統計法演習)

## 英語名

## 開講学科

人文学科

## コース

心理学コース

## 授業科目区分

人文・心理学コース/選択  
科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

3~4年

## 担当教員

榎原良太・山崎真理子

## 連絡先(TEL)

099-285-7519

## 連絡先(MAIL)

sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

統計ソフト(HAD)を用いて、これまでに学習した基礎的な分析から、近年盛んに用いられるようになった応用的な分析まで、多変量データの分析手法を広く習得する。

## 学修目標

- ・HADの基本的な操作法を身につける
- ・データの特性に応じた適切な分析手法を選択、実行することができる
- ・分析結果を適切に読み解き、解釈することができる
- ・卒業論文に向けて、独力でデータを解析できる力を身につける

## 授業計画

遠隔形式で講義を進めます。HADは無料ソフトなので、大学のPCでなくても利用可能です。  
録画したオンデマンド型が中心。一部、リアルタイム(質問・相談しやすい)の実施も検討中。  
後者の場合も、諸事情でリアルタイムに参加できない事態が発生するケースも想定して対応します。  
担当者と連絡が取りたい場合、メールで問い合わせて下さい。  
今年度は特に、相談したいこと、確認したいこと、不安があれば遠慮せずどうぞ。  
後期は、一部の学生が遠隔講義と対面講義の両方を履修する可能性あり。  
様々な受講スタイルの学生を想定し、「一部の学生に不利益が生じる」ことのないよう対応します。

第1回 オリエンテーション

第2回 t検定とノンパラメトリック検定

第3回 1要因分散分析

第4回 2要因分散分析

第5回 実際のデータを用いた解析演習(実験計画法、t検定、分散分析)

第6回 探索的因子分析

第7回 重回帰分析

第8回 共分散構造分析(確認的因子分析、モデル検証と適合度)

第9回 共分散構造分析(多母集団同時分析、媒介分析)

第10回 マルチレベル分析(階層性のあるデータの特徴、級内相関)

第11回 マルチレベル分析(階層性のあるデータの分析手法)

第12回 一般化線形モデル(ポアソン回帰)

第13回 一般化線形モデル(ロジスティック回帰)

第14回 欠損値推定、エフェクトコーディング、ベイズ推定の概要

第15回 まとめ

## 授業外学習(予習・復習)

HADの基本操作を習得するために、教科書や配布資料を授業前や授業後に適宜読んでおくこと。

## 教科書

『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』 著:小宮あすか・布井雅人

## 参考書

成績の評価基準

授業内課題(100%)

オフィスアワ -

火曜2限、事前にメールにて連絡すること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15

備考(受講要件)

卒業研究で多変量データを扱う予定がある場合は、積極的に受講することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF4401			
科目名			
卒業科目（人間と文化）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		人間と文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
安部幸志	285-7536	tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
安部幸志、飯田昌子、大園博記、菅野康太、榊原良太、平田祐太郎、山崎真理子、横山春彦、米田孝一		後期	
授業概要			
指導教員との綿密な打合せに基づき卒業論文を作成する。まず、学部における心理学の学習成果をもとに研究テーマを設定する。次に、研究テーマとなった問題の解決のために、実験・調査等の科学的手法を用いてデータを収集する。さらに、これを統計等の実証的手法によって分析し、結論を得て、論文としてまとめる。			
学修目標			
実証的手法に基づく科学的な人間理解を実践し、その結果を適確に表現できる能力を身につける。			
授業計画			
1．研究テーマの設定 2．文献の収集 3．研究デザイン的设计 4．データ収集 5．データ分析と考察 6．論文の作成			
この授業計画は状況によって回数や内容が変更する可能性がある。			
授業外学習（予習・復習）			
先行研究のレビュー、研究方法の検討、実験・調査の実施、データの分析と考察、論文の作成など。			
教科書			
特になし。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
論文作成過程および提出論文の評価。			
オフィスアワ -			
各指導教員に確かめること。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
指導教員との綿密な打合せを行うこと。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4401			
科目名			
卒業科目(人間と文化)			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		人間と文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
安部幸志	285-7536		tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員			前後期
横山春彦、飯田昌子、大園博記、榊原良太、平田祐太朗			前期
授業概要			
指導教員との綿密な打合せに基づき卒業論文を作成する。まず、学部における心理学の学習成果をもとに研究テーマを設定する。次に、研究テーマとなった問題の解決のために、実験・調査等の科学的手法を用いてデータを収集する。さらに、これを統計等の実証的手法によって分析し、結論を得て、論文としてまとめる。			
学修目標			
実証的手法に基づく科学的な人間理解を実践し、その結果を適確に表現できる能力を身につける。			
授業計画			
1. 研究テーマの設定 2. 文献の収集 3. 研究デザインの設計 4. データ収集 5. データ分析と考察 6. 論文の作成			
授業外学習 (予習・復習)			
先行研究のレビュー、研究方法の検討、実験・調査の実施、データの分析と考察、論文の作成など。			
教科書			
特になし。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
論文作成過程および提出論文の評価。			
オフィスアワー			
各指導教員に確認すること。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
指導教員との綿密な打合せを行うこと。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
生涯発達心理学演習（旧 臨床心理学演習）			
英語名			
Life Span Developmental Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科		人間と文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	
安部幸志			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
生涯発達心理学に関する卒業論文作成に必要なスキルを身に付けることを目標とし、関連する文献を調べ、報告していく形で授業を進行する。また、研究を理解するために必要な統計スキル等については、実際のデータを収集・分析する等、一連の研究に参加することで、実践的に身に付けることを目指す。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯発達心理学分野における最新の研究について理解する</li> <li>2. 卒業論文作成に必要な研究計画を作成することができる</li> <li>3. 実際の調査研究に参加することで、高齢者やその家族の諸問題を体験・体感する</li> </ol>			
授業計画			
第1回 オリエンテーション（リアルタイム配信型） 第2回 卒業論文における調査計画と予備調査計画（リアルタイム配信型） 第3回 先行研究結果の発表（リアルタイム配信型） 第4回 先行研究結果の発表（リアルタイム配信型） 第5回 具体的な調査実施の手続きについて（リアルタイム配信型） 第6回 調査準備（リアルタイム配信型） 第7回 データ入力と予備分析（課題提出型） 第8回 データ分析手法の紹介（リアルタイム配信型） 第9回 個別の分析結果の解釈について（リアルタイム配信型） 第10回 先行研究の紹介と研究論文の解釈について（リアルタイム配信型） 第11回 多変量解析結果に基づく資料作成（課題提出型） 第12回 卒業論文における調査打ち合わせ（リアルタイム配信型） 第13回 卒業論文における調査内容の確認（リアルタイム配信型） 第14回 卒業論文の構想発表（リアルタイム配信型） 第15回 まとめ（課題提出型）			
この授業計画は状況によって回数や内容が変更する可能性がある。			
授業外学習（予習・復習）			
第2回 調査計画の作成（300分） 第3回 発表準備（300分） 第4回 発表準備（300分） 第5回 調査方法に関する復習（300分） 第6回 調査準備（300分） 第8回 データ分析（300分） 第9回 データ分析（300分） 第10回 発表準備（300分） 第11回 発表準備（300分） 第12回 発表準備（300分） 第13回 卒論調査の準備（300分）			

## 第14回 発表準備（300分）

教科書

参考書

成績の評価基準

授業における発表：40%

卒業論文における調査計画：60%

オフィスアワー

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

生涯発達心理学演習（旧 臨床心理学演習）

## 英語名

Life Span Developmental Psychology 1

## 開講学科

## コース

人文学科

人間と文化コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

人文・心理学コース / 選択  
科目

演習

2単位

3～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

安部幸志

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

生涯発達心理学に関する卒業論文作成に必要なスキルを身に付けることを目標とし、関連する文献を調べ、報告していく形で授業を進行する。また、研究を理解するために必要な統計スキル等については、実際のデータを収集・分析する等、一連の研究に参加することで、実践的に身に付けることを目指す。

遠隔授業では、リアルタイム型授業で意見交換を行う可能性があるため、各自で準備をしておくこと。

## 学修目標

1. 生涯発達心理学分野における最新の研究について理解する
2. 卒業論文作成に必要な研究計画を作成することができる
3. 実際の調査研究に参加することで、高齢者やその家族の諸問題を体験・体感する

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション（課題提出型）  
 第2回 研究論文の検索手法について（課題提出型）  
 第3回 研究論文における統計手法について（課題提出型）  
 第4回 老年期の諸問題に関する論文紹介（リアルタイム型）  
 第5回 老年期の諸問題に関するレビュー作成（課題提出型）  
 第6回 日本における介護者の問題に関する論文紹介（リアルタイム型）  
 第7回 欧米における介護者の問題に関する論文紹介（リアルタイム型）  
 第8回 実際の調査データの分析（課題提出型）  
 第9回 実際の調査研究の振り返り（リアルタイム型）  
 第10回 実際のデータから見てきた現状と課題報告（課題提出型）  
 第11回 調査研究データの分析と傾向（リアルタイム型）  
 第12回 調査研究データに対する多変量解析結果（課題提出型）  
 第13回 研究における考察とまとめの記述方法（課題提出型）  
 第14回 次期調査計画の立案（課題提出型）  
 第15回 まとめ（リアルタイム型）

今後の状況次第で授業回数、授業形態、内容は変更となる可能性がある。

## 授業外学習（予習・復習）

- 第3回 調べ学習（180分）  
 第4回 発表準備（300分）  
 第5回 発表準備（300分）  
 第6回 発表準備（300分）  
 第7回 発表準備（300分）  
 第8回 発表準備（120分）  
 第9回 発表準備（120分）  
 第10回 発表準備（120分）  
 第14回 発表準備（300分）

## 教科書

## 参考書

## 成績の評価基準

提出された課題：40%

ディスカッションへの参加：20%

研究計画：40%

## オフィスアワー

## アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

## 備考（受講要件）

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF4501			
科目名			
卒業科目(メディアと現代文化)			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		メディアと現代文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
太田一郎			
共同担当教員		前後期	
櫻井芳生, 宮下正昭, 太田純貴, 中路武士		前期	
授業概要			
各人のテーマに応じた卒論指導を行う			
学修目標			
1. 卒業論文作成に必要な能力、技術を修得する			
2. 卒業論文作成を通して、現代の社会、文化現象の本質への理解を深める			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回~第14回	個々のテーマに応じた助言指導	報告と討論	
第15回	報告と討論		
授業外学習(予習・復習)			
指導教員との綿密な打合せを行うこと			
教科書			
特になし			
参考書			
適宜紹介する			
成績の評価基準			
提出された論文の評価による			
オフィスアワ -			
各教員に確認すること			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4501			
科目名			
卒業科目（メディアと現代文化）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		メディアと現代文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
太田一郎			
共同担当教員		前後期	
櫻井芳生，宮下正昭，太田純貴，中路武士		後期	
授業概要			
各人のテーマに応じた卒論指導を行う			
学修目標			
1．卒業論文作成に必要な能力、技術を修得する			
2．卒業論文作成を通して、現代の社会，文化現象の本質への理解を深める			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回～第14回	個々のテーマに応じた助言指導		
第15回	報告と討論		
授業外学習（予習・復習）			
指導教員との綿密な打合せを行うこと			
教科書			
特になし			
参考書			
適宜紹介する			
成績の評価基準			
提出された論文の評価による			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
報道論演習 2 (マスコミ論演習)			
英語名			
Journalism Studies 2			
開講学科		コース	
人文学科		メディアと現代文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
宮下正昭		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
宮下正昭		前期	
授業概要			
4年生はそれぞれの卒論テーマに向けて、随時、質疑を重ね、構想を固める。 3年生は、まずは社会の現状を幅広く知る。ネットだけでなく、新聞、テレビの報道の中身、番組の中身、メディアのありようを探る。課題図書も随時、与える。			
学修目標			
4年生は卒論の構想を固めて、さらに必要な調べは何なのか詰める。 3年生は自分のやりたい卒論テーマを探り、固める。			
授業計画			
4年生は卒論の進捗状況を報告し、数回、ゼミ内で発表も行う。 3年生とは日々のマスコミの動向を一緒に確認しながら、自分なりの社会的な関心事を決めていく。			
授業外学習 (予習・復習)			
図書館で新聞各紙を見る。見出しから、時に j は記事まで読み進み、あらためて見出しを吟味する。			
教科書			
特になし。			
参考書			
随時、提示する。			
成績の評価基準			
毎回の授業の態様と研究成果の発表内容から総合的に判断する。			
オフィスアワ -			
金曜午後			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15 回中 15 回			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4201			
科目名			
卒業科目（比較地域環境）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		比較地域環境コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
小林善仁	099-285-7557		zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
卒業論文の構想から執筆に至る過程、最終的な完成までを指導します。			
学修目標			
卒業論文のテーマの決定。論文作成に足るまでの資料収集とその整理、論理的解釈ができるようにする。最終的には卒業論文を完成させる。			
授業計画			
1．卒業論文完成までのプロセスについて 2．～15．各自の進行状況をみながら、助言、指導をおこなう。			
授業外学習（予習・復習）			
卒業論文完成のために学内、学外での資料収集を積極的におこなうこと。			
教科書			
使いません。			
参考書			
適宜紹介します。			
成績の評価基準			
卒業論文の質を評価します。			
オフィスアワー			
授業・会議の時間以外			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；その他；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
後期に卒業論文を提出する者			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4201			
科目名			
卒業科目（比較地域環境）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科		比較地域環境コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
小林善仁	099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
卒論を提出する学生のために登録が必要である。			
学修目標			
比較地域環境コースで卒論を書くものは指導が受けられる。			
授業計画			
卒論指導を順次提示したスケジュールでおこなう。			
授業外学習（予習・復習）			
卒論執筆の準備と調査、執筆が必要			
教科書			
特になし、自分で調べること。			
参考書			
特になし、自分で調べること			
成績の評価基準			
卒論を提出した場合、その卒論を評価する。			
オフィスアワ -			
授業・会議の時間以外			
アクティブ・ラーニング			
フィールドワーク；プレゼンテーション；その他；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

## ナンバリングコード

FHS-DGH2711

## 科目名

自然地理学概説

## 英語名

Introduction to Physical Geography

## 開講学科

人文学科

## コース

比較地域環境コース

## 授業科目区分

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

## 授業形態

講義

## 単位数

2単位

## 開講期

1～4年

## 担当教員

吉田明弘

## 連絡先 (TEL)

099-285-7543

## 連絡先 (MAIL)

aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

我々を取り巻く自然環境は、過去から現在まで様々な時間・空間スケールの自然現象が複雑に組み合わさって形成されている。この講義では自然環境の原因・仕組み、さらには人々の生活や文化の背景にある自然環境について関係づけながら解説する。とくに、この講義では地形学の基礎を中心にして、世界・日本、そして九州の各地の事例を取り上げ、地域的・歴史的な幅広い視点から紹介する。

## 学修目標

我々を取り巻く自然環境は、過去から現在まで様々な時間・空間スケールの自然現象が複雑に組み合わさって形成されている。この講義では自然環境の原因・仕組み、さらには人々の生活や文化の背景にある自然環境について関係づけながら解説する。とくに、この講義では地形学の基礎を中心にして、世界・日本、そして九州の各地の事例を取り上げ、地域的・歴史的な幅広い視点から紹介する。

## 授業計画

- 第1回：授業ガイダンス - 自然地理学の目的と周辺科学 (オンデマンド型)
- 第2回：地形スケールと年代 (オンデマンド型)
- 第3回：内作用と外作用 (オンデマンド型)
- 第4回：プレートテクトニクス (1) - 移動する世界の大陸 (オンデマンド型)
- 第5回：プレートテクトニクス (2) - 世界と日本の地震分布と仕組み (オンデマンド型)
- 第6回：プレートテクトニクス (3) - 九州の大地形と巨大カルデラ群 (オンデマンド型)
- 第7回：第四紀の環境変動 (オンデマンド型)
- 第8回：世界・日本の地形 (1) - 河川地形1 (自然堤防・後背湿地など) (オンデマンド型)
- 第9回：世界・日本の地形 (2) - 河川地形2 (河成段丘) (オンデマンド型)
- 第10回：世界・日本の地形 (3) - 海岸地形1 (海成段丘など) (オンデマンド型)
- 第11回：世界・日本の地形 (4) - 海岸地形2 (さんご礁など) (オンデマンド型)
- 第12回：世界・日本の地形 (5) - 氷河・周氷地形 (カール, モレーンなど) (オンデマンド型)
- 第13回：世界・日本の地形 (6) - カルスト地形 (オンデマンド型)
- 第14回：世界・日本の地形 (7) - 地すべりと崩壊 (オンデマンド型)
- 第15回：授業の総括 (オンデマンド型)

## 授業外学習 (予習・復習)

予習：配布された資料を事前に目を通し、専門用語などは辞典やインターネットで調べておくこと。  
復習：配布資料やノートを見返すと共に、授業でわからない点などは文献・インターネットで調べておくこと。  
なお、質問は随時受付ける。

## 教科書

毎回資料を配布するので必ず各自で印刷し、資料を整理しておいてください。また、授業中は高校地図帳で地名などを確認してください。

## 参考書

授業中に適宜紹介する。

## 成績の評価基準

授業への取り組む態度や姿勢（30%）と毎回授業後の小テスト（70%）とを総合的に評価する。

オフィスアワ -

質問等は、授業終了後にmanaba（個人指導）やメールにて随時受付けます。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

地理学実習（旧 フィールド学実習(地理学)）

英語名

Geographical Fieldwork

開講学科

コース

人文学科

比較地域環境コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

実習

1単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

吉田 明弘・小林 善仁

099-285-7543

aki\_tan@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

地理学の醍醐味は野外実習にあるといっても良い。野外で見られる様々な人文・自然地理学の諸現象の観察やヒヤリングなどを1週間程度の長期エクスカージョンと日帰りのエクスカージョンにて行う。

学修目標

- ・実際の地理学の調査はどのように行われるかを理解することができる。
- ・文献に書かれている事柄が野外ではどのように見られるかを修得することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 事前講習 地域の調査法
- 第3回 事前準備1 対象地域の概括
- 第4回 事前準備2 調査対象の選定と関連文献の収集
- 第5回 事前準備3 調査項目の選定と統計資料の収集・分析
- 第6回 事前準備4 対象地域の地形図判読
- 第7回 野外実習1 対象地域の自然環境の理解
- 第8回 野外実習2 対象地域の人文・社会環境の理解
- 第9回 野外実習3 地域調査に関する基礎的技能の習得
- 第10回 野外実習4 地域調査に関する基礎的技能の実践（景観観察）
- 第11回 野外実習5 地域調査に関する基礎的技能の実践（聞き取り調査）
- 第12回 野外実習6 地域調査に関する基礎的技能の実践（質問票調査）
- 第13回 事後調査1 調査成果の作図・分析
- 第14回 事後調査2 報告書の作成
- 第15回 調査成果報告

授業外学習（予習・復習）

授業時間内に適宜指示する。なお、本授業はエクスカージョン（5～7日間）を実施する。そのため、現地での調査計画や調査準備などの予習が必要である。また、エクスカージョン後における報告書の作成に伴った復習や調査成果の整理を行うこと。

教科書

特になし。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

- 事前学習と野外調査の準備状況ならびに取り組み態度（30%）
- 野外実習への取り組み態度（40%）
- 調査報告（レポート）の作成状況・内容（30%）
- なお、野外実習不参加の場合や調査報告が未提出の場合は、不可とする。

オフィスアワ -

質問等は、授業終了後や研究室にて随時受付ける。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

この授業と共に、前期に開講される地理学実験（フィールド学実験（地理学））を履修すること。また、自然地理学概説、人文地理学概説などの地理学関係の講義を履修することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DGH2740

科目名

地理学実験 (旧 フィールド学実験(地理学))

英語名

Geographical Experiments

開講学科

コース

人文学科

比較地域環境コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

実験

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

吉田 明弘・小林 善仁

099-285-7543

aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

この実験では、地理学の実践的な調査法を修得することを目的とする。様々な機器を使って以下の作業をすることによって、受講者は地理学の著書や論文がどのような方法・技法で作成されたかを知ることができる。また、地理学関係の卒業論文をまとめるのにも、ここでの調査法の受講は必須条件である。

学修目標

地理学の調査・研究に必要な方法・技法を修得することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション (遠隔オンライン授業 + 課題提出型)
- 第2回 平板測量 (遠隔オンライン授業 + 課題提出型)
- 第3回 水準測量 (遠隔オンライン授業 + 課題提出型)
- 第4回 地形観察 (遠隔オンライン授業 + 課題提出型)
- 第5回 気温観測 (遠隔オンライン授業 + 課題提出型)
- 第6回 地形図判読1 - 地形 (遠隔オンライン授業 + 課題提出型)
- 第7回 地形図判読2 - 土地利用 (遠隔オンライン授業 + 課題提出型)
- 第8回 テフラ分析 (遠隔オンライン授業 + 課題提出型)
- 第9回 空中写真判読1 - 山地 (遠隔オンライン授業 + 課題提出型)
- 第10回 空中写真判読2 - 平野 (遠隔オンライン授業 + 課題提出型)
- 第11回 地形分類図作成 (遠隔オンライン授業 + 課題提出型)
- 第12回 土地利用図作成 (遠隔オンライン授業 + 課題提出型)
- 第13回 花粉分析 (遠隔オンライン授業 + 課題提出型)
- 第14回 地形分類図発表会 (遠隔オンライン授業 + 課題提出型)
- 第15回 まとめ (遠隔オンライン授業 + 課題提出型)

授業の回数や内容は変更となる可能性があります。

授業外学習 (予習・復習)

予習：各時間で行われる実験、実習の内容を事前に文献等で把握しておくこと。復習：実験・実習で得られた結果を整理し、その意味について文献等で把握すること。

教科書

毎回、プリントを配布する。

参考書

授業のなかで適宜紹介する。

成績の評価基準

授業終了後に、その回の実験結果をまとめたレポートを課す。この実験レポート (70%) と授業へ取り組む態度 (30%) を総合的に評価する。なお、実験レポートを未提出の場合は欠席とみなす。

オフィスアワ -

実験終了後、フィールド学実験室にて対応。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

測量，化学実験，写真判読など

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

室内での実験と野外での実習は相互に深く関わっている．受講者はフィールド学実習（地理学）を受けることが望ましい．

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2213			
科目名			
地理学講義A(旧 テーマ地理学III)			
英語名			
Physical Geography			
開講学科		コース	
人文学科		比較地域環境コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
小林善仁		099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
歴史地理学は、現在の景観を出発点として、過去の地域の仕組みや景観などを考えるものである。本講義では、歴史地理学の問題・関心から研究手法、資料などを概説し、身近な地域である鹿児島(薩摩国・大隅国・鹿児島城下など)や九州各地の事例を日本の他地域の事例と比較しながら、その地域性を考えていく。			
学修目標			
1. 歴史地理学の研究方法を理解できる。 2. 歴史地理学的な問題の発見及びその考察と説明ができる。 3. 鹿児島の歴史地理を理解できる。			
授業計画			
基本的に遠隔方式(オンライン型)で行う予定であるが、状況によっては対面形式に変更する可能性がある。その際には、事前にmanabaのコースニュースと授業内で告知する。			
第1回 ガイダンス【オンライン型】 第2回 歴史地理学の研究手法1 - 地理学の中の歴史地理学【オンライン型】 第3回 歴史地理学の研究手法2 - 地理学の研究視角【オンライン型】 第4回 歴史地理学の研究資料1 - 城下町絵図【オンライン型】 第5回 歴史地理学の研究資料2 - 旧版地形図【オンライン型】 第6回 土地の呼び方1 - 自然地名【オンライン型】 第7回 土地の呼び方2 - 人文地名【オンライン型】 第8回 土地の呼び方3 - 鹿児島の地名【オンライン型】 第9回 鹿児島の歴史地理1 - 鹿児島城下町の自然環境【オンライン型】 第10回 鹿児島の歴史地理2 - 近世鹿児島城下町の地域構成【オンライン型】 第11回 鹿児島の歴史地理3 - 鹿児島城下町と郊外【オンライン型】 第12回 鹿児島の歴史地理4 - 近世鹿児島の集落 麓【オンライン型】 第13回 鹿児島の歴史地理5 - 近世鹿児島の集落 境内【オンライン型】 第14回 フィールドワーク【対面型】 第15回 まとめ【課題提出型】			
授業外学習(予習・復習)			
講義で配布する資料の内容・図表を熟読し、興味を持った事柄は図書・インターネットなどで調べてみて下さい。			
教科書			
とくに無し。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
期末レポート(80%)・複数回の小レポート(20%)			
オフィスアワ -			
講義・会議の時間以外ならいつでも可。			

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2235			
科目名			
文化人類学演習1			
英語名			
Cultural Anthropology 1			
開講学科		コース	
人文学科		比較地域環境コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
兼城 系絵		099-285-8902	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
1. フィールドワーク論に関する本の精読を通じて、フィールドワークの方法について学ぶ。 2. フィールドワークを行うための研究計画を立てるトレーニングを行う。			
学修目標			
1. フィールドワークの実践方法について自分なりに説明することができる。 2. 研究計画書の作成トレーニングを通じて、調査対象へのアプローチ方法やテーマ設定の仕方を習得する。			
授業計画			
第1回: ガイダンス 第2回: 教員によるレクチャー?: フィールドワークの実例 第3回: 教員によるレクチャー?: 研究計画書の書き方 第4回: 研究計画書の作成 第5回: 研究計画書の初回提出およびコメント 第6回: 教員によるレクチャー?: 研究計画書作成に対するアドバイス 第7回: 研究計画書およびレポートの作成 第8回: 研究計画書およびレポートの作成に関する質疑応答 第9回: 研究計画書の提出 (2回目) およびコメント 第10回: 教員によるレクチャー?: 研究計画書の作成に対するアドバイス 第11回: 調査倫理について 第12回: 研究計画書の修正 第13回: 研究計画書の修正に対する質疑応答 第14回: 研究計画書 (最終) の提出およびコメント 第15回: 総評			
進度によって授業内容を変更することがある。			
授業外学習 (予習・復習)			
予習: 指定した論文等を精読すること			
復習: 授業中に提示された課題に取り組むこと			
教科書			
ガイダンスにて提示する。			
参考書			
授業の中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
4回課す小レポート (50%) および最終課題 (50%) により評価。 評価基準はガイダンス時に提示する。			
オフィスアワ -			

随時（事前にアポをとること）

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

旧カリキュラム生向けアナウンス：比較地域環境コース所属生に限る。それ以外のコース所属生で履修を希望する者は、教員と要相談。

全員向けアナウンス：R1年度前期「文化人類学演習」を履修した者は履修にあたって教員と相談すること。また、manabaを使って課題のやり取りを行うので、各自で利用可能な状態にしておくこと。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

地理学実習（旧 フィールド学実習(地理学)）

英語名

Geographical Fieldwork

開講学科

コース

人文学科

比較地域環境コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース  
/ 選択科目

実習

1単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

小林 善仁・吉田 明弘

099-285-7557

zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

地理学の醍醐味は野外実習にあるといっても良い。野外で見られる様々な人文・自然地理学の諸現象の観察やヒヤリングなどを1週間程度の長期エクスカージョンと日帰りのエクスカージョンにて行う。

学修目標

- ・実際の地理学の調査はどのように行われるかを理解することができる。
- ・文献に書かれている事柄が野外ではどのように見られるかを修得することができる。

授業計画

基本的に遠隔形式（対面型）で行う予定であるが、状況によって対面形式に変更する可能性がある。その際は、manabaのコースニュースと授業内で通知する。

- 第1回 オリエンテーション 【対面型】
- 第2回 事前講習 地域の調査法 【対面型】
- 第3回 事前準備1 対象地域の概括 【対面型】
- 第4回 事前準備2 調査対象の選定と関連文献の収集 【対面型】
- 第5回 事前準備3 調査項目の選定と統計資料の収集・分析 【対面型】
- 第6回 事前準備4 対象地域の地形図判読 【対面型】
- 第7回 野外実習1 対象地域の自然環境の理解 【対面型】
- 第8回 野外実習2 対象地域の人文・社会環境の理解 【対面型】
- 第9回 野外実習3 地域調査に関する基礎的技術の習得【対面型】
- 第10回 野外実習4 地域調査に関する基礎的技術の実践（景観観察）【対面型】
- 第11回 野外実習5 地域調査に関する基礎的技術の実践（聞き取り調査）【対面型】
- 第12回 野外実習6 地域調査に関する基礎的技術の実践（質問票調査）【対面型】
- 第13回 事後調査1 調査成果の作図・分析【課題提出型】
- 第14回 事後調査2 報告書の作成 【課題提出型】
- 第15回 調査成果報告 【対面型】

授業外学習（予習・復習）

授業時間内に適宜指示する。なお、本授業はエクスカージョン（5～7日間）を実施する。そのため、現地での調査計画や調査準備などの予習が必要である。また、エクスカージョン後における報告書の作成に伴った復習や調査成果の整理を行うこと。

教科書

特になし。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

事前学習と野外調査の準備状況ならびに取り組み態度（30%）  
 野外実習への取り組み態度（40%）  
 調査報告（レポート）の作成状況・内容（30%）  
 なお、野外実習不参加の場合や調査報告が未提出の場合は、不可とする。

オフィスアワ -

質問等は、授業終了後や研究室にて随時受付ける。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

この授業と共に、前期に開講される地理学実験（フィールド学実験（地理学））を履修すること。また、自然地理学概説、人文地理学概説などの地理学関係の講義を履修することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
文化人類学演習 1			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科		比較地域環境コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	1単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
桑原季雄		090-8664-2365	skuwahr@yahoo.co.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
授業では、フィールドワークや民族誌が今日までどのような発展や変化を辿ってきたのか、その基本的知識をpushした上で、調査研究に必要な人類学的スキルを修得することを目指す。そのために、近年の様々なタイプの論文を読んで、テーマや調査研究の方法、論文の構成、フォーマット等について分析する。			
学修目標			
民族誌とは何か、「文化を書く」とはどういうことか、なぜ異文化研究なのかを理解する。 人類学が現代社会にどうアプローチできるかということについて検証する。 自分の身近なところで研究可能なテーマや研究方法について検討する。			
授業計画			
第1回 授業ガイダンス 第2回 フィールドワークの過去と現在 第3回 民族誌の過去と現在 第4回 発表者の担当論文及びスケジュールの決定 第5回～第14回 発表者の報告及び質疑応答 第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
毎回授業時に何をすればいいか指示する。			
教科書			
毎回資料を配付する。			
参考書			
授業の中で適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への参加度 50% レポート 50%			
オフィスアワー			
授業後に教室で対応する。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
6～8回			
備考 (受講要件)			
授業内容については受講者の数や要望に応じて変更することもある。 実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	講義	2単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
小栗有子	099-285-7293	yoguri@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
「授業計画」に記載の地域社会コース3名、経済コース6名の教員、法学コース5名		後期	
授業概要			
<p>法経社会学科のすべての学生を対象としたもので、法学、地域社会、経済の各コースの分野に関連する内容を複数の教員がオムニバス形式で講義する。講義の内容は、コースの各専門分野について入門的・基礎的な内容や考え方、トピックを紹介するもので、受講生はそれぞれの講義を受講することによって各教育コースの特徴を知り、自身の興味・関心のあるテーマを見つけるきっかけを得ることができる。</p> <p>講義形態は、毎回異なりますので、シラバス、及び、manabaのコースニュースをよく確認すること。なお、受講者数等により、授業方法に一部変更が生じる場合もあるが、その場合は事前に周知する。</p>			
学修目標			
<p>1. 社会科学を学ぶ学生として、社会科学の多様な学問分野の導入的知見や基礎的な考え方を幅広く身に付けることができる。</p> <p>2. 現代社会の抱える諸問題について関心をもち、様々な社会科学的アプローチによって解決策を考えることができる。</p>			
授業計画			
1回 (10月2日) オリエンテーション (地域社会コース: 小栗有子) 対面授業			
2回 (10月9日) 社会学の視点 (地域社会コース: 桑原 司) オンデマンド型授業			
3回 (10月16日) 社会学の研究領域 (地域社会コース: 桑原 司) オンデマンド型授業			
4回 (10月23日) 地域における学びの位相 (地域社会コース: 酒井佑輔) リアルタイム同時配信授業			
5回 (10月30日) 国の経済の見方 (経済コース: 石塚孔信) リアルタイム同時配信授業/オンデマンド型授業			
6回 (11月6日) 経済学的考え方について (経済コース: 林田吉恵) オンデマンド型授業			
7回 (11月20日) 社会と会計学 (経済コース: 北村浩一) リアルタイム同時配信授業			
8回 (11月27日) 東南アジア経済の基礎 (経済コース: 西村知) manabaを利用した課題提出型授業			
9回 (12月4日) 国際金融論の紹介ー為替レートの変動と日本経済 (経済コース: 山本一哉) オンデマンド型授業			
10回 (12月11日) 経済情報論 (経済コース: 萩野 誠) manabaを利用した課題提出型授業			
11回 (12月18日) 国際私法入門 (法学コース: 眞砂康司) リアルタイム同時配信授業/manabaを利用した課題提出型授業			
12回 (12月25日) 親子の法律問題 (法学コース: 阿部純一) オンデマンド型授業			
13回 (1月8日) 安楽死の適法化の可否について 刑罰的視点から (法学コース: 上原大祐)			

## リアルタイム同時配信授業/オンデマンド型授業

14回(1月22日)公法学(とりわけ行政法学)を学ぶ意味(仮題)(法学コース 森尾成之)

## リアルタイム同時配信授業

15回(未定)法社会学入門:法の世界の言葉と文章(法学コース米田憲市)

## リアルタイム同時配信授業

## 授業外学習(予習・復習)

復習:各回の授業で配布される資料や紹介された参考文献を読んで,当該分野についての知見を深めること。

## 教科書

指定しない。

## 参考書

授業中に適宜指示する。

## 成績の評価基準

毎回の授業の際に提出する小レポート、もしくは、小テストに基づき評価する。

## オフィスアワ -

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

## アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

## 備考(受講要件)

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD1302			
科目名			
エンドユーザ実習I			
英語名			
End-User Computing I			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
馬場武	099-285-7582		baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
エンドユーザとは、ソフトウェアの最終的な使用者のことを意味しています。エンドユーザ実習Iでは、文書作成ソフト (MS Office Word) を使用した演習を通じて、文書作成の基本的な知識や技能について学修します。			
学修目標			
1. 文書作成ソフトの基本的な機能を理解し、目的に合わせて活用することができる。			
2. レポート(論文)の構造と必要な要素を理解し、文書作成ソフトで実現することができる。			
授業計画			
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある			
第1回：学術情報基盤センター提供のサービス利用の基礎知識と学内ネットワークについて (課題提出型・オンデマンド型)			
第2回：メールの利用やセキュリティについて (課題提出型・オンデマンド型)			
第3回：文章の入力と効果的なキー操作 (課題提出型・オンデマンド型)			
第4回：小テスト(1)【予定】 (課題提出型・オンデマンド型)			
第5回：文章の配置 (課題提出型・オンデマンド型)			
第6回：文章の装飾 (課題提出型・オンデマンド型)			
第7回：表の作成 (課題提出型・オンデマンド型)			
第8回：図の作成 (課題提出型・オンデマンド型)			
第9回：小テスト(2)【予定】 (課題提出型・オンデマンド型)			
第10回：文章のレイアウト (課題提出型・オンデマンド型)			
第11回：レポート(論文)構成の基本 (課題提出型・オンデマンド型)			
第12回：スタイルとアウトライン (課題提出型・オンデマンド型)			
第13回：セッション区切り・ページ番号と目次・参考文献一覧の自動生成 (課題提出型・オンデマンド型)			
第14回：小テスト(3)【予定】 (課題提出型・オンデマンド型)			
第15回：まとめ (オンデマンド型 or オンライン型)			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：次回授業範囲を教科書で確認してください (30分)。			
復習：授業課題を中心に復習してください (30分)。			
教科書			
『できるWord2016 Windows7/Vista/XP対応』インプレス社			
参考書			
授業内で適宜紹介します。			
成績の評価基準			
授業内で実施する小テストと授業課題を総合的に評価します。			
なお、必修科目および実習科目のため全ての授業に出席することが前提です。3回以上欠席した場合には単位を認めません。			
オフィスアワ -			
メールにてアポイントをとってください。			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

学術情報基盤センターの利用証を毎回持参すること。また，必修科目および実習科目なので欠席は厳禁であることに十分留意すること（出校停止や公欠は除く）。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD1901			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
王 鏡凱		kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>経済学・経営学・社会学に関する問題について様々な角度から討論することにより、理解を深める。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。</p> <p>***今後のコロナの感染状況によっては、授業形態を変更する場合がある。***</p> <p>*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが受講生の理解度を考え調整することもある。</p>			
学修目標			
<p>(1) 社会科学の基礎知識を修得し、主な研究手法について理解する。</p> <p>(2) 研究手法に沿って資料収集、報告、ディスカッションの仕方を身につける。</p> <p>(3) 物事を論理的にかつ直感的に捉える能力を養う。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス(ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第2回～第14回 発表と討論(ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第15回 総括(ZOOMによるオンライン型)</p> <p>* 授業内容およびテキストについては、受講生研究上の必要性和関心に依りて追加・変更することがある。</p> <p>***今後のコロナの感染状況によっては、授業形態を変更する場合がある。***</p> <p>*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが受講生の理解度を考え調整することもある。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>ニュースに目を通す、講義で勉強したものを現実の事例に当てはめる。</p> <p>興味ある企業や就職したい企業に当てはめるのは最も効果的である。</p>			
教科書			
<p>特定の教科書は指定せず、適宜プリントを配布する。</p>			
参考書			
<p>伊藤秀史(著),小林創(著),宮原泰之(著)、『組織の経済学』、有斐閣出版、2019年。</p> <p>砂川伸幸 『コーポレート・ファイナンス入門&lt;第2版&gt;』 2017年 (日経文庫)</p> <p>白石俊輔 『経済学で出る数学 ワークブックでじっくりせめる』 2013年 (日本評論社)</p>			
成績の評価基準			
<p>複数回の課題レポートで評価する。</p>			
オフィスアワ -			
<p>MANABAの掲示板と電子メール、随時受付しております。</p>			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
<p>***今後のコロナの感染状況によっては、授業形態を変更する場合がある。***</p>			

\*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが受講生の理解度を考え調整することもある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD1303			
科目名			
エンドユーザ実習II			
英語名			
End-User Computing II			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
馬場武	099-285-7582		baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>エンドユーザとは、ソフトウェアの最終的な使用者のことを意味しています。エンドユーザ実習IIでは、表計算ソフト (MS Office Excel) を使用した演習を通じて、表計算の基本的な知識や技能について学修します。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表計算ソフトの基本的な操作技術を修得する</li> <li>2. 表計算ソフトを用いて、行列データから適切なグラフを作成することができる</li> <li>3. 表計算ソフトを用いて、計算式や関数によって行列データを加工することができる</li> </ol>			
授業計画			
<p>遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p>			
<p>第1回：第1章【課題提出型・オンデマンド型】                      第2回：第2章【課題提出型・オンデマンド型】                      第3回：第3章【課題提出型・オンデマンド型】                      第4回：第4章【課題提出型・オンデマンド型】                      第5回：第5章【課題提出型・オンデマンド型】                      第6回：第6章【課題提出型・オンデマンド型】                      第7回：第7章【課題提出型・オンデマンド型】                      第8回：第8章【課題提出型・オンデマンド型】                      第9回：第9章【課題提出型・オンデマンド型】                      第10回：第10章【課題提出型・オンデマンド型】                      第11回：総合課題(1)【課題提出型・オンデマンド型】                      第12回：総合課題(2)【課題提出型・オンデマンド型】                      第13回：総合課題(3)【課題提出型・オンデマンド型】                      第14回：総合課題(4)【課題提出型・オンデマンド型】                      第15回：総合課題(5)【課題提出型・オンデマンド型】</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習：教科書の次回授業範囲を確認する (30分)                      復習：授業で実施した範囲をPC上で再度確認する (30分)</p>			
教科書			
『できるExcel2019』, インプレス社。			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
<p>授業内で実施する課題を総合的に評価します (100%)。                      なお、必修科目および実習科目のため全ての授業に出席することが前提です。3回以上欠席した (3回以上課題を提出しなかった) 場合には単位を認めません。</p>			
オフィスアワ -			
メールにてアポイントをとってください。zoomなどでも個別対応します。			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

必修科目および実習科目なので欠席（課題未提出）は厳禁であることに十分留意すること（出校停止や公欠は除く）。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD1303			
科目名			
エンドユーザ実習II			
英語名			
End-User Computing II			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
下園幸一	099-285-7477		simotozono@cc.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
現代社会では、さまざまなビジネスシーンでコンピュータが利用されています。その最も基本となるものが、文書作成、表計算、プレゼンテーションです。本実習では、マイクロソフト社製 Excel を利用し、表計算ソフトの基礎を学びます。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクロソフト社製 Excel を利用して、表作成、グラフ作成ができる。</li> <li>・Excel を利用した簡単なデータベースが作成できる。</li> <li>・Excel を利用してデータの分析ができる。</li> </ul>			
授業計画			
第01回 チュートリアル 第02回 Excelの基本 第03回 表のレイアウトと印刷 第04回 Excelでの表計算(1) 第05回 Excelでの表計算(2) 第06回 Excelでの表計算(3) 第07回 Excelでのグラフ作成(1) 第08回 Excelでのグラフ作成(2) 第09回 ワークシート間でのセル参照 第10回 総合練習 第11回 データベース(テーブル) 第12回 その他 Excel の機能 第13回 総合練習 第14回 ピボットテーブル 第15回 総合練習および授業の総括			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ e-Learning システム上に、授業で使用するスライドおよび課題を事前にアップしています。これを見て予習および復習をしてください。(予習30分、復習30分)</li> </ul>			
教科書			
『できる Excel 2019 Office 2019/Office365両対応』, インプレス社			
参考書			
授業中適宜紹介します			
成績の評価基準			
授業の受講態度(30点)、授業中に作成した課題 (30点)、宿題(40点) (4回以上欠席した学生には単位を認めない)			
オフィスアワ -			
木曜 13:30 ~ 15:30 学術情報基盤センター4F研究室 事前にメールで予定確認を行っておくこと			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

- ・ 毎回、授業中に作成した課題および宿題をe-Learning システムを利用して提出してもらいます。
- ・ PCを利用するためには「鹿児島大学ID」が必要です。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD1303			
科目名			
エンドユーザ実習II			
英語名			
End-User Computing II			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
市川英孝			ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>表計算ソフトの基本的な技術を習得する。表計算ソフトは、ビジネスではもっとも広く頻繁に使用されているアプリケーションである。</p> <p>受講生は、社会に出た時を想定して受講をする。実践的な実習となる。</p> <p>Excelを利用することで、資料作成が容易にできることを実感し、作業の効率化を図れるようにする。</p> <p>manabaでの掲示板、講義内容を熟読し、テキストを理解したうえで、レポートを実施するように。</p>			
学修目標			
<p>1) 表計算の基本技術を習得する。</p> <p>2) 表計算で表を効率的に作成できる技術を身に着ける。</p> <p>3) 表計算を修正し、目的にあった表を加工できる技術を身に着ける</p>			
授業計画			
<p>基本的にテキストに沿って、各回に1章を習得するようにする。</p> <p>第1回 文章の入力</p> <p>第2回 表を作る(1)</p> <p>第3回 表を作る(2)</p> <p>第4回 見た目のよい表を作る(1)</p> <p>第5回 見た目のよい表を作る(2)</p> <p>第6回 計算式を作成する</p> <p>第7回 関数の利用(1)</p> <p>第8回 関数の利用(2)</p> <p>第9回 グラフなどのプレゼンテーション(1)</p> <p>第10回 グラフなどのプレゼンテーション(2)</p> <p>第11回 より高度な処理とオプション機能について(1)</p> <p>第12回 より高度な処理とオプション機能について(2)</p> <p>第13回 より高度な処理とオプション機能について(3)</p> <p>第14回 より高度な処理とオプション機能について(4)</p> <p>第15回 最終レポート作成</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>Excelでは特に関数について学んでもらいます。予習ではテキストの内容を、復讐では毎回の課題を再度実施するように。</p>			
教科書			
『できるExcel 2019 Windows 10/8.1/7対応』インプレス社			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
<p>毎回のレポートと最終レポートにより評価。</p> <p>(4回以上欠席した学生は単位を認めない)</p> <p>授業中に必要な学生についてはタイピングのテストを実施する。詳細は授業中に説明します。</p>			
オフィスアワ -			

機器がないと説明できないため、講義の後で受け付ける。  
 今期については、対面授業でないため、質問はmanaba上の掲示板にて対応する。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

必修科目なので無断欠席は厳禁であることに十分留意すること。なお、成績評価については、授業初回でアナウンスする。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD1901			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
山本一哉	099-285-7595	yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
本演習では、テキストを分担して報告してもらい、その内容について議論を行う。			
学修目標			
1) テキストの読み方を身につける。 2) レジюме（報告内容のまとめ方）を身につける。 3) 資料収集の仕方を身につける。 4) 資料やデータの分析の仕方を身につける。 5) プレゼンテーションのやり方（報告の仕方）を身につける。 6) ディスカッションの仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第14回 報告とディスカッション 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
事前にテキストをしっかりと読んでくること。また復習については、報告者のレジюмеとテキストを読み返すこと。			
教科書			
最初の講義の際に説明する			
参考書			
講義の際に紹介する			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度			
オフィスアワー			
曜日・時間：毎週火曜日5限、場所：研究室			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
特になし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD1901			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
城戸秀之	099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現代の日本社会を理解するために必要な、戦後日本の経済構造と社会意識の変化についての知識を習得し、現代と比較することから社会認識と問題意識を深める。また、各時間の報告と質疑応答を通して、報告の仕方や自分の意見を持って討論することを身につける。			
授業ではmanabaによる課題提出とZoomのオンライン配信による意見交換を合わせて行う。			
学修目標			
1. 自分の考えを発言できる。			
2. 他者の発言を聞いて討論できる。			
3. テキストを読み、報告資料として整理できる。			
4. 自分の関心にしたがってデータを集め、報告できる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 授業の進め方の説明、担当決定			
第2回～第10回 テキスト講読および中間討論（テキストをもとに討論をおこなう）			
第13回～第14回 自由報告レポートの作成			
第15回 授業のまとめ			
授業外学習（予習・復習）			
【予習】次週のテキストを読む。			
【復習】講読レポートおよび中間レポートを提出する（30分）。			
そのほか授業中に適宜指示をする。			
教科書			
大平健『やさしさの精神病理』（岩波書店 1995年）ほか。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
講読レポート、中間レポート、準備レポート、自由報告レポートによって評価する			
オフィスアワー			
火曜日3時限（研究室）			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
基礎演習は各人の意見をふまえた討論でなりたつので、積極的な態度で授業に参加してほしい。 manabaおよびZoomを使用する。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD1302			
科目名			
エンドユーザ実習I			
英語名			
End-User Computing I			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
下園幸一	099-285-7477		simotozono@cc.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現代社会では、さまざまなビジネスシーンでコンピュータが利用されています。その最も基本となるものが、文書作成、表計算、プレゼンテーションです。本実習では、パーソナルコンピュータ操作の基礎を学ぶと共に、マイクロソフト社製 Word を利用し、文書作成の基礎を学びます。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクロソフト社製 Word によりさまざま文章を作成することができる。</li> <li>・パソコンによる文書作成は、どのような利点、欠点があるのかを理解する。</li> </ul>			
授業計画			
第01回 チュートリアル(授業の進め方の説明、学術情報基盤センターについて)			
第02回 Wordの基礎1			
第03回 Wordの基礎2			
第04回 文書の装飾と再利用			
第05回 図の作成			
第06回 表作成			
第07回 文章のレイアウト			
第08回 表作成の練習			
第09回 総合練習1			
第10回 年賀状作成			
第11回 差し込み文書			
第12回 数式の入力			
第13回 章立て、目次の作成			
第14回 総合練習2			
第15回 授業の総括			
授業外学習 (予習・復習)			
・e-Learningシステム上に、授業で利用するスライドや課題を事前にアップしていただきますので、それを見て予習および復習を行ってください(予習30分、復習30分)			
教科書			
『できる Word 2019 Office 2019/Office365両対応』, インプレス社			
参考書			
授業中適宜紹介します			
成績の評価基準			
・授業の受講態度(30点)、授業中に作成した課題(40点)、宿題(30点) (4回以上欠席した学生には単位を認めない)			
オフィスアワー			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的にメールでは随時受け付けます。</li> <li>・木曜日 13:30 ~ 15:00, 金曜日 13:30 ~ 15:00, 学術情報基盤センター4F研究室</li> </ul>			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

- ・毎回、授業中に作成した課題および宿題をe-Learning システム)を利用して提出してもらいます。
- ・PCを利用するためには「鹿児島大学ID」が必要です。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD1302			
科目名			
エンドユーザ実習I			
英語名			
End-User Computing I			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
市川英孝			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>近年、あらゆる職種の企業において、コンピュータは導入されています。『コンピュータなんか嫌い』とは言っていない状況です。ようは『慣れ』です。とにかくパソコンを日常的に使えるというレベルにするのが、この実習です。まずは、コンピュータで動くワープロソフトを使いこなします。授業ではテキストに沿ってその内容を入力したり、いくつかレポートとして自分で「メニュー表」や「パンフレット」等を作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エンドユーザ実習では、Wordというアプリケーションを使って、さまざまな情報通信技術を修得することをめざしている。</li> <li>・パソコン初心者が、広いコンピュータの世界に接する機会をつくり、大学生活に必要な技能を学ぶことになる。</li> </ul>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Wordによる詳細な文書の作り方を学ぶ</li> <li>2. インターネットに関するマナーを修得する</li> <li>3. パソコン全般の知識を修得する。</li> </ol>			
授業計画			
<p>第1回 学術情報基盤センター利用の基礎知識 (課題提出型)</p> <p>第2回 基盤センターでの電子メール利用法 基盤センターでのWEBブラウジング (課題提出型)</p> <p>第3回 日本語入力について (課題提出型)</p> <p>第4回 基本的な文章作成(1) (課題提出型)</p> <p>第5回 基本的な文章作成(2) (課題提出型)</p> <p>第6回 基本的な文章作成(3) (課題提出型)</p> <p>第7回 高度な文章作成(1) (課題提出型)</p> <p>第8回 高度な文章作成(2) (課題提出型)</p> <p>第9回 高度な文章作成(3) (課題提出型)</p> <p>第10回 高度な文章作成(4) (課題提出型)</p> <p>第11回 高度な文章作成(5) (課題提出型)</p> <p>第12回 高度な文章作成(6) (課題提出型)</p> <p>第13回 高度な文章作成(7) (課題提出型)</p> <p>第14回 高度な文章作成(8) (課題提出型)</p> <p>第15回 最終レポート作成 (課題提出型)</p>			
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
授業外学習(予習・復習)			
基本的なパソコンの操作を行います。前期終了までにタッチタイピングができるようになってください。そのための自己学習を求めます。また授業時間中にタイピングのテストを行うので、授業中の指示に従ってください。			
教科書			
『できるWord 2019 Windows 10/8.1/7対応』インプレス社			
参考書			
授業中適宜紹介します。			
成績の評価基準			

毎回のレポートと最終レポートにより評価。

(4回以上欠席した学生は単位を認めない)

タイピングのテストを実施する。詳細は授業中に説明します。

オフィスアワ -

機器がないと説明できないため、講義のあと受け付けることにします。

今期に関してはmanaba上で質疑応答に対応します。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
エンドユーザ実習III			
英語名			
End-User Computing III			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
澤田成章	099-285-8888		sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
PowerPointの使い方については、(1)ビジネス目的、(2)アカデミック目的、(3)ポスター・チラシの作成など、様々な目的が存在しうる。こうした目的に応じて適切にスライドのデザインを工夫し、効果的なプレゼンテーションを行う能力を身に付けることが本講義の最終目標となる。			
学修目標			
?パワーポイントの使い方を身に付ける ?プレゼンテーションの経験を積む ?TP0に合わせたスライドデザインができるようになる			
授業計画			
第1回：ガイダンス 第2回：テキスト実習 (powerpointの基本操作) 第3回：テキスト実習 (図表の挿入) 第4回：テキスト実習 (アニメーションの設定) 第5回：テキスト実習 (保存形式・プレゼンテーション) 第6回：都道府県紹介ポスター制作 (1) テーマ決定 第7回：都道府県紹介ポスター制作 (2) データ収集・レイアウト作成 第8回：都道府県紹介ポスター制作 (3) ポスター作製 第9回：都道府県紹介ポスター発表・期末課題テーマ決め 第10回：プレゼンテーション資料制作 (テーマ決定) 第11回：プレゼンテーション資料制作 (データ収集) 第12回：グループプレゼンテーション制作 (レイアウト作成) 第13回：グループプレゼンテーション制作 (最終調整) 第14回：プレゼンテーション実演 (前半グループ) 第15回：プレゼンテーション実演 (後半グループ)			
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、原則、講義資料提示・課題提出型の遠隔講義として行う。ただし、適宜対面で進捗報告や課題の進め方の相談など、教員に直接コンタクトが取れるように配慮する。			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
『できる PowerPoint2013』インプレス			
参考書			
成績の評価基準			
ポスター (50%)、最終レポート (50%) の総合評価による。			
オフィスアワ -			
メールにてアポイントメントをお願いします。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション;			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中7回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
林田吉恵			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本演習の目的は、社会科学分野を学習する上で必要な基本的な考え方や方法を学ぶことである。具体的には、文献資料の収集方法、レジュメの作り方、プレゼンテーションの方法等を通して、大学生活において必要なスキルの習得を行う。</p>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、グループを決め、研究テーマを設定する。</li> <li>2、研究テーマについて情報収集して分析をする</li> <li>3、演習時間ないに報告（プレゼンテーション）、ディスカッションを行う</li> </ol>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、文献資料の収集方法を身につける</li> <li>2、レジュメの作成方法を身につける</li> </ol> <p>問題発見能力：わが国における問題を発見する  情報収集能力：必要な情報を収集する  分析能力：データ分析手法を身につける  プレゼンテーション能力：分析したことを発表できるようにする  ディスカッション能力：議論する力を身につける</p>			
授業計画			
第1回 ガイダンス 自己紹介 第2回～第12回 研究指導、報告、ディスカッション 第13回～第14回 合同ゼミで発表会 第15回 総括			
授業外学習（予習・復習）			
本演習は授業時間外のグループ研究に基づいて進行していくことから、必ず授業外にグループで集まって研究することが必要になる。 （学修に係る標準時間は約2時間）			
教科書			
研究テーマに応じて適宜指定する。			
参考書			
研究テーマに応じて適宜指定する。			
成績の評価基準			
演習中の研究報告およびレポートによって評価する。			
オフィスアワー			
火曜日 必ずメールにて事前連絡をすること			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

欠席するときは必ず連絡すること。

無断欠席3回すると、単位認定はしませんので、必ず連絡すること。

今後の状況次第で授業形態・回数や内容は変更となる可能性があります。

授業形態等を変更する際は、予めmanabaコースニュースや授業内において通知する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
鳥飼貴司		099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。</p>			
学修目標			
<p>(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。  (2)レジュメとレポートの書き方を身につける。  (3)報告の仕方と討論の仕方を身につける。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス(基礎演習とは何か) (オンデマンド型)  第2回 法学とは何か (オンデマンド型)  第3回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 (オンデマンド型)  第4回 契約とは何か (オンデマンド型)  第5回 不法行為とは何か (オンデマンド型)  第6回 結婚とは何か (オンデマンド型)  第7回 労働法とは何か (オンデマンド型)  第8回 刑法とは何か (オンデマンド型)  第9回 選挙に行くとは (オンデマンド型)  第10回 税金を納めるとは (オンデマンド型)  第11回 研究テーマを考える (オンデマンド型)  第12回 研究報告を進める (オンデマンド型)  第13回 研究報告をまとめる (オンデマンド型)  第14回 プレゼンテーションとレポート  第15回 まとめ (基礎演習を振り返って) (オンデマンド型)</p> <p>今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。  オンデマンド型の講義は、リアルタイム型や教室での通常講義に変更する可能性がある。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>【予習】 報告担当者以外の受講生も、テーマに関する意見や質問を事前に考え、調べておくこと</p> <p>【復習】 提示されたレジュメ、意見や質問を踏まえて、もう一度テーマ全体について考えること</p> <p>鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。</p> <p>また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。また、生協の保険加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。</p>			
教科書			

西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック〔改訂版〕』法律文化社（2019年）  
manabaに講義資料をアップします。

#### 参考書

蛸原健介,高橋文彦,畑宏樹（編集）『フレッシューズ法学演習』中央経済社（2016年）  
道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に <第2版>』弘文堂（2017年）

#### 成績の評価基準

報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。

#### オフィスアワ -

講義後に話かけるのは自由です。  
その他の場合、事前にメールで面会交渉をしてください。

#### アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

#### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

#### 備考（受講要件）

1年生については、学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。  
平成24年度入学生より履修は2年生まで、1度きりという制約があります（修学の手引をご覧ください）。しかし、平成23年度以前の入学生については、そのような制約がありませんので、履修年度が1～4年生となっています。

とは申せ、この授業は、入学したばかりの1年生に法政策学科の学生としての基本的な素養を学んでもらうものですので、平成23年度以前入学の4年生は特に履修を控えてください。

2年生以上の学生がこの基礎演習を履修する場合には、掲示された期限までに所定の手続きにしたいがい、「なぜ基礎演習の履修を志望したのか」という題目で1500字「以上」のレポートを提出いただいたくことになります。その後、教務委員によるレポートの内容についての審査を経て、意欲的であると判断された場合に限り、履修を認めることとなります。履修許可があるまで履修はできません。3年次以上の学生については特に厳格に審査いたします。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
伊藤周平		099-285-7645	jave@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1) 社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2) レジュメの書き方を身につける。 (3) 報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第4回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第5回～第14回 報告と討論 第15回 これまでのまとめ			
授業外学習（予習・復習）			
鹿児島地方裁判所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。 また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。また、生協の保険加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック』（法律文化社、2012年）			
参考書			
授業中に適宜、指示します。			
成績の評価基準			
報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。			
オフィスアワ -			
木曜日 2限（研究室）			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
1年生については、学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。 実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBC1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
阿部純一	099-285-7645	jave@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2)レジュメの書き方を身につける。 (3)報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第4回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第5回～第14回 報告と討論 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。 また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。また、生協の保険加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック』（法律文化社、2012年）			
参考書			
授業中に適宜、指示します。			
成績の評価基準			
報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。			
オフィスアワー			
研究室在室時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション； アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中14回			
備考（受講要件）			
1年生については、学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。  平成24年度入学生より履修は2年生まで、1度きりという制約があります（修学の手引をご覧ください）。しか			

し、平成23年度以前の入学生については、そのような制約がありませんので、履修年度が1～4年生となっています。

とは申せ、この授業は、入学したばかりの1年生に法政策学科の学生としての基本的な素養を学んでもらうものですので、平成23年度以前入学の4年生は特に履修を控えてください。

2年生以上の学生がこの基礎演習を履修する場合には、掲示された期限までに所定の手続きにしたがい、「なぜ基礎演習の履修を志望したのか」という題目で1500字「以上」のレポートを提出いただいたくことになります。その後、教務委員によるレポートの内容についての審査を経て、意欲的であると判断された場合に限り、履修を認めることとなります。履修許可があるまで履修はできません。3年次以上の学生については特に厳格に審査いたします。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
松田忠大			
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。			
(2)レジュメの書き方を身につける。			
(3)報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回～第4回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方			
第5回～第14回 報告と討論			
第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック』（法律文化社、2012年）			
参考書			
授業中に適宜、指示します。			
成績の評価基準			
報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
1年生については、学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
志田惣一			
共同担当教員	前後期 後期		
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2)レジュメとレポートの書き方を身につける。 (3)報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第4回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第5回～第14回 報告と討論 第15回 まとめ			
授業は課題提出型（各自の指示された課題への作業（資料作成・報告準備）が中心となる）			
授業外学習（予習・復習）			
【予習】 報告担当者以外の受講生も、テーマに関する意見や質問を事前に考え、調べておくこと 【復習】 提示されたレジュメ、意見や質問を踏まえて、もう一度テーマ全体について考えること			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック』（法律文化社、2012年）			
参考書			
授業中に適宜、指示します。			
成績の評価基準			
報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
三浦壮	099-285-8905	miura@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
前半45分は、社会科学に関する著作をもとに、社会科学の手法や考え方を学習する。後半45分は、日経新聞を購入することによって、政治・経済・文化の時事問題をサーベイする。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科学の基礎的な素養を身につけること</li> <li>・経済新聞の読み方を身につけること</li> </ul>			
授業計画			
1回目 各ゼミ生による題材提供（課題提出型）			
2回目 各ゼミ生による提供された題材に対するコメント作成（課題提出型）			
3回目 オリエンテーション（自己紹介・購読する本の決定・授業の進め方の説明）（リアルタイム型〔オンライン型〕）			
4回～13回目 社会科学（経済学・歴史学等）の著作を題材にした議論・日経新聞記事のサーベイ（リアルタイム型〔オンライン型〕）			
リアルタイム型オンライン授業は、通常授業に変更になる可能性がある。			
授業外学習（予習・復習）			
その都度指示する			
教科書			
第3回目の授業で受講者の意見を聞いて選択			
参考書			
その都度指示する			
成績の評価基準			
議論への参加度（50点）とレポート（50点）。3回休むと、単位認定の対象外となる。			
オフィスアワ -			
金曜3限			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

16回中14回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
マクロ経済学I (旧 マクロ経済学)			
英語名			
Macroeconomics I I			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
金丸哲			k3748170@kadai.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
マクロ経済学Iでは、マクロ経済学の理論的学習をする際の前提条件となる基礎知識を取り扱う。具体的には、日本経済の簡単な歴史（平成元年以降）、日本の主要な経済集計値とその推移、GDPに関する知識、現金、預金等の貨幣に関する知識、債券（国債）市場、株式市場の基本事項を解説する。時間的な余裕があれば、時事的な話題（マイナス金利政策など）も紹介したい。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の主要な経済集計値を把握する。</li> <li>2. GDPの基本的事項を理解する。</li> <li>3. 現金、預金から成る貨幣の供給を理解する。</li> <li>4. 債券市場、株式市場を理解する。</li> </ol>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 年表</li> <li>2 主要集計値1 GDP</li> <li>3 主要集計値2 預金等</li> <li>4 ストックとフロー、貸借対照表</li> <li>5 経済循環1 仕訳</li> <li>6 経済循環2 経常勘定・蓄積勘定、</li> <li>7 経済循環3 例・統合経済勘定</li> <li>8 貨幣1 貨幣の機能、ベースマネーと預金の創造</li> <li>9 貨幣2 マネーストック統計</li> <li>10 国債1 債券価格と利回り</li> <li>11 国債2 債券価格と利子率</li> <li>12 国債3 量的緩和政策とマイナス金利</li> <li>13 貨幣3 貨幣の需要</li> <li>14 株式</li> <li>15 預金・債券・株式</li> </ol>			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする			
教科書			
使用しない（コピー配布）			
参考書			
総務省統計局・統計研修所『日本の統計』日本統計協会2016. 金森・荒・森口編『経済辞典（第5版）』有斐閣2013. 滝川好夫『マクロ経済学の要点整理』税務経理協会1999.			
成績の評価基準			
期末試験，授業への取り組み態度			
オフィスアワ -			
授業終了後			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCE1415			
科目名			
社会学概論			
英語名			
Outline of Sociology			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
城戸秀之	099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本講義では、社会学の基礎的な考え方を紹介し、身近な個別のテーマをもとに問題設定や状況分析の例を示して具体的な社会学的思考にふれることを主眼とする。はじめに社会の理解や社会の変化に関する社会学の基礎的な概念や考え方について紹介し、次に1950年代以降の日本社会を対象に現代社会システムのあり方を考察する。授業ではmanabaによる課題提出とZoomによるオンライン配信による補足説明を合わせて行う</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会学の基礎的な考え方や用語を理解する。</li> <li>2. 現代日本の生活様式の変化について基礎的な知識を理解をする。</li> <li>3. 現代社会について関心を持ち、それに基づいて情報を収集する。</li> <li>4. 現代社会の特徴について自分の考えを述べる事ができる。</li> </ol>			
授業計画			
<p>第1回 はじめに 講義のガイダンス  第2回 I. 社会学の誕生  第3回 II. 社会学の考え方 (1) 「社会」はいかに理解できるか(行為からの理解)  第4回 II. 社会学の考え方 (2) 「社会」はいかに理解できるか(関係からの理解)  第5回 II. 社会学の考え方 (3) 「社会」はいかに理解できるか(集団・システムからの理解)  第6回 II. 社会学の考え方 (4) 変化する社会  第7回 II. 社会学の考え方 (5) 分析の道具としての概念(理念型・4象限図式)  第8回 II. 社会学の考え方 (6) 分析の道具としての概念(社会意識の類型論)  第9回 IV. 消費社会としての現代 (1) 高度経済成長と生活様式の消費化  第10回 IV. 消費社会としての現代 (2) バブル景気と消費社会  第11回 IV. 消費社会としての現代 (3) 生活様式の転換と「豊かさ」  第12回 総括レポートの作成について  第13回 IV. 消費社会としての現代 (4) 現代的「豊かさ」のゆくえ  第14回 V. 現代社会の諸相 現代社会の自己存在  第15回 おわりに 講義のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習については、授業中適宜指示をする(30分-60分)  復習については、各回の授業内容を整理し、課題に解答する「講義レポート」を提出する(30分)  講義のまとめとして「総括レポート」を提出する</p>			
教科書			
授業時間ごとに資料をmanabaで配布する。			
参考書			
授業中に指示する。			
成績の評価基準			
講義レポート、総括レポートにより評価する			
オフィスアワ -			
木曜日 2 時限 (メール)			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

学生が授業をもとに題材を選んで考察するレポートを課す

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

社会学概論は、教職免許「社会」「公民」の必修科目である

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-CCE1311

## 科目名

統計作成論（旧 統計学総論）

## 英語名

Analysis of Compiling Statistics

## 開講学科

## コース

法経社会学科共通

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会学科 / 選択科目

講義

2単位

1～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

松川太一郎

matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

社会・経済現象の認識材料として用いられる統計資料は、認識が客観的根拠を備えるための経験的情報として不可欠である。しかし、そうした統計情報そのものに何らかの誤りがあるならば、それを用いて導き出された社会・経済現象の認識にも誤りが備ってしまう。そのような状況に陥らないためには、社会・経済現象の認識に先立ち、統計情報の妥当性を吟味することが必要である。そのためのポイントを学習することが本講義のテーマである。具体的には、統計資料の作成過程の内容を理解していく。統計作成過程について、以下の事項を学ぶ。

1) 学習の対象である統計の概念を明確にする。2) 統計が捉える対象と、そのために必要な社会科学理論との関係。3) 統計作成に必要な情報の収集・集計過程の技術的内容。4) 統計作成方法の技術的内容と、その実践的運用を支える統計制度との関係。以上の事項の中で逐次、統計が社会現象を反映する仕方と真実性を検討して、統計情報の妥当性を吟味する。

遠隔授業にあたっては、資料をマナバで事前に配布し、講義を時間割通りにリアルタイムでZOOMを通じた音声 + 資料表示の形で実施する。マナバでの連絡に注意すること。また、ZOOMのURL、ID、パスワードは絶対外部に漏らさないこと。これが外部に漏れると、部外者による授業妨害を引き起こす恐れがある。

なお、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

## 学修目標

1. 統計学の学問的性質を理解する。
2. 社会的な集団の性質を示す数値情報 = 統計値の真実性を判断する。
3. 統計の利用を、社会現象の認識過程における経験的な基礎として位置付ける。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、統計学史（リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第2回 統計とは何か（1）（リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第3回 統計とは何か（2） 統計の背後にあるもの 社会的集団 （リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第4回 統計とは何か（3） 社会的集団の認識方法、統計の方法的枠組み(1) 統計集団 （リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第5回 統計とは何か（4） 統計の方法的枠組み(2) 統計単位の標識 （リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第6回 統計とは何か（5） 統計の方法的枠組み(3) 統計集団の分類 （リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第7回 統計とは何か（6） 統計の方法的枠組み(4) 統計値、(5) 統計調査と実態調査（リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第8回 統計とは何か（7） 統計方法における記述と解析、社会認識の中の統計利用（リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第9回 統計調査の実践と社会的な制約（リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第10回 統計調査の諸形態（1）全数調査（リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第11回 統計調査の諸形態（2）一部調査、ランダム・サンプリング（リアルタイム型 + 課題提出型）
- 第12回 統計制度と統計体系（1）（リアルタイム型 + 課題提出型）

第13回 統計制度と統計体系（2）（リアルタイム型 + 課題提出型）

第14回 統計分類（リアルタイム型 + 課題提出型）

第15回 統計資料の理解と検討（リアルタイム型 + 課題提出型）

第16回 期末試験（対面授業に復帰した場合のみ）

#### 授業外学習（予習・復習）

毎週、マナバを通じて宿題を与えて、予習と復習のための課題問題を解答させる。宿題の提出期限は厳守すること。締め切り後の提出は受け付けない。

#### 教科書

毎回事前に資料をマナバを通じて配布する。

#### 参考書

大屋・野村・広田・是永編著『統計学』産業統計研究社、1984年。

#### 成績の評価基準

（1：途中から対面授業に復帰できた場合）毎週の課題全体を30点満点とし、授業に取り組む普段の態度を見る。また、期末試験で70点満点の評価をする。ここでは授業内容の理解と応用力を見る。

（2：対面授業に復帰できない場合）毎週の課題全体を100点満点として評価する。

いずれにしても、毎回宿題を提出して合格点の評価を得なければ、単位習得は難しい。

#### オフィスアワ -

火曜日1限 経済統計論研究室

#### アクティブ・ラーニング

その他；

#### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

宿題

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

#### 備考（受講要件）

社会・経済現象と社会・経済理論との関係性を理解できていない者は、そのような関係性を理解できてからから受講することを勧める。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

統計利用論（旧 統計学総論）

## 英語名

Analysis of Using Statistics

## 開講学科

## コース

法経社会学科共通

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会学科 / 選択科目

講義

2単位

1～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

松川太一郎

matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

社会・経済現象は、個人が自由意志の下で様々な行為を行った結果の総体的な現れに思われるが、個人の意識レベルを超えた社会・経済そのものの規則性ないし法則性というものがある。こうした規則性・法則性にアプローチする一つの仕方は、社会科学の理論を基礎として一定の統計数字の集合を構成し、そこから統計的な規則性を見出すということである。そのために必要な統計の利用方法について基本を学ぶのが、本講義のテーマである。そこでは、統計値が数字の形をした情報だからといって、自分勝手に四則演算を施すことはできず、社会科学の理論の下で用いるべき統計の系列と用いるべき分析手法が定まることが理解されてくるはずである。

## 学修目標

自分が抱く社会・経済理論の下で、社会・経済現象の在り方を定めている社会・経済の法則性をとらえるためのアプローチとして、統計値の系列に適切な解析方法を施し統計的規則性を見出すこと。そのために必要な統計情報をインターネットを通じて収集し、収集した情報にエクセルによる計算処理を施す実践に慣れること。

## 授業計画

- 第1回 統計の利用と加工
- 第2回 度数分布
- 第3回 統計値の諸形態 総量と平均
- 第4回 平均の意味と性質
- 第5回 度数分布のばらつきの尺度
- 第6回 統計比率 (1)静的比率
- 第7回 統計比率 (2)動的比率：個別指数
- 第8回 統計比率 (3)動的比率：総合指数
- 第9回 相関(1)意味と基本形式
- 第10回 相関(2)応用
- 第11回 回帰(1)意味と基本形式
- 第12回 回帰(2)重回帰
- 第13回 回帰(3)統計系列に対する回帰のあてはまり
- 第14回 回帰(4)統計系列における非線形関係と回帰
- 第15回 時系列解析；移動平均法
- 第16回 期末試験

## 授業外学習（予習・復習）

毎週、宿題プリントを与えて、予習と復習のための課題問題を解答させる。

## 教科書

田中勝人『経済統計』（第3版）岩波書店、2009年。

## 参考書

適宜指定する。

## 成績の評価基準

毎週の課題全体を30点満点とし、授業に取り組む普段の態度を見る。  
また、期末試験で70点満点の評価をする。ここでは授業内容の理解と応用力を見る。

## オフィスアワ -

火曜日1限 経済統計論研究室

## アクティブ・ラーニング

その他;

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

## 備考（受講要件）

数学の演算記号  $\int$  を用いるので、高校の数学で  $\int$  が理解できなかったものは、この授業の理解も困難である。また、宿題では統計値系列に対して計算を施すが、その際には、エクセルを表計算ソフトとして操作するための基本的知識が必要である。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
司法制度論			
英語名			
Judicial System			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
上原大祐	099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
法学を学ぶ上での基礎的知識となる、現代日本における裁判の仕組みについて概観する。			
学修目標			
裁判の仕組みについて学び、紛争解決の役割を担う司法について、大まかなイメージを得る。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 法と裁判の役割 第2回 法と裁判の種類 第3回 裁判所制度 第4回 法律家の役割 第5回 民事裁判・壹 (民事訴訟の基本構造) 第6回 民事裁判・貳 (民事裁判手続の概要) 第7回 家事裁判 第8回 行政裁判 第9回 刑事裁判・壹 (刑事裁判手続の概要) 第10回 刑事裁判・貳 (刑事裁判における諸問題) 第11回 憲法裁判 第12回 裁判を受ける権利 第13回 国民の司法参加 第14回 司法制度改革 第15回 まとめ 第16回 期末試験			
<p>上記授業はオンライン(リアルタイム配信・オンデマンド配信併用型)で行う予定である。また、授業の回数等に変更となる可能性がある。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
積み重ね式の知識の修得となるため、特に復習が必要である。毎回の講義の後に、復習をして知識を定着させておくことが望ましい(30分程度)。			
教科書			
授業において適宜資料を配布する。			
参考書			
成績の評価基準			
期末試験 (期末レポートの形で行う)			
オフィスアワー			
研究室在室時、適宜対応。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
経済史入門			
英語名			
Introduction to Economic History			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
三浦壮	099-285-8905		miura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>経済史は、理論・政策・歴史に分化される経済学の基幹分野のひとつである。本講義では、経済史の基本的な考え方を紹介したうえで、古代から近代初期の日本を対象とし、経済の側面を中心に、わが国の史的展開を講義することで、世界・国家・社会・人間の関係性、在り方を理解できるように努める。講義にあたっては、最新の研究成果を取り入れる。講義を理解するにあたっては、経済学の初歩的な知識が必要とされる。適宜、講義で振り返る。時々映像資料を使用し、理解を深める。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済史の考え方を理解できること</li> <li>・古代から近代初期までの日本経済の歴史を体系的に理解できるようになること</li> </ul>			
授業計画			
<p>1回目 経済史関係の論文の要約 (課題提出型)  2回目 経済史関係の論文のコメント作成 (課題提出型)  3回目 オリエンテーション (リアルタイム・オンライン型)  4回 経済の誕生 (リアルタイム・オンライン型)  5回 歴史研究の手法とアーカイブズ学 (リアルタイム・オンライン型)  6回 律令制国家の誕生と展開 (国際社会と土地制度) (リアルタイム・オンライン型)  7回 中世社会の誕生 (室町幕府と商業資本) (リアルタイム・オンライン型)  8回 中世社会の展開 (織田信長の経済力) (リアルタイム・オンライン型)  9回 中世社会のおわり (秀吉と太閤検地) (リアルタイム・オンライン型)  10回 近世社会の展開 (幕藩制社会の成立) (リアルタイム・オンライン型)  11回 近世社会の展開 (近世の経済水準) (リアルタイム・オンライン型)  12回 近世社会の終焉 (開講と世界貿易) (リアルタイム・オンライン型)  13回 近代国家の成立 2 (大久保利通, 地租改正, 秩禄処分) (リアルタイム・オンライン型)</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
その都度指示する			
教科書			
なし。レジュメを配布する			
参考書			
その都度指示する			
成績の評価基準			
試験100点のみ。相対評価を意識した採点を行うので、4人に1人は25%は不可となる。			
オフィスアワ -			
金曜3限目			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

13回中0回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
マクロ経済学II (旧 マクロ経済学)			
英語名			
Macroeconomics II			
開講学科		コース	
法経社会学科共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
金丸哲			k3748170@kadai.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
マクロ経済学IIでは、国民所得、雇用量、物価水準等のマクロ集計値がどのように導き出されるのか、理論的な説明を試みる。はじめに、財貨・サービス（生産物）市場と、貨幣市場の需給バランスを考察する、IS-LM分析をおこない、均衡国民所得、均衡利子率を求める。ついで、この両市場と、労働市場の需給バランスを考察するAD-AS分析をおこない、均衡国民所得、物価水準を導く。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国民所得決定の種々のモデルを理解する。</li> <li>2. IS-LM分析を理解する。</li> <li>3. AD-AS分析を理解する。</li> </ol>			
授業計画			
第1回：生産物市場 第2回：消費関数 第3回：投資関数 第4回：付加価値と国民所得 第5回：国民所得決定の基本モデル 第6回：貯蓄・投資バランスモデル 第7回：政府モデル 第8回：資産の現在価値 第9回：資本の限界効率 第10回：IS曲線の導出 第11回：貨幣の供給と需要 第12回：LM曲線の導出 第13回：IS曲線とLM曲線 第14回：労働市場の需給曲線 第15回：AD曲線とAS曲線 定期試験			
授業外学習 (予習・復習)			
必要に応じて適宜指示をする			
教科書			
使用しない (コピー配布)			
参考書			
金森・荒・森口編『経済辞典 (第5版)』有斐閣、2013。 滝川好夫『マクロ経済学の要点整理』税務経理協会、1999。			
成績の評価基準			
期末試験，授業への取り組み態度			
オフィスアワー			
授業終了後			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

マクロ経済学?を受講していることが望ましい。

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
森尾成之			
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2)レジュメとレポートの書き方を身につける。 (3)報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第4回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第5回～第14回 報告と討論 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
【予習】 報告担当者以外の受講生も、テーマに関する意見や質問を事前に考え、調べておくこと 【復習】 提示されたレジュメ、意見や質問を踏まえて、もう一度テーマ全体について考えること			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック〔改訂版〕』（法律文化社、2019年）			
参考書			
授業中に適宜、指示します。			
成績の評価基準			
報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
オンラインで授業を行う。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBC1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
大野友也		099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2)レジュメの書き方を身につける。 (3)報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方 第3回 レポートの書き方（1） 第4回 レポートの書き方（2） 第5回 ディベート（1） 第6回 ディベート（2） 第7回 報告（1） 第8回 報告（2） 第9回 報告（3） 第10回 報告（4） 第11回 報告（5） 第12回 報告（6） 第13回 報告（7） 第14回 報告（8） 第15回 まとめ			
なお、コロナの影響で上記講義は遠隔での実施となります。基本的にはズームを使って行う予定であるため、受講生は各自ズームのアカウントを取得しておいてください。			
ネット環境が整っていない学生は、早急に大野宛（onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp）か、マナバの掲示板にその旨書き込むこと。大野にメールして24時間以上返信がない場合は、必ず掲示板に書き込むこと。			
授業外学習（予習・復習）			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおくこと（30分程度） 【復習】講義で配布したレジュメを再読し、論点について再考すること（60分程度）			
【課外活動】鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。			

また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。また、生協の保険加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。

教科書

西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック [改訂版]』（法律文化社、2019年）

参考書

授業中に適宜、指示します。

成績の評価基準

報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。

オフィスアワ -

火曜5限目（研究室）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

社会科学基礎演習（旧 基礎演習）

## 英語名

Preliminary Seminar for Social Science

## 開講学科

## コース

法経社会学科共通

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース / 必修科目

演習

2単位

1年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

齋藤 善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

法律学に固有の考え方、分析手法に触れ、これから始まる本格的な各法律科目の学習にアレルギーを起こすことなく、スムーズに入っていける基盤を整備することが、この授業の主たる目的といえよう。

下記の授業計画に示される多くの授業回において、受講生各位には、予め予習の範囲が提示され、また、小テストやレポートが課せられることがあり得る。その意味で、受講生各位は、指示された課題等について、下調べをするなど、必要かつ十分な準備を尽くして、授業の現場に臨む必要がある。単に傍観者の立場に墮するので、この授業の成果は得られないことを肝に銘ずべきだろう。

## 学修目標

- 基本書を読解できる。
- 判例を読み込むことができる。
- 論理的な思考の過程を他者に説明できる。
- 論理的な思考の過程を説得的に起案できる。

## 授業計画

- 【1】開講にあたって【ガイダンス / 自己紹介など】
- 【2】法律学の考え方入門（1）【法的三段論法と要件事実論】
- 【3】法律学の考え方入門（2）【続・法的三段論法と要件事実論】
- 【4】判例学習入門（1）【東京地判昭和49.3.1 / 過失の自認の効力】
- 【5】判例学習入門（2）【最判昭和55.2.7 / 当事者からの主張の要否】
- 【6】基本書を読む（1）【民事裁判権の免除】
- 【7】判例を読む（1）【最判平成14.4.12 / 裁判権の免除】
- 【8】基本書を読む（2）【国際二重起訴】
- 【9】判例を読む（2）【東京地中間判平成1.5.30 / 国際的訴訟競合】
- 【10】基本書を読む（3）【審判権の限界】
- 【11】基本書を読む（4）【続・審判権の限界】
- 【12】判例を読む（3）【最判平成1.9.8 ; 平成21.9.15 / 法律上の争訟】

【13】基本書を読む（5）【国際裁判管轄】

【14】判例を読む（4）【最判昭和56.10.16；平成9.11.11 / 国際裁判管轄】

【15】判例を読む（5）【最判昭和50.11.28 / 国際裁判管轄の合意】

なお、上記の授業計画は、当面、Zoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する形で実施される。ただし、事情の変動により、変更を生じる可能性もあり得る。

#### 授業外学習（予習・復習）

各回の授業のテーマ、進行は、凡そ上記「授業計画」のとおりであり、予め課題等も提示することが予定されている。したがって、授業に参加するには、課題等に関して、必要十分な事前学習を尽くしていることが条件となる。

加えて、各回のテーマごとに、授業の進捗状況に応じ、小テストが実施されることもある。ゆえに、授業後にその内容について、再度チェックし、理解を確かなものとする取り組みも必須といえよう。

#### 教科書

文献、資料等、必要に応じて配布する（manaba / コンテンツ）。

#### 参考書

必要に応じ、適宜指示する。

#### 成績の評価基準

各回の授業の場での質疑応答や報告等の内容、小テストやレポートを実施した場合、その内容などを総合的に評価する。

#### オフィスアワー

#### アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；その他；

#### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

予習を指示した課題についての質疑応答など。

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

授業内容や進捗状況に応じて、適宜臨機応変に……

#### 備考（受講要件）

1年生については、学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行うこと。

平成24年度入学生より履修は2年生まで、1度限りという制約がある（修学の手引、参照）。ただし、平成23年度以前の入学生については、そのような制約はない。ゆえに、履修年度が1～4年生となっている。

社会科学基礎演習（旧 基礎演習）は、入学したばかりの1年生に法学コースの学生としての基本的な素養を学んでもらうという趣旨で開講される科目なので、平成23年度以前入学の4年生は、とくに履修を控えること。2年生以上の学生がこの基礎演習を履修する場合には、掲示された期限までに所定の手続に従い、「なぜ基礎演習の履修を志望したのか」という題目で1500字「以上」のレポートを提出すること。その後、教務委員によるレポートの内容についての審査を経て、意欲的であると判断された場合に限り、履修を認めることになる。履修許可があるまで履修はできない。3年次以上の学生については、とくに厳格に審査をすることになる。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
米田憲市		099-285-7569	kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp(subject欄に、科目名、氏名、学籍番号を必ず記載すること)
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2)レジュメの書き方を身につける。 (3)報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第4回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第5回～第14回 報告と討論 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおくこと（30分程度） 【復習】講義で配布したレジュメを再読し、論点について再考すること（60分程度） 【課外活動】鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。 また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。また、生協の保険加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック〔改訂版〕』（法律文化社、2019年）			
参考書			
授業中に適宜、指示します。			
成績の評価基準			
報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）； アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			

備考（受講要件）

学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC1306			
科目名			
憲法人権I (旧 人権論)			
英語名			
Constitutional Law :Human Rights I			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
大野友也	099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
立憲主義思想を基盤とした人権条項について、その歴史的成り立ちや、日本における各条項の解釈・判例についての講義を行います。			
学修目標			
(1) 人権思想について理解する。 (2) 日本国憲法の人権条項の意義を学ぶ。			
授業計画			
第1回	オリエンテーション		
第2回	人権総論		
第3回	人権共有主体 / 私人間効力論		
第4回	平等権		
第5回	幸福追求権		
第6回	思想・良心の自由 / 信教の自由		
第7回	表現の自由1		
第8回	表現の自由2		
第9回	表現の自由3		
第10回	学問の自由		
第11回	経済的自由		
第12回	人身の自由		
第13回	社会権1 (生存権)		
第14回	社会権2 (労働基本権)		
第15回	社会権3 (労働関係法)		
第16回	試験 (期末レポート)		
<p>コロナの影響により、遠隔授業を行います。 基本的にはズームを使ってやりますので、各自ズームのアカウントを取得しておいてください。</p> <p>ネット環境が整っていない学生は、その旨、大野宛にメール (onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp) するか、manabaの掲示板に書き込んでください。大野宛にメールして24時間以上返信がない場合は、必ず掲示板に書き込むこと。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】参考文献の該当箇所を読んでおく (30分程度)			
【復習】講義レジュメや参考文献の該当箇所を再読する (60分程度)			
教科書			
使用しない。レジュメを配布する。 なお、最低でも憲法条文を用意すること。六法を持参することが望ましいが、ネットなどで憲法条文だけを入手して印刷した上で持参してもよい。また、参考書に挙げているテキストを一冊準備しておくことが望ましい。			
参考書			
・辻村みよ子『憲法 [第5版]』(日本評論社、2016年)			

- ・樋口陽一『憲法 [ 第3版 ] 』(創文社、2007年)
- ・芦部信喜『憲法 [ 第6版 ] 』(岩波書店、2015年)
- ・長谷部恭男『憲法 [ 第6版 ] 』(新世社、2014年)
- ・佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂、2011年)
- ・浦部法穂『憲法学教室 [ 第3版 ] 』(日本評論社、2016年)
- ・高橋和之『立憲主義と日本国憲法 [ 第3版 ] 』(有斐閣、2013年)
- ・渋谷秀樹『憲法 [ 第2版 ] 』(有斐閣、2013年)
- ・野中俊彦・中村睦男ほか『憲法I [ 第5版 ] 』(有斐閣、2012年)
- ・奥平康弘『憲法III 憲法が保障する権利』(有斐閣、1993年)など。各自で読み比べ、もっとも自分に合っていると思ったものを入手してください。また版が新しくなっている場合があるので、書店などで各自確認してください。

## 成績の評価基準

期末試験(論述)で評価します。

ただし法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とします。

なお、コロナの影響でレポートに代替する可能性があります。

## オフィスアワー

火曜日5限目(研究室)

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2337			
科目名			
法学の基礎			
英語名			
Introduction to Law			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
松田忠大、阿部純一			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
この授業では、法律学の初学者向けにその入門的な講義を行う。法律学を学ぶにあたって、必要となる基礎的事項を講義するとともに、法の概念およびその目的を踏まえ、法がいかなる効力を有し、現実の社会においてどのように機能するのかについて講義する。また、第10回以降は各論として、私法分野の基本的な事項について具体例を挙げつつ講義する。			
学修目標			
(1) 法律学を学ぶために必要な基礎知識の定着をはかる。 (2) 法的な思考方法、表現方法を身につける。 (3) 私法の基本構造を理解する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス・法学を学ぶ意義 (阿部純一、松田忠大) (課題提出型) 第2回 法の概念(1) (松田忠大) (課題提出型) 第3回 条文の読み方とその構造 (松田忠大) (オンライン・オンデマンド型) 第4回 法の構造(2) (松田忠大) (オンライン・オンデマンド型) 第5回 法の目的と使命 (松田忠大) (オンライン・オンデマンド型) 第6回 法の効力 (松田忠大) (オンライン・オンデマンド型) 第7回 法の分類 (松田忠大) (オンライン・オンデマンド型) 第8回 法の運用1 (法解釈の必要性和法の執行・適用) (松田忠大) (オンライン・オンデマンド型) 第9回 法の運用2 (法解釈の手法) (松田忠大) (オンライン・オンデマンド型) 第10回 私法入門1 (法体系の中の私法の位置づけ、私法の世界) (阿部純一) (オンライン・オンデマンド型) 第11回 私法入門2 (私法の基本原則) (阿部純一) (オンライン・オンデマンド型) 第12回 私法入門3 (私法と法の解釈、日本における私法の歴史) (阿部純一) (オンライン・オンデマンド型) 第13回 私法入門4 (民事裁判の概要) (阿部純一) (オンライン・オンデマンド型) 第14回 私法入門5 (私法の主体としての「人」1: 権利能力、意思能力) (阿部純一) (オンライン・オンデマンド型) 第15回 私法入門6 (私法の主体としての「人」2: 行為能力と制限行為能力者制度) (阿部純一) (オンライン・オンデマンド型)			
授業外学習 (予習・復習)			
予習として、教科書の該当箇所を読み、自らの疑問点を明確にした上で講義を受講すること。			
教科書			
岩志和一郎編著『新版 法学の基礎』(成文堂、2010年)			
参考書			
潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選1 総則・物権(第8版)』(有斐閣、2018年)			
成績の評価基準			
授業への出席(10%)及び期末試験の結果(90%)によって評価する			
* 法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所			

属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワ -

主に授業後の次の時限に実施する。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
桑原司			kuwa3@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
レジュメの作成方法を指導する。 プレゼンテーションの方法を指導する。 社会科学（中でも社会学）の発想について解説する。			
学修目標			
適切なレジュメを作成できるようになる。 適切にプレゼンテーションを行うことができるようになる。 社会科学的な思考方法が身につく。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 社会学とは何か			
第3回 行為論の世界			
第4回 相互作用論の世界			
第5回 集団論の世界			
第6回 社会の構造			
第7回 全体としての社会			
第8回 社会の変動			
第9回 社会学アラカルト			
第10回 社会学のあゆみ			
第11回 グループ分け、各グループの課題設定			
第12回 仮設形成			
第13回 資料収集			
第14回 仮説検証・資料増補			
第15回 各グループの報告（発表）			
授業外学習（予習・復習）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告担当者は、レジュメを作成し「授業の前日」までに桑原までメール添付で提出すること。</li> <li>・報告担当者以外の受講者は、当該授業日の該当箇所の予習を必ず行っておくこと。</li> </ul>			
教科書			
森下伸也（2000）『社会学がわかる事典』日本実業出版社。 必ず生協書籍部で購入のこと（既に人数分手配済み）。			
参考書			
久恒啓一（2010）『図解で身につく！ドラッカーの理論』[ <a href="https://archive.is/ZKLZo">https://archive.is/ZKLZo</a> ]。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジュメの完成度</li> <li>・プレゼンテーションの適切さ</li> <li>・上記以外の授業への取り組み、態度</li> </ul>			
オフィスアワ -			

授業後

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

備考（受講要件）

【新型コロナウイルスの影響により、授業はすべて遠隔（「課題提出型」）で行います。それに伴い、授業回数や内容及び成績の評価基準も変更いたします。詳細は、随時manabaで指示致します。2020/04/23】

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD1901			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
片桐資津子			katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>高校までの授業では、学校側が作った問題を解くことに力点がおかれていました。しかし大学では、学生が自ら問題を見つけて、その問題の解決に向けて複数の案を導き出すことが求められます。本基礎演習では、この点を認識し、問題発見能力を習得することを目指します。</p> <p>この基礎演習のクラスでは、少子高齢化の社会問題を素材に、テキストを輪読します。まずは各自、予習の段階で自分で考えた問いを準備します。そして実際のクラスではグループごとに問いを出して、グループ成員が協力して解決策を話し合うこととなります。受け身の姿勢が許されない、全員参加型の授業です。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 時事問題に敏感になる</li> <li>(2) 読解力を身につける（input）</li> <li>(3) 思考力を身につける（process）</li> <li>(4) 表現力を身につける（output）</li> <li>(5) 文献収集力・情報収集力を獲得する</li> </ul>			
授業計画			
<p>第1回 オリエンテーション  第2～14回 テキストを素材にレジュメ発表と討論  第15回 まとめ</p> <p>基本的にすべての授業は、リアルタイムのオンライン型で実施します。ただし受講生のネット接続といった受講環境や、今後の新型コロナ感染状況次第で、授業回数や内容は変更となる可能性があります。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて、適宜指示します			
教科書			
講義時までには知らせます			
参考書			
適宜、manabaに掲載します			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度（100%）			
オフィスアワ -			
随時、受け付けます			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
無断欠席は厳禁です			
実務経験のある教員による実践的授業			



ナンバリングコード			
科目名			
エンドユーザ実習III			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
金子満	099-285-7598		k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>2年次以降の演習や卒業後の職場等での業務において、プレゼンテーションをする機会は多い。プレゼンテーションでしばしば用いるソフトとして、Microsoft社のPowerPointがある。そこで本実習では、PowerPointの基本的な使い方を身に付け、実際にプレゼンテーションしてもらいプレゼンテーション能力を向上させることを目標とする。</p> <p>また、自己表現活動としてのプレゼンテーションの意味を理解し、プレゼンテーションのマナー、質疑応答の方法についても学ぶことで、社会人としての基礎的な素養を身に付けることができる。</p>			
学修目標			
<p>1. Microsoft社のPowerPointの基本的操作方法を身に付ける。</p> <p>2. プレゼンテーションの意味を理解し、技法を身に付ける。</p> <p>3. 社会人としての基礎的な素養を身に付ける。</p>			
授業計画			
第1回	オリエンテーション		
第2回	プレゼンテーションとは何かを考える		
第3回	プレゼンテーションの良し悪しを考える		
第4回	プレゼンテーション用スライドの作成(1)		
第5回	プレゼンテーション用スライドの作成(2)		
第6回	プレゼンテーション(1)		
第7回	プレゼンテーション(2)		
第8回	プレゼンテーションの振り返り		
第9回	中間まとめ		
第10回	プレゼンテーション用スライドの作成(1)		
第11回	プレゼンテーション用スライドの作成(2)		
第12回	グループによるプレゼンテーション(1)		
第13回	グループによるプレゼンテーション(2)		
第14回	プレゼンテーションの振り返り		
第15回	まとめ+最終レポート		
授業外学習(予習・復習)			
パソコン操作やプレゼンテーション資料作成に関する事前、事後の練習・準備			
教科書			
授業中に提示			
参考書			
講義中に紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(40点)+プレゼンテーション(40点)+小レポート(20点)			
オフィスアワー			
授業後の時間、もしくは、メールでアポを入れてください。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

今回は新型コロナの影響により、リモート学習となります。また、講義内でブレイクアウトセッション等を活用したり、実際にプレゼンをしてもらうため、マイク及びカメラの準備を確実にお願いします。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
エンドユーザ実習III			
英語名			
End-User Computing III			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
酒井佑輔	099-285-7292		sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>2年次以降の演習や卒業後の職場等での業務において、プレゼンテーションをする機会は多い。プレゼンテーションでしばしば用いるソフトとして、Microsoft社のPowerPointがある。そこで本実習では、PowerPointの使い方を身に付け、実際にプレゼンテーションしてもらいプレゼンテーション能力を向上させることを目標とする。また、メールの送り方やプレゼンテーションのマナー、質疑応答の方法を学ぶことで、社会人としての基礎的な素養を身に付けることができる。</p>			
学修目標			
<p>1. Microsoft社のPowerPointの操作方法を身に付ける。                  2. プレゼンテーションの技法を身に付ける。                  3. 社会人としての基礎的な素養を身に付ける。</p>			
授業計画			
<p>授業は遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p>			
<p>第1回 オリエンテーション【リアルタイム型】                  第2回 プレゼンテーション準備【リアルタイム型】                  第3回 紙芝居プレゼンテーション【リアルタイム型】                  第4回 プレゼンテーション準備【リアルタイム型】                  第5回 紙芝居プレゼンテーション【リアルタイム型】                  第6回 プレゼンテーション準備【リアルタイム型】                  第7回 紙芝居プレゼンテーション【リアルタイム型】                  第8回 プレゼンテーション準備【リアルタイム型】                  第9回 PPTを用いたプレゼンテーション【リアルタイム型】                  第10回 プレゼンテーション準備【リアルタイム型】                  第11回 PPTを用いたプレゼンテーション【リアルタイム型】                  第12回 プレゼンテーション準備【リアルタイム型】                  第13回 PPTを用いたプレゼンテーション【リアルタイム型】                  第14回 PPTを用いたプレゼンテーション【リアルタイム型】                  第15回 まとめ+最終レポート【リアルタイム型】</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習：プレゼンテーション前には予行練習をする必要がある。</p>			
教科書			
なし。			
参考書			
<p>・井上香緒里『できるPowerPoint 2013』インプレス、2013                  ・川嶋直『KP法 シンプルに伝える紙芝居プレゼンテーション』みくに出版、2013</p>			
成績の評価基準			
<p>授業への取り組み態度 (40点) + プレゼンテーション (40点) + 最終レポート (20点)</p>			
オフィスアワ -			

メール等で事前に連絡があれば随時対応。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全て

備考（受講要件）

後期は原則Zoomを用いたリアルタイム型の遠隔授業となります。

（2020/08/03更新）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
都市社会学			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
吉良伸一			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>先進社会のほとんどの人口は都市人口となっています。途上国においても急速な都市化が進行しつつあります。その意味では、現代社会は都市化社会とすることができます。第1に、近代以降の都市化・脱工業化以・現代進行しつつある都市化の特徴について学びます。第2に、アメリカのシカゴ学派以降に展開された都市社会学理論について学びます。急速な都市化に伴う大きな社会変動の中で、人はこの現象をどのように理解しようとしたのでしょうか。第3に、都市化に伴う様々な問題について考えていきます。豊かさと貧困、格差、犯罪や非行、多様な文化接触と摩擦、環境問題と災害の激化など様々な問題が起きています。第4に、先進国を中心に人口減少・少子高齢化が起きています。少子高齢化の中での都市と都市問題、これからの都市の変化と課題について考えていきます。国際化・環境問題・観光とまちづくりなどのについても取り上げていきます。授業ではmanabaによる課題提出とZoomによるリアルタイム配信による説明を合わせて行います。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、近代以降の現代までの都市化について理解する。</li> <li>2、基本的な都市社会学理論について理解する。</li> <li>3、都市問題の基本について理解する。</li> <li>4、少子高齢化に伴い都市の変化と課題について理解する。</li> <li>5、これからの都市の変化と課題について自分なりの意見を持つことができる。</li> </ol>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 都市とは何か</li> <li>2 シカゴ学派の都市研究 R.E.パークの都市研究</li> <li>3 シカゴ学派の都市研究 バージェスの同心円地帯モデル</li> <li>4 シカゴ学派の都市研究 L.ワースのアーバニズム論</li> <li>5 日本の都市社会学理論</li> <li>6 新しい都市社会学</li> <li>7 人口逆流現象</li> <li>8 コミュニティ</li> <li>9 我が国の人口移動</li> <li>10 地方と中央</li> <li>11 中心市街地活性化</li> <li>12 国際化</li> <li>13 観光とまちづくり</li> <li>14 環境問題と都市</li> <li>15 平成の市町村合併とは何だったのか</li> </ol>			
授業外学習 (予習・復習)			
都市や都市問題・少子高齢化に関する番組・記事など視聴したり読むようにしてください。			
教科書			
とくに用いません。			

## 参考書

## 成績の評価基準

授業時間ごとに毎回課題を出し毎回レポートを書いてもらいます。  
最終レポートを提出してもらい。毎回レポートと最終レポートで評価します。

## オフィスアワ -

各回授業終了後 質問・連絡などZoomのチャットを利用してください。

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

## 備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

社会教育概論

## 英語名

Introduction to Social Education

## 開講学科

## コース

法経社会学科共通

地域社会コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会学科 / 選択科目

講義

2単位

1～4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

農中至

0992857785

nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

なし

後期

## 授業概要

本講義は、日本における社会教育の歴史と現代的動向について、法制度、国際的な観点なども含めながら解説するものである。第一に、歴史的な成立経緯に焦点をあてる。第二に、現在につづく戦後日本の社会教育実践の動向と特色を確認する。第三に、国際的な関係のなかで、日本の社会教育が有する特性を示す。このほか、現代社会における地域課題に対して、どのような社会教育の取り組みが全国で生じているのかに関する、最新の情報についても提供していく。授業の方法は、リアクションペーパーを準備し、それを活用しながら進めるものであり、発問に対する応答を基本としながら、双方向的な受講生中心型の講義をおこなう。

## 学修目標

日本社会における教育の大きな二つの体系である、学校教育と社会教育の関係について理解し、日本の教育を統一的かつ構造的に理解できるようになることを目指す。また、学校教育とは異なる社会教育にはどのような固有の価値があるのか、社会教育の地域社会にとっての意味とはなにかについて考えることができるようになる。

## 授業計画

授業形態について変更する可能性があるが、基本的にはzoomによるリアルタイム配信でおこなう。

1. オリエンテーション (社会教育とはなにか)
2. 社会教育の誕生と成立 (近代教育制度・国民国家・戦時体制・民主国家建設と社会教育)
3. 戦後社会教育の動向と推移 (敗戦から1960年代まで)
4. 戦後社会教育の動向と推移 (1970年代から1990年代まで)
5. 戦後社会教育の動向と推移 (2000年代から現在まで)
6. 社会教育の対象とはだれか (社会教育の主体について)
7. 社会教育の方法とはなにか (学習内容・編成について)
8. 社会教育の施設とはどこか (社会教育の固有の空間について)
9. 社会教育の法と行財政に関する諸問題
10. 戦後社会教育実践の特色 (女性・ジェンダーと社会教育のかかわりについて)
11. 戦後社会教育実践の特色 (子ども・学校外教育と社会教育のかかわりについて)
12. 戦後社会教育実践の特色 (地域課題解決・地域づくりと社会教育のかかわりについて)
13. 戦後社会教育実践の特色 (高齢者の生きがいと社会教育のかかわりについて)
14. 戦後社会教育実践の特色 (若者・青年の発達課題・自己形成と社会教育のかかわりについて)
15. 戦後社会教育実践の特色 (文化・公害・人権問題と社会教育のかかわりについて)・確認試験

## 授業外学習 (予習・復習)

zoomのURLおよび予習課題、復習課題についてはmanabaにアップします。授業開始時までには必ずmanabaを確認するようにしてください。

事前配布資料等に目を通し、授業にのぞみ、提示された課題について準備を進めること。

## 教科書

千野陽一監修・社会教育推進全国協議会編『現代日本の社会教育【増補版】』エイデル研究所、2015

## 参考書

・牧野篤『「つくる生活」がおもしろい』さくら舎、2017

・佐藤一子編著『地域学習の創造』東京大学出版会、2015

成績の評価基準

授業中レポート50%・期末確認試験レポート30%・予習課題の遂行状況20%

オフィスアワ -

適宜応じます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

発問に対するグループ検討およびそれに基づくグループ・個人による発表

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8回

備考（受講要件）

社会教育主事資格取得を目指すもの。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
地域社会を学ぶ			
英語名			
Introduction To Community Studies			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
桑原司	099-285-7581	kuwa3@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
城戸秀之、桑原司、片桐資津子、井原慶一郎、金子満、農中至、酒井佑輔、中島大輔、片野田拓洋		後期	
授業概要			
住民の生活の場として地域社会を捉え、地域社会コースや法経社会学科での学習の基礎となる、コミュニティ研究の観点からのアプローチと知見を紹介する。地域社会コースの担当教員による総合講義である。			
学修目標			
1. 地域社会について問題意識をもつ 2. 地域社会についてのアプローチについての知識を習得する 3. 現代の地域社会の課題を捉えることができる			
授業計画			
第1回 「地域社会を学ぶ」とは(桑原 司)【授業形態:A)とD)の組み合わせ】			
第2回 国際比較の視点から地域社会を学ぶ(社会学 片桐資津子)【授業形態:A)とD)の組み合わせ】			
第3回 行為の観点から社会を学ぶ(社会学 桑原 司)【授業形態:A)とD)の組み合わせ】			
第4回 現代社会の視点から地域社会を学ぶ(社会学 城戸秀之)【授業形態:A)とD)の組み合わせ】			
第5回 社会学からとらえる地域社会(城戸秀之)【授業形態:A)とD)の組み合わせ】			
第6回 自治体政策の現状と課題を学ぶ(鹿児島県の施策を中心に)(自治体政策 片野田 拓洋)【授業形態:A)とD)の組み合わせ】			
第7回 ヨーロッパとの比較の視点から地域社会を学ぶ(文化研究 中島大輔)【授業形態:未定】			
第8回 芸術文化の視点から地域社会を学ぶ(文化研究 井原慶一郎)【授業形態:A)】			
第9回 地域社会における自治体政策・文化研究(中島・井原・片野田)【授業形態:未定】			
第10回 社会教育・生涯学習を学ぶ1(原論・制度)(社会教育 農中 至)【授業形態:未定】			
第11回 社会教育・生涯学習を学ぶ2(地域課題・主体形成)(社会教育 金子 満)【授業形態:未定】			
第12回 社会教育・生涯学習を学ぶ3(社会教育計画・方法)(社会教育 小栗有子)【授業形態:A)とD)の組み合わせ】			
第13回 社会教育・生涯学習を学ぶ4(比較社会教育・学習論)(社会教育 酒井佑輔)【授業形態:A)とD)の組み合わせ】			
第14回 地域社会における社会教育・生涯学習の研究(まとめ)(小栗・金子・農中・酒井)【授業形態:A)とD)の組み合わせ】			
第15回 地域社会を学ぶ(桑原 司)【授業形態:A)とD)の組み合わせ】			
【注記】			
A)Zoomアプリケーションを利用したリアルタイム同時配信授業			
B)manaba に掲載された授業資料や授業ビデオを一定期間のうちに視聴して課題や小テストに取り組む			
C)オンデマンド型授業			
D)manabaを利用した課題提出型授業やそれらを組み合わせた授業			
E)その他			
授業外学習(予習・復習)			
予習については適宜指示をする。復習として毎回の資料にある参考文献などにより理解を深めること。			
教科書			
授業時間ごとに資料を配付する			

## 参考書

授業において適宜紹介する

## 成績の評価基準

授業の際に提出する小レポートに基づき評価する

## オフィスアワー

各時間の担当教員に確認すること

## アクティブ・ラーニング

グループワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

## 備考（受講要件）

2年次に地域社会コースを希望する1年生は受講することが望ましい

【新型コロナウイルスの影響により、授業はすべて遠隔で行います。それに伴い、授業回数や内容及び成績の評価基準も変更いたします。詳細は、随時manabaで指示致します。】

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
日野道啓			hino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
大学での学習に必要な基礎的な考え方や能力を習うことを目的とする。主として「スタディスキル」の基礎学習を目的とし、「ソーシャルスキル」の確認および獲得を副次的な目的とする。			
学修目標			
1. 文献資料の収集ができるようになる。 2. レジューメを作成できるようになる。 3. クリティカルシンキングについて理解できる。 4. プレゼンテーションおよび討論の仕方について理解できる。			
授業計画			
第1回：ガイダンス/自己紹介（1） 第2回：自己紹介（2） 第3回：文献資料の収集方法（1） 第4回：文献資料の収集方法（2） 第5回：文献資料の収集方法（3） 第6回：発表と質問（1） 第7回：発表と質問（2） 第8回：クリティカルシンキングを学ぶ（1） 第9回：クリティカルシンキングを学ぶ（2） 第10回：クリティカルシンキングを学ぶ（3） 第11回：輪読と報告（1） 第12回：輪読と報告（2） 第13回：輪読と報告（3） 第14回：輪読と報告（4） 第15回：輪読と報告（5）			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
講義中に指定する			
参考書			
とくになし			
成績の評価基準			
出席・報告内容（レジューメ作成・プレゼンテーション）・討論への積極性を総合的に判断する。			
オフィスアワ -			
メールやmanabaのスレッドで適宜受け付ける			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			

15回中14回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

社会科学基礎演習（旧 基礎演習）

## 英語名

Preliminary Seminar for Social Science

## 開講学科

## コース

法経社会学科共通

経済コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会学科 / 必修科目

演習

2単位

1年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

松川 太郎

matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

文章の論理をその形式から読み取る方法を学び、実際にその方法を使って論理を正確に理解することを演習する。

毎回、事前に課題を出すので、その出来に応じた指導を行う。したがって、課題提出が受講の前提である。

遠隔授業にあたっては、資料と課題のファイルをmanaで事前に配布し、演習を時間割通りにリアルタイムでZOOMを通じた音声+資料表示の形で実施する。manaでの連絡に注意すること。また、ZOOMのURL、ID、パスワードは絶対 外部に漏らさないこと。これが外部に漏れると、部外者による授業妨害を引き起こす恐れがある。

なお、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

## 学修目標

- 1) 文章の論理を正確に読み取る。
- 2) 本の読み方を身につける。
- 3) 議論の仕方を身につける。
- 4) 思考の方法論に触れる。

## 授業計画

教科書の各章を下記のように分割して、授業概要に挙げた事項を演習する。

- 第1回 自己紹介を通した論理トレーニング(1) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第2回 自己紹介を通した論理トレーニング(2) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第3回 「対」と「言い換え」(1) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第4回 「対」と「言い換え」(2) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第5回 「比較」と「譲歩」(1) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第6回 「比較」と「譲歩」(2) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第7回 「分類」と「矛盾」(1) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第8回 「分類」と「矛盾」(2) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第9回 「分類」と「矛盾」(3) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第10回 「媒介」(1) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第11回 「媒介」(2) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第12回 「媒介」(3) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第13回 文の流れ [ 文脈 ] を読む(1) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第14回 文の流れ [ 文脈 ] を読む(2) (リアルタイム型 + 課題提出型)
- 第15回 文の流れ [ 文脈 ] を読む(3) (リアルタイム型 + 課題提出型)

## 授業外学習（予習・復習）

毎回、事前に課題プリントを渡す。課題をとり、manaで指定した時間までに、manaの「レポート」にて提出すること。締め切り厳守のこと。遅れた提出は原則として受け付けない。

## 教科書

中井浩一 『正しく読み、深く考える 日本語論理トレーニング』 講談社現代新書、2009年。

## 参考書

毎回配布する。

## 成績の評価基準

課題の出来具合と演習時間中のパフォーマンスを総合評価する。

## オフィスアワ -

水曜 1 限 経済統計論研究室

## アクティブ・ラーニング

その他；

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

課題プリントによる学習事項の実践。

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

## 備考（受講要件）

授業の第1回時には、あらかじめ教科書の第1～2章を読んでおくこと。

課題を毎回提出すること。

部活動の試合等で演習に出席できない場合でも、課題だけは提出のこと。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
エンドユーザ実習III			
英語名			
End-User Computing III			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
三浦壮		miura@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
本実習では、Microsoft社のPowerPointの使い方を身に付けるだけでなく、実際にプレゼンテーションをすることで、プレゼンテーション能力を向上させることを目標とする。			
学修目標			
1. Microsoft社のPowerPointの操作方法を身に付ける			
2. プレゼンテーションの技法を身に付ける			
3. PowerPointを用いてプレゼンテーションできるようにする			
授業計画			
1. ガイダンス			
2. テキスト実習 ( 1 )			
3. テキスト実習 ( 2 )			
4. テキスト実習 ( 3 )			
5. テキスト実習 ( 4 )			
6. 第 1 回目のプレゼンの準備			
7. 第 1 回目のプレゼン ( 1 )			
8. 第 1 回目のプレゼン ( 2 )			
9. 第 1 回目のプレゼン ( 3 )			
10. 自己評価レポート ( 1 )			
11. 第 2 回目のプレゼンの準備			
12. 第 2 回目のプレゼン ( 1 )			
13. 第 2 回目のプレゼン ( 2 )			
14. 第 2 回目のプレゼン ( 3 )			
15. 自己評価レポート ( 2 )			
授業外学習 ( 予習・復習 )			
授業を欠席した場合、自宅等でファイルを作成すること。また、授業時間内にプレゼンテーションのスライドを完成できなかった場合、自宅等でスライドを完成させること。			
教科書			
『できる PowerPoint2019』インプレス 必ず購入のこと。			
参考書			
講義中に紹介する			
成績の評価基準			
プレゼンテーション ( 2 回 ) , レポート ( プレゼンテーションに対する自己評価 , 2 回 ) , 授業への取り組み態度			
オフィスアワ -			
金曜3限目			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション; 学習の振り返り ( ミニッツ・ペーパー等 );			
アクティブ・ラーニング ( その他の内容 )			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

16回中14回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

<b>ナンバリングコード</b>			
FHS-CCD1302			
<b>科目名</b>			
エンドユーザ実習I			
<b>英語名</b>			
End-User Computing I			
<b>開講学科</b>		<b>コース</b>	
法経社会学科共通		経済コース	
<b>授業科目区分</b>	<b>授業形態</b>	<b>単位数</b>	<b>開講期</b>
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
<b>担当教員</b>	<b>連絡先 (TEL)</b>		<b>連絡先 (MAIL)</b>
萩野誠	7605		mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp
<b>共同担当教員</b>		<b>前後期</b>	
		前期	
<b>授業概要</b>			
<p>コンピュータを学習に本格的に使い出すのは、大学生になってからです。                  エンドユーザという表現は、仕事等でパソコンを使っている人のことを意味します。                  講義では、エンドユーザとして、社会にでるために、必要なスキルを身につけます。</p>			
<b>学修目標</b>			
<p>学術情報基盤センターの学生へ対するサービスを理解し、利用できるようになる。                  パソコンのアプリケーションの代表であるWordを通じて、スキルの大切さを理解し、修得する。</p>			
<b>授業計画</b>			
<p>第1回 エンドユーザとは何か：学生として、社会人としてのスキル                  第2回～第10回                  テキスト第2章から毎回原則として、1つの章を実習する。                  第11回 小テスト(1)                  第12回 ケーススタディ：就職活動                  第13回 ケーススタディ：                  第14回 Tips:スキル集                  第15回 小テスト(2)</p>			
<b>授業外学習 (予習・復習)</b>			
<p>適時指導しますが、課題に真剣に取り組み、技能をマスターしてください。                  予習：課題をだすときがあるので、調べること。                  復習：テキストの各章の練習問題を作成し、提出すること(計60分)</p>			
<b>教科書</b>			
<p>できるWord 2019                  大学生協で販売している</p>			
<b>参考書</b>			
なし			
<b>成績の評価基準</b>			
<p>講義時間中のレポート各3点、予習・復習に関するレポート(練習問題)各2点を13回おこなう。計65点                  小テスト1回20点X2回                  合計105点満点                  100点以上は100点とする。</p> <p>小テスト(1)：15点、小テスト(2)：31.5                  合計30点</p> <p>100点満点で評価する。</p>			
<b>オフィスアワ -</b>			
manabaの掲示板でおこなう			
<b>アクティブ・ラーニング</b>			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中0回

備考（受講要件）

本年度は、遠隔授業でおこなうことになった。  
 manabaを利用するので、忘れないように。  
 練習問題は次回の授業の前日まで、授業中の課題は授業時間に提出すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
北崎浩嗣	099 - 285-7592	kitazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
なし。	前期		
授業概要			
<p>本演習では、社会科学の基礎的テキストを輪読しながら、社会科学の基礎的知識を学び、併せて文献資料の収集方法、レジュメの作成方法、発表の方法、討論の方法などを学ぶ。</p> <p>今期は、5月連休明けまでは、マナバによる課題提出型授業、連休明け後はズームによるリアルタイム配信授業を予定している。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献資料の収集方法を身につける。</li> <li>2. レジュメの作成方法を身につける。</li> <li>3. プレゼンテーションの方法を身につける。</li> <li>4. 討論の仕方を身につける。</li> <li>5. 社会科学の基礎知識を身につける。</li> </ol>			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第14回 発表と討論 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて、適宜指導する。			
教科書			
事前に、オリジナル資料を受講者に郵送する。			
参考書			
演習の進展に応じ、適宜指示する。			
成績の評価基準			
授業への取組態度（発表内容、討論への積極性など）による。			
オフィスアワ -			
金曜日1時間目、研究室			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中13回。			
備考（受講要件）			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
ミクロ経済学I (旧 ミクロ経済学)			
英語名			
Microeconomics I			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
石塚孔信		099-285-7586	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>現在、ほとんどの先進諸国においては、資源配分、所得分配といった問題を基本的には市場機構に委ねている。市場経済では、資源配分や所得分配のルールは、各経済主体間の取り決めによってつくられている。企業は、自分の責任の下に生産活動を行い、各家計は自らの選択によって労働に従事し、消費を行っている。これらのそれぞれの意思決定を社会的に調整するものが市場メカニズムである。市場経済は、市場における需要と供給を調整する価格メカニズムを組み込んだ経済であり、このメカニズムを解明するのがミクロ経済学の第一の目的である。したがって、ミクロ経済学は、「価格理論」といわれるのである。</p> <p>本講義では、ミクロ経済学の消費者行動と企業行動の基本的考え方とその理論を講義する。</p>			
学修目標			
<p>ミクロ経済学の学習は、経済モデルを用いて数量的に分析する事が多いために文科系の学生にとってはハードルが高く思われがちである。しかし、そのハードルを超える事ができれば自分で考える事が容易になるという特徴も持っている。</p> <p>この講義では、そのハードルを受講生全員が超えることを目標に進めていく。したがって、多くのことをやるよりも教材を厳選して、それを時間をかけて解説することにより、受講生諸君が自分で理解する能力をつけることが出来るようにしたい。</p>			
授業計画			
<p>全ての回(15回)を遠隔授業で行う。(リアルタイム配信 (Zoom))</p> <p>次のようなスケジュールで講義を行なう。</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：消費者行動の理論-消費者と需要(1)</p> <p>第3回：消費者行動の理論-消費者と需要(2)</p> <p>第4回：消費者行動の理論-消費者と需要(3)</p> <p>第5回：消費者行動の理論-消費者と需要(4)</p> <p>第6回：消費者行動の理論-消費者行動と需要曲線(1)</p> <p>第7回：消費者行動の理論-消費者行動と需要曲線(2)</p> <p>第8回：消費者行動の理論-消費者行動と需要曲線(3)</p> <p>第9回：生産者行動の理論-企業行動と生産関数(1)</p> <p>第10回：生産者行動の理論-企業行動と生産関数(1)</p> <p>第11回：生産者行動の理論-企業行動と生産関数(2)</p> <p>第12回：生産者行動の理論-企業行動と生産関数(3)</p> <p>第13回：生産者行動の理論-企業行動と費用関数(1)</p> <p>第14回：生産者行動の理論-企業行動と費用関数(2)</p> <p>第15回：生産者行動の理論-企業行動と費用関数(3)</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>ミクロ経済学は積み重ねが必要な分野なので、途中で分からなくなるとその後の学習が困難になるために復習をこまめにやる必要がある。また、予習をして受講してもらうと講義への理解が効果的である。とにかく、理解を先送りしないように努力して欲しい。</p>			
教科書			

西村和雄『現代経済学入門 ミクロ経済学 第3版』岩波書店、2011年。

参考書

講義中に紹介する。

成績の評価基準

筆記試験 ( 8 0 % ) と宿題の提出 ( 2 0 % ) による。

オフィスアワ -

木曜日の3時限目

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング ( その他の内容 )

講義の内容を定着させるために演習問題を解く。

アクティブ・ラーニング ( 授業回数 )

15回中5回

備考 ( 受講要件 )

この講義を受講した後、ミクロ経済学IIを受講することが望ましい。

適宜、演習問題を解いて理解を深める。関連科目として、マクロ経済学I・IIを受講することをお勧めする。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
経済原論			
英語名			
Principles of Political Economy			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
橋本直樹			hx2m@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>2013年にユネスコの「世界の記憶」リストに、カール・マルクスが青年期に起草した『共産党宣言』の草稿とともに、その主著『資本論』の自用本も登録されました。今や人類全体の文化遺産ともなったこの『資本論』の内容を概説する講義です。公務員試験の科目「経済原論」とは異なり、いわゆる「マルクス経済学」の「経済原論」の内容に当たります。</p> <p>この経済原論には定評のある優れたテキストがすでにくつもありません。そのため、マルクスの『資本論』の体系に即してその要点を簡潔にまとめている『政治経済学の再生』および経済の現状を平易に概説した『やさしい日本と世界の経済の話』の2冊を教科書として用います。また、ほぼ毎回、資料も配付して、もっぱら種々の経済用語を噛み砕いて説明する講義形式で進めます。</p> <p>全15回だけの講義ですから、場合によっては『資本論』全3巻中の第2巻の内容までで終わることもあるかもしれませんが。</p>			
学修目標			
<p>経済学の基礎的知識を体系的に修得すると共に、地域社会や国際社会の現実的諸課題を解決する上での前提となる論理的・科学的思考力を体得するため、次の4つの目標に到達するようにしましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 経済についての一般的イメージを整理できる。</li> <li>2) 経済学の基本的な用語を理解し、活用できる。</li> <li>3) 基本的経済用語によって経済社会のしくみと動きを初歩的次元なりとも表現できる。</li> <li>4) 種々の経済上の問題を自身で考えることのできる基本的視点のいくつかを入手する。</li> </ol>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス・経済とは？・経済学の対象と方法(教科書『政治経済学の再生』3～5ページ、17～24ページ。以下、ページ数は同書のもの)</p> <p>第2回 商品と価値(25～31ページ)</p> <p>第3回 貨幣の本質とその諸機能(31～38ページ)</p> <p>第4回 労働力商品の価値と使用価値(38～42ページ)</p> <p>第5回 労働時間と剰余価値生産(42～49ページ)</p> <p>第6回 技術革新と社会的生産力の増大(49～56ページ)</p> <p>第7回 賃金と単純再生産・拡大再生産と失業(56～64ページ)</p> <p>第8回 集積・集中・蓄積と本源的蓄積(64～69ページ)</p> <p>第9回 資本の3つの姿態と流通費用(71～83ページ)</p> <p>第10回 資本の回転、固定資本・流動資本(83～90ページ)</p> <p>第11回 産業部門と設備投資(90～98ページ)</p> <p>第12回 費用と利潤率・平均利潤・市場価格(99～110ページ)</p> <p>第13回 生産性の上昇と利潤率の傾向的低下(110～113ページ)</p> <p>第14回 商業利潤と利子(113～125ページ)</p> <p>第15回 地代と競争・分配・階級(125～135ページ)</p> <p>(第16回 定期試験)</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>詳しくは講義初回のガイダンス時に指示しますが、遅くとも前の回には次回の講義資料をあらかじめ配布しますので、それを手掛かりに毎回の講義につき、学則の規定通り少なくとも2時間は予習し、講義範囲の教科書の</p>			

内容をおおよそ把握しておくようにしましょう。復習はやはり学則の規定通り少なくとも2時間はかけて、講義で深めた理解を定着させるようにしましょう。とりわけ、復習しても不明の点は、毎回配布する「学習連絡シート」に記入して担当教員に必ず伝え、回答を得て、不明点をなくすようにしましょう。

**教科書**

講義では、柴田信也編著『政治経済学の再生』（創風社、2011年発行）の第1部（はしがき[3ページ]～135ページ）を使い、補助的な教科書として、熊野剛雄著『やさしい日本と世界の経済の話』（新日本出版社、2019年）を使います。教科書2冊は事前に入手のうえ、講義の初回から必ず持参しましょう。

**参考書**

- 1) 山家悠紀夫著『日本経済30年史 バブルからアベノミクスまで』（岩波新書、2019年）。
  - 2) 金子勝著『平成経済 衰退の本質』（岩波新書、2019年）。
  - 3) 小熊英二著『日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学』（講談社現代新書、2019年）。
  - 4) 森永卓郎著『なぜ日本だけが成長できないのか』（角川新書、2018年）。
  - 5) 首藤若菜著『物流危機は終わらない 暮らしを支える労働のゆくえ』（岩波新書、2018年）。
  - 6) 森田成也著『新編 マルクス経済学再入門』上・下巻（社会評論社、2019年）。
  - 7) 石倉雅男著『貨幣経済と蓄積の理論 第2版』（大月書店、2019年）。
  - 8) 大西広著『マルクス経済学』（慶応義塾大学出版会、2012年）。
  - 9) 小幡道昭著『経済原論 基礎と演習』（東京大学出版会、2009年）。
  - 10) 富塚良三他編著『資本論体系』全10巻（有斐閣、1984～2001年）。
- その他の参考書や発展的学修のための参考文献は、講義において随時ご紹介します。

**成績の評価基準**

期末の筆記試験(55%)、講義中の小テスト(20%)、学習連絡シートの記載内容(10%)および課題レポート(15%)の結果を総合的に判断して評価します。

**オフィスアワー**

**アクティブ・ラーニング**

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
企業会計論（旧 会計学総論）			
英語名			
Corporate Accounting			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
北村浩一	099-285-6296		kitamura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>企業において「会計」はなくてはならない重要なツールであり、企業の根幹を支えるものである。この講義ではその企業における会計＝企業会計に関して、その基礎である会計・企業・社会・経済・経営といった関連事象と結びつけながら学んでいく。</p>			
学修目標			
<p>企業会計とは何であるのか、企業会計が何故企業においてなくてはならない重要なツールであるのか、それを会計・企業・社会・経済・経営といった関連の事象と、自ら結びつけられる様な理解の修得を目指す。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス～会計から企業会計へ                  第2回～第5回 道具としての会計                  第6回～第10回 企業会計とは                  第11回～第13回 企業会計を取り巻く関連事象                  第14回・第15回 講義まとめ～企業会計論とは</p>			
遠隔による授業を予定している。			
授業外学習（予習・復習）			
授業中、適宜指示をする。			
教科書			
特に定めない			
参考書			
授業中に適宜紹介をする。			
成績の評価基準			
<p>(遠隔の場合) 毎回の課題により評価する                  (対面の場合) 期末試験、レポート(レポートは授業時間中に数回行う予定)</p>			
オフィスアワ -			
水曜・12時半?16時・研究室			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
全15回中3回			
備考（受講要件）			
<p>当講義は北村担当の講義「管理会計論」「工業簿記・原価計算論の内容へと密接に関わっていくので、企業・経営・会計に興味のある場合は、関連して受講することが望ましい。</p>			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
経済学概論			
英語名			
Outline of Economics			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
日野道啓			hino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本講義では、われわれに身近な事例やテーマを利用しながら、経済学の基礎知識および考え方を学習する。経済原理は、現代社会を構成する基本原理の1つとなっている。市場メカニズムは国境を越えて浸透し、かつ、消費の単位が細分化されることであるいは調整方法として利用されることで、現在、社会の隅々まで行き渡っているためである。経済学を学ぶことで、現代社会の基本構造がより良く理解できるようになる。</p> <p>本講義の特徴は次の2点である。第1に、本講義では、数学を使用しない。通常、経済学では、数学を用いて概念を説明するが、本講義では、分かりやすさを優先するため、それをしない。第2に、本講義は、経済学を学ぶ上でのファーストステップになるものである。経済学は積み上げの学問であり、「基礎（例：「ミクロ経済学」や「マクロ経済学」等）」を学んだ後、「発展・応用（例：「財政政策論」や「国際経済学」等）」を学習する。本講義は、「基礎」を学ぶための「導入」に該当する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の基礎用語が理解できる。</li> <li>2. 理論の基礎的な知識が理解できる。</li> <li>3. 経済学の考え方を利用して、身近な問題にアプローチできるようになる。</li> </ol>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス                  第2回：経済学へのいざない(1)-経済学の意義と概要                  第3回：経済学へのいざない(2)-法則と考え方                  第4回：経済学へのいざない(3)-合理性と経済指標(上)                  第5回：経済学へのいざない(4)-合理性と経済指標(下)                  第6回：経済学の歴史(1)-古典派経済学(上)                  第7回：経済学の歴史(2)-古典派経済学(下)                  第8回：経済学の歴史(3)-その後の経済学                  第9回：ミクロ経済学の基礎(1)                  第10回：ミクロ経済学の基礎(2)                  第12回：マクロ経済学の基礎(1)                  第13回：マクロ経済学の基礎(2)</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
配布資料および参考図書を用いて予習および復習をすること。			
教科書			
指定しない。テーマ毎に、講義資料を配布する。なお、資料はmanabaおよびone drive等で配布予定である。			
参考書			
多岐にわたるため、講義中に説明する。			
成績の評価基準			
課題レポート [ 100% ]			
オフィスアワ -			
メールやmanabaのスレッドで適宜受け付ける			
アクティブ・ラーニング			
その他;			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中3回ほど

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
企業論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
大前慶和	099-285-3583		omae@km.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>経済学分野において企業あるいは企業経営がどのようにとらえられているのかをまず紹介する。これに批判的検討を加え、経営学における企業のとらえ方を明らかにする。第1に企業の大規模化とその理論を、第2に取引コストの考え方を、第3に組織マネジメントの理論を検討し、企業という検討対象を広く多面的に理解してもらう。続いて、日本の企業が直面する今日的課題を明確にするために比較経営の視点を導入し、日本的経営の特徴とその変容について検討を加える。</p> <p>経営学入門と解釈して良い。初学者でも全く問題ない。</p>			
学修目標			
<p>経営学の全体像を把握し、基礎的な知識をアウトプットできるようになる。</p> <p>身近な組織運営を経営学の視点から理解できるようになる。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス（オープンシステム観とクローズドシステム観）</p> <p>第2回：伝統的な経済学における生産者理論と完全合理性の仮定</p> <p>第3回：大規模化する株式会社と「所有と経営の分離」および「所有と支配の分離」</p> <p>第4回：企業の大規模化と社会的責任論（CSR）</p> <p>第5回：企業はなぜ存在するのか～伝統的な経済学が見落としていた取引コスト～</p> <p>第6回：取引コストおよびイノベーションの観点から検討する日本の系列取引とその変化</p> <p>第7回：マネジメント理論の検討1（ヒトを機械と見なすべきか、それとも感情ある存在か）</p> <p>第8回：マネジメント理論の検討2（限定合理性の考え方と組織およびマネジメントの理解）</p> <p>第9回：マネジメント理論の検討3（動機づけに必要なマネジメントとは）</p> <p>第10回：分析的戦略論の展開</p> <p>第11回：分析麻痺症候群と企業文化の変革</p> <p>第12回：常識を覆す今日的なマネジメント理論（組織学習と創発の活用）</p> <p>第13回：日米トップマネジメント構造の比較と企業観・経営理念の相違</p> <p>第14回：日本的経営論とその変化（Howの経営からWhatの経営へのシフト）</p> <p>第15回：今日の日本企業に求められる経営スタイルとはどのようなものか</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>徹底した復習をして欲しい。2時間程度をかけ、授業ノートおよび蓄積したキーワードをベースに、追加的な情報も加えながら、自分だけの企業論ノートを完成させること。なお、テキストを用いないことから予習は原則として不要である。</p>			
教科書			
なし			
参考書			
利用しない			
成績の評価基準			
<p>毎回授業後に課すmanabaへのキーワード蓄積状況（50点）</p> <p>最終レポート（50点）</p>			
オフィスアワ -			

随時対応するので、メールでアポを取って欲しい。

### アクティブ・ラーニング

グループワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

### アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

### 備考（受講要件）

経営学の入門的な講義内容を広く提供する。経営学とは、企業ないし組織マネジメントを研究する学問である。

全回をzoomリアルタイム授業とする。

毎回の授業の最後に、zoomのブレイクアウトルームを活用したペアワークを行う。学生同士で学習内容の確認を行い、それでも解決できなかった点は質問して欲しい。

授業後に、manabaのレポート機能を活用し、授業中に紹介したキーワードの蓄積を行ってもらう。採点の対象とする。

zoomリアルタイム授業では、担当教員から発問することが少なくない。チャット、各種マークの掲示、場合によってはミュートを外して発言することによって、受講生は意思表示する必要がある。

毎回の授業で発言が求められることから、発言できる環境からzoomに接続すること。

zoomで共有する画面（パワーポイントファイル）は提供しない。メモをとること。

履修修正等やむを得ない理由がある場合を除き、第1回授業から参加すること。

2/3以上の出席がない場合は、最終レポートの提出資格を失うこととする。

### 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
ミクロ経済学II (旧 ミクロ経済学)			
英語名			
MicroeconomicsII			
開講学科		コース	
法経社会学科共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
石塚孔信	099-285-7586		ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員			前後期
なし			前期
授業概要			
<p>現在、ほとんどの先進諸国においては、資源配分、所得分配といった問題を基本的には市場機構に委ねている。市場経済では、資源配分や所得分配のルールは、各経済主体間の取り決めによってつくられている。企業は、自分の責任の下に生産活動を行い、各家計は自らの選択によって労働に従事し、消費を行っている。これらのそれぞれの意思決定を社会的に調整するものが市場メカニズムである。市場経済は、市場における需要と供給を調整する価格メカニズムを組み込んだ経済であり、このメカニズムを解明するのがミクロ経済学の第一の目的である。したがって、ミクロ経済学は、「価格理論」といわれるのである。</p> <p>本講義では、ミクロ経済学の市場均衡と経済厚生と経済厚生の理論と不完全競争の理論の基本的考え方を講義する。</p>			
学修目標			
<p>ミクロ経済学の学習は、経済モデルを用いて数量的に分析する事が多いために文科系の学生にとってはハードルが高く思われがちである。しかし、そのハードルを超える事ができれば自分で考える事が容易になるという特徴も持っている。</p> <p>この講義では、そのハードルを受講生全員が超えることを目標に進めていく。したがって、多くのことをやるよりも教材を厳選して、それを時間をかけて解説することにより、受講生諸君が自分で理解する能力をつけることが出来るようにしたい。</p>			
授業計画			
<p>次のスケジュールで講義を行う。</p> <p>第1回：イントロダクション（課題提出型）                  第2回：ミクロ経済学の概観（課題提出型）                  第3回：消費者行動の理論の復習（課題提出型）                  第4回：企業行動の理論の復習（オンデマンド型）                  第5回：市場均衡（オンデマンド型）                  第6回：市場均衡と安定性（オンデマンド型）                  第7回：市場均衡と余剰分析（1）（オンデマンド型）                  第8回：市場均衡と余剰分析（2）（オンデマンド型）                  第9回：純粋交換経済（オンデマンド型）                  第10回：エッジワースのボックスダイアグラム（オンデマンド型）                  第11回：市場の失敗（1）（オンデマンド型）                  第12回：市場の失敗（2）（オンデマンド型）                  第13回：独占の理論（1）（オンデマンド型）                  第14回：独占の理論（2）（オンデマンド型）                  第15回：まとめ（課題提出型）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>ミクロ経済学は積み重ねが必要な分野なので、途中で分からなくなるとその後の学習が困難になるために復習をこまめにやる必要がある。また、予習をして受講してもらうと講義への理解が効果的である。とにかく、理解を先送りしないように努力して欲しい。</p>			
教科書			

西村和雄『現代経済学入門 ミクロ経済学 第3版』岩波書店、2011年。

参考書

講義中に紹介する。

成績の評価基準

筆記試験 (80%) と宿題の提出 (20%) による。

オフィスアワ -

月曜日の5限

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

講義の内容を定着させるために演習問題を解く。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中5回

備考 (受講要件)

ミクロ経済学Iを履修しておくことが望ましい。(ミクロ経済学Iで履修した内容を基礎に議論が展開されるため)

適宜、演習問題を解いて理解を深める。関連科目として、マクロ経済学I・IIを受講することをお勧めする。遠隔授業になるので、授業計画に変更が出てくる可能性がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

演習II（行政法・地方自治法）（旧 課題研究）

英語名

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

森尾成之

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

学修目標

授業計画

授業外学習（予習・復習）

教科書

参考書

成績の評価基準

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
法政特殊講義（医療福祉論）			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
伊藤周平			
共同担当教員	前後期		前期
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習（予習・復習）			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

法政特殊講義（憲法特論）（旧 法律学特殊講義（憲法特論））  
ナンバリングコード

科目名

法政特殊講義（憲法特論）（旧 法律学特殊講義（憲法特論））

英語名

Special Lecture on Law, Policy and Political Science : Special Lecture on Constitutional Law

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

2年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

大野友也

099-285-7640

onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

この講義は、法学コースの2年生しか履修できません。1・3・4年生は履修できませんので注意して下さい。

「講義」の形を取っていますが、実質的には、演習形式で、憲法に関する様々な問題を討論します。受講生は、少なくとも1度は報告を担当してもらいます（受講生の人数次第で個人またはグループでの報告となります）。

なお、2020年度は新型コロナの影響で、原則として全ての講義が遠隔となります。

学修目標

- 1 憲法の問題について判例・学説を踏まえて自身の見解を展開できる。
- 2 他者の意見を批判的に検討できる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、自己紹介【遠隔】  
 第2回 プレゼン（1）【遠隔】  
 第3回 プレゼン（2）【遠隔】  
 第4回 報告（1）【遠隔】  
 第5回 報告（2）【遠隔】  
 第6回 報告（3）【遠隔】  
 第7回 報告（4）【遠隔】  
 第8回 プレゼン（3）【遠隔】  
 第9回 報告（5）【遠隔】  
 第10回 報告（6）【遠隔】  
 第11回 報告（7）【遠隔】  
 第12回 報告（8）【遠隔】  
 第13回 報告（9）【遠隔】  
 第14回 プレゼン（4）【遠隔】  
 15回 まとめ【遠隔】

1回目に受講生同士の自己紹介をしますので、各自、3分程度の自己紹介をできるよう準備しておいて下さい。

授業外学習（予習・復習）

- 予習：事前に配布する資料を読む（1時間）  
 復習：当日の議論を踏まえ、改めて自己の見解を検討し直す（30分）

教科書

講義時に指示します。

参考書

講義時に指示します。

成績の評価基準

討論に積極的に参加したかどうか、自身の見解を論理的に展開できているかどうかで判断します。試験は行いま

せん。

オフィスアワ -

火曜5限（研究室）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

1年時前期「憲法人権I」の単位を修得していることを前提とします。

この講義（木曜5限）の前に行われる、木曜4限の「演習?（憲法）」にも可能な限り参加してください。

また、学外での課外活動も予定しています。その際、生協の保険に入ることになりますので、受講生は必ず生協に加入しておいて下さい（生協の組合員でないと生協の保険に加入できませんので）。 2020年度は実施しません

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(家族法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Family Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
阿部純一		099-285-7645	jave@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本演習では、相続法に関する民法の重要判例及びテーマについて検討する。検討する判例・テーマは、報告者(報告グループ)の関心に応じて選択する。</p> <p>近年、相続法に関する重要判例が公表されていることから、これら最新の判例も検討対象となる。検討を通じて、法解釈の方法及び判例研究の方法について理解するだけでなく、必要に応じて法制度論・立法論的な議論にも目を向ける。この他に家族社会学等の知見にも触れることで、「家族と法」の諸問題を多角的に分析する視座を得ることも目標としたい。報告者には、各テーマについて具体的問題を発見し、その問題の解決策を提示することが求められる。</p> <p>本年度後期は、1 相続問題に関連する文献購読、2 相続法に関する判例研究、3 相続法上の諸問題に関するテーマ報告を柱とする。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相続法に関する問題を発見する</li> <li>・相続法の重要判例及び諸問題について理解する</li> <li>・法解釈の方法、判例研究の方法を身につける</li> <li>・各問題に対する具体的解決策を提示する能力を養う</li> <li>・報告やプレゼンテーションの技術を磨く</li> </ul>			
授業計画			
第01回：ガイダンス(オンライン型) 第02回：報告と検討1(オンライン型) 第03回：報告と検討2(オンライン型) 第04回：報告と検討3(オンライン型) 第05回：報告と検討4(オンライン型) 第06回：報告と検討5(オンライン型) 第07回：報告と検討6(オンライン型) 第08回：報告と検討7(オンライン型) 第09回：報告と検討8(オンライン型) 第10回：報告と検討9(オンライン型) 第11回：報告と検討10(オンライン型) 第12回：報告と検討11(オンライン型) 第13回：報告と検討12(オンライン型) 第14回：報告と検討13(オンライン型) 第15回：まとめ(オンライン型)			
* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】報告者以外の者も事前に判例・資料を読み、テーマについて調査し、議論に参加するための準備をすること(45分)			
【復習】授業後に各自で内容を復習すること(1時間)			

## 教科書

- ・水野紀子=大村敦志編『民法判例百選3 親族・相続(第2版)』(有斐閣、2018年)
- ・吉原祥子『人口減少時代の土地問題:「所有者不明化」と相続、空き家、制度のゆくえ』(中公新書、2017年)

\*以下は、授業の内容をより深く理解するための参考書であり、必要に応じて図書館で確認すること(各参考書については、初回授業で説明する)。

- ・中野次雄編『判例とのその読み方(三訂版)』(有斐閣、2009年)
- ・田高寛貴=原田昌和=秋山靖浩『リーガル・リサーチ&レポート』(有斐閣、2015年)
- ・いしかわまりこ他『リーガル・リサーチ(第5版)』(日本評論社、2016年)
- ・弥永真生『法律学習マニュアル(第4版)』(有斐閣、2016年)
- ・井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』(有斐閣、2016年)
- ・木山泰嗣『法学ライティング』(弘文堂、2015年)
- ・山下純司ほか『法解釈入門(補訂版)』(有斐閣、2018年)

## 参考書

各自の所有している家族法の教科書を持参すること

## 成績の評価基準

授業への出席及び議論への参加状況によって評価する

## オフィスアワー

質問については遠隔(Zoom)で対応するので、学籍番号・氏名を明示して、連絡先メールアドレスまでメールすること。

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

## アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

## 備考(受講要件)

- ・履修者には、各テーマについて、議論への積極的な参加が求められます。
- ・9月にゼミ合宿を予定しているのでできるだけ積極的に参加してください(実施の有無や具体的な日程等については、履修者が確定した後に相談の上で決定します)(参加は任意)。
- ・課外で見学等を企画する場合があります(参加は任意)。

## 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-BBB2301

## 科目名

演習I(家族法)(旧 演習)

## 英語名

Seminar I:Family Law

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/必修科目

演習

2単位

3年

## 担当教員

## 連絡先(TEL)

## 連絡先(MAIL)

阿部純一

099-285-7645

jave@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

なし

前期

## 授業概要

本演習では、親族法に関する民法の重要判例及びテーマについて検討する。検討する判例・テーマは、報告者(報告グループ)の関心に応じて選択する。

近年、親族法に関する重要判例が公表されていることから、これら最新の判例も検討対象となる。検討を通じて、法解釈の方法及び判例研究の方法について理解するだけでなく、必要に応じて法制度論・立法論的な議論にも目を向ける。この他に家族社会学等の知見にも触れることで、「家族と法」の諸問題を多角的に分析する視座を得ることも目標としたい。報告者には、各テーマについて具体的問題を発見し、その問題の解決策を提示することが求められる。

本年度前期は、1 家族社会学に関する文献購読(落合恵美子『21世紀家族へ: 家族の戦後体制の見かた・超えかた(第4版)』(有斐閣、2019年)を予定)、2 親族法に関する判例研究、3 親族法上の諸問題に関するテーマ報告を柱とする。

## 学修目標

- ・親族法に関する問題を発見する
- ・親族法の重要判例及び諸問題について理解する
- ・法解釈の方法、判例研究の方法を身につける
- ・各問題に対する具体的解決策を提示する能力を養う
- ・報告やプレゼンテーションの技術を磨く

## 授業計画

- 第01回: ガイダンス、情報検索講習(オンライン型)  
 第02回: 報告と検討1(オンライン型)  
 第03回: 報告と検討2(オンライン型)  
 第04回: 報告と検討3(オンライン型)  
 第05回: 報告と検討4(オンライン型)  
 第06回: 報告と検討5(オンライン型)  
 第07回: 報告と検討6(オンライン型)  
 第08回: 報告と検討7(オンライン型)  
 第09回: 報告と検討8(オンライン型)  
 第10回: 報告と検討9(オンライン型)  
 第11回: 報告と検討10(オンライン型)  
 第12回: 報告と検討11(オンライン型)  
 第13回: 報告と検討12(オンライン型)  
 第14回: 報告と検討13(オンライン型)  
 第15回: まとめ(オンライン型)

\* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。

## 授業外学習(予習・復習)

【予習】報告者以外の者も事前に判例・資料を読み、テーマについて調査し、議論に参加するための準備をすること(45分)

【復習】授業後に各自で内容を復習すること(1時間)

教科書

各自の所有している家族法の教科書を持参すること

参考書

- ・水野紀子=大村敦志編『民法判例百選3 親族・相続(第2版)』(有斐閣、2018年)
- ・落合恵美子『21世紀家族へ: 家族の戦後体制の見かた・超えかた(第4版)』(有斐閣、2019年)

\*以下は、授業の内容をより深く理解するための参考書であり、必要に応じて図書館で確認すること(各参考書については、初回授業で説明する)。

- ・中野次雄編『判例とのその読み方(三訂版)』(有斐閣、2009年)
- ・田高寛貴=原田昌和=秋山靖浩『リーガル・リサーチ&レポート』(有斐閣、2015年)
- ・いしかわまりこ他『リーガル・リサーチ(第5版)』(日本評論社、2016年)
- ・弥永真生『法律学習マニュアル(第4版)』(有斐閣、2016年)
- ・井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』(有斐閣、2016年)
- ・木山泰嗣『法学ライティング』(弘文堂、2015年)
- ・山下純司ほか『法解釈入門(補訂版)』(有斐閣、2018年)

成績の評価基準

授業への出席及び議論への参加状況によって評価する

オフィスアワー

質問については遠隔(Zoom)で対応するので、学籍番号・氏名を明示して、連絡先メールアドレスまでメールすること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

- ・履修者には、各テーマについて、議論への積極的な参加が求められます。
- ・9月にゼミ合宿を予定しているのでできるだけ積極的に参加してください(実施の有無や具体的な日程等については、履修者が確定した後に相談の上で決定します)(参加は任意)。
- ・課外で見学等を企画する場合があります(参加は任意)。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I (社会保障法) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: Social Security Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
伊藤周平			
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
日本の社会保障法の現状と課題について、テーマごと(生活保護、年金、医療、介護保険、労災、雇用保険、社会福祉など)に各人の報告を中心に行う。福祉現場へのインタビューや施設見学なども予定している。			
学修目標			
小冊子の作成を義務づけ、自分たちの言葉で社会保障の仕組みをわかりやすく説明できるようにすることを目標とする。			
授業計画			
前期集中：社会保障法関係の文献を読み、各自報告、討論。および判例研究			
後期：小冊子の作成、および判例研究			
授業外学習(予習・復習)			
各グループによる事前のレジュメ作りが必要となる。			
教科書			
特に定めない。授業の中で適宜指示する。			
参考書			
別冊ジュリスト『社会保障判例百選(第5版)』(有斐閣)、『社会福祉六法』(ミネルヴァ書房)など			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(報告書の内容)			
オフィスアワー			
アクティブ・ラーニング			
フィールドワーク;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
2回			
備考(受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

## ナンバリングコード

FHS-BBB2301

## 科目名

演習I (法政策論・行政法務論) (旧 演習)

## 英語名

Seminar I: Public Policy and Administrative Practice

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース / 必修科目

演習

2単位

3年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

宇那木正寛

285-7628

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp  
メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておいて下さい。

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

演習参加者は、各行政分野における重要判例あるいは文献を選択し、報告します。報告後は、当該報告に基づいて全員で討論を行います。

この演習では、判例研究だけではなく、そこで問題となる法令、条例の構造・仕組みを丹念に分析することも重視します。

なお、報告方法については、原則として個人報告とします。

## 学修目標

(基本的学修目標)

1. プレゼンテーション能力の基礎を養う。
2. リーガル・コミュニケーション能力の基礎を養う。
3. 思考言語化能力の基礎を養う。

(専門的学修目標)

1. 現実の社会に惹起する様々な問題を行政法学的視点で議論できる能力を養う。
2. 公共政策立案に必要な法的基礎を構築する。

## 授業計画

第1回から15回まで 報告及び討論を行います。

なお、報告及び討論については、WEB上の会議システムZOOMを利用して行う予定です。ただし、システム上の問題が生じた場合には、他の方法により行います。

## 授業外学習 (予習・復習)

## 【予習】

本ゼミでは、報告者以外の参加者についても、能動的かつ積極的に討論に参加することを求めます。したがって、参加者全員が報告課題について十分な予習をすることが必要です。なお、報告者が、他の参加者からの質問等に答えられなかった場合には、当該質問事項等について再度報告する必要があります。

## 【復習】

報告テーマに関連して、確認すべき事項がある場合、これを指示します。必ず確認して下さい。

## 教科書

巨理格・北村喜宣編著『重要判例とともに読み解く個別行政法』(有斐閣、2013年)

宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選1〔第7版〕』(有斐閣、2017年)

宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選2〔第7版〕』(有斐閣、2017年)

## 参考書

大橋洋一『行政法1〔第4版〕』(有斐閣、2019年)

大橋洋一『行政法2〔第3版〕』(有斐閣、2018年)

宇賀克也『行政法概説1〔第7版〕』（有斐閣、2020年）  
 宇賀克也『行政法概説2〔第6版〕』（有斐閣、2018年）  
 宇賀克也『行政法概説3〔第5版〕』（有斐閣、2019年）  
 櫻井敬子・橋本博之『行政法〔第6版〕』（弘文堂、2019年）  
 宇那木正寛『自治体政策立案入門』（ぎょうせい、2015年）

#### 成績の評価基準

演習における(1)出席状況、(2)報告内容、(3)討論への参加の積極性を中心として、ゼミ運営についての関与度なども含めて総合的に評価します。

なお、報告をしない場合はもちろん、欠席が多い場合、事前の連絡なく欠席した場合も単位を与えないことがあるので注意して下さい。

#### オフィスアワー

オフィスアワーは特に設けず、研究室在室中はできる限り対応したいと思います。ただし、不在の場合もあるので、事前にメールで日程調整をすることを勧めます。なお、新型コロナウイルス対策として、当分の間は、WEB会議システムZOOMにより対応します。

#### アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション；

#### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

#### 備考（受講要件）

公共課題における課題解決において行政法がいかなる役割を果たしているかについて真剣に学びたいという意欲のある学生の参加を歓迎します。

ゼミ参加者は、報告・討論については、もちろん、ゼミの運営についても主体的かつ能動的な役割を果たすことを求めます。

ゼミが共に学ぶ者の組織である以上、ゼミ参加者は、ゼミ運営における約束を守り、挨拶や連絡といった最低限のマナーを守ることはもちろん、自己の行動や発言に責任を持たなければなりません。

ゼミの主役は参加者ひとりひとりです。共に学び、共に悩み、共に成長しましょう。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(刑法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Criminal Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
上原大祐		099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
刑法に関する文献を分析し、全員で討論を行う。基本的に、毎回発表者を決め、各自担当の文献に関して分析・報告し、その後、全員で討論を行う、という形を採る。報告の仕方に関しては、授業の最初に指示する。また、模擬裁判等のアクティブ・ラーニングを通じて、刑事法学の知識を体験的に修得することを目指す。			
学修目標			
文献の分析の仕方およびその報告の仕方を習得する。講義等で得た知識を手実際に適用する方法を学ぶ。			
授業計画			
(前期)			
第1回 ガイダンス。各自担当する文献の決定。報告の仕方に関する指導。			
第2回～第15回 報告と討論(模擬裁判等を行うこともある)			
上記授業はオンライン(リアルタイム配信型)で行う予定である。また、授業の回数等は変更となる可能性がある。			
授業外学習(予習・復習)			
報告者・司会者は報告/司会の準備に努力を要する。			
教科書			
特になし			
参考書			
必要に応じて指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(報告, 討論中の発言等)を総合的に評価する。			
オフィスアワー			
研究室在室時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
15回中15回			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
刑法理論に関する基本的な知識を備えていることが望ましい。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習I(商法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Business Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
志田惣一		285-7637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>会社法に関する具体的な事例を分析しいかなる法的問題点があるか、解決策はどうかを検討する。 授業は、基礎的な論点を確認した後、学生の報告をもとに検討する。</p>			
学修目標			
<p>前期の演習?における研究成果を踏まえつつこれを発展させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 事象(事実関係、判決を含む資料)を正確に分析する能力を身につける。</li> <li>2 法的推論・思考力を身につける。</li> <li>3 表現力、論理的で明確な報告(文章)ができるようになる。</li> </ol>			
授業計画			
<p>会社法の個別問題についての検討</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 株主総会決議の瑕疵</li> <li>2 議決権行使・利益供与</li> <li>3 設立</li> <li>4 利益相反取引</li> <li>5 取締役の責任(法令違反・任務懈怠)</li> <li>6 取締役の責任(対第三者責任)</li> <li>7 新株発行</li> <li>8 帳簿・名簿閲覧請求</li> <li>9 剰余金配当</li> <li>10 取締役の報酬</li> <li>11 事業譲渡</li> <li>12 合併・会社分割</li> <li>13 特殊の株式・譲渡制限</li> <li>14 持分会社</li> <li>15 ディベイト(名義書換)</li> </ol>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>学生の報告に基づき講義を進める。 各自の報告の準備と、授業後の報告(文書)の見直し、完成が学習の中心となる。</p>			
教科書			
授業開始時に指定する。			
参考書			
<p>岩原神作他編『会社法判例百選』(有斐閣) 神田秀樹・会社法</p>			
成績の評価基準			
報告(60%)、授業への参加度(40%)			
オフィスアワ -			
火曜2限			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習I (社会保障法) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: Social Security Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
伊藤周平	099-285-7652		
共同担当教員	前後期 後期		
授業概要			
小冊子の作成を行う。			
学修目標			
前期と同じ。			
授業計画			
第1回～第15回：グループに分かれ、社会保障法に関するテーマをひとつとりあげ（昨年は改正介護保険法をとりあげた）、討議し、わかりやすい小冊子をつくる。 ガイダンス1回 小冊子の作成に向けた発表13回 打ち合わせ1回			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
特になし。			
参考書			
特になし。			
成績の評価基準			
平常点			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(刑法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Criminal Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
上原大祐		099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>刑法/刑事政策に関し、文献を分析し、討論を行う。また、刑事政策分野に関して、特定の問題点に関する現状をまず分析し、その上で、問題を解決するための解決方法としてどのようなものが考えられるか、議論を行い、政策立案を行う。</p> <p>上記授業はオンライン(リアルタイム配信型)で行う予定である。また、授業の回数等は変更となる可能性がある。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献の分析の仕方およびその報告の仕方を習得する。</li> <li>2. 現状を踏まえた上での、政策立案能力を養う</li> </ol>			
授業計画			
(後期)			
第1回 ガイダンス。各自担当する文献の決定。			
第2回~第15回 報告と討論			
授業外学習(予習・復習)			
報告者・司会者は報告/司会の準備に努力を要する。			
教科書			
特になし			
参考書			
必要に応じて指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(報告, 討論中の発言等)を総合的に評価する。			
オフィスアワー			
研究室在室時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			
刑法理論に関する基本的な知識を備えていることが望ましい。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II(家族法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Family Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
阿部純一		099-285-7645	jave@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
報告者の関心に基づいて決定された「家族と法」に関するテーマについて、報告と検討を重ねることで、理解を深める。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家族と法」に関する個別テーマについて理解を深める</li> <li>・リーガルライティングの技法を修得する</li> </ul>			
授業計画			
第01回：ガイダンス(オンライン型) 第02回：報告と検討1(オンライン型) 第03回：報告と検討2(オンライン型) 第04回：報告と検討3(オンライン型) 第05回：報告と検討4(オンライン型) 第06回：報告と検討5(オンライン型) 第07回：報告と検討6(オンライン型) 第08回：報告と検討7(オンライン型) 第09回：報告と検討8(オンライン型) 第10回：報告と検討9(オンライン型) 第11回：報告と検討10(オンライン型) 第12回：報告と検討11(オンライン型) 第13回：報告と検討12(オンライン型) 第14回：報告と検討13(オンライン型) 第15回：まとめ(オンライン型)			
* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】報告者以外の者も事前にテーマについて調べ、議論に参加するための準備をすること(45分)			
【復習】授業後に各自で内容を復習すること(1時間)			
教科書			
各自の所有している家族法の教科書を持参すること			
参考書			
授業中に指示する			
成績の評価基準			
授業への出席及び議論への参加状況によって評価する			
オフィスアワー			
質問については遠隔(Zoom)で対応するので、学籍番号・氏名を明示して、連絡先メールアドレスまでメールすること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

・履修者には、各テーマについて、議論への積極的な参加が求められる。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II(家族法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Family Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
阿部純一		099-285-7645	jave@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
報告者の関心に基づいて決定された「家族と法」に関するテーマについて、報告と検討を重ねることで、自己の考えを表現する。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家族と法」に関する個別テーマについて論文を完成させる</li> <li>・リーガルライティングの技法を修得する</li> </ul>			
授業計画			
第01回：ガイダンス(オンライン型) 第02回：報告と検討1(オンライン型) 第03回：報告と検討2(オンライン型) 第04回：報告と検討3(オンライン型) 第05回：報告と検討4(オンライン型) 第06回：報告と検討5(オンライン型) 第07回：報告と検討6(オンライン型) 第08回：報告と検討7(オンライン型) 第09回：報告と検討8(オンライン型) 第10回：報告と検討9(オンライン型) 第11回：報告と検討10(オンライン型) 第12回：報告と検討11(オンライン型) 第13回：報告と検討12(オンライン型) 第14回：報告と検討13(オンライン型) 第15回：まとめ(オンライン型)			
* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】報告者以外の者も事前にテーマについて調べ、議論に参加するための準備をすること(45分)			
【復習】授業後に各自で内容を復習すること(1時間)			
教科書			
各自の所有している家族法の教科書を持参すること			
参考書			
授業中に指示する			
成績の評価基準			
授業への出席及び議論への参加状況によって評価する			
オフィスアワー			
質問については遠隔(Zoom)で対応するので、学籍番号・氏名を明示して、連絡先メールアドレスまでメールすること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

・履修者には、各テーマについて、議論への積極的な参加が求められる。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II(刑法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Criminal Law Advanced			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
上原大祐		099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
刑法に関し、他の学問分野との関係性を理解するための演習をゼミ形式で行う。			
学修目標			
刑法が他の学問分野とどのような関係性を有するのか概観し、社会の中で刑法の占めるべき位置について理解すること。			
授業計画			
(前期)			
第1回 ガイダンス。			
第2回~第15回 報告と討論			
上記授業はオンライン(リアルタイム配信型)で行う予定である。また、授業の回数等は変更となる可能性がある。			
授業外学習(予習・復習)			
報告者・司会者は報告/司会の準備に努力を要する。			
教科書			
後日、指示する。			
参考書			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(報告, 討論中の発言等)を総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
研究室在室時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
3年次に演習(刑法)を受講していること。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II(財産法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Property and Contract			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
植本幸子			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
民法領域に関連する課題を各自で設定し、口頭報告と討論を行う。 平成28年度以前入学性は、さらに課題研究報告書をまとめる。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・民法に関連する問題についての資料を集めまとめる技術を身につける。</li> <li>・民法に関連する問題について行われる報告に関連して、私見を示すことができる。</li> <li>・民法に関連する問題について報告書としてまとめ私見を示すことができる。</li> </ul>			
授業計画			
2020年度前期は、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
第1回	ガイダンス・進捗状況報告		
第2～14回	報告と討論		
進捗状況報告日においては、テーマ設定の状況を報告する。さらに、学期前に連絡した任意の教材により主要な論点について一通り概要を説明することにより、各テーマ設定に役立てる。			
口頭報告を行わない者は、指示された期日に報告者への質問票を提出する。 就職活動などやむを得ぬ事情で欠席の場合には、レポートをもって出席に替えることがある。			
授業外学習(予習・復習)			
(予習) 報告者以外は報告者の研究テーマに従って教科書等により疑問点や私見を固める。 報告者は課題研究に相当するレポートを作成する。			
(復習) 報告者以外は、報告時の議論にを反映させ関連論点につき自己の私見を固める。 報告者は、報告時の議論を反映させて課題研究の作成を行う。			
教科書			
手持ちの物を必ず持参すること。			
参考書			
六法 自己の報告に関連する資料や教科書は必ず持参すること			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み態度(口頭報告への取り組み態度と深度、発言の回数、質問票の提出状況。発言の内容より予習による理解度が深く、優れた考察が見られた場合には加点となる。)</li> <li>・レポート(指導を反映させた報告書を作成できているかどうか。口頭報告までの準備状況や最終提出分の内容が深く優れている場合には加点。)</li> </ul>			
オフィスアワー			
追って指示する。			
アクティブ・ラーニング			

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

演習?(財産法)を4単位履修済みであること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (社会保障法) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II: Social Security Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
伊藤周平			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
研究報告書の作成指導を行う。			
学修目標			
研究報告書の作成を目標とする。			
授業計画			
第1回～15回：研究報告書の作成に向けてのガイダンス、テーマの設定のアドバイスなど			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
適宜、指示する。			
参考書			
適宜、指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (研究報告書の内容)			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
なし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習II(商法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Business Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
志田惣一	099-285-7637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
会社法に関する具体的な事例を分析しいかなる法的問題点があるか、解決策はどうかを検討する。 授業は、基礎的な論点を復習した後、学生の報告をもとに検討する。			
学修目標			
1 基本的+ 法的知識の習得 2 基本的+ 思考法の習得の準備 3 自学自習で条文・教科書を読み進められる読解力の涵養			
授業計画			
1 から15回 会社法の個別問題についての検討。 課題提出型の遠隔授業形式で行う。  * 今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
授業外学習(予習・復習)			
学生の報告を中心に演習を進める。			
教科書			
授業開始時に指定する。			
参考書			
神田秀樹・会社法 会社法判例百選			
成績の評価基準			
平常点			
オフィスアワー			
火2限			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
とくになし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

## ナンバリングコード

## 科目名

演習II (民事手続法) (旧 課題研究)

## 英語名

Seminar II: Civil Procedure

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

演習

2単位

4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

齋藤 善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

前年度の判例学習や問題演習を踏まえ、学習を一層、深化そして進化させるべく、ワンランクアップした問題演習に取り組む。

## 学修目標

問題演習のテーマについて、文献や判例を検索・狩猟し、「読み込む」作業を尽くすこと。  
 そうして読解した内容を分析・整理すること。  
 そこで得られた知見をもとに、問題解法のための理屈を考察すること。  
 結論に至る思考過程について、説得力のある説明ができること。

## 授業計画

判決手続の問題演習 (含、判例研究)。

なお、授業計画は、当面、Zoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する形で実施される。ただし、事情の変動により、授業の実施方法など変更を生じる可能性もあり得る。

## 授業外学習 (予習・復習)

## 教科書

小林秀之編・判例講義 民事訴訟法 [第3版] (悠々社・平成28年)

## 参考書

民事訴訟法の授業で指定された教科書や参考文献など。たとえば、幾つか挙げるとすれば...

## 【1】概説書

高橋宏志・民事訴訟法概論 (有斐閣・平成28年)  
 川嶋四郎・民事訴訟法概説 [第2版] (弘文堂・平成28年)  
 山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法 [第3版] (有斐閣・平成30年)  
 和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法 (商事法務・平成24年)  
 野村秀敏=佐野裕志=伊東俊明=齋藤善人=柳沢雄二=大内義三・民事訴訟法 (北樹出版・平成30年)

## 【2】定評のある体系書

高橋宏志・重点講義民事訴訟法 (上) [第2版補訂版], (下) [第2版補訂版] (有斐閣・平成25, 26年)

伊藤眞・民事訴訟法 [第6版] (有斐閣・平成30年)  
 川嶋四郎・民事訴訟法 (日本評論社・平成25年)  
 河野正憲・民事訴訟法 (有斐閣・平成21年)  
 小島武司・民事訴訟法 (有斐閣・平成25年)  
 新堂幸司・民事訴訟法 [第5版] (弘文堂・平成23年)

中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義 [第3版] (有斐閣・平成30年)  
 藤田広美・講義民事訴訟 [第3版] (東大出版会・平成25年)  
 藤田広美・解析民事訴訟 [第2版] (東大出版会・平成25年)  
 松本博之=上野泰男・民事訴訟法 [第8版] (弘文堂・平成27年)  
 三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGA QUEST民事訴訟法 [第2版] (有斐閣・平成27年)

【3】注釈書

秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタル民事訴訟法 1 [第2版追補版], 2 [第2版], 3, 4, 5, 6 (日本評論社・平成26, 18, 20, 22, 24, 26年)  
 松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法 [第2版] (弘文堂・平成23年)  
 加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタル民事訴訟法 1, 2 (日本評論社・平成30年)  
 笠井正俊=越山和広編・新コンメンタル民事訴訟法 [第2版] (日本評論社・平成25年)

成績の評価基準

演習の場における受講生各位のパフォーマンス (報告や質疑応答の頻度、その内容等) も斟酌しつつ、最終的な学習成果である研究報告書により主に評価する。

演習に出席することは義務であり、出席したことで評価されることはない。演習に“参加”して、はじめて評価される。すなわち、演習の現場で、自学自習した内容を積極的に検証すること、他者の考えを批判的に検討すること、議論を総括し集約する作業を試みることなど、能動的な学習姿勢を貫徹することが要求される。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

質疑応答を契機とした双方向の議論。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

授業内容に応じて、適宜臨機応変に...

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

演習II (民事手続法) (旧 課題研究)

## 英語名

Seminar II: Civil Procedure

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

演習

2単位

4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

齋藤 善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

前年度の判例学習や問題演習を踏まえ、学習を一層、深化そして進化させるべく、ワンランクアップした問題演習に取り組む。

## 学修目標

問題演習のテーマについて、文献や判例を検索・狩猟し、「読み込む」作業を尽くすこと。  
 そうして読解した内容を分析・整理すること。  
 そこで得られた知見をもとに、問題の解法のための理屈を考察すること。  
 結論に至る思考過程について、説得力のある説明ができること。

## 授業計画

判決手続の問題演習 (含、判例研究)。

なお、授業計画は、当面、必要に応じ、個別のメール等の送受信により実施する予定。ただし、事情の変動により、授業の実施方法など変更を生じる可能性もあり得る。

## 授業外学習 (予習・復習)

## 教科書

小林秀之編・判例講義 民事訴訟法 [第3版] (悠々社・平成28年)

## 参考書

民事訴訟法の授業で指定された教科書や参考文献など。たとえば、幾つか挙げるとすれば...

## 【1】概説書

高橋宏志・民事訴訟法概論 (有斐閣・平成28年)  
 川嶋四郎・民事訴訟法概説 [第2版] (弘文堂・平成28年)  
 山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法 [第3版] (有斐閣・平成30年)  
 和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法 (商事法務・平成24年)

## 【2】定評のある体系書

高橋宏志・重点講義民事訴訟法 (上) [第2版補訂版], (下) [第2版補訂版] (有斐閣・平成25, 26年)

伊藤眞・民事訴訟法 [第6版] (有斐閣・平成30年)  
 川嶋四郎・民事訴訟法 (日本評論社・平成25年)  
 河野正憲・民事訴訟法 (有斐閣・平成21年)  
 小島武司・民事訴訟法 (有斐閣・平成25年)  
 新堂幸司・民事訴訟法 [第5版] (弘文堂・平成23年)  
 中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義 [第3版] (有斐閣・平成30年)

藤田広美・講義民事訴訟 [第3版] (東大出版会・平成25年)  
 藤田広美・解析民事訴訟 [第2版] (東大出版会・平成25年)  
 松本博之=上野泰男・民事訴訟法 [第8版] (弘文堂・平成27年)  
 三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGA QUEST民事訴訟法 [第2版] (有斐閣・平成27年)

【3】注釈書

秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタル民事訴訟法 1 [第2版追補版], 2 [第2版], 3, 4, 5, 6 (日本評論社・平成26, 18, 20, 22, 24, 26年)  
 松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法 [第2版] (弘文堂・平成23年)  
 加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタル民事訴訟法 1, 2 (日本評論社・平成30年)  
 笠井正俊=越山和広編・新コンメンタル民事訴訟法 [第2版] (日本評論社・平成25年)

成績の評価基準

演習の場における受講生各位のパフォーマンス (報告や質疑応答の頻度、その内容等) も斟酌しつつ、最終的な学習成果である研究報告書により主に評価する。

演習に出席することは義務であり、出席したことで評価されることはない。演習に“参加”して、はじめて評価される。すなわち、演習の現場で、自学自習した内容を積極的に検証すること、他者の考えを批判的に検討すること、議論を総括し集約する作業を試みることなど、能動的な学習姿勢を貫徹することが要求される。

オフィスアワー

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

質疑応答を契機とした双方向の議論。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

授業内容に応じて、適宜臨機応変に...

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II(刑法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Criminal Law Advanced			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
上原大祐	099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
これまで行ってきた刑事法に関する研究を基にして、よりレベルアップした議論を行う。			
上記授業はオンライン(リアルタイム配信型)で行う予定である。また、授業の回数等に変更となる可能性がある。			
学修目標			
これまでに行ってきた演習において養ってきた下記2つのスキル・能力を完成させる。			
1. 文献の分析の仕方およびその報告の仕方を習得			
2. 現状を踏まえた上での、政策立案能力			
授業計画			
(後期)			
第1回 ガイダンス。			
第2回~第15回 報告と討論。			
授業外学習(予習・復習)			
報告者・司会者は報告/司会の準備に努力を要する。			
教科書			
特になし。			
参考書			
必要に応じて指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(報告, 討論中の発言等)および研究報告書を総合的に評価する。			
オフィスアワー			
研究室在室時			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
3年次に演習「刑法」を受講していること。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (社会保障法) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II: Social Security Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
伊藤周平			
共同担当教員	前後期 後期		
授業概要			
研究報告書の作成指導を行う。			
学修目標			
研究報告書の作成を目標とする。			
授業計画			
第1回～第15回：研究報告書の作成の指導			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
適宜、指示する。			
参考書			
適宜、指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (研究報告書の内容)			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (財産法) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Property and Contract			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
植本幸子			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
民法領域に関連する課題を各自で設定し、口頭報告と討論を行う。 平成28年度以前入学性は、さらに課題研究報告書をまとめる。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・民法に関連する問題についての資料を集めまとめる技術を身につける。</li> <li>・民法に関連する問題について行われる報告に関連して、私見を示すことが出来る。</li> <li>・民法に関連する問題について報告書としてまとめ私見を示すことが出来る。</li> </ul>			
授業計画			
(後期)			
第1回～第15回 報告と討論			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・先の2単位修得の際に課題研究自体について報告を2回行わなかった者は今期で2回の報告を行う。</li> <li>・今期の2回目報告(通算3回目報告)については口頭報告の際に、文章化した本文を必ず配布すること。</li> </ul>			
報告担当日以外の授業にやむを得ず欠席する場合には、指示された期日に欠席時に報告されたテーマについての概要と私見をA4で1～2枚程度にまとめて提出すること。			
授業外学習 (予習・復習)			
報告の準備(資料の読破と論文作成)のために、最低でも3×15時間の予習が必要である。 復習としては、授業中の議論と論点を復習しよりよいレポートに修正する(適宜)。			
教科書			
民法の講義を受ける際に使用するよう指導されていた教科書を持参すること。			
参考書			
六法を必ず用意すること。 報告時には、本文中引用の資料を必ず持参すること。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み態度(口頭報告への取り組み態度と深度、発言の回数、質問票の提出状況。発言の内容において予習による理解度が深く、優れた考察が見られた場合には加点となる。)</li> <li>・レポート(指導を反映させた課題研究報告書作成し、期限通りに提出できるかどうか。口頭報告までの準備状況や最終提出分の内容が深く優れている場合には加点。)</li> </ul>			
オフィスアワー			
追って指示する。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中14回			

備考(受講要件)

・演習I(財産法)を4単位履修済みであること。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-BBB4301

## 科目名

演習II (法政策論・行政法務論) (旧 課題研究)

## 英語名

Seminar II:Public Policy and Administrative Practice

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

演習

2単位

4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

宇那木正寛

285-7628

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp

メールには、必ず学籍番号と氏名  
を明記し、パソコンからのメール拒  
否設定を解除しておいて下さい。

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

演習参加者は、各自が関心を持つ安全・安心、環境、まちづくりなどの行政法領域のテーマを定め、当該政策の現状と課題（関連裁判例を含む）について報告を行います。この報告を受けて参加者全員で討論を行います。この演習では、法令、条例の構造・仕組みを丹念に分析することも重視します。

## 学修目標

- (1) 研究手法及び論文の作成方法を学ぶ。
- (2) 課題研究報告書を作成する（希望者）。

## 授業計画

第1回 ガイダンス

第2回～第15回 報告及び討論を行います。報告及び討論についてはWEB上の会議システムZOOMにより行う。

## 授業外学習（予習・復習）

## 【予習】

指示した文献の検討と報告資料の作成

## 【復習】

授業中に指示した事項についての検討

## 教科書

授業中に適宜指示します。

## 参考書

授業中に適宜指示します。

## 成績の評価基準

授業への取組の態度（報告、討論中の発言、出席等）により評価します。

## オフィスアワー

オフィスアワーは特に設けず、研究室在室中是对応いたします。ただし、来訪時は、事前メール等で日程調整を御願いたします。ただし、新型コロナウイルスの観点から、当分の間、WEB会議システムZOOMにより行います。

## アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

## 備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習II (政治学) (旧 課題研究)			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
平井一臣		285-8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
政治学の基礎を踏まえた、日本政治の歴史と現状についての分析手法を学ぶ。授業はリアルタイム型 (オンライン型) で行う。			
学修目標			
現代社会の様々な問題に関心をもち、広い視野で考える力を身につける。 政治学の方法を使った歴史・社会の分析を理解する能力を身につける。 文章や他者の発言を正確に理解したうえで、自らの考えを明確に伝達できる能力を身につける。			
授業計画			
今後の状況次第で、授業回数や内容の変更が生じる場合がある。			
第1回 ガイダンス			
第2回 文献講読、発表及び討論			
第3回 文献講読、発表及び討論			
第4回 文献講読、発表及び討論			
第5回 文献講読、発表及び討論			
第6回 文献講読、発表及び討論			
第7回 文献講読、発表及び討論			
第8回 文献講読、発表及び討論			
第9回 文献講読、発表及び討論			
第10回 文献講読、発表及び討論			
第11回 文献講読、発表及び討論			
第12回 文献講読、発表及び討論			
第13回 文献講読、発表及び討論			
第14回 総括			
授業外学習 (予習・復習)			
事前に指示した資料・文献を必ず読み、疑問点及び意見をまとめたうえで出席する。 授業終了後は、メモに基づき復習する。			
教科書			
授業開始時に指定する。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
平常点			
オフィスアワー			
授業終了後			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション; アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

14回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習II (政治学) (旧 課題研究)			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
平井一臣		285-8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
政治学の基礎を踏まえた、日本政治の歴史と現状についての分析手法を学ぶとともに、学生によるプレゼンテーションや討論を行う。			
学修目標			
現代社会の様々な問題に関心をもち、広い視野で考える力を身につける。 政治学の方法を使った歴史・社会の分析を理解する能力を身につける。 文章や他者の発言を正確に理解したうえで、自らの考えを明確に伝達できる能力を身につける。			
授業計画			
*遠隔授業により行います。 **状況によっては対面形式での授業に変更となる可能性があります。授業形態の変更の場合は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内で通知します。			
第1回 ガイダンス 第2回 文献講読、発表及び討論 第3回 文献講読、発表及び討論 第4回 文献講読、発表及び討論 第5回 文献講読、発表及び討論 第6回 文献講読、発表及び討論 第7回 文献講読、発表及び討論 第8回 文献講読、発表及び討論 第9回 文献講読、発表及び討論 第10回 文献講読、発表及び討論 第11回 文献講読、発表及び討論 第12回 文献講読、発表及び討論 第13回 文献講読、発表及び討論 第14回 文献講読、発表及び討論 第15回 総括			
授業外学習 (予習・復習)			
事前に指示した資料・文献を必ず読み、疑問点及び意見をまとめたうえで出席する。 授業終了後は、メモに基づき復習する。			
教科書			
授業開始時に指定する。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
平常点			
オフィスアワ -			
授業終了後			

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
法律学概論（H28年度以前入生のみ）			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
志田惣一		099-285-7653	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>法律の基礎となる技術的側面を中心に解説している教科書に即して概説する            実際の条文、判決文などにふれながら学習を進める            「確認問題」として授業の理解度をチェックする</p>			
学修目標			
<p>法律に関して社会人として必要とされるレベルの知識を獲得する            法律（条文）、裁判、法曹について基本的な在り方を理解する            ・民事裁判と刑事裁判の異同等            法律・法学の基礎となっている思想・思考方法を理解する</p>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション（資料の提供） 遠隔講義</li> <li>2 法規の構造</li> <li>3 法解釈とは</li> <li>4 事実・事実認定</li> <li>5 確認問題（課題解決：レポートの提出）</li> <li>6 法律に触れる（条文・条項の読み方）</li> <li>7 法解釈という技術</li> <li>8 確認問題（課題解決：レポートの提出）</li> <li>9 法の分類</li> <li>10 法の分類・制定法のいろいろ</li> <li>11 裁判とは 民事と刑事</li> <li>12 法の担い手 法曹の役割</li> <li>13 判決のよみかた</li> <li>14 確認問題（課題解決：レポートの提出）</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
授業外学習（予習・復習）			
確認問題の検討及び提出			
教科書			
道垣内弘人・プレップ法学を学ぶ前に			
参考書			
成績の評価基準			
レポート40% 授業への参加度60%			
オフィスアワー			
火曜2限			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC1308			
科目名			
民法総則（旧 民法総論）			
英語名			
General Provisions of Civil Code			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
阿部純一	099-285-7645	jave@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本講義では、民法の共通ルールである民法総則の各制度及びこれに関連する判例・学説の状況について解説する。民法は、私たちの生活の中でも最も身近な法分野である一方で、その対象となる社会現象の多さや抽象的な規定振りに戸惑う者も少なくない。そこで、本講義では、受講者が具体的なイメージを持てるように、できる限り具体的な事例を中心に据えて検討を加えていきたい。</p> <p>* 2020年度の講義は、遠隔授業方式（リアルタイム配信方式、オンデマンド配信方式）によって実施する予定である（一部対面方式を併用。詳細は備考欄参照。）。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・民法の全体的なイメージを把握する</li> <li>・民法総則の基本的知識を習得する</li> <li>・習得した基本的知識を用いて具体的問題を解決する能力を涵養する</li> </ul>			
授業計画			
第01回：ガイダンス・民法の全体像（10月5日：対面方式・オンデマンド配信方式）			
第02回：民法の主体と客体1（権利能力、意思能力、行為能力と制限行為能力者制度、物）（10月12日：対面方式・オンデマンド配信方式）			
第03回：民法の主体と客体2（法人制度、権利能力なき社団）（10月19日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）			
第04回：法律行為1（法律行為と意思表示、契約の成立）（10月26日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）			
第05回：法律行為2（公序良俗、契約の解釈）（11月2日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）			
第06回：意思表示1（心裡留保、通謀虚偽表示）（11月9日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）			
第07回：意思表示2（錯誤）（11月19日（振替日）：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）			
第08回：意思表示3（詐欺、強迫）（11月30日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）			
第09回：代理制度1（代理の意義、代理人、代理行為）（12月7日：対面方式・オンデマンド配信方式）			
第10回：代理制度2（無権代理）（12月14日：対面方式・オンデマンド配信方式）			

第11回：代理制度3 (表見代理) (12月21日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)

第12回：時効制度1 (条件・期限、期間の計算、時効制度の概要) (1月4日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)

第13回：時効制度2 (取得時効) (1月18日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)

第14回：時効制度3 (消滅時効) (1月25日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)

第15回：まとめ (2月1日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)

\* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。

#### 授業外学習(予習・復習)

【予習】事前にレジュメ・教科書等の該当箇所を目を通してから授業に臨む(45分)

【復習】授業で十分に理解できなかった部分を中心に内容を確認する、manaba上で実施する「ドリル」課題(必須)によって理解を定着させる(1時間)

#### 教科書

・佐久間毅『民法の基礎1 総則(第5版)』(有斐閣、2020年)

#### 参考書

・潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選1 総則・物権(第8版)』(有斐閣、2018年)

\* 以下は、授業の内容をより深く理解するための参考書であり、必要に応じて図書館で確認すること(各参考書については、初回授業で説明する)。

#### 【民法の入門書】

- ・我妻榮『民法案内1 私法の道しるべ(第2版)』(勁草書房、2013年)
- ・道垣内弘人『リーガルベシス民法入門(第3版)』(日本経済新聞出版社、2019年)
- ・潮見佳男『民法(全)(第2版)』(有斐閣、2019年)
- ・山本敬三『民法の基礎から学ぶ民法改正』(岩波書店、2017年)
- ・潮見佳男ほか編『18歳からはじめる民法(第4版)』(法律文化社、2019年)

#### 【総則】

- ・池田真朗『スタートライン民法総論(第3版)』(日本評論社、2018年)
- ・近江幸治『民法講義1 民法総則(第7版)』(成文堂、2018年)
- ・遠藤研一郎『基本テキスト 民法総則(第2版)』(中央経済社、2020年)
- ・大村敦志『新基本民法 総則編(第2版)』(有斐閣、2019年)
- ・山野目章夫『民法概論1 民法総則』(有斐閣、2017年)
- ・原田昌和=寺川永=吉永一行『民法総則(補訂版)』(日本評論社、2018年)
- ・四宮和夫=能見善久『民法総則(第9版)』(弘文堂、2018年)
- ・池田真朗編『民法Visual Materials(第2版)』(有斐閣、2017年)

#### 【民法(債権法)改正関係】

- ・潮見佳男『民法(債権関係)改正法の概要』(きんざい、2017年)
- ・中田裕康ほか『講義 債権法改正』(商事法務、2017年)
- ・筒井健夫=松村秀樹編『一問一答 民法(債権関係)改正』(商事法務、2018年)
- ・山野目章夫『新しい債権法を読みとく』(商事法務、2017年)

#### 成績の評価基準

各回における「ドリル」課題の提出：30%

期末レポート(論述式を含む)：70%

\* 法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

#### オフィスアワ -

質問については遠隔(Zoom)で対応するので、学籍番号・氏名を明示して、連絡先メールアドレスまでメールす

ること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

授業には六法を必ず持参すること。

教科書・参考書については初回授業で説明する(説明を聞いてから購入を検討すればよい)。

第1回(10月5日)、第2回(10月12日)、第9回(12月7日)、第10回(12月14日)は、対面方式による授業を実施予定(録画動画のオンデマンド配信と併用)。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2324			
科目名			
債権法II(旧 現代不法行為法)			
英語名			
Debtor and Creditor II			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
阿部純一		099-285-7645	jave@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本講義では、民法の事務管理・不当利得・不法行為(法定債権)に関する基本的な法制度、関連する判例・学説について解説する。これらの制度については、民法697条から724条の2までのわずか29条において規律される一方で、判例・学説による理論が展開されてきた分野の一つでもある。本講義では、法の解釈を通じた法形成の実際的展開について理解することも目標とする。</p> <p>*2020年度の講義は、遠隔授業方式(リアルタイム配信方式、オンデマンド配信方式)によって実施する予定である。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務管理・不当利得・不法行為の基本的知識を習得する</li> <li>・習得した基本的知識を用いて具体的問題を解決する能力を養う</li> </ul>			
授業計画			
<p>第01回：ガイダンス、法定債権総説(法定債権とは何か、財産法における法定債権の位置づけ)(10月6日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)</p> <p>第02回：事務管理(事務管理総説、事務管理の成立要件・効果、準事務管理)(10月13日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)</p> <p>第03回：不当利得1(不当利得総説、一般不当利得の成立要件)(10月20日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)</p> <p>第04回：不当利得2(一般不当利得の効果、特殊の不当利得)(10月27日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)</p> <p>第05回：不法行為法総説(不法行為制度の意義と機能、不法行為法の基本原理、不法行為法の構造)(11月10日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)</p> <p>第06回：不法行為の要件1(故意・過失、権利・法益侵害)(11月17日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)</p> <p>第07回：不法行為の要件2(損害、因果関係)(11月24日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)</p> <p>第08回：不法行為の要件3(責任能力、不法行為阻却事由)(12月1日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)</p> <p>第09回：不法行為の効果1(損害賠償の範囲、損害の金銭的評価、損害額の調整)(12月8日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)</p>			

第10回：不法行為の効果2(損害賠償請求権者、損害賠償請求権と時効、差止請求)(12月15日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)

第11回：不法行為の効果3(損害賠償請求権と相殺、後遺症と示談、請求権の競合)(12月22日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)

第12回：特殊な不法行為1(責任無能力者の監督義務者の責任、使用者責任)(1月5日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)

第13回：特殊な不法行為2(工作物責任、製造物責任)(1月12日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)

第14回：共同不法行為(1月19日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)

第15回：まとめ(1月26日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式)

\* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合があります。

#### 授業外学習(予習・復習)

【予習】事前にレジュメ・教科書等の該当箇所を目を通してから授業に臨む(45分)

【復習】授業で十分に理解できなかった部分を中心に内容を確認する、manaba上で実施する「ドリル」課題(必須)によって理解を定着させる(1時間)

#### 教科書

・橋本佳幸=大久保邦彦=小池泰『民法5 事務管理・不当利得・不法行為(第2版)』(有斐閣、2020年)

#### 参考書

・窪田充見=森田宏樹編『民法判例百選2 債権(第8版)』(有斐閣、2018年)

\* 以下は、授業の内容をより深く理解するための参考書である(各参考書については、初回授業で説明する)。

- ・窪田充見『不法行為法 民法を学ぶ(第2版)』(有斐閣、2018年)
- ・大村敦志『新基本民法6 不法行為編(第2版)』(有斐閣、2020年)
- ・吉村良一『不法行為法(第5版)』(有斐閣、2017年)
- ・前田陽一『債権各論2 不法行為法(第3版)』(弘文堂、2017年)
- ・野澤正充『事務管理・不当利得・不法行為(第2版)』(日本評論社、2017年)
- ・潮見佳男『債権各論1 契約法・事務管理・不当利得(第3版)』(新世社、2017年)
- ・潮見佳男『債権各論2 不法行為法(第3版)』(新世社、2017年)
- ・近江幸治『民法講義6 事務管理・不当利得・不法行為(第3版)』(成文堂、2018年)
- ・潮見佳男『民法(債権関係)改正法の概要』(きんざい、2017年)
- ・大村敦志=道垣内弘人編『解説 民法(債権法)改正のポイント』(有斐閣、2017年)
- ・中田裕康ほか『講義 債権法改正』(商事法務、2017年)

#### 成績の評価基準

各回における「ドリル」課題の提出：30%

期末レポート(論述式を含む)：70%

\* 法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

#### オフィスアワー

質問については遠隔(Zoom)で対応するので、学籍番号・氏名を明示して、連絡先メールアドレスまでメールすること。

#### アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

授業には六法を必ず持参すること。

テキスト・参考書については初回授業で説明する。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

物権法II (旧 法律学特殊講義 (担保物権法))

## 英語名

Ownership, Possession, Various Tenancy and Collateral II

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

植本幸子

kagoshima-u.ac.jp (下記と組み合  
わせよ。タイトル部分に必ず授業名  
と学年・氏名を表記のこと。)

uemt05@leh.

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

・担保物権を中心に、担保物権と担保物権以外の他物権についての講義を行う。

遠隔時に必要な環境 ( 支障のある人は諦めずに必ず相談してください )

- ・ pdf音声付きファイルが視聴可能な環境
- ・ 音声の脱落、アップロード困難から動画配信は原則的に行いません
- ・ 中間確認、期末テスト時のZoom双方向環境 ( 映像有りが原則 )

## 学修目標

1. 他物権に関するテクニカルタームを理解する。

( 選択問題、自由記述を問わず定義と具体例を理解しているかが問われます。遠隔テストの場合には、きちんと記憶し口頭で答えられれば完璧、曖昧な場合に記載箇所をすぐに確認できれば一定水準です。 )

2. 他物権に関連する主要な問題について、登場する当事者の利害関係と権利関係をイメージして説明し、法的解決を導くことができる。

( 授業内容で説明のある事案問題について、表現を変えた選択肢を適切に選べるか、また、事案についての論述問題で誤解の無い表現で論述できるかということが試されます。 )

3. 他物権に関する主要な問題点を理解するために、学説や判例についての基本書や学習用判例集の記述を正確に読みとる能力を身につける。( 1や2の結果が高ければきちんとできていると判断されます。また、小テストや期末テストなどを通してよりグレードアップが達成できます。 )

## 授業計画

以下の項目については必ず取り扱いますが、回がずれる場合があります。

- 第1回 他物権の概要と学び方、物権の種類、担保物権以外の他物権
- 第2回 人的担保と物的担保、相殺の概要、担保物権の意義と性質
- 第3回 留置権その1 ( 概要と効果、要件 )
- 第4回 留置権その2 ( 債権と物の牽連関係、人的範囲、物的範囲 )
- 第5回 先取特権その1 ( 効果と要件の概要、一般の先取特権、特別の先取特権 )
- 第6回 先取特権その2 ( 動産先取特権と物上代位 )
- 第7回 優先権相互の順位
- 第8回 質権
- 第9回 抵当権1 ( 被担保債権 )
- 第10回 抵当権2 ( 目的物の範囲、物上代位 )
- 第11回 抵当権3 ( 法定地上権と一括競売 )
- 第12回 抵当権4 ( 実行前の効力、順位の変更 )

第13回 抵当権5 (実行、消滅、根抵当、抵当証券)

第14回 非典型担保1(概要、仮登記担保、所有権留保とファイナンスリース等、譲渡担保権その1((概要、不動産、集合動産)))

第15回 非典型担保2(譲渡担保権その2 (集合債権))

授業方式 (10/4現在) : 音声付パワーポイントファイルまたはPDFファイル。

環境理由での断念が無いように配慮します。何かあったらすぐに相談して下さい。

第1~2回 : オンデマンド(音声付パワーポイント)

第8回、第15回 : Zoom双方向 (時間帯が合わない人には配慮します。)

(第7回は中止になりました。(10月5日現在))

第1回と第3回(第2回は行いません(10月5日現在))に、Zoom双方向の時間を設けます。当該回に配信のファイル試験がまだであったり途中まででも参加して下さい(不参加による不利益扱いはありません)。

#### 授業外学習 (予習・復習)

(予習)

上記「授業計画」やレジメに照らして教科書と条文に目を通す。その際には、どの部分に何が書いてあるのかを前後の頁を開ける程度に把握し、自分で読んでわからない部分をチェックしておく。

(復習)

プリントとノートを見直し、教科と条文に照らし合わせ、テストで再現することを念頭において記憶の定着を図る(授業直後、一週間後、テスト対策期間の3回が望ましい)。

#### 教科書

道垣内弘人・担保物権法 [第4版] 有斐閣 2017年(2019年8月5日時点)

上記時点以降に最新版が出た場合にはそちらを推奨する。

遠隔の場合にメインとするには難しいので内田貴『民法3 [第4版]』東京大学出版会との併用を推奨します。できれば9月休み中に前半の「相殺」と後半と通読して下さい。

#### 参考書

・六法を必ず用意すること。有斐閣、岩波、三省堂のものから判例や解説のついていないものを選ぶこと。(期末試験においては、判例のついていない六法の持ち込みを認める。)

・授業中は判例付の六法を用いて差し支えない。

・物権法?で使用した教科書等。

・債権法?で使用した教科書・資料。

#### 成績の評価基準

・授業への取り組み態度(発言について無言はマイナス。正答は加点。)

・小テスト等への取り組み態度(正誤は問わない)。

・期末試験(優以上の希望者はZoomによる口頭諮問を伴う。)

法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

#### オフィスアワー

追って指示する。

#### アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

#### アクティブ・ラーニング(その他の内容)

#### アクティブ・ラーニング(授業回数)

#### 備考(受講要件)

以下に納得の上受講して下さい。

・内容が物権法?の学習を前提としています。

・文字情報に抵抗のある人は各自で対応して下さい。こちらからの配慮教材の作成はありません。動画の教材配信は行わない予定です。

・音声をつける場合もありますので音声環境を用意して下さい。前期の段階で環境のあることを前提としていま

すが、機材不調等の場合には早めに相談して下さい。

- ・原則的に文字情報の教材配信による授業です。学習効果のために音声をつける場合があります。
- ・個人的な達成度と学習フォローのためにZoom利用を行うことがあります。本来の時間割に間に合わない人については、教材配信ではなく時間調整により対応します。言い切れなかったことがあると感じた人は再度日程調整の希望を出して下さい。
- ・遠隔の教材配信は一定の幅を持って行われます。また、通常の休講に代替する補講措置は日程をずらした教材配信で行われます。Zoomのやり取りは個別調整を前提として時間割以外の時間帯に行われることがあります。
- ・音声教材は一時停止しながらの利用を前提とした遊びのない形式で予定されています。配信が一度であっても、休みながら複数回に分けて学習することで対応してください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2334			
科目名			
国際関係論			
英語名			
International Relations			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
平井一臣		099-285-8855	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
藤村一郎・森田豊子		isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
授業概要			
<p>近現代の国際関係について、アジア地域の問題を中心に取り上げる。最初に、近代日本の歩みのなかでアジア世界とどのような国際関係を築いた（築こうとした）のか、次に第二次世界大戦後の東アジア地域の変化を、最後に視野をさらに拡大して、イスラム世界を含むアジア・アフリカの国際関係を考察する。授業は、課題提出型とオンデマンド型を組み合わせで行う。</p>			
学修目標			
<p>(1) 私たちが生きる国際社会の様々な変化に関心をもつことができる。</p> <p>(2) アジアを中心とした国際関係について、多角的な視点から考えることができる。</p> <p>(3) 異文化や異なる社会についての理解を深め、共生社会の一員として活動する能力を身につける。</p>			
授業計画			
<p>今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。</p> <p>第1回 今国際関係を考えると？（平井）</p> <p>第2回 近代日本と国際関係（1）西欧国家体系（福沢諭吉の理解1）（藤村）</p> <p>第3回 近代日本と国際関係（2）脱亜論（福沢諭吉の理解2）（藤村）</p> <p>第4回 近代日本と国際関係（3）帝国主義と反帝国主義：東アジアにおける帝国主義体制（藤村）</p> <p>第5回 近代日本と国際関係（4）アジア連帯の発想と国家主義の発想（藤村）</p> <p>第6回 戦後東アジアの国際関係（1）東アジアの冷戦体制（中国・台湾・朝鮮半島）（平井）</p> <p>第7回 戦後東アジアの国際関係（2）ベトナム戦争と東アジア（平井）</p> <p>第8回 戦後東アジアの国際関係（3）冷戦終焉と東アジアの政治変動（平井）</p> <p>第9回 戦後東アジアの国際関係（4）東アジア国際関係の現在（平井）</p> <p>第10回 アジア・アフリカ諸国の国際関係論（森田）</p> <p>第11回 イスラーム主義（森田）</p> <p>第12回 パレスチナ問題（森田）</p> <p>第13回 世界の中のムスリム移民の問題（森田）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>授業で取り上げるテーマに関連する新聞記事等を読んで授業に臨むこと。また、授業終了後には配布プリント及び授業中筆記したメモを基に復習すること。</p>			
教科書			
使用しない。			
参考書			
適宜授業の中で紹介する。			
成績の評価基準			
第1回目の課題レポートと、各授業毎のコメントシートによる。			
オフィスアワー			
水曜日2限			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

12回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2321			
科目名			
刑法総論II(旧 刑法特論)			
英語名			
Criminal Law:General PartII			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
上原大祐		099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>刑法学は、犯罪行為を行った者に刑罰を科すための要件としての犯罪がどのように成立するか、を学ぶ学問であるが、その内容として、刑法総論と各論とに大別される。本講義では、刑法総論の後半部分について講義する。</p>			
学修目標			
<p>(1) 刑法総論の基礎的知識を学ぶ。  (2) 犯罪論の体系的理論構造を理解する。  (3) 犯罪論における基礎理論を理解する。</p>			
授業計画			
<p>*遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。  授業はzoomによるリアルタイム型の実施を基本とし、動画配信によるオンデマンド型も併せて行う。</p>			
<p>第1回 違法論総論  第2回 違法性阻却事由?(正当行為)  第3回 違法性阻却事由?(正当防衛)  第4回 違法性阻却事由?(緊急避難)  第5回 責任論・総論および責任能力/原因において自由な行為  第6回 責任論・故意?(故意論総論)  第7回 責任論・故意?(錯誤論? 事実の錯誤)  第8回 責任論・故意?(錯誤論? 違法性の錯誤)  第9回 責任論・故意?(錯誤論? 規範的事実の錯誤)  第10回 責任論・過失?(過失犯総論)  第11回 責任論・過失?(過失犯の諸問題)・期待可能性  第12回 共犯論?(共犯総論)  第13回 共犯論?(共同正犯)  第14回 共犯論?(教唆犯と幫助犯)  第15回 共犯論?(共犯の因果問題等、共犯における諸問題)</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習: シラバスの次回の講義内容について扱った判例につき、教科書に目を通す。特に事実関係を把握しておく(所要時間30分)  復習: 毎回、配布資料等を復習する(所要時間30分)</p>			
教科書			
<p>井田良・城下裕二編『刑法総論判例インデックス 第2版』(2019・商事法務)  【『刑法総論?』受講時に購入している場合は、改めて購入する必要はない】</p>			
参考書			
<p>木村光江『刑法 第4版』(2018・東京大学出版会)</p>			
成績の評価基準			

通常の授業の履修態度および期末レポート(論述式を含む)を総合して評価する。  
 なお、法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワ -

研究室在室時

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

刑法総論?を受講していることが望ましい。なお、授業には必ず六法を持参すること。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-BBC2327

## 科目名

会社法I (旧 企業の法システム)

## 英語名

Corporation Law I

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

志田惣一

099-285-7653

icns@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

この授業では、第4期に開講される「企業組織法」との接続を考慮して、会社の概念、会社の類型と種類、会社法の総則規定、株式会社の特質、株式会社の設立、株式、新株の発行、新株予約権などを中心に講義します。

## 学修目標

- (1) 商取引に関する法律および会社法の基本的な考え方を理解する。
- (2) 会社の概念、その種類と特質を理解する。
- (3) 会社の設立手続を理解する。
- (4) 株式会社における株式の意義と機能を理解する。
- (5) 会社に関する法律問題を題材に、法的な思考能力を身につける。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス  
 第2回 会社の意義・種類 (課題提出型)  
 第3回 会社の法人性(権利能力、法人格否認) (課題提出型)  
 第4回 会社法総則 (課題提出型)  
 第5回 株式会社の設立(設立手続き) (課題提出型)  
 第6回 株式会社の設立(設立に関する責任) (課題提出型)  
 第7回 株式会社の設立(設立中の法律関係) (課題提出型)  
 第8回 株式(株式の意義) (課題提出型)  
 第9回 株式(株式の内容と種類) (課題提出型)  
 第10回 株式(株式の流通) (課題提出型)  
 第11回 株式(株式の消却・分割・併合、単元株) (課題提出型)  
 第12回 株式会社の資金調達 (課題提出型)  
 第13回 募集株式の発行 (課題提出型)  
 第14回 株式発行の瑕疵 (課題提出型)  
 第15回 新株予約権 (課題提出型)

\* 事例問題?に関するレポートの提出(2回程度)

## 授業外学習(予習・復習)

予習として、各回の講義項目につき、教科書の該当する部分を読むこと。また、復習として、講義で話したことを参考に、各講義項目につきまとめをすること。

到達度確認のための小テストを実施する

## 教科書

神田秀樹『会社法』(弘文堂)

## 参考書

江頭憲治郎・岩原紳作・神作裕之・藤田友編『会社法判例百選』(有斐閣)

## 成績の評価基準

レポート点(20%)、授業への参加度(80%)を総合的に評価する。

なお、法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対

象者 (他コース・他学科に所属する学生を除く) の20%以内とする。

オフィスアワ -

火曜日 2限 (研究室)

アクティブ・ラーニング

ディベート; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中10回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
刑法総論I (旧 刑法総論)			
英語名			
Criminal Law:General PartII			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
上原大祐	099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
刑法学は、犯罪行為を行った者に刑罰を科するための要件としての犯罪がどのように成立するか、を学ぶ学問であるが、その内容として、刑法総論と各論とに大別される。本講義では、刑法総論の前半部分について講義する。			
学修目標			
(1) 刑法総論の基礎的知識を学ぶ。 (2) 犯罪論の体系を学ぶ。 (3) 犯罪論における基礎理論を学ぶ。			
授業計画			
第1回 ガイダンス、刑法の意義および機能 (刑法の場所的適用範囲・刑罰正当化根拠論等) 第2回 罪刑法定主義?(罪刑法定主義の古典的原理・刑法の時間的適用範囲) 第3回 罪刑法定主義?(罪刑法定主義の派生的原理) 第4回 犯罪論体系 第5回 構成要件論・概論 第6回 構成要件論・正犯性(直接正犯と間接正犯) 第7回 構成要件論・不作為犯 第8回 構成要件論・因果関係?(条件関係) 第9回 構成要件論・因果関係?(相当因果関係論・客観的帰属論) 第10回 構成要件論・主観的構成要件要素 第11回 構成要件論・未遂犯 第12回 構成要件論・不能犯 第13回 構成要件論・中止犯 第14回 罪数論 第15回 まとめ 第16回 試験			
上記授業はオンライン(リアルタイム配信・オンデマンド配信併用型)で行う予定である。また、授業の回数等に変更となる可能性がある。			
授業外学習(予習・復習)			
予習: シラバスの次回の講義内容について扱った判例につき、教科書に目を通す。特に事実関係を把握しておく(所要時間30分) 復習: 毎回、配布資料等を復習する(所要時間30分)			
教科書			
井田良・城下裕二編『刑法総論判例インデックス 第2版』(2019・商事法務)			
参考書			
木村光江『刑法 第4版』(2018・東京大学出版会)			
成績の評価基準			

通常の授業の履修態度および期末試験（論述式を含む）を総合して評価する（期末レポートの形で行う）  
 なお、法学コースの学生については、秀（90点以上）とする人数の上限を成績評価対象者（他コース・他学科に所属する学生を除く）の20%以内とする。

オフィスアワ -

研究室在室時

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

六法を必ず持参すること

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2310			
科目名			
社会保障法			
英語名			
Social Security Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
伊藤周平		099-258-7652	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
授業概要			
1・2回の総論部分では、日本の社会保障をめぐる現状と課題をあきらかにし、憲法と社会保障法にかかわる問題を、いくつかの判例をもとに検討する。3回以降は、各論で、生活保護法、年金法、社会手当、労災保険法、雇用保険法などについて現状と課題を解説する。			
学修目標			
日本の社会保障の法体系の知識を学ぶだけでなく、政策提言ができるような応用力を修得することを目標とする。			
授業計画			
1 社会保障をめぐる現状と法体系 2 社会保障法と憲法 3 生活保護法(その1) 4 生活保護法(その2) 5 年金法(その1) 6 年金法(その2) 7 社会手当法 8 労災保険法 9 雇用保険法 10 医療保障法(その1) 11 医療保障法(その2) 12 社会福祉法総論 13 介護保険法 14 児童福祉法 15 障害者福祉の法			
授業外学習(予習・復習)			
教科書			
伊藤周平『「保険化」する社会保障の法政策』法律文化社、2019年 伊藤周平『社会保障入門』ちくま新書、2018年			
参考書			
『社会保障判例百選(第6版)』有斐閣、2016年、その他適宜指示する。			
成績の評価基準			
期末試験のみで評価。とくに出席はとらない。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回の授業のうち5回目、8回目、15回目の計3回で実施予定

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-BBC2337

## 科目名

刑法各論I (旧 犯罪と刑罰)

## 英語名

Criminal Law: Specific Offences I

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

上原大祐

embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

刑法各論のうち財産犯を除く個人的法益、主要な社会的法益、国家的法益に関する犯罪についての講義を行います。刑法は法規範の一つですが、刑罰という峻厳な強制力を有する点に他の法規範には見られない特徴があり、それ故、条文解釈においては場当たりのにならないよう緻密な議論がなされています。他方、法益侵害が発生したならば適切な規定を適用し、社会秩序を維持して法益の保護が図られなければならないのも当然です。条文を解釈するにあたっては、メリット・デメリットを意識しながら結論を導くことが求められます。

刑法各論での学修は、各犯罪の法益および成立要件を明らかにしていくことが主たる目的となります。法益の捉え方次第によって、犯罪の成立要件が異なってきますので、その解釈は重要ですし、また、一つ一つの要件は犯罪の成否に直結するため、丁寧に解釈されなければなりません。本講義では、事例を頻繁に用いつつ、各犯罪の法益および成立要件を考察し、各犯罪を網羅的に解明していきます。

なお、講義はレジュメを配布し、それに従って進めていきます。

## 学修目標

以下の点の修得を目標とします。

1. 財産犯を除く個人的法益、主要な社会的法益、国家的法益に関する各犯罪の法益、成立要件を理解する。
2. 各犯罪の相違を理解し、区別ができるようにする。
3. 判例や主要な学説を理解し、多角的視野に基づいて結論を導くことができるようにする。

## 授業計画

\* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

授業はzoomによるリアルタイム型の実施を基本とし、動画配信によるオンデマンド型も併せて行う。

- 第1回 生命に対する罪・壹 (故意に生命を侵害する罪)
- 第2回 生命に対する罪・貳 (墮胎罪)
- 第3回 身体に対する罪・壹 (傷害罪)
- 第4回 身体に対する罪・貳 (過失による罪)
- 第5回 自由に対する罪・壹 (自由に対する罪総論・意思の自由に対する罪)
- 第6回 自由に対する罪・貳 (移動の自由および安全に対する罪)
- 第7回 自由に対する罪・参 (性的自由に対する罪)
- 第8回 平穩に対する罪
- 第9回 名誉に対する罪
- 第10回 信用・業務に対する罪
- 第11回 放火・失火に関する罪
- 第12回 偽造の罪・壹 (通貨偽造罪・証券偽造罪)
- 第13回 偽造の罪・貳 (文書偽造罪、その他の偽造罪)
- 第14回 国家的法益に対する罪・壹 (国家作用に関する罪)
- 第15回 国家的法益に対する罪・貳 (賄賂罪、職権濫用罪)

## 授業外学習 (予習・復習)

【予習】 事前に配布するレジュメに目を通す (約30分)

【復習】 授業で扱った内容につき、レジユメで復習し、理解が十分でない箇所は教科書で再確認する(約1時間)。

教科書

井田良 = 城下裕二 『刑法各論判例インデックス』(2016年・商事法務)

参考書

木村光江 『刑法 第4版』(2018年・東京大学出版会)

成績の評価基準

通常の授業の履修態度および期末レポート(論述式を含む)を総合して評価する。  
 なお、法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワ -

研究室在室時

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

適宜学生に質問し、教員と学生とで応答を重ねて、理解を促進を図ります。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全回

備考(受講要件)

授業には六法を持参すること。刑法総論を並行して受講していることが望ましいですが、必要に応じて総論に関する事項につき補足しますので、それらの科目を受講していない人でも本講義を受講して構いません。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2308			
科目名			
政治学			
英語名			
Political Science			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
平井一臣		8855	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		後期	
授業概要			
政治学の基本的な知識や情報を踏まえたうえで、国際的に生起している出来事や日本政治の現在について理解する。			
学修目標			
本授業は、政治及び政治学についての基本的な考え方を学ぶとともに、先進社会の政治を理解することを基本的な課題としています。そのために、権力と権威、デモクラシーなどの基本的な概念や議会、政党、政治制度、国家などの政治学の用語の意味を理解し、それに基づいて、様々な政治現象について考えてみることを目標としています。ジェンダー、グローバル化、ポピュリズム、政治的無関心等、国の内外で生起している出来事を政治学の知識や情報でより立体的・有機的に理解することができるはずです。			
授業計画			
授業計画			
*遠隔授業により行います。			
**状況によっては対面形式での授業に変更となる可能性があります。授業形態の変更の場合は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内で通知します。			
第1回：日本政治の現在 コロナ問題を中心に			
第2回：税と政治			
第3回：ジェンダーと政治			
第4回：地域の政治			
第5回：安全保障と政治			
第6回：核と政治			
第7回：グローバリズムと政治			
第8回：戦争責任と戦後責任			
第9回：国境をめぐる政治			
第10回：民主主義を考える			
第11回：選挙と政治			
第12回：政策と政治			
第13回：政治学の世界			
第14回：日本政治の課題(1)			
第15回：日本政治の課題(2)			
授業外学習(予習・復習)			
毎回、授業開始前に、教科書の該当箇所を精読し、manabaにコメント・シートとして、感想や質問を予め提出してもらいます。授業は、zoomで行いますが、事前に提出されたコメント・シートに対する解説を中心にを行います。授業での解説を聞いたうえで、改めて教科書の該当箇所を読み復習してください。			
教科書			
平井一臣・土井勲嗣編『つながる政治学』法律文化社			

## 参考書

授業の中で適宜紹介します。

## 成績の評価基準

毎回提出してもらうコメント・シートと、学期末レポートによる。

## オフィスアワ -

授業の後に相談に応じます。

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

## 備考（受講要件）

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-BBC2309

科目名

家族法（旧 家族の法と政策）

英語名

Family Law

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

阿部純一

099-285-7645

jave@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

本講義では、民法の親族法（第四編）・相続法（第五編）に関する基本的な法制度、関連する判例・学説について解説する。親族法・相続法は、社会関係の中でも最も身近な「家族」にかかわる法領域であり、各人の経験及び価値観を反映した議論に傾きやすい危険をはらむ一方、「家族」をめぐる社会的・経済的諸条件や社会意識の変化にともない、近時、注目すべき判例及び立法が展開されている法分野である。講義では、できるだけ客観的に制度を説明するとともに、近年の家族を取り巻く社会状況や価値観の変化を踏まえた法政策的議論にも目を向け、家族と法の問題を多角的に検討する。

\* 2020年度の講義は、遠隔授業方式（リアルタイム配信方式、オンデマンド配信方式）によって実施する。

学修目標

- ・親族法・相続法の基本的知識を習得する
- ・習得した基本的知識を用いて具体的問題を解決する能力を養う
- ・家族をめぐる現代的諸課題について考える

授業計画

- 第01回：ガイダンス・家族法総論（家族法の歴史、家事事件の手続、親族の範囲）（オンライン・オンデマンド型）
- 第02回：婚姻の成立（婚姻意思、婚姻障害事由、婚姻の無効・取消）（オンライン・オンデマンド型）
- 第03回：婚姻の効果（夫婦の氏、同居協力扶助義務（貞操義務）、夫婦の財産）（オンライン・オンデマンド型）
- 第04回：離婚の成立（離婚法総論、離婚原因、離婚の種類、有責配偶者からの離婚請求）（オンライン・オンデマンド型）
- 第05回：離婚の効果（財産分与、子の監護・養育費）（オンライン・オンデマンド型）
- 第06回：婚姻外の男女関係（内縁、事実婚、婚約）（オンライン・オンデマンド型）
- 第07回：実親子関係（親子関係法総論、嫡出親子関係、非嫡出親子関係、準正）（オンライン・オンデマンド型）
- 第08回：養親子関係（養子制度総論、普通養子縁組、特別養子縁組）（オンライン・オンデマンド型）
- 第09回：親権・後見・扶養（親権者、親権の内容、親権の制限（児童虐待への法的対応）、後見・補佐・補助、扶養制度の概要）（オンライン・オンデマンド型）
- 第10回：相続人と相続分（相続人の種類と順位、法定相続分、代襲相続）（オンライン・オンデマンド型）

第11回：相続資格の剥奪（相続欠格、相続廃除）（オンライン・オンデマンド型）

第12回：相続の承認と放棄（単純承認、限定承認、相続放棄）（オンライン・オンデマンド型）

第13回：遺産共有・遺産分割（相続財産の範囲、遺産共有の性質、遺産分割の手続・効果、配偶者の居住の権利、特別の寄与）（オンライン・オンデマンド型）

第14回：相続回復請求権（オンライン・オンデマンド型）

第15回：遺言・遺留分（遺贈）（オンライン・オンデマンド型）

\* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。

#### 授業外学習（予習・復習）

【予習】事前にレジュメ・教科書等の該当箇所を目を通してから授業に臨む（45分）

【復習】授業で十分に理解できなかった部分を中心に内容を確認する、manaba上で実施する「ドリル」課題（必須）によって理解を定着させる（1時間）

#### 教科書

指定しない（参考書の中から一冊を各自で選択して準備すること）

#### 参考書

・水野紀子＝大村敦志編『民法判例百選3 親族・相続（第2版）』（有斐閣、2018年）

\* 以下は、授業の内容をより深く理解するための参考書である（各参考書については、初回授業で説明する）。

・高橋朋子＝床谷文雄＝棚村政行『民法7 親族・相続（第6版）』（有斐閣、2020年刊行予定）

・二宮周平『家族法（第5版）』（新世社、2019年）

・犬伏由子＝石井美智子＝常岡史子＝松尾知子『親族・相続法（第2版）』（弘文堂、2016年）

・窪田充見『家族法 民法を学ぶ（第4版）』（有斐閣、2019年）

・前田陽一＝本山敦＝浦野由紀子『民法6 親族・相続（第5版）』（有斐閣、2019年）

・本山敦＝青竹美佳＝羽生香織＝水野貴浩『家族法（第2版）』（日本評論社、2019年）

・青竹美佳ほか『民法5 親族・相続 判例30!』（有斐閣、2017年）

#### 成績の評価基準

各回における「ドリル」課題の提出：30%

期末レポート（論述式を含む）：70%

\* 法学コースの学生については、秀（90点以上）とする人数の上限を成績評価対象者（他コース・他学科に所属する学生を除く）の20%以内とする。

#### オフィスアワー

質問については遠隔（Zoom）で対応するので、学籍番号・氏名を明示して、連絡先メールアドレスまでメールすること。

#### アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

#### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

#### 備考（受講要件）

授業には六法を必ず持参すること。

テキスト・参考書については初回授業で説明する。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
国際法			
英語名			
International Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
秋山公平			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>国際法の規律対象は広範囲に及び、国際社会の緊密な連携が強調されるにつれ、国際法の役割は益々重要になってきています。国際法は原則として国家間の関係を規律する法として発展してきましたが、今日の国際社会では、人権や環境の分野を中心に、国際社会全体の利益を保護するための法としての機能も担うようになってきています。この授業では、国家間関係を規律する法としての伝統的な国際法の役割や規則について確認した後、授業の後半では、主に国際経済法と人権や環境などの他の法領域との関係を題材に、国際法の主体・規律対象・執行方法等に生じた国際法の新たな発展についても扱い、国際社会における法の動態について考えていきたいと思えます。</p>			
学修目標			
<p>国際法の基本的な考え方や規則を学ぶことが主要な目的です。国内社会との違いを意識しながら、国際法の定立・適用・執行の在り方を学びます。また、国際経済社会における法の発展についても学び、現代国際社会における国際法の意義と役割を考えることができるようになることも目標とします。</p>			
授業計画			
<p>* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p>			
<p>第1回：序（国際社会における国際法の機能）【リアルタイム型】  第2回：国際法の主体としての国家【リアルタイム型】  第3回：国際法主体の多様化【リアルタイム型】  第4回：国際法の法源としての慣習国際法【リアルタイム型】  第5回：国際法の法源としての条約【リアルタイム型】  第6回：国際法と国内法【リアルタイム型】  第7回：国家管轄権【リアルタイム型】  第8回：国際法上の責任【リアルタイム型】  第9回：国際社会の平和と安全の維持【リアルタイム型】  第10回：人と国際法【リアルタイム型】  第11回：国際環境法【リアルタイム型】  第12回：国際経済社会と法【リアルタイム型】  第13回：国際経済法の基本原則【リアルタイム型】  第14回：貿易自由化と社会的価値との関係【リアルタイム型】  第15回：多角主義と地域主義の展望【リアルタイム型】</p>			
授業外学習（予習・復習）			
教科書			
<p>中谷和弘他『アルマ国際法（第3版）』（有斐閣、2016年）  岩沢雄司編集代表『国際条約集2019』（有斐閣、2019年）</p>			
参考書			
<p>中川淳司他『国際経済法（第3版）』（有斐閣、2019年）</p>			

## 成績の評価基準

2回のレポート（各50%）に基づいて成績評価を行う。

オフィスアワ -

## アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

令和2年度後期集中講義

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
外国法特論（中国法）			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
張 秀娟			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
中国と日本は一衣帯水の隣国であり、歴史的・文化的なつながりも深い。今日では、人や物の往来がますます盛んになり、両国は経済分野でも相互にきわめて重要な存在になってきており、中国の法制度を学ぶ意義と必要性も高まっている。この授業では、日本法との比較を視野に入れて、中国の法制度の構造、内容及び運用実態について講義する。			
学修目標			
中国の法制度の基礎知識について学び、中国法の全体像を理解するとともに、比較法的考察の素養を身につける。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	（中国）法と国家		
第3回	（中国）憲法		
第4回	（中国）裁判制度（1）		
第5回	（中国）裁判制度（2）		
第6回	（中国）民法		
第7回	（中国）契約法（1）		
第8回	（中国）契約法（2）		
第9回	（中国）契約法（3）		
第10回	（中国）不法行為法（1）		
第11回	（中国）不法行為法（2）		
第12回	（中国）不法行為法（3）		
第13回	（中国）物権法（1）		
第14回	（中国）物権法（2）		
第15回	（中国）企業活動と法		
授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。			
授業外学習（予習・復習）			
授業の際に指示する。			
教科書			
なし。レジュメを配布する。			
参考書			
高見澤磨＝鈴木賢＝宇田川幸則・現代中国法入門[第7版]（有斐閣,2016）			
田中信行・入門中国法（弘文堂,2013）			
小口彦太＝田中信行・現代中国法[第2版]（成文堂,2012）			
西村幸次郎・現代中国法講義〔第3版〕（法律文化社,2008）			
成績の評価基準			
期末試験による。			
オフィスアワ -			

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

法政特殊講義（行政組織法）

## 英語名

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

2～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

宇那木正寛

285 - 7626

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメールを拒否をしないように注意して下さい。

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

行政の目的を遂行するためには、道具が必要です。この道具を（広義の）行政組織といい、この行政組織を考察の対象とする法領域が行政組織法です。この法領域は、3つの分野に細分化することができます。すなわち、(1)国、地方公共団体といった行政主体の組織のあり方を考察の対象とする（狭義の）行政組織法、(2)人的手段である国家公務員、地方公務員の勤務関係等を考察の対象とする公務員法、(3)物的手段である道路、公園、下水道などの公共施設の設置管理、利用関係等を考察の対象とする公物法です。これらの3つの法領域は、行政の目的を遂行する手段であるという点では同じですが、それぞれ固有の法原理とその法的仕組みをもっています。そこで、この授業では、できる限り具体例を挙げながら、3つの法領域における固有の法原理及び法的仕組みについて理解を深めます。

## 学修目標

- (1)（狭義の）行政組織法、公務員法、公物法の各分野における基本的事項についての理解を得る。  
 (2)「民法総論」、「物権法」、「行政法総論1」、「行政法総論2」の授業で得た知識などと連動させ、（狭義の）行政組織法、公務員法、公物法を理解する。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））  
 第2回 行政組織法総論（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））  
 第3回 行政機関とその権限（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））  
 第4回 権限の委任と代理（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））  
 第5回 国の組織（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））  
 第6回 地方公共団体の組織（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））  
 第7回 国と地方公共団体との関係（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））  
 第8回 公務員法総論（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））  
 第9回 公務員の勤務関係（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））  
 第10回 公務員の権利及び義務（1）（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））  
 第11回 公務員の権利及び義務（2）（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））  
 第12回 公物法の基礎概念（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））  
 第13回 公物の基礎理論（1）（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））  
 第14回 公物法の基礎理論（2）（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））  
 第15回 まとめ（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））  
 第16回 期末テスト（期末テストの実施が不可能な場合には、期末レポートをもって代える）

（注1）「課題解決型」授業とは、鹿児島大学学習支援システムmanabaによる課題レポートの提出による授業です。

（注2）「リアルタイム型（オンライン型）」授業とは、WEB上の会議システムZOOMを使ってリアルタイムで行う授業です。

（注3）5月以降の授業は、「リアルタイム型（オンライン型）」授業を基本とする予定ですが、ZOOMの不具合等

が生じた場合には、課題解決型の授に変更する場合があります。

#### 授業外学習（予習・復習）

授業前にテキストの当該箇所を読み、授業後は、配布された資料を熟読するなどの復習をしなければ、履修は困難です。

#### 教科書

- ・塩野宏『行政法3〔第4版〕』（有斐閣、2012年）
- ・宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選1〔第7版〕』（有斐閣、2017年）
- ・宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選2〔第7版〕』（有斐閣、2017年）
- ・授業の際に配布する講義資料（毎回manabaニュースに添付して配布）。

#### 参考書

- ・宇賀克也『行政法概説3〔第5版〕』（有斐閣、2019年）
- ・藤田宙靖『行政組織法』（有斐閣、2005年）

#### 成績の評価基準

manabaシステム等を使って出題する複数の課題レポート（期末レポートを除く）30%、期末テスト70%で評価します。なお、期末テストについては、状況により実施できないことが考えられます。その場合には、期末レポートの提出をもってこれに代えます。

#### オフィスアワー

オフィスアワーは特に設けず、研究室在室中に対応します。ただし、不在の場合もあるので、来訪前にメールでの事前連絡をお願いします。ただし、新型コロナウイルス対策の観点から、当分の間、WEB上の会議システムZOOMを利用して対応します。

#### アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

#### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中3回

#### 備考（受講要件）

1. 受講の際には、必ず、六法を用意してください（有斐閣のポケット六法など小型六法で可）。
2. シラバスの内容は若干変更することがあります
3. 授業は、民法総則、物権法を履修済みであることを前提に進めます。
4. できる限り、行政法総論1も同時に受講するようにしてください。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-BBC2328

## 科目名

会社法II(旧 企業組織法)

## 英語名

Corporation Law II

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

3~4年

## 担当教員

## 連絡先(TEL)

## 連絡先(MAIL)

志田惣一

099-285-7637

icns@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

会社法のうち、前期開講の「企業の法システム」において取り扱わなかった株式会社の機関、計算、組織再編などについて講義します。

## 学修目標

- (1) 会社法の基本的な考え方を理解する。
- (2) 株式会社の機関(機関総論・株主総会・取締役会等)の仕組みを理解する。
- (3) 株式会社の役員等の責任を理解する。
- (4) 株式会社の計算、社債、組織再編に関する基本的な事項を理解する。
- (5) 会社訴訟の特質を理解する。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション(課題提出型)
- 第2回 株主総会(手続)(課題提出型)
- 第3回 株主総会(決議瑕疵)(課題提出型)
- 第4回 役員等の選解任(課題提出型)
- 第5回 取締役・取締役会・代表取締役(課題提出型)
- 第6回 代表取締役(代表権)(課題提出型)
- 第7回 取締役と会社との関係(課題提出型)
- 第8回 取締役等の責任(課題提出型)
- 第9回 監査役・監査役会・会計監査人(課題提出型)
- 第10回 監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社および執行役(課題提出型)
- 第11回 計算(課題提出型)
- 第12回 社債(課題提出型)
- 第13回 組織再編(総論・合併)(課題提出型)
- 第14回 組織再編(会社分割・その他)(課題提出型)
- 第15回 解散・清算、持分会社(課題提出型)

\* 今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

## 授業外学習(予習・復習)

予習として、各回の講義項目につき、教科書の該当する部分を読むこと。また、復習として、講義で話したことを参考に、各講義項目につきまとめをすること

## 教科書

神田秀樹『会社法』(弘文堂)

## 参考書

岩原紳作他編『会社法判例百選』(有斐閣)

## 成績の評価基準

レポート(20%)、授業への参加度(達成度への回答等:80%)を総合的に評価する。  
なお、法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワ -

火曜日2限(研究室)

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

行政争訟法（旧 行政救済法）

## 英語名

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース / 選択科目

講義

2単位

3～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

宇那木正寛

285-7628

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp  
メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておいて下さい。

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

行政法学を構成する分野として、行政法総論、行政組織法及び行政救済法があります。このうち、行政救済法は、行政活動に対する私人の権利救済をどのように実現していくのかという学問領域ですが、この分野はさらに、行政行為をめぐる救済制度について定める行政争訟法と国家補償法に分かれます。この授業では、特に、行政争訟法の全体像及び行政訴訟の典型である「取消訴訟」について、その訴訟要件、審理及び判決の効力について扱います。その後、取消訴訟以外の訟類型の順にとりあげます。最後に、行政不服申立制度を概観します。

## 学修目標

- (1)行政争訟法の全体像を理解する。
- (2)行政事件訴訟法の論点について理解する。
- (3)行政不服審査法の基本構造を分析する。
- (4)行政訴訟法と行政不服審査法との関係を理解する。
- (5)主要な判例の内容を理解する。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））
- 第2回 訴訟の基礎・裁判を受ける権利と多様な行政訴訟（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））
- 第3回 取消訴訟の基本構造（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））
- 第4回 訴訟要件(1) - 被告適格など（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））
- 第5回 訴訟要件(2) - 処分性（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））
- 第6回 訴訟要件(3) - 原告適格（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））
- 第7回 訴訟要件(4) - 狭義の訴えの利益（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））
- 第8回 取消訴訟の審理方法（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））
- 第9回 取消訴訟の終了（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））
- 第10回 出訴期間経過後の救済方法 - 処分の無効等確認訴訟、争点訴訟、公法上の当事者訴訟（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））
- 第11回 義務付け訴訟（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））
- 第12回 差止訴訟（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））
- 第13回 公法上の当事者訴訟（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））
- 第14回 行政不服申立制度(1)（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））
- 第15回 行政不服申立制度(2)（課題提出型またはリアルタイム型（オンライン型））
- 第16回 期末テスト(実施困難な場合には期末レポートによって代える)
- (注1) 「課題解決型」授業とは、鹿児島大学学習支援システムmanabaによる課題レポートの提出による授業です。
- (注2) 「リアルタイム型（オンライン型）」授業とは、WEB上の会議システムZOOMを使ってリアルタイムで授業

を行うものです。

（注3）5月以降の授業は、「リアルタイム型（オンライン型）」授業を基本とする予定ですが、ZOOMの不具合等が生じた場合には、課題解決型の授業とする場合があります。

#### 授業外学習（予習・復習）

##### 【予習】

1. 授業で取り上げられる予定の法律の条文や判決文について、あらかじめ入手し、予習しておく必要があります。
2. 授業で取り上げる法律の多くは、小型の六法には掲載されていません。受講に当たって、法令データ提供システム（<http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>）などにアクセスし、あらかじめ当該法令をダウンロードするなどし、予習を行い、授業に出席することが必要です。
3. 授業では、裁判例を多く取り上げます。受講に当たって、判例データ・ベースなどにアクセスし、あらかじめ、当該裁判例をダウンロードするなどし、予習を行い、授業に出席することが必要です。

##### 【復習】

授業中に指示する事項について、自主学習を行って下さい。

#### 教科書

- ・大橋洋一『行政法2〔第3版〕』（有斐閣、2018年）
  - ・宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選1〔第7版〕』（有斐閣、2017年）
  - ・宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選2〔第7版〕』（有斐閣、2017年）
  - ・授業の際に配布する講義資料（毎回manabaニュースに添付して配布）。
- 教科書・判例百選はできるかぎり、購入してください。

#### 参考書

- 大橋洋一『行政法1〔第4版〕』（有斐閣、2019年）
- ・宇賀克也『行政法概説1〔第7版〕』（有斐閣、2020年）
  - ・宇賀克也『行政法概説2〔第6版〕』（有斐閣、2018年）
  - ・宇賀克也『行政法概説3〔第5版〕』（有斐閣、2019年）

#### 成績の評価基準

- （1）manaba等を通じて出題する課題レポート（期末レポートを除く）30%、期末試験（70%）で評価します。ただし、期末テストが実施できない場合には、期末レポートをもってこれに代えます。
- （2）法学コースの学生については、秀（90点以上）とする人数の上限を成績評価対象者（他コース・他学科に所属する学生を除く）の20%以内とします。

#### オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めず対応します。メールであらかじめ訪問の内容と希望訪問日時を連絡して下さい。ただし、新型コロナウイルス対策のため、WEB上の会議システムZOOMにより対応します。

#### アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

#### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中5回

#### 備考（受講要件）

1. 行政法総論1及び行政法総論2を受講していることを前提として授業を進めます。
2. 授業の際には、必ず、六法を用意してください。
3. 授業で取り上げる裁判例は、各自、事前に予習して講義に臨んでください。
4. シラバスの内容は若干変更することがあります。
5. 合格点が得られない場合、再テストやレポート提出による救済措置は行いません。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC3310			
科目名			
有価証券法			
英語名			
Negotiable Instrument Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
志田惣一		099-285-7637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
有価証券制度の基礎的な理論を理解するために、特に、手形・小切手の経済的機能を念頭に置きつつ、手形法および小切手法の基本的事項を中心に講義を行う。			
学修目標			
(1) 手形法および小切手法についての基礎的知識を修得する。			
(2) 商法的なものの見方、考え方を修得する。			
(3) 具体的な裁判例の分析を通して法的思考能力を定着させる。			
授業計画			
第1回 有価証券制度の概要 (課題提出型)			
第2回 手形行為・手形抗弁論 (課題提出型)			
第3回 手形要件・振出 (課題提出型)			
第4回 他人による手形行為 (課題提出型)			
第5回 手形の偽造と変造 (課題提出型)			
第6回 白地手形 (課題提出型)			
第7回 手形の裏書 (課題提出型)			
第8回 裏書の連続 (課題提出型)			
第9回 善意取得 (課題提出型)			
第10回 人的抗弁の切断 (課題提出型)			
第11回 特殊の裏書 (課題提出型)			
第12回 手形保証 (課題提出型)			
第13回 支払・遡求 (課題提出型)			
第14回 為替手形 (課題提出型)			
第15回 小切手 (課題提出型)			
* 事例問題に関するレポートの提出 (1回程度)			
授業外学習 (予習・復習)			
予習として、各回の講義項目につき、教科書の該当部分を読むこと。また、復習として、講義で話したことを参考に、各講義項目につきまとめをすること 授業への理解度を確保するための小テストを実施する			
教科書			
神田秀樹他編『手形小切手判例百選』(有斐閣)			
参考書			
自習用 早川徹『基本講義 手形・小切手法(ライブラリ法学基本講義)』(新世社) その他			
成績の評価基準			
レポート(20%)、授業への参加度(80%)を総合的に評価する。			

オフィスアワ -

火曜 2 限

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

法政特殊講義（相続法の基本問題）（旧 法律学特殊講義（相続法の基本問題））  
ナンバリングコード

科目名

法政特殊講義（相続法の基本問題）（旧 法律学特殊講義（相続法の基本問題））

英語名

Special lecture on law, policy and political science : The Law of Succession

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

阿部純一

099-285-7645

jave@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

本講義では、相続法の基本的な諸制度について理解するとともに、関連する重要判例を詳解する。相続法を理解するためには、民法全編の諸制度の理解が必要となる。受講者は、民法の各編について既に授業を履修しているか、履修中であることが望ましいが、必須の履修要件ではない。本講義では、2018年相続法改正の内容や、近時の所有者不明土地問題に関する議論にも目を向けたい。

\* 2020年度の講義は、遠隔授業方式（リアルタイム配信方式、オンデマンド配信方式）によって実施する予定である。

学修目標

- ・相続法の基本的知識を習得する
- ・相続法をめぐる現代的諸課題について考える

授業計画

第01回：ガイダンス、相続法の基礎（10月7日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）

第02回：相続人の種類と相続分（10月14日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）

第03回：相続資格の剥奪（相続欠格、相続廃除）（10月21日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）

第04回：相続の放棄と承認（10月28日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）

第05回：相続財産の範囲（11月4日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）

第06回：遺産共有・相続財産の管理（11月11日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）

第07回：特別受益と寄与分（11月25日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）

第08回：遺産分割（12月2日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）

第09回：相続回復請求権（12月9日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）

第10回：相続人の不存在（12月16日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）

第11回：相続と登記（12月23日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）

第12回：遺言の方式と効力（1月6日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）

第13回：「相続させる旨」の遺言（1月13日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）

第14回：遺留分（1月20日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）

第15回：まとめ（1月27日：リアルタイム配信方式・オンデマンド配信方式）

\* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。

#### 授業外学習（予習・復習）

【予習】事前にレジュメ・教科書等の該当箇所を目を通してから授業に臨む（45分）

【復習】授業で十分に理解できなかった部分を中心に内容を確認する、manaba上で実施する「ドリル」課題（必須）によって理解を定着させる（1時間）

#### 教科書

指定しない（参考書の中から一冊を各自で選択して準備すること）

#### 参考書

・水野紀子＝大村敦志編『民法判例百選3 親族・相続（第2版）』（有斐閣、2018年）

\* 以下は、授業の内容をより深く理解するための参考書である（各参考書については、初回授業で説明する）。

#### 【基本書】

- ・高橋朋子＝床谷文雄＝棚村政行『民法7 親族・相続（第6版）』（有斐閣、2020年）
- ・二宮周平『家族法（第5版）』（新世社、2019年）
- ・犬伏由子＝石井美智子＝常岡史子＝松尾知子『親族・相続法（第3版）』（弘文堂、2020年）
- ・窪田充見『家族法 民法を学ぶ（第4版）』（有斐閣、2019年）
- ・前田陽一＝本山敦＝浦野由紀子『民法6 親族・相続（第5版）』（有斐閣、2019年）
- ・大村敦志『新基本民法8 相続編』（有斐閣、2017年）
- ・潮見佳男『詳解 相続法』（弘文堂、2018年）
- ・青竹美佳ほか『民法5 親族・相続 判例30!』（有斐閣、2017年）

#### 【2018年相続法改正関係】

- ・堂園幹一郎＝神吉康二『概説 改正相続法』（きんざい、2019年）
- ・堂園幹一郎＝野口宣大『一問一答 新しい相続法（第2版）』（商事法務、2020年刊行予定）
- ・大村敦志＝窪田充見編『解説 民法（相続法）改正のポイント』（有斐閣、2019年）
- ・潮見佳男ほか編『Before/After 相続法改正』（弘文堂、2019年）

#### 成績の評価基準

各回における「ドリル」課題の提出：30%

期末レポート（論述式を含む）：70%

#### オフィスアワー

質問については遠隔（Zoom）で対応するので、学籍番号・氏名を明示して、連絡先メールアドレスまでメールすること。

#### アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

#### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

ワークシート

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

#### 備考（受講要件）

民法総則、物権法、債権法1～3、家族法を履修した（又は履修中である）ことが望ましい（但し、必須の受講要件ではない）。

授業には六法を必ず持参すること。

テキスト・参考書については初回授業で説明する。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

司法政策論

## 英語名

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

3～4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

中島宏・米田憲市・原田いづみ

099-585-7633(中島)

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp(  
中島)

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

この授業では、わが国の司法制度がいかにあるべきかについて、法政策的な広い視野から深く議論し検討することを目的とする。司法制度の設計や運用に関する政策的な基礎を踏まえた上で、いわゆる「平成の司法制度改革」から今日に至るまでの様々な動きについて、その内容と到達点を検証し、今後の司法制度や法律家のあるべき姿について考察する。

## 学修目標

- 1) 司法制度改革の理念や具体的方策について理解する。
- 2) 司法制度改革が目指した内容の実現過程および現実の達成状況を分析する。
- 3) 司法制度が直面している現在の課題を認識し、それに対する自分の意見を形成する。

## 授業計画

本講義は遠隔方式で実施し、各回とも原則として【リアルタイム方式】による。ただし、必要に応じて【オンデマンド方式】を併用することがある。各回の詳細な実施方法は、manabaによって告知する。

なお、感染症拡大の状況に変化があった場合には、対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。

1. オリエンテーション(司法政策とは何か)
2. 司法制度改革
3. 法曹養成
4. 司法過疎
5. 司法支援センター
6. 国民の司法参加(裁判員制度はなぜ導入されたのか?)
7. 刑事司法制度改革(日本型「精密司法」の功罪)
8. 企業法務
9. 行政機関における弁護士の役割
10. 対人援助職としての弁護士～紛争解決とリーガルアクセスの観点から～
11. 加害者家族支援の現状と司法の役割
12. 司法制度改革と法教育～最後のかなめ」の「かなめ」として?～
13. 災害と法
14. 司法におけるジェンダーバイアス
15. まとめ

## 授業外学習(予習・復習)

予習：事前に指定する資料を熟読し、あらかじめ支持した簡単な課題を行った上で講義に出席すること(60分)。

課題：講義内容を踏まえて毎回示される課題についてレポートを作成する。(60分)。

## 教科書

司法制度改革審議会意見書 <http://www.kantei.go.jp/jp/sihouseido/report/ikensyo/index.html>

その他は、講義等を通じて紹介する。

#### 参考書

手軽な参考図書としては、市川正人ほか『現代の裁判（第5版）』（有斐閣,2008）、宮澤節生ほか『ブリッジブック法システム入門』（信山社,2008）、村山眞維、濱野亮『法社会学』（有斐閣,2003）があげられる。

#### 成績の評価基準

複数回提出するレポートによる(100%)

#### オフィスアワー

未定。追って指示する。なお、質問等のための研究室訪問（またはオンラインミーティング）には随時対応する。

#### アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

#### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

#### 備考（受講要件）

特になし。将来、法曹（裁判官、検察官、弁護士）や隣接士業（司法書士、行政書士、税理士、社会保険労務士など）はもちろん、司法関係機関の職員（裁判所職員、検察事務官、警察官など）を目指す学生には履修をお勧めする。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-BBB2301

## 科目名

演習I(財産法)(旧 演習)

## 英語名

Seminar I:Property and Contract

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/必修科目

演習

2単位

3年

## 担当教員

## 連絡先(TEL)

## 連絡先(MAIL)

植本幸子

kagoshima-u.ac.jp (下記と組み合わせること)

uemt05@leh.

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

民法総則と財産法に関連する問題を中心に、法律学習の基本を身につける。

## 学修目標

- ・法解釈に関する記述を正確に読みとり説明する能力を身につける。
- ・事実関係の記述から、関係する法的な論点を見つけ出し説明することが出来る。
- ・主要な判例を調べ事実と判旨を説明することが出来る。
- ・論点に関連する主要な学説を調べ説明することが出来る。
- ・民法上の問題に関して私見を説明し報告することが出来る。

## 授業計画

2020年度前期は、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

- 第1回 演習における学び方、研究倫理(引用)、資料の収集分析方法、教材についての研究打ち合わせ
- 第2回 資料の収集・分析の実践、報告と討論(民法総則に関する主要論点1)
- 第3回 報告と討論(民法総則に関する主要論点2)
- 第4回 報告と討論(民法総則に関する主要論点3)
- 第5回 報告と討論(民法総則に関する主要論点4)
- 第6回 報告と討論(民法総則に関する主要論点5)
- 第7回 報告と討論(民法総則に関する主要論点6)
- 第8回 報告と討論(物権法に関する主要論点1)
- 第9回 報告と討論(物権法に関する主要論点2)
- 第10回 報告と討論(物権法に関する主要論点3)
- 第11回 報告と討論(物権法に関する主要論点4)
- 第12回 報告と討論(物権法に関する主要論点5)
- 第13回 報告と討論(物権法に関する主要論点6)
- 第14回 報告と討論(物権法に関する主要論点7)、主要論点の確認と復習

上記テーマは一例である。参加者の履修範囲や理解に応じて変更可能性がある。また、参加者希望のテーマがあればそれを優先する。

なお、平成31年度は百選を用いた債権法分野の事例分析が中心となった。

- ・ゼミの人数によるが、最低でも1回の課題について報告することが必要である。
- ・報告を担当しない課題については質問票を提出した上で議論に参加する。例年、A4で1枚程度に判例通説による解決を示した上で質問する人が多いが、2~3行でも構わない。ただし、欠席の際に出席に替えるものとしては前者によること。
- ・設例の事実関係から論点を見つけ出すことから課題となるが、テーマについて希望のある場合には尊重するので適宜相談すること。

ゼミの人数1~3名

: 個別の進度に応じて、一人ずつ特定の問題について、資料の収集と配布、レジメの作成、板書による説明などを報告者が行う。報告担当以外の者も、板書による説明や私見の説明により、積極的に授業に参加すること。

ゼミの人数4~7名

: 1人1つずつ特定の問題について、資料の収集と配布、レジメの作成、板書による説明を行うが、報告の機会は最低1つのテーマについて1回、進度によって2回までの報告が認められる。報告担当以外の者には、段階に応じて質問票の提出が求められ、板書による説明や私見の説明により、積極的に授業に参加する。

ゼミの人数8名以上

: 1人1つずつ特定の問題について、資料の収集と配布、レジメの作成、板書による説明を行い、報告の機会は1回である。それ以上の指導は、事後レポートの作成により受けることができる。報告担当以外の者には、段階に応じて質問票の提出が求められ、板書による説明や私見の説明により、積極的に授業に参加する。

授業外学習(予習・復習)

(予習) 演習は予習がメインとなる。前の週までに、報告者は報告用レジメ、報告者以外は質問票を提出する。資料室や図書館を利用しできる限りの予習を行う。本演習は、演習の準備自体を授業時間中に行うことは無い。

(復習) 報告した課題についてのみ、議論を反映させた事後レポートを作成し提出する。

教科書

手持ちの教科書を持参すること。

参考書

- ・六法を必ず携行すること。
- ・教材は初回に相談して以下より決める。  
松久三四彦他『事例で学ぶ民法演習』(成文堂2014年)  
民法判例百選?、?  
その他教科書で気になる論点や裁判例

成績の評価基準

- ・授業への取り組み態度(発言内容、報告回数、質問票提出、報告部分の事後レポートによる。)
- ・演習なのですべての回に出席することが原則となる。事情のある場合も無い場合にも、必ず連絡相談すること。

オフィスアワ -

追って指示する。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

・民法を通じて基本的な解釈学、裁判例の読み方、文献収集スキル等の基礎を身につけることになる。例年の受講生もLSなど大学院進学者もいれば、司法書士を中心に様々な資格取得する者、各種公務員、民間就職者等様々、進路や理解度も様々である。年度によって雰囲気は全く違うがいかなる状況にも流されることなく、批判を前提に自らの能力を伸ばすよう努力する態度が望まれる。

・高校卒業程度の国語力は当然の前提である。苦手な者は授業に関連した予習等で多くの努力が必要となろう。科目として無関係であると思いきも、スタートラインが違うのに努力無しに履修可能と思わないこと。例えば、大審院の判例に当たる場合には当然に旧字体の漢字を調べ、古語に近い言い回しについて辞書等を使って理解することが必要となる。逆に今までの差は少しの差に過ぎない。今後の努力や勉強が、年を経るごとに実力の蓄積となることを意識してあらゆる勉強に励んでもらいたい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I (国際私法) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: Private International Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
眞砂康司	285-7630 (国際私法研究室)	masago@leh.kagoshima-u.ac.jp 件名 (題名) に、必ず学籍番号、氏名を入れてください。	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
受講生は、教員の助言と指導のもとに、各自が選択したテーマで研究報告を行い、それに基づく討論を行う。かかる報告と討論を通して、国際私法の諸問題を考察する。			
学修目標			
国際私法的観点からなす法的思考の修得。			
授業計画			
遠隔授業をします。「今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある」 MANABA (manaba マナバ) や大学に登録の諸君のメールアドレスについて受信拒否の設定をしないでください。			
授業期間中でレポート提出を多用する。課題提出型・オンライン型問わず、これらの型式に加え、オンデマンド型も併せて使用する可能性もある。これらの3型式は今後変動する可能性がある。また「今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性もある」			
* 現実には、manabaによるアンケート・課題提出等の手法の授業のほか、ZOOMによるONLINE授業を実施する予定である。			
多くのアンケート・レポート (manabaかrespon) を提出し、manabaやZOOMのONLINE等への参加が評価の必須項目となるでしょう。ストリーム配信を使う可能性もある。			
出欠は種々の方法でとりますので、その都度、注意してください。			
遠隔授業をすることになりますので、 MANABA (manaba マナバ) や大学に登録の諸君のメールアドレスについて受信拒否の設定をしないでください。			
(前期)			
第1回 ガイダンス			
第2回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第3回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第4回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第5回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第6回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第7回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第8回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第9回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第10回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第11回 個別報告と討論 ?			
第12回 個別報告と討論 ?			
第13回 個別報告と討論 ?			
第14回 個別報告と討論 ?			
第15回 個別報告と討論 ?			

<b>授業外学習 (予習・復習)</b>
あらかじめ理解している報告者のタイトルについて予習することが望ましい。授業後は、報告者でなくとも、質問することが望ましい。
<b>教科書</b>
適宜、指示する。
<b>参考書</b>
適宜、指示する。
<b>成績の評価基準</b>
授業への取り組み態度
<b>オフィスアワ -</b>
木曜日・3時限・研究室
<b>アクティブ・ラーニング</b>
ディベート; プレゼンテーション;
<b>アクティブ・ラーニング (その他の内容)</b>
<b>アクティブ・ラーニング (授業回数)</b>
ほぼ毎回
<b>備考 (受講要件)</b>
<p>授業期間中でレポート提出を多用する。課題提出型・オンライン型問わず、これらの型式に加え、オンデマンド型も併せて使用する可能性もある。これらの3型式は今後変動する可能性がある。また「今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性もある」</p> <p>* 現実には、manabaによるアンケート・課題提出等の手法の授業のほか、ZOOMによるONLINE授業を実施する予定である。</p> <p>多くのアンケート・レポート (manabaかrespon) を提出し、manabaやZOOMのONLINE等への参加が評価の必須項目となるでしょう。ストリーム配信を使う可能性もある。</p> <p>出欠は種々の方法でとりますので、その都度、注意してください。</p> <p>遠隔授業をすることになりますので、MANABA (manaba マナバ) や大学に登録の諸君のメールアドレスについて受信拒否の設定をしないでください。</p>
<b>実務経験のある教員による実践的授業</b>

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(憲法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Constitutional Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
大野友也		099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
演習形式で、憲法判例や学説についての整理・検討を行う。取り上げる判例・学説については、学生と相談して決める			
学修目標			
(1) 憲法についての基本的な概念・判例・学説を理解する。 (2) 現代の憲法問題について知り、解決策を考える。 (3) ディベート能力を身につける。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション、自己紹介 第2回 社会科見学プレゼン 第3回 社会科見学(1) 第4回 報告(1) 第5回 報告(2) 第6回 報告(3) 第7回 報告(4) 第8回 社会科見学(2) 第9回 報告(5) 第10回 報告(6) 第11回 報告(7) 第12回 報告(8) 第13回 報告(9) 第14回 社会科見学(3) 15回 まとめ			
コロナの影響で遠隔授業をします。ズームを使用するので、各自ズームのアカウントを取得しておいてください。			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおく(30分程度) 【復習】配布したレジュメを再読し、自身で論点を再考する(60分程度)			
【課外活動】社会科見学として、鹿児島刑務所、鹿児島検察庁などへ行きます。また、夏休みには合宿に行きます。			
その際、大学生協の保険に入りますが、大学生協に加入していないと、この保険にはいけませんので、かならず大学生協に加入しておいてください。			
教科書			
各自の所有する『憲法』のテキスト(たとえば、芦部信喜『憲法』(岩波書店)、辻村みよ子『憲法』(日本評論社)、佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂)、長谷部恭男『憲法』(新世社)、浦部法穂『憲法学教室』(日			

本評論社)、高橋和之『立憲主義と日本国憲法』(有斐閣)、渋谷秀樹『憲法』(有斐閣)、野中俊彦ほか『憲法I、II』(有斐閣)など)

## 参考書

適宜指示する。

## 成績の評価基準

授業への取り組みの姿勢で評価する。

## オフィスアワ -

火曜5限目(研究室)

## アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

## 備考(受講要件)

第一回目にレポート講評をします。レポートのテーマは、「憲法ゼミを志望した理由」です。字数は1500字以上、用紙サイズはA4で、横書き。締め切りは4月11日(水)午後4時(研究室まで持参し直接提出するか、研究室のドアのボックスに入れておくこと)。パソコンを使用して作成してください。また、末尾に文字数を記載してください。

4・5限通してゼミを行いたいので(4年生の課題研究と合同)、できれば木曜4限には別の講義を履修しないようにして下さい(もちろん強制ではありませんが、可能な限りあけておいてください)。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習I (政治学)			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
平井一臣		8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
文献講読を中心に、政治学の基本的な考え方を学ぶ。			
学修目標			
政治学の基本的な考え方を理解し、文献の読解、読解に基づく発表、討論の能力を身につける。			
授業計画			
*遠隔授業により行います。 **状況によっては対面形式での授業に変更となる可能性があります。授業形態の変更の場合は、あらかじめmanabaのコースニュースや授業内で通知します。			
第1回 ガイダンス			
第2回 文献講読			
第3回 文献講読			
第4回 文献講読			
第5回 文献講読			
第6回 文献講読			
第7回 文献講読			
第8回 文献講読			
第9回 文献講読			
第10回 文献講読			
第11回 文献講読			
第12回 文献講読			
第13回 文献講読			
第14回 文献講読			
第15回 総括			
授業外学習 (予習・復習)			
事前に指定された箇所を読み授業に臨む。 授業で出された論点について、図書館等で関連資料・文献にあたり復習する。			
教科書			
授業開始時に指定する			
参考書			
授業中に適宜紹介する			
成績の評価基準			
平常点			
オフィスアワー			
授業終了後			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(海商法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Maritime Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
松田忠大	099-285-7653	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
演習形式で海商法に関する判例研究を行います。 なお、演習の進め方および研究の対象とする判例は学生と相談して決定します。			
学修目標			
(1) 海商法に関する基本的な知識を定着させる。 (2) 商取引の基本的な考え方を理解し、商法的な視点から法解釈を行うことができる能力を身につける。 (3) コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション(オンライン・オンデマンド型) 第2回～第14回：研究報告および討論(オンライン・オンデマンド型) 第15回：まとめ(オンライン・オンデマンド型)			
授業外学習(予習・復習)			
この演習では、国内または国外における学外研修を行うことを予定しています。また、他大学のゼミとの合同研究会の開催も計画しています。			
教科書			
中村眞澄＝箱井崇史『海商法』(第2版)(成文堂・2013年) 箱井崇史『基本講義現代海商法』(第3版)(成文堂・2018年)			
参考書			
その他の参考文献等は適宜指示します。			
成績の評価基準			
演習への取り組み態度で評価します。			
オフィスアワ -			
火曜3限(研究室)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS - BBB2301			
科目名			
演習I(海商法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Maritime Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
松田忠大		099-285-7653	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>この演習では、海商法分野の法的諸問題を取り扱います。                  前半は船荷証券(Bill of Lading)の裏面約款(英文の運送約款)を輪読して海上運送契約についての理解を深めます。後半は、海商法分野の判例研究を行います。                  なお、演習の進め方および研究の対象とする判例は学生と相談して決定します。</p>			
学修目標			
<p>(1) 海商法に関する基本的な知識を定着させる。                  (2) 商取引の基本的な考え方を理解し、商法的な視点から法解釈を行うことができる能力を身につける。                  (3) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力および討論の能力を身につける。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション(オンライン・オンデマンド型)                  第2～第11回：船荷証券裏面約款の輪読(オンライン・オンデマンド型)                  第12～14回：海事判例研究報告および討論(オンライン・オンデマンド型)                  第15回：まとめ(オンライン・オンデマンド型)</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>この演習では、国内または国外における学外研修の実施を予定しています。また、他大学ゼミとの合同研究会を実施する計画もあります。</p>			
教科書			
中村眞澄＝箱井崇史『海商法』(成文堂・2010年)			
参考書			
その他の参考文献等は適宜指示します。			
成績の評価基準			
発表の内容・討論への参加態度および出席状況を総合的に勘案して評価します。			
オフィスアワ -			
月曜3限(研究室)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			
商取引法IIを必ず受講してください。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(租税法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Tax Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
鳥飼貴司		099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
前期は、重要租税判例の報告・討論を通じて各人の問題提起力と議論展開力を養成する。			
学修目標			
1. 主要な租税法規・租税判例を知る。 2. 卒業論文作成における基礎力を養う。			
授業計画			
(前期)			
第1回 ガイダンス(租税判例研究とは何か)(課題提出型)			
第2回 大嶋訴訟(最高裁大法廷昭和60年3月27日判決)(Zoomによるオンライン授業)			
第3回 どぶろく裁判(最高裁平成元年12月14日判決)(Zoomによるオンライン授業)			
第4回 夫婦所得課税(最高裁大法廷昭和36年9月6日判決)(Zoomによるオンライン授業)			
第5回 酒類販売免許制(最高裁平成4年12月15日判決)(Zoomによるオンライン授業)			
第6回 川崎民商事件(最高裁大法廷昭和47年11月22日判決)(Zoomによるオンライン授業)			
第7回 犯罪嫌疑者に対する質問調査と黙秘権(最高裁昭和59年3月27日判決)(Zoomによるオンライン授業)			
第8回 刑罰と重加算税の併科(最高裁大法廷昭和33年4月30日判決)(Zoomによるオンライン授業)			
第9回 通達課税(最高裁昭和33年3月28日判決)(Zoomによるオンライン授業)			
第10回 旭川市国民健康保険条例事件(最高裁大法廷平成18年3月1日判決)(Zoomによるオンライン授業)			
第11回 税法における遡及立法(最高裁平成23年9月22日判決)(Zoomによるオンライン授業)			
第13回 神奈川県臨時特例企業税事件(最高裁平成25年3月21日判決)(Zoomによるオンライン授業)			
第14回 ホステス源泉徴収事件(Zoomによるオンライン授業)			
第15回 まとめ(税法演習を振り返って)(Zoomによるオンライン授業)			
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】 報告担当者以外の受講生も、テーマに関する意見や質問を事前に考え、調べておくこと			
【復習】 提示されたレジュメ、意見や質問を踏まえて、もう一度テーマ全体について考えること			
教科書			
特にない。			
参考書			
『租税判例百選 第6版』有斐閣 『租税法判例六法』有斐閣 金子宏『租税法』弘文堂 三木義一『よくわかる税法入門』有斐閣			

三木義一・中村芳昭編『演習ノート租税法〔第3版〕』法学書院

成績の評価基準

授業への取り組み態度

オフィスアワ -

講義後に話かけるのは自由。

その他の場合、事前にメールで面会交渉をすること。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

演習I ( 刑事訴訟法 ) ( 旧 演習 )

## 英語名

Seminar I: Criminal Procedure

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース / 必修科目

演習

2単位

3年

## 担当教員

## 連絡先 ( TEL )

## 連絡先 ( MAIL )

中島宏

099-285-7633

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

この演習では、刑事訴訟（捜査・公訴・公判・証拠・裁判・上訴・非常救済）の諸問題について、学生の報告と討論による共同研究を行う。刑事訴訟は、いわゆる「平成の司法制度改革」を経て、近年その姿を大きく変容させたところであるが（裁判員制度の導入、検察審査会の権限強化、公判前整理手続の導入など。また、司法制度改革後の動きとして、被害者参加制度の導入があった）、2016年には更なる刑事訴訟法の改正が行われ、捜査や公訴の質的な大転換がもたらされようとしている（取調べの可視化、いわゆる司法取引の導入など）。他方では、冤罪事件などを通じて、わが国の刑事訴訟の伝統的な問題点が今なお明みに出て続けている。今まさに激動期を迎えている刑事訴訟法は、学習・研究の対象として、最もホットな領域と言ってよいだろう（意見には個人差があります）。

講義科目である「刑事訴訟法」や「法律学特殊講義（捜査法）」では、刑事訴訟法を体系的に解説し、解釈論上の争点をほぼ網羅的に取り扱っている【体系的アプローチ】。これに対して、演習では、刑事訴訟に関する具体的な問題点に着目し、その内容を掘り下げつつ、解決のための方法を明らかにするし、それを通じて刑事訴訟全体の構造や特質の理解を獲得することを目指す【問題解決型アプローチ】。

具体的なテーマは、教員のアドバイスを踏まえつつ、学生が自分の興味関心に従って自由に設定する。法解釈の枠にとどまらず、立法論や運用論にかかるテーマも積極的に扱う（たとえば、別件逮捕、科学的捜査、取調べ可視化、代用監獄、司法取引、被害者の権利、検察審査会、裁判員制度、証拠開示など）。また、ケース研究として、具体的な事件に注目し、掘り下げてもよい（たとえば、志布志事件、大崎事件など）。

学期末には、各人のテーマについての研究成果を小論文にまとめて、インターネットで公開する。これを通じて他大学の刑事訴訟法ゼミとの交流を促進する。

なお、学生の関心および研究上の必要性に応じて、裁判所、検察庁、刑務所などの参観を行う。また、実務家などをゲストに招いてお話を伺うこともある（かもしれない）。

## 学修目標

- 1) 刑事訴訟法の基本的な概念や制度を正しく理解する。
- 2) 刑事訴訟における様々な問題について、その背景と本質を正しく分析する。
- 3) 刑事訴訟における判例の機能について考察を深める。
- 4) 刑事訴訟の具体的な問題をどのように解決すべきか、自説を形成できるようになる。
- 5) 文献調査の手法を身につける。
- 6) 研究成果を文章および口頭で伝える手法を身につける。

## 授業計画

基本的には遠隔形式（すべてリアルタイム方式）でおこなう予定であるが、学期中に3回程度、対面式での実施を検討する。また、感染症の拡大の状況が劇的に好転した場合には、全体を対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースやメーリングリストで通知する。

第1回 今後の方針決定【リアルタイム方式】

- 第2回 研究報告と討論【リアルタイム方式】  
 第3回 研究報告と討論【リアルタイム方式】  
 第4回 研究報告と討論【リアルタイム方式】  
 第5回 研究報告と討論【リアルタイム方式】もしくは【対面式】  
 第6回 研究報告と討論【リアルタイム方式】  
 第7回 研究報告と討論【リアルタイム方式】  
 第8回 研究報告と討論【リアルタイム方式】  
 第9回 研究報告と討論【リアルタイム方式】もしくは【対面式】  
 第10回 研究報告と討論【リアルタイム方式】  
 第11回 研究報告と討論【リアルタイム方式】  
 第12回 研究報告と討論【リアルタイム方式】  
 第13回 研究報告と討論【リアルタイム方式】  
 第14回 研究報告と討論【リアルタイム方式】  
 第15回 研究報告と討論【リアルタイム方式】もしくは【対面式】

ゲストによる遠隔での講演を上記のいずれかに行う場合がある。

#### 授業外学習 ( 予習・復習 )

各自の研究テーマについて授業外で調査・分析を進める。したがって、報告を担当する週だけでなく、恒常的に研究に取り組む必要がある。授業時間は、研究成果を発表するためのものであり、むしろ授業外学習こそが学習 ( 研究 ) のメインであると心得てほしい ( いわゆる「反転授業」の考え方 ) 。

さらに、自分の研究報告以外についても、以下の予習・復習が必要である。まず、予習として、報告担当者による指示に従って、判決文や基本的な知識を得るための文献に目を通すことが必要である ( 30～60分程度 ) 。また、復習として、報告を終えた担当者に対して感想や評価をフィードバックすることが求められる ( 共同研究のマナー ) ( 15～30分程度 ) 。

#### 教科書

刑事訴訟法の教科書を最低1冊は手元に置くこと。たとえば以下のようなものがある。

##### [ 入門書 ]

- ・大野正博ほか『刑事訴訟法教室』(法律文化社、2013年) 講義科目での指定教科書
- ・亀井源太郎ほか『プロセス講義刑事訴訟法』(信山社、2016年)
- ・三井誠・酒巻匡『刑事手続法入門 [第7版]』(有斐閣、2017年)

##### [ 体系書 ]

- ・酒巻匡『刑事訴訟法』(2016年、有斐閣)
- ・白取祐司『刑事訴訟法 [第9版]』(日本評論社、2017年)
- ・池田修・前田雅英『刑事訴訟法講義 [第5版]』(東大出版会、2015年)
- ・上口裕『刑事訴訟法 [第4版]』(成文堂、2015年)
- ・宇藤崇ほか『刑事訴訟法』(リーガルクエスト・シリーズ)(有斐閣、2013年)
- ・田口守一『刑事訴訟法 [第7版]』(弘文堂、2017年)

法令集は当然ながら必携である。ボールなしにサッカーはできないのと同じ。

#### 参考書

学生の研究テーマに応じて随時案内する。

#### 成績の評価基準

研究報告の水準、発言の頻度と内容、学期末に作成する論文などを踏まえて評価する。

なお、演習は共同作業をその本質とするものであり、欠席は「Give & Take」の関係からの一方的な離脱を意味する。したがって、無断欠席や理由のない欠席は厳禁である。複数回繰り返した学生は、その時点で直ちに参加資格を喪失することになるので注意すること。

#### オフィスアワ -

追って指定する。なお、指定された時間以外でも質問等のため必要があれば研究室を随時来訪することを歓迎する。

#### アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

楽しく厳しいゼミを目指したい。司法に関わる仕事を目指す者はもちろんであるが、そうでなくても犯罪捜査や刑事裁判に関心がある学生の参加を期待する。

主体的に学び問う意欲を持った学生のみ歓迎する。

その他、ゼミの指導方針などはこちらを参照のこと。

<http://www.ceres.dti.ne.jp/h-nakaji/news17.html#01092018>

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

演習I(民事手続法)(旧 演習)

## 英語名

Seminar I:Civil Procedure

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/必修科目

演習

2単位

3年

## 担当教員

## 連絡先(TEL)

## 連絡先(MAIL)

齋藤 善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

前期の学習の継続。基本判例をベースとした問題演習の手法によって、基礎学力を検証しつつ、議論・思考できることを目標としたい。

演習の場では、受講生全員が対象判例等に関し、十分な予習を尽くしていることを前提に、適宜、教員の側からの質疑を交えながら双方向の遣り取りをしつつ、受講生相互間の多方向の議論まで展開することを旨とする。

## 学修目標

判例を正確に「読み解く」ことができる。

問題演習やケース・スタディを通じて、帰納的に民事訴訟法の基礎理論を学習する。

民事訴訟法の基礎学力に依拠して思考回路を設計し、それを説明することができる。

## 授業計画

具体的な問題演習の実施形態等、その方法や内容に関しては、その都度、事前に告知したい。

因みに、前年度の内容等は、以下のとおり……

第1講/第2講 即日起案/検討解題【信義則違反への弁論主義の適否/先行自白/原被告間の主張共通】

第3講/第4講 事前提示課題の考察解題/起案内容の比較検討【不特定概念への弁論主義の適用/不利益陳述/文書成立の真正と自白の成否】

第5講/第6講 即日起案/検討解題【自白の撤回/時機に後れた攻撃防御方法】

第7講/第8講 事前提示課題の考察解題/起案内容の比較検討【主張共通と相手方の援用しない自己に不利益な事実の陳述/法的観点指摘義務違反と既判力の縮小】

第9講/第10講 即日起案/検討解題【陳述擬制と証拠調べの要否/間接事実の自白】

第11講/第12講 事前提示課題の考察解題/起案内容の比較検討【主張準則と裁判所の認定】

第13講/第14講 事前提示課題の考察解題/起案内容の比較検討【令和1年度司法試験問題】

第15講 学習の総括【弁論主義と自白】

受講生は、日々問題演習や判例学習を契機として、より本格的な判例研究に進展したり、民訴の論点研究へと深化することが期待される。

なお、上記の授業計画は、当面、Zoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する形で実施される。ただし、事情の変動により、授業の実施方法など変更を生じる可能性もあり得る。

授業外学習(予習・復習)

毎回、事前に提示される「論点と考えるヒント」を考察・検討する作業を経由して、演習の現場に臨むこと。多様な質疑や議論の展開を把握するには、相応の事前学習、すなわち、参考となる判例の法理、その事案の概要や判旨を読んで、分からないところや不明確な部分を抽出し、それを読解するために、適宜、参考文献にあたって調べておくことが、演習参加の必要条件となる。

教科書

野村秀敏=佐野裕志=伊東俊明=齋藤善人=柳沢雄二=大内義三・民事訴訟法(北樹出版・平成30年)

参考書

民事訴訟法の授業で指定された教科書や参考文献など。たとえば、幾つか挙げるとすれば...

【1】概説書

- 高橋宏志・民事訴訟法概論(有斐閣・平成28年)
- 川嶋四郎・民事訴訟法概説[第2版](弘文堂・平成28年)
- 山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法[第3版](有斐閣・平成30年)
- 和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法(商事法務・平成24年)

【2】定評のある体系書

- 高橋宏志・重点講義民事訴訟法(上)[第2版補訂版]、(下)[第2版補訂版](有斐閣・平成25、26年)
- 伊藤眞・民事訴訟法[第6版](有斐閣・平成30年)
- 川嶋四郎・民事訴訟法(日本評論社・平成25年)
- 河野正憲・民事訴訟法(有斐閣・平成21年)
- 小島武司・民事訴訟法(有斐閣・平成25年)
- 新堂幸司・民事訴訟法[第5版](弘文堂・平成23年)
- 中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義[第3版](有斐閣・平成30年)
- 藤田広美・講義民事訴訟[第3版](東大出版会・平成25年)
- 藤田広美・解析民事訴訟[第2版](東大出版会・平成25年)
- 松本博之=上野泰男・民事訴訟法[第8版](弘文堂・平成27年)
- 三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGAL QUEST民事訴訟法[第2版](有斐閣・平成27年)

【3】注釈書

- 秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタール民事訴訟法1[第2版追補版]、2[第2版]、3、4、5、6(日本評論社・平成26、18、20、22、24、26年)
- 松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法[第2版](弘文堂・平成23年)
- 加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタール民事訴訟法1、2(日本評論社・平成30年)
- 笠井正俊=越山和広編・新コンメンタール民事訴訟法[第2版](日本評論社・平成25年)

成績の評価基準

演習の場における受講生各位のパフォーマンス(報告や質疑応答の頻度、その内容等)により評価する。その際、即日起案やレポート起案といった成果も評価の対象に含まれる。

演習に出席することは義務であり、出席したことで評価されることはない。演習に“参加”して、はじめて評価される(いわんや、欠席をや...)。すなわち、演習の現場で、自学自習した内容を積極的に検証すること、他者の考えを批判的に検討すること、議論を総括し集約する作業を試みることなど、能動的な学習姿勢を貫徹することが要求される。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

質疑応答を契機とした双方向および多方向の議論。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

授業内容の進捗に応じて、適宜臨機応変に...

備考 (受講要件)

手続法は円環的構造をもつといわれる。民事訴訟法についてみれば、たとえば、訴えの提起という訴訟の最初の段階で設定される、その訴訟のテーマたる「訴訟物」の範囲で、訴訟の最後の段階である、判決の効力、すなわち、「既判力」が生ずるとされており、訴訟手続の最初の段階の概念である訴訟物が、訴訟手続の最後の段階の既判力の範囲に大きく影響する。逆にいえば、既判力の生ずる範囲を明らかにするには、訴訟物を理解しなければならない。このように、訴訟法では、ある概念が、実は別のところで重要な意義をもち、訴訟手続の局面に応じて登場してくるということが多い。かような構造が、初学者にとっては学習の全体像が見えないことも相俟って、理解を難しくしている。その意味で、訴訟法の学習には、分からないことに耐えて継続する力が不可欠だろう。分からないからといって、すぐに投げ出さず、努力を続けていれば、やがて必ず視界が開けてくる。

ただし、判例の事案を把握するためには、民事実体法、とくに民法、具体的には民法総則、物権法、担保物権法、債権総論、契約法、不法行為法の基礎を理解している必要がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(商法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Business Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
志田惣一		0992857637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
会社法に関する具体的な事例を分析しいかなる法的問題点があるか、解決策はどうかを検討する。授業は、基礎的な論点を確認した後、学生の報告をもとに検討する。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事象(事実関係、判決を含む資料)を正確に読解する能力を身につける。</li> <li>2 基本的な思考力を身につける。</li> <li>3 資料の収集分析能力を身につける。</li> <li>4 法的な問題についての報告(文書)をする能力を身につける。</li> </ol>			
授業計画			
会社法に関する基本的な判決例についての検討			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 会社の政治献金(課題提出型)</li> <li>2 法人格の否認と第三者異議の訴え(課題提出型)</li> <li>3 発起人の開業準備行為(課題提出型)</li> <li>4 株式の仮払込(課題提出型)</li> <li>5 株式の共有(課題提出型)</li> <li>6 譲渡制限と株式の譲渡(課題提出型)</li> <li>7 有利発行・新株発行の瑕疵(無効)(課題提出型)</li> <li>8 新株発行の瑕疵(差止め)(課題提出型)</li> <li>9 決議取消の訴え(訴えの利益)(課題提出型)</li> <li>10 取締役権利義務者等(課題提出型)</li> <li>11 表見代表取締役(課題提出型)</li> <li>12 取締役会決議(課題提出型)</li> <li>13 帳簿閲覧請求事件(課題提出型)</li> <li>14 事業譲渡・重要財産の譲渡(課題提出型)</li> <li>15 合併無効事由(課題提出型)</li> </ol>			
* 今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
授業外学習(予習・復習)			
学生の報告を中心に講義を進めるので、報告の準備と、授業後の報告(文書)の見直し、完成。			
教科書			
会社法判例百選			
参考書			
神田秀樹・会社法			
成績の評価基準			
授業への参加度(100%)			
オフィスアワ -			
火2限			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

とくになし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(刑事訴訟法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Criminal Procedure			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
中島宏		099-285-7633(研究室)	h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>この演習では、刑事訴訟(捜査・公訴・公判・証拠・裁判・上訴・非常救済)の諸問題について、学生の報告と討論による共同研究を行う。刑事訴訟は、いわゆる「平成の司法制度改革」を経て、近年その姿を大きく変容させたところであるが(裁判員制度の導入、検察審査会の権限強化、公判前整理手続の導入など。また、司法制度改革後の動きとして、被害者参加制度の導入があった)、2016年には更なる刑事訴訟法の改正が行われ、捜査や公訴の質的な大転換がもたらされようとしている(取調べの可視化、いわゆる司法取引の導入など)。他方では、冤罪事件などを通じて、わが国の刑事訴訟の伝統的な問題点が今なお明みに出て続けている。今まさに激動期を迎えている刑事訴訟法は、学習・研究の対象として、最もホットな領域と言ってよいだろう(意見には個人差があります)。</p> <p>講義科目である「刑事訴訟法I・II」では、刑事訴訟法を体系的に解説し、解釈論上の争点をほぼ網羅的に取り扱っている【体系的アプローチ】。これに対して、演習では、刑事訴訟に関する具体的な問題点に着目し、その内容を掘り下げつつ、解決のための方法を明らかにするし、それを通じて刑事訴訟全体の構造や特質の理解を獲得することを目指す【問題解決型アプローチ】。</p> <p>具体的なテーマは、教員のアドバイスを踏まえつつ、学生が自分の興味関心に従って自由に設定する。法解釈の枠にとどまらず、立法論や運用論にかかるテーマも積極的に扱う(たとえば、別件逮捕、科学的捜査、取調べ可視化、代用監獄、司法取引、被害者の権利、検察審査会、裁判員制度、証拠開示など)。また、ケース研究として、具体的な事件に注目し、掘り下げてもよい(たとえば、志布志事件、大崎事件など)。</p> <p>学期末には、各人のテーマについての研究成果を小論文にまとめて、インターネットで公開する。これを通じて他大学の刑事訴訟法ゼミとの交流を促進する。</p> <p>なお、学生の関心および研究上の必要性に応じて、裁判所、検察庁、刑務所などの参観を行う。また、実務家などをゲストに招いてお話を伺うこともある(かもしれない)。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 刑事訴訟法の基本的な概念や制度を正しく理解する。</li> <li>2) 刑事訴訟における様々な問題について、その背景と本質を正しく分析する。</li> <li>3) 刑事訴訟における判例の機能について考察を深める。</li> <li>4) 刑事訴訟の具体的な問題をどのように解決すべきか、自説を形成できるようになる。</li> <li>5) 文献調査の手法を身につける。</li> <li>6) 研究成果を文章および口頭で伝える手法を身につける。</li> </ol>			
授業計画			
Zoomミーティングによるオンライン型授業を実施する。対面型授業が可能になった場合は、その時点から対面型の演習を行う。			
第1回 今後の方針決定【オンライン型】			
第2回 研究テーマのプレゼンテーション【オンライン型】			
第3回 研究報告と討論【オンライン型】			
第4回 研究報告と討論【オンライン型】			
第5回 研究報告と討論【オンライン型】			
第6回 研究報告と討論【オンライン型】			

- 第7回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第8回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第9回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第10回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第11回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第12回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第13回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第14回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第15回 まとめ【オンライン型】

#### 授業外学習 (予習・復習)

各自の研究テーマについて授業外で調査・分析を進める。したがって、報告を担当する週だけでなく、恒常的に研究に取り組む必要がある。授業時間は、研究成果を発表するためのものであり、むしろ授業外学習こそが学習(研究)のメインであると心得てほしい(いわゆる「反転授業」の考え方)。

さらに、自分の研究報告以外についても、以下の予習・復習が必要である。まず、予習として、報告担当者による指示に従って、判決文や基本的な知識を得るための文献に目を通すことが必要である(30~60分程度)。また、復習として、報告を終えた担当者に対して感想や評価をフィードバックすることが求められる(共同研究のマナー)(15~30分程度)。

#### 教科書

刑事訴訟法の教科書を最低1冊は手元に置くこと。たとえば以下のようなものがある。

##### [入門書]

- ・大野正博ほか『刑事訴訟法教室』(法律文化社、2013年) 講義科目での指定教科書
- ・亀井源太郎ほか『プロセス講義刑事訴訟法』(信山社、2016年)
- ・三井誠・酒巻匡『刑事手続法入門 [第6版]』(有斐閣、2014年)

##### [体系書]

- ・酒巻匡『刑事訴訟法』(2016年、有斐閣)
- ・白取祐司『刑事訴訟法 [第8版]』(日本評論社、2015年)
- ・池田修・前田雅英『刑事訴訟法講義 [第5版]』(東大出版会、2015年)
- ・上口裕『刑事訴訟法 [第4版]』(成文堂、2015年)
- ・宇藤崇ほか『刑事訴訟法』(リーガルクエスト・シリーズ)(有斐閣、2013年)
- ・田口守一『刑事訴訟法 [第6版]』(弘文堂、2012年)

法令集は当然ながら必携である。ボールなしにサッカーはできないのと同じ。

#### 参考書

学生が設定する研究テーマに応じて随時案内する。

#### 成績の評価基準

研究報告の水準、発言の頻度と内容、学期末に作成する論文などを踏まえて評価する。なお、演習は共同作業をその本質とするものであり、欠席は「Give & Take」の関係からの一方的な離脱を意味する。したがって、無断欠席や理由のない欠席については、減点の対象とする。無断欠席を繰り返した学生は、その時点で直ちに参加資格を喪失することになるので注意すること。

#### オフィスアワー

追って指定する。

#### アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

#### アクティブ・ラーニング(その他の内容)

#### アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

#### 備考(受講要件)

楽しく厳しいゼミを目指したい。裁判実務に関わる仕事を目指す者はもちろんであるが、希望する将来の進路を問わず犯罪捜査や刑事裁判に関心があり、主体的に学ぶ意欲を持った学生の参加を期待する。

その他、ゼミの指導方針などは以下を参照のこと。

<http://www.ceres.dti.ne.jp/h-nakaji/news17.html#01092018>

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-BBB2301

## 科目名

演習I (民事手続法) (旧 演習)

## 英語名

Seminar I: Civil Procedure

## 開講学科

法経社会学科法学コース

## コース

法学コース

## 授業科目区分

法経社会・法学コース / 必修科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

3年

## 担当教員

齋藤 善人

## 連絡先 (TEL)

099-285-3526

## 連絡先 (MAIL)

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

この演習は、「民事手続法」と銘打った。無論、このような名称の法令は存在せず、受講生各位には初耳かもしれない。民事手続法とは、ひろく民事の権利関係の生成、実現に係る手続を対象とする法領域を指す呼称であり、民事訴訟法をはじめ、民事調停法や仲裁法など、そして、民事執行法や民事保全法、さらには、各種の倒産法（破産法や民事再生法等）を含む、包括的な概念と思ってもらえばよい。

こういって、この演習で学習の対象とするのは、極めて広範な領域であるかのように捉えられ、気後れするかもしれないが、そのような不安は当たらない。種明かしをすれば、ここでは民事訴訟法の主要な判例を素材に採った問題演習を中核とし、ケース・スタディの手法を適宜容れながら、民事訴訟法の基礎学力の整備を第一義と考えているところ、受講生各位は、前年度に開講されている民事訴訟法の授業を履修しているとはいえ、その学習時間や学習内容に鑑みれば、いまだ民事訴訟法の初学者の範疇にあらうことは想像に難くない。そこで、本格的なケース・メソッドなど民事訴訟法のコアの学習への導入の意味で、基本的な問題演習やケース・スタディの作法をトレーニングする場合、その素材を判例に採っていることから、事案によっては、民事訴訟法ばかりでなく執行法や倒産法といった他の民事手続法への言及が余儀なくされる。「民事手続法」演習とは、かような点を配慮したわけである。したがって、まずは判例を素材とした問題演習等の学習を通して、制度趣旨、基本的概念や定義をはじめ、民事訴訟法の基礎理論を正確に理解することに意を用いた質疑応答を軸にしながら、これら基礎学力を駆使して議論し、思考できることを目標としたい。

演習の場では、受講生全員が対象判例に関し、十分な予習を尽くしていることを前提に、適宜、教員の側からの質疑を交えながら双方向の遣り取りをしつつ、受講生相互間の多方向の議論まで展開することを旨とする。

## 学修目標

判例を正確に「読み解く」ことができる。

問題演習やケース・スタディを通じて、帰納的に民事訴訟法の基礎理論を学習する。

民事訴訟法の基礎学力に依拠して思考回路を設計し、それを説明することができる。

## 授業計画

基本判例をベースにした問題演習が中心となる。

日程や内容等の詳細については、受講生各位と改めて調整のうえ、連絡する予定。

因みに、現在のところ、予定する内容等は以下の通り……

第1講 / 第2講 問題解法 / 答案作成の作法【前学期試験問題（民訴?）を題材に】

第3講 / 第4講 事前提示課題の検討解題【重複訴訟の禁止（既判力の抵触 / 争点共通） / 既判力の生じる範囲】

第5講 / 第6講 事前提示課題の検討解題【処分権主義 / 一定額を超えて債務が存在しないことの確認を求める訴え / 重複訴訟の禁止（債務不存在確認請求の訴えとその給付を求める訴え）】

第7講/第8講 即日起案/検討課題【一部請求後の残部請求の可否/一部請求棄却判決後の残部請求の可否/一部請求の全部認容判決の取得と控訴の利益】

第9講/第10講 事前提示課題の検討課題【一部請求に対する一部認容判決/一部請求に対する一部認容判決後の残部請求】

第11講/第12講 即日起案/検討課題【引換給付判決と既判力の生じる範囲/基準時後の建物買取請求権の行使】

第13講/第14講 事前提示課題の検討課題【一部請求と相殺の抗弁/重複訴訟の禁止と相殺の抗弁】

第15講 学習の総括【訴訟物と既判力の生じる範囲】

なお、上記の授業計画は、当面、Zoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する形で実施される。ただし、事情の変動により、変更を生じる可能性もあり得る。

#### 授業外学習(予習・復習)

毎回、予め提示された「論点と考えるヒント」を考察・検討する作業を経由して、演習の現場に臨むこと。多様な質疑や議論の展開を把握するには、相応の事前学習、すなわち、参考となる判例の法理、その事案の概要や判旨を読んで、分からないところや不明確な部分を抽出し、それを読解するために、適宜、参考文献にあたって調べておくことが、演習参加の必要条件となる。

#### 教科書

野村秀敏=佐野裕志=伊東俊明=齋藤善人=柳沢雄二=大内義三・民事訴訟法(北樹出版・平成30年)

#### 参考書

民事訴訟法の授業で指定された教科書や参考文献など。たとえば、幾つか挙げるとすれば...

#### 【1】概説書

高橋宏志・民事訴訟法概論(有斐閣・平成28年)  
川嶋四郎・民事訴訟法概説[第2版](弘文堂・平成28年)  
山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法[第3版](有斐閣・平成30年)  
和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法(商事法務・平成24年)

#### 【2】定評のある体系書

高橋宏志・重点講義民事訴訟法(上)[第2版補訂版]、(下)[第2版補訂版](有斐閣・平成25、26年)  
伊藤眞・民事訴訟法[第6版](有斐閣・平成30年)  
川嶋四郎・民事訴訟法(日本評論社・平成25年)  
河野正憲・民事訴訟法(有斐閣・平成21年)  
小島武司・民事訴訟法(有斐閣・平成25年)  
新堂幸司・民事訴訟法[第5版](弘文堂・平成23年)  
中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義[第3版](有斐閣・平成30年)  
藤田広美・講義民事訴訟[第3版](東大出版会・平成25年)  
藤田広美・解析民事訴訟[第2版](東大出版会・平成25年)  
松本博之=上野泰男・民事訴訟法[第8版](弘文堂・平成27年)  
三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGAL QUEST民事訴訟法[第2版](有斐閣・平成27年)

#### 【3】注釈書

秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタール民事訴訟法1[第2版追補版]、2[第2版]、3、4、5、6(日本評論社・平成26、18、20、22、24、26年)  
松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法[第2版](弘文

堂・平成23年)

加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタール民事訴訟法1,2(日本評論社・平成30年)

笠井正俊=越山和広編・新コンメンタール民事訴訟法[第2版](日本評論社・平成25年)

成績の評価基準

演習の場における受講生各位のパフォーマンス(報告や質疑応答の頻度、その内容等)により評価する。その際、即日起案やレポート起案といった成果も評価の対象に含まれる。

演習に出席することは義務であり、出席したことで評価されることはない。演習に“参加”して、はじめて評価される(いわんや、欠席をや...)。すなわち、演習の現場で、自学自習した内容を積極的に検証すること、他者の考えを批判的に検討すること、議論を総括し集約する作業を試みることなど、能動的な学習姿勢を貫徹することが要求される。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

質疑応答を契機とした双方向および多方向の議論。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

授業内容の進捗に応じて、適宜臨機応変に...

備考(受講要件)

手続法は円環的構造をもつといわれる。民事訴訟法についてみれば、たとえば、訴えの提起という訴訟の最初の段階で設定される、その訴訟のテーマたる「訴訟物」の範囲で、訴訟の最後の段階である、判決の効力、すなわち、「既判力」が生ずるとされており、訴訟手続の最初の段階の概念である訴訟物が、訴訟手続の最後の段階の既判力の範囲に大きく影響する。逆にいえば、既判力の生ずる範囲を明らかにするには、訴訟物を理解しなければならない。このように、訴訟法では、ある概念が、実は別のところで重要な意義をもち、訴訟手続の局面に応じて登場してくるということが多。かような構造が、初学者にとっては学習の全体像が見えないことも相俟って、理解を難しくしている。その意味で、訴訟法の学習には、分からないことに耐えて継続する力が不可欠だろう。分からないからといって、すぐに投げ出さず、努力を続けていけば、やがて必ず視界が開けてくる。

ただし、判例の事案を把握するためには、民事実体法、とくに民法、具体的には民法総則、物権法、担保物権法、債権総論、契約法、不法行為法の基礎を理解している必要がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(国際私法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Private International Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
眞砂康司		099-285-7630	masago@leh.kagoshima-u.ac.jp 件名(題名)に、必ず学籍番号、氏名を入れてください
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>受講生は、教員の助言と指導のもとに、各自が選択したテーマで研究報告を行い、それに基づく討論を行う。かかる報告と討論を通して、国際私法の諸問題を考察する。</p> <p>「リアルタイム配信授業」(Zoom, manaba)を行う。</p> <p>授業形態について変更する場合は、その際にその対応については別途報告する。</p>			
学修目標			
国際私法的観点からなす法的思考の修得。			
授業計画			
(後期)			
<p>第1回 個別報告と討論?【リアルタイム型(Zoom, manaba)。第2回以降も同じ】</p> <p>第2回 個別報告と討論?</p> <p>第3回 個別報告と討論?</p> <p>第4回 個別報告と討論?</p> <p>第5回 個別報告と討論?</p> <p>第6回 個別報告と討論?</p> <p>第7回 個別報告と討論?</p> <p>第8回 個別報告と討論?</p> <p>第9回 個別報告と討論?</p> <p>第10回 個別報告と討論?</p> <p>第11回 個別報告と討論?</p> <p>第12回 個別報告と討論?</p> <p>第13回 個別報告と討論?</p> <p>第14回 個別報告と討論?</p> <p>第15回 個別報告と討論?</p>			
授業外学習(予習・復習)			
あらかじめ理解している報告者のタイトルについて予習することが望ましい。授業後は、報告者でなくとも、質問することが望ましい。			
教科書			
適宜、指示する。			
参考書			
適宜、指示する。			
成績の評価基準			
<p>個別報告の評価。</p> <p>「リアルタイム配信授業」(Zoom, manaba)における授業への取り組み態度</p>			

成績評価基準について変更する場合は、その際にその内容については別途報告する。

オフィスアワ -

木曜日・3時限・研究室

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

ほぼ毎回

備考 (受講要件)

国際私法に関する議論可能な一定の知識を有し、かつ「リアルタイム配信授業」(Zoom, manaba)の実施に対応する努力ができる者。

授業形態について変更する場合は、その際にその内容については別途報告する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(租税法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Tax Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
鳥飼貴司		099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
全授業回遠隔形式で行う予定である。 後期は、2020年度は消費税法の条文と裁判例研究及び鹿児島税務署の「租税教室」への参加。			
学修目標			
1. 主要な租税法規・租税裁判例を知ること。 2. 「租税教室」でプレゼンができること。			
授業計画			
全授業回「リアルタイム配信授業」の予定である。例外的な状況になった際には、予めmanabaのコースニュースで告知する。 (後期) 第1回～第14回 発表と討論 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】 報告担当者以外の受講生も、テーマに関する意見や質問を事前に考え、調べておくこと			
【復習】 提示されたレジュメ、意見や質問を踏まえて、もう一度テーマ全体について考えること			
教科書			
中里実・増井良啓編『租税判例六法』有斐閣			
参考書			
『租税判例百選』有斐閣 『憲法判例百選』有斐閣 金子宏『租税法』弘文堂 三木義一『よくわかる税法入門』有斐閣			
成績の評価基準			
3分の2以上の出席			
オフィスアワー			
講義後に話かけるのは自由。 その他の場合、事前にメールで面会交渉をすること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-BBB2301

## 科目名

演習I(財産法)(旧 演習)

## 英語名

Seminar I:Property and Contract

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/必修科目

演習

2単位

3年

## 担当教員

## 連絡先(TEL)

## 連絡先(MAIL)

植本幸子

下記の後に@leh.kagoshima-u.ac.jp

uemt05

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

財産法に関する設例につき論点を整理し、自ら調べ議論する。

## 学修目標

- ・法解釈に関する記述を正確に読みとり説明する能力を身につける。
- ・事実関係の記述から、当事者の対立する利益を的確に理解して、関係する法的な論点を見つけ出し説明することが出来る。
- ・主要な判例を調べ事実と判旨を説明することが出来る。
- ・論点に関連する主要な学説を調べ説明することが出来る。
- ・民法上の問題に関して私見を説明し報告することが出来る。
- ・関連する法的資料を収集して参照し、適切に引用して説明することができる。

## 授業計画

2020年度はアバウトに百選(民法百選?、?)やっています。前期ゼロ名なので参加の場合には演習?の時間割時間帯も空けといて下さい。Zoom双方向のカメラ無しです。環境の無い人は必ずメールで相談してください。

- 第1回 演習における学び方、研究倫理(引用)、教材についての研究打ち合わせ
- 第2回 報告と討論(債権総論に関する主要論点1)
- 第3回 報告と討論(債権総論に関する主要論点2)
- 第4回 報告と討論(債権総論に関する主要論点3)
- 第5回 報告と討論(債権総論に関する主要論点4)
- 第6回 報告と討論(債権総論に関する主要論点5)
- 第7回 報告と討論(債権総論に関する主要論点6)
- 第8回 報告と討論(債権総論に関する主要論点7)
- 第9回 報告と討論(債権各論に関する主要論点1)
- 第10回 報告と討論(債権各論に関する主要論点2)
- 第11回 報告と討論(債権各論に関する主要論点3)
- 第12回 報告と討論(債権各論に関する主要論点4)
- 第13回 報告と討論(債権各論に関する主要論点5)
- 第14回 報告と討論(債権各論に関する主要論点6)
- 第15回 報告と討論(債権各論に関する主要論点7)、主要論点の確認と復習

上記テーマは一例であり、参加者の履修範囲や理解に応じて変更可能性がある。また、参加者希望のテーマがあればそれを優先する。

2019年度は百選の2版から一人一題ずつ内容の確認を行っているが、テーマや教材を指定した希望には随時応じる。

見学期間にかかわらずいつでも見学には応じるので、低学年生や別のゼミ所属の場合、いつでもメールで相談されたい。

(通常スタイル)

・百選、プリントの設問、『事例で学ぶ民法演習』のいずれかより、特定の問題について自ら判例と学説を調べ、報告し、判例・学説のスタンスについて議論する。

(上記が困難な場合)

・民法判例百選より、任意の裁判について、審級状況を含む事実関係、判旨、結論を説明できるようにする。報告時、教科書の該当ページの確認、事実関係等の把握の真偽については参加者皆で考察し議論する。

#### 授業外学習(予習・復習)

(予習)

報告者以外は事前に問題と教科書を勉強し、質問票(数行でも良いが通常はA4で1~2枚程度の場合が多い)を作成する。

報告者は問題と上記事前質問に照らし、教科書、判例、評釈等を収集しレジメを作成する。

(復習)

報告者以外はレジメと議論、自己の事前質問を検討する。

報告者は、授業中の議論を踏まえ、不足の資料は収集調査の上定められた期限までに事後レポートを提出する。

#### 教科書

手持ちの教科書を必ず持参すること。

#### 参考書

松久三四彦他『事例で学ぶ民法演習』(成文堂2014年)等

六法を必ず携行すること。

#### 成績の評価基準

・授業への取り組み態度(報告回数、報告以外の回における発言、質問票提出、報告部分の事後レポートによる。)

・演習なのですべての回に出席することが原則となる。事情のある場合も無い場合にも、必ず連絡相談すること。

#### オフィスアワー

追って指示する。

#### アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

#### アクティブ・ラーニング(その他の内容)

#### アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

#### 備考(受講要件)

・民法を通じて基本的な解釈学、裁判例の読み方、文献収集スキル等の基礎を身につけることになる。例年の受講生もLSなど大学院進学者もいれば、司法書士を中心に様々な資格取得する者、各種公務員、民間就職者等様々、進路や理解度も様々である。年度によって雰囲気や全く違うがいかなる状況にも流されることなく、批判を前提に自らの能力を伸ばすよう努力する態度が望まれる。

・高校卒業程度の国語力は当然の前提である。苦手な者は授業に関連した予習等で多くの努力が必要となろう。科目として無関係であると思いき、スタートラインが違うのに努力無しに履修可能と思わないこと。例えば、大審院の判例に当たる場合には当然に旧字体の漢字を調べ、古語に近い言い回しについて辞書等を使って理解することが必要となる。逆に今までの差は少しの差に過ぎない。今後の努力や勉強が、年を経るごとに実力の蓄積となることを意識してあらゆる勉強に励んでもらいたい。

・本学在学生の見学、参加を歓迎する。低学年生の下見や参考の場合には早めの連絡と参観が推奨される(ゼミの抽選関係で掲示される参観期間等には拘束されない)。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(憲法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Constitutional Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
大野友也		099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
演習形式で、憲法判例や学説についての整理・検討を行う。取り上げる判例・学説については、学生と相談して決める			
2020年度は新型コロナの影響で全ての講義を遠隔で行う予定です。			
学修目標			
(1) 憲法についての基本的な概念・判例・学説を理解する。			
(2) 現代の憲法問題について知り、解決策を考える。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション、自己紹介【遠隔】			
第2回 プレゼン(1)【遠隔】			
第3回 プレゼン(2)【遠隔】			
第4回 報告(1)【遠隔】			
第5回 報告(2)【遠隔】			
第6回 報告(3)【遠隔】			
第7回 報告(4)【遠隔】			
第8回 プレゼン(3)【遠隔】			
第9回 報告(5)【遠隔】			
第10回 報告(6)【遠隔】			
第11回 報告(7)【遠隔】			
第12回 報告(8)【遠隔】			
第13回 報告(9)【遠隔】			
第14回 プレゼン(4)			
15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおくこと(30分程度)。			
【復習】配布したレジュメを再読し、論点を再考すること(60分程度)。			
【課外活動】学外研修として、裁判所・刑務所等の見学を予定しています(詳細は講義の際に指示します)。また合宿も予定しています。2020年度は実施しません。			
保険に入る際に必要なので、大学生協に加入しておいてください。			
教科書			
各自の所有する『憲法』のテキスト(たとえば、芦部信喜『憲法』(岩波書店)、辻村みよ子『憲法』(日本評論社)、佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂)、長谷部恭男『憲法』(新世社)、浦部法穂『憲法学教室』(日本評論社)、高橋和之『立憲主義と日本国憲法』(有斐閣)、渋谷秀樹『憲法』(有斐閣)、野中俊彦ほか『憲法I、II』(有斐閣)など)			

## 参考書

適宜指示する

## 成績の評価基準

授業への取り組みの姿勢で評価する。

## オフィスアワ -

火曜5限(研究室)

## アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

## アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

## 備考(受講要件)

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習I (政治学)			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
平井一臣		8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
政治学の基本的な考え方、社会事象を政治学的な観点から捉え、客観的なデータに基づいて分析する方法を学ぶ。オンラインによるリアルタイム型で行う。			
学修目標			
政治学の基礎知識とその応用を修得する。			
授業計画			
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
第1回 ガイダンス			
第2回 文献講読			
第3回 文献講読			
第4回 文献講読			
第5回 文献講読			
第6回 文献講読			
第7回 文献講読			
第8回 文献講読			
第9回 文献講読			
第10回 文献講読			
第11回 文献講読			
第12回 文献講読			
第13回 文献講読			
第14回 総括			
授業外学習 (予習・復習)			
事前にテキストの予定の箇所を熟読し、疑問点を整理したうえで授業に臨むこと。 毎回の授業で討論した内容の要旨を整理すること。			
教科書			
将棋面貴巳『日本国民のための愛国の教科書』百万年書房、2019年。 リン・ハント『なぜ歴史を学ぶのか』岩波書店、2019年。			
参考書			
授業中適宜紹介する。			
成績の評価基準			
出席及び平常点による。			
オフィスアワー			
火曜2限			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

14回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-BBB2301

## 科目名

演習I (法政策論・行政法務論) (旧 演習)

## 英語名

Seminar I: Public Policy and Administrative Practice

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース / 必修科目

演習

2単位

3年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

宇那木正寛

285-7628

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp  
メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておいて下さい。

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

演習参加者は、各自が関心を持つ安全・安心、環境、まちづくりなどの行政法領域のテーマを定め、当該政策の現状と課題（関連裁判例を含む）について報告を行います。この報告を受けて参加者全員で討論を行います。この演習では、法令、条例の構造・仕組みを丹念に分析することも重視します。

## 学修目標

## (基本的学修目標)

1. プレゼンテーション能力の基礎を養う。
2. リーガル・コミュニケーション能力の基礎を養う。
3. 思考言語化能力の基礎を養う。

## (専門的学修目標)

1. 現実の社会に惹起する様々な問題を行政法学的視点で議論できる能力を養う。
2. 公共政策立案に必要な法的基礎を構築する。

## 授業計画

全てオンライン型（リアルタイム型）による遠隔形式で行う予定ですが、状況によっては対面形式に変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

第1回から15回まで報告及び討論を行う予定です。

## 授業外学習（予習・復習）

## 【予習】

本ゼミでは、報告者以外の参加者についても、能動的かつ積極的に討論に参加することを求めます。したがって、参加者全員が報告テーマについて十分な予習をすることが必要です。なお、報告者が、他の参加者からの質問等に答えられなかった場合には、次回に当該質問事項等について再度報告する必要があります。

## 【復習】

報告テーマに関連して、確認すべき事項がある場合、これを指示します。必ず確認して下さい。

## 教科書

巨理格 = 北村喜宣編著『重要判例とともに読み解く個別行政法』（有斐閣、2013年）

宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選1〔第7版〕』（有斐閣、2017年）

宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選2〔第7版〕』（有斐閣、2017年）

## 参考書

宇賀克也『行政法概説1〔第7版〕』（有斐閣、2020年）

宇賀克也『行政法概説2〔第6版〕』（有斐閣、2018年）

宇賀克也『行政法概説3〔第5版〕』（有斐閣、2019年）

櫻井敬子・橋本博之『行政法〔第6版〕』（弘文堂、2019年）

宇那木正寛『自治体政策立案入門』（ぎょうせい、2015年）

## 成績の評価基準

演習における(1)出席状況、(2)報告内容、(3)討論への参加の積極性を中心に、ゼミ運営についての関与度なども含めて総合的に評価します。

なお、欠席が多い場合、事前の連絡なく3回以上欠席した場合、単位を与えないことがあるので注意して下さい。

## オフィスアワ -

メールであらかじめ面談の内容と希望日時(3つ以上)を連絡してください。ただし、新型コロナウイルス対策のため、対面ではなくWEBを使った会議システム(ZOOM)により対応いたします。

## アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

## 備考(受講要件)

本演習により、公共における課題解決において行政法がいかなる役割を果たしているかについて真剣に学びたいという意欲のある学生の参加を歓迎します。

ゼミ参加者は、報告・討論については、もちろん、ゼミの運営についても主体的かつ能動的な役割を果たすことを求めます。

ゼミが共に学ぶ者の組織である以上、ゼミ参加者は、ゼミ運営における約束を守り、挨拶や連絡をとるといった最低限のマナーを守ることはもちろん、自己の行動や発言に責任を持たなければなりません。

ゼミの主役は参加者ひとりひとりです。共に学び、共に悩み、共に成長しましょう。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習I (法社会学) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: Socio-Legal Studies			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
米田憲市			kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp (subject欄に、科目名と用件を記載し、本文には氏名と学籍番号を、必ず記載すること)
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>小難しい言い方をすれば、法社会学は、法やルールの社会的性質をその状況的事実とともに明らかにすることを志向し、理解を深めようとする研究実践とその成果の総体の呼称である。</p> <p>この研究領域では、多様な研究主題に多様な研究手法がとられることに鑑み、まず、これまでどのような主題がどのような手法で研究されているのかを明らかにしながら、これとほぼ並行して行う共通主題の調査研究と合わせて、この分野が法に関する研究分野の中で最も自由な性質を持つ分野であることを実感してもらい、「法についての知的で体験的で実践的な冒険」を授業の概要にしたい。</p>			
学修目標			
<p>再び小難しい言い方をすると、事実に対する冷静な分析力に基づいて、社会現象に対する共感的理解を伴った積極的かつ建設的提案ができ、組織をリードする意欲と協調性を習得して、国内外を問わず「ひとつぶ」意欲を持つことを、学修目標とする。</p>			
授業計画			
<p>おおむね、次の5つのテーマに取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. いわゆる"法社会学"にはどのような研究があるかリサーチする。</li> <li>2. いわゆる"法社会学"の研究に、どのような研究手法がとられているかをリサーチする。</li> <li>3. 法に関する諸場面や諸活動の位置づけや構造を説明する。</li> <li>4. 新聞やニュースなどで法社会的な現象を取り上げ、それがいかに法社会的かを説明する。</li> <li>5. 日常生活の中の場面にルールを発見し、そのルールを説明する。</li> </ol> <p>課題提出型、オンデマンド型、リアルタイム型を併用します。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>ゼミでの発表・報告に向けた準備のため、時間外の共同作業が必須である。</p> <p>また、より充実した成果を上げるために、地域の法律系イベントに参加することや裁判傍聴に行くこと、法律系の検定試験を受験することが強く推奨される。</p>			
教科書			
指定しない。			
参考書			
随時紹介する。			
成績の評価基準			
上記、学修目標などに対して、積極的かつ意欲的に取り組んでいるかを基準とする。			
オフィスアワー			
水曜5限 (その他、随時対応する。)			
アクティブ・ラーニング			

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

- ・「法社会学」「法情報論」の在学中の履修(履修前でなくてよい)が必須である。
- ・学生の研究活動の進捗や課題に合わせて、開講時間を変更することがある。
- ・法情報論ほか法政策学科で開講される、法に関する実践的な科目の受講を推奨する。
- ・法社会学の学会、研究発表会などに遠征する学修が含まれることがある。
- ・繰り返しだが、課外の時間に開催される地域の法律系イベントに参加することや裁判傍聴に行くこと、法律系の検定試験を受験することが強く推奨される。
- ・これまた、繰り返しになるが、事実に対する冷静な分析力に基づいて、社会現象に対する共感的理解を伴った積極的かつ建設的提案ができ、組織をリードする意欲と協調性を習得して、国内外を問わず「ひつとぶ」意欲を持つ者を歓迎する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習I (行政法・地方自治法) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Administrative and Local Government Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
森尾成之			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
行政法・地方自治法 (含、環境法) に関する解釈論、政策法学的検討を行う。			
(1) 受講者が、現在、国や地方公共団体が抱えている行政法上の問題の中から関心のあるテーマを選んで報告を行う。具体的には、住民参画と法、まちづくりや災害と法、行政訴訟改革、情報公開と個人情報保護、ゴミ問題、放置自転車対策、体罰やいじめの問題、議会と長の関係、食品の安全性、耐震偽装の問題、災害さらには危機管理と法の問題、等々。こうしたテーマの中から、現行法制の仕組み、判例や学説の立場と解釈上の限界を踏まえて、さらによりよい仕組みはないかを皆で検討する。必要に応じて、役所や問題となっている現場に赴き実態調査やインタビューを行うことも求められる。			
(2) 近時の行政に関する時事的なテーマにつきディベートを行う。			
(3) 条例や政策立案の基礎を学ぶ。			
以上のような中から、受講学生の興味・関心も参考としながら、適宜選択、組み合わせを進めていく。			
国、地方公共団体の公務員志望者、マスコミ関係志望者などを主たる対象としつつ、報告のテーマ選びと基礎学力固め、プレゼンテーション、ファシリテーション能力の養成を目指す。			
学修目標			
講義で学んだ理論、判例、学説の理解と演繹。			
講義で学んだことを踏まえつつ、自分自身の考えを聞き手に分かるように論理的に表現できるようになること。			
他者の意見を聞きつつ、より妥当な解決方法はないかを考える眼を養う。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	報告と討論 (1)		
第3回	報告と討論 (2)		
第4回	報告と討論 (3)		
第5回	報告と討論 (4)		
第6回	報告と討論 (5)		
第7回	報告と討論 (6)		
第8回	報告と討論 (7)		
第9回	報告と討論 (8)		
第10回	報告と討論 (9)		
第11回	報告と討論 (10)		
第12回	報告と討論 (11)		
第13回	報告と討論 (12)		
第14回	報告と討論 (13)		
第15回	報告と討論 (14)		
授業外学習 (予習・復習)			
ゼミ合宿なり社会見学、出前授業などを実施することがある。			
教科書			
授業中に適宜指示する。			

参考書

授業中に適宜指示する。

成績の評価基準

ゼミでの参加状況(報告、発言など)で評価する。  
事前の連絡なく欠席する者には単位を与えないことがある。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

六法必携, シラバスの内容は若干変更することもある。  
オンラインで授業を行う。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習I (行政法・地方自治法) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Administrative and Local Government Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
森尾成之			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>行政法・地方自治法 (含、環境法) に関する解釈論、政策法学的検討を行う。</p> <p>(1) 受講者が、現在、国や地方公共団体が抱えている行政法上の問題の中から関心のあるテーマを選んで報告を行う。具体的には、住民参画と法、まちづくりや災害と法、行政訴訟改革、情報公開と個人情報保護、ゴミ問題、放置自転車対策、体罰やいじめの問題、議会と長の関係、食品の安全性、耐震偽装の問題、災害さらには危機管理と法の問題、等々。こうしたテーマの中から、現行法制の仕組み、判例や学説の立場と解釈上の限界を踏まえて、さらによりよい仕組みはないかを皆で検討する。必要に応じて、役所や問題となっている現場に赴き実態調査やインタビューを行うことも求められる。</p> <p>(2) 近時の行政に関する時事的なテーマにつきディベートを行う。</p> <p>(3) 条例や政策立案の基礎を学ぶ。</p> <p>以上のような中から、受講学生の興味・関心も参考としながら、適宜選択、組み合わせを進めていく。</p> <p>国、地方公共団体の公務員志望者、マスコミ関係志望者などを主たる対象としつつ、報告のテーマ選びと基礎学力固め、プレゼンテーション、ファシリテーション能力の養成を目指す。</p>			
学修目標			
<p>講義で学んだ理論、判例、学説の理解と演繹。</p> <p>講義で学んだことを踏まえつつ、自分自身の考えを聞き手に分かるように論理的に表現できるようになること。</p> <p>他者の意見を聞きつつ、より妥当な解決方法はないかを考える眼を養う。</p>			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 報告と討論 (1)			
第3回 報告と討論 (2)			
第4回 報告と討論 (3)			
第5回 報告と討論 (4)			
第6回 報告と討論 (5)			
第7回 報告と討論 (6)			
第8回 報告と討論 (7)			
第9回 報告と討論 (8)			
第10回 報告と討論 (9)			
第11回 報告と討論 (10)			
第12回 報告と討論 (11)			
第13回 報告と討論 (12)			
第14回 報告と討論 (13)			
第15回 報告と討論 (14)			
期末試験			
授業外学習 (予習・復習)			
ゼミ合宿なり社会見学、出前授業などを実施することがある。			

教科書

授業中に適宜指示する。

参考書

授業中に適宜指示する。

成績の評価基準

ゼミでの参加状況(報告、発言など)で評価する。  
事前の連絡なく欠席する者には単位を与えないことがある。

オフィスアワ -

授業終了後に受け付け、適宜対応する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

シラバスの内容は若干変更することがある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習I (ジェンダーと法) (旧 演習)			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
原田いづみ		099-285-7651	haradai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
意思決定機関での女性の比率、性被害における被害者の救済、LGBTQの人たちの人権問題といった現代社会における問題の背景には、ジェンダーバイアス、ジェンダーへの無配慮が存在している。これらの問題を解決するためには、ジェンダーの視点からのアプローチが必要である。本演習では、このようなジェンダーの視点を持った法的な問題解決のアプローチの手法を学んでいく。前期は教員からの問題提起と演習形式を組み合わせることで進めていく。			
学修目標			
ジェンダーの視点をもった法的な問題解決のアプローチを身につける。			
授業計画			
第1回	ガイダンス、演習の狙い(リアルタイム型ないしは課題提出型)		
第2回	ジェンダー、ジェンダーバイアス(リアルタイム型ないしは課題提出型)		
第3回	LGBTQ(リアルタイム型ないしは課題提出型)		
第4回	婚姻制度(リアルタイム型ないしは課題提出型)		
第5回	同性婚訴訟について外部講師による話(リアルタイム型ないしは課題提出型)		
第6回	性暴力、性被害、セクシャルメント(リアルタイム型ないしは課題提出型)		
第7回	学生によるテーマ抽出(リアルタイム型ないしは課題提出型)		
第8回	意思決定機関における女性比率(リアルタイム型ないしは課題提出型)		
第9回	ポジティブ・アクション(リアルタイム型ないしは課題提出型)		
第10回	選挙制度(リアルタイム型ないしは課題提出型)		
第11回	韓国の選挙制度(リアルタイム型ないしは課題提出型)		
第12回	学術機関における多様性(リアルタイム型ないしは課題提出型)		
第14回	学生によるテーマ抽出(リアルタイム型ないしは課題提出型)		
第15回	まとめ		
授業外学習(予習・復習)			
予習	講義1週間前に課題を提示するので、検討してくる。		
教科書			
辻村みよ子「ポジティブ・アクション 法による平等の技法」(岩波新書)			
角田由紀子「性と法律 変わったこと、変えたいこと」(岩波新書)			
参考書			
適宜提示			
成績の評価基準			
出席及び発言、課題に対する回答、分担テーマの発表			
オフィスアワ -			
木曜5限			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

実際に訴訟や活動をしている弁護士等の法律実務家を呼んで、法的問題への解決の取組みを肌で知ってもらおう。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

教員は弁護士 (法曹資格者)、元家事調停官 (非常勤裁判官)、元新聞記者、元行政官 (国税審判官、自治体弁護士等) であり、これらの経験を基に、ジェンダーに起因した社会問題を取り上げ、これらに対する多角的な問題解決アプローチを提示する。

ナンバリングコード			
科目名			
演習I (ジェンダーと法)			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
原田いづみ	099-285-7651	haradai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
意思決定機関での女性の比率、性被害における被害者の救済、LGBTQの人たちの人権問題といった現代社会における問題の背景には、ジェンダーバイアス、ジェンダーへの無配慮が存在している。これらの問題を解決するためには、ジェンダーの視点からのアプローチが必要である。本演習では、前期の演習を基に、国際的な動向も取り入れ、このようなジェンダーの視点を持った法的な問題解決のアプローチの手法を学んでいく。題材は学生それぞれが疑問に思うテーマを取り上げる。			
学修目標			
ジェンダーの視点をもった法的な問題解決のアプローチを身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス、演習の狙い 第2回～第14回 発表、ディスカッション 第15回 まとめ 課題提出型、オンデマンド型、リアルタイム型を併用する。			
授業外学習 (予習・復習)			
予習 発表担当者はテーマを決め、発表に備える。 それ以外の者はディスカッションに備える。			
教科書			
レジュメ配布			
参考書			
適宜提示			
成績の評価基準			
講義への参加、発言、課題回答			
オフィスアワー			
木曜5限			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); その他; アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
実際に訴訟や人権救済活動をしている弁護士等の法律実務家を呼んで、法的問題への解決の取組みを肌で知ってもらう。			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			
教員は弁護士 (法曹資格者) でもある。ジェンダーに起因した社会問題を取り上げ、これらに対する多角的な問題解決アプローチを提示する。			

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(法社会学)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Socio-Legal Studies			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
米田憲市			kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp(subject欄に[演習:法社会学]と用件を記載し、本文には氏名と学籍番号を、必ず記載すること)
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>小難しい言い方をすれば、法社会学は、法やルールの社会的性質をその状況的事実とともに明らかにすることを志向し、理解を深めようとする研究実践とその成果の総体の呼称である。</p> <p>この研究領域では、多様な研究主題に多様な研究手法がとられることに鑑み、まず、これまでどのような主題がどのような手法で研究されているのかを明らかにしながら、これとほぼ並行して行う共通主題の調査研究と合わせて、この分野が法に関する研究分野の中で最も自由な性質を持つ分野であることを実感してもらい、「法についての知的で体験的で実践的な冒険」を授業の概要にしたい。</p>			
学修目標			
<p>再び小難しい言い方をすると、事実に対する冷静な分析力に基づいて、社会現象に対する共感的理解を伴った積極的かつ建設的提案ができ、組織をリードする意欲と協調性を習得して、国内外を問わず「ひとつぶ」意欲を持つことを、学修目標とする。</p>			
授業計画			
<p>おおむね、次の5つのテーマに取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. いわゆる"法社会学"にはどのような研究があるかリサーチする。</li> <li>2. いわゆる"法社会学"の研究に、どのような研究手法がとられているかをリサーチする。</li> <li>3. 法に関する諸場面や諸活動の位置づけや構造を説明する。</li> <li>4. 新聞やニュースなどで法社会的な現象を取り上げ、それがいかに法社会的かを説明する。</li> <li>5. 日常生活の中の場面にルールを発見し、そのルールを説明する。</li> </ol>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>ゼミでの発表・報告に向けた準備のため、時間外の共同作業が必須である。</p> <p>また、より充実した成果を上げるために、地域の法律系イベントに参加することや裁判傍聴に行くこと、法律系の検定試験を受験することが強く推奨される。</p>			
教科書			
指定しない			
参考書			
随時、紹介するとともに、みんなで探す。			
成績の評価基準			
上記、学修目標などに対して、積極的かつ意欲的に取り組んでいるかを基準とする。			
オフィスアワ -			
月曜5限(その他、随時対応する。)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー			

等);

## アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

## 備考(受講要件)

- ・「法社会学」「法情報論」の在学中の履修(履修後でなくてよい)が必須である。
- ・学生の研究活動の進捗や課題に合わせて、開講時間を変更することがある。
- ・法情報論ほか法政策学科で開講される、法に関する実践的な科目の受講を推奨する。
- ・法社会学の学会、研究発表会に遠征して学修してもらうことがある。
- ・繰り返しだが、課外の時間に開催される地域の法律系イベントに参加することや裁判傍聴に行くこと、法律系の検定試験を受験することが強く推奨される。
- ・これまた、繰り返しになるが、事実に対する冷静な分析力に基づいて、社会現象に対する共感的理解を伴った積極的かつ建設的提案ができ、組織をリードする意欲と協調性を習得して、国内外を問わず「ひつとぶ」意欲を持つ者を歓迎する。

## 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-BBB4301

## 科目名

演習II (法政策論・行政法務論) (旧 課題研究)

## 英語名

Seminar II:Public Policy and Administrative Practice

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

演習

2単位

4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

宇那木正寛

285-7628

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp  
メールには、必ず学籍番号と氏名  
を明記し、パソコンからのメール拒  
否設定を解除しておいて下さい。

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

研究論文作成のための指導を行います。

## 学修目標

- (1) 行政法における基本的な原理、原則について理解を深める。
- (2) 研究論文を作成する。

## 授業計画

全てオンライン型(リアルタイム型)による遠隔形式で行う予定ですが、状況によっては対面形式に変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

第1回~15回 研究プロセスの報告及びこれに対する討論を行います。

## 授業外学習(予習・復習)

## 【予習】

事前に指示した文献等の検討と報告資料の作成

## 【復習】

演習中に指示した事項についての検討

## 教科書

適宜指示します。

## 参考書

適宜指示します。

## 成績の評価基準

演習への取組内容(報告、討論中の発言、出席等)により評価します。

## オフィスアワ -

メールであらかじめ面談の内容と希望日時(3つ以上)を連絡してください。ただし、新型コロナウイルス対策のため、対面ではなくWEBを使った会議システム(ZOOM)により対応いたします。

## アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

## 備考(受講要件)

演習1を受講していることが必要です。



ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II(租税法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Tax Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
烏飼貴司		099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
課題研究作成のための指導を行う。			
学修目標			
1. 租税の法的問題点についての基本的理解を深める。			
2. 論文作成能力を身につける。			
授業計画			
(前期)			
第1回	ガイダンス(課題提出型)		
第2回~第14回	課題研究報告と討論(課題提出型)		
第15回	まとめ(課題提出型)		
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
授業外学習(予習・復習)			
教科書			
金子宏『租税法』(弘文堂)			
毎年改訂されているので、最新版を購入すること。			
参考書			
適宜指示する。			
成績の評価基準			
課題研究報告			
オフィスアワー			
講義後に話かけるのは自由。			
その他の場合、事前にメールで面会交渉をすること。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			
特になし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II(憲法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Constitutional Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
大野友也		099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
課題研究作成のための指導を行う。 新型コロナウイルスの影響で2020年度は全ての講義を遠隔で行う予定である。			
学修目標			
(1) 憲法についての基本的理解を深める (2) 論文作成能力を身につける			
授業計画			
第1回 オリエンテーション、自己紹介【遠隔】 第2回 プレゼン(1)【遠隔】 第3回 プレゼン(2)【遠隔】 第4回 報告(1)【遠隔】 第5回 報告(2)【遠隔】 第6回 報告(3)【遠隔】 第7回 報告(4)【遠隔】 第8回 プレゼン(3)【遠隔】 第9回 報告(5)【遠隔】 第10回 報告(6)【遠隔】 第11回 報告(7)【遠隔】 第12回 報告(8)【遠隔】 第13回 報告(9)【遠隔】 第14回 プレゼン(4) 15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおくこと(30分程度)。 【復習】配布したレジュメを再読し、論点を再考すること(60分程度)。  【課外活動】合宿、社会科見学など、学外での研修等を予定しています。 2020年度は実施しません。			
教科書			
各自の所有する『憲法』のテキスト(たとえば、芦部信喜『憲法』(岩波書店)、辻村みよ子『憲法』(日本評論社)、佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂)、長谷部恭男『憲法』(新世社)、浦部法穂『憲法学教室』(日本評論社)、高橋和之『立憲主義と日本国憲法』(有斐閣)、渋谷秀樹『憲法』(有斐閣)、野中俊彦ほか『憲法I、II』(有斐閣)など)			
参考書			
なし。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度で評価する。			
オフィスアワー			
火曜5限目(研究室)			

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (国際私法) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II: Private International Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
眞砂康司		285-7630 (国際私法研究室)	masago@leh.kagoshima-u.ac.jp 件名(題名)に、必ず学籍番号、氏名を入れてください。
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
各受講生が、教員の助言と指導のもと、それぞれのテーマで研究報告を行い、それに基づく討論を行う。最終的には、課題研究報告書の作成を行う。			
学修目標			
ゼミ最終学年としての国際私法の詳細的知識の習得。			
授業計画			
遠隔授業をします。MANABA(manabaマナバ)や大学に登録の諸君のメールアドレスについて受信拒否の設定をしないでください。			
(前期)			
第1回 ガイダンス			
第2回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第3回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第4回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第5回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第6回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第7回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第8回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第9回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第10回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第11回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第12回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第13回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第14回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第15回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
授業外学習 (予習・復習)			
あらかじめ伝えられている報告者のタイトルについては予習することが望ましい。授業後は、報告者でなくとも、質問することが望ましい。			
教科書			
適宜、指示する。			
参考書			
適宜、指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度			
オフィスアワ -			



ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II（海商法）（旧 課題研究）			
英語名			
Seminar II:Maritime Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先（TEL）	
松田忠大		099-285-7653	
共同担当教員		連絡先（MAIL）	
		tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
これまで講義および演習で学習してきたことを踏まえて、各自が選んだ海商法に関するテーマについて報告し、それを論説文としてまとめます。			
学修目標			
(1) 講義および演習で学習してきた海商法に関する知識および理論を定着させる。			
(2) 法学に関する論説文を書くための知識、技術および能力を身につける。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（オンライン・オンデマンド型）			
第2～15回：報告および討論（オンライン・オンデマンド型）			
授業外学習（予習・復習）			
この授業では、国内または国外における学外研修を行うことを予定しています。また、他大学のゼミとの合同研究会の開催も計画しています。			
教科書			
授業中に適宜指示する。			
参考書			
授業中に適宜指示する。			
成績の評価基準			
授業への出席状況、報告の内容、討論への参加状況を総合的に判定して評価する。			
オフィスアワー			
月曜4限（研究室）			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II（海商法）（旧 課題研究）			
英語名			
Research Seminar II			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
松田忠大		099-285-7653	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
これまで講義および演習で学習してきたことを踏まえて、各自が選んだ海商法に関するテーマについて報告し、それを論説文としてまとめる。			
学修目標			
(1) 講義および演習で学習してきた海商法に関する知識および理論を定着させる。			
(2) 法学に関する論説文を書くための知識、技術および能力を身につける。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2～15回 報告と討論			
授業外学習（予習・復習）			
課題研究の執筆に向け、自らの選択したテーマについて、資料収集およびその検討をすること。			
教科書			
授業中に適宜指示する。			
参考書			
授業中に適宜指示する。			
成績の評価基準			
授業への出席状況、報告の内容、討論への参加状況および執筆した論説文の内容を総合的に判定して評価します。			
オフィスアワー			
火曜3限（研究室）			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

## ナンバリングコード

## 科目名

演習II ( 刑事訴訟法 ) ( 旧 課題研究 )

## 英語名

Seminar II:Criminal Procedure

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース / 選択科目

演習

2単位

4年

## 担当教員

## 連絡先 ( TEL )

## 連絡先 ( MAIL )

中島宏

099-285-7633

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

この演習では、刑事訴訟（捜査・公訴・公判・証拠・裁判・上訴・非常救済）の諸問題について、3年次の演習で行ってきた共同研究をさらに進めるとともに、各自のテーマについて研究論文をまとめる。学生の研究報告と討論を中心に進行し、随時、論文の完成に向けた個別指導を行う。また、2年生の演習と合同での討論を行う。

## 学修目標

- 1) 刑事訴訟法の基本的な概念や制度を正しく理解する。
- 2) 刑事訴訟における様々な問題について、その背景と本質を正しく分析する。
- 3) 刑事訴訟における判例の機能について考察を深める。
- 4) 刑事訴訟の具体的な問題をどのように解決すべきか、自説を形成できるようになる。
- 5) 文献調査の手法を身につける。
- 6) 研究成果を文章および口頭で伝える手法を身につける。
- 7) 研究成果を論文にまとめて公開する。

## 授業計画

基本的には遠隔形式（すべてリアルタイム方式）でおこなう予定であるが、学期中に3回程度、対面式での実施を検討する。また、感染症の拡大の状況が劇的に好転した場合には、全体を対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースやメールリストで通知する。

- 第1回 今後の方針決定【リアルタイム方式】
- 第2回 研究報告と討論【リアルタイム方式】
- 第3回 研究報告と討論【リアルタイム方式】
- 第4回 研究報告と討論【リアルタイム方式】
- 第5回 研究報告と討論【リアルタイム方式】もしくは【対面式】
- 第6回 研究報告と討論【リアルタイム方式】
- 第7回 研究報告と討論【リアルタイム方式】
- 第8回 研究報告と討論【リアルタイム方式】
- 第9回 研究報告と討論【リアルタイム方式】もしくは【対面式】
- 第10回 研究報告と討論【リアルタイム方式】
- 第11回 研究報告と討論【リアルタイム方式】
- 第12回 研究報告と討論【リアルタイム方式】
- 第13回 研究報告と討論【リアルタイム方式】
- 第14回 研究報告と討論【リアルタイム方式】
- 第15回 研究報告と討論【リアルタイム方式】もしくは【対面式】

ゲストによる遠隔での講演を上記のいずれかに行う場合がある。

## 授業外学習（予習・復習）

各自の研究テーマについて授業外で調査・分析を進める。したがって、報告を担当する週だけでなく、恒常的に研究に取り組む必要がある。授業時間は、研究成果を発表するためのものであり、むしろ授業外学習こそが学習

(研究)のメインである。

さらに、自分の研究報告以外についても、以下の予習・復習が必要である。まず、予習として、報告担当者による指示に従って、判決文や基本的な知識を得るための文献に目を通すことが必要である(30~60分程度)。また、復習として、報告を終えた担当者に対して感想や評価をフィードバックすることが求められる(共同研究のマネージャーとして)(15~30分程度)。

**教科書**

特に指定しない。

**参考書**

各自の研究テーマに応じて随時アドバイスする。

**成績の評価基準**

研究報告、発言の頻度と内容、卒業論文などの水準を踏まえて評価する。

なお、演習は共同作業をその本質とするものであり、欠席は「Give & Take」の関係からの一方的な離脱を意味する。したがって、無断欠席や理由のない欠席は厳禁である。複数回繰り返した学生は、その時点で直ちに参加資格を喪失することになるので注意すること。

**オフィスアワー**

追って指定する。

**アクティブ・ラーニング**

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

**アクティブ・ラーニング(その他の内容)**

**アクティブ・ラーニング(授業回数)**

15回中15回

**備考(受講要件)**

演習I(刑事訴訟法)を3年次に受講していること。  
主体的に学び問う意欲を持った学生のみ歓迎する。

**実務経験のある教員による実践的授業**

ナンバリングコード			
科目名			
演習II(商法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Business Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
志田惣一	099-285-7637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
会社法に関する具体的な事例を分析しいかなる法的問題点があるか、解決策はどうかを検討する。 授業は、基礎的な論点を復習した後、学生の報告をもとに検討する。			
学修目標			
1 基本的+ 的な法的知識の習得 2 基本的+ な思考法の習得の準備 3 自学自習で条文・教科書を読み進められる読解力の涵養			
授業計画			
1~15回 会社法の個別問題についての検討			
授業外学習(予習・復習)			
学生の報告に基づき演習を進める。 各自の資料作成・報告準備が学習の中止院となる。			
教科書			
授業開始時に指定する。			
参考書			
神田秀樹・会社法 会社法判例百選			
成績の評価基準			
平常点			
オフィスアワ -			
火2限			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
とくになし			
実務経験のある教員による実践的授業			

## ナンバリングコード

## 科目名

演習II ( 刑事訴訟法 ) ( 旧 課題研究 )

## 英語名

Seminar II:Criminal Procedure

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

演習

2単位

4年

## 担当教員

## 連絡先 ( TEL )

## 連絡先 ( MAIL )

中島宏

099-285-7633

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

この演習では、刑事訴訟（捜査・公訴・公判・証拠・裁判・上訴・非常救済）の諸問題について、3年次の演習で行ってきた共同研究をさらに進めるとともに、各自のテーマについて研究論文をまとめる。学生の研究報告と討論を中心に進行し、随時、論文の完成に向けた個別指導を行う。また、2年生の演習と合同での討論を行う。

## 学修目標

- 1) 刑事訴訟法の基本的な概念や制度を正しく理解する。
- 2) 刑事訴訟における様々な問題について、その背景と本質を正しく分析する。
- 3) 刑事訴訟における判例の機能について考察を深める。
- 4) 刑事訴訟の具体的な問題をどのように解決すべきか、自説を形成できるようになる。
- 5) 文献調査の手法を身につける。
- 6) 研究成果を文章および口頭で伝える手法を身につける。
- 7) 研究成果を論文にまとめて公開する。

## 授業計画

Zoomミーティングによるオンライン型授業を実施する。対面型授業が可能になった場合は、その時点から対面型の演習を行う。

- 第1回 今後の方針決定【オンライン型】
- 第2回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第3回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第4回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第5回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第6回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第7回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第8回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第9回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第10回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第11回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第12回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第13回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第14回 研究報告と討論【オンライン型】
- 第15回 まとめ【オンライン型】

## 授業外学習 ( 予習・復習 )

各自の研究テーマについて授業外で調査・分析を進める。したがって、報告を担当する週だけでなく、恒常的に研究に取り組む必要がある。授業時間は、研究成果を発表するためのものであり、むしろ授業外学習こそが学習（研究）のメインである。

さらに、自分の研究報告以外についても、以下の予習・復習が必要である。まず、予習として、報告担当者による指示に従って、判決文や基本的な知識を得るための文献に目を通すことが必要である（30～60分程度）。また

、復習として、報告を終えた担当者に対して感想や評価をフィードバックすることが求められる(共同研究のメンバーとして)(15~30分程度)。

教科書

特に指定しない。

参考書

各自の研究テーマに応じて随時アドバイスする。

成績の評価基準

研究報告、発言の頻度と内容を踏まえて評価する。

なお、演習は共同作業をその本質とするものであり、欠席は「Give & Take」の関係からの一方的な離脱を意味する。したがって、無断欠席や理由のない欠席は厳禁である。複数回繰り返した学生は、その時点で直ちに参加資格を喪失することになるので注意すること。

オフィスアワー

追って指定する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

演習I(刑事訴訟法)を3年次に受講していること。  
主体的に学び問う意欲を持った学生のみ歓迎する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II(租税法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Tax Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
鳥飼貴司		099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
全授業回遠隔形式で行う予定である。 課題研究作成のための指導を行う。			
学修目標			
1. 租税の法的問題点についての基本的理解を深める。 2. 論文作成能力を身につける。			
授業計画			
全授業回「リアルタイム配信授業」の予定である。例外的な状況になった際には、予めmanabaのコースニュースで告知する。 (後期) 第1回～第14回 課題研究報告と討論 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
教科書			
金子宏『租税法』(弘文堂) 毎年改訂されているので、最新版を購入すること。			
参考書			
適宜指示する。			
成績の評価基準			
課題研究報告			
オフィスアワー			
講義後に話かけるのは自由。 その他の場合、事前にメールで面会交渉をすること。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			
特になし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (国際私法) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II: Private International Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
眞砂康司		099-285-7630	masago@leh.kagoshima-u.ac.jp 件名(題名)に、必ず学籍番号、氏名を入れてください。
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>「リアルタイム配信授業」(Zoom, manaba)を行う。</p> <p>各受講生が、教員の助言と指導のもと、それぞれのテーマで研究報告を行い、それに基づく討論を行う。最終的な研究報告の指導が行なれる。</p>			
学修目標			
ゼミ4年生としての国際私法の詳細的知識の習得。			
授業計画			
<p>(前期に引き続き)</p> <p>(後期)</p> <p>第1回 研究報告に関する個別発表と討論?【リアルタイム型(Zoom, manaba)第2回以降も同じ。】</p> <p>第2回 研究報告に関する個別発表と討論?</p> <p>第3回 研究報告に関する個別発表と討論?</p> <p>第4回 研究報告に関する個別発表と討論?</p> <p>第5回 研究報告に関する個別発表と討論?</p> <p>第6回 研究報告に関する個別発表と討論?</p> <p>第7回 研究報告に関する個別発表と討論?</p> <p>第8回 研究報告に関する個別発表と討論?</p> <p>第9回 研究報告に関する個別発表と討論?</p> <p>第10回 研究報告に関する個別発表と討論?</p> <p>第11回 総括?</p> <p>第12回 総括?</p> <p>第13回 総括?</p> <p>第14回 総括?</p> <p>第15回 総括?</p> <p>「リアルタイム配信授業」(Zoom, manaba)を行うが、コロナ禍のため適宜変更の余地あり。</p> <p>授業形態、成績評価基準について変更する場合は、その際にその対応については別途報告する。</p>			
授業外学習(予習・復習)			
あらかじめ伝えられている報告者のタイトルについては予習することが望ましい。演習後は、報告者でなくとも、質問することが望ましい。			
教科書			
適宜、指示する。			
参考書			
適宜、指示する。			

成績の評価基準

平常のリアルタイム配信授業受講態度を参考の上、授業中の報告等を評価する。

オフィスアワ -

木曜日・3時限・研究室

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

ほぼ毎回

備考 (受講要件)

「リアルタイム配信授業」(Zoom, manaba)を行う。コロナ禍のため適宜変更の余地あり。

授業形態、成績評価基準について変更する場合は、その際にその内容については別途報告する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (法社会学) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Legal Practices			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
米田憲市		099-285-8860	kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp(必ず件名に「演習?(法社会学):氏名」を入れること)
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
履修学生個々の法社会学に関する研究課題に基づいた研究指導を行う。			
課題提出型、オンデマンド型、リアルタイム型を併用します。			
学修目標			
法社会学の問題関心に基づく研究論文を完成させる。			
授業計画			
第1講 研究指導(1)			
第2講 研究指導(2)			
第3講 研究指導(3)			
第4講 研究指導(4)			
第5講 研究指導(5)			
第6講 中間発表会(1)			
第7講 研究指導(6)			
第8講 研究指導(7)			
第9講 研究指導(8)			
第10講 研究指導(9)			
第11講 中間発表会(2)			
第12講 研究指導(10)			
第13講 研究指導(11)			
第14講 研究指導(12)			
第15講 最終発表会			
授業外学習(予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究指導 個々に研究の進捗や課題について随時報告できるようにする。</li> <li>・中間発表 論文全体が完成していることを想定してプレゼンを行う。</li> <li>・最終発表会 演習?の履修者と合同で開講し、完成した研究を報告発表する。</li> </ul>			
教科書			
特に指定しない。			
参考書			
研究の進捗に合わせて随時指示される。			
成績の評価基準			
平常点である。ゼミでの取り組みや議論の充実への貢献度による。			
オフィスアワ -			



ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (法社会学) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Socio-Legal Studies			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
米田憲市		099-285-8860	kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp(必ず件名に「演習?(法社会学):氏名」を入れること)
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
履修学生個々の法社会学に関する研究課題に基づいた研究指導を行う。			
学修目標			
法社会学の問題関心に基づく研究論文を完成させる。			
授業計画			
第1講 研究指導(1)			
第2講 研究指導(2)			
第3講 研究指導(3)			
第4講 研究指導(4)			
第5講 研究指導(5)			
第6講 中間発表会(1)			
第7講 研究指導(6)			
第8講 研究指導(7)			
第9講 研究指導(8)			
第10講 研究指導(9)			
第11講 中間発表会(2)			
第12講 研究指導(10)			
第13講 研究指導(11)			
第14講 研究指導(12)			
第15講 最終発表会			
授業外学習(予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究指導 個々に研究の進捗や課題について随時報告できるようにする。</li> <li>・中間発表 論文全体が完成していることを想定してプレゼンを行う。</li> <li>・最終発表会 演習?の履修者と合同で開講し、完成した研究を報告発表する。</li> </ul>			
教科書			
特に指定しない。			
参考書			
研究の進捗に応じて随時指示される。			
成績の評価基準			
平常点である。ゼミでの取り組みや議論の充実への貢献度による。			
オフィスアワー			
随時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

法社会学に関わる演習14単位と前期の演習IIを履修していること。ただし、それを踏まえてあえてというものも歓迎する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

演習II（行政法・地方自治法）（旧 課題研究）

英語名

Seminar II:Administrative and Local Government Law

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

森尾成之

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

講義や演習で学んだことを踏まえて、各自が選んだ行政法に関するテーマにつき報告し、それをレポートにまとめる。

学修目標

講義で学んだ理論、判例、学説の理解と演繹。  
講義で学んだことを踏まえつつ、自分自身の考えを聞き手に分かるように論理的に表現できるようになること。  
学修の成果をレポートにまとめる。

授業計画

前期、後期とも

第1回 ガイダンス

第2回～15回 報告と討論

授業外学習（予習・復習）

教科書

特に指定しない

参考書

必要に応じて指定する

成績の評価基準

ゼミでの参加状況（報告、発言など）で評価する。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

憲法人権II(旧 法律学特殊講義(人権論特論))

## 英語名

Constitutional Law :Human Rights II

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

1~4年

## 担当教員

## 連絡先(TEL)

## 連絡先(MAIL)

大野友也

099-285-7640

onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

憲法が保障する権利について、様々な問題を受講生に検討してもらい、発表・討論を行います。いわゆるアクティブラーニング型の講義となります。

少なくとも数時間の予習が毎週求められる講義になりますので、履修者はそのつもりでお願いします。また予習はグループワークで行なってもらいます。

グループについてはmanabaで連絡します。

また2020年度は新型コロナの影響で全ての講義を遠隔で行う予定です。そのこととの関係で、ブレイクアウトルームを事前設定したいので、受講生は必ず、Zoomにログインする際に使用するメールアドレスを大野宛に教えてください。連絡方法はメール、manabaなどなんでも構いません。

## 学修目標

1. 憲法が保障する権利についての理解を深める。
2. 自身と異なる見解について、批判的に検討できる。

## 授業計画

- 第1回：オリエンテーション/幸福追求権  
 第2回：自己決定権(1)校則と自己決定権  
 第3回：自己決定権(2)中絶と自己決定権  
 第4回：自己決定権(3)安楽死と自己決定権  
 第5回：平等 - 同性婚  
 第6回：思想・良心の自由 - 「君が代」強制の是非  
 第7回：信教の自由と政教分離 - 学校における信教の自由の尊重と政教分離  
 第8回：表現の自由(1)性表現の自由  
 第9回：表現の自由(2)特定秘密保護法と取材の自由  
 第10回：表現の自由(3)広島暴走族追放条例事件  
 第11回：学問の自由 - クローン技術規制法と学問の自由  
 第12回：経済的自由 - 営業の自由とタクシー規制  
 第13回：人身の自由 - 死刑制度  
 第14回：社会権 - 生活保護受給者の権利  
 第15回：教育を受ける権利 - 生徒会誌切り抜き事件

講義テーマは変更があり得ます。その場合、事前に告知します。

講義の代わりに、ゲストスピーカーによる講演会を行うこともあります。

## 授業外学習(予習・復習)

講義の1週間前に予習課題を示します。グループでそれをやってきて下さい。

グループについてはmanabaを通じて連絡します。

## 教科書

適宜指示します。

参考書

適宜指示します。

成績の評価基準

期末レポート (グループワーク) で評価します。

オフィスアワ -

火曜5限 (研究室)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

「憲法人権I」 (法政策学科生は「人権論」) の内容を前提に行うので、この科目を履修していることが望ましいです (もちろん、未履修でも履修は可能です)。

なお、法政策学科の学生が履修した場合、単位認定科目名は「法政特殊講義 (人権論特論)」となります。

受講に際しZoomにログインする際に使用しているメールアドレスを大野宛に連絡してください。連絡方法はメール、manabaいずれでも構いません。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC1102			
科目名			
外国書講読（比較法B）			
英語名			
Study of Foreign Legal Works : Comparative Law B			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
植本幸子	kagoshima-u.ac.jp	uemt05@leh.	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>・比較法やアメリカ法についての文章を和訳する。参加者は、順に、音読の上で文法に則った和訳を行う。難しい内容や文章に関しては適宜、教員が解説を加える。</p> <p>・遠隔の場合には、Zoomでの双方向になる。学生側のカメラは必要ないが、リアルタイムで可能な音声環境は必ず用意すること。（授業開始後に環境に問題が生じた場合にはすぐに連絡すること。）</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文で表現されたテクニカルタームを、正確に和訳し、説明できるようになる。</li> <li>・主要な英語の法律専門用語について、調べる技術を身につける。</li> <li>・高校英語や受験英語では難文扱いとなるであろう難解な文章にも慣れ親しむ。</li> </ul>			
授業計画			
<p>対面授業や機材の関係で時間割の時間帯のZoomが難しい人は、対応するので相談して下さい。個別に対応しません。</p> <p>履修登録が間に合わなかった人も、第1回の授業は、下記のZoom情報で集合して下さい。2回目以降については別にお知らせします。</p> <p>ID: 992 9779 4036 パスワード: 1007</p> <p>来年度以降に開講される目処が立っていません。なるべく今学期に履修して下さい。</p> <p>2018年度は外国書講読（比較法B）、2019年度は外国書講読（比較法A）、2020年度は外国書所講読（比較法B）となる。</p>			
<p>第1回 外国書講読の学び方（授業の進行方法、評価方法、辞典紹介等）</p> <p>第2回 読解と解説（大陸法と英米法1）</p> <p>第3回 読解と解説（大陸法と英米法2）</p> <p>第4回 読解と解説（英米法の歴史1）</p> <p>第5回 読解と解説（英米法の歴史2）</p> <p>第6回 読解と解説（英米法の歴史3）</p> <p>第7回 読解と解説（英米法の歴史4）</p> <p>第8回 主要構文と主要知識の確認</p> <p>第9回 読解と解説（英米法の裁判例1）</p> <p>第10回 読解と解説（英米法の裁判例2）</p> <p>第11回 読解と解説（英米法の裁判例3）</p> <p>第12回 読解と解説（英米法の裁判例4）</p> <p>第13回 読解と解説（英米法の裁判例5）</p> <p>第14回 読解と解説（英米法の裁判例6）</p>			

## 第15回 読解と解説（英米法の裁判例7）

方式：原則、Zoom双方向(毎回リアルタイム参加)。ゼミみたいな方法で想定して下さい。時間差学習は想定されていません。

支障のある人は必ず相談して下さい。

## 授業外学習（予習・復習）

- (予習) 1. 指定した資料を検索し、入手する。  
 2. 指定資料を音読し、わからない発音を辞典で調べる。  
 3. 指定資料を和訳して、難解な箇所を把握する。  
 4. 授業中はランダムに当てるため、毎回必ず準備をすること。  
 5. 緊張に備え、和訳文を書きだしておくことが望ましい(配布は不要)。

- (復習) 1. 予習で間違っていた部分を中心に見直す。  
 2. テクニカルタームの定訳について確認し、確実に身につける。

## (学習のポイント)

- ・辞書を参照するときには受験用に厳選された意味だけでは無く、それ以外の意味や使用例にも目を通し、使われる状況を確認していこう。
- ・どうしても予習が間に合わない場合にもとにかく出席しよう。

## 教科書

適宜必ず英和辞典を携行すること(中辞典以上)。電子辞書で良いが大辞典以上が望ましい。

## 参考書

田中英夫編『英米法辞典』（1991東京大学出版会）（図書館での参照が推奨）他  
 構内立ち入り等の指示には適宜従うこと。

## 成績の評価基準

毎回必ず出席すること。やむを得ない欠席については手書きの和訳と自己点検のファイル提出をもって出席に替える。

授業への取り組み態度7割（毎回の和訳の口頭報告において誤りは減点しないが無言は減点）。

和訳技術の定着度3割（一部の文章について和訳のテストを行う。）。

## オフィスアワー

追って指示する。

## アクティブ・ラーニング

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

## 備考（受講要件）

双方向参加型なので、時間差学習のためのオンデマンド配信はありません。参加できる人のみ登録して下さい。

予習のポイントは、難しい箇所の発見です。とにかく毎回出席して下さい。例年、みんなで考えて確認しながら進めています。

副題記載の無い年度（おそらく平成29年度まで）の植本担当の「外国書講読(英語)」は「(比較法A)」の副題となる。令和2年度履修者は(比較法B)になるため履修は可能。

## 実務経験のある教員による実践的授業

キャリア形成演習（法職入門A）（旧 法律学特殊講義（法職入門A））  
ナンバリングコード

FHS-BBC2337

科目名

キャリア形成演習（法職入門A）（旧 法律学特殊講義（法職入門A））

英語名

Career Development Seminar : Legal Professions A

開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
原田いづみ、中島宏、米田憲市		099-285-7651（原田）	haradaiz@leh.kagoshima-u.ac.jp（原田）
共同担当教員		前後期	
志田、齋藤、森尾、上原、大野、阿部		後期	

授業概要

この科目は、将来、法曹（弁護士・裁判官・検察官）となるため、法科大学院の法学既修者コースの進学（あるいは司法試験予備試験の合格）を目指す学生を履修者として想定している。履修者が法曹を目指すことを前提に、法律基本科目の基本的な思考方法を定着させ、具体的事案の解決に向けた応用力、文書による表現力を鍛えるために、主に各法律分野の事例問題を用いて授業を展開する（ただし、受験対策そのものを行うのではなく、地力を鍛えるための科目であることに注意されたい）。また、法律家の仕事のあり方や法曹界を取り巻く様々な問題に対する理解を深めたり、法科大学院における学修や司法試験の受験に対する具体的なイメージを持つための企画も随時実施する。

原田・中島・米田が全体を統括するが、各回の授業では様々な法律基本科目を内容とするため、各分野の教員をゲストスピーカーに招きつつ、幅広く指導・訓練する。

遠隔講義システムを活用して中央大学法科大学院、千葉大学法科大学院（予定）の教員による講義や講演も実施する。各法科大学院の先生方からは、法科大学院で実際に行われている双方向・多方向の授業方式を展開していただくため、法科大学院の講義で先取りして実体験することができる。

具体的に扱う領域は、法律基本7科目（司法試験科目・予備試験科目であり、各法科大学院の既修者試験の科目となる基本科目のこと。憲・民・刑・商・行・民訴・刑訴）を予定している。「法職入門B」と同じ目的・開講形態であるが、扱う内容（事例問題）は異なる。したがって、両方とも履修することが好ましい（法曹養成連携プログラムの履修者はいずれも必修である）。

学修目標

- 1) 講義で学ぶ法律知識を基礎に、具体的な事案を解決するための応用力を身につける。
- 2) 法的三段論法を用いた法的解決のアプローチを表現するためのライティング力を身につける。
- 3) 法科大学院における学修や司法試験の受験のためにどのような知識、能力が必要なのか具体的なイメージを形成する。
- 4) 法科大学院の2年修了コースに合格するために必要な力を身につける。
- 5) 将来、司法分野において貢献できる学識と人格を備えた法曹になる基盤を身につける。

授業計画

遠隔形式で実施します。各回において課題提出型（毎回）、オンデマンド型（随時）、リアルタイム型（随時）を併用します。各回の実施方法は、manabaによって事前に告知します。

なお、感染症の状況が変化した場合は対面形式に変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

- 第1講 ガイダンス  
第2講 事例問題（憲法分野1、大野）  
第3講 事例問題（民法分野1、采女）

- 第4講 事例問題（刑法分野1、上原）
- 第5講 事例問題（商法分野1、志田）
- 第6講 事例問題（民事訴訟分野1、齋藤）
- 第7講 事例問題（刑事訴訟分野1、中島）
- 第8講 事例問題（憲法分野2、大野）
- 第9講 事例問題（民法分野2、阿部）
- 第10講 事例問題（刑法分野2、上原）
- 第12講 事例問題（商法分野2、志田）
- 第12講 事例問題（民事訴訟法分野2、齋藤）
- 第13講 事例問題（刑事訴訟法分野2、中島）
- 第14講 事例問題（行政法分野、森尾）
- 第15講 事例問題（予備）

このほか、法曹連携プログラムの協定を締結している法科大学院の教員による講義を予定している。

#### 授業外学習（予習・復習）

##### 予習

毎回の授業につき、あらかじめ出題される事例問題を事前に検討し、自分の解答を作成したうえで講義に出席しなければならない。様々な法律科目の内容を扱うので、必要な知識は他の科目（民法・憲法・刑法など）の教科書等で自習することが必要となる。また、判決文を精読したうえでの参加を求める場合もある。講義の目的に照らして、高い水準での予習が求められることを十分に覚悟されたい。目安90分程度。

##### 復習

授業で検討した事例問題について、授業中の指摘事項等を踏まえ、あらためてどのような論述をすべきか、各自で検討する。その際、わからないことがあれば教員に質問する。また、必要に応じて復習のための課題（応用問題や基礎を確認するための問題）が示されるので、その場合は解答を作成する。目安60分程度。

#### 教科書

特に定めない。

#### 参考書

適時指示する。

#### 成績の評価基準

毎回提出する答案の点数によって評価する。

#### オフィスアワ -

追って指定する。なお、質問等での研究室訪問（またはオンラインミーティング）は随時可。

#### アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

#### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

答案の起案指導

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

#### 備考（受講要件）

開講目的を確実に達成するため、履修者の上限を20名とする。履修希望者がこれを超えた場合は、過去の法律科目の成績等を参考にして選抜を行う。選抜方法等については、別途掲示するので注意すること。

- ・法曹を目指して学習することを前提とする。
- ・法学コースで開講されている法律科目を体系的に学習し、成果を上げていることを前提とする。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

法曹資格を有し弁護士としての実務経験を有する教員が他の教員と共同で担当する。

## ナンバリングコード

FHS-BBC2337

## 科目名

英米法（旧 法律学特殊講義（英米法））

## 英語名

Anglo-AmericanLaw

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

2～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

植本幸子

kagoshima-u.ac.jp（下記と組み合  
わせよ。タイトル部分に必ず授業名  
と学年・氏名を表記のこと。）

uemt05@leh.

## 共同担当教員

## 前後期

前期

## 授業概要

アメリカ法を中心に、英米法について日本語で講義を行う。

## 学修目標

- ・日本法と英米法を比較した際の基本的な特徴を理解する。
- ・英米法に関する基礎的な専門用語を理解し説明することができる。
- ・授業で扱った代表的なケースについて、事実、判旨、理由付けを説明し、その意義を説明することができる。

## 授業計画

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある

- 第1回 比較法原論
- 第2回 英米法の特徴(判例法主義と手続重視)
- 第3回 アメリカ法の特徴(連邦法と州法)
- 第4回 英米法の歴史(裁判所制度の発展)
- 第5回 法源論
- 第6回 訴訟方式の発展(物権法・不法行為法)
- 第7回 訴訟方式の発展(合意の保護)
- 第8回 合意の保護(引受訴訟と約因理論)
- 第9回 合意の保護(約因理論と約束的禁反言)
- 第10回 契約の修正原理と特徴的な制度
- 第11回 合衆国における法域と裁判管轄
- 第12回 合衆国における裁判手続
- 第13回 英米の法律家、チェックアンドバランスと主要な憲法訴訟
- 第14回 法の適正過程

## 授業外学習（予習・復習）

## （予習）

教科書に目を通し、わからない言葉を調べる。

読めない漢字や意味のわからない言葉は紙媒体の国語辞典や英和辞典、英米法辞典で確認する（インターネットは使用しないこと。電子辞書の使用と携行は推奨される。）

## （復習）

プリントとノートを見直し、テストで再現することを念頭において、用語や事案の説明を書き出して記憶の定着を図る（授業直後に書き出しを行い、一週間後とテスト対策期間に見直すことが推奨される）。そのうえで、どのような解決方法が望ましいのかということや、学習に際し得られた知識を分析し、あらゆる事象について応用可能な学ぶべきことがないのか多面的に検討することが望ましい。

- ・誤りやすい用語についてのみ復習シートの配布を行う。

## 教科書

伊藤 正己・木下 毅『アメリカ法入門』（日本評論社 第5版）

## 参考書

追って指示する。

なお、英和辞典、国語辞典、漢和辞典を備えた電子辞書の携行が推奨される。  
携帯電話の使用は特に指示をする場合以外は許可されない。

## 成績の評価基準

期末テスト（100点）

授業態度（授業中の問いや読み上げに際し無言を減点、正答を加点）（マイナス50点～プラス50点）；遠隔の場合：掲示板への意義ある書き込みは加点（具体的な誤字の指摘を含む）。

## オフィスアワ -

授業の前後

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8回程度

## 備考（受講要件）

教科書の音読から始めるため、教科書を必ず持参すること。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
政治史			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
平井一臣		8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
戦後日本の政治の展開過程を、権力政治、市民政治、国際関係の三つのアリーナから考察する。課題提示型とオンデマンド型を組み合わせで行う。			
学修目標			
戦後日本政治の歩みを歴史的な展開に則して理解するとともに、歴史的アプローチを通じて日本政治の現状と課題についての関心と理解を深める。			
授業計画			
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
第1回 戦後日本政治を考える意味			
第2回 敗戦と戦後の出発			
第3回 占領前期			
第4回 占領後期			
第5回 講和と安保			
第7回 55年体制			
第8回 60年安保			
第9回 高度成長			
第10回 ベトナム反戦と沖縄の復帰			
第11回 田中支配の時代			
第12回 新自由主義の台頭			
第13回 「政治改革」の時代の始まり			
第14回 21世紀の日本政治			
授業外学習 (予習・復習)			
事前に配布した資料プリンもしくはオンデマンド動画に目を通して受講することとする。			
毎回、コメントシートを提出してもらい、また2回の小テストを行う。講義で取り上げた政治的出来事について復習をしておくこと。			
教科書			
なし			
参考書			
講義中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
コメントシート及び小テストによる。			
オフィスアワー			
適宜対応する			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
外国書講読（韓国語A）			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
平井一臣		8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現代韓国の政治・社会・文化に関する韓国語の新聞記事・文献等を授業前に配付し、それを基に解説とディスカッションを行う。授業は、文書資料による課題提示型とリアルタイム型を組み合わせで行う。			
学修目標			
韓国語の読解力を身につけながら、現代韓国の政治・社会・文化に関する理解を深める。			
授業計画			
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
第1回 韓国語文献・記事講読 第2回 韓国語文献・記事講読 第3回 韓国語文献・記事講読 第4回 韓国語文献・記事講読 第5回 韓国語文献・記事講読 第6回 韓国語文献・記事講読 第7回 韓国語文献・記事講読 第8回 韓国語文献・記事講読 第9回 韓国語文献・記事講読 第10回 韓国語文献・記事講読 第11回 韓国語文献・記事講読 第12回 韓国語文献・記事講読 第13回 韓国語文献・記事講読 第14回 韓国語文献・記事講読			
授業外学習（予習・復習）			
授業で取り扱う予定の頁について、辞書を用いて事前に調べておくこと。 毎回の授業で読み進んだ箇所について、要約を作成すること。			
教科書			
なし。			
?? ??? ?? 10,000? ??? 10,000? ? ?????? ?? ? ??? ?? ? ???			

????

???? ?? (?? ??)

参考書

成績の評価基準

出席及びレポート

オフィスアワ -

火曜2限

アクティブ・ラーニング

グループワーク;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

備考（受講要件）

韓国語学習の経験がある者がのぞましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC1309			
科目名			
物権法I (旧 物権法)			
英語名			
Ownership, Possession, Various Tenancy and Collateral I			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
植本幸子		kagoshima-u.ac.jp (下記と組み合わせよ。タイトル部分に必ず授業名と学年・氏名を表記のこと。)	uemt05@leh.
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
物権変動と他物件の概要、担保物権以外の物権についての講義を行う。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・物権法に関するテクニカルタームを理解する。</li> <li>・物権法に関連する主要な問題について、登場する当事者の利害関係と権利関係をイメージすることができる。</li> <li>・物権法に関連する主要な問題についての法的解決を、根拠をもって説明することができる。</li> <li>・物権法に関する主要な問題点を理解するために、学説や判例についての基本書や学習用判例集の記述を正確に読みとる能力を身につける。</li> </ul>			
授業計画			
2020年度前期は、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある			
第1回 物権法の全体像と学び方、民法の体系、所有権の絶対、物権と債権、物権法定主義 第2回 物、不動産と動産、主物と従物 第3回 物権的請求権 第4回 物権変動1(所有権の取得) 第5回 物権変動2(変更、消滅)、対抗要件その1 (概要、公示と公信) 第6回 対抗要件その2 (登記)、登記と時効等 第7回 即時取得 第8回 占有その1 (占有、準占有、占有訴権) 第9回 占有その2 (占有移転の対応) 第10回 所有権 第11回 相隣関係 第12回 共有、区分所有 第13回 用益物権その1 (地上権、借地借家法) 第14回 用益物権その2 (永小作権、地役権)			
授業外学習 (予習・復習)			
(予習) 上記「授業計画」やレジメに照らして教科書と条文に目を通す(原則的に条文の順番に沿っている)。その際には、どの部分に何が書いてあるのかを前後の頁を開ける程度に把握し、自分で読んでわからない部分をチェックしておく。			
(復習) プリントとノートを見直し、教科と条文に照らし合わせ、テストで再現することを念頭において記憶の定着を図る(授業直後、一週間後、テスト対策期間の3回が望ましい)。			
教科書			
千葉恵美子・藤原正則・七戸克彦『民法2 物権 [第3版]』(有斐閣アルマシリーズ 2018年4月)			

## 参考書

- ・六法を必ず用意すること。有斐閣、岩波、三省堂のものから判例や解説のついていないものを選ぶこと。(期末試験においては、判例のついていない六法の持ち込みを認める。)
- ・授業中は判例付の六法を用いて差し支えない。

## 成績の評価基準

- ・授業への取り組み態度(発言について無言はマイナス。正答は加点。)
- ・小テスト等への取り組み(正誤は問わない)。
- ・期末試験

法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

## オフィスアワー

追って指示する。

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；

## アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

## 備考(受講要件)

平成28年度より前に入学した旧カリキュラム生については「物権法」に該当するが、過年度と違い担保物権については扱わないので注意すること。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
債権法I(旧 現代契約法)			
英語名			
Debtor and Creditor I			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	
采女博文			
共同担当教員		連絡先(MAIL)	
授業概要			
<p>授業の範囲は、契約法総論及び契約法各論〔民法第3編債権第2章(第521条~第694条)〕である。契約法総論では、契約の成立・効力・解除を扱う。契約法各論では、典型契約のうち法的思考力を涵養するのに適していると考えられる売買・賃貸・請負・委任の契約類型を中心に扱う。授業は、抽象的な知識に墮することを避けるために、必要に応じて具体的事例を素材に法的判断力を培うものとする。</p>			
学修目標			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>1. 契約法の知識(各制度の趣旨, 法律要件と法律効果)を修得する。民法総則, 物権法で修得した知識との連続性, 総合性のある知識の修得を目標とする。</p> <p>2. 民法全体(民法総則, 物権法を含む)を見渡しながら法的な判断ができる能力, 規範=ルールを発見する能力を涵養する(法の解釈)。</p> <p>3. ルールを具体的な事件にあてはめて結論を出す実際的能力を身につける(法の適用)。</p>			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回 契約の基礎(法律行為論を含む)</p> <p>第2回 契約の成立(基礎理論・定型約款を含む)</p> <p>第3回 契約の効力(同時履行の抗弁権, 危険負担, 事情変更の原則, 第三者のためにする契約, 契約上の地位の移転)</p> <p>第4回 契約の解除</p> <p>第5回 贈与・売買の成立(手付, 買戻し), 交換</p> <p>第6回 売買の効力1(物の担保責任, 契約不適合)</p> <p>第7回 売買の効力2(権利の担保責任)</p> <p>第8回 消費貸借, 使用貸借, 賃貸借の成立(権利金, 敷金)</p> <p>第9回 賃貸借の効力(賃貸人・賃借人の地位の移転, 譲渡・転貸)</p> <p>第10回 賃貸借と妨害排除請求権, 借地借家法</p> <p>第11回 請負1(注文者と請負人の地位)</p> <p>第12回 請負2(工事の完成と所有権の移転時期, 危険負担, 担保責任)</p> <p>第13回 雇用</p> <p>第14回 委任・寄託・組合・終身定期金・和解</p> <p>第15回 契約の解釈の方法</p>			
*新型コロナ対応のため、オンデマンド授業となります。			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習 事前に指示された各回の教科書と配付資料の該当箇所を通読する。授業は予習を前提にして進行させる。</p> <p>復習 各回での設例に解答してみる。解答例は配付資料で示します。</p>			
教科書			
堀田泰司他編「債権法各論(第2版)」(嵯峨野書院, 2020)など			
参考書			

## 参考書・参考資料等

- ・『民法判例百選?債権(第8版)』(有斐閣)
- ・潮見佳男『債権各論?(第3版)』(新世社,2017)
- ・平井宜雄『債権各論?上契約総論』(弘文堂,2008)

## 民法(債権法)改正関係資料

大村敦志,道垣内弘人編『解説 民法(債権法)改正のポイント』有斐閣,2017年  
 中田 裕康,大村 敦志,道垣内 弘人,沖野 眞己『講義 債権法改正』商事法務2017年  
 日本弁護士連合会『実務解説 改正債権法』弘文堂,2017年  
 潮見佳男,北居 功,高須順一,赫高規,中込一洋,松岡久和編『Before/After 民法改正』弘文堂,2017年  
 潮見 佳男『民法(債権関係)改正法の概要』きんざい,2017年  
 潮見佳男,北居功,高須順一,赫高規,中込一洋,松岡久和編『Before/After 民法改正』弘文堂,2017  
 潮見佳男,千葉恵美子,片山直也,山野目章夫編『詳解 改正民法』商事法務,2018年  
 筒井健夫,村松秀樹『一問一答 民法(債権関係)改正』商事法務,2018年

## 成績の評価基準

## 学生に対する評価

「定期試験」(80%),「到達度確認小テスト」(20%)の合計点による。学生の到達度を確かめながら授業を進行させるために、適宜,小テストを実施し,成績評価に反映させる。

法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

\*遠隔授業実施及び期末試験方法の変更に伴い、成績の評価基準は変更します。

## オフィスアワ -

月曜、水曜日の授業終了後の昼休み、法文学部1号館6階共同演習室

## アクティブ・ラーニング

その他;

## アクティブ・ラーニング(その他の内容)

授業中の質疑応答として、原告・被告側双方の立場で論理を展開することを求める。

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

基本的に毎回試みる

## 備考(受講要件)

民法総則、物権法を履修していることが望ましいが、必須ではない。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
憲法統治（旧 統治機構論）			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
大野友也		099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
憲法の統治分野について講義をします。			
学修目標			
(1) 憲法の統治分野について理解する。 (2) 憲法の統治分野に関する諸問題につき、自分なりの考えを述べられる。			
授業計画			
(1) 憲法とは何か (2) 日本国憲法制定史 (3) 国民主権と天皇制 (4) 平和主義（1） (5) 平和主義（2） (6) 国会（1） (7) 国会（2） (8) 内閣（1） (9) 内閣（2） (10) 裁判所（1） (11) 裁判所（2） (12) 違憲審査制度 (13) 財政 (14) 地方自治 (15) 憲法改正 ゲスト講師による特別授業が入る可能性もあります。			
<p>コロナの影響で、遠隔授業を行います。ズームを利用しますので、各自ズームのアカウントを取得しておいてください。</p> <p>ネット環境が整っていない学生は、その旨大野宛（onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp）にメールするか、マナバの掲示板に書き込んでください。大野にメールして24時間以上返信がない場合は、必ず掲示板に書き込むこと。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
レポート課題を毎回出しますので、それをやってきて下さい（任意）。また講義後にはそのレポートを見直して下さい。			
教科書			
講義中に指示します。			
参考書			
講義中に指示します。			
成績の評価基準			
期末試験80%、平常点20% ただし法学コースの学生については、秀（90点以上）とする人数の上限を成績評価対象者（他コース・他学科）			

に所属する学生を除く）の20%以内とします。

2020年度は新型コロナのため、期末試験に替え、期末レポートとします。

オフィスアワ -

火曜日5限（研究室）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

特にありませんが、「憲法人権I」についての理解を前提とします。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC1102			
科目名			
外国書講読（アメリカ私法と法選択）			
英語名			
Study of Foreign Legal Works : Private Law and Choice of Law in America			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
眞砂康司		099 - 285-7630	masago@leh.kagoshima-u.ac.jp 件名（題名）に、必ず学籍番号、氏名を入れてください
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>「リアルタイム配信授業」を行う。Zoom, manabaを用いる。</p> <p>なお、【重要】「法政策学科・法学コースの学生に限る。リアルタイム配信授業における輪読という形態上、受講人数を10名に制限する」</p> <p>一般的には、国際結婚とか国際契約といわれるところの、複数の法域（国とか州）の間で生じる生活関係（つまり、例：国際〔州際〕婚姻）の法規制では、まずもって、いずれの法域の法を適用すればよいのかという法の選択問題が発生します。本授業では、アメリカ合衆国において、この法の選択を任務とする法＝抵触法（国際私法）のリステイトメントを輪読します。前もって割り当てられた英文を訳出し、発表します。</p> <p>授業形態について変更する場合は、その際にその方法等については別途報告する。</p>			
学修目標			
アメリカ合衆国の抵触法（国際私法）の第二リステイトメントの訳出、発表を通して、合衆国法の知識を身近なものとする。			
授業計画			
<p>【重要】「法政策学科・法学コースの学生に限る。リアルタイム配信授業における輪読という形態上、受講人数を10名に制限する」</p> <p>「リアルタイム配信授業」(Zoom, manaba)において、受講生は前もって割り当てられた英文を訳出し、発表します。授業形態について変更する場合は、その際にその方法等については別途報告する。</p>			
<p>1回 ガイダンス【リアルタイム型（Zoom, manaba）第2回以降も同じ】</p> <p>2回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読?</p> <p>3回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読?</p> <p>4回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読?</p> <p>5回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読?</p> <p>6回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読?</p> <p>7回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読?</p> <p>8回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読?</p> <p>9回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読?</p> <p>10回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読?</p> <p>11回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読?</p> <p>12回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読?</p> <p>13回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読?</p> <p>14回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読?</p> <p>15回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読?</p>			

<b>授業外学習（予習・復習）</b>
あらかじめ伝えられている報告者の訳出部分については他の学生も予習することが望ましい。授業後は、報告者でなくとも、質問することが望ましい。
<b>教科書</b>
資料を配布する。
<b>参考書</b>
適宜、指示する。
<b>成績の評価基準</b>
リアルタイム配信授業への取り組み態度（それぞれの学生の訳出分に対する評価、授業中の積極的参加態度に対する評価）によって評価する。場合によっては授業中に小テスト等を課す。 成績評価基準について変更する場合は、その際にその基準ないし方法等については別途報告する。
<b>オフィスアワ -</b>
木曜日・3時限・研究室
<b>アクティブ・ラーニング</b>
その他;
<b>アクティブ・ラーニング（その他の内容）</b>
訳出と発表およびその際の疑問を素材にして、学生間の議論および教員と学生間での知識の相互交通を行う。
<b>アクティブ・ラーニング（授業回数）</b>
ほぼ毎回
<b>備考（受講要件）</b>
【重要】「法政策学科・法学コースの学生に限る。リアルタイム配信授業における輪読という形態上、受講人数を10名に制限する」 Zoomとmanabaを用いて、前もって割り当てられた英文を訳出し、発表する努力ができる者を受講生とします。 授業形態について変更する場合は、その際にその内容等については別途報告する。
<b>実務経験のある教員による実践的授業</b>

ナンバリングコード			
FHS-BBC2332			
科目名			
国際私法			
英語名			
Private International Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
眞砂康司		099 - 285-7630	masago@leh.kagoshima-u.ac.jp 件名(題名)に、必ず学籍番号、氏名を入れてください
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>国際化時代、国際結婚や国際契約といった、いわゆる渉外的(国際的)私法関係の法的規律はどのようになされており、そして、なされるべきであろうか。かかる渉外的私法関係の法的規律の基本的な法である国際私法につき、その諸問題を概観する。</p>			
学修目標			
法選択理論の基本的知識を習得する。			
授業計画			
<p>*教科書に沿った授業をするので、教科書：澤木・道垣内著 国際私法入門 第8版 有斐閣は必携である。何らかの方法で手に入れておくこと。</p>			
<p>第1回 ガイダンス(課題提出型)  第2回 国際私法規定の構造(1)(課題提出型)  第3回 国際私法規定の構造(2)(課題提出型・オンライン型)  第4回 国際私法理論の歴史(課題提出型・オンライン型)  第5回 法律関係の性質決定(1)(課題提出型・オンライン型)  第6回 法律関係の性質決定(2)(課題提出型・オンライン型)  第7回 連結点の確定、法律回避(1)(課題提出型・オンライン型)  第8回 連結点の確定、法律回避(2)(課題提出型・オンライン型)  第9回 不統一国法の指定、未承認国法の指定(1)(課題提出型・オンライン型)  第10回 不統一国法の指定、未承認国法の指定(2)(課題提出型・オンライン型)  第11回 反致(1)(課題提出型・オンライン型)  第12回 反致(2)(課題提出型・オンライン型)  第13回 外国法の扱い(課題提出型・オンライン型)  第14回 外国法の適用排除(課題提出型・オンライン型)  第15回 残された問題(課題提出型・オンライン型)</p>			
<p>授業期間中でアンケート・レポート提出を多用する。課題提出型・オンライン型問わず、これらの型式に加え、オンデマンド型も併せて使用する可能性もある。これらの3型式は今後変動する可能性がある。また「今後の状況次第で授業回数や内容・授業手法は変更となる可能性もある」</p>			
<p>*現実には、manabaによるアンケート・レポート・課題提出等の手法の授業のほか、ZOOMによるONLINE授業を実施する予定である。</p>			
<p>多くのアンケート・レポート(manabaかrespon)を提出し、manabaやZOOMのONLINE等への参加が評価の必須項目となるでしょう。ストリーム配信を使う可能性もある。</p>			

出欠は種々の方法でとりますので、その都度、注意してください。  
遠隔授業をすることになりますので、  
MANABA(manabaマナバ)や大学に登録の諸君のメールアドレスについて受信拒否の設定をしないでください。

## 授業外学習（予習・復習）

教科書等について次回の講義が行われる部分を予習しておくことが望ましい。また、すでに行われた講義内容については不明部分を質問することが望ましい。

## 教科書

澤木敬郎・道垣内正人著『国際私法入門』（有斐閣）第8版

## 参考書

適宜、指示する。

## 成績の評価基準

期末試験が実施できないこともあるので、原則として出席をした上での講義への参加態度とアンケート・レポートあるいは小テストの評価によります。アンケート・レポート提出あるいは小テストは、授業の進み具合にもよりますが、3回～6回要求あるいは実施する予定にしています。当然でしょうが受講生は全回出席するつもりでいましょう。

出欠は種々の方法でとりますので、その都度、注意してください。

## オフィスアワー

木曜日・3時限・研究室

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

3～4回に1回実施予定

## 備考（受講要件）

民法の基礎知識を習得している事が望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

キャリア形成演習（公益事業の法実務）（旧 法律学特殊講義（公益事業の法実務））  
ナンバリングコード

科目名

キャリア形成演習（公益事業の法実務）（旧 法律学特殊講義（公益事業の法実務））

英語名

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

演習

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

米田憲市

099-285-7569

kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp(su  
bject欄に、科目名、氏名、学籍番  
号を必ず記載すること)

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

【新型コロナ対応についての学部の方針に従い、開講しません。】

公益事業（主として電力事業）にかかる法実務について、実務に就いている方による指導や現地視察などを踏まえて実践的理解を深める。

学修目標

- 1．公益事業の現状と社会的意義を理解する
- 2．公益事業（主として電力事業）における法の役割を理解する
- 3．公益事業（主として電力事業）における法実務のあり方を理解する

授業計画

【第1日】

- 第1講 「公益事業と法」ガイダンス
- 第2講 公益事業における法制度の役割：総論
- 第3講 テーマ学習（グループワーク）
- 第4講 テーマ学習（プレゼンテーション）

【第2日】

- 第5講 現地視察（1）
- 第6講 テーマ学習（グループワーク）
- 第7講 現地視察（2）
- 第8講 テーマ学習（グループワーク）

【第3日】

- 第9講 公益事業における法実務
- 第10講 テーマ学習（グループワーク）
- 第11講 テーマ学習（グループワーク）
- 第12講 テーマ学習（プレゼンテーション）

【第4日】

- 第11講 現地視察（3）
- 第12講 テーマ学習（グループワーク）
- 第13講 現地視察（4）
- 第14講 テーマ学習（グループワーク）
- 第15講 テーマ学習（プレゼンテーション）

授業外学習（予習・復習）

キャリア形成演習（公益事業の法実務）（旧 法律学特殊講義（公益事業の法実務））

現地視察の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入する必要があります。いずれも、大学生協で取り扱っています。滞りなく手続きを済ませておいてください。

加入しているかの確認は、学生係で可能です。

教科書

特になし

参考書

特になし

成績の評価基準

平常点：参加時の取組、成果物：最終レポートを含む提出物すべてを対象として、評価する。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

履修を検討しているものための説明会を開催するので参加することが望ましい。

6月5日昼休みを予定)

受講者は10名を上限とし、それ以上の場合、選考を行う。

manabaのお知らせに留意すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-BBC2319

科目名

実践演習（法情報論）（旧 法情報論）

英語名

Practice Seminar : Legal Infomatics

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

演習

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

中島宏、米田憲市、原田いづみ

099-285-7633(中島)

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp (中島)

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

この科目は、将来の法実務を先取りし、コンピュータおよびネットワークを活用した法学の学習・研究方法を実践的に学ぶ。具体的な事案を用いながら、法律家が法的な問題を解決していく実際のプロセスに沿って、すなわち、事実の「発見」 法情報の集と分析 法的判断とその正当化 口頭および書面による説得という過程を経験する。その中で、情報科学の成果を活用し、法的な問題を効果的・効率的に処理していく術を修得する。また、本学の学生のみで行うのではなく、遠隔講義システムを活用して、大阪大学の学生との共同作業やディベートを取り入れる。

学修目標

以下のようなスキルを身につけることを目標とする。

1. 問題解決のために必要な法情報（事実に関する情報・法的判断に関する情報）の特定
2. 各種ツールを用いたリーガル・リサーチ
3. 文献リストや調査メモによる資料整理
4. 判例の読み方・分析方法
5. 問題解決のための資料の読み方
6. 書面による主張
7. 口頭弁論の技法
8. 情報通信ツールを用いた論争

授業計画

この科目は、将来の法実務を先取りし、コンピュータおよびネットワークを活用した法学の学習・研究方法を実践的に学ぶ。具体的な事案を用いながら、法律家が法的な問題を解決していく実際のプロセスに沿って、すなわち、事実の「発見」 法情報の集と分析 法的判断とその正当化 口頭および書面による説得という過程を経験する。その中で、情報科学の成果を活用し、法的な問題を効果的・効率的に処理していく術を修得する。また、本学の学生のみで行うのではなく、遠隔講義システムを活用して、大阪大学の学生との共同作業やディベートを取り入れる。

この講義は遠隔形式でおこなう予定であるが、感染症拡大の状況が変化した場合は、対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaおよび本講義のために稼働させる独自のLMS（シラバスシステム）において通知する。

他大学との連携のため、詳細については、変更の可能性がある。

- 第1回...班編制、自己紹介など【リアルタイム方式】
- 第2回...社会的事実としての事案の分析【課題提出型】
- 第3回...判例データベースの使い方【課題提出型】
- 第4回...事実調査（1）【課題提出型】
- 第5回...事実調査（2）【課題提出型】

- 第 6 回...法律構成の検討（ 1 ）【課題提出型】
- 第 7 回...事案に関連する法分野の講義【オンデマンド方式】
- 第 8 回...法律構成の検討（ 2 ）【課題提出型】
- 第 9 回...事案処理のために必要な法情報の収集と分析【課題提出型】
- 第 1 0 回...民事訴訟制度に関する講義【オンデマンド型】
- 第 1 1 回...他大学との共同作業（訴状・答弁書の作成）【課題提出型】
- 第 1 2 回...他大学との共同作業（Web論争システムによる議論）【課題提出型】
- 第 1 3 回...他大学との共同作業（Web論争システムによる議論）【課題提出型】
- 第 1 4 回...他大学との共同作業（Web論争システムによる議論）【課題提出型】
- 第 1 5 回...他大学との共同作業（原告と被告のディベート）【リアルタイム方式】

授業外学習（予習・復習）

この科目では、ほぼ毎回、授業外に各自が行うべき課題が出題され、受講者は次回までにそれを確実に実施し、提出する必要がある。また、他大学との共同作業においては、授業外に他大学の仲間と打ち合わせをしたり、議論を進める必要がある。課題の内容には、次回の予習と前回の復習の両方が含まれている。課題を実施するためには、おおむね90分程度の自学自修が必要である。

教科書

田中規久雄・松浦好治『法学新入門』（デザインエッグ、2017年）

参考書

加賀山茂・松浦好治『法情報学（第2版補訂）』（有斐閣、2006年）

いしかわまりこ・藤井康子・村井のり子『リーガル・リサーチ〔第5版〕』（日本評論社、2016年）

= =

【以下は、ややハイレベル】

川崎政司『法律学の基礎技法』（法学書院、2011年）

田中豊『法律文書作成の基本』（日本評論社 2011年）

小島武司編『実践民事弁護の基礎』（レクシスネクシスジャパン 2008年）

成績の評価基準

授業時間内での課題に対する取り組み、授業時間外に取り組んで提出する課題への取り組みによって評価する。欠席は減点する。

オフィスアワ -

追って指定する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

法政策学科・法学コースの学生に限定する。なお、下記を了解の上で受講すること。

（ 1 ）法律を生きた形で学びたい者、3年次以降になった時に法学系のゼミでしっかり学びたい者、法科大学院進学を進路に考えている者、法律を武器にした仕事に就くこと考えている者は、履修することが当然と考えるべき科目である。

（ 2 ）毎回のように課題が出されるので、労を厭うことなく、法的な思考能力と問題処理能力を高めることを真に望む学生の履修を歓迎する。

（ 3 ）グループでの作業を行うため、中途での離脱は、本人の権利放棄にとどまらず、他人の学修の妨げとなる。履修登録をする以上、必ず最後まで履修すること。

（ 4 ）端末室の制約から受講制限をする（20名）。履修を希望する学生は、所定の期間に履修申請をした上で、初回の講義に必ず出席すること（出席できない事情がある場合は、事前に必ず担当教員に連絡すること）。履修申請者が上限を超えた場合は、初回の講義の後、直ちに選抜を実施するので、掲示等を確認すること。

（ 5 ）知的興奮と世界の広がりを経験できる科目であることを付言する。

実務経験のある教員による実践的授業

法曹資格を有し弁護士としての実務経験を有する教員が他の教員と共同で担当する。

## ナンバリングコード

FHS-BBC2337

## 科目名

刑事訴訟法I (旧 法律学特殊講義 (捜査法))

## 英語名

Criminal Procedure I

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

中島宏

099-285-7633

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

この科目では、刑事訴訟法が規定する内容のうち、捜査手続きに関する部分を扱う。捜査機関が犯罪を発見し、証拠を収集するとともに、被疑者の身柄を保全するための手続きについて、その概要を理解したうえで、刑事訴訟法の捜査に関する規定の解釈論上の争点を、判例などを素材にして検討していく。

刑事訴訟は、犯罪に対して刑罰を科すための手続きである。具体的な事案について、捜査がなされ、被告人が起訴されて、公判において有罪が立証され、判決が言い渡されなければ、刑法の規定する内容も「絵に描いた餅」となってしまうだろう。その意味で、刑事訴訟法を学ぶことは、刑事法全体の中でも、刑法に匹敵する重要な意味をもつ。さらに裁判員制度の導入によって、犯罪捜査や刑事裁判の手続きに関する知識は、専門職に就く者だけでなく、すべての市民にとって必要なものとなっている。

なお、他の学期において別途に開講する「刑事訴訟法II」(2018年度以前入学生は「刑事訴訟法」)では、公訴・公判・証拠・裁判に関する部分(狭義の訴訟手続き)を扱っている。できるだけ両科目とも履修することが望ましい(順序は問わない)。

## 学修目標

- (1) 捜査手続きの流れを正確に理解する。
- (2) 捜査手続きの運用における実状を把握する。
- (3) 捜査をめぐる刑事訴訟法の解釈における重要論点につき、理解を深める。
- (4) 判例の分析を通じて、理論を実際の事例に適用し、問題を解決する能力を養う。

## 授業計画

この科目は遠隔方式で実施する。ただし、感染症拡大の状況が劇的に好転した場合などには、学部の運営方針に従って対面方式に変更することがある。講義方法の変更については、manabaによって告知する。

以下の(1)~(3)を以て1回の講義を構成する。

- (1) 講義日までに講義の動画とレジユメを公開する。受講者は、各自で動画を視聴して受講する。【オンデマンド方式】
- (2) 課題と質問をワークシートに記入して提出する。【課題提出方式】
- (3) 翌週の講義日にオンラインミーティングを開催して質問への応答と補足解説を行う。自由参加。【リアルタイム方式】

第1回...捜査機関/捜査総説

第2回...捜査の端緒

第3回...任意捜査の限界

第4回...証拠の収集(1) - 令状による捜索・差押え・検証 -

第5回...証拠の収集(2) - 令状によらない捜索・差押え・検証 -

第6回...証拠の収集(3) - 体液の採取 -

第7回...証拠の収集(4) - 通信傍受 -

第8回...逮捕・勾留(1)  
 第9回...逮捕・勾留(2)  
 第10回...逮捕・勾留(3)  
 第11回...被疑者の取調べ(1)  
 第12回...被疑者の取調べ(2) / 協議・合意制度  
 第13回...被疑者の防御活動  
 第14回...検察官の事件処理  
 第15回...公訴提起の手続き

授業外学習 (予習・復習)

予習

遠隔方式での実施のため、予習は求めない。復習に力点を置いて学習を進めること。

復習

講義後に配付されるワークシートに回答して提出する。また、講義を聞いて理解できなかったことについて、講義専用の電子掲示板に書き込みをする。教員がこれに回答するほか、他の学生を交えた議論を期待したい。さらに、毎回開催するオンラインミーティングに積極的に参加して、理解が不十分な点を質問したり、他の学生と議論したりする。以上すべて含めておおむね120分程度。

教科書

笹倉香奈・中島宏・宮木康博『刑事訴訟法』(日本評論社、2020年刊行予定)

参考書

体系書

酒巻匡『刑事訴訟法』(有斐閣、2016年)  
 宇藤崇・松田岳士・堀江慎司『刑事訴訟法』(リーガルクエスト・シリーズ)(有斐閣、2013年)  
 田口守一『刑事訴訟法 [第7版]』(弘文堂、2017年)  
 白取祐司『刑事訴訟法 [第9版]』(日本評論社、2017年)  
 池田修・前田雅英『刑事訴訟法講義 [第5版]』(東大出版会、2015年)  
 上口裕『刑事訴訟法 [第4版]』(成文堂、2015年)  
 亀井源太郎・岩下雅充・堀田周吾・安井哲章・中島宏『プロセス講義刑事訴訟法』(信山社、2016年)  
 田宮裕『刑事訴訟法(新版)』(有斐閣、1996年)

注釈書

松尾浩也監修『条解刑事訴訟法 [第4版増補版]』(弘文堂、2016年)  
 河上和雄・中山善房ほか『大コンメンタール刑事訴訟法 [第2版]』全10巻  
 三井誠ほか『新基本法コンメンタール 刑事訴訟法 [第2版追補版]』(日本評論社、2017年)  
 後藤昭ほか『新・コンメンタール刑事訴訟法(第3版)』(日本評論社、2018年)

成績の評価基準

期末試験の成績...70%  
 毎回のワークシートの提出状況とその内容...30%  
 オンラインで実施される刑訴法関連の講演会等への参加レポート...10点を上限に加点

新型コロナウイルス感染症対策のため、期末試験に代えて学期末レポートで評価する。

法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワー

追って指定する。

アクティブ・ラーニング

ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中10回

備考 (受講要件)

自ら主体的に学び問う意欲のある者だけを「学生」と認める。

実務経験のある教員による実践的授業

実践演習（外国の法を学ぶ）（旧 法律学特殊講義（外国の法を学ぶ））  
ナンバリングコード

FHS-BBC2337

科目名

実践演習（外国の法を学ぶ）（旧 法律学特殊講義（外国の法を学ぶ））

英語名

Practice Seminar: Foreign Law

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

演習

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

松田忠大

099-285-7653

tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

経済活動のグローバル化が進展し、もはや地方の企業や公共団体であっても、渉外的な法律問題に直面することは少なくない。そこで、本授業では、英米法の基礎的知識を身につけるとともに、英語を用いた契約書の読解、英語による法的プレゼンテーション能力の育成を目指す。具体的には、英米法および法律英語の基礎知識を身につけた上で、カナダの大学（ヴィクトリア大学）にて、これらの知識を実際に活用するための研修を行う。なお、研修期間については、9月中の1週間程度を予定しています。この期間が決定次第、受講者に対して通知します。

学修目標

- （１）英米法の基本的な知識を身につける。
- （２）英文契約書を読み、その内容を理解することができる。
- （３）英語によるプレゼンテーションができるようになる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 英米法の基礎知識（１）
- 第3回 英米法の基礎知識（２）
- 第4回 英米法の基礎知識（３）
- 第5回 英文契約書の読解（１）
- 第6回 英文契約書の読解（２）
- 第7回～第15回 カナダ・ヴィクトリア大学における研修
- 第16回 報告会

授業外学習（予習・復習）

この授業では、海外研修（カナダ・ピクトリア大学）を予定しています。

教科書

授業開始時に指示します。

参考書

授業中に適時指示します。

成績の評価基準

授業への取り組み態度、レポートおよびプレゼンテーションを総合的に評価します。

オフィスアワ -

月曜4限（研究室）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中12回

備考（受講要件）

この授業では、カナダにおける学外研修が行われます。この研修には、20万円程度の費用がかかります。この研修に参加可能な学生のみ受講登録をしてください。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-BBC2330

## 科目名

民事訴訟法I (旧 民事紛争処理手続)

## 英語名

Civil Procedure I

開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
齋藤 善人		099-285-3526	saito@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	

## 授業概要

この授業では、大きな民事紛争解決手続の流れを把握するのみではなく、民事訴訟手続の各場面で生起する主要な論点にフォーカスし、条文の解釈や判例法理の検討を通して、重要な論点を考察し、理解する力を涵養したい。基本書を咀嚼できる読解力を身に着けるとともに、本格的なケース・メソッド（判例研究）への橋渡しを意図したケース・スタディの方式を通じて、時に演繹的に、また場合によっては帰納的に、民事訴訟法の基礎理論を学習するという方法論を採用したい。

その際、制度趣旨とか定義といった基本概念については、適宜簡明に説明することに留意し、基本的な概念と論点の関係を把握して思考できるような能力の開発に資するようにしたい。なお、基本的事項については、教科書や参考文献等を検索すれば、記されているところであり、その点で受講生各位の自学自習が不可欠の要素となる。それを前提に、授業の場では、できる限り判例教材などを用いて、論点を具体的に考察することを試みたい。もちろん、「考察する」ためには、必要最小限の正確な基礎学力（基本概念等の理解）が不可欠なことは承知しているが、授業が単なる知識の伝達に終始することは本旨でない。その意味で、所期の成果を達成し得る授業を構築するには、受講生各位の協力が是非とも必要となるだろう。

## 学修目標

民事訴訟法の主要な論点を素材に、自らテキストなど文献を検索し、それを正しく「読解する」ことができる。

民事訴訟法の主要な論点に係る条文を正確に「読む」ことができる。

民事訴訟法の主要な論点に関する判例法理を理解し、その内容を説明することができる。

民事訴訟法の主要な論点につき、基本概念や定義、判例を踏まえて思考回路を設計し、説明することができる。

## 授業計画

- 【1】はじめに / 民事の裁判とADR
- 【2】民事訴訟手続の概要
- 【3】訴えの提起（1）【審判の対象と訴訟物?】
- 【4】訴えの提起（2）【審判の対象と訴訟物?】
- 【5】訴えの提起（3）【裁判管轄と移送】
- 【6】訴えの提起（4）【送達 of 瑕疵と再審】
- 【7】訴え提起の効果（1）【重複訴訟の禁止 / 趣旨と要件】
- 【8】訴え提起の効果（2）【重複訴訟の禁止と相殺の抗弁】
- 【9】訴えの利益（1）【訴訟の3類型 / 権利保護の資格と必要性】

【10】訴えの利益(2)【確認の利益/遺言無効確認の訴え】

【11】当事者能力と当事者適格(1)【当事者の確定/権利能力なき社団の当事者能力/訴訟能力】

【12】当事者能力と当事者適格(2)【権利能力なき社団と登記手続請求権/第三者の訴訟担当】

【13】弁論主義(1)【主張ルール/自白ルール/主要事実と間接事実】

【14】弁論主義(2)【主張ルールと不意打ちの防止】

【15】弁論主義(3)【釈明権と法的観点指摘義務】

なお、上記の授業計画は、当面、Zoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する形で実施される。ただし、事情の変動により、授業の実施方法など変更を生じる可能性もあり得る。

#### 授業外学習(予習・復習)

ときに、テキスト・判例の読解など、予習準備を経ることを授業参加の前提とすることがある。その場合には、前週の授業において、テキストの該当箇所や判例を指定のうえ、その旨ノウテイスする。

#### 教科書

町村秀敏=佐野裕志=伊東俊明=齋藤善人=柳沢雄二=大内義三・民事訴訟法(北樹出版・平成30年)

#### 参考書

##### 【1】概説書

高橋宏志・民事訴訟法概論(有斐閣・平成28年)  
川嶋四郎・民事訴訟法概説[第2版](弘文堂・平成28年)  
和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法(商事法務・平成24年)  
山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法[第3版](有斐閣・平成30年)

##### 【2】定評のある体系書

高橋宏志・重点講義民事訴訟法(上)[第2版補訂版]、(下)[第2版補訂版](有斐閣・平成25、26年)  
伊藤眞・民事訴訟法[第6版](有斐閣・平成30年)  
川嶋四郎・民事訴訟法(日本評論社・平成25年)  
河野正憲・民事訴訟法(有斐閣・平成21年)  
小島武司・民事訴訟法(有斐閣・平成25年)  
新堂幸司・民事訴訟法[第5版](弘文堂・平成23年)  
中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義[第3版](有斐閣・平成30年)  
藤田広美・講義民事訴訟[第3版](東大出版会・平成25年)  
藤田広美・解析民事訴訟[第2版](東大出版会・平成25年)  
松本博之=上野泰男・民事訴訟法[第8版](弘文堂・平成27年)  
三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGAL QUEST民事訴訟法[第3版](有斐閣・平成30年)

##### 【3】注釈書

秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタール民事訴訟法1[第2版追補版]、2[第2版]、3、4、5、6(日本評論社・平成26、18、20、22、24、26年)  
松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法[第2版](弘文堂・平成23年)  
加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタール民事訴訟法1、2(日本評論社・平成30年)  
笠井正俊=越山和広編・新コンメンタール民事訴訟法[第2版](日本評論社・平成25年)

## 【4】学習用判例教材

小林秀之編・判例講義 民事訴訟法 (弘文堂・平成31年)

高橋宏志=高田裕成=畑瑞穂編・民事訴訟法判例百選 [第5版] (有斐閣・平成27年)

## 成績の評価基準

学期末に実施する「試験」により評価する。なお、授業の場で、予習対象の判例等につき、報告あるいは質疑応答を経由したときには、その都度プロセス評価として、+3から-3点の範囲で、試験の点数に加減することがある。

なお、法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

## オフィスアワー

## アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

## アクティブ・ラーニング(その他の内容)

予習を指示した課題についての質疑応答等。

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

各回の授業内容や進捗状況に応じて、適宜臨機応変に...

## 備考(受講要件)

受講生各位が、判例等を素材にして具体的に「考える」作業に取り組む授業にできれば理想的だろう。判例の事案を理解するには、多くの場合、その前提として、民法(主に財産法)の基本的理解を要するはずなので、受講生各位には、その部分の事前学習も求められよう。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2316			
科目名			
法社会学			
英語名			
Socio-Legal Studies			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
米田憲市			kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp (subject欄に、科目名、氏名、学籍番号を必ず記載すること)
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>「法社会学」とは、法やルールの社会的性質をその状況的事実とともに明らかにすることを志向し、理解を深めようとする研究実践とその成果の総体の呼称である。</p> <p>この授業では、法社会学の学問分野の成立・背景から現在までの変遷、法社会学の「教科書」の比較、よく取り上げられる研究主題、法制度にかかるドキュメント、法制度から卑近なルールに至るまでの実証研究などを取り上げる。</p>			
学修目標			
<p>この授業を通じて、法社会学が法に関する研究分野の中で最も自由な性質を持つ分野であることを実感してもらい、「法についての知的で体験的で実践的な冒険」の一端に触れて、法やルールに関わる場面についての観察力、分析力、説明力を高めることを目標とする。</p>			
授業計画			
<p>第1講 ガイダンス：法社会学の研究主題</p> <p>第2講 法専門職</p> <p>第3講 法サービスの提供 / 確保</p> <p>第4講 日本の法社会学の沿革</p> <p>第5講 法社会学の教科書のいろいろ</p> <p>第6講 法と権力</p> <p>第7講 法と文化</p> <p>第8章 法と言語：立法過程・公文書作成・法解釈を手がかりに</p> <p>第9講 実践演習：事例問題から洞察力を鍛える</p> <p>第10講 ビデオ教材による演習(1)</p> <p>第11講 ビデオ教材による演習(2)</p> <p>第12講 ビデオ教材による演習(3)</p> <p>第13講 ビデオ教材による演習(4)</p> <p>第14講 組織論から見る裁判官制度</p> <p>第15講 約束を守る / が守られるという事態と社会組織</p>			
履修者数が過大、過小の場合には、授業の内容を変更することがある。			
課題提出型、オンデマンド型、リアルタイム型を併用します。			
授業外学習 (予習・復習)			
この科目専用のCMS (manabaやrespon等) を活用し、事前の学習や課外時間の提出を求めることがある。			
教科書			
指定しない。			
参考書			
村山 眞維, 濱野 亮 『法社会学 第3版 (有斐閣アルマ)』 有斐閣(2019)			

ISBN-10: 4641124760 / ISBN-13: 978-4641221246

宮澤節生, 武蔵勝宏, 上石圭一, 大塚浩 『ブリッジブック法システム入門〔第4版〕 法社会的アプローチ』 信山社 (2018)

ISBN-10: 4797223405 / ISBN-13: 978-4797223408

和田仁孝編 『法社会学(NJ叢書)』 法律文化社(2006)

ISBN-10: 4589029774 / ISBN-13: 978-4589029775

ほか

木佐 茂男, 宮澤 節生, 佐藤 鉄男, 川嶋 四郎, 水谷規男 『テキストブック現代司法 第6版』 日本評論社 (2015)

#### 成績の評価基準

最終試験：60%（特徴のある方法で実施するので、授業で説明をよく聞くこと。）

提出物（ネット上のコメントなどを含む）：20%

その他：授業の充実への貢献などで20%

#### オフィスアワー

随時。上記連絡先でアポを取ることが望ましい。

#### アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

#### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

双方向多方向の議論、ICTを活用した教員・受講者間のコミュニケーション、学生による成果発表

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

全授業をアクティブラーニング型授業として実施する。

#### 備考（受講要件）

同時間に開講されている実定法科目がある場合、そちらの履修を優先すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
法哲学（旧 法理論）			
英語名			
Legal Philosophy			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
福原明雄			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>法哲学の主たる問題領域のうち、正義論を扱う。</p> <p>本講義では、主に1970年代のアメリカに端を発する現代正義論と呼ばれる分野の議論を扱う。そこでは具体的な喫緊の現実的な課題を背景にしながら、高度に抽象的な概念による議論が展開されてきた。講義では、その内容を概観し、どのような言葉によって何を論じようとしてきたのかを追いかけることによって、問題を扱うための言葉の使い方、論理的な議論の組み立て方を学んでほしい。</p> <p>現代において問題になっている様々な事柄や提言にも触れながら講義を進めていく予定である。</p> <p>（ 昨年度までと担当者・内容が変更になっているので注意すること）</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代正義論の理解を深めること</li> <li>・何が問題になっているのかを的確に把握し、理解する能力を養うこと</li> <li>・自らの考えを論理的に展開する能力を養うこと</li> </ul>			
授業計画			
<p>【授業計画(1回目)】</p> <p>ガイダンス：講義の紹介（内容・スケジュール・講義の受け方・評価方法などの説明）【リアルタイム・オンライン】</p> <p>【授業計画(2回目)】</p> <p>分配についての問題状況【オンデマンド】</p> <p>【授業計画(3回目)】</p> <p>正義論の基礎（1）【オンデマンド】</p> <p>【授業計画(4回目)】</p> <p>正義論の基礎（2）【オンデマンド】</p> <p>【授業計画(5回目)】</p> <p>功利主義（1） 【オンデマンド】</p> <p>【授業計画(6回目)】</p> <p>功利主義（2） 【オンデマンド】</p> <p>【授業計画(7回目)】</p> <p>功利主義（3） 【オンデマンド】</p> <p>【授業計画(8回目)】</p> <p>ロールズの正義論 【オンデマンド】</p> <p>【授業計画(9回目)】</p> <p>平等論の展開 【オンデマンド】</p> <p>【授業計画(10回目)】</p> <p>多様な平等論 【オンデマンド】</p> <p>【授業計画(11回目)】</p> <p>平等論からの展開 【オンデマンド】</p>			

## 【授業計画(12回目)】

リバタリアニズム(1)【オンデマンド】

## 【授業計画(13回目)】

リバタリアニズム(2)【オンデマンド】

## 【授業計画(14回目)】

概念の関係の整理【オンデマンド】

## 【授業計画(15回目)】

まとめと質疑【リアルタイム・オンライン予定】

講義の進捗に合わせて前後する可能性がある

## 授業外学習（予習・復習）

レジュメをあらかじめ配布するので、目を通すこと。（可能であれば）関係箇所について教科書でいくらかの知識を蓄えてから講義を視聴することを推奨する（60分程度）。

但し、以下に示した教科書に沿って講義するわけではないので注意すること（学習上、最も適切である教科書的書籍を示した）。

各主題に関する参考書籍は都度、紹介するので、適宜参照すること。

それなりに複雑な内容が音声とホワイトボードだけの講義で展開されるので、オンデマンドの利点を生かし、繰り返し視聴して理解を深めること。

## 教科書

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕（2014）『法哲学』有斐閣

## 参考書

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和（2019）『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社

## 成績の評価基準

期末に行う筆記試験による（100％）。ただし、情勢を鑑みて期末のレポート（100％）で代替することがある。

## オフィスアワ -

## アクティブ・ラーニング

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

## 備考（受講要件）

特に要件はないが、それなりに複雑なことを論じるので、心して受講されたい。

講義期間中に質問に答える場（オンライン？動画配信？）を作る予定である。詳細は講義開始以降、受講者に連絡する。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
行政法総論I (旧 行政の法システム)			
英語名			
Administrative Law I			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
森尾成之			
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>講学上の行政法総論とよばれる分野の中で、行政作用法という分野の講義を中心に行う。国内法体系は、憲法を頂点として、私的な当事者間の相対的な利害調整を行う民事法、犯罪・刑罰に関する刑事法と、多数者間の利害を調整する行政法の3分野に大きく分類されます。</p> <p>この中の、行政法の総論（救済法を除く）の前半部分が本講の対象です（後半は行政法総論II）。</p>			
学修目標			
<p>(1) 法治行政の仕組みについて理解する</p> <p>(2) 行政が行政目的の実現のために私人に働きかける各種手段とその限界につき理解する</p>			
授業計画			
<p>第1回：行政法入門（1）</p> <p>第2回：行政法入門（2）</p> <p>第3回：行政法入門（3）</p> <p>第4回：行政・行政法とは何か</p> <p>第5回：行政組織</p> <p>第6回：行政法規の諸形式、訓令・通達</p> <p>第7回：法治行政</p> <p>第8回：行政立法</p> <p>第9回：行政行為（1）行政行為の効力</p> <p>第10回：行政行為（2）行政行為の種類と附款</p> <p>第11回：行政行為（3）行政行為と裁量</p> <p>第12回：行政行為（4）行政行為の無効と取消</p> <p>第13回：行政行為（5）行政行為の取消と撤回</p> <p>第14回：行政計画</p> <p>第15回：私人による行政</p> <p>定期試験</p>			
授業外学習（予習・復習）			
毎回の講義の前にテキストの該当箇所を目を通し、講義後に講義の内容につきご確認ください。			
教科書			
野呂充＝野口貴公美＝飯島淳子＝湊二郎『行政法』（有斐閣、2020年）			
参考書			
<p>大橋洋一『行政法1 第4版』（有斐閣、2019年）</p> <p>宇賀克也＝交告尚史＝山本隆司編『行政判例百選1 第7版』（有斐閣、2017年）</p> <p>村上裕章＝下井康史編『判例フォーカス行政法』（三省堂、2019年）</p> <p>原田大樹『グラフィック行政法入門』（新世社、2017年）</p> <p>大橋洋一『社会とつながる行政法入門』（有斐閣、2017年）</p>			
藤田宙靖『行政法入門[第7版]』（有斐閣、2016年）			

芝池義一 = 太田直史 = 北村和生 = 山下竜一編 『判例行政法入門〔第6版〕』(有斐閣、2017年)  
 高橋滋編著、野口貴公美 = 磯部哲 = 薄井一成 = 大橋真由美 = 織朱美 = 岡森識晃 = 小舟賢 = 服部麻理子 = 寺田麻佑 = 周せい 『行政法 Visual Materials』(有斐閣、2014年)  
 石川敏行 = 藤原静雄 = 大貫裕之 = 大久保規子 = 下井康史 『はじめての行政法(第4版)』(有斐閣、2015年)  
 宇那木正寛 『自治体政策立案入門』(ぎょうせい、2015年)  
 藤田宙靖 『行政法入門[第6版]』(有斐閣、2013年)  
 塩野宏 『行政法1 行政法総論第6版』(有斐閣、2015年)  
 櫻井敬子 = 橋本博之 『行政法 第5版』(有斐閣、2016年)  
 原田尚彦 『行政法要論〔全訂第7版補訂版〕』(学陽書房、2011年)  
 宇賀克也 『行政法』(有斐閣、2012年)  
 宇賀克也 『行政法概説1 行政法総論〔第6版〕』(有斐閣、2017年)  
 阿部泰隆 『行政法解釈学1』(有斐閣、2008年)  
 曾和俊文 『行政法総論を学ぶ』(有斐閣、2014年)  
 曾和俊文 = 山田洋 = 亘理格 『現代行政法入門(第3版)』(有斐閣、2015年)  
 山本隆司 『判例から探究する行政法』(有斐閣、2012年)  
 亘理格 = 北村喜宣編、村上裕章 = 人見剛 = 須藤陽子 = 前田雅子 = 藤谷武史著 『重要判例とともに読み解く 個別行政法』(有斐閣、2013年)  
 高田敏 『新版行政法 法治主義具体化法としての』(有斐閣、2009年)  
 畠山武道 = 下井康史 『はじめての行政法(第二版)』(三省堂、2012年)  
 北村和生 = 佐伯彰洋 = 佐藤英世 = 高橋明男 『行政法の基本(第5版)』(法律文化社、2014年)  
 稲葉馨 = 人見剛 = 村上裕章 = 前田雅子 『Legal Quest 行政法(第4版)』(有斐閣、2015年)  
 中原茂樹 『基本行政法(第3版)』(日本評論社、2017年)  
 磯部力 = 小早川光郎 = 芝池義一編 『行政法の新構想1 行政法の基礎理論』(有斐閣、2011年)

成績の評価基準

期末試験を基本とする。

法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

オフィスアワー

質問は、講義終了後に受け付け、適宜対応する。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中3回

備考(受講要件)

六法必携, シラバスの内容は若干変更することもある。

オンラインで授業を行う

実務経験のある教員による実践的授業

行政法総論II (旧 法律学特殊講義 (行政の法システム特論))  
ナンバリングコード

科目名

行政法総論II (旧 法律学特殊講義 (行政の法システム特論))

英語名

Administrative Law II

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

森尾成之

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

国内法体系は、憲法を頂点として、私的な当事者間の相対的な利害調整を行う民事法、犯罪・刑罰に関する刑事法と、多数者間の利害を調整する行政法の3分野に大きく分類されます。

この中の、行政法の総論(救済法を除く)の後半部分が本講の対象です(前半は行政法総論I)。

学修目標

行政法総論分野の後半部について理解を深めることを目標とする。

授業計画

第1回: はじめに

第2回: 行政手続(1)(比較法的沿革、制定法準拠主義)

第3回: 行政手続(2)(行政手続法概観、パブリックコメント、ノーアクションレター)

第4回: 行政指導

第5回: 行政契約

第6回: 民事執行と行政上の強制執行

第7回: 行政代執行、行政上の強制徴収

第8回: 行政罰

第9回: 即時強制

第10回: 誘導

第11回: 行政情報の収集(行政調査、公益通報者保護)

第12回: 行政情報の管理(個人情報保護、公文書管理法、特定秘密保護法)

第13回: 行政情報の利用(番号法、住民基本台帳法など)

第14回: 行政情報の公開(情報公開制度、請求手続、開示要件など)

第15回: おわりに

定期試験

授業外学習(予習・復習)

教科書と判例の該当箇所を読み、授業終了後に講義内容とともに復習すること。

教科書

野呂充=野口貴公美=飯島淳子=湊二郎『行政法 第2版』(有斐閣、2020年)

宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選1 第7版』(有斐閣、2017年)

参考書

村上裕章=下井康史編『判例フォーカス行政法』(三省堂、2019年)

大橋洋一『行政法1 第4版』(有斐閣、2019年)

阿部泰隆『行政法解釈学1』(有斐閣、2008年)

阿部泰隆『行政法再入門 上』(信山社、2015年)

櫻井敬子=橋本博之『行政法〔第6版〕』(弘文堂、2019年)

高木光『行政法』(有斐閣、2015年)

成績の評価基準

オンラインで授業する。

小課題と冬休みに課すレポートで評価する。

行政法総論II (旧 法律学特殊講義 (行政の法システム特論))

法学コースの学生については、秀 (90 点以上) とする人数の上限を成績評価対象者 (他コース・他学科に所属する学生を除く) の20%以内とする。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

平成28年度以前入生は「法律学特殊講義 (行政の法システム特論)」として読み替えるため履修可能。行政法総論I (旧 行政の法システム) を受講していることを前提として講義をする。

六法必携, シラバスの内容は若干変更することもある。

オンラインで授業を行う。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
法史学			
英語名			
Legal History			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
石川英昭			
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		前後期	
		前期	
授業概要			
主としてヨーロッパの法思想を中心に、アメリカおよび中国古代の法思想を加えて、現代までの法思想の歴史的展開を講義する。			
学修目標			
主として自然法論の歴史的展開を知ること、様々な法及び正義についての理解が可能であることを認識させ、法についての各自自身の考えを深めることを目的とする。			
授業計画			
1. 法思想史について 2. 自然法論について 3. ギリシャ時代の自然法思想 4. ローマ時代の自然法思想 5. 中国古代の法思想 1 6. 中国古代の法思想 2 7. 中世期の法思想 1 8. 中世期の法思想 2 9. 近世・ルネサンス期の法思想 10. 理性の時代と自然法思想 1 11. 理性の時代と自然法思想 2 12. 観念論と実証主義時代の法思想 1 13. 観念論と実証主義時代の法思想 2 14. 現代自然法論 1 15. 現代自然法論 2 16. 期末試験			
授業外学習 (予習・復習)			
参考文献を読むこと。 レポートには十分な時間を準備すること。			
教科書			
なし			
参考書			
講義中に適宜指示する。			
成績の評価基準			
質問・レポート (テーマは授業中に示す。) と学期末試験の総合判定による。 配点は、質問への解答・レポート40点、学期末試験60点とするが、事情によって配分を変更する。			
オフィスアワー			
授業中及び授業後に適宜行う。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

欠席は、理由の如何を問わず3回までとする。4回目からの欠席で、学期末試験の受験を認めない。  
遅刻3回で、1回の欠席とする。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
刑事政策			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
武内謙治		092 ( 802 ) 5362	takeuchi@law.kyushu-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>この集中講義は、オンラインで実施します。リアルタイム（同期）型を主としますが、何度も確認しておく必要がある基本的な部分についてはオンデマンド（非同期）型を併用することがあります。</p> <p>また一方的な知識の伝達だけでなく、対話を通した双方向の授業を目指します。</p> <p>「ここに家があります。この家は修理、改築または建替えが必要でしょうか。それが必要であるか否かはどのように判断すればよいでしょうか。また、それが必要であるとして、どこをどのように、どのような方法で修理・改築・建替えを行えばよいでしょうか。それは、修理で済みそうでしょうか、改築まで必要でしょうか、それとも建替えまで行わなければならないでしょうか」</p> <p>この「家」を「刑事司法制度」に置き換えて下さい。この授業で考えることは、ごくごく大ざっぱに言えば、これとほぼ同じことです。</p> <p>具体的に言えば、この授業は、下記の事項を考えていきます。</p> <p>(1) 日本の刑事司法制度の基本構造と運用（現在の「家」の土台と構造）</p> <p>(2) 日本の犯罪現象（現在の「家」の修理・改築・建替えを促すもの）</p> <p>(3) 日本の刑事司法制度の改革課題（「家」の修理・改築・建替えの必要性とその方法・度合い）</p>			
学修目標			
<p>(1)以下の事項に関する基本的知識を修得すること</p> <p>(a)「犯罪」の原因と成行きについてどのようなとらえ方があるか</p> <p>(b)「刑罰」による「犯罪」対応としてどのような制度があるか、そこにはどのような課題があるか</p> <p>(c)「刑罰」と隣接する「犯罪」対応としてどのような制度があるか、そこにはどのような課題があるか</p> <p>(d)「犯罪者」の処遇にはどのようなものがあるか、そこにはどのような課題があるか</p> <p>(2)(1)の基本知識をもとに、現在の日本における刑事制度の意義と課題を具体的に考察できるようになること</p>			
授業計画			
<p>1日目:犯罪とは何か?</p> <p>01 刑事司法制度の概観・刑事政策とは何か</p> <p>02 犯罪統計の基礎と犯罪情勢</p> <p>03 犯罪の原因</p> <p>04 犯罪の原因とそれへの対応(刑罰論の基礎)・</p> <p>05 今日の復習</p> <p>2日目:刑罰・処分とは何か?</p> <p>06 生命刑</p> <p>07 自由刑</p> <p>08 財産刑</p> <p>09 保安処分、医療観察制度</p>			

10 今日の復習

3日目: 犯罪者処遇とは何か?

- 11 施設内処遇(1)
- 12 施設内処遇(2)
- 13 社会内処遇(1)
- 14 社会内処遇(2)
- 15 今日の復習

授業外学習(予習・復習)

事前に学修課題を提示します。教科書の関連箇所を読み、それに対する回答を準備しておいてください。

教科書

武内謙治 = 本庄武 『刑事政策学』(日本評論社、2019年)

参考書

法務省法務総合研究所編 『令和元年版・犯罪白書』

成績の評価基準

授業中の発言および授業への貢献度(40%)とレポート(60%)によります。上記の「学修目標」に即して成績評価を行います。

オフィスアワ -

集中講義のため特に設けません。この授業はオンラインで実施しますが、質問の時間をとるようにしますので、質問がある場合にはその時間を利用してください。また、メールによる質問も受け付けます。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

授業は、可能な限り双方性をもったものにします。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

オンラインで実施することになったことから、2020年7月16日にシラバスを内容を修正しました。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

法政特殊講義（国際家族法）

## 英語名

Special Lecture on Law, Policy and Political Science : International Family Law

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

2～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

眞砂康司

099 - 285-7630

masago@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

「リアルタイム配信授業」を行う。Zoom, manabaを用いる。

本講義は、国際私法の一部門である国際家族法の入門編的講義である。すなわち、本講義では国際結婚、国際離婚等の国境を越えて行われる家族法分野の生活関係に関する法選択問題を概観する。

## 学修目標

国際家族法の基本的知識の習得。

## 授業計画

「リアルタイム配信授業」を行う。Zoom, manabaを用いる。

授業形態について変更する場合は、その際にその内容等については別途報告する。

第1回 ガイダンス【リアルタイム型（Zoom, manaba）第2回以降も同じ】

第2回 国際私法とは何か

第3回 国際家族法とは何か

第4回 属人法

第5回 国籍法

第6回 国際結婚と法（1）実質的成立要件

第7回 国際結婚と法（2）形式的成立要件

第8回 国際結婚と法（3）効力

第9回 国際離婚と法（1）総論

第10回 国際離婚と法（2）効力

第11回 小括

第12回 国際的な親子関係と法

第13回 国際養子縁組と法

第14回 国際相続と法

第15回 小括

（上記はあくまで予定であり、一定限度の変更もありうる。）

## 授業外学習（予習・復習）

教科書等について次回の講義が行われる部分を予習しておくことが望ましい。また、すでに行われた講義内容については不明部分を質問することが望ましい。

## 教科書

澤木敬郎・道垣内正人著『国際私法入門』学説、判例の変更等もありうるので、最新版のみ用いる。注意すること。教科書は必携である。

## 参考書

適宜、指示します。

## 成績の評価基準

「リアルタイム配信授業」（Zoom, manaba）を行う。平常の授業態度を参考の上、授業中のテスト等やレポートその他について評価する。コロナ禍のため適宜変更の余地あり。

授業形態に加え、成績評価基準について変更する場合は、その際にその基準ないし方法等については別途報告する。

オフィスアワ -

木曜日・3時限・研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

3～4回に1回実施予定

備考（受講要件）

国際私法の基礎知識を習得していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
行政学			
英語名			
Public Administration			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/地域社会コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
森尾成之			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
行政学につき概説する。			
学修目標			
行政学の基礎を理解する。			
授業計画			
1 はじめに 行政学の対象 2 行政サービスの範囲と官僚制の展開 3 行政学説史と経営学との交錯 4 執政制度と内閣制度 5 中央省庁と政官関係 6 官僚制の特質と官僚制の生理(1)、日本の行政システム 7 官僚制の生理(2)と病理 8 官民関係の再編とNPM・新しい公共 9 国家公務員の採用・昇任・退職と天下り 10 中央省庁の予算編成と決算 11 中央地方関係と地方公務員 12 地方財政の制度と課題 13 大都市行政と広域行政 14 行政責任と行政統制 15 おわりに 社会科学としての行政学			
授業外学習(予習・復習)			
講義前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。講義終了後に適宜復習すること。			
教科書			
真淵勝『行政学案内[第2版]』(慈学社、2014年)			
参考書			
真淵勝『行政学〔新版〕』(有斐閣、2020年) 堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識(第3版)』(一藝社、2014年) 曾我謙悟『行政学』(有斐閣ARMA、2013年) 城山英明『国際行政論』(有斐閣、2013年) 佐々木信夫『日本行政学』(学陽書房、2013年) 西尾隆『現代行政学』(放送大学教育振興会、2012年) 村上弘=佐藤満編著『よくわかる行政学』(ミネルヴァ書房、2009年) 今村都南雄=武藤博己=沼田良=佐藤克廣『ホーンブック行政学(改訂版)』(北樹出版、2009年) 藤井浩司=縣公一郎編『コレク行政学』(成文堂、2007年) 森田朗『現代の行政』(放送大学教育振興会、2002年) 西尾勝『行政学[新版]』(有斐閣、2001年) 村松岐夫『行政学教科書 現代行政の政治分析(第二版)』(有斐閣、2001年) 西尾勝『行政の活動』(有斐閣、2000年) 足立忠夫『行政学[新訂]』(日本評論社、1991年) 村松岐夫編『新版 行政学講義』(青林書院、1985年)			
成績の評価基準			
出席を前提として授業終了時に適宜課す小課題で評価する。小課題を未提出か提出していても評価の対象から外すことを希望する者に限って期末レポートの提出のみにより評価する。			

オフィスアワ -

授業終了後にアポイントを受付、必要に応じて別途時間を設ける。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中3回

備考（受講要件）

特になし。

シラバスの内容は若干変更することもある。

オンラインで授業を行う。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
環境法			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/地域社会コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
兼平裕子		kanehira.hiroko.mk@ehime-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
Zoom授業に変更になりましたが、基本的なやり方は同じです。			
<p>(1) テキストに沿って作成したレジュメとパワーポイントを使って授業を進めます。</p> <p>(2) テキストの第1章から第8章までの内容以外に、地域問題として、産廃不法投棄事件やゼロ 웨스트、地球規模の問題として気候変動問題、エネルギー問題を取り上げます。</p> <p>(3) 人数が少ないので、双方向の授業ができれば、と思います(ビデオはオンにして顔をみせてください)</p>			
学修目標			
<p>(1)なぜ環境を守る必要があるのか。</p> <p>(2)法は環境を守ることができるのか。</p> <p>(3)これまでの経済発展のなかで環境問題はどのように扱われ、どのような解決方法が模索されてきたのか。</p> <p>(4)環境法の手法・紛争解決方法には民事的アプローチと行政的アプローチがある。</p> <p>(5)全ての人々が加害者であり、かつ、被害者になる地球規模の環境問題に対してどのような対処方法があるのか。</p> <p>(6)現代世代としての私たちは、将来世代に対してどのような責任があるのか。</p>			
授業計画			
<p>(1) 序幕 環境法への誘い</p> <p>(2) 第1章 自然保護</p> <p>(3) 第2章 廃棄物リサイクル</p> <p>(4) 豊島産業廃棄物不法投棄事件</p> <p>(5) 第3章 大気汚染・温暖化</p> <p>(6) 地球温暖化交渉&amp;パリ協定</p> <p>(7) 第4章 原子力の利用と安全確保</p> <p>(8) 電力自由化と福島原発事故</p> <p>(9) 第5章 環境法の基本計画</p> <p>(10) 第6章 環境保全の担い手</p> <p>(11) 第7章 環境保全の手法</p> <p>(12) 産業廃棄物資源化&amp;ゼロ 웨스트(ノバスコシア&amp;徳島・上勝町)</p> <p>(13) 第8章 環境紛争とその解決手法?</p> <p>(14) 第8章 環境紛争とその解決手法?</p> <p>(15) 日本の再生可能エネルギーは何故すすまないのか</p> <p>( はテキスト以外の内容です)</p>			
授業外学習(予習・復習)			
特にありません。			
教科書			
交告尚史 = 臼杵知史 = 前田陽一 = 黒川哲志著 『環境法入門[第4版]』(有斐閣アルマ)			

## 参考書

## 成績の評価基準

レポートで評価します。

## オフィスアワ -

質問のある学生さんは上記メールアドレスに連絡ください。

## アクティブ・ラーニング

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

## 備考（受講要件）

（受講生のみなさんへ）

直接おあいできませんが、それでも楽しくやりましょう。コロナ禍でも地球環境は、日々悪化しています。環境保全について、Think globally, Act locallyをモットーに知識を実践に変えてください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2323			
科目名			
債権法III(旧 債権法)			
英語名			
Debtor and Creditor III			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
采女博文			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>授業の範囲は、債権法総論〔民法第3編債権第1章(399条~520条)〕である。内容は、債権の目的、債権の効力、債権の移転、債権の消滅である。債権法総論部分は抽象度の高い規範の集合体であるから、具体的事例の検討も行う(要件事実論の入門を含む)。また、契約法(債権法I)、不法行為法(債権法II)と関連づけて債権法・民法全体の理解度を深めるものとする。</p>			
学修目標			
<p>1. 債権法総論部分の知識(各制度の趣旨, 法律要件と法律効果)を修得する。民法総則、物権法で修得した知識との連続性、総合性のある知識の修得を目標とする。</p> <p>2. 民法全体(民法総則、物権法を含む)を見渡しながら法的な判断ができる能力、規範=ルールを発見する能力を涵養する(法の解釈)。</p> <p>3. ルールを具体的な事件にあてはめて結論を出す実際的能力を身につける(法の適用)。</p>			
授業計画			
<p>第1回 債権法の構造, 債権目的  第2回 種類物債権と特定物債権  第3回 弁済の提供と受領遅滞  第4回 債務の履行(履行請求権, 履行の強制), 第三者による債権侵害, 債務不履行(要件論)  第5回 債務不履行責任(効果論: 損害賠償の範囲、代償請求権)  第6回 責任財産の保全(債権者代位権)  第7回 債権者取消権1(導入、要件論)  第8回 債権者取消権2(効果論)  第9回 多数当事者の債権債務関係、連帯債権、連帯債務  第10回 保証債務1(導入)  第11回 保証債務2(応用, 事例検討)  第12回 個人根保証契約、事業に係る債務についての保証契約  第13回 債権譲渡1(導入)  第14回 債権譲渡2、事例検討)、債務引受、有価証券  第15回 債権の消滅(代物弁済、相殺、弁済による代位、更改・免除・混同など)</p> <p>* 新型コロナ対応のため、オンデマンド授業となります。</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習 事前に指示された各回の教科書と配付資料の該当箇所を通読する。授業は予習を前提にして進行させる。</p> <p>復習 各回での設例に解答してみる。解答例は配付資料で示します。</p>			
教科書			
柳/采女編『債権法総論(第3版)』(嵯峨野書院, 2019)			
参考書			
<p>潮見義男・債権総論(第5版)信山社, 2018  そのほか、講義中に指示する。</p>			
成績の評価基準			

「定期試験」(80%)、「到達度確認小テスト」(20%)の合計点による。学生の到達度を確かめながら授業を進行させるために、適宜、小テストを実施し、成績評価に反映させる。試験時には六法を持ち込める。ただし判例・解説の付いていないものに限る。

法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

\*遠隔授業実施及び期末試験方法の変更に伴い、成績の評価基準は変更します。

#### オフィスアワ -

月曜、水曜日の昼休み時間、法文学部1号館6階共同演習室で対応する。

#### アクティブ・ラーニング

その他;

#### アクティブ・ラーニング(その他の内容)

授業中の質疑応答として、原告・被告側双方の立場で論理を展開することを求める。

#### アクティブ・ラーニング(授業回数)

原則として毎回試みる。

#### 備考(受講要件)

民法総則、物権法を履修していることが望ましいが、必須ではない。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC3311			
科目名			
商取引法I (旧 企業取引法)			
英語名			
Commercial Transactions Law I			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
松田忠大		099-285-7653	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
この授業では、商取引の基礎をなす商法総則および商行為法についての基礎的事項を講義する。			
学修目標			
(1) 商法総則・商行為法の基本的な考え方を理解する。			
(2) 各授業項目の基礎的事項を理解する。			
(3) この分野の基本的な法律問題に適切な条文を当てはめ、自分なりの解決策を提案できるようになる。			
授業計画			
第1回 商法の学び方 (課題提出型)			
第2回 商法の意義・商法の法源とその適用 (課題提出型)			
第3回 商人の意義 (オンライン・オンデマンド型)			
第4回 商号 (オンライン・オンデマンド型)			
第5回 商業使用人 (オンライン・オンデマンド型)			
第6回 営業譲渡 (オンライン・オンデマンド型)			
第7回 商業登記 (オンライン・オンデマンド型)			
第8回 商業帳簿 (オンライン・オンデマンド型)			
第9回 代理商 (オンライン・オンデマンド型)			
第10回 商行為の概念 (オンライン・オンデマンド型)			
第11回 商行為の特則 (オンライン・オンデマンド型)			
第12回 商事売買・交互計算 (オンライン・オンデマンド型)			
第13回 仲立営業 (オンライン・オンデマンド型)			
第14回 問屋営業 (オンライン・オンデマンド型)			
第15回 場屋営業・倉庫営業 (オンライン・オンデマンド型)			
授業外学習 (予習・復習)			
予習として、各講義項目に対応する教科書の記述を読むこと。また、復習として、各講義項目について、講義の内容を踏まえて、各自でまとめをすること。			
教科書			
藤田勝利・北村雅史編『プライマリー商法総則商行為法』〔第4版〕(法律文化社・2018)			
参考書			
神作裕之・藤田友敬編『商法判例百選』(有斐閣・2019)			
成績の評価基準			
期末試験(筆記)80%に、レポート点(20点)および授業への取組状況を評価して加算する。			
オフィスアワー			
月曜4限			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-BBC2337

## 科目名

商取引法II(旧 法律学特殊講義(海商法))

## 英語名

Commercial Transactions Law II

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

3~4年

## 担当教員

## 連絡先(TEL)

## 連絡先(MAIL)

松田忠大

099-285-7653

tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

この講義では、「商行為法」の一部(運送営業)と「海商法」の分野について取り扱います。海商法は海上物品運送を中心とした海上活動を対象とする法分野です。あまり知られていない法分野かもしれませんが、わが国の経済は、国際貿易に支えられており、多くの企業が海上運送に頼って活動しています。したがって、海商法は、海上運送企業のみならず、様々な業種の企業実務に密接に関連しています。海商法の歴史は古く、また、海上運送を中心とする海上活動は、広い海をその舞台とし、諸外国との間で行われることが多いことから、国際性をも兼ね備えた法分野でもあります。この授業では、海商法の基本概念を理解するとともに、海上物品運送契約の内容、海上運送人の責任制度、その他海上航行に関する法制度等を学習します。

## 学修目標

- (1) 海商法に関する基本的な知識を身につける。
- (2) 商取引法の基礎理論を理解する。
- (3) 商取引の観点からの法的思考能力を身につける。

## 授業計画

この授業は基本的には、遠隔方式で実施予定であるが、場合によっては対面方式に変更となる可能性がある。なお、授業形態を変更する場合には、予めmanabaのコースニュースや授業時間等に通知する。

第1回：授業ガイダンス・商事売買(1)【リアルタイム型+オンデマンド型】

第2回：商事売買(2)・仲立人【リアルタイム型+オンデマンド型】

第3回：問屋営業【リアルタイム型+オンデマンド型】

第4回：運送契約の意義【リアルタイム型+オンデマンド型】

第5回：運送契約の効力【リアルタイム型+オンデマンド型】

第6回：運送人の責任【リアルタイム型+オンデマンド型】

第7回：海商法の意義【リアルタイム型+オンデマンド型】

第8回：海商法上の船舶【リアルタイム型+オンデマンド型】

第9回：船舶運航の主体と補助者(1)【リアルタイム型+オンデマンド型】

第10回：船舶運航の主体と補助者(2)【リアルタイム型+オンデマンド型】

第11回：船舶所有者の責任制限【リアルタイム型+オンデマンド型】

第12回：海上物品運送契約の意義・種類【リアルタイム型+オンデマンド型】

第13回：船荷証券の意義・船荷証券の効力【リアルタイム型+オンデマンド型】

第14回：運送契約の履行・海上運送人の責任【リアルタイム型+オンデマンド型】

第15回：船舶の衝突【リアルタイム型+オンデマンド型】

## 授業外学習(予習・復習)

予習として、各講義項目に対応する教科書の記述を読むこと。また、復習として、各講義項目について、講義の内容を踏まえて、各自でまとめをすること。

## 教科書

藤田勝利・北村雅史編『プライマリー商法総則商行為法』〔第4版〕(法律文化社・2018)

箱井崇史『基本講義 現代海商法』〔第3版〕(成文堂・2018)

## 参考書

神作裕之・藤田友敬編『商法判例百選』(有斐閣・2019)

成績の評価基準

期末試験(80%)とレポート・授業への取り組み態度(20%)を加味して評価します。

オフィスアワ -

火曜3限(研究室)

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中5回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

実践演習（模擬裁判）（旧 法律学特殊講義（模擬裁判））  
ナンバリングコード

科目名

実践演習（模擬裁判）（旧 法律学特殊講義（模擬裁判））

英語名

Practice Seminar : Practical Training on Criminal Trial

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

演習

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

原田いづみ 中島宏

099-285-7633(中島)

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp (中島)

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

模擬裁判を実施することを通じて、裁判の仕組みや考え方を体験的に理解するとともに、具体的な事件を解決するための法的思考能力と表現力を養う。実際の事件記録をベースにした素材に、実際の刑事事件の処理に準じた活動（起訴状の作成、証拠と争点の整理、冒頭陳述、証人尋問、被告人質問、論告、弁論、評議、判決の作成・言い渡しなど）を行う。

学修目標

1. 刑事裁判とはどのようなものかを知る。
2. 刑事裁判の流れと刑事訴訟法の条文の確認（条文の文言や法律の原理・原則を実際の3. 訴訟行為に結びつけて理解する）。
4. 具体的な事案において、どのような事実があれば犯罪が成立するのかを判断できるようになる。
5. 具体的な事案において、どのような証拠によって事実を認定するのかを理解する。
6. 法廷という空間の臨場感を疑似体験する。
7. 裁判で明らかになる真実は本当の真実ではなく、裁判所に見えた真実であることを理解する。

授業計画

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う措置のため、遠隔授業を実施する。manabaによる課題提出を基本としながら、要所でzoomによるオンラインミーティングやオンデマンドでの動画視聴を採り入れます。

- 第1回 自己紹介と進行計画の策定 【オンライン型】
- 第2回 公判手続きについての講義(1) 【オンデマンド型】
- 第3回 公判手続きについての講義(2) 【オンデマンド型】
- 第4回 模擬裁判映像の視聴 【オンデマンド・課題提出型】
- 第5回 記録配付・起訴状起案 【課題提出型・オンライン型】
- 第6回 実体法についての講義 【オンデマンド型】
- 第7回 弁護方針の策定 【課題提出・オンライン型】
- 第8回 班分け・冒頭陳述の作成 【課題提出・オンライン型】
- 第9回 証人尋問事項作成 【課題提出・オンライン型】
- 第10回 被告人質問事項作成 【課題提出・オンライン型】
- 第11回 証人尋問の実施 【オンライン型】
- 第12回 被告人質問の実施 【オンライン型】
- 第13回 評議（裁判所としてどう判断するか）【オンライン型】
- 第14回 判決起案 【課題提出型・オンライン型】
- 第15回 講評など 【オンライン型】

学生の学修状況に応じて適宜修正を加える。

授業外学習（予習・復習）

予習

授業外にグループごとに必要な書面を作成したり、方針を協議するなどの活動を行う必要がある。各回の内容によって異なるが、おおむね90分程度を予定されたい。

復習

次回の準備を行う前提として、前回の講義内容を振り替える必要がある。30分程度。

教科書

特に定めない。

参考書

- ・司法研修所刑事裁判教官室『プロシーディング刑事訴訟法』（法曹会）
- ・司法研修所刑事裁判教官室『プラクティス刑事訴訟法』（法曹会）
- ・司法研修所監修『刑事第一審公判手続きの概要』（法曹会）
- ・司法研修所検察教官室編『検察講義案』（法曹会）
- ・司法研修所編『刑事弁護実務』（日本弁護士連合会）
- ・前田雅英ほか編『条解刑法（第3版）』（弘文堂）
- ・松尾浩也監修『条解刑事訴訟法（第4版）』（弘文堂）
- ・大塚仁ほか編『大コンメンタール刑法 全13巻・別巻1（第2版）』（青林書院）（なお、第3版が順次刊行中）
- ・河上和雄ほか編『大コンメンタール刑事訴訟法〔第2版〕全11巻』（青林書院）
- ・伊藤栄樹ほか編『注釈刑事訴訟法〔新版〕』（立花書房）（なお、第3版が順次刊行中）
- ・大塚仁ほか編『新・判例コンメンタール刑法 全6巻・別巻』（三省堂）
- ・高田卓爾ほか編『新・判例コンメンタール刑事訴訟法 全6巻・別巻』（三省堂）
- ・小林充ほか編『刑事事実認定重要判決50選（上）（下）第2版』（立花書房）
- ・小林充ほか編『刑事事実認定（上）（下）』（判例タイムズ社）
- ・大塚仁ほか編『新実例刑法（総論）』（青林書院）
- ・池田修ほか編『新実例刑法（各論）』（青林書院）
- ・平野龍一ほか編『新実例刑事訴訟法I・II・III』（青林書院）
- ・松尾浩也ほか編『実例刑事訴訟法I・II・III』（青林書院）

成績の評価基準

平常点100%。作成・提出する書面等の内容、尋問・質問などの内容による。  
欠席は減点する。

オフィスアワー

追って指定する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

科目の内容に鑑みて、受講者を20名に制限する。受講希望者が多数の場合は、法律基本科目の履修歴等を考慮して選考を行う。履修希望者は履修登録をした上で、初回の講義日までに掲示される選考結果に注意すること。

在籍する学年までに配当されている刑法・刑事訴訟法関連の科目を履修済みまたは併行履修中であることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

法曹資格を有し弁護士としての実務経験を有する教員が他の教員と共同で担当する。

実践演習（模擬交渉）（旧 法律学特殊講義（模擬交渉））  
ナンバリングコード

科目名

実践演習（模擬交渉）（旧 法律学特殊講義（模擬交渉））

英語名

開講学科

法経社会学科法学コース

コース

法学コース

授業科目区分

法経社会・法学コース/選  
択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

原田いづみ、米田憲市

連絡先（TEL）

099-285-7651

連絡先（MAIL）

haradai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

法的紛争の解決手段として真っ先に思い浮かぶのは裁判ですが、示談、和解、調停など、話し合いによって解決される紛争も多く、今後このような解決手段の重要性はますます増していきます。そのような中で必要とされる交渉術の基礎を学びます。本演習で学ぶ交渉の理論や技術は、法曹のみならず社会に出た後、すべての職業に就く社会人が仕事をする上で、また、生活をしていく上で役立ちます。

学修目標

1. 社会において交渉がどのような場面で出てくるか知る。
2. 交渉の理論や構造を学び、概要を説明できるようになる。
3. 法的交渉を含む様々な交渉技術を、模擬交渉の中で実践することを通じて、交渉技能を高める。
4. 交渉の成果を文書にまとめるスキルを身につける。

授業計画

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 社会において交渉が出てくる場面
- 第3講 交渉に関する一般理論
- 第4講 法的交渉の場面
- 第5講 交渉実習（1）
- 第6講 交渉実習（2）
- 第7講 交渉実習（3）
- 第8講 振り返り
- 第9講 交渉成果の文書作成（1）
- 第10講 交渉実習（1）
- 第11講 交渉実習（2）
- 第12講 交渉実習（3）
- 第13講 振り返り
- 第14講 交渉成果の文章作成（2）
- 第15講 まとめ

課題提出型、オンデマンド型、リアルタイム型を併用します。

授業外学習（予習・復習）

1週間前に予習課題を提示

教科書

参考書

随時紹介する。

ロジャー フィッシャー（著）、ウィリアム ユーリー（著）、『ハーバード流交渉術』三笠書房知的生き方文庫（1989）

小林秀之編『交渉の作法 法交渉学入門』弘文堂（2012）

小島武司編『法交渉学入門』商事法務（1991）

太田勝造・野村美明編『交渉ケースブック』商事法務（2005）

大田勝造ほか編『ロースクール交渉学』白桃書房（2005）

成績の評価基準

講義への参加、出席時の発言、実習や文章作成、課題回答の内容

オフィスアワ -

随時。要事前アポ（メール）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

模擬交渉の場면을ビデオ撮影して、振り返りに用いる。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

交渉の実習を内容とするため、最低2名の受講生をもって開講とする。

実務経験のある教員による実践的授業

教員の一人は弁護士（法曹資格者）である。

## ナンバリングコード

FHS-BBC3315

## 科目名

租税法（旧 税の法システム）

## 英語名

Tax Law

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

3～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

鳥飼貴司

099-285-7623

torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

全授業回遠隔形式で行う予定である。

税務争訟（異議申立・審査請求・訴訟）分野について、その制度や手続、訴訟となった場合の留意点や「闘いかた」を解説し、「納税者の権利」を重視した税法の適用・解釈について講義する。

「基本原理編」では、勝訴のコツとして、税務争訟に必要な民事訴訟法の四つの基本原理を説明する。

とくに、税法解釈（一般の法学における趣旨解釈と文理解釈、税法における文理解釈優先の原則、借用概念の解釈と固有概念の解釈との違い等）、及び事実認定（要件事実の主張、間接事実の主張、立証責任の分配、証明の程度 本証と反証等）のポイントを解説する。

「事例編」では、「基本原理編」で述べたポイント、勝訴のコツを、民法総則～家族法までの具体的事例にあてはめて体得してもらう。

## 学修目標

1. 各税法の基本的な仕組みを理解する。
2. 税法の諸問題について理解を深める。

## 授業計画

全授業回「オンデマンド配信授業」の予定である。例外的な状況になった際には、予めmanabaのコースニュースで告知する。

第1回 ガイダンス/税法の全体構造

第2回 租税とは。

第3回 税法の法体系

第4回 所得税法

第5回 法人税法

第6回 相続税法

第7回 消費税法

第8回 地方税法

第9回 税務行政法

第10回 勝訴のコツ 基本原理編

- 1 税法・税務争訟に必要な「民事訴訟法の基本原理」
- 2 民事訴訟法の基本原理の第1（法の世界は「要件 効果システム」）
- 3 民事訴訟法の基本原理の第2（訴訟の三段構造）
- 4 民事訴訟法の基本原理の第3（「法律上の主張」の三つのポイント）
- 5 民事訴訟法の基本原理の第4（「事実上の主張」と「立証」の四つのポイント）

第11回 事例で学ぶ税法解釈と事実認定

事例1 - 売買契約の存否：その1（売買と譲渡担保）

事例2 - 売買契約の存否：その2（売買と虚偽表示等）

事例3 - 契約の錯誤

事例4 - 契約の解除

第12回 事例で学ぶ税法解釈と事実認定

事例5 - 取得時効  
 事例6 - 消滅時効  
 事例7 - 無資力者の資産の譲渡と非課税  
 事例8 - 保証人の資産の譲渡と非課税

## 第13回 事例で学ぶ税法解釈と事実認定

事例9 - 相続に関する民事上の判断と税務上の判断の基準  
 事例10 - 課税相続財産と要件事実  
 事例11 - 課税控除債務と要件事実

## 現場の税法解釈と事実認定

実例1 - 妻名義の預金が夫の相続財産として課税された事件

## 第14回 現場の税法解釈と事実認定

実例2 - 譲渡契約で納めた税金を解除によって取り戻せるか争った事件  
 実例3 - 企業買収に法人税・所得税・贈与税が課税された事件  
 実例4 - 法人の滞納法人税について清算人に第二次納税義務の課税がされた事件  
 実例5 - 税額控除規定と更正の請求の可否が争われた事件

## 第15回 現場の税法解釈と事実認定

実例6 - 船舶の権利の買受けが課税仕入れに当たらないとされた事件  
 実例7 - 先物取引被害の回復金に課税できるかが争われた事件  
 実例8 - ライブドア株取引被害の回復金に課税できるかが争われた事件  
 実例9 - 弁護士必要経費事件 / まとめ（税法学の特質と課題）

期末試験は行わない（指定期日までにレポートを提出）

## 授業外学習（予習・復習）

授業計画の当該部分の民法の範囲を事前に予習すること。講義内容について他者に伝えられるように復習すること。予習・復習の標準的な所用時間は約1時間。

## 教科書

manabaにアップする。

## 参考書

金子宏・清永敬次・宮谷俊胤・畠山武道『税法入門 第7版(有斐閣新書)』有斐閣  
 中里実・増井良啓(編集)『租税法判例六法 第4版』有斐閣

## 成績の評価基準

3分の2以上の出席（レポート提出要件）と期末レポート（100%）  
 期末レポートはA4で1枚。2枚以上は減点（場合によっては不可）。表紙は必要なし。

## オフィスアワー

講義後に話かけるのは自由。  
 その他の場合、事前にメールで面会交渉をすること。

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

## 備考（受講要件）

特になし。

## 実務経験のある教員による実践的授業

法政特殊講義（民事訴訟法特論）（旧 法律学特殊講義（民事訴訟法特論））  
ナンバリングコード

科目名

法政特殊講義（民事訴訟法特論）（旧 法律学特殊講義（民事訴訟法特論））

英語名

Law, Policy and Political Science

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

齋藤 善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

民事訴訟法特論の中味は、「国際民事訴訟法」である。民事訴訟法が国内の民事訴訟事件を考察対象にしていたのに対し、この授業は、国際的な民事訴訟事件を処理するための手続・ルールを学ぶ。「特論」の意味する所以である。

グローバル化は時代の必然であり、わが国の国民生活は、国際的な物資や人の流れを抜きには成り立たない。かような財や人の交流を基礎づける様々な国際取引は、国民の日常生活に深く浸透している。そして、物品や資金の国境を越えた移動が日常化し、その頻度が増えるほど、当然一定数のトラブルが生じることは回避できない。一旦トラブルが生じると、文化や慣習さらには法制度自体も異なるため、その解決は容易でない事態を招く。

国ごとに文化や裁判の仕組みが異なるため、どこの国の裁判所で裁判されるかによって結論が異なる可能性があるだけでなく、適用される法（準拠法）をどの国の法にするかを定める国際私法（わが国では、「法の適用に関する通則法」）が国によって異なるため、どこの国の裁判所で裁判されるかによって、適用される法も違ってくる。

そこで、国際取引等をめぐる民事訴訟事件について、裁判するためのルールを検討し、明らかにする作業が求められる。これが「国際民事訴訟法」である。この授業においては、テキストを基本に、該当条文の理解を中心に国際民事訴訟法を講ずることになるが、その際、でき得る限り、関連する主要な判例をケーススタディの形で採り上げたい。

学修目標

テキストの内容を正確に「読解する」ことができる。

国際民事訴訟法に係る条文を正しく「読む」ことができる。

国際民事訴訟法の主要な判例の内容を理解し、説明することができる。

授業計画

【1】序論【国際民事訴訟法の世界】

【2】民事裁判権の免除【外国国家の主権的行為と民事裁判権の免除】

【3】国際裁判管轄（1）【国際裁判管轄の法理（管轄配分説 / 「特段の事情」説）】

【4】国際裁判管轄（2）【被告の住所地 / 債務履行地 / 営業所所在地】

【5】国際裁判管轄（3）【不法行為地】

【6】国際裁判管轄（4）【合意管轄】

【7】国際民事訴訟の訴訟物

【8】国際訴訟競合【承認予測説 / 管轄規制説】

【 9 】外国人の訴訟上の地位（ 1 ）【当事者能力 / 訴訟能力】

【 1 0 】外国人の訴訟上の地位（ 2 ）【当事者適格】

【 1 1 】国際司法共助（ 1 ）【外国裁判所への送達】

【 1 2 】国際司法共助（ 2 ）【外国裁判所からの送達】

【 1 3 】国際司法共助（ 3 ）【外国の証拠調べ】

【 1 4 】外国判決の承認・執行（ 1 ）

【 1 5 】外国判決の承認・執行（ 2 ）

なお、上記の授業計画は、当面、Zoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する形で実施される。ただし、事情の変動により、授業の実施方法など変更を生じる可能性もあり得る。

授業外学習（予習・復習）

ときに、テキストや参考文献の読解や、参考判例の概要の把握など、予習準備を経ることを授業参加の前提とすることがあり得る。その場合には、前もって（前週の授業で）、具体的にテキスト等の該当箇所や判例を指定し、予習内容をノウティスする。

教科書

本間靖規=中野俊一郎=酒井一・国際民事手続法 [ 第 2 版 ] （有斐閣・平成 2 4 年）

参考書

櫻田嘉章=道垣内正人編・国際私法判例百選 [ 第 2 版 ] （有斐閣・平成 2 4 年）

古田啓昌・国際民事訴訟法入門（日本評論社・平成 2 4 年）

小林秀之=村上正子・国際民事訴訟法（弘文堂・平成 2 1 年）

佐藤達文=小林康彦編・一問一答平成 2 3 年民事訴訟法等改正（商事法務・平成 2 4 年）

小林秀之編集代表・国際裁判管轄の理論と実務（新日本法規・平成 2 9 年）

成績の評価基準

学期末に実施する「試験」により評価する。なお、授業の場で、予習対象の判例等につき、報告あるいは質疑応答を経由したときには、その都度プロセス評価として、+3から-3点の範囲で、試験の点数に加減することがある。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

予習を指示した課題についての質疑応答など。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

各回の授業内容や進捗状況に応じて、適宜臨機応変に...

備考（受講要件）

とくに履修の必要条件とするものではないが、授業内容を十分に咀嚼し理解するには、民事訴訟法や国際私法を履修していること、そして、民事の実体規範の基本である民法（主に財産法）の基礎を習得していることが求められる。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

倒産法（旧 企業再生の法システム）

## 英語名

Bankruptcy Law

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

3～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

齋藤 善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

資本主義において、経済活動が破綻する事態は、不可避である。かつて、消費者金融の拡大に伴って、消費者破産に象徴される個人の経済的破綻が社会問題となった（これが破産法や出資法の改正などに繋がったといえるだろう）。そして、バブル経済の崩壊とその後のデフレ状況の継続により、わが国の経済取引活動は長く低迷期に入り、それが経済活動を担う企業の業績悪化をもたらし、時に廃業や事業の破綻を招いた。たとえば、著名な事案としては、JALの会社更生、最近の例には、同じく航空業界だが、スカイマークの民事再生、直近ではタカタの民事再生などが思い浮かぶだろう。

かような消費活動や事業活動の破綻の社会的影響は、極めて大きい。資金を供給している銀行等の金融機関を始めとして、仕入れ業者など多くの取引先が想定されるし、株式会社であれば、株主など出資者も数多い。何よりも、従業員の生活保障の側面もある。法的には、種々の法律関係や権利関係が錯綜し、カオス的事態といえる。こういった状況を適正・妥当に処理するための法的整理の仕組みが、破産法/民事再生法/会社更生法といった「倒産法」に他ならない。

ここでは、倒産法制全体の基本法の性格を有する、清算型の「破産法」を中心にしつつ、破綻した事業等の再建・再生を目的とする、再建型の「民事再生法」との比較検討も視野に入れながら、倒産制度の根幹をマクロに鳥瞰する一方、主要な論点に係る議論のあり方や判例の法理をミクロに考察する機会も持ちたい。

## 学修目標

破産法を中核としながら、民事再生法を含め、倒産法の基本概念を正確に理解する。

倒産法の主要条文の内容を正確に「読み取る」ことができる。

倒産法の重要判例の法理を正しく「読み解く」ことができる。

## 授業計画

【1】はじめに/倒産手続の開始（申立て、開始原因、手続開始前の保全処分など）

【2】倒産債務者・破産管財人・監督委員

【3】倒産債権/優先的破産債権・財団債権/共益債権・一般優先債権

【4】相殺権（1）【相殺権/自動債権・受働債権の規律】

【5】相殺権（2）【相殺禁止（危機時期後の受働債権/自動債権の取得）】

【6】別除権（1）【担保権と別除権/別除権の行使】

【7】別除権（2）【担保権消滅許可請求/担保権実行中止命令】

【8】否認権（1）【詐害行為否認】

【9】否認権（2）【偏頗行為否認】

【10】否認権（3）【監督委員による否認権行使の態様 / 訴訟参加】

【11】契約関係や係属中の訴訟手続の処理（1）【賃貸借契約】

【12】契約関係や係属中の訴訟手続の処理（2）【請負契約 / 雇用契約等】

【13】再生計画案の作成と提出 / 再生計画案の成立

【14】破産手続の終了 / 再生計画の遂行および再生手続の終了

【15】消費者破産と個人再生

なお、上記の授業計画は、当面、Zoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する形で実施される。ただし、事情の変動により、授業の実施方法など変更を生じる可能性もあり得る。

#### 授業外学習（予習・復習）

ときに、テキストや参考文献の読解や、参考判例の概要の把握など、予習準備を経ることを授業参加の前提とすることがあり得る。その場合には、前もって（前週の授業で）、具体的にテキスト等の該当箇所や判例を指定し、予習内容をノウティスする。

#### 教科書

倉部真由美=高田賢治=上江洲純子・倒産法（有斐閣・平成30年）

#### 参考書

伊藤眞=松下淳一編・倒産判例百選 [第5版]（有斐閣・平成25年）

山本和彦・倒産処理法入門 [第5版]（有斐閣・平成30年）

中島弘雅=佐藤鉄男・現代倒産手続法（有斐閣・平成25年）

伊藤眞・破産法・民事再生法 [第4版]（有斐閣・平成28年）

藤田広美・破産・再生（弘文堂・平成24年）

松下淳一・民事再生法入門 [第2版]（有斐閣・平成26年）

園尾隆司=小林秀之編・条解民事再生法 [第3版]（弘文堂・平成25年）

竹下守夫編集代表 / 上原敏夫=園尾隆司ほか・大コンメンタル破産法（青林書院・平成19年）

山本克己=小久保孝雄=中井康之編・新基本法コンメンタル破産法（日本評論社・平成26年）

山本克己=小久保孝雄=中井康之編・新基本法コンメンタル民事再生法（日本評論社・平成27年）

#### 成績の評価基準

学期末に実施する「試験」により評価する。なお、授業の場で、予習内容であるテキストなどの文献や判例等につき報告したり、質疑応答を経由した場合には、プロセス評価として、その都度+3点から-3点の範囲で、試験の得点に加減することがある。

#### オフィスアワ -

#### アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

#### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

予習を指示した課題についての質疑応答等。

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

各回の授業内容や進捗状況に応じて、適宜臨機応変に...

#### 備考（受講要件）

とくに受講の要件を具体的に設定するつもりはないが、授業内容を理解するには、民法（財産法）や民事訴訟法の基礎学力が必要条件となるだろう。この基礎学力に不安のある場合、当科目の履修には相当程度の困難が予測され得る。これを解消するには、受講生各位の事前および事後の学習が不可欠となるだろう。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

キャリア形成演習（法職入門B）（旧 法律学特殊講義（法職入門B））  
ナンバリングコード

FHS-BBC2337

科目名

キャリア形成演習（法職入門B）（旧 法律学特殊講義（法職入門B））

英語名

Career Development Seminar : Legal Professions B

開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	実習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
原田いづみ、中島宏、米田憲市		099-285-7633（中島）	h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp（中島）
共同担当教員		前後期	
齋藤善人、上原大祐、阿部純一、志田惣一		前期	

授業概要

将来、法曹（弁護士・裁判官・検察官）となるため、法科大学院の法学既修者コースへの入学（または、司法試験予備試験の合格）を目指す学生を対象とする。法律基本科目について、事例問題を検討して法的思考能力を高めるとともに、答案を作成して文章での表現力を身につける。

各回とも課題提出型の遠隔授業を実施する。毎回出題する事例問題について学生が作成・提出する答案を添削した上で、講評・指導を行う。

全体を原田・中島が統括するが、各回の授業では様々な法律基本科目を内容とするため、各分野の教員の協力を得る。また、他大学の法科大学院の教員の指導を受ける機会を設ける可能性がある。。

学修目標

- 1) 実定法学の各科目に共通して必要とされる法的思考力を身につける。
- 2) 講義等で学ぶ法律知識を用いて具体的な事案を解決するための応用力を鍛える。
- 3) 法的推論を文書によって表現するための基本的な力を身につける。
- 4) 法科大学院における学修や司法試験の受験に対する具体的なイメージを形成する。
- 5) 法科大学院の2年修了コースに合格するために必要な力を身につける。

授業計画

各回とも【課題提出型】で実施するが、必要に応じて【オンライン型】での解説も実施する。

- 第1回 履修確認・ガイダンス【課題提出型】
- 第2回 憲法事例問題の答案作成・添削指導・解説講義【課題提出型】【オンライン型】
- 第3回 憲法事例問題の答案作成・添削指導【課題提出型】
- 第4回 民法事例問題の答案作成・添削指導【課題提出型】
- 第5回 民法事例問題の答案作成・添削指導【課題提出型】
- 第6回 刑法事例問題の答案作成・添削指導【課題提出型】
- 第7回 刑法事例問題の答案作成・添削指導・解説講義【課題提出型】【オンライン型】
- 第8回 刑事訴訟法事例問題の答案作成・添削指導【課題提出型】
- 第9回 刑事訴訟法事例問題の答案作成・添削指導【課題提出型】
- 第10回 民事訴訟法事例問題の答案作成・添削指導【課題提出型】
- 第11回 民事訴訟法事例問題の答案作成・添削指導【課題提出型】
- 第12回 行政法事例問題の答案作成・添削指導【課題提出型】
- 第13回 商法事例問題の答案作成・添削指導【課題提出型】
- 第14回 行政法事例問題の解説講義【オンライン型】
- 第15回 全体の復習とまとめ【課題提出型】

授業外学習（予習・復習）

予習

出題される分野の関連知識を各自で確認する。60分程度

<p>復習</p> <p>事例問題の答案を提出して添削指導を受けることによって遠隔授業の受講が成立する。受講後は、返却された答案について、添削の内容や講評の内容を参考にしながら見直しを行い、必要があれば書き直すことが求められる。120分程度</p>
<b>教科書</b>
特に定めない。
<b>参考書</b>
適宜指示する。
<b>成績の評価基準</b>
毎回（13回）行う答案提出の状況とその内容によって評価する。
<b>オフィスアワー</b>
追って指定する。なお、質問等での研究室訪問は随時可。
<b>アクティブ・ラーニング</b>
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；
<b>アクティブ・ラーニング（その他の内容）</b>
答案の起案指導
<b>アクティブ・ラーニング（授業回数）</b>
15回中15回
<b>備考（受講要件）</b>
<p>開講目的を確実に達成するため、履修者の上限を20名とする。履修希望者がこれを超えた場合は、過去の法律科目の成績等を参考にして選抜を行う。選抜方法等については、別途掲示するので注意すること。</p> <p>履修希望者は、所定の期間に履修申請を行った上で、第1回目の授業に必ず出席すること。第1回目の授業にやむを得ない事情で参加できない者は、開講前日までに中島に連絡し、面談等の指示を受けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法曹（あるいはそれに準じる法律専門職）を目指して学習することを前提とする。</li> <li>・法学コースで開講されている法律科目を体系的に学習し、成果を上げていることを前提とする。</li> </ul>
<b>実務経験のある教員による実践的授業</b>
法曹資格を有し弁護士としての実務経験を有する教員が他の教員と共同で担当する。

## ナンバリングコード

FHS-BBC2311

## 科目名

労働法（旧 雇用の法と政策）

## 英語名

Labour Law

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

3～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

畑井清隆

## 共同担当教員

## 前後期

なし

後期

## 授業概要

労働法の基本的事項を判例を紹介しながら講義します。

## 学修目標

労働法の基本的事項を理解している。

## 授業計画

対面形式で行う予定であるが、教室確保の難しさや状況の悪化により、遠隔形式に変更となる可能性がある。遠隔形式の場合は、全て【リアルタイム型】での実施とする。授業形態を変更する際は、授業内において通知する。

- 第1回 労働法の課題と役割（第1章）・労働法上の当事者（第2章）【対面型】
- 第2回 労働契約上の権利・義務（第4章）【対面型】
- 第3回 就業規則と労働契約（第5章）【対面型】 第1、2回の確認問題
- 第4回 労働契約の変更（第6章）・人事異動・配転・出向（第7章）【対面型】
- 第5回 懲戒（第9章）・解雇（第10章）【対面型】
- 第6回 有期労働契約（第12章）【対面型】 第3～5回の確認問題
- 第7回 パート有期労働、派遣労働（第13章）【対面型】
- 第8回 雇用平等（第14章）【対面型】
- 第9回 賃金（第16章）【対面型】 第6～8回の確認問題
- 第10回 労働時間（第17章）【対面型】
- 第11回 休憩・休日と年次有給休暇（第18章）【対面型】
- 第12回 労働組合（第21章）・団体交渉（第22章）【対面型】 第9～11回の確認問題
- 第13回 労働協約（第23章）【対面型】
- 第14回 団体行動（第24章）【対面型】
- 第15回 不当労働行為（第25章）【対面型】 第12～14回の確認問題

## 授業外学習（予習・復習）

- ・教科書の該当箇所を前もって読んでおくこと（2時間）。
- ・確認問題解答の時間として、授業の最後の15分間をとります（2～3回おきに実施）。
- ・確認問題に向けて教科書等を復習し（2時間）、授業に集中しておくこと。

## 教科書

- ・野田進・山下昇・柳澤武編『判例労働法入門（第6版）』（有斐閣、2019年）。

## 参考書

- ・菅野和夫『労働法（第12版）』（弘文堂、2019年）等。

## 成績の評価基準

- ・確認問題は、20点×5回＝100点満点で評価します。
- ・確認問題の解答に際しては、教科書・六法は持ち込み可です。
- ・期末試験は実施しません。

## オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

科目名

民事訴訟法II (旧 法律学特殊講義 (民事紛争処理手続特論))

英語名

開講学科

法経社会学科法学コース

コース

法学コース

授業科目区分

法経社会・法学コース/選  
択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

3~4年

担当教員

齋藤 善人

連絡先 (TEL)

099-285-3526

連絡先 (MAIL)

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

この授業は、前学期に開講された民事訴訟法1の授業を引き継ぐ形で実施される。ゆえに、そのコンセプトに変わるところはなく、ここでは、大きな民事紛争解決手続の流れを把握するのみではなく、民事訴訟手続の各場面で生起する主要な論点にフォーカスし、条文の解釈や判例法理の検討を通して、重要な論点を考察し、理解する力を涵養したい。基本書を咀嚼できる読解力を身に着けるとともに、本格的なケース・メソッド(判例研究)への橋渡しを意図したケース・スタディの方式を通じて、時に演繹的に、また場合によっては帰納的に、民事訴訟法の基礎理論を学習するという方法論を採用したい。

その際、制度趣旨とか定義といった基本概念については、適宜簡明に説明することに留意し、基本的な概念と論点の関係を把握して思考できるような能力の開発に資するようにしたい。なお、基本的事項については、教科書や参考文献等を検索すれば、記されているところであり、その点で受講生各位の自学自習が不可欠の要素となる。それを前提に、授業の場では、できる限り判例教材などを用いて、論点を具体的に考察することを試みたい。もちろん、「考察する」ためには、必要最小限の正確な基礎学力(基本概念等の理解)が不可欠なことは承知しているが、授業が単なる知識の伝達に終始することは本旨でない。その意味で、所期の成果を達成し得る授業を構築するには、受講生各位の協力が是非とも必要となるだろう。

学修目標

民事訴訟法の主要な論点を素材に、自らテキストなど文献を検索し、それを正しく「読解する」ことができる。

民事訴訟法の主要な論点に係る条文を正確に「読む」ことができる。

民事訴訟法の主要な論点に関する判例法理を理解し、その内容を説明することができる。

民事訴訟法の主要な論点につき、基本概念や定義、判例を踏まえて思考回路を設計し、説明することができる。

授業計画

【1】自白の拘束力【自白の成立要件/撤回要件/権利自白】

【2】証明責任【自由心証主義と訴訟上の証明/証明責任の分配】

【3】証拠の収集【書証(文書の証拠調べ/二段の推定)/文書提出命令】

【4】既判力の時的範囲【基準時と遮断効/基準時後の取消権】

【5】処分権主義【引換給付判決/債務不存在確認請求の訴え】

【6】既判力の客観的範囲(1)【判決主文と理由中の判断/相殺の抗弁】

【7】既判力の客観的範囲(2)【争点効/信義則による後訴の遮断】

【8】既判力の主観的範囲(1)【既判力の相対性と人的範囲の拡張/口頭弁論終了後の承継人】

## 【9】既判力の主観的範囲(2)【反射効】

## 【10】通常共同訴訟

## 【11】必要的共同訴訟【固有必要的共同訴訟/類似必要的共同訴訟】

## 【12】訴えの主観的併合【追加的併合/予備的併合と同時審判申出共同訴訟】

## 【13】補助参加と訴訟告知

## 【14】独立当事者参加/訴訟承継

## 【15】上訴【上訴の利益/控訴と上告】/再審

なお、上記の授業計画は、当面、Zoomを用いてのリアルタイム・オンライン配信を基調とし、資料や課題等の提供について、manabaを併用する形で実施される。ただし、事情の変動により、変更を生じる可能性もあり得る。

## 授業外学習(予習・復習)

ときに、テキスト・判例の読解など、予習準備を経ることを授業参加の前提とすることがある。その場合には、前週の授業において、テキストの該当箇所や判例を指定のうえ、その旨ノウテイスする。

## 教科書

野村秀敏=佐野裕志=伊東俊明=齋藤善人=柳沢雄二=大内義三・民事訴訟法(北樹出版・平成30年)

## 参考書

## 【1】概説書

高橋宏志・民事訴訟法概論(有斐閣・平成28年)  
川嶋四郎・民事訴訟法概説[第2版](弘文堂・平成28年)  
和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法(商事法務・平成24年)  
山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法[第3版](有斐閣・平成30年)

## 【2】定評のある体系書

高橋宏志・重点講義民事訴訟法(上)[第2版補訂版]、(下)[第2版補訂版](有斐閣・平成25、26年)  
伊藤眞・民事訴訟法[第6版](有斐閣・平成30年)  
川嶋四郎・民事訴訟法(日本評論社・平成25年)  
河野正憲・民事訴訟法(有斐閣・平成21年)  
小島武司・民事訴訟法(有斐閣・平成25年)  
新堂幸司・民事訴訟法[第5版](弘文堂・平成23年)  
中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義[第3版](有斐閣・平成30年)  
藤田広美・講義民事訴訟[第3版](東大出版会・平成25年)  
藤田広美・解析民事訴訟[第2版](東大出版会・平成25年)  
松本博之=上野泰男・民事訴訟法[第8版](弘文堂・平成27年)  
三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGAL QUEST民事訴訟法[第2版](有斐閣・平成27年)

## 【3】注釈書

秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタール民事訴訟法1[第2版追補版]、2[第2版]、3、4、5、6(日本評論社・平成26、18、20、22、24、26年)  
松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法[第2版](弘文堂・平成23年)  
加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタール民事訴訟法1、2(日本評論社・平成30年)  
笠井正俊=越山和広編・新コンメンタール民事訴訟法[第2版](日本評論社・平成25年)

## 【4】学習用判例教材

小林秀之編・判例講義 民事訴訟法 (弘文堂・平成31年)

高橋宏志=高田裕成=畑瑞穂編・民事訴訟法判例百選 [第5版] (有斐閣・平成27年)

## 成績の評価基準

学期末に実施する「試験」により評価する(ただし、状況に応じて、課題レポートの提出で代替することもあり得る)。なお、授業の場で、予習対象の判例等につき、報告あるいは質疑応答を経由したときには、その都度プロセス評価として、+3から-3点の範囲で、試験の点数に加減することがある。

なお、法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。

## オフィスアワー

## アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

## アクティブ・ラーニング(その他の内容)

予習を指示した課題についての質疑応答など。

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

各回の授業内容や進捗状況に応じて、適宜臨機応変に...

## 備考(受講要件)

受講生各位が、判例等を素材にして具体的に「考える」作業に取り組む授業にできれば理想的だろう。判例の事案を理解するには、多くの場合、その前提として、民法(主に財産法)の基本的理解を要するはずなので、受講生各位には、その部分の事前学習も求められよう。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
企業法務論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
松田忠大、米田憲市			kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp (subject欄に、科目名、氏名、学籍番号を必ず記載すること)
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
現在調整中です。興味のある人は責任教員の米田憲市先生に現段階での情報を問い合わせして下さい。			
学修目標			
1. 企業法務という実務領域の実態を学び、その概要を説明できるようになる。 2. 「企業法務」という実務領域の発展と現状について学び、その概要を説明できるようになる。 3. 企業法務で扱う諸業務について学び、その概要を説明できるようになる。			
授業計画			
第1講 企業法務の役割 第2講 企業法務のキャリア 第3講 企業法務への来歴  第4講から14講までは、下記のうちから、教員が適宜選択したものを取り上げる。 契約の審査と管理 取締役会運営 インサイダー取引 株主総会運営 知的財産権 危機管理 グローバル法務 贈収賄防止 訴訟 下請法 育成・評価・採用・弁護士 競争法 コンプライアンス 景品表示 消費者対応 債権回収 事業再編 M & A 情報管理 ハラスメント 第15講 企業法務の横のつながり			
授業外学習 (予習・復習)			
manabaを通じて指示された参考文献は、事前に学習すること。			

## 教科書

教科書を変更します。(9/8)

経営法友会 (編集) 『新型コロナ危機下の企業法務部門』商事法務 (2020)

## 参考書

経営法友会企業法務入門テキスト編集委員会編著 『企業法務入門テキスト ありのままの法務』商事法務 (2016)

のほか、適宜指示する。

## 成績の評価基準

最終レポート：50% (特徴のある方法で実施するので、授業で説明をよく聞くこと。)

提出物 (ネット上のコメントなどを含む)：20%

その他：授業の充実への貢献などで20%

## オフィスアワー

随時。上記mailで事前アポがあることが望ましいが、遠慮する必要はない。

## アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等)；その他；

## アクティブ・ラーニング (その他の内容)

随時質問をすることにより、双方向多方向の授業を展開する。

## アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回

## 備考 (受講要件)

## 実務経験のある教員による実践的授業

刑法各論II (旧 法律学特殊講義 (犯罪と刑罰特論))  
ナンバリングコード

FHS-BBC2337

科目名

刑法各論II (旧 法律学特殊講義 (犯罪と刑罰特論))

英語名

Criminal Law: Specific Offences II

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

上原大祐

embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

刑法各論のうち財産犯についての講義を行います。刑法は法規範の一つですが、刑罰という峻厳な強制力を有する点に他の法規範には見られない特徴があり、それ故、条文解釈においては場当たりのにならないよう緻密な議論がなされています。他方、法益侵害が発生したならば適切な規定を適用し、社会秩序を維持して法益の保護が図られなければならないのも当然です。条文を解釈するにあたっては、メリット・デメリットを意識しながら結論を導くことが求められます。

財産犯は、他の法益を保護する犯罪よりも複雑な様相を呈しているといっても過言ではありません。それは、法益が(ほぼ)同じであり、行為態様の相違によって成立する犯罪が区別されていると見得るからでしょう。それから、各犯罪の相互関係が重要となってきます。本講義では、事例を頻繁に用いつつ、各犯罪の成立要件を考察し、犯罪相互の関係を明らかにしていきます。

学修目標

以下の点の修得を目標とします。

1. 財産犯の保護法益、行為の客体等、財産犯の基本的事項について理解する。
2. 各財産犯の成立要件を理解し、各財産犯相互の関係について把握する。
3. 判例や主要な学説を理解し、多角的視野に基づいて結論を導くことができるようにする。

授業計画

- 第1回 財産の刑罰的保護(1)(客体等)
- 第2回 財産の刑罰的保護(2)(保護法益、不法領得の意思)
- 第3回 窃盗罪(1):窃盗罪
- 第4回 窃盗罪(2):不動産侵奪罪・親族相盗例
- 第5回 器物損壊罪
- 第6回 強盗罪(1):強盗罪
- 第7回 強盗罪(2):準強盗罪
- 第8回 強盗罪(3):240条
- 第9回 詐欺罪・恐喝罪(1):詐欺罪
- 第10回 詐欺罪・恐喝罪(2):電子計算機使用詐欺罪
- 第11回 詐欺罪・恐喝罪(3):恐喝罪
- 第12回 横領罪・背任罪(1):横領罪
- 第13回 横領罪・背任罪(2):背任罪
- 第14回 横領罪・背任罪(3):横領罪と背任罪の区別
- 第15回 盗品等関与罪
- 第16回 試験

上記授業はオンライン(リアルタイム配信・オンデマンド配信併用型)で行う予定である。また、授業の回数等は変更となる可能性がある。

授業外学習(予習・復習)

【予習】 授業で扱う内容につき、教科書の該当箇所を読み、概要を把握する(約1時間)。

【復習】 授業で扱った内容につき、レジュメで復習し、理解が十分でない箇所は教科書で再確認する(約1時

間)。
教科書
井田良 = 城下裕二編 『刑法各論判例インデックス』 (2016年・商事法務)
参考書
木村光江 『刑法 第4版』 (2018年・東京大学出版会)
成績の評価基準
通常の授業の履修態度および期末試験 (論述式を含む) を総合して評価する (期末レポートの形で行う)。 なお、法学コースの学生については、秀 (90 点以上) とする人数の上限を成績評価対象者 (他コース・他学科に所属する学生を除く) の20%以内とする。
オフィスアワ -
研究室在室時
アクティブ・ラーニング
その他;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
適宜学生に質問し、教員と学生とで応答を重ねて、理解を促進を図ります。
アクティブ・ラーニング (授業回数)
全回
備考 (受講要件)
授業には六法を持参すること。刑法総論?・?をすでに受講していることが望ましいですが、必要に応じて総論に関する事項につき補足しますので、それらの科目を受講していない人でも本講義を受講して構いません。
実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

刑事訴訟法II(旧 刑事訴訟法)

## 英語名

Criminal Procedure II

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

3~4年

## 担当教員

## 連絡先(TEL)

## 連絡先(MAIL)

中島宏

099-285-7633

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

この科目では、刑事訴訟法が規定する内容のうち、公訴・公判・証拠・裁判・上訴・非常救済に関する部分を扱う。すなわち、捜査を遂げた事件について検察官が裁判に公訴を提起し、これを受けて裁判所における公判手続き(およびその準備のための手続き)が開始され、一定の要件を満たした証拠に基づいて事実認定と刑の量定がなされて判決が言い渡されるまでの手続き、さらには、誤った判決を是正するための上訴・非常救済手続きについて学ぶ。各段階における手続きの概要を理解したうえで、刑事訴訟法の解釈論上の争点を、判例などを素材にして検討していく。

刑事訴訟は、犯罪に対して刑罰を科すための手続きである。具体的な事案について、捜査がなされ、被告人が起訴されて、公判において有罪が立証され、判決が言い渡されなければ、刑法の規定する内容も「絵に描いた餅」となってしまうだろう。その意味で、刑事訴訟法を学ぶことは、刑事法全体の中でも、刑法に匹敵する重要な意味をもつ。さらに裁判員制度の導入によって、犯罪捜査や刑事裁判の手続きに関する知識は、専門職に就く者だけでなく、すべての市民にとって必要なものとなっている。

なお、他の学期に別途に開講する「刑事訴訟法I」(2018年度以前入学生は「法律学特殊講義(捜査法)」)では、事件が起訴される前に行われる捜査手続きに関する部分を扱っている。できるだけ両科目をあわせて履修することが望ましい。

## 学修目標

- (1) 刑事手続きの流れを正確に理解する。
- (2) 刑事手続きの運用における実状を把握する。
- (3) 刑事訴訟法解釈上の重要論点につき、理解を深める。
- (4) 判例の分析を通じて、理論を実際の事例に適用し、問題を解決する能力を養う。

## 授業計画

以下の(1)~(3)を以て1回の講義を構成する。

- (1) 講義日に公開する講義の動画とレジュメを公開する。受講者は、随時、動画を視聴して受講する。【オンデマンド型】
- (2) 課題と質問をワークシートに記入して提出する。【課題提出型】
- (3) 翌週の講義日にオンラインミーティングを開催して質問への応答と補足解説を行う。自由参加。【オンライン型】

第1回...オリエンテーション・公訴総説

第2回...公訴提起の手続き

第3回...審判の対象

第4回...公判前整理手続き

第5回...公判の諸原則

第6回...公判手続き

第7回...裁判員の参加する刑事手続き  
 第8回...証拠法総論  
 第9回...関連性  
 第10回...違法収集証拠排除法則  
 第11回...自白  
 第12回...伝聞法則(1)  
 第13回...伝聞法則(2)  
 第14回...公判の裁判  
 第15回...救済手続き

授業外学習 (予習・復習)

予習

事前に講義範囲の教科書の記述を条文を確認しながら読み進める。30分

復習

オンデマンドで提供する動画の講義を聞いてワークシートの課題を提出する。また、理解できなかったことについて質問を提出する。オンラインミーティングに参加して、自分の質問への回答や疑問への応答を受け、参加者とディスカッションを行う。150分。

その他、manabaでも質問を受け付けて、教員がこれに回答する。他の学生を交えた議論を期待したい。また、講義の補足情報や復習のための練習問題を配信するので、各自で取り組むことが期待される。

教科書

岩下雅充・大野正博・亀井源太郎・公文孝佳・辻本典央・中島宏・平山真理 著『刑事訴訟法教室』（法律文化社、2013年）

井上正仁編『刑事訴訟法判例百選（第10版）』（有斐閣、2016年）

参考書

体系書

酒巻匡『刑事訴訟法』（有斐閣、2016年）

宇藤崇・松田岳士・堀江慎司『刑事訴訟法』第2版（リーガルクエスト・シリーズ）（有斐閣、2018年）

田宮裕『刑事訴訟法（新版）』（有斐閣、1996年）

注釈書

松尾浩也監修『条解刑事訴訟法 [第4版増補版]』（弘文堂、2016年）

河上和雄・中山善房ほか『大コンメンタール刑事訴訟法 [第2版]』全10巻

三井誠ほか『新基本法コンメンタール 刑事訴訟法 [第2版追補版]』（日本評論社、2017年）

後藤昭ほか『新・コンメンタール刑事訴訟法（第3版）』（日本評論社、2018年）

成績の評価基準

期末試験に代替するレポート提出（70%）、ワークシートの提出状況と内容内容(30%)

法学コースの学生については、秀（90点以上）とする人数の上限を成績評価対象者（他コース・他学科に所属する学生を除く）の20%以内とする。

オフィスアワー

追って指定する。

アクティブ・ラーニング

ディベート; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中10回

備考 (受講要件)

自ら主体的に学び問う意欲のある者だけを「学生」と認める。

実務経験のある教員による実践的授業

国家補償法（旧 法律学特殊講義（行政救済法特論））  
ナンバリングコード

科目名

国家補償法（旧 法律学特殊講義（行政救済法特論））

英語名

開講学科

コース

法経社会学科法学コース

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選  
択科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

森尾成之

。

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

国内法体系は、憲法を頂点として、私的な当事者間の相対的な利害調整を行う民事法、犯罪・刑罰に関する刑事と、多数者間の利害を調整する行政法の3分野に大きく分類されます。  
この中の、行政救済法のうち国家補償法の分野が本講の対象です。

学修目標

行政救済法分野のうち国家補償法分野について理解を深めることを目標とする。

授業計画

- 第1回：国家補償法概観  
 第2回：国家賠償（1）国家賠償制度の沿革、民法と国家賠償  
 第3回：国家賠償（2）国賠法1条（公権力の行使、公務員、職務を行うについて）  
 第4回：国家賠償（3）国賠法1条（違法行為）  
 第5回：国家賠償（4）国賠法1条（過失）  
 第6回：国家賠償（5）国賠法1条（危険防止責任）  
 第7回：国家賠償（6）国賠法2条（道路管理）  
 第8回：国家賠償（7）国賠法2条（河川管理、機能的瑕疵）  
 第9回：国家賠償（8）国賠法3条等（費用負担者、民法・特別法との関係、相互保証主義）  
 第10回：損失補償（1）憲法29条の損失補償、土地収用  
 第11回：損失補償（2）補償の要否、補償の範囲  
 第12回：損失補償（3）事業損失、文化財的価値の補償、生活補償  
 第13回：行政上の利害の調整のための制度  
 第14回：国家補償の谷間（予防接種禍、犯罪被害者給付金制度、戦争犠牲補償）  
 第15回：まとめ  
 定期試験

授業外学習（予習・復習）

講義の前に指定テキストの該当箇所を読んでおくこと。

教科書

大橋洋一『行政法? 第3版』（有斐閣、2018年）  
 宇賀克也＝交告尚史＝山本?司『行政判例百選?（第7版）』（有斐閣、2017年）

参考書

村上裕章＝下井康史『判例フォーカス行政法』（三省堂、2019年）  
 稲葉馨＝人見剛＝村上裕章＝前田雅子『行政法（第4版）』（有斐閣、2018年）  
 宇賀克也『国家補償法』（有斐閣、1997年）  
 神橋一彦『行政救済法（第2版）』（信山社、2016年）  
 櫻井敬子＝橋本博之『行政法〔第6版〕』（弘文堂、2019年）  
 塩野宏『行政法?（第6版）』（有斐閣、2019年）  
 阿部泰隆『行政法解釈学?』（有斐閣、2009年）

阿部泰隆『国家補償法』（有斐閣、1988年）  
 阿部泰隆『行政法再入門 下（第2版）』（信山社、2016年）  
 阿部泰隆『国家補償法の研究?』（信山社、2019年）  
 阿部泰隆『国家補償法の研究?』（信山社、2019年）  
 高木光『行政法』（有斐閣、2015年）  
 高橋滋『行政法 Visual Materials』（有斐閣、2015年）  
 中原茂樹『基本行政法（第3版）』（日本評論社、2018年）  
 木村琢磨『プラクティス行政法（第2版）』（信山社、2017年）

成績の評価基準

期末試験で評価する。  
 法学コースの学生については、秀（90 点以上）とする人数の上限を成績評価対象者（他コース・他学科に所属する学生を除く）の20%以内とする。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中3回

備考（受講要件）

行政法総論1、行政法総論2、憲法人権2、債権法2を受講していることを前提として講義を進める。  
 六法必携，シラバスの内容は若干変更することもある。  
 オンラインで授業を行う

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-BBC3301

## 科目名

公共法務論（旧 法政策論）

## 英語名

Law and Public Policy

## 開講学科

## コース

法経社会学科法学コース

法学コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・法学コース / 地域社会コース / 選択科目

講義

2単位

3～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

宇那木正寛

285 - 7628

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp  
メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておいて下さい。

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

国や地方公共団体は、災害、少子化問題、高齢者福祉、サイバー犯罪など様々な公共課題に対処するために政策を立案します。この政策は、特に公共政策と呼ばれ、目的及び手段の体系から構成されます。

この目的及び手段の体系からなる公共政策は、法令や条例などによって規範化（立法）されます。この規範化においては、法律学的観点からすると、国の政策については憲法に反してはならず、また、地方公共団体の政策においては、憲法を含む国法秩序に調和的であることが求められます。

この授業では、特に身近な地方公共団体の政策（地域公共政策）を中心に、政策を規範化するために必要な法学上の基礎的理論と政策を実現するための手段（行政手法）について講義します。あわせて、政策の規範化に必要な立法技術論の基礎知識についても講義します。

担当教員は、地方公共団体の法務担当職員として20年以上にわたり政策立案、法令審査、訴訟等の業務を担当するとともに、自治体の法務執行過程全般についての研究を行ってきました。この授業では、これまでの研究成果や実務での経験を生かした講義を行います。

## 学修目標

1. 法学の視点から、いかなる行政手法をどの様な基準で選択し、政策を立案すべきかについて討論できる能力を養う。
2. 公共政策を規範化（立法）するために必要な基礎知識を習得する。

## 授業計画

全てオンライン型（リアルタイム型）による遠隔形式で行う予定ですが、状況によっては対面形式に変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知します。

なお、通信機器の不良などにより、受講に支障が生じた学生向けに補講を実施する場合があります。

- 第1回 ガイダンス【リアルタイム型】
- 第2回 公共政策の意義【リアルタイム型】
- 第3回 公共政策とその規範化【リアルタイム型】
- 第4回 国、地方公共団体の政策と憲法 - 基礎【リアルタイム型】
- 第5回 国、地方公共団体の政策と憲法 - 応用【リアルタイム型】
- 第6回 立法事実【リアルタイム型】
- 第7回 国と地方公共団体の政策分担【リアルタイム型】
- 第8回 国と地方公共団体の政策分担規範【リアルタイム型】
- 第9回 都道府県と市町村の政策分担規範【リアルタイム型】
- 第10回 政策目的実現のための行政手法【リアルタイム型】
- 第11回 行政手法の実効性担保のシステム【リアルタイム型】
- 第12回 行政義務の強制的履行システム【リアルタイム型】
- 第13回 公共政策規範化のための立法技術 - 法令の構成【リアルタイム型】

第14回 公共政策規範化のための立法技術 - 実体的規定【リアルタイム型】

第15回 まとめ【リアルタイム型】

授業外学習(予習・復習)

【予習】

授業内容について、教科書等を読み、不明な点を明らかにしておく必要があります。

【復習】

授業中に指示する文献等について、自主学習を行って下さい。

教科書

宇那木正寛『自治体政策立案入門』(ぎょうせい、2015年)

参考書

必要に応じて指示します。

成績の評価基準

manaba等を通じて出題する3回の課題レポート(期末レポートを除く)30%、期末レポート70%により評価します。ただし、対面による試験実施が可能となった場合には、期末テスト(六法、講義資料、六法全て持ち込み不可)をもって期末レポートに代えます。

オフィスアワ -

メールであらかじめ面談の内容と希望日時(3つ以上)を連絡してください。ただし、新型コロナウイルス対策のため、対面ではなくWEBを使った会議システム(ZOOM)により対応いたします。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

ミニッツペーパー(学習レポート)の活用

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

1. 行政法総論1, 2, 行政争訟法, 国家補償法を受講していることを前提に講義を行います。
2. 第1回目の講義の際に、ガイダンスを行います。受講希望者は必ず出席して下さい。
3. 授業中に、質問をしたり、意見を求める場合があります。
4. 毎回、必ず六法を持参して下さい(有斐閣のポケット六法など小型六法で可)。
5. シラバスの内容は若干変更することがあります。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC3304			
科目名			
地方自治法（旧 自治体行政法）			
英語名			
Local Government Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
宇那木正寛		2 8 5 - 7 6 2 8	unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておいて下さい。
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
地方自治法を中心とした、地方自治に関する法について解説します。			
学修目標			
地方自治に関する法制度及び法理論の基礎について理解することを目標とします。			
授業計画			
<p>全てオンライン型（リアルタイム型）による遠隔形式で行う予定ですが、状況によっては対面形式に変更となる可能性があります。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知します。</p> <p>なお、通信機器の不良のため、講義に支障が生じた学生については、補講を実施する場合があります。</p>			
<p>第1回 ガイダンス【リアルタイム型】</p> <p>第2回 地方自治の基礎理論と地方公共団体の構成要素【リアルタイム型】</p> <p>第3回 普通地方公共団体【リアルタイム型】</p> <p>第4回 特別地方公共団体【リアルタイム型】</p> <p>第5回 地方公共団体の事務(1) - 地方公共団体の事務の種類【リアルタイム型】</p> <p>第6回 地方公共団体の事務(2) - 地方分権改革【リアルタイム型】</p> <p>第7回 地方公共団体の権能(1) - 自主組織権、自主行政権【リアルタイム型】</p> <p>第8回 地方公共団体の権能(2) - 自主立法権の種類【リアルタイム型】</p> <p>第9回 地方公共団体の権能(3) - 自主立法権の限界(1)【リアルタイム型】</p> <p>第10回 地方公共団体の機関(3) - 自主立法権の限界(2)【リアルタイム型】</p> <p>第11回 地方公共団体の機関(2) - 長と委員会【リアルタイム型】</p> <p>第12回 住民の権利義務【リアルタイム型】</p> <p>第13回 住民監査請求と住民訴訟【リアルタイム型】</p> <p>第14回 普通地方公共団体に対する国・都道府県の関与【リアルタイム型】</p> <p>第15回 まとめ【リアルタイム型】</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>【予習】</p> <p>1．授業で取り上げられる予定の法律の条文や判決文について、あらかじめ入手し、予習しておくことが必要です。</p> <p>2．授業で取り上げる法律の多くは、小型の六法には掲載されていません。受講に当たって、法令データ提供システム（<a href="http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi">http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi</a>）などにアクセスし、あらかじめ当該法令をダウンロードするなどし、予習を行い、授業に出席することが必要です。</p> <p>3．授業では、裁判例を取り上げます。受講に当たって、判例データ・ベースなどにアクセスし、あらかじめ、当該裁判例をダウンロードするなどし、予習を行い、授業に出席することが必要です。</p>			

**【復習】**

授業中に指示する事項について、自主学習を行って下さい。

**教科書**

宇賀克也『地方自治法概説〔第8版〕』（有斐閣、2019年）

**参考書**

宇那木正寛『自治体政策立案入門』（ぎょうせい、2015年）

磯部力＝小幡純子＝斎藤誠編『地方自治判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2013年）

**成績の評価基準**

manaba等を通じて出題する3回の課題レポート（期末レポートを除く）30％，期末レポート70％により評価します。ただし，対面による試験実施が可能となった場合には，期末テスト（六法，講義資料，六法全て持ち込み不可）をもって期末レポートに代えます。

**オフィスアワー**

メールであらかじめ面談の内容と希望日時（3つ以上）を連絡してください。ただし，新型コロナウイルス対策のため，対面ではなくWEBを使った会議システム（ZOOM）により対応いたします。

**アクティブ・ラーニング**

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

**アクティブ・ラーニング（その他の内容）**

ミニッツ・ペーパー（学習レポートの提出）

**アクティブ・ラーニング（授業回数）**

**備考（受講要件）**

- 1．行政法総論1，2，行政争訟法を受講済みであることを前提として授業を進めます。
- 2．六法の持参は当然ですが、授業で取り上げる法律や条例の条文を各自、事前に用意してください。
- 3．授業で取り上げる裁判例は、各自、事前に用意してください。
- 4．シラバスの内容は若干変更することがあります。
- 5．受講希望者は、第1回目のガイダンスに必ず、出席してください。
- 6．課題レポートの提出（3回）を求めます。

**実務経験のある教員による実践的授業**

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
城戸秀之		099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>現代社会は多様で複雑な現象の相互連関からなっている。このような社会の理解を深めるために、授業では現代社会が抱える様々な問題とそれを考える手がかりとなる社会学的思考について学習する。そして、各人が討論に参加し、自分の問題意識と重ね合わせることによって、学習した知識を借り物ではない生きた知識にしてほしい。</p> <p>授業ではmanabaによる課題提出とZoomのオンライン配信による意見交換を合わせて行う。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会学の基本的考え方および用語を現実の社会とむすびつけて理解する。</li> <li>2. テキストを整理し、報告資料を作成する。</li> <li>3. 共通のテーマのもとで討論ができる。</li> <li>4. 討論に関して自分の知見をもとに話題提供できる。</li> </ol>			
授業計画			
第1回 ガイダンス 授業の進め方の説明、担当決定			
第2回～第14回 報告と討論			
第15回 総括討論			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】次週のテキストを読む (30分)			
【復習】演習レポート、中間レポートの提出 (60分)			
このほか、授業中適宜指示をする			
教科書			
友枝敏雄ほか『社会学のエッセンス 新版』有斐閣、2007年。			
参考書			
濱島・竹内・石川編『社会学小事典』有斐閣、1997年。			
成績の評価基準			
演習レポート、中間レポート、総括レポートによって評価する。			
オフィスアワ -			
火曜日3時限 (メール)			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
演習は各人の意見をふまえた討論で成立するものなので、積極的な態度で授業に出席してほしい。 manabaとZoomを使用する。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島大輔		099-285-8895	nakajima@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>全15回の授業を遠隔形式で実施する。</p> <p>前期に続いてヨーロッパとりわけドイツの地方都市と私たちの地域の比較を試みる。前期に調べたドイツの中小都市の事例を踏まえて、行政、経済、教育・文化、公共交通、医療などの都市機能に関して私たちの地域の自治体はどのような状況にあるかを調べ、考える。</p> <p>その際、日本の都市に欠けている要素だけでなく、ドイツやヨーロッパの都市に見られない地域の自然や文化、社会の特質に対しても積極的に目を向け、評価することにより、私たちの社会についてのより良い理解と観光資源発見の視点につなげたい。</p> <p>具体的には前期に調べたドイツの都市と比較した場合、私たちの地域に欠けている都市機能は何か、逆に私たちの地域のみが存在する特質は何かという視点から、受講生は自らの自治体についてフィールドワークも含めて調査を行う。また、もし姉妹都市提携を行うとしたら相互に何を提供できるかという文化的交流の可能性についても併せて考察し、グループ報告(パワーポイント)の形でまとめる。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツの地方都市との比較から、自らの自治体についてその都市機能を理解する</li> <li>・ドイツの地方都市との比較から、自らの自治体の課題を把握し、可能性を展望する</li> </ul>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：ドイツと日本の都市の交流：姉妹都市の実例(1)</p> <p>第3回：ドイツと日本の都市の交流：姉妹都市の実例(2)</p> <p>第4回：文献講読(輪読)とグループワーク</p> <p>第5回：文献講読(輪読)とグループワーク</p> <p>第6回：文献講読(輪読)とグループワーク</p> <p>第7回：文献講読(輪読)と中間報告(1)</p> <p>第8回：文献講読(輪読)と中間報告(2)</p> <p>第9回：文献講読(輪読)と中間報告(3)</p> <p>第10回：グループ報告(1)：自らの自治体の紹介(課題と可能性)および質疑討論</p> <p>第11回：グループ報告(2)：自らの自治体の紹介(課題と可能性)および質疑討論</p> <p>第12回：グループ報告(3)：自らの自治体の紹介(課題と可能性)および質疑討論</p> <p>第13回：グループ報告(4)：自らの自治体の紹介(課題と可能性)および質疑討論</p> <p>第14回：グループ報告(5)：自らの自治体の紹介(課題と可能性)および質疑討論</p> <p>第15回：グループ報告(6)：自らの自治体の紹介(課題と可能性)および質疑討論</p> <p>第16回：総括：日本の地方自治体の課題と可能性</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>授業外でもグループごとにそれぞれの自治体について参考文献やネットならびに現地調査を通じて調べることを求める。パワーポイントを用いた報告を求めるので、折に触れて現地で資料収集を行うことが必要となる。</p>			
教科書			
高松平蔵『ドイツの地方都市はなぜクリエイティブなのか』(学芸出版社)2016年			
参考書			

高松平蔵『ドイツの地方都市はなぜ元気なのか』（学芸出版社）、村上敦『フライブルクのまちづくり』（学芸出版社）、ヴァンソン藤井由美『ストラスプールのまちづくり』（学芸出版社）。  
その他適宜授業中に紹介する。

## 成績の評価基準

授業内容の理解（レポート等）を50%、授業に対する取り組み（グループワーク、報告、質疑、討論等）を50%とし、その総合で評価する。

## オフィスアワー

火曜 4 限

## アクティブ・ラーニング

グループワーク；フィールドワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

16回中9回

## 備考（受講要件）

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
比較地域文化論			
英語名			
Comparative Study of Regional Cultures			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島大輔		099-285-8895	nakajima@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>全15回の授業を遠隔形式で実施する。</p> <p>ドイツと日本はほぼ同じ面積にそれぞれ約8千万、1億2千万の人口を擁する大国である。しかし自治体や都市のありかたには両国で大きな相違が見られる。地方分権の進んだドイツの自治体と都市の数は日本を大きく上回り、その規模も日本よりずっと小さい。一方で小さな自治体や都市でも総じて自立性や市民意識が高く、基本的な都市機能も充実している。この相違はどこに由来するのだろうか。</p> <p>この授業では中世から近世、近代に至るドイツの都市の成立と発展を歴史的・文化的視点から解説するとともに、かつての中世都市の区域である旧市街が現在どのように保全され、活用されているか、またそれぞれの都市にとってどのような意味を持っているのかも併せて紹介する。またドイツの都市との比較的視点から日本の都市の特徴を学び、鹿児島を含む日本の都市の特徴と可能性を考える。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツの都市の成り立ちと自治へのあゆみを理解する</li> <li>・ドイツの旧市街の歴史的、社会的、文化的特徴と意義を理解する</li> <li>・ドイツの都市との比較的視点から日本の都市の特徴を理解し、その文化的可能性を理解する</li> </ul>			
授業計画			
<p>* 新型コロナウイルス感染拡大を受けた大学および学部の前期授業の実施方針に基づき、以下の授業はすべて遠隔授業（講義資料・課題提示による授業）で行う。また一部予備日等を用いて補講（遠隔授業）を行う</p> <p>受講生は必ずmanabaで授業内容や課題を確認すること。またオンライン授業の受講環境を含むアンケート（現況調査）に回答すること。</p>			
<p>第1回：オリエンテーション：都市論の射程、都市の概念と定義、中世都市にみる共同体としての性格</p> <p>第2回：中世における都市の成立：「成長都市」と「建設都市」</p> <p>第3回：自治への道のり（1）：都市の種類、都市領主からの独立</p> <p>第4回：自治への道のり（2）：ツunft闘争（市民闘争）からツunft市制へ</p> <p>第5回：自治への道のり（3）：ツunftと市民生活</p> <p>第6回：自治への道のり（4）：ネルトリンゲンの政治体制</p> <p>第7回：中世都市の防衛体制と市民の義務</p> <p>第8回：中世ドイツの都市同盟（1）：シュヴァーベン都市同盟の例</p> <p>第9回：中世ドイツの都市同盟（2）：商人ハンザから都市ハンザ</p> <p>第10回：中世ドイツの都市同盟（3）：リューベックとハンザ</p> <p>第11回：中世都市から近代都市へ：都市の要塞化から市域拡大・市壁撤去</p> <p>第12回：日本の都市：日本に自治都市は存在したか？（1）</p> <p>第13回：日本の都市：日本に自治都市は存在したか？（2）</p> <p>第14回：ドイツの歴史的都市外観（大都市編、中小都市編）</p> <p>第15回：ドイツの都市と鹿児島の都市：歴史的旧市街の可能性</p>			
授業外学習（予習・復習）			
講義で紹介できる内容は限られている。適宜授業中に紹介する参考文献を積極的に利用し、考察を深めること。			
教科書			

特に指定しない。適宜下記の参考書を紹介する。

#### 参考書

鯖田豊之『ヨーロッパ封建都市』講談社学術文庫、1994年  
 カール・グルーバー『図説ドイツの都市造形史』西村書店、1999  
 斯波照雄『西洋の都市と日本の都市 どこが違うのか - 比較都市史入門』学文社、2015年  
 村上敦『ドイツのコンパクトシティーはなぜ成功するのか』学芸出版社、2017年  
 水島信『ドイツ流 街づくり読本』鹿島出版会、2006年  
 片野優『ここが違う、ヨーロッパの交通政策』白水社、2011年  
 ヴァンソン藤井由美『ストラスブールのまちづくり』学芸出版社、2011年  
 H.J.ドレーガー『トーアシュトラッセ 街並みに見るハンザ都市の歴史』朝日出版社、2013年

#### 成績の評価基準

授業レポート（50％）と期末レポート50％の総合で評価する。

#### オフィスアワ -

火曜4限（これ以外の時間に対応します。あらかじめメールで連絡してください。）

#### アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

#### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

授業内容に関するレポートとそのフィードバック（レポート課題に関する解説と良い内容のレポートの紹介）

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

#### 備考（受講要件）

授業はすべて遠隔授業（講義資料・課題提示による授業）で行う。必ずmanabaで資料をダウンロードし、課題レポートを期日までに提出すること。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
農中至		099-285-7785	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
社会教育・生涯学習研究の最新動向を中心に検討し、卒業研究に向けた基礎的な学習の推進および研究姿勢の体得を進めます。文献講読を主とし、最新の研究理解を目指します。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育・生涯学習研究の最新動向をつかむこと</li> <li>・社会教育・生涯学習研究の方法・課題を理解すること</li> </ul>			
授業計画			
授業形態について変更する可能性があるが、基本的にはzoomによるリアルタイム配信でおこなう。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 社会教育・生涯学習研究はなにを主題とするのか</li> <li>3. 社会教育・生涯学習研究はだれにとって意味があるのか</li> <li>4. 社会教育・生涯学習研究はどのような社会構想を有するのか</li> <li>5. 社会教育・生涯学習研究の課題とはなにか</li> <li>6. 社会教育・生涯学習研究の可能性とはなにか</li> <li>7. 社会教育・生涯学習研究はなぜ必要なのか</li> <li>8. 社会教育・生涯学習研究の今日的な課題とはなにか</li> <li>9. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ-子ども編</li> <li>10. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ 青年編</li> <li>11. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ 成人編</li> <li>12. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ 高齢者編</li> <li>13. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ 女性問題・ジェンダー編-</li> <li>14. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ マイノリティ編</li> <li>15. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ 人権問題編</li> </ol>			
授業外学習 (予習・復習)			
zoomのURLおよび予習課題、復習課題についてはmanabaにアップします。授業開始時までには必ずmanabaを確認するようにしてください。			
教科書			
適宜指示			
参考書			
適宜指示			
成績の評価基準			
授業中レポート60%・議論・討論への貢献度30%・小レポート10%			
オフィスアワ -			
随時対応			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中10回以上

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会教育実習I			
英語名			
Practical of Social Education I			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	実習	1単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小栗有子		099-285-7293	yoguri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本実習では、社会教育・生涯学習行政に携わる職員、及び、その他の社会教育関係労働者がいかなる業務を担っているのかについて、主に鹿児島県下の県や市町村自治体をフィールドに理解を深めます。実習に先立ち、社会教育・生涯学習行政の仕事についての基礎知識を身につけ、実習を行うにあたっての事前準備を行います。実習では、県、及び、市町村行政の現場に赴き、各々の課題に取り組みます。実習地は、受講生の間で分担して選択することになります。また、実習後は、レポート作成と報告会を予定しています。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染防止の観点から実習内容が変更になる可能性もあります。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育・生涯学習行政の仕事について理解する</li> <li>・社会教育・生涯学習行政に携わることの意義について理解する</li> <li>・社会教育・生涯学習行政の仕事をめぐる課題と改善の方向性について考察できる</li> </ul>			
授業計画			
<p>【2020年度前期は中止します】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション【対面授業】</li> <li>2. 社会教育・生涯学習行政の仕事1【オンライン授業】</li> <li>3. 社会教育・生涯学習行政の仕事2【オンライン授業】</li> <li>4. 視察学習【対面授業】</li> <li>5. 調査実習の計画と準備1【オンライン授業】</li> <li>6. 調査実習の計画と準備2【対面授業】</li> <li>7. 調査実習1【対面授業】</li> <li>8. 調査実習2【対面授業】</li> <li>9. 調査実習3【対面授業】</li> <li>10. 調査実習4【対面授業】</li> <li>11. 調査実習5【対面授業】</li> <li>12. 調査実習6【対面授業】</li> <li>13. 調査実習報告書の作成・準備1【オンライン授業】</li> <li>14. 調査実習報告書の作成・準備2【オンライン授業】</li> <li>15. 調査実習報告書の作成・準備3【対面授業】</li> <li>16. 報告会&amp;最終レポート提出【対面授業】</li> </ol>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>授業中に指定する課題図書や資料等を事前に読み、また、地域情報や資料の収集を行う (予習)。 調査実習小レポートなどの振りかえり活動を行う (復習)。</p>			
教科書			
授業の中で紹介する			
参考書			
社会教育行政研究会編『社会教育行政読本 「協働」時代の道しるべ』第一法規、2013			
成績の評価基準			
調査準備と調査 (50%) 調査報告 (25%)、最終レポート (25%)			

## オフィスアワ -

メールにて事前に連絡の上、随時対応

## アクティブ・ラーニング

グループワーク；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；  
アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

## 備考（受講要件）

社会教育主事資格取得を希望するもの

社会教育演習 1、又は、2 を受講しているもの

社会教育計画論 1、又は、2 を受講していることが望ましい

## 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

社会教育実習II

## 英語名

Practical of Social Education II

## 開講学科

法経社会学科地域社会コース

## コース

地域社会コース

## 授業科目区分

法経社会・地域社会コース  
/ 選択科目

## 授業形態

実習

## 単位数

1単位

## 開講期

3年

## 担当教員

酒井佑輔

## 連絡先 (TEL)

099-285-7292

## 連絡先 (MAIL)

sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

本実習では、義務教育未修了者等の学ぶ機会を得られなかった(ないしは現在も得られずにいる)ひとびとの学習権保障の現状や課題を理解したうえで、社会教育行政の役割やその可能性について学び、学習成果を冊子等の成果物としてまとめることを目的とする。

なお、2020年度後期は鹿児島県における外国人の学習権保障に焦点をあてる。授業は以下の3段階で構成される。

## 1) 事前学習:

日本や鹿児島県における学習権保障の取り組みやその課題について、文献購読やゲストスピーカーの講義などを通じて学習し理解を深める。

## 2) 調査:

鹿児島県内で実践されている外国人の学習権保障に向けた取り組みに参加し参与観察を行ったり、実践家に対しインタビュー調査を行うことで取り組みの内実や抱えている課題、社会教育行政との関係性について把握する。

## 3) 事後学習及び学習成果の総括:

- ・調査結果を分析しその内容を報告書等にまとめる。

なお、授業は原則zoomを用いたリアルタイム型遠隔授業で進める。

グループディスカッション時には顔出しを求める。

## 学修目標

- 1) 鹿児島県における学習権保障の現状や課題について理解する。
- 2) 学習権を保障するための社会教育行政の意義や可能性、その限界について批判的に考えることができる。
- 3) 報告書作成を通じて学習成果をまとめる工程を体験することができる。

## 授業計画

授業はzoomを用いたリアルタイム型遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

1. オリエンテーション 学習権保障における社会教育行政の可能性と課題 (10/2)
2. オリエンテーション-在日外国人と学習権保障(10/9)
3. 外国人の学習権保障と社会教育(10/16)
4. 鹿児島県の社会教育行政と外国人の学習権保障 (10/23)
5. ゲストスピーカー講義準備+鹿児島県の社会教育行政と外国人の学習権保障 (10/30)
6. ゲストスピーカー講義: ささえあいネットATLAS (11/6)
7. ゲストスピーカー講義: 鹿児島県観光戦略部 国際交流課 (11/13)
8. ゲストスピーカー講義: NPO法人若者・留学生サポートステーション響 (11/20)
9. ゲストスピーカー講義: あいうえおおすみ (11/27)

10. 調査準備(聴くこと・メタファシリテーションの理解)及び成果物の検討(12/4)
  11. 調査実習(12～1月上旬)
  12. 調査実習(12～1月上旬)
  13. 調査実習の振り返り・課題の抽出(1月中旬)
  14. 報告書作成(1月中旬～下旬)
  15. 総括(1月下旬)
  16. 期末試験は行わない(ただし、簡単な期末レポートを実施予定)  
報告書作成については授業時間外の活動もありうる。
- (2020.10.15更新)

#### 授業外学習(予習・復習)

予習:授業ごとに提示する資料(新聞記事や論文)を必ず事前に読んでおくこと。

復習:授業で学んだ内容を振り返りまとめること。

#### 教科書

特になし。

#### 参考書

- ・パウロ・フレイレ(三砂ちづる訳)『被抑圧者の教育学』亜紀書房、2011。
- ・日本社会教育学会編『社会的排除と社会教育 日本の社会教育 第50集』東洋館出版社、2006。
- ・和田信明・中田豊一『途上国の人々との話し方 国際協力メタファシリテーションの方法』みずのわ出版、2010。
- ・宮本常一・安溪遊地『調査されるという迷惑 フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版、2008。

#### 成績の評価基準

授業毎の小レポートと予習課題(40%)

授業(グループワークや実習、報告書作成)への能動的参加・貢献度(50%)

期末レポート(10%)

#### オフィスアワー

メール等で事前に連絡があれば随時対応

#### アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

受講生には、授業やフィールドワーク、ワークショップの企画立案等への能動的な参加が求められます。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全て

#### 備考(受講要件)

- ・調査実習は新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえて対応する。
- ・受講者は社会教育主事資格取得を希望するものに限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
井原慶一郎	099-285-8877	ihara@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期 後期	
授業概要			
「アート・マネジメント」の理論と実践を学ぶ。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アートマネジメントの理論</li> <li>・ファシリテーション</li> <li>・企画の立て方</li> <li>・デザインの基本</li> <li>・広報・PRの仕方</li> </ul>			
授業計画			
第1回 インTRODクシヨン 第2回～第5回 「アート・マネジメント」の理論 第6回～第14回 「アート・マネジメント」の実践 第15回 まとめ  zoomを使った遠隔授業を実施予定			
授業外学習 (予習・復習)			
[予習] 普段からアートやカルチャーに関心を持ち、関連する記事などを見つけたら保存しておく。 [復習] 出された課題を行う。 授業外のイベントにも積極的に参加する。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度による。			
オフィスアワー			
オフィスアワーは当面実施しない。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; フィールドワーク;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中14回			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
片桐資津子		katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>ゼミでは、社会的視点を身につけてもらいます。おもに「卒論の執筆準備」と「討論の徹底訓練」の2つをおこないます。そのため、具体的にはつぎの3つの学問的な問いに向き合います。</p> <p>第1に、マクロ的観点から、ウィズコロナ時代のデジタル社会のウェルビーイングのあり方を探究します。具体的には日本社会における少子高齢化と人口減少化といった社会現象は、DX化によりいかなる影響を受けるのでしょうか。第2に、プレコロナ時代までの歴史的経緯を踏まえて、ミクロ的観点からみて、デジタル社会下における個人の価値観・ライフスタイルと深く関連するウェルビーイングは、どのように変化してきた/変化していくのでしょうか。第3に、マクロとミクロを媒介する集団や組織の観点から、「集団の創発性 (Emergence)」と「組織の生産性 (Productivity)」は、社会や個人に対していかなる働きをしてきた/していくのでしょうか。こういった3つの学問的な問いを念頭において、社会学を学んでいきます。</p>			
学修目標			
<p>(1) 一枚のスライドでアウトプットする練習をします</p> <p>(2) SNS発信力を高めます</p> <p>(3) ディスカッションの作法を知り、実践します</p> <p>(4) 時事問題に敏感になります</p> <p>(5) 卒業論文の下準備をします</p> <p>(6) グループワークに積極的にかかわります</p>			
授業計画			
<p>第1回           オリエンテーション</p> <p>第2～15回   テキストを素材にレジュメ発表と討論</p> <p>第16回       まとめ</p>			
<p>基本的にすべての授業は、リアルタイムのオンライン型で実施します。ただし受講生のネット接続といった受講環境や、今後の新型コロナ感染状況次第で、授業回数や内容は変更となる可能性があります。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>〔予習〕 各自で選んだテキストをプレゼンします。気になる新聞記事を選定します</p> <p>〔復習〕 manabaに更新された資料等を閲覧し、関連する知識の定着をはかります</p>			
教科書			
講義時までには知らせます			
参考書			
適宜、manabaにアップします			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (100%)			
オフィスアワ -			
随時、受け付けます			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
桑原司		099-285-7581	kuwa3@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>社会学の古典文献を原文（英語）で輪読する。            原文の構文・文法構造を理解する。            原文の翻訳（邦訳）を試みる。</p>			
学修目標			
<p>社会学的な視点を身につける。            古典文献を原文（英語）で読めるようになる。            翻訳作業を通じて日本語の表現力を鍛える。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス【課題提示型】            第2回 古典文献の読解・検討・翻訳作（1）【課題提示型】            第3回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（2）【課題提示型】            第4回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（3）【課題提示型】            第5回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（4）【課題提示型】            第6回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（5）【課題提示型】            第7回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（6）【課題提示型】            第8回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（7）【課題提示型】            第9回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（8）【課題提示型】            第10回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（9）【課題提示型】            第11回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（10）【課題提示型】            第12回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（11）【課題提示型】            第13回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（12）【課題提示型】            第14回 古典文献の読解・検討・翻訳作業（13）【課題提示型】            第15回 総括            次期役員の決定。            役員業務の引き継ぎ作業。            ゼミ・オリエンテーション（演習紹介）出席メンバーの選定。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
<p>Blumer, H. G., 1971, Social Problems as Collective Behavior [ <a href="https://old.cos.edu/Faculty/JohnD/Documents/Blumer-Social%20Problems%20as%20Collective%20Behavior.pdf">https://old.cos.edu/Faculty/JohnD/Documents/Blumer-Social%20Problems%20as%20Collective%20Behavior.pdf</a> ] .            ハーバート・ブルーマー著（2006年）桑原司・山口健一訳「集合行動としての社会問題」 [ <a href="http://hdl.handle.net/10232/6922">http://hdl.handle.net/10232/6922</a> ] 。</p>			
参考書			
適宜指示。			
成績の評価基準			

授業への取り組み態度。

オフィスアワ -

授業後【manabaを通じて行います】

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
片桐資津子			katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>この演習は社会学ゼミです。オンライン・ディスカッション力とSNS発信力、おもにこれら2つの能力を高めるトレーニングをします。</p> <p>ゼミでは「卒論の執筆準備」と「グループワークでの貢献と業績づくり」の2つをおこないます。そのため、具体的には、つぎの3つの学問的な問いに向き合います。</p> <p>第1に、マクロ的観点から、日本社会における少子高齢化と人口減少化といった社会現象は、グローバル資本主義のなか、いかなる歴史的経緯により引き起こされたのか。第2に、そのような歴史的経緯のなかで、ミクロ的観点からみて、個人の価値観・ライフスタイルと深く関連する「幸福 (Happiness, Well-being)」は、どのように変化してきたのか。第3に、日本、米国、中国の3カ国の国際比較を念頭に、グローバル化・複雑化・AI化が進んできた21世紀以降、ポストモダンの観点から、家庭・地域・職域における「共同性」と「関係性」のあり方はどのように変化しているのか。こういった3つの学問的な問いを念頭において、社会学を学んでいきます。</p>			
学修目標			
<p>(1) オンライン・ディスカッションを実践する</p> <p>(2) グループワークに貢献する</p> <p>(3) SNS発信力を高める</p> <p>(4) 時事問題に触れ、日本社会の仕組みを知る</p> <p>(5) 国際感覚を身につける</p> <p>(6) Push the Boundariesの精神で、卒業論文における「研究の問い」を探す</p>			
授業計画			
<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2～14回 テキストを素材にレジュメ発表とディスカッション</p> <p>第15回 まとめ</p>			
<p>基本的にすべての授業は、リアルタイムのオンライン型で実施します。ただし受講生のネット接続といった受講環境や、今後の新型コロナウイルス感染状況次第で、授業回数や内容は変更となる可能性があります。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>〔予習〕 輪読するテキストを精読します。気になる新聞記事を選定します。</p> <p>〔復習〕 manabaに更新された資料等を閲覧し、関連する知識の定着をはかります。</p>			
教科書			
講義時までには知らせます			
参考書			
適宜、授業中に紹介します			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (100%)			
オフィスアワー			
随時、受け付けます			
アクティブ・ラーニング			

グループワーク; ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
桑原司		099-285-7581	k8716665@kada i . jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>自我論関連の文献を輪読（レジュメ化・発表・質疑・討論）する。            英文読解力を向上させる。            特殊研究のテーマを模索する。</p>			
学修目標			
<p>文献を「読み」、「レジュメ化」し、他人にわかりやすく「説明する」という、基本的なプレゼンテーション能力を身につける。            英字新聞を読めるようになる。            特殊研究のテーマを確定する（3年生）。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス            指定文献の輪読ほか。            3年生による特殊研究構想発表とその指導。            英字新聞の読了を毎回行う。</p> <p>第2回 自分とは何か            第3回 鏡に映った自我            第4回 自我の社会性            第5回 親密な他者 / 疎遠な他者            第6回 役割取得            第7回 ホモ・ソシオロジクス            第8回 役割コンフリクト            第9回 ラベリング理論            第10回 自己表現            第11回 変容する自我            第12回 見せる自分 / 見せない自分 / 見られる自分            第13回 印象操作            第14回 役割距離と役割形成            第15回 社会的構築主義</p>			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
船津衛（2011）『自分とは何か：自我の社会学入門』恒星社厚生閣。			
参考書			
適宜指示。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度。			
オフィスアワ -			

授業後
アクティブ・ラーニング
ディベート; プレゼンテーション;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
アクティブ・ラーニング (授業回数)
14回
備考 (受講要件)
【新型コロナウイルスの影響により、授業はすべて遠隔 (「課題提出型」) で行います。それに伴い、授業回数や内容及び成績の評価基準も変更いたします。詳細は、随時manabaで指示致します。2020/04/23】
実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
井原慶一郎	099-285-8877	ihara@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
「アート・マネジメント」の理論と実践を学ぶ。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アートマネジメントの理論</li> <li>・ファシリテーション</li> <li>・企画の立て方</li> <li>・デザインの基本</li> <li>・広報・PRの仕方</li> </ul>			
授業計画			
第1回 インTRODクシヨン			
第2回～第5回 「アート・マネジメント」の理論			
第6回～第14回 「アート・マネジメント」の実践			
第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
[予習] 普段からアートやカルチャーに関心を持ち、関連する記事などを見つけたら保存しておく。			
[復習] 出された課題を行う。			
授業外のイベントにも積極的に参加する。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度による。			
オフィスアワ -			
木曜日・5時限・研究室 (共通教育棟2号館2階)			
オフィスアワーは当面実施しない。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; フィールドワーク;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中14回			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島大輔		099-285-8895	nakajima@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>全15回の授業を遠隔形式で実施する。</p> <p>この授業では現在日本の自治体が抱えているさまざまな問題を知り、主に公共交通や中心市街地活性化問題についてドイツの都市の実情と比較しながら考察する。</p> <p>授業はテキストの輪読、ならびにドイツの小都市調査(2年生)または各自のテーマ研究発表(3年生)の二つから成る。テキスト輪読では、まちづくりを扱った『地域再生の戦略』と『人口減少時代の都市』の2冊について、章ごとに担当者が報告した後、全員で討議する。</p> <p>またテキスト輪読と並行し、2年生には各自任意のドイツの中小都市(人口4万人未満)について、参考文献やネット情報を用いて歴史的旧市街の特徴や教育・文化施設、商業施設、公共交通などを調べ、日本の同規模の自治体と比較考察する。調査の結果は学期末にパワーポイントで発表する。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の自治体が抱えている諸課題を理解する</li> <li>・ドイツの中小都市の都市機能を日本の自治体との比較の上に理解する</li> <li>・日本の自治体の再生に向けた議論や可能性を理解する</li> </ul>			
授業計画			
<p>* 新型コロナウイルス感染防止対応のため、授業開始が4月20日になりました。授業回数に変更はありませんが、ドイツ中小都市調査発表会については一部予備日等を用いて行います。</p> <p>また授業は基本的に遠隔授業(Zoomによるリアルタイム配信授業)の形式で実施します。</p>			
<p>第1回: オリエンテーション(Zoomによる双方向授業)</p> <p>第2回: テキスト講読『地域再生の戦略』第1章「地域社会と交通の負のスパイラル」(Zoomによる双方向授業)</p> <p>第3回: テキスト講読『地域再生の戦略』第2章「政策の模索」(Zoomによる双方向授業)</p> <p>第4回: テキスト講読『地域再生の戦略』第3章「『基本法』の成立」(Zoomによる双方向授業)</p> <p>第5回: テキスト講読『地域再生の戦略』第4章「交通まちづくりとは何か」、テーマ研究発表会(1)(Zoomによる双方向授業)</p> <p>第6回: テキスト講読『地域再生の戦略』第5章「芽生える交通まちづくり」、テーマ研究発表会(2)(Zoomによる双方向授業)</p> <p>第7回: テキスト講読『地域再生の戦略』第6章「ドイツ・フランスの成果とその背景」(遠隔授業(講義資料・課題提示による授業))</p> <p>第8回: テキスト講読『地域再生の戦略』第7章「費用対効果を考える」、テーマ研究発表会(3)(Zoomによる双方向授業)</p> <p>第9回: テキスト講読『地域再生の戦略』第8章「ソーシャル・キャピタルという新たな効果」、テーマ研究発表会(4)(Zoomによる双方向授業)</p> <p>第10回: テキスト講読『地域再生の戦略』第9章「これからの日本の課題」、テーマ研究発表会(5)(Zoomによる双方向授業)</p> <p>第11回: テキスト講読『人口減少自体の都市』第1章「人口減少都市の将来」、ドイツ中小都市調査発表会(1)(Zoomによる双方向授業)</p>			

第12回：テキスト講読『人口減少自体の都市』第2章「『成長型』都市経営から『成熟型』都市経営へ、ドイツ中小都市調査発表会（2）（Zoomによる双方向授業）

第13回「テキスト講読『人口減少自体の都市』第3章「『成熟型都市経営』への戦略」、ドイツ中小都市調査発表会（3）（Zoomによる双方向授業）

第14回：ドイツ中小都市調査発表会（4）（Zoomによる双方向授業）

第15回：ドイツ中小都市調査発表会（5）（Zoomによる双方向授業）

#### 授業外学習（予習・復習）

各自テキスト報告の担当章ならびに自ら選択したドイツの中小都市について、参考文献やWEB資料等を用いて報告回までに調べておくこと。3年生は特殊研究につながるテーマを選び、調査研究を進めることが望ましい。

#### 教科書

宇都宮浄人『地域再生の戦略』（ちくま新書）、諸富徹『人口減少時代の都市』（中公新書）

#### 参考書

『限界都市 あなたの街が蝕まれる』（日本経済新聞社）、村上敦『フライブルクのまちづくり』（学芸出版社）、片野優『ここが違う、ヨーロッパの交通政策』（白水社）他、適宜授業中に紹介する。

#### 成績の評価基準

テキストに関する理解と授業への取り組み（報告と質疑応答）を50%、ドイツ中小都市調査またはテーマ研究（最終レポート提出を含む）を50%とし、その総合で評価する。

#### オフィスアワ -

火曜4限

#### アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

#### 備考（受講要件）

希望者を対象に予定していた9月上旬から中旬にかけての「ヨーロッパ社会研修」は、今年度は大学の前期授業の実施方針に従い、中止とする。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
城戸秀之		099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
現代の社会システムは物質的な繁栄をきわめる一方で、いくつかの深刻な問題を抱えている。そのひとつが自己存在の問題としての人間観のゆらぎであり、それは、若者の生において凝縮されてあらわれている。授業では「若者」をめぐるいくつかの議論の検討を通して、自分と等身大の問題としての現代社会の問題について考えてほしい。			
学修目標			
1) 社会学の基本的考え方および用語をもとに現実社会の分析をおこなう 2) 現代社会についての理解を深める 3) テキストを整理し、報告資料を作成する 4) 共通のテーマのもとで討論ができる 5) 討論に関して自分の知見をもとに話題提供できる			
授業計画			
* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。			
第1回 ガイダンス 授業の進め方の説明、担当決定【リアルタイム型】			
第2回～第12回 報告と討論【リアルタイム型】			
第13回 総括討論?【リアルタイム型】			
第14回 総括討論?【リアルタイム型】			
第15回 共同研究発表【リアルタイム型】			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】次週のテキストを読む 【復習】討論の材料を探す (30分-60分) このほか、授業中適宜指示をする。			
教科書			
森真一『ほんとはこわい「やさしさ社会」』筑摩書房 2008年、ほか。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
発表、授業態度、運営参加などを総合的に評価する			
オフィスアワ -			
火曜日 2 時限			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

備考（受講要件）

演習は各人の意見をふまえた討論で成立するものなので、積極的な態度で授業に出席してほしい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
酒井佑輔	099-285-7292	sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
社会教育と地域づくりの理論と実践を学ぶ。			
学修目標			
社会教育と地域づくりの理論と実践を理解する。			
授業計画			
授業は遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。			
第1回：ガイダンス			
第2回～第14回：グループディスカッションと発表			
第15回：総括			
授業外学習 (予習・復習)			
適宜指示をします。			
教科書			
適宜指示をします。			
参考書			
適宜指示をします。			
成績の評価基準			
授業への参加度 (グループディスカッションへの参加・貢献度、発表等を総合的に判断します)			
オフィスアワ -			
随時受け付けます。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等)；その他；			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
全て			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
全て			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
片野田拓洋		099-285-8872	t-katanoda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
自治体施策の事例研究やグループ学習等を通じて、課題解決能力及びコミュニケーション能力を高めるとともに、自治体政策について理解を深める。			
学修目標			
1 論理的に考え、相手の主張を的確に理解し、自分の意見を分かりやすく伝えることにより、質の高い対話を行うことができる。			
2 自治体政策について現状や課題等を理解し、解決策を提示できる。			
3 お互いに協力しながら、積極的に組織やプロジェクトの運営ができる。			
授業計画			
原則として全て遠隔形式（ZOOMを使用したりリアルタイム配信）で実施する。			
（状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。）			
第1回	ガイダンス		
第2回～第14回	事例研究・発表・討論		
第15回	まとめ		
この他、レポートの提出を課すことがある。 フィールドワーク等を適宜実施する（状況をみながら）。			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示する。			
教科書			
必要に応じて適宜指示する。			
参考書			
必要に応じて適宜指示する。			
成績の評価基準			
受講態度、発表内容、ゼミ活動への貢献度などで総合的に評価する。			
オフィスアワー			
他の予定が入っていない時はなるべく対応するので、事前にメール等で問い合わせること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回			
備考（受講要件）			

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小栗有子		099-285-7293	oguri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本演習は、卒論の準備期間として位置づけ、研究のための基本姿勢とスキルを身に付けます。演習は、研究室として探究するテーマに関する学術誌等の論文を中心に輪読し、時事問題も適宜取り上げながら、知識を深め、論理的に考え、自己表現することの訓練を行います。また、必要に応じて机上で学んだことを現場に出向き検証し、学習支援のための対話技術を習得する機会をつくります。</p> <p>演習のテーマは、地域における人の育ちと環境です。地域の持続性や内発的發展を一方で踏まえつつ、それを創造していく主体との関係について、基礎理論、政策、現場それぞれの観点から検討していきます。演習は、縦軸にゼミ共通の課題を、横軸に個人の研究関心や研究課題を位置づけて内容を編成していきます。</p>			
学修目標			
<p>共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知的好奇心をもって情報を集め、分析できるようになること</li> <li>・ 獲得する知識を相互に関連づけられるようになり、視野を広げること</li> <li>・ 問題の本質を捉え、論理的に思考し、表現できるようになること</li> </ul> <p>各自に期待されること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自の読む、書く、聴く、話すスキルについて、苦手な分野を克服し、得意な分野を高めること</li> <li>・ 学習支援のための基礎となる対話のスキルを身につけること</li> </ul>			
授業計画			
<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 文献講読・討論・グループワーク</p> <p>第15回まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前にテキストを精読し、レジュメを準備する</li> <li>・ 関心をもった新聞記事等を持ち寄り、話題提供する</li> <li>・ 研究日誌を作成する</li> <li>・ その他、適宜指示する</li> </ul>			
教科書			
なし			
参考書			
適宜紹介する			
成績の評価基準			
<p>授業参加態度 (個人・グループ活動等) 85%</p> <p>自己評価15%</p>			
オフィスアワ -			
火曜日3限目 (事前にメールで連絡してください)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

各自、パソコンでワードやパワーポイントの資料等が作成できる環境を確保してください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満		099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>近年における、少子高齢化の急激な進展と人口減少、急速なメディアの発達による高度情報化社会の浸透など、日本の若者たちを取り巻く社会環境は目まぐるしく変化している。特に1990年代初頭の景気後退以降、若年労働市場が急速に縮小したことにより、戦後の人材選抜機能を担ってきた学校から労働市場を結ぶ制度的仕組みが機能不全を起し、安定した雇用につくことができない若者が大量に生み出される状態が今日も続いている。本演習では、こうした若者を取り巻く社会環境についての一定の理解を深めつつ、次世代の主体としての若者の存在について共に考えることをしたい。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、少子高齢化社会、高度情報化社会、高度消費化社会について一定の理解を深める</li> <li>2、テキストを整理し、報告資料を作成する</li> <li>3、共通のテーマのもとで討論ができる</li> <li>4、討論をもとに自身の問題として省察し、吟味できる力をつける。</li> </ol>			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 第2回 ～ 第14回 報告と討論 第15回 総括討論			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】次週のテキストを読む (60分)			
【復習】演習の内容を踏まえ、自分独自の視点で問題を省察する			
教科書			
授業内にて適宜指示する			
参考書			
授業内にて適宜指示する			
成績の評価基準			
発表80%、授業態度20%			
オフィスアワー			
火曜日4限 (研究室)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
13回			
備考 (受講要件)			
新型コロナの影響もあるため、遠隔講義の実施など柔軟に対応するつもりです。 実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
酒井佑輔	099-285-7292	sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
社会教育 (ノンフォーマル教育) 並びに地域づくりの理論と実践を学ぶ。			
学修目標			
社会教育 (ノンフォーマル教育) 並びに地域づくりの理論と実践を学ぶ。			
授業計画			
第1回: ガイダンス			
第2回～第5回: 社会教育・地域づくりの理論			
第6回～第14回: 社会教育・地域づくりの実践			
第15回: 総括			
授業外学習 (予習・復習)			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
必要に応じて適宜指示をする。			
参考書			
必要に応じて適宜指示をする。			
成績の評価基準			
授業への取り組み程度 (グループディスカッション、フィールドワークへの参加等を総合的に判断する)			
オフィスアワ -			
メール等で事前に連絡があれば随時対応			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
PBL			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
全て			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満		099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>近年における、少子高齢化の急激な進展と人口減少、急速なメディアの発達による高度情報化社会の浸透など、日本の若者たちを取り巻く社会環境は目まぐるしく変化している。特に1990年代初頭の景気後退以降、若年労働市場が急速に縮小したことにより、戦後の人材選抜機能を担ってきた学校から労働市場を結ぶ制度的仕組みが機能不全を起し、安定した雇用につくことができない若者が大量に生み出される状態が今日も続いている。本演習では、こうした若者を取り巻く社会環境についての一定の理解を深めつつ、次世代の主体としての若者の存在について共に考えることをしたい。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、少子高齢化社会、高度情報化社会、高度消費化社会について一定の理解を深める</li> <li>2、テキストを整理し、報告資料を作成する</li> <li>3、共通のテーマのもとで討論ができる</li> <li>4、討論をもとに自身の問題として省察し、吟味できる力をつける。</li> </ol>			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 第2回 ～ 第14回 報告と討論 第15回 総括討論			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】次週のテキストを読む (60分)			
【復習】演習の内容を踏まえ、自分独自の視点で問題を省察する			
教科書			
授業内にて適宜指示する			
参考書			
授業内にて適宜支持する			
成績の評価基準			
発表80%、授業態度20%			
オフィスアワー			
火曜日4限 (研究室)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
13回			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
農中至		099-285-7785	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
社会教育・生涯学習研究の歴史的動向を中心に検討し、卒業研究に向けた基礎的な学習の推進および研究姿勢の体得を進めます。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究・問題関心の確立</li> <li>・社会教育・生涯学習研究の歴史的動向に関する知識の修得</li> </ul>			
授業計画			
<p>授業形態について変更する場合があるが、基本的にはzoomによるリアルタイム配信でおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．オリエンテーション</li> <li>2．自己の問題関心と向き合う</li> <li>3．各人の問題関心を知り合う</li> <li>4．各人の問題関心に注意を向け合う</li> <li>5．自己の問題関心をより深める</li> <li>6．自己の問題関心に関する研究成果を探求する</li> <li>7．自己の問題関心と他者の問題関心の共通点を探る</li> <li>8．社会教育・生涯学習研究の動向と自己の問題関心の関係を探る</li> <li>9．社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認-子ども編</li> <li>10．社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 青年編</li> <li>11．社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 成人編</li> <li>12．社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 高齢者編</li> <li>13．社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 女性問題・ジェンダー編-</li> <li>14．社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 マイノリティ編</li> <li>15．社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 人権問題編</li> </ol>			
授業外学習 (予習・復習)			
適宜指示			
教科書			
適宜指示			
参考書			
適宜指示			
成績の評価基準			
授業中レポート60%・議論・討論への貢献度30%・小レポート10%			
オフィスアワ -			
適宜対応する			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中10回以上

備考（受講要件）

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
片野田 拓洋		099-285-8872	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
グループ学習や討論を通じて課題解決能力及びコミュニケーション能力を高めるとともに、自治体政策について理解を深める。			
学修目標			
1 論理的に考え、相手の主張を的確に理解し、自分の意見を分かりやすく伝えることにより、質の高い対話を行うことができる。			
2 自治体政策について現状や課題等を理解し、解決策を提示できる。			
3 お互いに協力しながら、積極的に組織の運営ができる。			
授業計画			
第1回	ガイダンス (オンライン型)		
第2回～第12回	発表と討論 (主にオンライン型)		
第13回	まとめ (オンライン型)		
オンライン型の授業は、通常授業に変更になる可能性がある。			
この他、レポートの提出を課すことがある。 フィールドワークなどを適宜実施する。			
授業外学習 (予習・復習)			
必要に応じて適宜指示する。			
教科書			
必要に応じて適宜指示する。			
参考書			
必要に応じて適宜指示する。			
成績の評価基準			
受講態度、発表内容、ゼミ活動への貢献度などで総合的に評価する。			
オフィスアワー			
他の予定が入っていない時はなるべく対応するので、事前にメール等で問い合わせること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
13回中13回			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小栗有子		099-295-7293	yoguri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本演習は、卒論の準備期間として位置づけ、研究のための基本姿勢とスキルを身に付けます。演習は、研究室として探究するテーマに関する学術誌等の論文を中心に輪読し、時事問題も適宜取り上げながら、知識を深め、論理的に考え、自己表現することの訓練を行います。また、必要に応じて机上で学んだことを現場に出向き検証し、学習支援のための対話技術を習得する機会をつくります。</p> <p>演習のテーマは、地域における人の育ちと環境です。地域の持続性や内発的発展を一方で踏まえつつ、それを創造していく主体との関係について、基礎理論、政策、現場それぞれの観点から検討していきます。演習は、縦軸にゼミ共通の課題を、横軸に個人の研究関心や研究課題を位置づけて内容を編成していきます。</p>			
学修目標			
<p>共通目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知的好奇心をもって情報を集め、分析できるようになること</li> <li>・ 獲得する知識を相互に関連づけられるようになり、視野を広げること</li> <li>・ 問題の本質を捉え、論理的に思考し、表現できるようになること</li> </ul> <p>各自に期待されること：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自の読む、書く、聴く、話すスキルについて、苦手な分野を克服し、得意な分野を高めること</li> <li>・ 学習支援のための基礎となる対話のスキルを身につけること</li> </ul>			
授業計画			
<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 文献講読・討論・グループワーク</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前にテキストを精読し、レジュメを準備する</li> <li>・ 関心をもった新聞記事等を持ち寄り、話題提供する</li> <li>・ 研究日誌を作成する</li> <li>・ その他、適宜指示する</li> </ul>			
教科書			
なし			
参考書			
適宜紹介する			
成績の評価基準			
<p>授業参加態度 (個人・グループ活動等) 90%</p> <p>自己評価10%</p>			
オフィスアワ -			
火曜日3限目 (事前にメールで連絡してください)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

各自、パソコンでワードやパワーポイントの資料等が作成できる環境を確保してください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
外国書研究			
英語名			
Studies on Foreign Works			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
桑原司			kuwa3@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
社会学の学術文献を読了する。 1970年代後半の社会科学の諸前提を理解する。 社会学の観点について解説する。 適切な訳語の当て方について指導する。			
学修目標			
学術論文を独力で読む力を身につける。 社会学の視点を習得する。 適切な訳し方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス  第2回 テキスト及びその著者について  第3回 パースペクティブとは何か 第4回 「観点」：十人十色 第5回 パースペクティブの変化と現実の変化との関係 第6回 パースペクティブを比較する基準について 第7回 パースペクティブの種類  第8回 中間考察  第9回 パースペクティブの一つとしての社会科学 第10回 社会科学と自由の問題 第11回 パースペクティブの一つとしての社会学 第12回 パースペクティブの一つとしての心理学 第13回 パースペクティブの一つとしての社会心理学 第14回 社会学と社会心理学 第15回 シンボリック相互作用論とは  第16回 期末試験			
授業外学習 (予習・復習)			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
J. M. Charon, 1979, Symbolic Interactionism 1st edition, Prentice Hall (第1章、第2章)。			
参考書			
授業中に適宜指導。			
成績の評価基準			

授業への取り組み態度 (50%)

期末試験 (50%)

ただし、出席日数が全講義日数の2/3に満たない場合には、単位取得資格を失うものとする。  
講義中の無断退出 (中途退出) を禁止する。無断退出は欠席扱いとする。

オフィスアワ -

講義後

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

- 1) 「報告」は毎回「ランダムに」当ててゆく。予めその週の報告者を決めるという方法は採らない。従って「毎回」「全員が」訳の報告を出来るように予習してくること。
- 2) 「四年生・卒業生等」への特別措置 (救済措置) はない。

【新型コロナウイルスの影響により、授業はすべて遠隔 (「課題提出型」) で行います。それに伴い、授業回数や内容及び成績の評価基準も変更いたします。詳細は、随時manabaで指示致します。2020/04/23】

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-CCE2456

## 科目名

福祉と地域の社会学（旧 福祉社会学）

## 英語名

Welfare Sociology and Community Studies

## 開講学科

法経社会学科地域社会コース

## コース

地域社会コース

## 授業科目区分

法経社会・地域社会コース  
/ 選択科目

## 授業形態

講義

## 単位数

2単位

## 開講期

2～4年

## 担当教員

片桐資津子

## 連絡先（TEL）

なし

## 連絡先（MAIL）

katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

なし

## 前後期

前期

## 授業概要

この講義では、日本の少子高齢化に着目し、国際比較の観点から、福祉・介護・医療の諸問題を体系的にかつ分かりやすく整理したうえで、毎回、受講生と意見交換をします。

福祉社会学に関する既存の理論や常識について、日本、米国、中国の多様なデータから検討し、新しい仮説の構築や理論の修正のプロセスを学習してもらいます。具体的なトピックは、家族、地域社会、高齢者ケア施設、認知症ケア、年金・介護保険制度、世界の尊厳死と安楽死、障害者福祉、生涯発達、生活保護など、予定しています。

## 学修目標

- (1) 少子高齢化研究と時事問題の関連を知る
- (2) 社会学の概念を学ぶ
- (3) 受講生が各自で、福祉について何らかの問題意識を抱けるようにする

## 授業計画

- 第1回：個人の長寿化と社会の高齢化
- 第2回：QOL（生活の質）研究と福祉概念
- 第3回：措置から契約への変化とノーマライゼーション
- 第4回：20世紀以降の高齢者福祉の小史
- 第5回：高齢者差別への社会的挑戦
- 第6回：米国オレゴン州の尊厳死
- 第7回：米国のコミュニティと高齢者介護施設
- 第8回：福祉多元社会論と福祉ミックス
- 第9回：都市化するコミュニティと高齢者福祉の変化
- 第10回：地域社会における福祉的役割
- 第11回：障害者福祉と社会モデル
- 第12回：障害者福祉と地域から排除される家族
- 第13回：地域福祉の主流化と地域包括ケア
- 第14回：ワーキングプアとグローバル資本主義
- 第15回：生活保護とワーキングプアの社会的包摂

基本的にすべての授業は、リアルタイムのオンライン型で実施します。ただし受講生のネット接続といった受講環境や、今後の新型コロナ感染状況次第で、授業回数や内容は変更となる可能性があります。

## 授業外学習（予習・復習）

- 〔予習〕前週に配付された次回のプリントをみて流れをつかみます。知らない言葉等を事前に調べます。  
〔復習〕manabaに更新されたプリントを閲覧し知識の定着をはかります。

## 教科書

テキストは使用しません。毎回事前に、manabaにプリントをアップします。

## 参考書

適宜、manabaに掲載します。

## 成績の評価基準

授業への取り組み態度（50%）、中間報告書（20%）、授業中に指示された成果物の提出とZoomお披露目会（30%）による

オフィスアワ -

随時、受け付けます

アクティブ・ラーニング

グループワーク；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

授業時間内にmanabaのresponで質問する学生には、その内容によって加点する場合があります。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会教育計画論I			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
山城千秋			
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
本講義は、今日の社会教育・社会教育をめぐる状況を理解するための基礎的・基本的な事項について考察し、深めることを目的とする。特に、本県の特徴である島嶼に着目して、島嶼文化圏における社会教育計画について、日本国内外の事例を手がかりに検討する。可能であれば、奄美や甌島などの近隣離島でのフィールドワークを行い、体験型学習を行いたい。			
学修目標			
社会教育および社会教育計画に関する基礎的・基本的知識の習得をめざす。「離島・へき地」と言われてきた地域に対する正しい知識を獲得し、理解を深める。			
授業計画			
1. 社会教育計画の意味と課題		講義は、すべてリアルタイム同時配信授業	
2. 社会教育における地域			
3. 社会教育における島嶼研究			
4. シマ社会と自治公民館			
5. 島びとの憩いの場である共同売店			
6. 島の文化を支える：青年会			
7. 島の文化を支える：郷友会			
8. 「明和の大津波」の教訓と防災教育			
9. 字誌にみる島の民間伝承			
10. 社会教育計画と調査?：調査を実施することの意味			
11. 社会教育計画と調査?：調査と計画の相互性			
12. 社会教育計画と調査?：			
13. 小さな学校だからこそできる教育を求めて			
14. シマ社会の持続性とへき地教育の可能性			
15. ふりかえりとまとめ			
16. 試験 or レポート			
授業外学習 (予習・復習)			
現代社会と教育の問題について関心をもつために、新聞等に目を通すこと。			
教科書			
参考書			
社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所、2017年			
成績の評価基準			
成績評価は、出席のほか提出物と最終レポートの結果により判定する。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；フィールドワーク；			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

社会教育主事資格取得を希望するもの

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
ファシリテーションの基礎			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
加留部貴行			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
この講義では、ファシリテーションの基礎をワークショップ形式で体系的に学び、演習を通じて相互作用が起こる現場を体験しながら潜在能力を見える形で引き出していくことを目標とします。社会の構成員のひとりとしての役割を果たしつつ、組織運営や意思決定に対して好影響を与えられるような視座を持ち、人と社会の意識改革を支援していきものになりたいと考えています。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーションの概要を理解し実践できるようになる</li> <li>・チームで活動する際のスキルを理解し実践できるようになる</li> <li>・ファシリテーションとは何かを説明できるようになる</li> </ul>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概論 ファシリテーションとは</li> <li>2. 場づくりの技法 1</li> <li>3. 場づくりの技法 2</li> <li>4. 対話を紡ぐ技法 1</li> <li>5. 対話を紡ぐ技法 2</li> <li>6. 議論をかみ合わせる技法 1</li> <li>7. 議論をかみ合わせる技法 2</li> <li>8. 合意形成に向けて?</li> <li>9. 合意形成に向けて?</li> <li>10. 合意形成に向けて?</li> <li>11. 概論 ワークショップとは</li> <li>12. 総合演習 1</li> <li>13. 総合演習 2</li> <li>14. 総括 1 ~さらなる実践のために</li> <li>15. 総括 2 ~さらなる実践</li> </ol>			
授業外学習 (予習・復習)			
予習と復習は適宜指示をする。			
教科書			
授業の中で提示する			
参考書			
参考リンクとして (特活) 日本ファシリテーション協会 <a href="https://www.faj.or.jp/">https://www.faj.or.jp/</a>			
成績の評価基準			
出席状況 60%、レポート等の成果 40%			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
持続可能な地域づくりと教育			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小栗有子		099-285-7293	yoguri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本講義は、「持続可能性」と「教育」という二つの観点から地域づくりのあり方を批判的に考察することで、持続可能な地域づくりと教育のかかわりを理解し、地域づくりの今後の方向性とそこにおける教育固有の価値について理解を深めることを目的とする。</p> <p>この目的のために講義では、「持続可能な開発」概念やSDGsの議論を批判的に読み解きながら、日本社会の現実に照らして地域づくりにおける持続可能性の問題について考察する。また、鹿児島県内を中心とした地域づくりの事例を取り上げ、教育の視点からみた地域づくりの課題と今後の実践の可能性について論じる。</p> <p>なお、本講義は、予習を重視し、事前にテキストを読んだり、調べた内容を講義時間に発表し、ディスカッション等を行う予定である。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくりにおける持続可能性の問題について理解し、説明ができる</li> <li>・教育の視点からみた地域づくりの課題を自ら探り当て、考えることができる</li> </ul>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 関係づくり 講義は、すべてリアルタイム同時配信授業</li> <li>2. 「地域づくり」を考える前提</li> <li>3. 「地域づくり」の前提にある問題</li> <li>4. 「地域の持続可能性」を考える前提</li> <li>5. 「地域の持続可能性」の前提にある問題</li> <li>6. 「地域の持続可能性と教育」を考える前提</li> <li>7. 「地域の持続可能性と教育」の間にある問題</li> <li>8. 持続可能な開発のための教育 (ESD) と内発的ESD</li> <li>9. 内発性と教育の関係</li> <li>10. 持続可能な開発の今 - SDGsを知る</li> <li>11. SDGs 11「住み続けられるまちづくりを」</li> <li>12. 事例から考える 1</li> <li>13. 事例から考える 2</li> <li>14. 事例から考える 3</li> <li>15. 持続可能な地域づくりと教育の展望</li> <li>16. 最終レポート</li> </ol>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習として提示するテキストや課題に取り組み、小レポートを作成する。 予習課題と講義で学んだことを振り返る。</p>			
教科書			
授業の中で紹介する			
参考書			
<p>広井良典『コミュニティを問い直す』ちくま新書 今村光章編『持続可能性に向けての環境教育』昭和堂 岩佐礼子『地域力の再発見』藤原書店</p>			

蟹江憲史『SDGs(持続可能な開発目標)』中公新書

成績の評価基準

毎回の小レポート(75%)、最終レポート(25%)

オフィスアワ -

講義後の時間、もしくは、メールでアポを入れてください

アクティブ・ラーニング

グループワーク; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

ほぼ毎回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会教育演習II			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	演習	1単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満		099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>近年、少子高齢化、高度情報化、高度消費社会化を背景に、子どもの遊びを取り巻く環境は、空間・時間・仲間といった「三間」の減少とともに質的にも量的にも大きく変化しているといえる。こうした遊びの環境の変化にうまく適合する形で年々増加しつつあるのが消費型のマルチメディアゲームによる遊びの形態であり、その結果、これまで自然な形で成立していた遊びの場そのものの解体が進みつつある。本実践演習では、子どもの遊びの空間、特に集団遊びの場の現代的な再構築を目指すための理論や方法について学習する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、子どもの遊びを取り巻く環境を理解する</li> <li>2、子どもの遊びの実態について調査活動をおこなう</li> <li>3、具体的な遊びを考察する。</li> </ol>			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 第2回 子どもの遊びの実態を把握（内閣府のデータより） 第3-9回 子どもの自己形成空間の衰弱化について理解する 第10 - 11回 具体的な子どもの遊びの準備をする 第12 - 14回 子どもの遊びを考察し発表する 第15回 総括討論（ふりかえり）			
授業外学習（予習・復習）			
【予習・復習】講義内で適宜指示する			
教科書			
高橋勝『子どもの自己形成空間』川島書店、1992年			
参考書			
講義内で適宜指示			
成績の評価基準			
出席 20点 授業態度 50点 最終レポート 30点			
オフィスアワ -			
火曜日4限			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；フィールドワーク；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
新型コロナの影響による遠隔講義の可能性もあります。その際は、Zoomを使って行います。今後の状況も踏まえ			

つつ柔軟に対応していきたいと思います。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
実用英語			
英語名			
Practical English			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
井原慶一郎		099-285-8877	ihara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
実用英語の内容は、TOEIC対策（中級レベル）である。本講義は、ある程度のレベルの英語力を有する学生を対象に、TOEIC対策をおこなうことを目的としている。			
学修目標			
1. TOEICテストにおいて600点以上のスコアを取得できる。 2. 日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる英語力を身につける。			
授業計画			
第1回 インTRODクシヨン  第2回 新形式（サンプル問題）  リスニングセクション 第3回 写真描写問題 第4回 応答問題 第5回 会話問題 第6回 説明文問題  リーディングセクション 第7回 短文穴埋め問題 第8回 長文穴埋め問題 第9回 読解問題（1つの文書） 第10回 読解問題（複数の文書）  模擬試験 第11回 リスニングセクション（問題） 第12回 リスニングセクション（解答） 第13回 リーディングセクション（問題） 第14回 リーディングセクション（解答） 第15回 まとめ			
今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。			
授業外学習（予習・復習）			
[予習]ウェブサイトなどを利用して、英語のリスニング、リーディングを一定時間定期的に行う。 例) <a href="http://learningenglish.voanews.com/">http://learningenglish.voanews.com/</a> [復習]授業で行った演習問題を再確認し、わからない単語はすべて調べて覚える。			
教科書			
manabaを通じて教材を配布する。			

参考書

『TOEIC(R)テスト 非公式問題集 至高の400問』(アルク)、2016年。  
 『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 2』(国際ビジネスコミュニケーション協会)、2017年。

成績の評価基準

manabaでの授業参加と課題の達成度による。

オフィスアワー

木曜日・5時限・研究室(共通教育棟2号館2階)  
 オフィスアワーは当面実施しない

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

0

備考(受講要件)

過去にTOEICを受験し、500点以上のスコアを取得していることが望ましい。  
 40名に制限する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会教育と地域創造の関わりを学ぶ			
英語名			
Relation between Social Education and Community Development			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満		099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
農中至、小栗有子、酒井佑輔		前期	
授業概要			
今日の地域社会の成り立ちには社会教育が深く関わっています。社会教育を通じて学び合い、地域を変容させる（地域に働きかけることのできる）主体は地域創造の担い手でもあります。戦後社会教育の実践と研究は多様な広がりを見せ、いまなお地域との関わりを深めながら進展しています。本講義は、地域社会コースに所属する社会教育・生涯学習担当教員による総合講義であり、各教員の社会教育研究への取り組みや内容も取り上げます。講義方法は、各教員の研究紹介、教員同士の対話、教員と学生同士の対話の三つの方法で進め、授業を通して社会教育的手法についても体験します。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域が抱える課題と社会教育の実践や活動との関係性について多角的に捉えることができる。</li> <li>・社会教育と地域創造の関わりを理解する。"</li> </ul>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 社会教育において地域を創造するとはどういうことか 主体と地域</li> <li>3. 社会教育における地域創造の主体とはだれか だれが担うのか？</li> <li>4. 社会教育における地域創造の主体とはだれか どんな担い手がいるのか？</li> <li>5. 地域創造の主体と「私」の関係を考える？ どんな関係があるのか</li> <li>6. 地域創造の主体と「私」の関係を考える？ だれに関係するのか</li> <li>7. ポストモダン社会の中の地域創造と主体 どう地域を創造するのか</li> <li>8. 産業と暮らしと社会教育？ 課題を探る</li> <li>9. 産業と暮らしと社会教育？ 課題へのアプローチを探る</li> <li>10. 産業と暮らしと社会教育？ 課題へのアプローチを理解する</li> <li>11. 地域住民と社会教育？ 課題を探る</li> <li>12. 地域住民と社会教育？ 課題へのアプローチを探る</li> <li>13. 現代社会教育の実践？ 社会教育のアプローチを知る</li> <li>14. 現代社会教育の実践？ 社会教育のアプローチの理解を深める</li> <li>15. 社会教育と地域創造の関わりでの想像力</li> <li>16. 期末試験は行わない（指定期日までに期末レポートを提出）</li> </ol>			
授業外学習（予習・復習）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習については適宜指示をする。</li> </ul>			
教科書			
授業ごとに適宜紹介する。			
参考書			
授業ごとに適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業毎の小レポートと予習課題(75%)			
期末レポート(25%)			
オフィスアワ -			

メール等で事前に連絡があれば随時対応

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8回以上を予定（zoom内で実施予定）

備考（受講要件）

- ・社会教育主事資格取得希望のもの
- ・社会教育に関する基本的知識を有するもの
- ・将来住民の学習の組織化に貢献したいもの

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
子ども・若者の社会参画論			
英語名			
Study of Social Participation of Children and Youth			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満		099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>日本社会において子どもを取り巻く環境は大きく変化しつつある。特に近年における高学歴社会、高度情報化社会、高度消費社会は、それぞれ相互作用しあいながら子ども社会を揺れ動かしている。特に、近年における地域社会における相互の「つながり」の弱体化は様々関係を分断させた。こうした社会状況を踏まえながら、現代社会に生きる子どもの生活・文化に焦点を当て、理解を深めつつ、これらの問題に対し、社会的弱者である子ども・若者がどのように社会参画していくべきかについて考える。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、こどもを取り巻く社会変化への理解</li> <li>2、分断化された社会についての理解</li> <li>3、現代社会における子どもと大人との関係性への理解</li> <li>4、社会的弱者としての子ども・若者の社会参画についての考察</li> </ol>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション (本講義について)</li> <li>2 子どもを取り巻く社会変化についての理解</li> <li>3 子ども・若者の社会参加及び参画の必要性について考える</li> <li>4 子どもの誕生について (フィリップアリエスの世界)</li> <li>5 異文化としての子ども理解</li> <li>6 空気を読みやうやさしい関係</li> <li>7 子どもの引きこもりについて</li> <li>8 集団自殺から考える子どもたちの課題</li> <li>9 小レポート</li> <li>10 異界に生きる少年少女の実態</li> <li>11 こどもと家族とのコミュニケーションの変容</li> <li>12 友達親子の現実</li> <li>13 家族におけるしつけの変容</li> <li>14 子ども・若者の社会参加と参画へ向けてのアプローチ</li> <li>15 まとめの講義</li> </ol>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>近年の子どもたちに対する言説についてそれぞれで調べておくこと。また講義で学んだ内容と自身の周辺で起きているさまざまな出来事との関連について考察すること。</p>			
教科書			
授業の中で適宜指示する			
参考書			
授業の中で適宜指示する			
成績の評価基準			
<p>小レポート 40点          期末レポート 60点          の計100点で評価する。</p>			

オフィスアワ -

月曜日の3限

アクティブ・ラーニング

グループワーク;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

3回(Zoom内で実施予定)

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
生涯教育概論			
英語名			
Introduction to Lifelong Education			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満・農中至		099-285-7603	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
金子満		前期	
授業概要			
<p>本年度はマナバとZOOMを利用し講義を進める予定です。また講義内容を一部変更する場合があります。マナバでの課題確認を忘れずにおこなってください。なお、本講義は社会教育主事資格取得を希望する学生に向けた専門科目でもあります。提出課題に関わり、数十ページにおよぶ課題文献の読解が必要なほか、複数回の講義においてある程度の分量を求めるレポート提出課題があるなど、一定の学習時間の確保が必要です。レポートの作成時間および課題遂行の時間が十分に確保できるかどうかを検討の上、履修してください。</p> <p>戦後日本社会における生涯教育政策の動向とユネスコなどの世界的に影響力の強い国際機関の果たしてきた役割について理解することを目的とします。その際、産業・社会構造の転換にともなう教育体制の再編成・再統合の観点から、教育そのものの在り方/教育理解のされ方の変化がどのように推移してきたのかを理解し、国際的な影響関係＝政策推進の社会的文脈を理解することも目指します。講義を中心としつつ、グループワーク、討論、文献講読などをおこないながら授業を進めます。</p>			
学修目標			
<p>・「生涯教育」といえば民間産業のイメージが強いですが、このイメージを打破し、?政策的影響、?国際的な影響、?教育の捉えなおしの影響などの諸点から現代的「生涯教育」概念を適切に理解できるようになることを目標とします。</p>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 生涯にわたる教育がなぜ要請されたのか?</li> <li>3. 生涯教育の現代的段階</li> <li>4. 生涯教育の推進の国際的な動向</li> <li>5. 産業構造の転換と生涯教育</li> <li>6. 新たな社会モデルの誕生と生涯教育への要請</li> <li>7. 既存の学校システムと生涯教育の関係</li> <li>8. 諸外国における生涯教育の実践</li> <li>9. 日本における生涯教育政策の展開</li> <li>10. 国際的生涯教育政策と日本への影響</li> <li>11. 生涯教育理念の浸透と日本の教育への影響</li> <li>12. 日本の生涯教育と社会教育の関係</li> <li>13. 日本の生涯教育と学校教育の関係</li> <li>14. 来るべき未来に向けた生涯教育の姿</li> <li>15. 2020年代の生涯教育の在り方</li> </ol>			
授業外学習 (予習・復習)			
適宜指示する。			
教科書			
適宜指示する。			

## 参考書

適宜指示する。

## 成績の評価基準

- ・授業毎のレポートと予習課題(45%)
- ・授業への貢献度(25%)
- ・最終レポート(30%)

## オフィスアワー

メール等で事前に連絡があれば随時対応

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);  
アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中8回以上を予定。

## 備考(受講要件)

- ・社会教育主事資格取得を目指すもの
- ・社会教育・生涯学習に関する職業に関心があるもの
- ・住民の学習の組織化に取り組むことを希望するもの

## 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

社会的コミュニケーション論

## 英語名

Social Communication Theory

## 開講学科

法経社会学科地域社会コース

## コース

地域社会コース

## 授業科目区分

法経社会・地域社会コース  
/ 選択科目

## 授業形態

講義

## 単位数

2単位

## 開講期

2～4年

## 担当教員

桑原司

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

kuwa3@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

社会学とは、「個人と社会」という視点から「自明性の剥奪」という研究姿勢をつうじて、日常世界を構成するさまざまな現象にアプローチしようとする学問である。

本講義では、「コミュニケーション」就中「社会的コミュニケーション」という現象をテーマに取り上げ、まずその自明性と問題点を指摘し、次いでその問題点を克服しうるコミュニケーション観及び人間観を社会学等の観点から考察し、最後にそのコミュニケーション観に立脚したコミュニケーション理論を「シンボリック相互作用論」(Symbolic Interactionism)の視座と方法を用いて構築する。

## 学修目標

1. 常識的なコミュニケーション観の特徴と問題点について理解する。  
常識的な観点を相対化できるようになる。
2. 社会的なコミュニケーション観及び人間観の特徴について理解する。  
社会的な観点をから現実を捉えることができるようになる。
3. 社会的なコミュニケーション理論について理解する。  
社会的な観点からコミュニケーションを分析・記述する諸概念を習得できる。

## 授業計画

## 授業計画

第1回：ガイダンス【課題提示型】

第2回：コミュニケーションの自明性【課題提示型】

第3回：2つの人間観【課題提示型】

第4回：情報とは何か【課題提示型】

第5回：二つのコミュニケーション観（後藤将之・宝月誠）・前編【課題提示型】

第6回：二つのコミュニケーション観（後藤将之・宝月誠）・後編【課題提示型】

第7回：シンボリック相互作用論の3つの根本前提（ブルーマー）【課題提示型】

第8回：シンボリック相互作用論の存在論的前提【課題提示型】

第9回：相互作用と合意：前編【課題提示型】

第10回：相互作用と合意：後編【課題提示型】

第11回：自己呈示論（ゴフマン／安藤清志）【課題提示型】

第12回：自己呈示の諸類型（釈明・セルフハンディキャッピング）【課題提示型】

第13回：自己呈示の諸類型（栄光浴）【課題提示型】

第14回：自己呈示の諸類型（防衛的自己呈示と主張的自己呈示）【課題提示型】

第15回：総括【課題提示型】

## 授業外学習（予習・復習）

授業において適宜指導。

## 教科書

なし。

## 参考書

後藤将之（1999）『コミュニケーション論』中公新書。

桑原司（2000）『社会過程の社会学』[

<https://web.archive.org/web/20130407223934/http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1195815/ecowww.leh.kagoshima-u.ac.jp/staff/kuwabara/doctor.htm> ]。

船津衛・安藤清志編（2002）『自我・自己の社会心理学』北樹出版。

伊藤勇・徳川直人編（2002）『相互行為の社会心理学』北樹出版。

## 成績の評価基準

課題の達成度（100%）

## オフィスアワー

授業後【manabaを通じて行います】

## アクティブ・ラーニング

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

## 備考（受講要件）

- ・この授業は「情報社会論」の振替科目である。既に情報社会論を修得している学生は履修できない。
- ・この授業は「社会問題と社会意識」への導入科目である。「社会問題と社会意識」を受講予定の学生は、この授業を履修することを強く勧める。

## 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

地域づくりとNPO

## 英語名

Community Development and NPO

## 開講学科

法経社会学科地域社会コース

## コース

地域社会コース

## 授業科目区分

法経社会・地域社会コース  
/ 選択科目

## 授業形態

演習

## 単位数

2単位

## 開講期

2～4年

## 担当教員

酒井佑輔

## 連絡先 (TEL)

099-285-7292

## 連絡先 (MAIL)

sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

特定非営利活動法人（以下、NPO）という言葉が注目されるようになったのは、1996年の阪神・淡路大震災以降であろう。1998年に特定非営利活動法が施行され、内閣府の調査によれば全国で認証されたNPO数は2020年度06月末現在で5万を超えている。鹿児島県内にも2018年には800を超えるNPOがあり、人口10万人当たりの認証数は全国で3番目に多い。こうしたNPOが環境保護や若者の居場所づくり、国際協力、外国人支援、生涯学習の場の提供等の多様なテーマで活動をすすめる、「新たな公共」を担う存在として注目されている。しかしながら、その一方でNPOの6割以上は財政規模が500万円未満でボランティアの支援によって支えられていたり、後継者不足や活動資金確保の困難等を理由に活動を休止をしている組織も多い。したがって、本授業では、NPOの歴史の変遷やその存在の今日的意義を多角的な視点から理解したうえで、地域づくりにおけるNPOの可能性について検討する。

なお、授業は原則zoomを用いたリアルタイム型形式で実施する。また、反転型授業のため、授業ごとに論文講読等の予習課題が必ずかされる。

## 学修目標

- 1) NPOの歴史的系譜や現代社会におけるその存在意義について多角的な視点から理解を深める。
- 2) 鹿児島県において地域づくりをすすめるNPOの事例を理解し検証する。
- 3) 地域づくりにおけるNPOの可能性について説明できるようになる。

## 授業計画

授業はすべてリアルタイム型の遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。

1. オリエンテーション (1) 授業の進め方・概要を理解する
2. オリエンテーション (2) 地域づくりにおけるNPOの現代的意義を探る
3. NPOの歴史を知る
4. 鹿児島のNPOのこれまでと現在
5. 鹿児島のNPOと地域づくり?—事前学習—
6. 鹿児島のNPOと地域づくり?—ゲストスピーカー講義— (社会教育施設としての図書館：NPO法人そら豆の会)
7. 鹿児島のNPOと地域づくり?—事前学習—
8. 鹿児島のNPOと地域づくり?—ゲストスピーカー講義— (僻地での若者の就労・自立支援：一般社団法人P S支援機構)
9. 鹿児島のNPOと地域づくり?—事前学習—
10. 鹿児島のNPOと地域づくり?—ゲストスピーカー講義— (環境教育：NPO法人くすの木自然館)
11. 鹿児島のNPOと地域づくり?—事前学習—
12. 鹿児島のNPOと地域づくり?—ゲストスピーカー講義— (調整中)
13. 鹿児島の地域づくりを担うNPOと私?
14. 鹿児島の地域づくりを担うNPOと私?
15. まとめ 地域づくりにおけるNPOの可能性と課題

16. 期末試験は行わない(指定期日までに期末レポートを提出)
【2020.09.24改定】
<b>授業外学習(予習・復習)</b>
予習:教科書を必ず事前に読んでおくこと。 復習:授業で学んだ内容を振り返りまとめること。
<b>教科書</b>
早瀬昇『「参加の力」が創る共生社会～市民の共感・主体性をどう醸成するか～』ミネルヴァ書房、2018。
<b>参考書</b>
佐藤一子編『NPOの教育力 生涯学習と市民的公共性』東京大学出版会、2004や 西川正『あそびの生まれる場所?「お客様時代」の公共マネジメント』ころから株式会社、2017等、適宜授業で紹介。
<b>成績の評価基準</b>
授業毎の小レポートと予習課題(35%) 授業・グループワークへの参加・貢献度(35%) 期末レポート(30%) 詳細は第1回のオリエンテーション時に提示予定。
<b>オフィスアワ -</b>
メール等で事前に連絡があれば随時対応
<b>アクティブ・ラーニング</b>
グループワーク; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); アクティブ・ラーニング(その他の内容)
PBL、反転型授業
<b>アクティブ・ラーニング(授業回数)</b>
全て
<b>備考(受講要件)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会教育概論」及び「地域社会を学ぶ」をすでに履修しているもののみ受講可とする。</li> <li>・受講を希望する学生は必ずオリエンテーションに出席すること。</li> <li>・全授業への出席を原則とし、授業数の1/3を欠席した場合、つまり5回の欠席で、学則上、成績評価の対象外とする。受講生には、授業やグループワーク、グループ発表への能動的な参加が求められる。</li> <li>・授業計画は暫定のものであり確定版はオリエンテーション時に案内予定である。</li> <li>・授業は原則zoomを用いて行いグループワーク時には顔出し必須とする。</li> </ul>
<b>実務経験のある教員による実践的授業</b>

ナンバリングコード			
科目名			
現代社会と地域社会			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
城戸秀之		099-285-7611	kido@leh/kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本講義は、社会学の重要なテーマである現代社会の特徴の分析に焦点を当て、自己や地域社会などの身近な問題を近現代社会の歴史的変化のなかで理解することを主眼とする。講義では、大衆社会、産業社会、知識社会などの現代社会論を紹介し、戦後の社会的変化をふまえて消費と情報化の視点から現代社会における社会空間のあり方とそれが地域社会にもたらした変化について考察をおこなう。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会学および現代社会論についての基礎的な知識を習得する。</li> <li>2. 戦後の日本社会の変化を生活様式と社会空間の変容を中心に理解する。</li> <li>3. 上記をふまえて、現代日本社会の特徴を捉える。</li> <li>4. 現代の地域社会の課題を示してその対策法を考えることができる。</li> </ol>			
授業計画			
<p>* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。</p>			
<p>第1回 社会学と現代社会(1) はじめに【リアルタイム型】</p> <p>第2回 社会学と現代社会(2) 「近代」の類型論【リアルタイム型】</p> <p>第3回 変容する「近代」(1) 2つの「大衆社会」【リアルタイム型】</p> <p>第4回 変容する「近代」(2) 消費における自己実現と社会変容【リアルタイム型】</p> <p>第5回 変容する「近代」(3) 情報における社会発展と社会の変容【リアルタイム型】</p> <p>第6回 変容する「近代」(4) 不可視化する「社会」【リアルタイム型】</p> <p>第7回 中間考察・小レポートの説明(課題のポイントと作成要領の説明)【リアルタイム型】</p> <p>第8回 現代日本の社会変容(1) 高度経済成長と消費革命【リアルタイム型】</p> <p>第9回 現代日本の社会変容(2) 都市化による社会構造の転換【リアルタイム型】</p> <p>第10回 現代日本の社会変容(3) 低成長期と生活様式の分化【リアルタイム型】</p> <p>第11回 現代日本の社会変容(4) 好景気と消費のユートピア【リアルタイム型】</p> <p>第12回 現代日本の社会変容(5) 生活大国から構造改革・IT革命へ【リアルタイム型】</p> <p>第13回 現代日本の社会変容(6) 「中流社会」から「格差社会」へ【リアルタイム型】</p> <p>第14回 現代化する地域社会(7) 消費化・情報化からみる地域社会【リアルタイム型】</p> <p>第15回 まとめ 期末レポートの説明【リアルタイム型】</p>			
授業外学習(予習・復習)			
予習: 適宜指示をする			
復習: 復習レポートを提出する			
教科書			
毎回の授業時間前にmanabaで資料を公開する			
参考書			
配付資料に適宜記載する			
成績の評価基準			
復習レポート(45%)、小レポート(10%)、期末レポート(55%)の成績による。			

## オフィスアワ -

木曜2限

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

授業中の課題としての小レポート、課題図書に関する課題レポートを提出する

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

## 備考（受講要件）

平成28年度以前の入学生が受講した場合は「現代社会論」に読み替えます。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会調査			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
片桐資津子		なし	katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>皆さんはエヴィデンスという言葉聞いたことがありますか。このクラスではエヴィデンスがどう作られるのか、どう作るのか、学びます。社会を少しでもよりよいものにしていくために社会的事実を把握することは重要です。なぜなら、そうしなければ対策も政策も方向性が定まらないからです。この意味から現代社会において、社会調査の内実を知り、その方法論を身につけることが期待されています。</p> <p>本講義では、社会調査のなかでも特に定量的調査（サーベイ）と定性的調査（フィールドワーク）から作られるエヴィデンスについて学習します。量的・統計的データの分析と考察に加え、質的・インタビューデータの分析と考察の仕方を具体的に学びます。</p>			
学修目標			
<p>社会調査の概要を理解します            定量的調査と定性的調査の違いと強みを学びます            個人情報保護と調査倫理の重要性を知ります</p>			
授業計画			
<p>第1回：社会調査の全体像            第2回：定量的調査（1） リサーチクエスションの重要性            第3回：定量的調査（2） 母集団とサンプリング            第4回：定量的調査（3） 調査票の質問項目とデータ            第5回：定量的調査（4） 分析の実際            第6回：定量的調査（5） 受講生によるプレゼンテーション            第7回：ディスカッション 質問紙票分析の可能性と限界            第8回：定性的調査（1） テーマと対象者の設定            第9回：定性的調査（2） 質的データの収集            第10回：定性的調査（3） 対象者とのラポール            第11回：定性的調査（4） データから説明概念を抽出し、理論/モデル化する            第12回：定性的調査（5） 受講生によるプレゼンテーション            第13回：ディスカッション インタビュー調査の可能性と限界            第14回：一次データと二次データ            第15回：社会にあふれるデータの真贋を見極めるには</p> <p>基本的にすべての授業は、リアルタイムのオンライン型で実施します。ただし受講生のネット接続といった受講環境や、今後の新型コロナ感染状況次第で、授業回数や内容は変更となる可能性があります。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>〔予習〕事前に配付されたデジタルプリントをみて、流れをつかみます。知らない言葉等を事前に調べます。            〔復習〕manabaに更新されたデジタルプリントを閲覧し知識の定着をはかります。</p>			
教科書			
テキストは使用しません。毎回事前に、manabaにプリントをアップします。			
参考書			
必要に応じて適宜、manabaに掲載します			

## 成績の評価基準

授業への取り組み態度（100％）

オフィスアワ -

随時，受け付けます

アクティブ・ラーニング

グループワーク；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

無断欠席は厳禁です

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
芸術文化デザイン論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
井原慶一郎		099-285-8877	ihara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
『デザイン史を学ぶクリティカル・ワーズ』をテキストに、モダン・デザインが立ち上がった19世紀の状況から、20世紀を10年単位で区切り、それぞれの時代を象徴するデザイナーや建築家、およびその作品・製品、企業や団体などのデザイン組織および教育機関、デザイン展の開催、美術運動やその様式、デザイン技法、デザイン雑誌や論文、関係する社会事象、流行現象などについて見ていき、それぞれの時代ごとの特徴について論じる。複数の学生による口頭でのレポート発表および質疑応答を2回おこない、講義の内容の理解を深める。			
学修目標			
授業の到達目標及びテーマ ・授業の到達目標は、19世紀から20世紀をへて現在に至るまでの芸術・文化・デザインの歴史の概要を年代ごとに理解することである。 ・授業のテーマは、19世紀から21世紀にかけての芸術・文化・デザインとその歴史であり、社会・歴史と芸術・文化・デザインのインターフェースに着目する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション 第2回：芸術文化デザイン論概説 第3回：19世紀の芸術・文化・デザイン 第4回：1900年代の芸術・文化・デザイン 第5回：1910年代の芸術・文化・デザイン 第6回：1920年代の芸術・文化・デザイン 第7回：1930年代の芸術・文化・デザイン 第8回：中間発表 第9回：1940年代の芸術・文化・デザイン 第10回：1950年代の芸術・文化・デザイン 第11回：1960年代の芸術・文化・デザイン 第12回：1970年代の芸術・文化・デザイン 第13回：1980年代の芸術・文化・デザイン 第14回：1990年代以降の芸術・文化・デザイン 第15回：最終発表			
zoomを使った遠隔授業を実施予定			
授業外学習 (予習・復習)			
[予習] 普段から本講義で扱うトピック・テーマに関心を持ち、関連記事をファイルする。 [復習] 本講義で扱ったトピック・テーマについて自分でも調べ、理解を深める。			
教科書			
高島直之監修、橋本優子・菅谷富夫・肴倉睦子編『デザイン史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルムアート社、2006年。			
参考書			
大寺聡著、井原慶一郎監修『オーテマティック 大寺聡作品集』フィルムアート社、2018年。			

成績の評価基準

リアクション・ペーパー(60%)、レポート(30%)、授業への取り組み態度(10%)。

オフィスアワー

オフィスアワーは当面実施しない。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

14回

備考(受講要件)

履修人数上限50名。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会教育計画論II			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
山城千秋		096-342-2624	qianqiu@educ.kumamoto-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>「社会教育とは何か」を理解することを目的として、基礎的な領域と基本的事項を中心に講義する。また、現代社会との関連で社会教育・生涯学習の今後のあり方について考察し、その基礎的理解を得ることをめざす。社会教育法では「社会教育を行う者」として、社会教育関係団体が位置づけられている。社会教育の計画主体として、青年集団をどのように捉えるか、その実践や課題を通して具体的に掘り下げて考察する。鹿児島県青年団協議会と連携しながら、授業を展開したい。</p>			
学修目標			
<p>生活に身近な社会教育関係団体、そして同じ青年としての青年団への理解を深め、地域社会における団体の歴史、役割、機能について理解する。また、婦人会や老人会、NPOなどの発展過程、意義についても知見を広げる。</p>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会教育計画のふりかえりと?のガイダンス</li> <li>2. 社会教育計画をめぐる主体の課題</li> <li>3. 社会教育における住民参加</li> <li>4. 社会教育における集団</li> <li>5. 社会教育関係団体の歴史的展開</li> <li>6. 現代社会における社会教育関係団体</li> <li>7. 青年集団の学びと運動</li> <li>8. 青年団における学習プログラム</li> <li>9. 青年団の実際? : 鹿児島県青年団協議会</li> <li>10. 青年団の実際? : 霧島市青年団協議会</li> <li>11. 青年団の実際? : 沖縄県青年団協議会</li> <li>12. 社会教育計画とNPO</li> <li>13. NPO・民間・市民のネットワークと連携</li> <li>14. 社会教育計画を考える視座</li> <li>15. ふりかえりとまとめ</li> <li>16. 試験 or レポート</li> </ol>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>現代社会と教育の問題について関心をもつために、新聞等に目を通すこと。</p>			
教科書			
参考書			
<p>社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所、2017年</p>			
成績の評価基準			
<p>成績評価は、出席のほか提出物と最終レポートの結果により判定する。</p>			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
<p>グループワーク; フィールドワーク;</p>			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

社会教育主事資格取得を希望するもの

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
外国書研究			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島大輔		099-285-8895	nakajima@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>全15回の授業を遠隔形式で実施する。</p> <p>政治的プログラムとして初めて欧州統合を提唱したリヒャルト・クーデンホーフ＝カレルギーの "Pan-Europa" (汎ヨーロッパ, 1923年) から、第2章 Europas Grenzen (ヨーロッパの境界) を読む。</p> <p>EU (欧州連合) は現在、英国の離脱に見られる加盟国のナショナリズムの高まりや難民・移民問題で、統合の真価が問われているが、こうした現在の欧州統合の情勢も視野に入れながら、第一次大戦直後の欧州統合論を理解する。</p> <p>文章自体は難しくはないものの、受講者の大半が初学者であることに配慮して、詳しい文法や語彙の解説を施しながら、少しずつ読み進める。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語の文法体系を復習・理解する</li> <li>2. まとまったドイツ語の文章を読めるようにする</li> <li>3. 欧州統合に対する関心と理解を深める</li> </ol>			
授業計画			
<p>授業は基本的にテキストに沿って進める。</p> <p>受講生は授業までに担当箇所の和訳を作成し、提出する。授業ではそれを全員で読み合わせ、教員の説明を受けながら精読し、内容を理解していく。</p> <p>まとまった内容を授業期間内で読み終わられるよう、段落ごとにあらかじめ分担を決める。また予習・復習ならびに内容理解を促すため、授業中に小テストを課す。</p> <p>およその授業計画は以下のとおり：</p> <p>第1回～第2回：オリエンテーション。著者クーデンホーフ＝カレルギーと『汎ヨーロッパ』について。授業の進め方について。担当箇所決定。</p> <p>第3回～第5回：第1節 Europas geographische Grenzen</p> <p>第6回～第9回：第2節 Europas historische Grenzen</p> <p>第10回～第12回：第3節 Europäische Kultur</p> <p>第13回～第15回：第4節 Paneuropa</p> <p>第16回：期末試験【遠隔形式にて実施】</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
ドイツ語に限らず、語学学習には予習と復習が欠かせない。特に課題を課さない場合も、授業は毎回予習と復習を前提に進める。			
教科書			
受講者数が限られることが予想されるので、初回の授業時に受講生のレベルや関心領域に配慮し、テキストを変更する場合もある。			
参考書			
独和辞典			
成績の評価基準			
授業への取り組み (発表、小テスト等) を70%、期末試験の成績を30%とし、その総合評価とする。			
オフィスアワ -			

火曜日 4 限 ( あらかじめメールで連絡があれば、これ以外の時間帯でも受け付けます )

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り ( ミニッツ・ペーパー等 ) ;

アクティブ・ラーニング ( その他の内容 )

小テストによる学習の振り返り

アクティブ・ラーニング ( 授業回数 )

14回

備考 ( 受講要件 )

授業は基本的に初学者を対象とするため、独語の履修歴は問いません。積極的に学ぶ意思があれば、独語をまったく履修していない学生も歓迎します。

なおテキストは開講時に紹介し、受講生との話し合いで選定した後、配布します。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

社会教育実践論

## 英語名

Practical Study of Social Education

## 開講学科

法経社会学科地域社会コース

## コース

地域社会コース

## 授業科目区分

法経社会・地域社会コース  
/ 選択科目

## 授業形態

講義

## 単位数

2単位

## 開講期

3～4年

## 担当教員

金子満・農中至

## 連絡先 (TEL)

099-285-7603

## 連絡先 (MAIL)

nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

小栗有子、金子満、酒井佑輔

## 前後期

後期

## 授業概要

社会教育実践の歴史と現状について学び、戦後の社会教育の発展過程ともたらされた成果、残された課題について理解します。戦後の社会教育実践は社会の発展とともにさまざまに変化してきました。なかでも地域課題解決に向けた住民主体のとりくみからは、今日学ぶべき点が多く存在します。たとえば、現代社会教育実践・活動の事例としては長野県下の事例が多く取り上げられます。この「長野モデル」の分析を手はじめに、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州、沖縄などの全国各地の事例から社会教育の実践分析を進めます。またそれぞれの実践が生起した歴史的な文脈を整理し、その理解を進めます。

## 学修目標

社会教育の実践にはどのようなタイプのものが存在するのか、その類型化と特色の抽出・分析ができるようになることを目指します。さらに有効な実践をつくるうえでなにが重要になってくるのか、その理念をつかむことができるようになることを目指します。最後に、住民自治や住民の参加・参画がなぜ不可欠なのか自分なりの視点で説明できるようになることを目指します。

## 授業計画

授業形態について変更する場合があるが、基本的にはzoomによるリアルタイム配信でおこなう。

1. オリエンテーション
2. 社会教育活動と社会教育実践とは？
3. 戦後社会教育の展開
4. 戦後社会教育の展開とその地域的多様性
5. 戦後社会教育の展開と都市・農村格差
6. 1950年代・社会教育実践と方法
7. 1960年代・社会教育実践の課題と方法
8. 1970年代・社会教育実践の困難と課題
9. 1980年代・社会教育実践の到達点と臨界
10. 1990年代・生涯学習と社会教育実践
11. 2000年代・不安定化する社会における社会教育実践
12. 民主的社会教育実践とはなんだったのか？
13. 戦後社会教育実践は地域社会になにをもたらしたのか？
14. 社会教育実践の価値はどのように言語化できるのか？
15. 地域づくり・地方創生と社会教育実践はどのように付き合っていけばよいのか？（確認小試験を含む）

## 授業外学習（予習・復習）

zoomのURLおよび予習課題、復習課題についてはmanabaにアップします。授業開始時までには必ずmanabaを確認するようにしてください。

社会教育にとどまらず、戦後の日本の地域住民はどのような教育を受け、学びを深めてきたのか考え、理解してください。社会教育実践の展開と社会教育の条件整備には地域差があり、一概に全国的な到達点を示すのは困難です。社会的文脈に照らして、なにが優良で、価値があり、見込みのある実践といえるのかを判断するために必要な情報を積極的に収集するようにしてください。

教科書
授業中に提示
参考書
授業中に提示
成績の評価基準
授業後の小レポート（50%）・最終レポート（20%）・予習課題の遂行状況（30%）
オフィスアワ -
メール等で事前に連絡があれば随時対応
アクティブ・ラーニング
グループワーク；ディベート；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中8回以上
備考（受講要件）
社会教育主事資格取得を強く希望するもの。 社会教育概論および生涯教育概論を履修し、 その他社会教育主事資格関連科目を履修済みのもの。
実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
多文化共生の地域づくり			
英語名			
Multicultural Community Development			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
酒井 佑輔		099-285-7292	sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>(2020.4.21改定/revised)</p> <p>現代の日本社会ではヘイト・スピーチに象徴されるような人種主義や排外主義の高揚、マイノリティに対する不寛容さの常態化傾向が指摘されてきた。最近では、新型コロナウイルス感染拡大により、外国人に対する制度上の排外主義や、日常生活での差別や排除・いじめ等の問題も顕在化しはじめている。</p> <p>その一方で、少子高齢化や労働力人口の穴埋め策としての移民受け入れは加速度的に進んでおり、彼ら・彼女らの存在抜きに私たちの生活は成立しない現実もある。したがって、「地域づくり」を考える際には、排外主義に抗する多文化共生を目指した国内外の取り組みを知り、その内実を捉え直すことが大変重要であると言える。</p> <p>以上を踏まえて、本講義では「新型コロナウイルス感染拡大と排外主義」をテーマに、諸外国や日本で発生している外国人に対する排除やいじめ・差別の問題を知り、それを克服するための多文化共生に向けた取り組みを学び理解を深める。また、自らがそれらの問題を克服する多文化共生を目指した地域づくりの取り組みを企画・立案することで、身近な多文化共生の望ましい在り方を考える。</p> <p>Because of serious labour shortages, aging population etc, Japan will formally open doors to foreign workers. However, racism, xenophobia and related intolerance have been expanded all over the world, and a lot of Japanese cities have worried about receiving more foreign workers. Focusing on this kind of situation, we can say that it is very important to think about multiculturalism and promote multicultural community development.</p> <p>This class aims to understand multiculturalism and multicultural community development and, design project related to these topics.</p>			
学修目標			
<p>1) 新型コロナウイルス感染拡大に伴って可視化しないしは生じた外国人に対する排外主義の問題について理解する。</p> <p>2) 日本における多文化共生を目指した地域づくりの事例を多角的な視点から理解する。</p> <p>3) 排外主義を越える多文化共生の地域づくりを進めるために何ができるのか、自ら志向し考え企画する能力を身につける。</p>			
授業計画			
<p>1. オリエンテーション? 排外主義に抗う多文化共生の地域づくりに向けて</p> <p>2. オリエンテーション?—新型コロナウイルスとわたしたち—</p> <p>3. 日本で目指されてきた多文化共生とは何か</p> <p>4. 新型コロナウイルス感染拡大により世界で生起する排外主義の現状を調べる</p> <p>5. 新型コロナウイルス感染拡大により世界で生起する排外主義の現状を発表する</p> <p>6. 新型コロナウイルス感染拡大により世界で生起する排外主義の現状を分析する</p> <p>7. 日本での新型コロナウイルス感染拡大と排外主義の現状を調べる</p> <p>8. 日本での新型コロナウイルス感染拡大と排外主義の現状を発表する</p> <p>9. 日本での新型コロナウイルス感染拡大と排外主義の現状を分析する</p> <p>10. 鹿児島県の排外主義及び多文化共生の現状を知る</p> <p>11. 鹿児島県の排外主義及び多文化共生の現状を知る</p>			

12. グループワーク:排外主義に抗う多文化共生の地域をデザインする(1)
13. グループワーク:排外主義に抗う多文化共生の地域をデザインする(2)
14. グループワークの発表
15. 総括
16. 期末試験は行わない(指定期日までに期末レポートを提出)
<b>授業外学習(予習・復習)</b>
予習:授業ごとに提示する資料(新聞記事や論文)を必ず事前に読んでおくこと。
復習:授業で学んだ内容を振り返りまとめること。
<b>教科書</b>
特になし。
<b>参考書</b>
・塩原良和・稲津秀樹編『社会的分断を越境する 他者と出会いなおす想像力』青弓社、2017
・宮島 喬『多文化であることとは 新しい市民社会の条件』岩波書店、2014
<b>成績の評価基準</b>
授業毎の小レポートと予習課題(35%) (Prepare resume about assignment for every class(35%))
授業・グループワークへの参加・貢献度(35%) (Participation in group discussion, and collaboration with cohort(35%))
期末レポート(30%) (Final report(30%))
<b>オフィスアワー</b>
メール等で事前に連絡があれば随時対応。 (Make appointment by email)
<b>アクティブ・ラーニング</b>
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);
<b>アクティブ・ラーニング(その他の内容)</b>
反転型授業、PBL/CBL
<b>アクティブ・ラーニング(授業回数)</b>
全て
<b>備考(受講要件)</b>
・留学生が授業に参加する予定のため、日本語以外にも英語等の外国語で授業をすすめる。したがって、旅行会話程度の英語ないしは他の外国語(中国語やスペイン語、ポルトガル語、インドネシア語、ベトナム語等)ができないと授業についてこれない可能性が大きい。
・受講を希望する学生は必ずオリエンテーションに出席すること。
・全授業への出席を原則とし、授業数の1/3を欠席した場合、つまり5回の欠席で、学則上、成績評価の対象外とする。受講生には、授業やグループワーク、グループ発表への能動的な参加が求められる。
・授業ではzoomを頻繁に利用するため、無制限のwifi環境があること及びノートPCやタブレット等を持っていることが望ましい。
<b>実務経験のある教員による実践的授業</b>

ナンバリングコード			
科目名			
成人教育論			
英語名			
Theory on Adult Education			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
農中至		0992857603	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本年度はマナバとZOOMを利用し講義を進める予定です。また講義内容を一部変更する場合があります。マナバでの課題確認を忘れずにおこなってください。なお、本講義は社会教育主事資格取得を希望する学生に向けた専門科目でもあります。提出課題に関する内容が高度であり、数十ページにおよぶ課題文献の読解が必要なほか、ほぼすべての回である程度の分量を求めるレポート提出課題があるなど、一定の学習時間の確保が不可欠です。文献の読解、レポートの作成時間が十分に確保できるかどうかをよく検討の上、履修してください。</p> <p>子どもを対象とする学校教育の実践・理論とは異なる成人のための学習に関する基礎理論と学習方法・内容について学びます。具体的には、成人を対象とする教育がどこで、どのように生起し、そこにどういった学習が成立するのかを欧米諸外国の実践も視野に探究していきます。とりわけ、これまでの自己の学習経験や教育体験からは想像できない学びのひろがりや奥行き、それに付随する基礎理論の成立と展開について、質疑応答、意見交換の過程を経ながら考えを深めます。</p>			
学修目標			
現代日本および諸外国の成人教育の実践と基礎理論に関する知識の獲得および基礎理論の実践への応用可能性を含めた態度の育成を目的とします。			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 学校教育における教育・学習観</li> <li>3. 成人のための教育・学習理解がなぜ必要なのか？</li> <li>4. 成人を学習対象者と想定する施設</li> <li>5. 成人を学習対象者と想定する実践</li> <li>6. 成人教育の理論と実践 歴史的な視点から</li> <li>7. 成人教育の理論的動向 近年の動向を中心に</li> <li>8. 成人教育の実践 都市と農村との差異</li> <li>9. 諸外国における成人教育の展開(一) 東アジア地域を中心に</li> <li>10. 諸外国における成人教育の展開(二) ヨーロッパ・北米地域を中心に</li> <li>11. 諸外国における成人教育の展開(三) 中南米・アフリカ地域を中心に</li> <li>12. 成人のための教育活動・実践のための制度/法/機会</li> <li>13. 成人の教育・学習を支える教育専門職</li> <li>14. 社会構造の変容と成人教育に求められるもの</li> <li>15. 現代成人教育の課題と展望</li> </ol>			
授業外学習(予習・復習)			
各回の授業中に適宜資料も配布する予定です。それらの資料を読み込んだ上でレポート作成に取り組んでください。また復習については各回の冒頭で振り返り・内容確認等を実施する場合がありますので、学んだ内容に関する記憶の定着化を進めてください。			
教科書			
授業中に提示します。			

## 参考書

マルカム・ノールズ『成人教育の現代的実践』（鳳書房、2002）

## 成績の評価基準

授業レポート・予習課題状況（50%）・参画・貢献状況（25%）・最終レポート（25%）

## オフィスアワ -

随時対応します。

## アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

16回中13回を予定

## 備考（受講要件）

社会教育概論、生涯教育概論などの地域社会コース開設科目の社会教育・生涯学習関連科目を3科目以上受講し、単位を取得しているもの。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
馬場武		099-285-7582	baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本演習では、情報マネジメントの立場から企業経営に効果的なアウトプットを提供するための問題発見力と解決力の修得を目指します。</p> <p>情報マネジメントをあえて定義するのであれば、企業を取り巻く多種多様な情報を評価・解析し、経営上の効果を最適化するための分析をおこない、その結果を経営の意思決定に反映していく手続きの繰り返しといえるでしょう。そのためには、情報科学・プログラミング・経営学・マーケティング・統計学などの基本的な知識やスキルが必要になります。</p> <p>したがって、本演習ではこれら必要な基本的知識やスキルのインプット（輪読や実習）とその知識を使ったアウトプット（レポートやプレゼン）をおこないます。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適切な情報を収集して分析する力</li> <li>2. 問題を発見する力</li> <li>3. 問題を解決するために工夫する力</li> <li>4. レポート作成などの書くプレゼン能力</li> <li>5. インタラクティブなコミュニケーションを含む話すプレゼン能力</li> </ol>			
授業計画			
<p>遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>第1回：ガイダンス，担当者の報告と討論【リアルタイム型】</p> <p>第2回：担当者の報告と討論【リアルタイム型】</p> <p>第3回：担当者の報告と討論【リアルタイム型】</p> <p>第4回：担当者の報告と討論【リアルタイム型】</p> <p>第5回：担当者の報告と討論【リアルタイム型】</p> <p>第6回：担当者の報告と討論【リアルタイム型】</p> <p>第7回：担当者の報告と討論【リアルタイム型】</p> <p>第8回：担当者の報告と討論【リアルタイム型】</p> <p>第9回：担当者の報告と討論【リアルタイム型】</p> <p>第10回：担当者の報告と討論【リアルタイム型】</p> <p>第11回：担当者の報告と討論【リアルタイム型】</p> <p>第13回：担当者の報告と討論【リアルタイム型】</p> <p>第14回：担当者の報告と討論【リアルタイム型】</p> <p>第15回：担当者の報告と討論，総括【リアルタイム型】</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：毎回の報告レジュメの作成（120分）</p> <p>復習：レジュメやレポートの修正（60分）</p>			
教科書			
適宜レジュメを配布します。			

## 参考書

授業内で紹介します。

## 成績の評価基準

講義でのプレゼンとレポートの総合評価（100％）。

なお、全授業に出席することが前提です。2回以上欠席した場合には単位を認めません。

## オフィスアワ -

メールにてアポイントをとってください。

## アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

## 備考（受講要件）

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
林田吉恵			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>「社会経済（現代公共部門、地域問題、グローバル社会等）の諸問題とその解決策の研究」</p> <p>論理的な思考を養うために、徹底的にゼミでは議論する。 本演習では、学生がみずから問題を設定し、それについて探求することが求められる。社会経済問題に対する知的好奇心を発掘し、学識を深めることが、本演習の目的である。社会に出て必要とされる基本的スキルを、共同研究を通じて身につけ、その向上を目指す。</p> <p>共同研究のテーマによっては、フィールドに出てヒアリングをすることもある。 分析をするにあたり、統計手法についてもマスターできるようにする。 また、学内・学外でのディベート大会や他大学との合同ゼミも、随時やっていく予定である。</p>			
学修目標			
<p>本演習の到達目標は、つぎの5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、明確な問題意識のもとに研究テーマを設定し、その問題意識を他のメンバーと共有することができる。</li> <li>2、選んだ研究テーマに対して適切な参考文献を揃え、それらを深く読解し、分析することができる。</li> <li>3、研究成果を他者に対して明確に伝えることができる（プレゼンテーション能力）。</li> <li>4、他者の研究成果にも関心を持ち、適切な質疑応答をおこなうことができる（ディスカッション能力）。</li> <li>5、文書および口頭で自己の考えを明確に表現することができる。</li> <li>6、研究成果を論文としてまとめることができる（書く能力）。</li> </ol>			
授業計画			
<p>課題解決のための処方箋を論理的に検討する能力を養成するために、共同研究報告を中心に分析結果を発表形式で進める。</p> <p>ゼミ内でのグループ討論を中心に進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、ディベート（1）のためにテーマ決定・基礎知識の習得・分析・報告。</li> <li>2、ゼミ生による問題提起と共同研究の下地作り。</li> <li>3、各テーマごとに分析結果を報告・議論。</li> </ol> <p>ゼミ内でグループを作り、それぞれ自由にテーマを決める。それについてグループ学習をして、レジュメを作成し、パワーポイントなどで報告する。報告者以外のゼミ生は、報告を聞き、それについて質疑応答しながら議論する。</p> <p>第1回 ガイダンス、自己紹介 第2回～第14回 研究指導、報告、ディスカッション 第15回 総括</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>この講義は授業外のグループ研究に基づいて進行していくことから、必ず授業時間外に研究をし、グループで集まってまとめること。 （学修に係る標準時間は約2時間）</p>			

## 教科書

学生がレジユメを作成し、配布する。

## 参考書

特になし。

分析ツールの修得を行うとともに、関連テーマについて新聞・雑誌に目を通すことを勧める。

## 成績の評価基準

主にゼミ活動への積極的取り組みを中心に、期末レポートの評点を総合して評価する。

## オフィスアワ -

火曜日

必ず事前にメールで連絡してください

## アクティブ・ラーニング

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

## 備考（受講要件）

ゼミは、学生主体の共同作業の場であるから、各人の積極的な参加が前提となる。学問は真剣勝負の世界であるが、しかし同時に楽しい雰囲気の中でお互いに助け合いながら学識を深めてゆきたい。このような趣旨に賛同して、熱意ある仲間が集うことを期待している。ゼミ活動への積極的な姿勢を期待する。  
無断欠席3回した場合は単位認定しません。

今後の状況次第で授業形態・回数や内容は変更となる可能性があります。

授業形態等を変更する際は、予めmanabaコースニュースや授業内において通知します。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
山本一哉		099-285-7595	yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本演習では、アジア経済の発展メカニズムと展望について考察する。            演習では、テキストを分担して報告してもらい、ディスカッションを行う。</p> <p>* zoomによる遠隔授業を中心にを行います。</p>			
学修目標			
1) 基本的な開発経済学の理論について理解する。 2) アジア経済の発展メカニズムについて理解する。 3) 資料収集、報告、ディスカッションの仕方を身につける。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回～第14回	報告及びディスカッション		
第15回	まとめ		
授業外学習 (予習・復習)			
テキストをしっかり読んでゼミに参加すること。復習に関しては、報告者のレジюмеとテキストを読み返すこと。			
教科書			
後藤健太『アジア経済とは何か-躍進のダイナミズムと日本の活路』(中公新書)			
参考書			
講義の際に紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度			
オフィスアワー			
木曜日3限目			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
特になし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
市川英孝			ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>前期から引き続き、4年生は各自の卒論に関する発表を、3年生は各自の研究テーマに沿って発表を行ってもらおう。その内容に関して参加者全員で議論を行う。2年生は上級生が発表する内容に関して、客観的な立場で議論を行う。必要に応じて、2年生にも発表を求める。</p> <p>研究テーマとしては、広義のシステム構築に関して、幅広く議論を進めていく。</p>			
学修目標			
<p>4年生は、多くの意見に耳を傾け、卒論の質をより高めるように努める。</p> <p>3年生は、各自の興味分野に深みを持ち、他者の研究内容などから広く情報を得て、卒論作成に向けて準備を行う。</p> <p>2年生は、上級生の発表を踏まえて、3年次以降の研究テーマに関して方向付けを行う。</p>			
授業計画			
第1回	各発表者による報告、議論(1)		
第2回	各発表者による報告、議論(2)		
第3回	各発表者による報告、議論(3)		
第4回	各発表者による報告、議論(4)		
第5回	各発表者による報告、議論(5)		
第6回	各発表者による報告、議論(6)		
第7回	各発表者による報告、議論(7)		
第8回	各発表者による報告、議論(8)		
第9回	各発表者による報告、議論(9)		
第10回	各発表者による報告、議論(10)		
第11回	各発表者による報告、議論(11)		
第12回	各発表者による報告、議論(12)		
第13回	各発表者による報告、議論(13)		
第14回	各発表者による報告、議論(14)		
第15回	各発表者による報告、議論(15)		
授業外学習(予習・復習)			
発表者はしっかりとした準備をすること。			
教科書			
特になし。(必要に応じてプリントなどを配布)			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
積極的な授業参加100%			
オフィスアワー			
メールで連絡してください。その後対応します。			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
王 鏡凱			kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
コーポレート・ファイナンス（経営財務），経営学・経済学に関する問題について様々な角度から討論することにより，資金調達についての理解を深めるとともに，経営学・経済学全般を幅広く理解することを目指す．テーマごとに担当者が報告を行い，全員で討論する．テーマ等の詳細については受講生と相談のうえ決める．			
***授業形態：全授業はZOOMによるリアルタイム配信で実施する．***			
***今後のコロナの感染状況やその他の理由により，授業形態を変更する場合がある．***			
学修目標			
(1) コーポレート・ファイナンス（経営財務），経営学と経済学の基礎知識を修得し，主な研究手法について理解する．			
(2) 研究手法に沿って資料収集，報告，ディスカッションの仕方を身につける．			
(3) 物事を論理的にかつ直感的に捉える能力を養う．			
授業計画			
***授業形態：全授業はZOOMによるリアルタイム配信で実施する．***			
***今後のコロナの感染状況やその他の理由により，授業形態を変更する場合がある．***			
第1回 ガイダンス(ZOOMによるリアルタイム配信)			
第2回～第15回 発表と討論(ZOOMによるリアルタイム配信)			
*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが受講生の理解度を考え調整することもある。			
授業外学習（予習・復習）			
ニュースに目を通す、講義で勉強したものを現実の事例に当てはめる。 興味ある企業や就職したい企業に当てはめるのは最も効果的である。			
教科書			
必要に応じて適宜，指定する．または，プリントを配布する．			
参考書			
授業中適宜紹介する．			
1. 伊藤秀史(著),小林創(著),宮原泰之(著),『組織の経済学』、有斐閣出版、2019年．			
2. 砂川伸幸『コーポレート・ファイナンス入門<第2版>』2017年（日経文庫）			
3. 白石俊輔『経済学で出る数学 ワークブックでじっくりせめる』2013年（日本評論社）			
4. ポール・ミルグロム（著），ジョン・ロバーツ（著），奥野正寛（訳），伊藤秀史（訳），今井晴雄（訳），西村理（訳），八木甫（訳）『組織の経済学』NTT出版 1997年．			
5. 入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社 2019年			
成績の評価基準			
発表・討論によって評価する．			
オフィスアワー			
MANABAの掲示板と電子メール、随時受付しております。			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

\*電卓を持参すること。

\*出席は成績の必要条件であり，十分条件ではないことを理解してください。

\*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが，受講生の理解度を考え調整することもある。

\*\*\*授業形態：全授業はZOOMによるリアルタイム配信で実施する。\*\*\*

\*\*\*今後のコロナの感染状況やその他の理由により，授業形態を変更する場合がある。\*\*\*

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
山本一哉		099-285-7595	yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
本演習では、国際経済に関する入門書をテキストとし、国際経済の基本的な理論や用語について学習するとともに、世界経済の現状と問題等について考察する。 演習では、テキストを分担して報告してもらい、ディスカッションを行う。			
学修目標			
1) 国際経済の基本的な理論を身につける。 2) 国際収支の不均衡など世界経済が抱える問題を理解する。 3) 資料収集、報告、ディスカッションの仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回~第14回 報告及びディスカッション 第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
テキストをしっかり読んでゼミに参加すること。復習に関しては、報告者のレジюмеとテキストを読み返すこと。			
教科書			
講義の際に説明する。			
参考書			
講義の際に紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度			
オフィスアワー			
曜日・時間：毎週金曜日2限、場所：研究室			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
市川英孝			ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
4年生は各自の卒論に関する発表を、3年生は各自の研究テーマに沿って発表を行ってもらおう。その内容に関して参加者全員で議論を行う。2年生は上級生が発表する内容に関して、客観的な立場で議論を行う。必要に応じて、2年生にも発表を求める。			
研究テーマとしては、広義のシステム構築に関して、幅広く議論を進めていく。			
学修目標			
4年生は、多くの意見に耳を傾け、卒論の質をより高めるように努める。			
3年生は、各自の興味分野に深みを持ち、他者の研究内容などから広く情報を得て、卒論作成に向けて準備を行う。			
2年生は、上級生の発表を踏まえて、3年次以降の研究テーマに関して方向付けを行う。			
授業計画			
第1回	各発表者による報告、議論(1)	(オンライン型)	
第2回	各発表者による報告、議論(2)	(オンライン型)	
第3回	各発表者による報告、議論(3)	(オンライン型)	
第4回	各発表者による報告、議論(4)	(オンライン型)	
第5回	各発表者による報告、議論(5)	(オンライン型)	
第6回	各発表者による報告、議論(6)	(オンライン型)	
第7回	各発表者による報告、議論(7)	(オンライン型)	
第8回	各発表者による報告、議論(8)	(オンライン型)	
第9回	各発表者による報告、議論(9)	(オンライン型)	
第10回	各発表者による報告、議論(10)	(オンライン型)	
第11回	各発表者による報告、議論(11)	(オンライン型)	
第12回	各発表者による報告、議論(12)	(オンライン型)	
第13回	各発表者による報告、議論(13)	(オンライン型)	
第14回	各発表者による報告、議論(14)	(オンライン型)	
第15回	各発表者による報告、議論(15)	(オンライン型)	
「今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある」			
授業外学習(予習・復習)			
発表者はしっかりとした準備をすること。			
教科書			
特になし。(必要に応じてプリントなどを配布)			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
積極的な授業参加100%			
オフィスアワ -			
メールで連絡してください。その後対応します。			

今期についてはZOOMを使って行うので、基本メールなどで適宜対応します。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
王 鏡凱			kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>コーポレート・ファイナンス（経営財務），経営学，行動経済学に関する問題について様々な角度から討論することにより，資金調達についての理解を深めるとともに，経営学全般を幅広く理解することを目指す．テーマごとに担当者が報告を行い，全員で討論する．テーマ等の詳細については受講生と相談の上，決める．</p> <p>*** 授業は4月21日から始まる。コロナ関係で授業はZOOMがメインになる。***  *** コロナのため、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。***</p>			
学修目標			
<p>(1) コーポレート・ファイナンス（経営財務），経営学，行動経済学の基礎知識を修得し，主な研究手法について理解する．</p> <p>(2) 研究手法に沿って資料収集，報告，ディスカッションの仕方を身につける．</p> <p>(3) 物事を論理的にかつ直感的に捉える能力を養う．</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス(ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第2回～第15回 発表と討論(ZOOMによるオンライン型)</p> <p>* 授業内容およびテキストについては、受講生研究上の必要性和関心に応じて追加・変更することがある。  *** 授業は4月21日から始まる。コロナ関係で授業はZOOMがメインになる。***  *** コロナのため、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。***</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>ニュースに目を通す、講義で勉強したものを現実の事例に当てはめる。  興味ある企業や就職したい企業に当てはめるのは最も効果的である。</p>			
教科書			
<p>必要に応じて適宜，指定する．または，プリントを配布する．</p>			
参考書			
<p>授業中適宜紹介する．</p> <p>伊藤秀史(著),小林創(著),宮原泰之(著),『組織の経済学』、有斐閣出版、2019年．  砂川伸幸『コーポレート・ファイナンス入門&lt;第2版&gt;』 2017年（日経文庫）  白石俊輔『経済学で出る数学 ワークブックでじっくりせめる』2013年（日本評論社）  ポール・ミルグロム（著），ジョン・ロバーツ（著），奥野正寛(訳)，伊藤秀史(訳)，今井晴雄(訳)，西村理(訳)，八木甫(訳)『組織の経済学』NTT出版 1997年．  入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社 2019年．</p>			
成績の評価基準			
<p>発表・討論によって評価する．</p>			
オフィスアワ -			
<p>MANABAの掲示板と電子メール、随時受付しております。</p>			

## アクティブ・ラーニング

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

## 備考（受講要件）

\*電卓を持参すること。

\*出席は成績の必要条件であり，十分条件ではないことを理解してください。

\*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが，受講生の理解度を考え調整することもある。

\*\*\* 授業は4月21日から始まる。コロナ関係で授業はZOOMがメインになる。\*\*\*

\*\*\* コロナのため、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。\*\*\*

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
澤田成章		0992858888	sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>会計は企業行動を映し出す鏡であると言われる。したがって、会計を学び習得する上では、企業行動と財務諸表数値の照らし合わせを行うことも重要なステップとなる。本ゼミではこうした点に注目し、財務諸表分析を中心とした企業行動分析を行う。とりわけ、本ゼミでは一般的な理論やフレームワークでは説明のつかない現象に対する分析を重視する。</p>			
学修目標			
<p>一般的な理論やフレームワークでは説明のつかない現象に対して独自の説明を行うためには、徹底的に情報を収集し、自身の頭で因果関係の仮説検証を行い、他者に伝わりやすいように情報を整理、加工、編集することが不可欠である。こうした作業を通じて、情報収集力、思考力、表現力、コミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする。</p>			
授業計画			
<p>輪読を通じた知識の習得と、習得した知識を実際に活用した分析についてのプレゼンテーションを並行して進める。テキストである『ゼミナール現代会計入門（第9版）』は2か月程度で読了する予定であるが、その後の内容については適宜ゼミ生との議論によって決定していく。なお、課題はへの取り組みは、原則としてグループ単位で進めることを想定している。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>グループで資料収集・議論・レジュメ作成等をしていただきます。</p>			
教科書			
『ゼミナール現代会計入門（第9版）』伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社			
参考書			
適宜提示します。			
成績の評価基準			
出席および講義内の議論への参画度（50%）、最終レポート（50%）の総合評価による。			
オフィスアワー			
適宜、事前にアポイントメントを取ること。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
西村知	099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
本授業は受講生が主体となっておこなう。アジア経済に関する文献の輪読、報告および時事問題に関する研究をおこなう。			
学修目標			
受講生はアジア経済に関する知識を増やすとともに、自己表現能力 (プレゼン、ディスカッション) を高める。			
授業計画			
1回 オリエンテーション			
2-14回 アジア経済に関する文献の輪読および時事問題研究			
15回 総括 (アジア経済に関して得た知識の再確認を中心として)			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中、適宜、指示する。			
教科書			
オリエンテーションで指示する。			
参考書			
オリエンテーションで指示する。			
成績の評価基準			
報告と議論の内容			
オフィスアワ -			
火曜日2時半から3時半			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
三浦壮		099 - 285 - 8905	miura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本演習のテーマは社会科学である。            チームで最も関心のあるテーマを選定し、調査をし、報告を行う。</p>			
学修目標			
<p>1. 自分で作成したレジュメ・資料によってプレゼンテーションができるようになる。            2. 社会科学の諸問題について議論できるようになる。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス (遠隔授業)            第2回 第15回 発表と討論 (遠隔授業)            第16回 まとめ (遠隔授業)</p> <p>途中、小学校出前授業などの体験型学習を取り入れる予定があるが、コロナ対策で中止の可能性ある。。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
必要に応じて、その都度指示する。			
教科書			
用いない。			
参考書			
講義の中で適宜紹介する。			
成績の評価基準			
報告と議論の内容によって決める。欠席は一回につき、10点マイナス、無断欠席はそれに5点マイナスが追加される。そのため、無断欠席を3回した場合、自動的に不可となる。			
オフィスアワ -			
金曜3限目			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
16回中14回			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
林田吉恵			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>「社会経済（現代公共部門、地域問題、グローバル社会等）の諸問題とその解決策の研究」</p> <p>論理的な思考を養うために、徹底的にゼミでは議論する。            本演習では、学生がみずから問題を設定し、それについて探求することが求められる。社会経済問題に対する知的好奇心を発掘し、学識を深めることが、本演習の目的である。社会に出て必要とされる基本的スキルを、共同研究を通じて身につけ、その向上を目指す。</p> <p>共同研究のテーマによっては、フィールドに出てヒアリングをすることもある。            分析をするにあたり、統計手法についてもマスターできるようにする。            また、学内・学外でのディベート大会や他大学との合同ゼミも、随時やっていく予定である。</p>			
学修目標			
<p>本演習の到達目標は、つぎの5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、明確な問題意識のもとに研究テーマを設定し、その問題意識を他のメンバーと共有することができる。</li> <li>2、選んだ研究テーマに対して適切な参考文献を揃え、それらを深く読解し、分析することができる。</li> <li>3、研究成果を他者に対して明確に伝えることができる（プレゼンテーション能力）。</li> <li>4、他者の研究成果にも関心を持ち、適切な質疑応答をおこなうことができる（ディスカッション能力）。</li> <li>5、文書および口頭で自己の考えを明確に表現することができる。</li> <li>6、研究成果を論文としてまとめることができる（書く能力）。</li> </ol>			
授業計画			
<p>課題解決のための処方箋を論理的に検討する能力を養成するために、共同研究報告を中心に分析結果を発表形式で進める。</p> <p>ゼミ内でのグループ討論を中心に進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、ディベート（1）のためにテーマ決定・基礎知識の習得・分析・報告。</li> <li>2、ゼミ生による問題提起と共同研究の下地作り。</li> <li>3、各テーマごとに分析結果を報告・議論。</li> </ol> <p>ゼミ内でグループを作り、それぞれ自由にテーマを決める。それについてグループ学習をして、レジュメを作成し、パワーポイントなどで報告する。報告者以外のゼミ生は、報告を聞き、それについて質疑応答しながら議論する。</p> <p>第1回 ガイダンス、自己紹介            第2回～第14回 研究指導、報告、ディスカッション            第15回 総括</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>この講義は授業外のグループ研究に基づいて進行していくことから、必ず授業時間外に研究をし、グループで集まってまとめること。            （学修に係る標準時間は約2時間）</p>			

## 教科書

学生がレジユメを作成し、配布する。

## 参考書

特になし。

分析ツールの修得を行うとともに、関連テーマについて新聞・雑誌に目を通すことを勧める。

## 成績の評価基準

主にゼミ活動への積極的取り組みを中心に、期末レポートの評点を総合して評価する。

## オフィスアワ -

火曜日

必ず事前にメールで連絡してください

## アクティブ・ラーニング

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

## 備考（受講要件）

ゼミは、学生主体の共同作業の場であるから、各人の積極的な参加が前提となる。学問は真剣勝負の世界であるが、しかし同時に楽しい雰囲気の中でお互いに助け合いながら学識を深めてゆきたい。このような趣旨に賛同して、熱意ある仲間が集うことを期待している。ゼミ活動への積極的な姿勢を期待する。無断欠席3回した場合は単位認定しません。

今後の状況次第で授業形態・回数や内容は変更となる可能性があります。

授業形態等を変更する際は、予めmanabaコースニュースや授業内において通知します。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
日本経済史			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
三浦壮		099-285-8905	miura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
日本経済の歴史的展開を、近代に焦点を絞り、講義をする。日本は、戦前期、アジアで唯一近代資本主義化が定着した地域であり、これを基礎としながら、現代の日本経済が構築されている。受講者は、歴史をみることで、現状分析だけでは得られない経済学の知識を修得されたい。			
学修目標			
1. 日本経済の歴史的経過を理解できるようになること 2. 歴史研究の手法を理解すること			
授業計画			
第1回：日本経済史とは（遠隔授業） 第2回：近代以前の日本経済（遠隔授業） 第3回 殖産興業と松方財政（遠隔授業） 第4回 産業革命（産業化）と近代産業の成立1（産業革命論）（遠隔授業） 第5回 産業革命（産業化）と近代産業の成立2（綿紡績業）（遠隔授業） 第6回 産業革命（産業化）と近代産業の成立3（製糸業・石炭産業）（遠隔授業） 第7回 株式会社制度の普及と財閥1（有限責任、紡績業と鉄道業）（遠隔授業） 第8回 株式会社制度の普及と財閥2（財閥）（遠隔授業） 第9回 株式会社制度の普及と財閥3（株式担保金融、中央・地方資産家）（遠隔授業） 第10回 日清・日露戦争と日本経済1（日清戦争）（遠隔授業） 第11回 日清・日露戦争と日本経済2（日清・日露戦争の資金調達）（遠隔授業） 第12回 戦間期の日本経済1（第一次世界大戦ブーム）（遠隔授業） 第13回 戦間期の日本経済2（金融恐慌）（遠隔授業） 第14回 戦間期の日本経済3（昭和恐慌、井上財政と高橋財政）（遠隔授業） 第15回 戦時経済（遠隔授業）			
授業外学習（予習・復習）			
授業中に指示する			
教科書			
用いない。			
参考書			
授業中に指示する。			
成績の評価基準			
試験による			
オフィスアワ -			
金曜3限目			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCE2443			
科目名			
東南アジア経済論			
英語名			
South-east Asian Economics			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
西村知	099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東南アジア経済の特徴を共通性と特殊性を歴史、経済構造の点などから概観したのち、いくつかの国（シンガポール、フィリピン、ベトナムなど）の戦後経済史を解説する。</li> <li>・ 基礎的な開発経済学の解説をおこなう。</li> <li>・ 教員が研究をおこなうフィリピン経済の実態を体験談から話す。</li> <li>・ 映画などを用いて、東南アジア経済の視覚的理解を促す。</li> </ul>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東南アジア経済の抱える問題を理解する。</li> <li>・ 開発経済学の基礎を学ぶ。</li> <li>・ 東南アジア経済を研究することの楽しさを学ぶ。</li> </ul>			
授業計画			
1 オリエンテーション（授業の内容、受講上の注意）			
2-5 東南アジア経済の特徴			
6.7 シンガポール経済			
8.9 フィリピン経済			
10.11 ベトナム経済			
12.13 タイ経済			
14 東南アジア経済に関する映画上映			
15 総括（全授業内容の復習）			
授業外学習（予習・復習）			
授業中、適宜、指示する。			
教科書			
授業の開始後に指示する。			
参考書			
授業の開始後に指示する。			
成績の評価基準			
100点満点中			
90点：期末筆記試験1回（授業内容の習得度確認）			
10点：東南アジア経済に関するレポート1回			
オフィスアワー			
火曜日1時半から2時半			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			

なし。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

財政政策論II (財政学総論)

## 英語名

Public Finance II

## 開講学科

## コース

法経社会学科経済コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・経済コース/選  
択科目

講義

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

林田吉恵

yhayashida@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

近年、わが国の財政状況は厳しくなるとともに、高齢社会に伴い年金問題や世代間格差、地方分権、将来の増税不安など、解決すべき財政問題は増え続け、財政運営はますます困難の度を強めている。この講義では国と地方の財政関係（特に税）の現状とあり方について考察する。

## 学修目標

受講生が現実の財政問題を論理的に考える力や判断力を身につけることを到達目標としている。

## 授業計画

できるかぎり受講生の反応を見ながら講義を進めたいので、板書を中心に講義を進めるとともに、随時、受講生からの発言を求め、コメントペーパーを書いてもらうなどの双方向の講義になるように努める。

したがって、講義の進捗状況によっては、シラバスを変更する可能性もある。

- 第1回 税の役割と租税原則 租税原則、応能原則と応益課税、地方税減速  
 第2回 課税における公平 水平的公平と垂直的公平、転嫁、帰着  
 第3回 課税と経済効率(1) 所得税、勤労意欲、  
 第4回 課税と経済効率(2) 所得税、消費選択、貯蓄行動  
 第5回 日本の税制 租税負担率、租税体系、税制改革  
 第6回 日本の主要な税(1) 課税最低限、累進税率構造、所得控除、クロヨン問題、給付  
 税額控除  
 第7回 日本の主要な税(2) 物品税、簡易課税、帳簿方式とインボイス方式、軽減税率  
 第8回 日本の主要な税(3) 実効税率、課税ベース、投資行動  
 第9回 日本の主要な税(4) 地方分権、課税自主権 固定資産税、地方法人課税  
 第10回 社会保障の課題(1) 超高齢社会、貧困、負の所得税、積立方式と賦課方式  
 年金財政  
 第11回 社会保障の課題(2) 国民医療費、自己負担、モラル・ハザード、公的介護保険  
 第12回 国と地方の関係を考える 地方分権改革、補完性の原理、近接性の原理  
 第13回 地方財政の問題(1) 受益者負担、民間委託  
 第14回 地方財政の問題(2) 広域連携  
 第15回 講義のまとめを行い、受講生からの質問を受けつける。予備。

定期試験

## 授業外学習 (予習・復習)

新聞やニュースなどを読む(観る)など、わが国の抱える様々な経済問題に対するの関心を持つようにする。  
 講義で疑問に思ったことや興味をもったことについて自分で調べる。

(学修にかかる標準時間は約60分)

## 教科書

とくに定めない。講義内容に応じて、適宜資料を配布する。

## 参考書

林 宜嗣『基本コース財政学 第3版』 新世社

林 宜嗣『地方財政 新版』 有斐閣

## 成績の評価基準

定期試験および、平常態度(講義内レポート、受講態度)等も考慮して評価する。

## オフィスアワ -

火曜日

必ず事前にメールで連絡してください。

## アクティブ・ラーニング

## アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

## 備考(受講要件)

板書で講義をすすめるため、きちんとノートがとれるようにする。

今後の状況次第で授業形態・回数や内容は変更となる可能性があります。

授業形態等を変更する際は、予めmanabaコースニュースや授業内において通知します。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
職業指導			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
池元正美		090-8223-2737	imasami@d-linxs.com
共同担当教員		前後期	
なし。		前期	
授業概要			
<p>学校教育現場で教職員にとって必須となるキャリア教育についての講義です。  組織や企業におけるキャリア開発及びその支援に活用されている様々な理論や手法を、現場における事例を取り入れながら、グループワークなども含めキャリア教育に関しての基本を学びます。  特に、働く上で重要な意味を持つ「内的キャリア」に焦点をあて、自己理解やコミュニケーション、キャリア開発に関するワークも取り入れ、自らのキャリア開発についても主体的に取り組んでいけるような講義内容です。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>* キャリア教育の基本を理解し、指導ができる。</li> <li>* 内的キャリアに基づいた勤労観・職業観の育成を図ることができる。</li> <li>* 学校期から社会への移行期におけるキャリア開発の在り方を考えることができる。</li> <li>* 自己理解の重要性を理解し、自らの自己理解も取り組むことができる。</li> </ul>			
授業計画			
第1回：キャリアとは仕事人生/人の欲求とモチベーション 第2回：能力と仕事、人間理解力 第3回：自己理解（個人ワーク） 第4回：自己理解（自己表現ワーク） 第5回：自己理解（進路選択における重要性） 第6回：コミュニケーション理論（人との関係を作る） 第7回：コミュニケーション理論（自己表現） 第8回：コミュニケーション理論（傾聴） 第9回：内的キャリアと「働く」ための価値観 第10回：人のタイプと信頼関係（ソーシャルスタイル、ジョ・ハリの窓） 第11回：グループワークの理論と実践 第12回：キャリア開発理論（理論と考え方） 第13回：職業選択とキャリアプラン 第14回：若者と仕事 第15回：新しい働き方とダイバーシティ			
授業外学習（予習・復習）			
授業で学習した内容を、可能な限り日常生活の中でも実践してください。 実践した結果から感じた課題等については授業で積極的に質問してください。			
教科書			
授業の都度資料を配布します。			
参考書			
購入が必須ではありませんが、自学自習に取り組みたい学生には以下を推奨します。 * 「キャリア・コンサルティング 理論と実践」（木村周著 / 社団法人 雇用問題研究会 / 税別2,600円） * 「自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック」（小野田博之著 / 日本能率協会マネジメントセンター / 税別1,500円）			

## 成績の評価基準

- \* 期末レポート ( 60 % )
- \* 受講状況 ( 15 % )
- \* 授業後のコメント票 ( 25 % )

## オフィスアワー

講義の前後の時間。

## アクティブ・ラーニング

グループワーク; 学習の振り返り ( ミニッツ・ペーパー等 ); その他;

## アクティブ・ラーニング ( その他の内容 )

自己理解、自己表現のためのシート作成等

## アクティブ・ラーニング ( 授業回数 )

15回

## 備考 ( 受講要件 )

教員免許取得を目指す学生を対象に計画を立てております。

## 実務経験のある教員による実践的授業

国家資格キャリアコンサルタント及びキャリアコンサルタント育成の実務者により行われる。組織や企業におけるキャリア開発、組織開発支援などに活用されている様々な理論や手法について、現場における事例を取り入れながら個人ワーク、グループワークなども含め、キャリア教育の基本を学ぶ。

ナンバリングコード			
BW2317			
科目名			
特殊講義（税の仕組み-税理士の役割-）			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	
市川英孝		ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
馬場武		後期	
授業概要			
われわれの生活において、税金は密接にかかわっている。国や地方自治体は納められる税金によって多くの施策を実施している。そこで本講義は、南九州税理士会に所属する本学出身の税理士をゲストスピーカーに招いて講義を実施する。実際に租税に関わる専門家により、実務と密接に関連した税の仕組みについて講義していただき、国民の義務である納税された税金がどのように処理され、使われているのか、より身近に感じ、考えてもらう。			
学修目標			
日本の租税制度を理解する。 実務としての租税政策について理解する。 国民の義務としての納税と税金の役割について考える。 卒業後の職業選択の一つとして、税理士としての役割を理解する。			
授業計画			
第1回	ガイダンス（総論）		
第2回	我が国の租税制度及び財政について		
第3回	所得税の仕組みと実例？		
第4回	所得税の仕組みと実例？		
第5回	法人税の仕組みと実例？		
第6回	法人税の仕組みと実例？		
第7回	相続税の仕組みと実例？		
第8回	相続税の仕組みと実例？		
第9回	消費税およびその他の税の仕組みと実例？		
第10回	消費税およびその他の税の仕組みと実例？		
第11回	税理士の仕事？（租税の専門家）		
第12回	税理士の仕事？（企業のアドバイザー）		
第13回	税理士と社会貢献？（公益的業務）		
第14回	税理士と社会貢献？（税理士になるには）		
第15回	まとめ（総合ディスカッション）		
第16回	期末試験		
授業外学習（予習・復習）			
普段から新聞などに目を通し、社会の流れをしっかりと理解しておくこと。必要に際して指示をします。			
教科書			
特になし。			
参考書			
特になし。			
成績の評価基準			
各回ごとのショートペーパーと期末試験の結果で判断します。			
オフィスアワー			
まずメールで連絡ください。その後、個別に対応します。			

今期はZOOMによるオンライン型で授業を実施する。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

本講義は日本税理士会連合会の寄付によって実施される。各回の講師は南九州税理士会所属の本学出身者税理士がゲストスピーカーとして、授業が進められる。

実務経験のある教員による実践的授業

本講義は、南九州税理士会に所属する税理士をゲストスピーカーに招いて実施される。実際に租税に関わる専門家により、実務と密接に関連した講義をしてもらうことにより、国民の義務である税金が、どのように処理され、使用されるのか具体的に理解することができる。専任教員1回、ゲスト講師14回。

ナンバリングコード			
科目名			
意思決定論			
英語名			
Decision Theory			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース /経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
王 鏡凱			kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>意思決定論は情報と人間心理を扱う身近の学問であり、理論・実務のみならず生活上の意思決定ができるための基礎となる教養である。講義では身近の具体例を用いながら意思決定における人間心理の合理的な側面と非合理的な側面を学ぶ。</p> <p>***今後のコロナの感染状況によっては、授業形態を変更する場合がある。***</p> <p>*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが受講生の理解度を考え調整することもある。</p>			
学修目標			
この講義では意思決定の基礎理論を習得し、意思決定をする人間の合理性と非合理性を理解することを目標とする。予測困難な時代において的確な意思決定と判断ができるための基礎となる教養を養う。			
授業計画			
<p>第1回 オリエンテーション (ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第2回 戦略とは、必勝法あるのは誰？ナッシュ均衡と戦略 (ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第3回 合理的な(黒)豚とネズミの相談：リーダーシップはこのように生まれる (ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第4回 独占と完全競争について (ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第5回 独占と寡占と完全競争について (ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第6回 同時手番ゲーム：クールノー数量競争モデル (ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第7回 逐次手番ゲーム：シュタッセルベルクモデル (ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第8回 三者決闘ゲーム：強いものは生き残るではなく、生き残った者は強い (ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第9回 囚人のジレンマとリア王の悩み：子供たちに親孝行させるには (ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第10回 逐次手番の交渉ゲーム：永遠に溶けないアイスはどうやって分け合うのか (ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第11回 逐次手番の交渉ゲーム：溶けていくアイスはどうやって分け合うのか (ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第12回 相続ゲーム：真実を知るにはそれ相当の代償が伴う (ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第13回 一位価格・オークションと二位価格・オークション (ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第14回 社会規範と市場規範：金銭的インセンティブと社会的インセンティブ (ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第15回 総括と質疑応答 (ZOOMによるオンライン型)</p> <p>第16回 期末試験 (複数回の課題レポートの提出)</p> <p>*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが受講生の理解度を考え調整することもある。</p> <p>*授業内容およびテキストについては、受講生研究上の必要性和関心に依じて追加・変更することがある。</p> <p>*** コロナのため、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。***</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>ニュースに目を通す、講義で勉強したものを現実の事例に当てはめる。</p> <p>興味ある企業や就職したい企業に当てはめるのは最も効果的である。</p>			
教科書			
必要に応じて適宜、プリントを配布する。			
参考書			

授業中適宜紹介する。

- (1) 伊藤秀史(著),小林創(著),宮原泰之(著)、『組織の経済学』、有斐閣出版、2019年。
- (2) ジョン・マクミラン、「経営戦略のゲーム理論 交渉・契約・入札の戦略分析」、1995年、有斐閣。
- (3) デキシット・ネイルパフ、「戦略的思考とは何か エール大学式『ゲーム理論』の発想法」、1991年、TBSブリタニカ。
- (4)ミルグロム・ロバーツ「組織の経済学」、1997年、NTT出版。
- (5) ダン アリエリー、「予想どおりに不合理：行動経済学が明かす『あなたがそれを選ぶわけ』」、2013年、早川書房。
- (6) ダン・アリエリー、「不合理だからうまくいく：行動経済学で『人を動かす』」、2014年、早川書房。
- (7) ダニエル・カーネマン、「ファスト&スロー、あなたの意思はどのように決まるか?(上、下)」、2014年、早川書房
- (8) 白石俊輔『経済学で出る数学 ワークブックでじっくりせめる』2013年(日本評論社)

#### 成績の評価基準

複数回の課題レポート

#### オフィスアワ -

MANABAの掲示板と電子メール、随時受付しております。

#### アクティブ・ラーニング

その他;

#### アクティブ・ラーニング(その他の内容)

実験、シミュレーション

#### アクティブ・ラーニング(授業回数)

6回

#### 備考(受講要件)

\*出席は成績の必要条件であり、十分条件ではないことを理解してください。

\*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが、受講生の理解度を考え調整することもある。

\*\*\*今後のコロナの感染状況によっては、授業形態を変更する場合がある。\*\*\*

#### 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-CCE2317

## 科目名

経営管理論

## 英語名

Business Management

## 開講学科

## コース

法経社会学科経済コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目

講義

2単位

2～4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

王 鏡凱

kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

\*\*\*授業形態：全授業はZOOMによるリアルタイム配信で実施する。\*\*\*

\*\*\*今後のコロナの感染状況やその他の理由により、授業形態を変更する場合がある。\*\*\*

経営管理論(Business Management Theories)は組織において目的を達成するために人や組織を管理する方法に関する理論である。この講義では、古典経営理論・心理学ディシプリンの経営理論・経済学ディシプリンの経営理論を概説する。

## 学修目標

この講義では、経営理論(Management Theories)の基本的な考え方と代表的な理論の基礎を理解し、身につけることを目標とする。

## 授業計画

\*\*\*授業形態：全授業はZOOMによるリアルタイム配信で実施する。\*\*\*

\*\*\*今後のコロナの感染状況やその他の理由により、授業形態を変更する場合がある。\*\*\*

- 第1回 イントロダクション：経営学の考え方（ZOOMによるリアルタイム配信）
- 第2回 経営理論の変遷：組織論と戦略論の前史（ZOOMによるリアルタイム配信）
- 第3回 管理の時代：専門経営者の台頭と組織能力（ZOOMによるリアルタイム配信）
- 第4回 経済学(1)：組織のジレンマ：チーム生産のモチベーション問題（ZOOM）
- 第5回 経済学(2)：組織のジレンマ：信頼の形成のモチベーション問題（ZOOM）
- 第6回 経済学(3)：分業とさまざまなコーディネーション問題（ZOOM）
- 第7回 経済学(4)：コーディネーション問題の解決（ZOOM）
- 第8回 ミクロ心理学(1)：ホーソン実験（ZOOMによるリアルタイム配信）
- 第9回 ミクロ心理学(2)：マズローの欲求階層説と4タイプの人間モデル（ZOOM）
- 第10回 マクロ心理学(1)：組織デザインの手順と原則（ZOOM）
- 第11回 マクロ心理学(2)：組織形態の基本型（ZOOM）
- 第12回 マクロ心理学(3)：事前的調整と事後的調整（ZOOM）
- 第13回 行動経済学(1)：高い給料はお好きですか？ボーナスによるインセンティブ効果（ZOOMによるリアルタイム配信）
- 第14回 行動経済学(2)：働くことの意味とモチベーション（ZOOM）
- 第15回 行動経済学(3)：イケア効果と過大評価（ZOOM）
- 第16回 期末試験は行わない（指定期日までに複数回の課題レポートを提出）

\*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが受講生の理解度を考え調整することもある。

## 授業外学習（予習・復習）

ニュースに目を通す、講義で勉強したものを現実の事例に当てはめる。  
興味ある企業や就職したい企業に当てはめるのは最も効果的である。

## 教科書

伊藤秀史(著)、小林創(著)、宮原泰之(著)、『組織の経済学』、有斐閣出版、2019年。  
生協にて学生証提示すると10%OFF!

#### 参考書

参考書の一部であり、詳細については授業中適宜紹介する。

1. 伊藤秀史(著)、小林創(著)、宮原泰之(著)、『組織の経済学』、有斐閣出版、2019年。
2. 入山章栄 『世界標準の経営理論』 ダイヤモンド社 2019年。
3. 沼上幹 『組織デザイン』日経文庫 2004年。
4. 伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール 経営学入門』第3版 日本経済新聞社 2003年。
5. 井原久光 『テキスト経営学』ミネルヴァ書房 2000年。
6. 柳川範之、「契約と組織の経済学」、東洋経済新報社、2000年。
7. ポール・ミルグロム(著)、ジョン・ロバーツ(著)、奥野正寛(訳)、伊藤秀史(訳)、今井晴雄(訳)、西村理(訳)、八木甫(訳) 『組織の経済学』NTT出版 1997年。

#### 成績の評価基準

複数回の課題レポート

#### オフィスアワー

授業中いつでも質問ができる環境にあります。参加者の質問はこの授業にとって重要な部分であり、参加者の質問なしではこの授業が成り立たないといっても過言ではありません。授業中の質問は大歓迎です。または授業の後でも質問を受け付けます。もしくは事前にメールでアポイントをとった上で研究室に来てください。

#### アクティブ・ラーニング

#### アクティブ・ラーニング(その他の内容)

#### アクティブ・ラーニング(授業回数)

0回

#### 備考(受講要件)

- \*出席は成績の必要条件であり、十分条件ではないことを理解してください。
- \*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが、受講生の理解度を考え調整することもある。
- \*ミクロ経済学・マクロ経済学・経済数学・統計学及び計量経済学の基礎があれば望ましい。
- \*\*\*授業形態：全授業はZOOMによるリアルタイム配信で実施する。\*\*\*
- \*\*\*今後のコロナの感染状況やその他の理由により、授業形態を変更する可能性がある。\*\*\*

#### 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

FHS-CCE1314

## 科目名

商業簿記（旧 簿記システム論）

## 英語名

Book-keeping

## 開講学科

## コース

法経社会学科経済コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目

講義

2単位

2～4年

## 担当教員

## 連絡先（TEL）

## 連絡先（MAIL）

澤田成章

0992858888

sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

企業の簿記では、経済活動を一定のルールに従って2つの側面から記録する複式簿記が用いられる。複式簿記は企業の取引を正確に記録し、財政状態や経営成績を明らかにするために用いられる。本講義では複式簿記の計算システムを学ぶと共に、会計や企業行動との関連についても触れる。

## 学修目標

- (1) 日商簿記3級に相当する知識の獲得
- (2) 簿記の知識をベースとした財務数値の解釈

## 授業計画

- 第1回：ガイダンス（社会における企業の役割、企業における会計の役割）  
 第2回：仕訳と転記（第2章）  
 第3回：仕訳帳と元帳（第3章）  
 第4回：帳簿組織（第4章）  
 第5回：決算（第4章）  
 第6回：現金と預金（第5章）  
 第7回：繰越商品・仕入・売上（第6章）  
 第8回：売掛金と買掛金（第7章）  
 第9回：受取手形と支払手形（第9章）  
 第10回：中間試験  
 第11回：有価証券（第10章）  
 第12回：固定資産（第11章）  
 第13回：貸倒損失と貸倒引当金（第12章）  
 第14回：収益と費用（第14章）  
 第15回：財務諸表（第16章）  
 第16回：精算表の作成

以下が遠隔講義版のシラバスです

- 第1回：ガイダンス（社会における企業の役割、企業における会計の役割）  
 第2回：仕訳と転記（第2章）  
 第3回：仕訳帳と元帳（第3章）  
 第4回：帳簿組織（第4章）  
 第5回：現金と預金（第5章）  
 第6回：繰越商品・仕入・売上（第6章）  
 第7回：売掛金と買掛金（第7章）受取手形と支払手形（第9章）  
 第8回：有価証券（第10章）  
 第9回：固定資産（第11章）  
 第10回：貸倒損失と貸倒引当金（第12章）  
 第11回：収益と費用（第14章）  
 第12回：財務諸表（第16章）

## 授業外学習（予習・復習）

必要があれば講義中、適宜指示します。

## 教科書

『検定 簿記講義 2020年度版 [3級/商業簿記]』、渡部裕巨・片山覚・北村敬子 著、中央経済社（最新版でなくとも構いません）

## 参考書

『新・現代会計入門』、伊藤邦雄著、日本経済新聞社

## 成績の評価基準

ミニレポート（60%）、期末レポート（40%）による総合評価。

## オフィスアワ -

適宜、事前にアポイントメントを取ることに。

## アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

演習問題に関するディスカッション

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

## 備考（受講要件）

## 実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

地方財政論

## 英語名

## 開講学科

## コース

法経社会学科経済コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・経済コース/選択科目

講義

2単位

3～4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

林田吉恵

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

【キーワード】「地方分権」「住民参加」「受益と負担の一致」

私たちの日常生活は、市町村や都道府県といった地方公共団体の提供する公共サービスなしには成り立ちません。しかし、身近な存在であるにも関わらず、地方財政は複雑でわかりにくいとされています。本講義では、地方財政の制度や現状をできるだけわかりやすく解説するとともに、国と地方の財政関係や地方行財政システムが抱える構造問題を抽出し、その改革のあり方を考察します。

また、地方財政を巡る日常的なトピックスは、新聞記事等を用いて説明していく予定です。

## 学修目標

本講義の主眼は、今後のあるべき地方分権の方向性を検討するためにも必要不可欠である、?現行地方財政制度を理解し、?その問題点を的確に把握することであります。

## 授業計画

できるかぎり受講生の反応を見ながら講義を進めたいので、板書を中心に講義を進めるとともに、随時、受講生からの発言を求め、コメントペーパーを書いてもらうなどの双方向の講義になるように努める。したがって、講義の進捗状況によっては、シラバスを変更する可能性もある。

- |      |                 |                             |                          |
|------|-----------------|-----------------------------|--------------------------|
| 第1回  | イントロダクション       | 地方財政の実態                     | 公共部門のしくみ、地方財政支出の膨張、財政力格差 |
| 第2回  | 国と地方の機能分担       | 財政の3つの役割、地方分権の意義            |                          |
| 第3回  | 制度としての地方財政      | 地方自治、地方財政制度、地方の財政運営         |                          |
| 第4回  | 地方公共支出の経済学(その1) | 公共支出の効率化、公共サービスの最適供給        |                          |
| 第5回  | 地方公共支出の経済学(その2) | 公共サービスにおける非効率の諸要因           |                          |
| 第6回  | これまでの講義のまとめ     | 予備日                         |                          |
| 第7回  | 地方税の体系と原則       | 国税と地方税、地方税体系、地方税の原則         |                          |
| 第8回  | 地方制度の現状と改革(その1) | 受益と負担の乖離、課税自主権の日米比較、課税制限    |                          |
| 第9回  | 地方制度の現状と改革(その2) | 個人住民税と地方消費税、地方法人税、固定資産税     |                          |
| 第10回 | 国庫支出金と地方財政      | 国庫支出金の構造、国庫支出金の経済分析         |                          |
| 第11回 | 地方交付税と財政調整      | 財政調整と財源保障、地方交付税             |                          |
| 第12回 | 地方債の発行と国の関与     | 地方債のしくみ、地方財政と地方債            |                          |
| 第13回 | 地域づくりと地方団体の役割   | 地方経済の実態、地域格差                |                          |
| 第14回 | 地方公営企業と第3セクター   | 住民ニーズの高度化、多様化、地方公営企業、第3セクター |                          |
| 第15回 | 講義のまとめを行い、      | 受講生からの質問を受けるつける。            | 予備。                      |
| 第16回 | 定期試験            |                             |                          |

## 授業外学習(予習・復習)

新聞・ニュースなどを読む(見る)など、わが国の抱える様々な経済問題に対するの関心を持つようにする。講義で疑問に思ったことや興味をもったことについて自分で調べる。

(学修に係る標準時間は約30分)

## 教科書

- ・参考図書は提示していますが、基本的には板書で授業を行うため、授業に出席することが望ましい。
- ・使用する数学は、簡単な連立方程式、四則計算です(ほとんど使いません)。

## 参考書

林 宜嗣(1999)『地方財政』有斐閣ブックス  
林 宏昭・橋本恭之(2002)『入門 地方財政』

## 成績の評価基準

定期試験および、平常態度(講義内レポート、受講態度)等も考慮して評価する。

## オフィスアワ -

火曜日 必ず事前にメールで連絡してください

## アクティブ・ラーニング

## アクティブ・ラーニング(その他の内容)

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

## 備考(受講要件)

板書で講義をすすめるため、きちんとノートがとれるようにする。

今後の状況次第で授業形態・回数や内容は変更となる可能性があります。  
授業形態等を変更する際は、予めmanabaコースニュースや授業内において通知します。

<本科目の関連科目>

基礎科目:「ミクロ経済学」「マクロ経済学」

応用科目:「財政政策論?」「財政政策論?」「公共経済学」

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
国民経済計算			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金丸哲			k3748170@kadai.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>マクロ経済学の統計的基礎を提供する国民経済計算は、経済循環を表示する体系的な統計表を提供するものである。GDP、国民所得等のマクロ集計値は、国民経済計算から導出される。</p> <p>また、国民経済計算は、企業会計あるいはミクロ会計という用語に対応して、一国の会計という意味で国民会計あるいはマクロ会計と呼ばれることがある。実際、国民経済計算は、貸借対照表、勘定、資産・負債等、複式簿記と共通の用語を有していることからわかるように、複式簿記を基礎に作成されている。</p> <p>講義では、この国民経済計算の理論的な構造を、複式簿記と国民経済計算を比較対照しながら、明らかにしたい。</p>			
学修目標			
<p>複式簿記の基礎である貸借対照表，損益計算書の作成原理を理解すること。</p> <p>経済循環の概要を理解すること</p> <p>複式簿記の原理に基づいて作成される国民経済計算の構造を理解すること。</p> <p>国民経済計算の統計を利用して日本の経済循環を理解すること。</p>			
授業計画			
<p>1 仕訳</p> <p>2 転記</p> <p>3 合計残高試算表</p> <p>4 行列表示</p> <p>5 国民経済計算の系譜</p> <p>6 経済循環の構成要素</p> <p>7 単一主体の経済活動の表示</p> <p>8 複数主体の経済活動の表示</p> <p>9 経済活動と経済対象</p> <p>10 統合経済勘定表示</p> <p>11 経常勘定と蓄積勘定</p> <p>12 経常勘定の分割</p> <p>13 蓄積勘定の分割</p> <p>14 海外勘定の導入</p> <p>15 ストック勘定の導入</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
コピー配布			
参考書			
内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部編『国民経済計算年報(各年版)』メディアランド株式会社			
成績の評価基準			
期末試験			
オフィスアワ -			

授業終了後

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
システム監査実習			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	実習	1単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
萩野誠		7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
前期の「システム監査論」を受講し、単位を取得したもののために開講する。実際の情報システムの分析を各自予習・復習の時間(合計60時間)をつかって調査して、授業中に報告をおこなうものとする。システム監査論の様式にしたがい、企業システムを分析することは、企業の情報システムを理解するうえで非常にやくにたつものとなるだろう。			
学修目標			
1) 民間企業と交渉し、調査の許可をえることができる 2) システム監査の枠組みのなかで、必要な基準を抽出することができる。 3) 最終報告書を民間企業をまねき説得力のあるプレゼンテーションをおこなうことができる。			
授業計画			
1) 調査実習企業の選定 2) 調査実習企業の情報システムの構成(ハードウェア)(1):各自プレゼン(5分程度) 3) 調査実習企業の情報システムの構成(ハードウェア)(2);各自プレゼン(5分程度): 4) 調査実習企業の情報システムの構成(ソフトウェア)(1);各自プレゼン(5分程度) 5) 調査実習企業の情報システムの構成(ソフトウェア)(2);各自プレゼン(5分程度) 6) 一般基準の分析結果(1)各自プレゼン(10分程度) 7) 一般基準の分析結果(2)各自プレゼン(10分程度) 8) 一般基準の分析結果(3)各自プレゼン(10分程度) 9) 実施基準の分析結果(1)各自プレゼン(10分程度) 10) 実施基準の分析結果(2)各自プレゼン(15分程度) 11) 実施基準の分析結果(3)各自プレゼン(15分程度) 12) 実施基準の分析結果(4)各自プレゼン(15分程度) 13) 最終報告書・提案(1)各自プレゼン(10分程度) 14) 最終報告書・提案(2)各自プレゼン(10分程度) 15) 最終報告書・提案(3)各自プレゼン(10分程度) 試験期間中:企業合同報告会を企画			
授業外学習(予習・復習)			
毎回報告なので、授業中指摘された点を改善し、不足しているデータは、企業から収集すること。			
教科書			
なし			
参考書			
各自が「システム監査論」で作成したノート			
成績の評価基準			
最終的な報告の評価(13)?(14)			
オフィスアワー			
講義終了後30分			
アクティブ・ラーニング			
フィールドワーク;			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

前期の「システム監査論」受講および単位取得者

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2302			
科目名			
外国書研究			
英語名			
Studies on Foreign Works			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
西村知		099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし。		前期	
授業概要			
<p>経済時事問題について英字新聞、ネットの英語記事などをテキストとして読解する。読解力のみならず音読によって英語の発音も指導する。また、テキストに関連する事象についても深く解説する。</p>			
学修目標			
英語の読解力、発音を上達させる。			
授業計画			
<p>1 授業の流れの説明、テキストの配布・解説                  2 基本的な英文法の解説                  3-14 テキストの解読                  15 まとめ（授業を振り返って問題点を整理する）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
授業中、適宜、指示する。			
教科書			
授業の初回で配布する。			
参考書			
授業の初回で紹介する。			
成績の評価基準			
<p>3回の中間試験(90%)                  毎回の授業での報告(10%)</p>			
オフィスアワ -			
水曜日 (12:00-13:00)			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

## ナンバリングコード

## 科目名

財務会計論

## 英語名

## 開講学科

## コース

法経社会学科経済コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目

講義

2単位

3～4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

澤田成章

099-285-8888

sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 前期

## 授業概要

会計は企業行動を映し出す鏡であり、事業の言語であるといわれる。会計という言語を学び修得するうえでは会計処理や会計基準について理解すること（語彙・文法の習得）、企業行動と財務諸表数値の照らし合わせ（読み・書き・コミュニケーションの訓練）の2つをバランスよく行うことが重要であろう。本稿義では、立ち講義によるインプットだけでなく、試験・レポート提出を中心としたスループット・アウトプットの充実を図る。

## 学修目標

- (1) 現行の日本の会計基準が求める会計処理、およびその背景となる企業会計の考え方を理解・修得する。
- (2) 上場企業の財務諸表を読み解き、目的に照らして適切に分析に活用する。

## 授業計画

- 第1回：ガイダンス（会計を学ぶ意義）
- 第2回：企業会計の意義と役割
- 第3回：損益計算書のパラダイム（1）
- 第4回：損益計算書のパラダイム（2）
- 第5回：経営パフォーマンスの測定と表示（1）
- 第6回：経営パフォーマンスの測定と表示（2）
- 第7回：貸借対照表のパラダイム（1）
- 第8回：貸借対照表のパラダイム（2）
- 第9回：資産の会計（1）
- 第10回：資産の会計（2）
- 第11回：持分の会計
- 第12回：中間試験
- 第13回：連結グループの会計
- 第14回：財務諸表分析に用いる指標（1）
- 第15回：財務諸表分析に用いる指標（2）

以下が遠隔講義版の講義計画です。

- 第1回：企業会計の意義と役割
- 第2回：損益計算書のパラダイム（1）
- 第3回：損益計算書のパラダイム（2）
- 第4回：経営パフォーマンスの測定と表示（1）
- 第5回：経営パフォーマンスの測定と表示（2）
- 第6回：貸借対照表のパラダイム（1）
- 第7回：貸借対照表のパラダイム（2）
- 第8回：資産の会計（1）
- 第9回：資産の会計（2）
- 第10回：持分の会計
- 第11回：連結グループの会計
- 第12回：財務諸表分析に用いる指標

## 授業外学習（予習・復習）

適宜指示する。

## 教科書

『新・現代会計入門』伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社

## 参考書

## 成績の評価基準

ミニレポート（40%）、期末レポート（60%）の総合評価による。

## オフィスアワ -

メールにてアポイントメントをお願いします。

## アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中3回

## 備考（受講要件）

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II(憲法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Constitutional Law			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
大野友也		099 - 285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
課題研究作成のための指導を行う			
学修目標			
(1) 憲法についての基本的理解を深める (2) 論文作成能力を身につける			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2～15回 課題研究の作成指導			
コロナの影響で、遠隔授業を行います。Zoomのアカウントを取得しておいてください。			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおくこと(30分程度)。 【復習】配布したレジュメを再読し、論点を再考すること(60分程度)。			
【課外活動】合宿・社会科見学などの研修を予定しています。			
教科書			
各自の所有する『憲法』のテキスト(たとえば、芦部信喜『憲法』(岩波書店)、辻村みよ子『憲法』(日本評論社)、佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂)、長谷部恭男『憲法』(新世社)、浦部法穂『憲法学教室』(日本評論社)、高橋和之『立憲主義と日本国憲法』(有斐閣)、渋谷秀樹『憲法』(有斐閣)、野中俊彦ほか『憲法I、II』(有斐閣)など)			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
平常点で評価する。			
オフィスアワー			
火曜5限目(研究室)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大前慶和		099-285-3583	omae@km.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
特殊研究に活用する論文1本を毎週発表者が用意し、ディスカッションを行う。			
学修目標			
必要な論文を検索・準備し、その内容を理解できるようになる。 論文に対する批判的検討ができるようになる。 特殊研究に向けて自身の意見を述べられるようになる。			
授業計画			
全回にわたって論文を読み、ディスカッションを行う。			
授業外学習 (予習・復習)			
発表の準備および復習として特殊研究執筆に向けた各種作業を行うこと。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
演習への参加姿勢 (30%)、発表内容 (40%)、予習・復習の状況 (30%)			
オフィスアワー			
特にオフィスアワーは設けない。随時対応する。			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
なし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大前慶和		099-285-3583	omae@km.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
特殊研究に活用する論文1本を毎週発表者が用意し、ディスカッションを行う。			
学修目標			
必要な論文を検索・準備し、その内容を理解できるようになる。 論文に対する批判的検討ができるようになる。 特殊研究に向けて自身の意見を述べられるようになる。			
授業計画			
全回にわたって論文を読み、ディスカッションを行う。			
授業外学習 (予習・復習)			
発表の準備および復習として特殊研究執筆に向けた各種作業を行うこと。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
演習への参加姿勢 (30%)、発表内容 (40%)、予習・復習の状況 (30%)			
オフィスアワー			
特にオフィスアワーは設けない。随時対応する。			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
なし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2～3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
萩野誠		7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>前半のドラッカーの知識を活かして、さまざまな分野の書籍を読むことにする。            図書の設定は、日本経済新聞社の書評による。            各著作の内容を中心に、ドラッカーマネジメントの観点から議論を深める。            とくに、ICTに関する部分には重点をおいて学習をする。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 担当した本の内容を的確に要約し、解説し、評価（コメント）する能力をつける。</li> <li>2. ディスカッションに積極的に参加できるようになる。</li> <li>3. ドラッカーマネジメントによる戦略計画の概念を活用できるようになる。</li> </ol>			
授業計画			
<p>以下のテキストの精読とディスカッションをおこなう。            ドラッカー「マネジメント 課題、責任、実践（上）」ダイヤモンド社、2400円</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>合計60時間（単位の実質化）            予習：口頭で本の内容ができるまで、繰り返し通読し、要点をノートに手書きすること。            このときに本の各章に対してコメントを記入すること。（各3時間30分：52時間30分）            復習：ノートに得られた知識を記載し、改めて本の内容をふりかえること（各30分：7時間30分）</p>			
教科書			
授業計画に記載している。			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
達成事項			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 予習ができていること（コメントのついたノート提出）：達成できていない場合5点減点</li> <li>2) 本の要約を口頭で説明できること：達成できていない場合1点減点</li> <li>3) 質疑応答で的確な回答ができる（教員からの質問も含む）：達成できていない場合1点減点</li> </ol>			
オフィスアワー			
manabaの掲示板でおこなう			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中0回			
備考（受講要件）			



ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
馬場武		099-285-7582	baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本演習では、情報マネジメントの立場から企業経営に効果的なアウトプットを提供するための問題発見力と解決力の修得を目指します。</p> <p>情報マネジメントをあえて定義するのであれば、企業を取り巻く多種多様な情報を評価・解析し、経営上の効果を最適化するための分析をおこない、その結果を経営の意思決定に反映していく手続きの繰り返しといえるでしょう。そのためには、情報科学・プログラミング・経営学・マーケティング・統計学などの基本的な知識やスキルが必要になります。したがって、本演習ではこれら必要な基本的知識やスキルのインプット（輪読や実習）とその知識を使ったアウトプット（レポートやプレゼン）をおこないます。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適切な情報を収集して分析する力</li> <li>2. 問題を発見する力</li> <li>3. 問題を解決するために工夫する力</li> <li>4. レポート作成などの書くプレゼン能力</li> <li>5. インタラクティブなコミュニケーションを含む話すプレゼン能力</li> </ol>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス，第1章の演習課題の報告と討論</p> <p>第2回：第2章の演習課題の報告と討論</p> <p>第3回：第3章の演習課題の報告と討論</p> <p>第4回：第4章の演習課題の報告と討論</p> <p>第5回：第5章の演習課題の報告と討論</p> <p>第6回：第6章の演習課題の報告と討論</p> <p>第7回：第7章の演習課題の報告と討論</p> <p>第8回：第8章の演習課題の報告と討論</p> <p>第9回：第9章の演習課題の報告と討論</p> <p>第10回：第10章の演習課題の報告と討論</p> <p>第11回：第12章の演習課題の報告と討論</p> <p>第13回：第13章の演習課題の報告と討論</p> <p>第14回：第14章の演習課題の報告と討論</p> <p>第15回：第15章の演習課題の報告と討論，総括</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：毎回の報告，課題レジュメの作成（120分）</p> <p>復習：レジュメやレポートの修正（60分）</p>			
教科書			
石井淳蔵・嶋口充輝・栗木契・余田拓郎（2013），『ゼミナール マーケティング入門 第2版』，日本経済新聞出版社			
参考書			

授業内で紹介します。

成績の評価基準

講義でのプレゼンとレポートの総合評価。なお、全授業に出席することが前提です。2回以上欠席した場合には単位を認めません。

オフィスアワ -

メールにてアポイントをとってください。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
西村知		099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし。		後期	
授業概要			
* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。」			
輪読によりアジアの経済に関する理解を深めるとともに、経済学の基礎知識を新聞記事などによって学ぶ。			
学修目標			
1 アジア経済に関するテキストを読むことによって、キーワード、キー概念を理解し、アジア経済の構造をイメージできるようにする。			
2 日本経済の記事を読むことによって、経済学の理論、実証について学ぶ。			
授業計画			
*manabaでレポートを提出していただく。			
1 オリエンテーション			
2-14 テキスト・新聞記事の輪読(輪読1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13)			
15 総括			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中、適宜、指示する。			
教科書			
授業開始後に知らせる。			
参考書			
授業開始後に知らせる。			
成績の評価基準			
授業における報告、議論によって評価する。			
オフィスアワ -			
水曜日 : 12:00-13:00			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
北村浩一		099-285-6296	ki tamura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
近年は企業（業界業種を含む）研究を主題にしている。そこでは、実際の工場見学など大学外での実践的な調査・研究も行っている。さらに「考える力」「伝える力」を養うための試み（例えば共通テーマでのグループディスカッションや全員短時間スピーチ）を随時、行っている。			
学修目標			
基本は企業会計・管理会計分野についての修得を目標としている。ただし、実際には、例えば経営管理などの関連分野の修得もあわせて目標としている。つまり、管理会計を中心に幅広い関連分野について修得することを目標としている。また、様々な場面で「考える力」「伝える力」を養うことを演習の全体を通じての目標としている。			
授業計画			
半期毎に、ゼミ生みんなで意見を出して話し合うことでゼミのテーマ・進め方といったほとんどのことがらを決めながら進めるので、自分たちのやりたいことを軸にゼミの学習が進んでいく。 したがって、具体的に何をどのように取り組んでいくかは未定であるが、自分たちのしたいこと・すべきことについて、意見を出し、ディスカッションすることを通じて実現（自分の思った以上のことがゼミ全体として結果）することが可能となる。			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度。必修科目なので無断欠席は厳禁であることに十分留意すること。			
オフィスアワー			
水曜・12時半～16時・研究室			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）； アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
全15回中15回			
備考（受講要件）			
担当の講義「管理会計論」「原価計算論」「会計情報論」の講義は演習の内容と密接に関わっているので受講すること。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
北崎浩嗣	099-285-7592	ki tazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
なし。	後期		
授業概要			
本演習は、コロナ対策のため、ズームによるリアルタイム配信授業にて実施する。 テキストは、宮副謙司『地域活性化マーケティング』を使用する。			
学修目標			
(1) 自分で作成したレジュメ・資料によってプレゼンテーションができる。 (2) 地方の抱えている問題について説明できる。 (3) 地域活性化策に対して、自分の視点で、提言することができる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第14回 発表と討論 第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書の当該部分を事前に読んでおくこと、また関係資料を用意しておくことが望ましい。			
教科書			
担当教員が数冊のテキストを用意し、ガイダンスの際に受講生に紹介し、受講生との話し合いにより採用するテキストを決定する。			
参考書			
演習の進展に応じ、適宜紹介する。			
成績の評価基準			
レポートと授業への取組態度 (配点割合は、レポート30%、授業への取組態度70%)。			
オフィスアワ -			
金曜日2時間目、研究室			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中13回。			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
北崎浩嗣		099-285-7592	ki tazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
地域政策、農業政策について書かれたテキストをもとに、現代日本の地域問題、農業問題を検討する。今期は、コロナ対策のため、5月8日まではマナバによる課題提出型授業、5月11日からはズームによるリアルタイム配信授業を行う。			
学修目標			
1) 自分で作成したレジュメ・資料によってプレゼンテーションができる。 2) 地域や農業の基本問題についての知識を修得する。 3) 発表のための資料収集の方法を修得する。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回～第14回	発表と討論		
第15回	まとめ		
授業外学習 (予習・復習)			
事前に教科書の当該部分を読んでおくこと、関係資料を用意しておくことが望ましい。			
教科書			
担当教員が数冊のテキストを用意し、ガイダンス時に受講生に紹介し、受講生との話し合いにより採用するテキストを決定する。			
参考書			
演習の進展に応じて、適宜紹介する。			
成績の評価基準			
レポートと授業への取組態度 (配点割合は、レポート30点、授業への取組態度70点) による。			
オフィスアワー			
金曜日 2 時間目、研究室			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中13回。			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
北村浩一		099-285-6296	ki.tamura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
近年は企業（業界業種を含む）研究を主題にしている。そこでは、実際の工場見学など大学外での実践的な調査・研究も行っている。さらに「考える力」「伝える力」を養うための試み（例えば共通テーマでのグループディスカッションや全員短時間スピーチ）を随時、行っている。			
学修目標			
基本は企業会計・管理会計分野についての修得を目標としている。ただし、実際には、例えば経営管理などの関連分野の修得もあわせて目標としている。つまり、管理会計を中心に幅広い関連分野について修得することを目標としている。また、様々な場面で「考える力」「伝える力」を養うことを演習の全体を通じての目標としている。			
授業計画			
半期毎に、ゼミ生みんなで意見を出して話し合うことでゼミのテーマ・進め方といったほとんどのことがらを決めながら進めるので、自分たちのやりたいことを軸にゼミの学習が進んでいく。 したがって、具体的に何をどのように取り組んでいくかは未定であるが、自分たちのしたいこと・すべきことについて、意見を出し、ディスカッションすることを通じて実現（自分の思った以上のことがゼミ全体として結果）することが可能となる。			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度。必修科目なので無断欠席は厳禁であることに十分留意すること。			
オフィスアワー			
水曜・12時半～16時・研究室			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
北村担当の講義は演習の内容と密接に関わっているので受講すること。 実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
松川太一郎			matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>経済現象を理論的に認識する素養を修得するために、生産の3要素の一つである資本の運動を論じたデヴィッド・ハーヴェイ著・森田成也他訳（2012）の『資本の＜謎＞ 世界金融恐慌と21世紀資本主義』（作品社）を講読する。本書は著者の博識に基づいているので、資本の運動に限らず経済現象全般の認識に資する内容である。</p> <p>遠隔授業にあたっては、資料と課題のファイルをmanaで事前に配布し、演習を時間割通りにリアルタイムでZOOMを通じた音声+資料表示の形で実施する。manaでの連絡に注意すること。また、ZOOMのURL、ID、パスワードは絶対 外部に漏らさないこと。これが外部に漏れると、部外者による授業妨害を引き起こす恐れがある。</p> <p>なお、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある。</p>			
学修目標			
本書の講読を通して、金融システムから発する経済危機のメカニズム、またグローバル化が企業の経済活動に関して持つ意味を理解できるようになる。			
授業計画			
第1回	「序文」	「第1章 なぜ金融恐慌は起こったか」	(1) (リアルタイム型+課題提出型)
第2回	「第1章	なぜ金融恐慌は起こったか」	(2) (リアルタイム型+課題提出型)
第3回	「第2章	どのように資本は集められるのか？」	(リアルタイム型+課題提出型)
第4回	「第3章	どのように資本は生産をしているか？」	(1) (リアルタイム型+課題提出型)
第5回	「第3章	どのように資本は生産をしているか？」	(2) (リアルタイム型+課題提出型)
第6回	「第4章	どのように資本は市場を通るのか？」	(リアルタイム型+課題提出型)
第7回	「第5章	資本主義発展の共進化」	(リアルタイム型+課題提出型)
第8回	「第6章	資本の流れの地理学」	(1) (リアルタイム型+課題提出型)
第9回	「第6章	資本の流れの地理学」	(2) (リアルタイム型+課題提出型)
第10回	「第7章	地理的不均等発展の政治経済学」	(1) (リアルタイム型+課題提出型)
第11回	「第7章	地理的不均等発展の政治経済学」	(2) (リアルタイム型+課題提出型)
第12回	「第8章	何をなすべきか？誰がなすべきか」	(1) (リアルタイム型+課題提出型)
第13回	「第8章	何をなすべきか？誰がなすべきか」	(2) (リアルタイム型+課題提出型)
第14回	「あとがき	恐慌の反復か、資本主義からの転換か」	(リアルタイム型+課題提出型)
第15回	「『資本の謎』	の謎解きのために」	(リアルタイム型+課題提出型)
授業外学習 (予習・復習)			
毎回、課題として全員に報告要旨の提出と問題提起をさせる。			
教科書			
デヴィッド・ハーヴェイ著・森田成也他訳（2012）の『資本の＜謎＞ 世界金融恐慌と21世紀資本主義』（作品社）			
参考書			
適宜指定する。			

## 成績の評価基準

授業への取り組み内容、すなわち、課題の出来と演習時のパフォーマンス内容を総合的に評価する。

## オフィスアワ -

水曜日 1 限 経済統計論研究室

## アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15 回中 15 回

## 備考 (受講要件)

春休み中に教科書を購入して、演習の第1回にはレジュメによるテキスト内容の確認と討論ができるように準備しておくこと。2年生は前期開講の統計作成論を修得すること。

演習に出席できないときは事前にメール連絡して、可能な時に課題プリント等の資料を研究室に取りに来ること

。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
澤田成章		0992858888	sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>会計は企業行動を映し出す鏡であると言われる。したがって、会計を学び習得する上では、企業行動と財務諸表数値の照らし合わせを行うことも重要なステップとなる。本ゼミではこうした点に注目し、財務諸表分析を中心とした企業行動分析を行う。とりわけ、本ゼミでは一般的な理論やフレームワークでは説明のつかない現象に対する分析を重視する。</p>			
学修目標			
<p>一般的な理論やフレームワークでは説明のつかない現象に対して独自の説明を行うためには、徹底的に情報を収集し、自身の頭で因果関係の仮説検証を行い、他者に伝わりやすいように情報を整理、加工、編集することが不可欠である。こうした作業を通じて、情報収集力、思考力、表現力、コミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする。</p>			
授業計画			
<p>輪読を通じた知識の習得と、習得した知識を実際に活用した分析についてのプレゼンテーションを並行して進める。テキストである『ゼミナール現代会計入門（第9版）』は2か月程度で読了する予定であるが、その後の内容については適宜ゼミ生との議論によって決定していく。なお、課題はへの取り組みは、原則としてグループ単位で進めることを想定している。</p>			
<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学年別に隔週で対面講義を取り入れる方針で検討している。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>グループで資料収集・議論・レジュメ作成等をしていただきます。</p>			
教科書			
『新・現代会計入門』伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社			
参考書			
適宜提示します。			
成績の評価基準			
出席および講義内の議論への参画度（50%）、最終レポート（50%）の総合評価による。			
オフィスアワー			
適宜、事前にアポイントメントを取ることを。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

## ナンバリングコード

FHS-CCD2301

## 科目名

演習

## 英語名

Seminar

開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石塚孔信		099-285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

## 授業概要

経済学はその取り扱うスケールに応じてミクロ経済学とマクロ経済学に大別される。

今、大きな森の生態について考えると、その際、一本一本の木を個別に調べ、それを積み上げて木と木の関係を調べたとしても、森全体としての生態をとらえるには限界があり、「木を見て森を見ず」ということになる。大きな森の生態を調べるには、森を空から見るなど森を全体としてとらえた上で、外部の環境との関係性を調べる必要がある。同様に経済について考える時にも、通常、ミクロ的な視点とマクロ的な視点が必要とされる。

経済を構成する単位として消費者（家計）と生産者（企業）の行動の分析から始めさらに、多数の消費者と企業からなる市場の構造の分析へと積み上げていく方法をミクロ的方法という。

一方、一国全体の経済を一つのものとしてとらえる方法をマクロ的方法という。財やサービスの総生産量や総雇用量、総投資量、総資本ストック高などの集計的データの取扱い、その上で公定歩合の切り下げ、国債の発行、公共投資の増加等が総需要にそして景気に与える影響を分析する。

## 学修目標

今年度は、ミクロ経済学のテキストを読んでいく。今期は、その基礎となる消費者行動の理論と企業行動の理論について理解を深める。近代経済学の勉強の仕方は、積み上げ方式でやらなければなかなか理解が難しく、そのためにはかなりの努力を必要とするが、あるハードルをクリアすれば、その後は理解が容易になるという特徴をもっている。とりわけ、ミクロ経済学ではその傾向が強いと思われるので、このハードルをゼミ生全員がクリアすることが目標である。なお、3年生は2年次にはマクロ経済学のテキストを読んでいるので、2年生も3年生もまったく同じ条件でのスタートとなる。したがって、2年生も安心して取り組んでほしい。

## 授業計画

次のようなスケジュールで講義を行なう。（第1回、第2回は課題提出型、第3回以降はリアルタイム型）

- 第1回：イントロダクション
- 第2回 市場機構と需要・供給（1）
- 第3回 市場機構と需要・供給（2）
- 第4回 市場機構と需要・供給（3）
- 第5回 消費者行動の理論（1）
- 第6回 消費者行動の理論（2）
- 第7回 消費者行動の理論（3）
- 第8回 消費者行動の理論（4）
- 第9回 消費者理論の発展問題（1）
- 第10回 消費者理論の発展問題（2）
- 第11回 企業行動と生産関数（1）
- 第12回 企業行動と生産関数（2）
- 第13回 企業行動と生産関数（3）
- 第14回 企業行動と生産関数（4）
- 第15回 まとめ

## 授業外学習（予習・復習）

演習では、事前に担当を決めて報告してもらおうが、担当でない学生もしっかりテキストを読んで予習してきて

、必ず、意見や質問をすることが必要となる。また、演習での議論を通してテキストを理解するためには、毎回の復習も必要となる。

## 教科書

西村和雄・八木尚志『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版、2008年。

## 参考書

西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店、1995年

## 成績の評価基準

演習での報告（80%）と質問等（20%）による。

## オフィスアワー

火曜日の4時限目。

## アクティブ・ラーニング

ディベート；

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

## 備考（受講要件）

演習問題を解きながら理解を深める。関連科目として、ミクロ経済学?、?、マクロ経済学?、?を受講することをお勧めする。

遠隔授業で、連休明けはzoomによる講義になるため、演習の進め方については適宜連絡する。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
日野道啓			hino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本演習では、日本経済に関連するテーマを扱う国際経済政策のテキストを読み、世界経済および日本経済の現状と課題について学習し、かつ鹿児島県の現状について考える。前期の演習は座学を中心として、基本的な知識の習得・理解に重点を置く。</p> <p>ゼミ形式で行う。毎回、報告者を決め、報告者はテキストの要約・問題提起を行う。そして、報告内容に基づいて全員で討論を行う。各自毎回発言し、活発に議論することが求められる。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界経済および日本経済の現状と課題について理解する。</li> <li>2. レジユメの作成方法、読解の方法、批判の方法、質問および討論の方法を身につける。</li> </ol>			
授業計画			
第1回：ガイダンス 第2回：発表と討論（1） 第3回：発表と討論（2） 第4回：発表と討論（3） 第5回：発表と討論（4） 第6回：発表と討論（5） 第7回：文献購読（1） 第8回：文献購読（2） 第9回：文献購読（3） 第10回：文献購読（4） 第11回：文献購読（5） 第12回：文献購読（6） 第13回：文献購読（7） 第14回：文献購読（8） 第15回：総括			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
学生と相談の上、決定する。			
参考書			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度（報告内容、討論への積極性などを総合的に判断する）			
オフィスアワー			
メールやmanabaのスレッドで適宜受け付ける			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；その他；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
三浦壮	099-285-8905	miura@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
社会科学の諸問題について、チームでリサーチし、深化させる。			
学修目標			
社会科学の諸問題について、リサーチ、発表、フィードバックさせる能力を身につけること。			
授業計画			
1回目 各ゼミ生による題材提供 (課題提出型)			
2回目 各ゼミ生による提供された題材に対するコメント作成 (課題提出型)			
3回目 オリエンテーション (自己紹介・購読する本の決定・授業の進め方の説明) (リアルタイム型 [オンライン型])			
4回~13回目 社会科学 (経済学・歴史学等) の著作を題材にした議論・日経新聞記事のサーベイ (リアルタイム型 [オンライン型])			
リアルタイム型オンライン授業は、通常授業に変更になる可能性がある。			
授業外学習 (予習・復習)			
その都度指示する。			
教科書			
3回目の授業で相談の上決定。			
参考書			
その都度指示する。			
成績の評価基準			
?レポートをすべて提出状況 (必要条件), ?レポートの内容・議論への参加度 (加点条件)。欠席は一回につき, 10点マイナス, 無断欠席はそれに5点マイナスが追加される。そのため, 無断欠席を3回した場合, 自動的に不可となる。			
オフィスアワ -			
月曜1限目			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			



## ナンバリングコード

FHS-CCD2301

## 科目名

演習

## 英語名

Seminar

開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石塚孔信		099-285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

## 授業概要

全15回を遠隔授業で行う (リアルタイム配信 (Zoom))

経済学はその取り扱うスケールに応じてミクロ経済学とマクロ経済学に大別される。

今、大きな森の生態について考えると。その際、一本一本の木を個別に調べ、それを積み上げて木と木の関係を調べたとしても、森全体としての生態をとらえるには限界があり、「木を見て森を見ず」ということになる。大きな森の生態を調べるには、森を空から見るなど森を全体としてとらえた上で、外部の環境との関係を知る必要がある。同様に経済について考える時にも、通常、ミクロ的な視点とク口的な視点が必要とされる。

経済を構成する単位として消費者 (家計) と生産者 (企業) の行動の分析から始めさらに、多数の消費者と企業からなる市場の構造の分析へと積み上げていく方法をミクロ的方法という。

一方、一国全体の経済を一つのものとしてとらえる方法をマクロ的方法という。財やサービスの総生産量や総雇用量、総投資量、総資本ストック高などの集計的データの分析や取扱い、その上で公定歩合の切り下げ、国債の発行、公共投資の増加等が総需要にそして景気に与える影響を分析する。

## 学修目標

前期に引き続き、ミクロ経済学のテキストを読んでいく。今期は、市場均衡と余剰分析、不完全競争の理論、市場の失敗について理解を深める。近代経済学の勉強の仕方は、積み上げ方式でやらなければなかなか理解が難しく、そのためにはかなりの努力を必要とするが、あるハードルをクリアすれば、その後は理解が容易になるという特徴をもっている。とりわけ、ミクロ経済学ではその傾向が強いと思われるので、このハードルをゼミ生全員がクリアすることが目標である。

## 授業計画

次のようなスケジュールで講義を行う。

- 第1回：イントロダクション
- 第2回 不完全競争 (1)
- 第3回 不完全競争 (2)
- 第4回 不完全競争 (3)
- 第5回 不完全競争 (4)
- 第6回 市場と効率性 (1)
- 第7回 市場と効率性 (2)
- 第8回 市場と効率性 (3)
- 第9回 市場と効率性 (4)
- 第10回 市場の失敗 (1)
- 第11回 市場の失敗 (2)
- 第12回 市場の失敗 (3)
- 第13回 不確実性 (1)
- 第14回 不確実性 (2)
- 第15回 まとめ

## 授業外学習（予習・復習）

演習では、事前に担当を決めて報告してもらおうが、担当でない学生もしっかりテキストを読んで予習してきて、必ず、意見や質問をすることが必要となる。また、演習での議論を通してテキストを理解するためには、毎回の復習も必要となる。

## 教科書

西村和雄・八木尚志『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版、2008年。

## 参考書

西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店、1995年。

## 成績の評価基準

演習での報告（80%）と質問等（20%）による。

## オフィスアワー

月曜日の5限目。

## アクティブ・ラーニング

ディベート；

## アクティブ・ラーニング（その他の内容）

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

## 備考（受講要件）

演習問題を解きながら理解を深める。関連科目として、ミクロ経済学?、?、マクロ経済学?、?を受講することをお勧めする。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
松川太一郎			matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>文章の論理をその形式から読み取る方法を学び、実際にその方法を使って論理を正確に理解することを演習する。また、思考の形式について、平易に解説した資料に基づいて学び、実際にその形式を使って物事を考えてみる。</p> <p>毎回、事前に課題を出すので、その出来に応じた指導を行う。したがって、課題提出が受講の前提である。</p>			
学修目標			
<p>1) 文章の論理を、形式から正確に読み取る。</p> <p>2) 本の読み方を身につける。</p> <p>3) 議論の仕方を身につける。</p> <p>4) 思考の方法論に触れる。</p>			
授業計画			
教科書の各章を下記のように分割して、授業概要に挙げた事項を演習する。			
第1回 「論理トレーニング」と「国語」教育			
第2回 「生活の中の論理」			
第3回 「対」と「言い換え」(1)			
第4回 「対」と「言い換え」(2)			
第5回 「比較」と「譲歩」(1)			
第6回 「比較」と「譲歩」(2)			
第7回 「分類」と「矛盾」(1)			
第8回 「分類」と「矛盾」(2)			
第9回 「分類」と「矛盾」(3)			
第10回 「媒介」(1)			

第11回 「媒介」(2)

第12回 「媒介」(3)

第13回 文の流れ[文脈]を読む(1)

第14回 文の流れ[文脈]を読む(2)

第15回 文の流れ[文脈]を読む(3)

#### 授業外学習(予習・復習)

第1回を除いて、毎回、事前に課題プリントを渡す。課題をといて、月曜日までに経済統計論研究室(法文学部1号館5階エレベーターを出て正面)入口にて提出すること。締め切り厳守のこと。遅れた提出は原則として受け付けない。

#### 教科書

中井浩一『正しく読み、深く考える 日本語論理トレーニング』講談社現代新書、2009年。

#### 参考書

適宜指定する。

#### 成績の評価基準

主として授業外学習として作成された課題の成果ならびに授業中の発言を対象とした、授業への取り組み態度を評価基準とする。

#### オフィスアワ -

火曜日1限 経済統計論研究室

#### アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

#### アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回。

#### 備考(受講要件)

松川が後期開講する「統計利用論」と「数理統計学」を履修すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
萩野誠		7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>経営学に関するさまざまな分野の書籍を読むことにする。          図書を選定は、日本経済新聞社の書評による。          各著作の内容を中心に、ドラッカーマネジメントの観点から議論を深める。          とくに、ICTに関する部分には重点をおいて学習をする。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 担当した本の内容を的確に要約し、解説し、評価（コメント）する能力をつける。</li> <li>2. ディスカッションに積極的に参加できるようになる。</li> <li>3. ドラッカーマネジメントによる戦略計画の概念を活用できるようになる。</li> </ol>			
授業計画			
<p>授業回数          対象本          2015年10月～2016年9月において、日本経済新聞の書評に掲載された図書から選定する。決定は9月上旬</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>合計60時間（単位の実質化）          予習：口頭で本の内容ができるまで、繰り返し通読し、要点をノートに手書きすること。          このときに本の各章に対してコメントを記入すること。（各3時間30分：52時間30分）          復習：ノートに得られた知識を記載し、改めて本の内容をふりかえること（各30分：7時間30分）</p>			
教科書			
授業計画に表示			
参考書			
ドラッカー『マネジメント（上）』ダイヤモンド社			
成績の評価基準			
<p>下記の事項の達成度を授業中確認し、達成されていない場合、記載どおり減点する。部分点はない。          成績評価は、100点から減点し、残った点数を成績とする。          期末において、60点に満たない場合は、単位は取得できない。</p>			
達成事項			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 予習ができていること（コメントのついたノート提出）：達成できていない場合5点減点</li> <li>2) 本の要約を口頭で説明できること：達成できていない場合1点減点</li> <li>3) 質疑応答で的確な回答ができる（教員からの質問も含む）：達成できていない場合1点減点</li> </ol>			
オフィスアワー			
ゼミ終了後研究室			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

## アクティブ・ラーニング（授業回数）

## 備考（受講要件）

やむを得ない理由で欠席する場合、学生がなんらかの方法で証明すること。診断書の場合は、コピーの提出でよい。欠席した翌週に限りノート提出を認める。

それ以外の欠席は、無断欠席とみなし、ノートの未提出分5点を減点する。

また、法科大学院の先進的な例にしたがい、授業の質向上と授業中の教員と学生の誤解を防ぐために、すべての授業を記録する。授業初日に個人情報の取扱いについて確認をとるので、認印を忘れないようにすること。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
日野道啓			hino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員	前後期		
なし	後期		
授業概要			
前期に引き続いて同様のテーマを扱い、後期は、実習スタイルをとる。学生達でユニットを組み、ユニット毎に自分達で研究課題を設定して、調査・分析する。最後に、調査結果を整理して成果報告を行う。			
学修目標			
1. 世界経済および日本経済の現状と課題について理解する。			
2. 資料の探し方、プレゼンテーションの方法そしてグループワークの方法を身につける。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：発表と討論 (1)			
第3回：発表と討論 (2)			
第4回：発表と討論 (3)			
第5回：発表と討論 (4)			
第6回：発表と討論 (5)			
第7回：文献購読 (1)			
第8回：文献購読 (2)			
第9回：文献購読 (3)			
第10回：中間報告			
第11回：文献購読 (4)			
第12回：文献購読 (5)			
第13回：文献購読 (6)			
第14回：成果報告会 (1)			
第15回：成果報告会 (2)			
授業外学習 (予習・復習)			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
学生と相談の上、決定する。			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
授業への取組み態度 (報告内容、討論への積極性などを総合的に判断する)			
オフィスアワ -			
メールやmanabaのスレッドで適宜受け付ける			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); その他;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中14回			

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
システム設計			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
市川英孝			
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
システムとは、複数の要素が有機的なつながりを持ち、集合体として機能を発揮する組織、仕組みである。企業がどのようなシステムを設計、選択するかは、その企業の存続に関わる問題に関係する。本講義では、情報、生産、商品開発の各システムについての基本的な知識を身につけ、現行企業のシステム導入の分析を行い、競争優位を可能にする要因を分析する。			
学修目標			
最適なシステムの重要性を認識し、企業にとって成果を左右するシステム導入に関する知識を蓄積する。部分最適ではなく全体最適を実現する要因を選択できる能力を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス (課題提出型)			
第2回 企業におけるシステム導入の現状 (課題提出型)			
第3回 情報システムの分析、設計(1) (オンライン型)			
第4回 情報システムの分析、設計(2) (オンライン型)			
第5回 情報システムの分析、設計(3) (オンライン型)			
第6回 情報システムの分析、設計(4) (オンライン型)			
第7回 生産システムの分析、設計(1) (オンライン型)			
第8回 生産システムの分析、設計(2) (オンライン型)			
第9回 生産システムの分析、設計(3) (オンライン型)			
第10回 生産システムの分析、設計(4) (オンライン型)			
第11回 商品開発システムの分析、設計(1) (オンライン型)			
第12回 商品開発システムの分析、設計(2) (オンライン型)			
第13回 商品開発システムの分析、設計(3) (オンライン型)			
第14回 商品開発システムの分析、設計(4) (オンライン型)			
第15回 総括 (オンライン型)			
「今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある」			
授業外学習 (予習・復習)			
授業ごとのレポートを課すことで、予習・復習にあててもらう。			
教科書			
なし			
参考書			
適宜指示する。			
成績の評価基準			
授業におけるコメント、レポートならびに最終レポート、発表により評価する。			
オフィスアワー			
今期はZOOMによるオンライン型で授業を実施する。そのため、メールもしくはZOOMにて対応する。			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
情報マネジメント			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
馬場武		099-285-7582	baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>情報マネジメントをあえて定義するのであれば、企業を取り巻く多種多様な情報を評価・解析し、経営上の効果を最適化するためのデータ分析をおこない、その結果を経営の意思決定に反映していく手続きの繰り返しといえるでしょう。そのためには、まずプログラミングや統計手法の基本的な知識や技術が必要になります。本講義では、社会科学全般に共通するデータ分析の手法とその結果の解釈の方法をハンズオン形式で学びます。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. R言語により基礎的な統計処理が実行できる</li> <li>2. 提供されたデータから分類問題を分析し、その結果を解釈できる</li> <li>3. 提供されたデータから回帰問題を分析し、その結果を解釈できる</li> </ol>			
授業計画			
<p>「今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある</p> <p>第1回：R言語と統計の基礎(1) (オンライン型のガイダンス)</p> <p>第2回：R言語と統計の基礎(2) 1.5 練習問題の解説 (オンデマンド型)</p> <p>第3回：因果関係分析の基礎 (オンデマンド型)</p> <p>第4回：ランダム化比較試験と観察研究 2.8 練習問題の解説(1) (オンデマンド型)</p> <p>第5回：1変数の記述統計量 2.8 練習問題の解説(2) (オンデマンド型)</p> <p>第6回：測定の基礎とデータのビジュアル化 (オンデマンド型)</p> <p>第7回：標本調査と2変量関係の要約 (オンデマンド型)</p> <p>第8回：分類問題の基礎とクラスター分析 (オンデマンド型)</p> <p>第9回：3.9 練習問題の解説(1) (オンデマンド型)</p> <p>第10回：3.9 練習問題の解説(2) (オンデマンド型)</p> <p>第11回：線形回帰の基本的な考え方 (オンデマンド型)</p> <p>第12回：線形回帰 (オンデマンド型)</p> <p>第13回：回帰分析と因果関係 (オンデマンド型)</p> <p>第14回：4.5 練習問題の解説(1) (オンデマンド型)</p> <p>第15回：4.5 練習問題の解説(2) (オンデマンド型)</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>基本的に復習中心に取り組んでください。</p> <p>予習：次回授業範囲の教科書の通読 (30分)</p> <p>復習：授業範囲の復習と毎回出題されるデータ分析課題 (120分)</p>			
教科書			
今井耕介 (2018), 『社会科学のためのデータ分析入門(上)』, 岩波書店。			
参考書			
授業内で紹介します			
成績の評価基準			
毎回の課題提出とその評価 (授業内課題含む) 100%			
オフィスアワ -			

マシンを使用するため授業直後か、もしくはメールにてアポをとってください。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

マシンを用いたハンズオン形式の実習 (データ分析)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

- ・基礎的な統計学の知識が必要になります。また、統計処理には「R」を使用するため、基礎的なプログラミングの技術を有していることが望ましいです
- ・毎回の授業にRとR StudioをインストールしたUSBメモリもしくは自分のマシンを持参してください
- ・ハンズオン形式の講義なので全ての授業に出席することが単位修得の前提です
- ・履修上限50名 (使用教室の座席数)

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

数理統計学

## 英語名

Mathematical Statistics

## 開講学科

## コース

法経社会学科経済コース

経済コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・経済コース/選  
択科目

講義

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

松川太一郎

matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

後期

## 授業概要

集団の性質を数量的に知ろうとする時、集団を構成する単位から情報を集めて整理することが必要である。その時に、集団を構成する全単位から情報を集めることができない場合がある。このような場合には、一部の単位を一定の方法で抽出して情報を集め、それを整理した結果に確率論を適用して、集団全体に関する性質についての推測や判断を行う。このような一連の手続きを理論的に学ぶことが本講義の目的である。なお、受講にあたり、集団に関係する次の3つの性質について、論理的な違いと関連性を常に意識することが求められる。(1)集団を構成する単位が持つ性質、(2)計算処理により表示される集団の性質、(3)計算により表示された集団の性質が、確率論の視野の中で新たに示す性質。

## 学修目標

1. 集団の性質を示すための数的処理の方法を理解する。
2. 確率を用いた予測・判断の性質を理解する。
3. マスコミ等で公表される標本調査の結果が示す意味を理解する。
4. 標本調査を行うための基礎理論を修得する。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス  
 第2回~第3回 標本データの記述の仕方  
 第4回 確率論(1) 確率論的な事象の見方  
 第5回 確率論(2) 確率モデル、確率の計算その1 加法定理、乗法定理  
 第6回 確率論(3) 確率の計算その2 条件付確率、ベイズの定理  
 第7回 確率論(4) 確率変数、確率分布、期待値の意味、性質  
 第8回 確率論(5) 主要な確率分布 二項分布と正規分布、確率の計算  
 第9回 標本抽出(1) 方法と計算される母集団推定値の性質 確率分布による理解  
 第10回 標本抽出(2) 母集団推定値の精度評価。推定(1) 推定の考え方  
 第11回 推定(2) 標準偏差  $s$  を用いた区間推定  
 第12回 推定(3) 二項分布の母数  $p$  の推定  
 第13回 推定(4)  $t$  分布による推定  
 第14回 仮説の検定(1)  
 第15回 仮説の検定(2)  
 第16回 期末試験

## 授業外学習(予習・復習)

毎回、宿題プリントを与えて、予習と復習のための課題問題を解答させる。

## 教科書

P.G.ホーエル著、浅井・村上訳『初等統計学』、培風館

## 参考書

適宜指定する。

## 成績の評価基準

宿題40点満点、期末試験60点満点の配点により成績評価する。

オフィスアワ -

火曜 1 限

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

宿題プリントを通じた予習と復習を行わなければ、単位の修得が不可能である。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
技術経営論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
市川英孝			ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>経済発展のためにイノベーションを絶えず実施していかなければならない。どの企業であってもイノベーションを怠ることはならない。本授業では、企業が実施するイノベーションのなかでも、技術経営に関する分野にフォーカスして行う。</p> <p>IoTやAIなど、技術経営にかかわる分野が最近のトレンドとして取り上げられている。それらが進展した結果、どのような影響が我々にあるのか。21世紀に入り、技術的な発展が進むなか、どのような技術が要求され、各企業や産業がどのような方向に進んでいくのか。先が見えにくい競争の中にあると思われるものを解きほぐして、企業が進むべき方向性として、技術経営をその一つの解として授業を実施する。</p>			
学修目標			
<p>イノベーションが成功するシステムと失敗するシステムとの違いとなる要素をしっかりと区別できるようにする。また、今後の日本企業がイノベーションを成功させるために、どのようなシステムを選択するべきかを理解できるようにする。</p> <p>最後に授業を総括する観点から、プレゼンテーションを実施する。普段の授業からコメントを求めるので、授業の準備をしっかりとすること。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 技術経営に関するイントロダクション(1)</p> <p>第3回 技術経営に関するイントロダクション(2)</p> <p>第4回 イノベーションの成立要件(1)</p> <p>第5回 イノベーションの成立要件(2)</p> <p>第6回 イノベーションの外部環境(1)</p> <p>第7回 イノベーションの外部環境(2)</p> <p>第8回 イノベーションの外部環境(3)</p> <p>第9回 イノベーションが成功する要因、事例(1)</p> <p>第10回 イノベーションが成功する要因、事例(2)</p> <p>第11回 イノベーションが失敗する要因、事例(1)</p> <p>第12回 イノベーションが失敗する要因、事例(2)</p> <p>第13回 多くのプロダクトイノベーションをモデルに、それらが生み出されたシステムの考察(1)</p> <p>第14回 多くのプロダクトイノベーションをモデルに、それらが生み出されたシステムの考察(2)</p> <p>第15回 総括</p>			
授業外学習(予習・復習)			
授業ごとのレポートを課すことで、予習・復習にあててもらう。また授業内で指示する。			
教科書			
なし			
参考書			
必要に応じて紹介する。			
成績の評価基準			
授業におけるコメント、レポートならびに最終レポート、発表により評価する。			

オフィスアワ -

メールにて対応

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
ベンチャー企業論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
馬場武		099-285-7582	baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
備考(受講要件)を必ず読んでください。			
<p>本講義の目的は、ソフトウェア産業やITサービスに代表されるベンチャー企業の実態を理解することです。近年ではAI技術を用いたベンチャー企業が台頭してきています。そこで本講義では、AI技術のひとつである機械学習と深層学習の仕組みの基礎を理解し、AIによる新たなビジネスモデルを発案・プランニングするための基礎的思考を身に付けることを目指します。</p> <p>なお、本講義は、AI技術の記号的な理解だけではなく、技術的な理解も目的の一つであるため、Pythonを用いたプログラミング実習によるハンズオン形式の講義になります。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Pythonの基礎的なプログラムを理解できる</li> <li>2. Pythonで基本的な機械学習のプログラムを構築できる</li> <li>3. AIによる新たなビジネスを発案および計画し、説明できる</li> </ol>			
授業計画			
<p>遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。</p> <p>なお、備考(受講要件)を必読のこと。</p> <p>第1回：Pythonの基礎の確認(1)【課題提出型・オンデマンド型】  第2回：Pythonの基礎の確認(2)【課題提出型・オンデマンド型】  第3回：簡単なAIの仕組みとビジネスへの展開について【課題提出型・オンデマンド型】  第4回：機械学習と深層学習のビジネスへの応用について【課題提出型・オンデマンド型】  第5回：モジュールの扱い【課題提出型・オンデマンド型】  第6回：パッケージの扱い【課題提出型・オンデマンド型】  第7回：ファイルの処理方法【課題提出型・オンデマンド型】  第8回：正規表現と文字列の処理【課題提出型・オンデマンド型】  第9回：Scikit learnを用いた機械学習(1)【課題提出型・オンデマンド型】  第10回：Scikit learnを用いた機械学習(2)【課題提出型・オンデマンド型】  第11回：Scikit learnを用いた機械学習(3)【課題提出型・オンデマンド型】  第12回：オブジェクト指向について(1)【課題提出型・オンデマンド型】  第13回：オブジェクト指向について(2)【課題提出型・オンデマンド型】  第14回：AIと周辺技術を用いたビジネスのこれからについて【課題提出型・オンデマンド型】  第15回：まとめ【課題提出型・オンデマンド型】</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習：授業内での指示に従って予習をしてください(30分)。  復習：講義で扱った内容を、必ずマシン上で繰り返し復習してください(90分)。</p>			
教科書			

なし。

## 参考書

Bill Lubanovic (2015), 『入門 Python 3』, オライリージャパン。  
 クジラ飛行機 (2016), 『実践力を身に付けるPythonの教科書』, マイナビ出版。  
 馬場真哉 (2018), 『Pythonで学ぶあたらしい統計学の教科書』, 翔泳社。  
 森巧尚 (2017), 『Python 1年生 体験してわかる! 会話でまなべる! プログラミングのしくみ』, 翔泳社。  
 森巧尚 (2019), 『Python2年生 スクレイピングのしくみ 体験してわかる! 会話でまなべる!』, 翔泳社。  
 森巧尚 (2020), 『Python2年生 データ分析のしくみ 体験してわかる! 会話でまなべる!』, 翔泳社。

## 成績の評価基準

授業課題を総合的に評価します(100%)。  
 なお、ハンズオン形式の講義なので、全授業に出席すること(すべての課題を提出すること)を前提としていません。  
 3回以上欠席した(3回以上課題を提出しなかった)場合には単位を認めません。

## オフィスアワ -

メールにてアポイントを取ってください。

## アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; その他;

## アクティブ・ラーニング(その他の内容)

プログラミングによる実習

## アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

## 備考(受講要件)

- ・情報マネジメントを履修していること, あるいは, Pythonを含む何らかの言語でのプログラミング経験があることが望ましい。  
 情報マネジメントの未履修者もしくは, プログラミング経験がなく履修を希望する方は, 事前に相談してください。
- ・毎回の授業に自分のノートPCを持ってくること(自分のPCに開発環境を構築する必要があるためです)。なお, OSはWindowsもしくはMac。
- ・ハンズオン形式の講義なので全ての授業に出席し, 全ての課題を提出することが単位修得の前提です。

## 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
金融論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
山本一哉		099-285-7595	yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>金融論は「お金」の流れに関わるさまざまな経済現象を研究する学問分野であり、近年の経済問題を理解する上で、金融に関する知識が不可欠である。</p> <p>本講義では、貨幣や金融機関の機能、金融市場、金融業務、金融政策などの金融論の基礎知識を学習する。近年のキャッシュレス決済の急速な発展や仮想通貨についても解説する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な金融市場、金融業務、金融機関の機能について理解できる。</li> <li>2. 基本的な金融理論を理解できる。</li> <li>3. 日本銀行の金融政策について理解できる。</li> </ol>			
授業計画			
<p>すべての講義をオンデマンド型遠隔授業（録画した解説動画）で行う予定である。動画ビデオをOneDriveにアップするので、あらかじめレジュメに目を通して予習したうえで視聴していただきたい。</p> <p>なお、今後の状況次第で講義内容・形態、評価方法等が変更になる可能性がある。その場合はmanabaで通知する。</p>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 貨幣の機能（3つの機能、歴史、統計、キャッシュレス決済、仮想通貨）</li> <li>3. 金融市場と金融商品</li> <li>4. 金融取引と金利</li> <li>5. 金融機関の機能（1）</li> <li>6. 金融機関の機能（2）（銀行の機能）</li> <li>7. 金融機関の機能（3）（銀行以外の金融機関の機能）</li> <li>8. 地方銀行と地域金融（地方銀行の役割と再編）</li> <li>9. 企業金融と消費者金融</li> <li>10. 日本の資金循環 <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 日本銀行による金融政策の仕組み（伝統的金融政策）</li> <li>12. 日本銀行による金融政策の仕組み（非伝統的金融政策）</li> <li>13. 日本銀行による金融政策の波及効果と副作用</li> <li>14. 日本の金融制度改革</li> <li>15. 金融システムの安定とブルーデンス政策</li> </ol> </li> </ol>			
授業外学習（予習・復習）			
manabaにアップしたレジュメをしっかりと読んで、解説動画を視聴し、視聴終了後、その日の学習内容を再確認すること。			
教科書			
教科書は使用しない。 manabaにレジュメを掲載する。			

## 参考書

家森信義 『金融論（第2版）』 中央経済社（2019）  
島村高嘉・中島真志 『金融読本（第31版）』 東洋経済新報社（2020）  
小林照義 『金融政策（第2版）』 中央経済社（2020）

## 成績の評価基準

対面での期末試験を予定しているが、おそらくできないと思われる。  
その場合、詳細はmanabaでお知らせするが、レポート（ミニ課題レポート5回＋期末課題レポート）での評価となる予定である。

## オフィスアワー

曜日・時間：毎週火曜日2限、場所：研究室

## アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
経済学と数学			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
西村善博			ynishi@oita-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>経済学で取り扱う理論モデルや分析方法は微分法や線形代数学を利用したものが多く、この授業では微分法を取り上げる。学習にスムーズに入ることができるように、最初に、高校レベルの微分法から始め大学の基本レベルに進み、さらには経済への応用を取り上げる。受講生の皆さんには授業中に練習問題を解いてもらう時間を設ける。</p>			
学修目標			
<p>経済学に必要な微分法の基礎知識を習得すること、すなわち、微分法の実践的な解法を身に付けることや微分法を用いた経済問題の処理法の習得を目標とする。</p>			
授業計画			
<p>(微分法：1~9)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 極限值、平均変化率、導関数、微分 (高校数学?の復習)</li> <li>2. 微分の計算(1)：積、商等の微分</li> <li>3. 微分の計算(2)：合成関数、逆関数、対数関数の微分</li> <li>4. 微分の計算(3)：指数関数の微分、高次導関数</li> <li>5. 微分の計算(4)：微分の総合練習</li> <li>6. 小テスト(微分(1)から(4))</li> <li>7. 関数の変化、極値</li> <li>8. 2変数関数の微分(1)</li> <li>9. 2変数関数の微分(2)</li> <li>(10.以降：経済学へのアプローチ)</li> <li>10. 1次関数と市場メカニズム</li> <li>11. 2次関数と独占・寡占市場</li> <li>12. 最適化問題(1)：最適化問題とは？ 最適化の1階条件</li> <li>13. 最適化問題(2)：利潤最大化問題</li> <li>14. 最適化問題(3)：制約なしの最適化、制約付きの最適化 (ラグランジュの未定乗数法)</li> <li>15. 授業の補足とまとめ</li> <li>16. 期末試験</li> </ol>			
授業外学習 (予習・復習)			
適宜指示する。			
教科書			
使用しない			
参考書			
尾山大輔ら『経済学で出る数学 高校数学からきちんと攻める』(経済セミナー増刊)2008年など			
成績の評価基準			
期末試験、小テスト、練習問題の総合評価とする。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

練習問題

アクティブ・ラーニング(授業回数)

10回程度

備考(受講要件)

高校の数IIを受講済みが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2302			
科目名			
外国書研究			
英語名			
Studies on Foreign Works			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
北村浩一		099-285-6296	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		ki tamura@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		後期	
授業概要			
現在、情報は主としてインターネット経由で触れることが日常となった。ただし、我々日本人には言語のハンデのために必ずしもその情報を生かし切っていないといえる。そこでインターネット上の海外（英語）の経済および社会に関する情報を読み解くことで新たな視点からインターネット情報に接する。			
学修目標			
これまで習得した英語読解能力、エンドユーザー実習で学んだ技術を生かして国際的な情報の収集・分析能力を養うことが目標である。したがって実際に情報を収集し、分析するという実習的な要素を取り入れているので、従来の外国書講読とは異なった双方向型の授業形式を採用している。 具体的にはPowerPointを使ってのプレゼンテーション、Wordを使っての文書（企画書）作成など、使える技能をフルに活用しながら授業を進めていく。			
授業計画			
第1回            ガイダンス			
第2回～第5回   情報の収集・分析（パート1）			
第6回～第8回   個人報告			
第9回～第12回 情報の収集・分析（パート2）			
第13回～第15回 個人報告			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
(遠隔の場合)毎回の課題により評価する			
(対面の場合)期末試験、レポート(レポートは授業時間中に数回行う予定)			
オフィスアワ -			
毎週木曜日12時半～13時半			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
全15回中13回			
備考(受講要件)			
必修科目なので無断欠席は厳禁であることに十分留意すること。			
実務経験のある教員による実践的授業			

## ナンバリングコード

## 科目名

国際経済学II (旧 国際経済システム論)

## 英語名

International Economics II

## 開講学科

## コース

法経社会学科経済コース

経済コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・経済コース/選  
択科目

講義

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

日野道啓

hino@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

本講義では、国際資本移動に注目して国際経済学の諸理論・政策・現実について学習する。

具体的なトピックスは、以下の通りである。国際資本移動の基礎と理論、国際資本移動の実態と制度の変遷、そして国際資本移動に代表される国際経済活動に起因して生じる環境問題の変遷と国際環境政策の意義等について解説する。国際環境政策については、とくに近年注目を集めている、環境物品 (=環境に優しい財・環境対策に必要な財) の国際貿易の活性化を目指す環境物品交渉について取り上げる。

なお、日本経済に関連する現象および事例を積極的に取り上げ、日本経済の現状と課題についても学習する。

## 学修目標

1. 国際資本移動の理論を理解できる。
2. 国際資本移動に関する制度の変遷と現代の課題を理解できる。
3. 国際経済に関する現実の問題に関心を持ち、自分の見解を論理的に表現できる。

## 授業計画

第1回：ガイダンス

第2回：国際資本移動の重要性

第3回：外国為替の基礎

第4回：国際収支と日本経済(1)

第5回：国際収支と日本経済(2)

第6回：国際通貨体制

第7回：国際資本移動と多国籍企業(1)

第8回：国際資本移動と多国籍企業(2)

第9回：国際資本移動と多国籍企業(3)

第10回：国際資本移動と多国籍企業(4)

第11回：国際環境問題と国際環境政策(1)

第12回：国際環境問題と国際環境政策(2)

第13回：国際環境問題と国際環境政策(3)

第14回：国際環境問題と国際環境政策(4)

第15回：総括

定期試験

## 授業外学習 (予習・復習)

manabaを活用した講義内容に関する出題。

## 教科書

日野道啓 [2019] 『環境物品交渉・貿易の経済分析』文眞堂。

テーマ毎に、講義資料を配布する。

## 参考書

多岐にわたるため、講義中に説明する。

## 成績の評価基準

「課題レポート(100%)」(+自主レポート)

## オフィスアワ -

火曜日の3限目

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回3回

備考 (受講要件)

「国際経済学I」を履修しておくこと。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
国際経済学I (旧 国際経済システム論)			
英語名			
International Economics I			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
日野道啓			hino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>世界経済および日本経済の実態を理解するためには、国際貿易の意義とメカニズムの把握が必要である。本講義では、国際貿易に注目して、国際経済学の諸理論・政策・現実について学習する。</p> <p>具体的なトピックスは、以下の通りである。新しい分類からみた国際貿易の実態と日本の現状、古典から最新の貿易理論、そしてWTO体制の限界とメガFTAの展開 (TPP・日欧EPA等)、サービス貿易の内容と日本の観光サービス貿易の現状等について解説する。なお、日本経済に関連する現象および事例を積極的に取り上げ、日本経済の現状と課題についても学習する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際経済学の基礎理論を理解できる。</li> <li>2. グローバル化の変遷と現代の課題を理解できる。</li> <li>3. 国際経済に関する現実の問題に関心を持ち、自分の見解を論理的に表現できる。</li> </ol>			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：日本経済とグローバル化</p> <p>第3回：なぜ、グローバル化なのか-国際貿易の理論(1)</p> <p>第4回：なぜ、グローバル化なのか-国際貿易の理論(2)</p> <p>第5回：国際貿易の構造変化</p> <p>第6回：貿易政策の経済効果</p> <p>第7回：グローバル化の変遷</p> <p>第8回：理論の批判的検討</p> <p>第9回：グローバル化とそのリスク</p> <p>第10回：グローバル化を推進したもの(1)</p> <p>第11回：グローバル化を推進したもの(2)</p> <p>第12回：グローバル化を推進したもの(3)</p> <p>第13回：まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
manabaを活用した講義内容に関する出題			
教科書			
指定しない。テーマ毎に、講義資料を配布する。なお資料は、manabaおよびone drive等で配布予定。			
参考書			
多岐にわたるため、講義中に説明する。			
成績の評価基準			
課題レポート [ 100% ] ( + 自主レポート )			
オフィスアワー			
メールやmanabaのスレッドで適宜受け付ける			
アクティブ・ラーニング			
その他;			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

manabaを活用した講義内容に関する出題

アクティブ・ラーニング (授業回数)

13回中13回ほど

備考 (受講要件)

「経済学概論」を履修しておくこと。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
管理会計論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
北村浩一	099-285-6296	ki tamura@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
<p>企業経営者にとって厳しく先の見えない環境の中で、管理会計はますます重要な管理手法として位置づけられている。そこで本講義では管理会計を概念的に、そして体系的に捉える作業が非常に重要であるという観点から、概念・体系を中心として「管理会計」を分析してゆく。</p>			
学修目標			
<p>本講義では第1に「管理会計」とは一体何かをそれぞれがそれなりに掴むことを目標としている。管理会計については様々に定義されているからである。また、管理会計の分析を通じて、関連する経営・管理といった概念についても修得することをさらなる目標としている。</p>			
授業計画			
<p>以下は、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある</p> <p>毎回、遠隔授業を行い、授業中の課題を提出する</p> <p>第1回 ガイダンス                  第2回-第3回 会計による管理と管理のための会計                  第4回-第5回 計画と統制                  第6回-第9回 利益管理・予算管理                  第10回-第12回 原価管理                  第13回-第15回 業績管理会計・総括(管理会計の役割と意義) ただし、テキストを中心に捉えて授業を進めていくので、多少内容が変更になる場合もある。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
その都度指示する			
教科書			
西村明・大下丈平編『ベーシック管理会計』中央経済社			
参考書			
授業中に随時示す。			
成績の評価基準			
(遠隔の場合) 毎回の課題により評価する			
(対面の場合) 期末試験、レポート(レポートは授業時間中に数回行う予定)			
オフィスアワ -			
毎週水曜日午前10時半から			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
3回			
備考 (受講要件)			

関係講義『企業会計論』『工業簿記・原価計算論』の受講が望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
経営情報論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
萩野 誠		7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>企業の情報システムは、既存の企業組織を超えて、ネットワークを介し、大きく変化している。この動きは、コンピュータ導入の初期段階から存在していた。</p> <p>本講義は、この情報通信技術ICTの本質を見極めて、情報を中心とした企業組織の変化を見出すことを目指す。</p>			
学修目標			
<p>1) 情報通信技術の本質を説明できる。</p> <p>2) 企業の組織がネットワークで変化する経緯を説明できる。</p>			
授業計画			
<p>第1回 はじめに：ICTとは何か？</p> <p>第2回 コンピュータのハードウェアについて</p> <p>第3回 コンピュータのソフトウェアについて</p> <p>第4回 ICTの技術進歩について（1）</p> <p>第5回 ICTの技術進歩について（2）</p> <p>第6回 小テストとレポート提出</p> <p>第7回 ダウンサイジングの帰結：スマートフォン</p> <p>第8回 ボードレス化とICT</p> <p>第9回 小テストとレポート提出</p> <p>第10回 ICTの技術特性（1）：becoming</p> <p>第11回 ICTの技術特性(2)：sharing</p> <p>第12回 ICTの技術特性(3)：others</p> <p>第13回 小テストとレポート提出</p> <p>第14回 鹿児島県とICT(1)</p> <p>第15回 鹿児島県とICT(2)：レポート提出</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>講義中に宿題を出すので、これを予習時間に行うこと。</p> <p>小テスト及びレポート提出のために、復習を行うこと。</p>			
教科書			
なし			
参考書			
随時、紹介する			
成績の評価基準			
<p>基本的に、二つのレポートと小テストで評価します。</p> <p>「授業中のレポート」：（2点満点）、「予習・復習のレポート」（3点満点）、</p> <p>「小テスト」（30点満点）</p> <p>の得点の合計点で評価します。</p>			
オフィスアワ -			
講義終了直後			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業



オフィスアワ -

金曜日 2 時間目、研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中3回

備考（受講要件）

日頃から、新聞、雑誌等を通じて地域の情報を知っておいてほしい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
工業簿記・原価計算論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
北村浩一		099-285-6296	ki.tamura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>企業経営において利益を高めるために重要視されるのは「原価」とその記録である「工業簿記」である。しかし、その具体像は必ずしも捉えにくいものである。そこで、本講義では、その原価の計算・会計そして管理についてより具体的な視点で学ぶ。</p>			
学修目標			
<p>本講義では、実際の企業で用いられている工業簿記・原価計算の技術の習得を通じて、原価の計算・会計そして管理についてより具体的な視点から修得することを目標としている。</p>			
授業計画			
<p>以下は、今後の状況次第で授業回数や内容は変更となる可能性がある</p> <p>毎回Zoom上での遠隔授業で行い、授業中に出す課題を毎回提出する</p> <p>第1回 第2・3回 第4・5回 第6・7回 第8～10回 原価の製品別計算-個別原価計算 第11?13回 原価の製品別計算-総合原価計算 第14・15回 その他の原価計算方法 *ただし、テキストを中心に据えて授業を進めていくので、多少内容が変更になる場合もある。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
必要に応じて適宜指示をする			
教科書			
西村明・小野博則・大下丈平『ベーシック原価計算』中央経済社、2010年。			
参考書			
成績の評価基準			
(遠隔の場合)毎回の課題により評価する			
(対面の場合)期末試験、レポート(レポートは授業時間中に数回行う予定)			
オフィスアワ -			
水曜・12時半?16時・研究室			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
5回中3回			
備考(受講要件)			

担当の講義「管理会計論」「企業会計論」は当講義の内容と密接に関わっているので受講することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

## ナンバリングコード

## 科目名

財政政策論I (旧 財政学総論)

## 英語名

Public Finance I

## 開講学科

## コース

法経社会学科経済コース

経済コース

## 授業科目区分

## 授業形態

## 単位数

## 開講期

法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目

講義

2単位

2~4年

## 担当教員

## 連絡先 (TEL)

## 連絡先 (MAIL)

林田吉恵

## 共同担当教員

## 前後期

## 後期

## 授業概要

私たちが生活する社会・経済は、自由経済・市場経済を基本としながらも、政府や財政による公的な対応を不可欠としている。そして「地方分権の時代」と言われるが、事実上、依然としてわが国の地方財政は国のコントロール下であり、地方にとって国からの地方交付税や国庫支出金はなくてはならない財源である。この講義では国と地方の財政関係の現状とあり方について考察する。

本講義では、なぜ私たちは政府や財政を必要としているのか、そこではどのような政策手段が可能であるのかについて、基礎的概念を学んでもらうこと、また、日本の財政や地方財政を取り巻く制度面・政策面での特徴を解説し、どのような課題・論点があるかを理解してもらうことを目標とする。

## 学修目標

財政・地方財政に関する基礎知識・基本的概念を自己の言葉で説明でき、また理論的背景についても説明できる。

## 授業計画

できるかぎり受講生の反応を見ながら講義を進めたいので、板書を中心に講義を進めるとともに、随時、受講生からの発言を求め、コメントペーパーを書いてもらうなどの双方向の講義になるように努める。

したがって、講義の進捗状況によっては、シラパスを変更する可能性もある。

- 第1回 経済活動における政府の役割 GDP、国民負担率、政府支出、社会保障給付
- 第2回 経済活動における財政の役割(1) 財政の3機能公共財、外部性、税・移転支出、公共事業
- 第3回 経済活動における財政の役割(2) 引き続き財政の3機能、国と地方の役割分担
- 第4回 財政制度 予算、決算、地方財政計画、特別会計
- 第5回 日本の財政状況と問題点(1) プライマリー・バランス、クラウドディング・アウト、世代間の公平
- 第6回 日本の財政赤字の要因 増分主義、福祉国家、高齢化
- 第7回 これまでの講義のまとめ 予備
- 第8回 公共財・サービスの供給(1) 非排除性、非競合性、ただ乗り、民間財、効率性
- 第9回 公共財・サービスの供給(2) 準公共財、価値財、外部性
- 第10回 政府支出の理論(1) 生産の効率性、配分の効率性、公共財の最適供給
- 第11回 政府支出の理論(2) 多数決投票、ナッシュ均衡、リンダール均衡
- 第12回 財政と経済安定(1) 国民所得の決定、乗数効果、IS・LM
- 第13回 財政と経済安定(2) 税収弾性値、完全雇用余剰、財政配当
- 第14回 政府の失敗を考える X非効率性、エージェンシー問題、意思決定の費用
- 第15回 講義のまとめを行い、受講生からの質問を受けるつける。予備。
- 第16回 定期試験

## 授業外学習 (予習・復習)

新聞・ニュースなどを読む(見る)など、わが国の抱える様々な経済問題に対しての関心を持つようにする。講義で疑問に思ったことや興味をもったことについて自分で調べる。

(学修に係る標準時間は約30分)

## 教科書

とくに定めなし。

講義内容に応じて、適宜資料を配布する。

参考書

林 宜嗣 『基本コース財政学 第3版』 新世社  
 林 宜嗣 『地方財政 新版』 有斐閣

成績の評価基準

定期試験および、平常態度（講義内レポート、受講態度）等も考慮して評価する。

オフィスアワ -

火曜日  
 必ず事前にメールで連絡してください

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

板書で講義をすすめるため、きちんとノートがとれるようにする。

今後の状況次第で授業形態・回数や内容は変更となる可能性があります。  
 授業形態等を変更する際は、予めmanabaコースニュースや授業内において通知します。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
システム監査論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
萩野誠		7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>システム監査は、情報システムの効率的な運用をめざして策定されたわが国独自の制度である。その後、情報システムの世界では、セキュリティが重要視され、現在にいたっている。これらの制度の根本にあるのは、リスクマネジメント（危機管理）である。本講義では、前半でリスクマネジメントについて実習をふくめておこない理解を深める。後半は、わが国のシステム監査で最重要視されているシステムの効率性とリスクマネジメントの関連についてのべる。システム監査喜寿およびシステム管理基準は平成30年度改訂のものを利用する。</p>			
学修目標			
<p>1) リスクマネジメントの手法をつかって分析ができる。  2) リスクマネジメントのリスクを抽出できる。  3) 情報システムのもつ人的な側面についてのべることができる。  4) わが国の情報システムに関する制度を整理してのべることができる。</p>			
授業計画			
<p>1. リスクとは  2. リスクマネジメントの発生と法則  3. リスクマネジメントの手法  4. リスクマネジメント実習（1）：単純なシステムの場合アクティブラーニング  5. リスクマネジメント実習（2）・相対するシステムの場合アクティブラーニング  6. 小テストとリスクマネジメントのまとめ  7. システム監査の体系の変化と情報システムの変化：経営情報論の復習  8. システム監査基準について：制度の概要  9. システム管理基準を読み解く（1）：ITガバナンス  10. システム管理基準を読み解く（2）：企画フェーズ、開発フェーズ、アジャイル開発フェーズ  11. システム管理基準を読み解く（3）：運用・利用フェーズ  12. システム管理基準を読み解く（4）：保守フェーズ  13. システム管理基準を読み解く（5）：外部サービス管理・事業継続管理  14. システム管理基準を読み解く（6）：人的資源管理・ドキュメント管理  15. システム監査制度を読み解く（7）：小テスト</p>			
授業外学習（予習・復習）			
予習・復習のレポートを必ず提出すること。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
授業中のレポートの満点を2点、予習・復習のレポートの満点を3点とし、13回の授業レポートで65点満点とする。さらに、小テストは、各15点満点で採点する。			
オフィスアワ -			

manabaの掲示板でおこなう。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

0回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
国際金融論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
山本一哉		099-285-7595	yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本講義では、為替レートの決定や国際資本移動の実態を中心に解説し、国際金融の基本的な理論や国際収支の不均衡や通貨危機など、今世界経済が抱える問題について理解を深めてもらう。</p> <p>【遠隔授業についての注意事項】  当面、対面授業ができませんので、遠隔授業で行います。  15回の講義内容は変更ありません。  ただし、対面授業が再開されるまでは、レジュメを使った解説動画（1回60分程度で、画面にはレジュメのみが表示され、音声とペンでの書き込みで解説します）で講義をします。  連休明けから14回分（第1回のガイダンスはシラバスのみ）の録画動画を順次ネットにアップします（対面授業が再開されましたらアップは中止します）。  アクセス方法（アドレス）はmanabaでお知らせします。  レジュメはmanabaのコースコンテンツにアップしますので、プリントアウトなどして活用してください。</p>			
学修目標			
1) 国際金融の基礎的な理論を身につける。 2) 貿易決済、為替取引や為替リスクヘッジ方法等、国際金融取引に関する実務的な知識を身につける。 3) 国際的な視点から見たマクロ経済の動き、政策の有効性について理解できる			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 外国為替市場と為替レートの決定(1) - 外国為替市場と為替レート 第3回 外国為替市場と為替レートの決定(2) - 金利平価と直先スプレッド 第4回 外国為替市場と為替レートの決定(3) - 為替取引の実際 第5回 外国為替市場と為替レートの決定(4) - 為替レートの決定とその理論 第6回 外国為替市場と為替レートの決定(5) - 為替レート変動の影響 第7回 外国為替市場と為替レートの決定(6) - 為替変動リスクとその回避手段 第8回 外国為替市場と為替レートの決定(7) - 通貨当局による外国為替市場への介入 第9回 国際収支表統計のその仕組み 第10回 国際通貨体制と外国為替相場制 第11回 経常収支の不均衡と国際資本移動 第12回 開放経済下における財政・金融政策の効果 - マンデル=フレミング・モデル 第13回 国際金融危機(1) - 1997年のアジア通貨危機 第14回 国際金融危機(2) - 米国リーマン・ブラザーズの破綻に端を発した「世界金融危機」(2008年～) 第15回 国際金融危機(3) - ギリシャの財政危機と「ユーロ危機」(2010年～)			
(変更前) 期末試験(100%) (変更後) 期末課題レポート(70%) + manabaでのミニ課題(30点、10点×3回) 期末課題については、manabaの「レポート」を確認して下さい。			

締切は7月末日です。

#### 授業外学習（予習・復習）

配布したレジュメ及び資料をしっかりと読んで、その日の学習内容を再確認すること。

#### 教科書

manabaでレジュメと資料を配布する。

#### 参考書

レジュメに記載する。

#### 成績の評価基準

新型コロナに対応して精製評価を変更しました。

（変更前）期末試験（100%）

（変更後）期末課題レポート（70%）+ manabaでのミニ課題（30点、10点×3回）

期末課題については、manabaの「レポート」を確認して下さい。

締切は7月末日です。

#### オフィスアワ -

曜日・時間：毎週火曜日2限、場所：研究室

#### アクティブ・ラーニング

#### アクティブ・ラーニング（その他の内容）

#### アクティブ・ラーニング（授業回数）

#### 備考（受講要件）

マクロ経済学及び金融論を受講していることが望ましいが、基本的な経済理論・概念についても説明する。  
manabaでのお知らせに注意すること。

#### 実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
ビジネス英語			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
山崎美智子	099-227-5173	yamasaki@ists.jp	
共同担当教員	前後期		
後期			
授業概要			
本講義は、ビジネス場面において英語でのコミュニケーション能力を高めることを目指す。ビジネスでよく使う表現、仕事上での対話の表現、クレームの対応、プレゼンテーションの仕方などの学びを通じて、英語によるコミュニケーション能力を高める。			
学修目標			
英語によるリスニング、スピーキング能力を高め、自信をもってビジネスの場で英語を用いることができるようにする。			
授業計画			
1. 挨拶、照会 2. アポをとる 3. 来客、訪問 4. 商談 5. 1-4のまとめ 6. 商談 (2) 7. 会議、打合せ 8. 注文 9. クレーム 10. 6-9のまとめ 11. 電話 12. 接待 13. 海外出張 14. 雑談 15. 全体のまとめ、質疑応答			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
「場面別会社で使う英会話」 株式会社ディーオーエムフロンティア著 ペレ出版			
参考書			
成績の評価基準			
各授業でのコミュニケーション能力の評価による			
オフィスアワ -			
各授業時間終了直後			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCE2370			
科目名			
アジア農村経済論			
英語名			
Asian Rural Economics			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
西村知		099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし。		後期	
授業概要			
<p>「* 遠隔形式でおこなう予定であるが、状況によっては対面形式に変更となる可能性がある。授業形態を変更する際は、予め manaba のコースニュースや授業内において通知する。」</p> <p>アジアの農村経済を理解するための理論とアジア農村の実態を講義する。</p>			
学修目標			
<p>1 ミュールダル, ミント, スコット, シュルツなどの農村の経済発展に関する理論を学ぶ。</p> <p>2 セン, シーバなど開発学において重要な理論を学ぶ。</p> <p>3 農地改革や緑の革命などのアジア農村における制度的, 技術的变化の内容およびその農村への影響 について学ぶ。</p> <p>4 フィリピンを中心としてアジアの農村変化の具体例を通じて, アジア農村の抱える問題を理解する。</p>			
授業計画			
* manabaのレポートで課題に添えていただく。			
1 オリエンテーション			
2 農村の経済発展に関する理論1ミュールダル			
3 " 2 ミント			
4 " 3 スコット			
5 " 4 シュルツ			
6 開発学1 セン1			
7 " 2 セン2,			
8 開発学3 シーバ1			
9 " 4 シーバ2			
10 農地改革1			
11 " 2			
12, 緑の革命1			
13 " 3			
14 フィリピンの農村変化1			
15 " 2			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中、適宜、指示する。			
教科書			
授業開始後に紹介。			
参考書			
授業開始後に紹介。			
成績の評価基準			
数回の小テスト成績。			
オフィスアワ -			
水曜日 : 12:00-13:00			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
経営分析			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
澤田成章		099-285-8888	sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本講義では、財務会計の知識をベースとし、財務諸表分析を中心に経営分析について学んでいただく。教員のレクチャーは第3回講義までであり、「経営分析の実践(1)~(8)」では受講者によるグループワークが主たる講義内容となる。原則として企業の経営にフォーカスするが、受講者の興味・関心に応じて、自治体や公営企業を分析対象とすることも可能である。</p>			
学修目標			
<p>?グループで作業内容を分担し、作業結果を共有し、適切に進捗管理を行う能力を身に付けること(可~良)          ?財務諸表情報をはじめとする経営情報を収集し、適切に仮説検証を行う能力を身に付けること(優)          ?問いを立て(課題発見)、問いを解消し(課題解決)、分析作業によって新たな知を生み出すことに貢献する能力を身に付けること(秀)</p>			
授業計画			
<p>第 1 回：ガイダンス、経営分析を行う意義について          第 2 回：経営分析の視点          第 3 回：情報の利活用方法について          第 4 回：経営分析の実践(1)_進捗報告・ディスカッション・分析作業          第 5 回：経営分析の実践(2)_進捗報告・ディスカッション・分析作業          第 6 回：経営分析の実践(3)_進捗報告・ディスカッション・分析作業          第 7 回：経営分析の実践(4)_進捗報告・ディスカッション・分析作業          第 8 回：中間報告会(1)          第 9 回：中間報告会(2)          第 10回：経営分析の実践(5)_進捗報告・ディスカッション・分析作業          第 11回：経営分析の実践(6)_進捗報告・ディスカッション・分析作業          第 12回：経営分析の実践(7)_進捗報告・ディスカッション・分析作業          第 13回：経営分析の実践(8)_進捗報告・ディスカッション・分析作業          第 14回：最終報告会(1)          第 15回：最終報告会(2)・総括</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、可能な限り遠隔講義を取り入れる。第1回から第3回までは講義資料をmanabaに提示して課題提出型の講義として進める。          第4回以降は原則遠隔でのグループ作業とし、グループごとに教員に対面で進捗報告や進め方の相談を行うことができるようにする予定である。</p>			
授業外学習(予習・復習)			
アウトプットのクオリティを最大化するために必要な予習を求める。			
教科書			
伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞出版社			
参考書			
成績の評価基準			

中間レポート(40%)、最終レポート(60%)の総合評価による。

オフィスアワ -

メールにてアポイントメントをお願いします。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中12回

備考(受講要件)

教員によるレクチャーを最小限にすることから、企業会計論、財務会計論、管理会計論、商業簿記、工業簿記・原価計算論、等の会計関連科目を受講済みであることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
地域計量分析			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース /経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石塚孔信		099 - 285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>現代経済学の特徴の一つは、それが数量的モデルを重用することである。数量的モデルとは、単に代数的に操作されるだけでなく、数量的計算が可能であるようなモデルを意味する。そして、このようなモデルによって、経済の動きを、単に定性的にだけでなく、定量的に追求することが可能になり、また、将来の予測を数量的に行うことが可能になるのである。これを計量経済モデルと呼び、それは、経済モデルを統計的手法によって計測することによって求められる。本講義では、そのプロセスを理解するために計量経済学の基本的な理論を解説し、その上で地域分析の際に用いられる計量的手法についても解説する。なお、講義はパソコンを用いて実習を行いながら進められるので、情報処理教室を使用する。したがって、結果を保存するメディア（USB等）（講義用）を準備しておいて欲しい。</p>			
学修目標			
<p>本講義の目標は、計量経済学の基本的な理論を習得し、かつ、その理論をもとに受講生がパソコンを使って実際に地域の分析に応用する方法を身につけてもらうことである。講義はエクセルを使って行い、回帰分析を中心に解説する</p>			
授業計画			
<p>第1回 インTRODクシヨン(課題提出型)：経済モデルとデータの活用(課題提出型)  第2回 分析に用いるデータのとらえ方(課題提出型)  第3回 分析に用いるデータの利用(オンデマンド型)  第4回 データ間の関係(オンデマンド型)  第5回 回帰分析の方法(オンデマンド型)  第6回 推定の方法と評価(オンデマンド型)  第7回 仮説検定の方法(オンデマンド型)  第8回 予測(オンデマンド型)  第9回 重回帰分析の方法(オンデマンド型)  第10回 推定モデルの作り方(オンデマンド型)  第11回 ダミー変数、トレンド変数、ラグ変数(オンデマンド型)  第12回 最小二乗法の応用(オンデマンド型)  第13回 仮説検定と予測(応用)(オンデマンド型)  第14回 時系列分析(オンデマンド型)  第15回 まとめ(演習)(課題提出型)</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>初歩的な統計学の学習も同時に行いますので、簡単な演習問題を課題とすることになります。なので、その課題については、授業の前後に自分で取り組んでもらう必要があります。  遠隔講義となるので、授業計画に変更が出てくる可能性があります。</p>			
教科書			
小巻泰之、山澤成康『計量経済学15講』新世社、2018年。			
参考書			
授業中に紹介する。			
成績の評価基準			

筆記試験（80％）と課題の提出状況（20％）

オフィスアワ -

月曜日の4限

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

講義内容の理解を定着させるために演習問題を解く。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中7回程度

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
六次産業化論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース /経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
北崎浩嗣		099 - 285-7592	ki tazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>今、政府が掲げている地方創生の有力な手段である六次産業化を題材に、制度、事例研究を紹介し、地域の活性化戦略を検討する。</p> <p>本講義は、コロナ対策の為、マナバによる資料の配布と質問の受付を行うと共に、ズームによるリアルタイム配信授業を行う。</p>			
学修目標			
<p>日本のフードシステムを理解し、農産物や農産加工品の流通制度や表示制度の知識を持たせる。</p> <p>六次産業化の役割と国の補助制度を理解させる。</p> <p>六次産業化で重要な販売戦略について考察する。</p>			
授業計画			
第1回から第15回まで、ズームによるリアルタイム配信授業で対応する。			
第1回 ガイダンス			
第2回 フードシステムとは			
第3回 六次産業化の背景			
第4回 六次産業化の枠組み・支援制度の概要			
第5回 六次産業化における女性の役割			
第6回 六次産業化における農協の役割			
第7回 六次産業化のための自治体の推進体制(1)			
第8回 六次産業化のための自治体の推進体制(2)			
第9回 生産者にとって六次化のための条件とは			
第10回 六次産業化の事例紹介(甑島の事例)			
第11回 六次産業化の事例紹介(高知県のゆず産地)			
第12回 六次産業化の事例紹介(農家民泊関係)			
第13回 六次産業化の事例紹介(鹿児島県の事例)			
第14回 食品の安全と安心をいかに消費者に伝えるか(HACCP、GAP)			
第15回 まとめ			
第16回 期末レポートの提出(期末試験は行わない)			
授業外学習(予習・復習)			
予習については、該当箇所を事前に読んでおくこと			
復習については、講義で配布した資料を講義後、再読すること			

教科書
特に指定しない
参考書
講義の進展に応じて紹介する。
成績の評価基準
通常レポート50点と期末レポート50点で評価する。
オフィスアワ -
金曜日3時限目 メール、manaでも対応可。
アクティブ・ラーニング
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中3回
備考（受講要件）
特になし。
実務経験のある教員による実践的授業